別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計　画　の　区　分	学部の学科の設置							
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ ｷｭｳｼｭｳﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　九州大学							
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ｷｭｳｼｭｳﾀﾞｲｶﾞｸ 九州大学　　(Kyushu University)							
大　学　本　部　の　位　置	福岡市西区元岡744							
大　学　の　目　的	九州大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的	工学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	工学部 (School of Engineering)								
	電気情報工学科 (Department of Electrical Engineering and Computer Science)	4	153	－	612	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	材料工学科 (Department of Materials)	4	53	－	212	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	応用化学科 (Department of Applied Chemistry)	4	72	－	288	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	化学工学科 (Department of Chemical Engineering)	4	38	－	152	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	融合基礎工学科 (Department of Interdisciplinary Engineering)	4	57	3年次 20	268	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次 令和5年 4月 第3年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地 及び 福岡県春日市 春日公園6丁目1番地	
	機械工学科 (Department of Mechanical Engineering)	4	135	－	540	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	航空宇宙工学科 (Department of Aeronautics and Astronautics)	4	29	－	116	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
	量子物理工学科 (Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering)	4	38	－	152	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	

船舶海洋工学科 (Department of Naval Architecture and Ocean Engineering)	4	34	－	136	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
地球資源システム工学科 (Department of Earth Resources Engineering)	4	34	－	136	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
土木工学科 (Department of Civil Engineering)	4	77	－	308	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
建築学科 (Department of Architecture)	4	58	－	232	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		720	20	3152				
大学院工学府 (Graduate School of Engineering)								
(修士課程)								【基礎となる学部】 工学部材料工学科
材料工学専攻 (Department of Materials)	2	43	－	86	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		43	0	86				
(博士後期課程)								【基礎となる学部】 工学部材料工学科
材料工学専攻 (Department of Materials)	3	10	－	30	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		10	0	30				
(修士課程)								【基礎となる学部】 工学部応用化学科
応用化学専攻 (Department of Applied Chemistry)	2	68	－	136	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		68	0	136				
(博士後期課程)								【基礎となる学部】 工学部応用化学科
応用化学専攻 (Department of Applied Chemistry)	3	18	－	54	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		18	0	54				
(修士課程)								【基礎となる学部】 工学部化学工学科
化学工学専攻 (Department of Chemical Engineering)	2	30	－	60	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		30	0	60				
(博士後期課程)								【基礎となる学部】 工学部化学工学科
化学工学専攻 (Department of Chemical Engineering)	3	8	－	24	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		8	0	24				

(修士課程)							【基礎となる学部】 工学部土木工学科
土木工学専攻 (Department of Civil Engineering)	2	52	－	104	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地
計		52	0	104			
(博士後期課程)							【基礎となる学部】 工学部土木工学科
土木工学専攻 (Department of Civil Engineering)	3	16	－	48	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地
計		16	0	48			
大学院 システム情報科学府 (Graduate School of Information Science and Electrical Engineering)							
(修士課程)							
情報理工学専攻 (Department of Information Science and Technology)	2	105	－	210	修士 (情報科学) (Master of Information Science) 修士（理学） (Master of Science) 修士（工学） (Master of Engineering) 修士（学術） (Master of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
電気電子工学専攻 (Department of Electrical and Electronic Engineering)	2	65	－	130	修士 (情報科学) (Master of Information Science) 修士（理学） (Master of Science) 修士（工学） (Master of Engineering) 修士（学術） (Master of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
計		170	0	340			

(博士後期課程) 情報理工学専攻 (Department of Information Science and Technology)	3	29	－	87	博士 (情報科学) (Doctor of Information Science) 博士 (理学) (Doctor of Science) 博士 (工学) (Doctor of Engineering) 博士 (学術) (Doctor of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
電気電子工学専攻 (Department of Electrical and Electronic Engineering)	3	16	－	48	博士 (情報科学) (Doctor of Information Science) 博士 (理学) (Doctor of Science) 博士 (工学) (Doctor of Engineering) 博士 (学術) (Doctor of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
計		45	0	135				
総合理工学府 (Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences) (修士課程) 総合理工学専攻 (Department of Interdisciplinary Engineering Sciences)	2	172	－	344	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	令和3年 4月 第1年次	福岡県春日市 春日公園6丁目1番地	【基礎となる学部】 工学部融合基礎工学科
(博士後期課程) 総合理工学専攻 (Department of Interdisciplinary Engineering Sciences)	3	62	－	186	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	令和3年 4月 第1年次	福岡県春日市 春日公園6丁目1番地	【基礎となる学部】 工学部融合基礎工学科
計		234	－	530				

工学部
- 建築学科（廃止） （△58）
- 電気情報工学科（廃止） （△153）
- 物質科学工学科（廃止） （△163）
- 地球環境工学科（廃止） （△145）
- エネルギー科学科（廃止） （△95）
- 機械航空工学科（廃止） （△164）

※令和３年４月学生募集停止

工学府
- 物質創造工学専攻（廃止）
  - 修士課程 （△38）
  - 博士後期課程 （△10）
- 物質プロセス工学専攻（廃止）
  - 修士課程 （△30）
  - 博士後期課程 （△9）
- 材料物性工学専攻（廃止）
  - 修士課程 （△33）
  - 博士後期課程 （△7）

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行，名称の変更等)	化学システム工学専攻（廃止） 修士課程　（△35） 博士後期課程　（△10） 建設システム工学専攻（廃止） 修士課程　（△24） 博士後期課程　（△8） 都市環境システム工学専攻（廃止） 修士課程　（△28） 博士後期課程　（△8） ※令和３年４月学生募集停止 工学府 材料工学専攻 修士課程　（ 43）（令和2年4月事前伺い） 博士後期課程　（ 10）（令和2年4月事前伺い） 応用化学専攻 修士課程　（ 68）（令和2年4月事前伺い） 博士後期課程　（ 18）（令和2年4月事前伺い） 化学工学専攻 修士課程　（ 30）（令和2年4月事前伺い） 博士後期課程　（ 8）（令和2年4月事前伺い） 土木工学専攻 修士課程　（ 52）（令和2年4月事前伺い） 博士後期課程　（ 16）（令和2年4月事前伺い） 令和3年4月名称変更予定 工学府 エネルギー量子工学専攻 →量子物理工学専攻 量子物理工学専攻　修士課程〔定員増〕（ 2）（令和3年4月） 海洋システム工学専攻 →船舶海洋工学専攻 船舶海洋工学専攻　修士課程〔定員増〕（ 4）（令和3年4月） 工学府 機械工学専攻 修士課程〔定員増〕　（ 11）（令和3年4月） 水素エネルギーシステム専攻 修士課程〔定員増〕　（ 5）（令和3年4月） 航空宇宙工学専攻 博士後期課程〔定員減〕　（△2）（令和3年4月） システム情報科学府 情報学専攻（廃止） 修士課程　（△40） 博士後期課程　（△14） 情報知能工学専攻（廃止） 修士課程　（△45） 博士後期課程　（△15） 電気電子工学専攻（廃止） 修士課程　（△55） 博士後期課程　（△16） ※令和３年４月学生募集停止 システム情報科学府 情報理工学専攻 修士課程　（ 105）（令和2年7月届出予定） 博士後期課程　（ 29）（令和2年7月届出予定） 電気電子工学専攻 修士課程　（ 65）（令和2年7月届出予定） 博士後期課程　（ 16）（令和2年7月届出予定） 総合理工学府 量子プロセス理工学専攻（廃止） 修士課程　（△37） 博士後期課程　（△14） 物質理工学専攻（廃止） 修士課程　（△37） 博士後期課程　（△14） 先端エネルギー理工学専攻（廃止） 修士課程　（△34） 博士後期課程　（△12） 環境エネルギー工学専攻（廃止） 修士課程　（△26） 博士後期課程　（△9） 大気海洋環境システム学専攻（廃止） 修士課程　（△30） 博士後期課程　（△11） ※令和３年４月学生募集停止

総合理工学府
総合理工学専攻
修士課程　（ 172）（令和2年7月届出予定）
博士後期課程　（ 62）（令和2年7月届出予定）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
工学部電気情報工学科	429 科目	56 科目	18 科目	503 科目	133.5 単位
工学部材料工学科	341 科目	47 科目	19 科目	407 科目	134.5 単位
工学部応用化学科	336 科目	52 科目	18 科目	406 科目	134.5 単位
工学部化学工学科	334 科目	48 科目	18 科目	400 科目	133.5 単位
工学部融合基礎工学科	394 科目	53 科目	24 科目	471 科目	134.5 単位
工学部機械工学科	360 科目	47 科目	21 科目	428 科目	134.5 単位
工学部航空宇宙工学科	343 科目	48 科目	18 科目	409 科目	135.0 単位
工学部量子物理工学科	343 科目	51 科目	16 科目	409 科目	132.5 単位
工学部船舶海洋工学科	335 科目	52 科目	17 科目	404 科目	135.0 単位
工学部地球資源システム工学科	336 科目	49 科目	20 科目	405 科目	135.0 単位
工学部土木工学科	348 科目	51 科目	16 科目	415 科目	134.5 単位
工学部建築学科	345 科目	59 科目	17 科目	421 科目	130.5 単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	工学部電気情報工学科	30 (34)	22 (22)	0 (0)	7 (7)	59 (63)	0 (0)	339 (367)
	工学部材料工学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	333 (361)
	工学部応用化学科	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	331 (359)
	工学部化学工学科	6 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	335 (363)
	工学部融合基礎工学科	9 (9)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	30 (30)	0 (0)	377 407
	工学部機械工学科	18 (19)	19 (19)	0 (0)	15 (16)	52 (54)	0 (0)	328 (357)
	工学部航空宇宙工学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	5 (5)	14 (14)	0 (0)	347 (376)
	工学部量子物理工学科	5 (7)	8 (8)	0 (0)	9 (9)	22 (24)	0 (0)	333 (362)
	工学部船舶海洋工学科	6 (7)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	11 (12)	0 (0)	336 (364)
	工学部地球資源システム工学科	4 (5)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	15 (16)	0 (0)	344 (374)
	工学部土木工学科	7 (10)	12 (13)	0 (0)	9 (9)	28 (32)	0 (0)	329 (357)
	工学部建築学科	6 (6)	10 (10)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	344 (372)
	計	114 (127)	116 (117)	0 (0)	71 (72)	301 (316)	0 (0)	－ (－)
既設分	共創学部　共創学科	21 (21)	26 (26)	2 (2)	3 (3)	52 (52)	0 (0)	29 (29)
	文学部　人文学科	25 (25)	20 (20)	7 (7)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	92 (92)
	教育学部	10 (10)	12 (12)	1 (1)	2 (2)	25 (25)	0 (0)	51 (51)
	法学部	23 (23)	19 (19)	2 (2)	2 (2)	46 (46)	0 (0)	17 (17)
	経済学部　経済・経営学科	11 (11)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	6 (6)
	経済工学科	11 (11)	5 (5)	2 (2)	2 (2)	20 (20)	0 (0)	8 (8)
	理学部　物理学科	21 (21)	16 (16)	1 (1)	12 (12)	50 (50)	0 (0)	4 (4)
	化学科	14 (14)	15 (15)	3 (3)	10 (10)	42 (42)	0 (0)	6 (6)

地球惑星科学科	10 (10)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	3 (3)
数学科	31 (31)	21 (21)	0 (0)	14 (14)	66 (66)	0 (0)	28 (28)
生物学科	9 (9)	10 (10)	4 (4)	12 (12)	35 (35)	0 (0)	2 (2)
医学部　医学科	37 (37)	38 (38)	46 (46)	235 (235)	356 (356)	0 (0)	166 (166)
生命科学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
保健学科	14 (14)	7 (7)	11 (11)	18 (18)	50 (50)	0 (0)	28 (28)
歯学部　歯学科	19 (19)	17 (17)	15 (15)	53 (53)	104 (104)	0 (0)	89 (89)
薬学部　創薬科学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	4 (4)
臨床薬学科	12 (12)	11 (11)	1 (1)	7 (7)	31 (31)	0 (0)	24 (24)
芸術工学部　芸術工学科	3 (3)	8 (8)	1 (1)	7 (7)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
農学部　生物資源環境学科	55 (55)	59 (59)	1 (1)	49 (49)	164 (164)	0 (0)	0 (0)
基幹教育院	0 (0)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	16 (16)	0 (0)	40 (40)
計	336 (336)	324 (324)	102 (102)	453 (453)	1,215 (1,215)	0 (0)	－ (－)
合　　計	450 (463)	440 (441)	102 (102)	524 (525)	1,516 (1,516)	0 (0)	－ (－)

教員以外の職員の概要

職　種	専　任	兼　任	計
	人	人	人
事務職員	1,087 (1,087)	0 (0)	1,087 (1,087)
技術職員	2,041 (2,041)	0 (0)	2,041 (2,041)
図書館専門職員	68 (68)	0 (0)	68 (68)
その他の職員	31 (31)	0 (0)	31 (31)
計	3,227 (3,227)	0 (0)	3227 (3,227)

校地等

区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
校舎敷地	2,226,717㎡	0㎡	0㎡	2,226,717㎡	
運動場用地	251,169㎡	0㎡	0㎡	251,169㎡	
小　計	2,477,886㎡	0㎡	0㎡	2,477,886㎡	
その他	72,867,018㎡	0㎡	0㎡	72,867,018㎡	
合　計	75,344,904㎡	0㎡	0㎡	75,344,904㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	638,753㎡ (　638,753㎡)	0㎡ (　　0㎡)	0㎡ (　　0㎡)	638,753㎡ (　638,753㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	311室	347室	120室	4室 (補助職員6人)	1室 (補助職員3人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　数
	工学部	316　室

図書・設備

新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体
	4,195,007〔1,810,475〕 (4,195,007〔1,810,475〕)	77,353〔34,305〕 (77,353〔34,305〕)	63,337〔61,819〕 (63,337〔61,819〕)	10,708 (10,708)	73 (73)	7,434,882 (7,434,882)	
計	4,195,007〔1,810,475〕 (4,195,007〔1,810,475〕)	77,353〔34,305〕 (77,353〔34,305〕)	63,337〔61,819〕 (63,337〔61,819〕)	10,708 (10,708)	73 (73)	7,434,882 (7,434,882)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	46,365㎡	3,062 席	5,364,002 冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	11,139㎡	野球場１面	４００㍍トラック１面

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	教員１人当り研究費等		—	—	—	—	—	—
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—
	図書購入費	—	—	—	—	—	—	—
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要：—

既設大学等の状況

大学の名称：九州大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
【学部】									
共創学部			−					福岡県福岡市西区	
共創学科	4	105		315	学士（学術）	0.76	平成30年度	元岡744番地	
文学部			−					福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
人文学科	4	151		613	学士（文学） 学士（学術）	1.04	平成12年度	元岡744番地	(△9人)
教育学部	4	46	−	188	学士（教育学） 学士（学術）	1.06	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地	平成30年度入学定員減 (△4人)
法学部	4	189	−	767	学士（法学） 学士（学術）	1.05	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地	平成30年度入学定員減 (△11人)
経済学部			3年次		学士（経済学）	1.04		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
経済・経営学科	4	141	10	593	学士（学術）	1.04	平成12年度	元岡744番地	(△9人)
			3年次						
経済工学科	4	85	10	365		1.05	昭和52年度		(△5人)
理学部					学士（理学）	1.05		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
物理学科	4	55		224	学士（学術）	1.05	昭和24年度	元岡744番地	(△4人)
化学科	4	62		253		1.03	昭和24年度		(△5人)
地球惑星科学科	4	45	3年次	183		1.07	平成2年度		(△3人)
数学科	4	50	5	214		1.06	昭和24年度		(△4人)
生物学科	4	46		187		1.08	昭和24年度		(△3人)
医学部			−			1.05		福岡県福岡市東区	令和元年度入学定員減
医学科	6	110		665	学士（医学）	1.00	昭和24年度	馬出3丁目1番1号	(△1人)
生命科学科	4	12		48	学士（生命医科学）	1.16	平成19年度		
保健学科	4	134		539	学士（保健学） 学士（学術）	1.03	平成14年度		平成30年度入学定員減 (△3人)
歯学部			−					福岡県福岡市東区	
歯学科	6	53		318	学士（歯学）	0.99	昭和42年度	馬出3丁目1番1号	
薬学部			−			1.02		福岡県福岡市東区	平成30年度入学定員減
創薬科学科	4	49		197	学士（創薬科学）	1.04	平成18年度	馬出3丁目1番1号	(△1人)（創薬科学科）
臨床薬学科	6	30		180	学士（薬学） 学士（学術）	1.01	平成18年度		
工学部			−		学士（工学）	1.01		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
建築学科	4	58		234	学士（学術）	1.01	昭和29年度	元岡744番地	(△2人)
電気情報工学科	4	153		617		1.02	平成8年度		(△5人)
物質科学工学科	4	163		657		1.02	平成9年度		(△5人)
地球環境工学科	4	145		585		1.03	平成10年度		(△5人)
エネルギー科学科	4	95		384		1.01	平成10年度		(△4人)
機械航空工学科	4	164		661		1.02	平成11年度		(△5人)
芸術工学部					学士（芸術工学）			福岡県福岡市南区	
芸術工学科	4	187		187	学士（学術）	1.02	令和2年度	塩原4丁目9番1号	
環境設計学科	4	−		−		−			令和2年より学生募集停止
工業設計学科	4	−		−		−			令和2年より学生募集停止
画像設計学科	4	−		−		−			令和2年より学生募集停止
音響設計学科	4	−		−		−			令和2年より学生募集停止
芸術情報設計学科	4	−		−		−			令和2年より学生募集停止

農学部			−		学士（農学）			福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
生物資源環境学科	4	226		907	学士（学術）	1.05	平成10年度	元岡744番地	
【大学院】									
人文科学府			−		修士（文学）			福岡県福岡市西区	
人文基礎専攻					博士（文学）		平成12年度	元岡744番地	
修士課程	2	16		32		0.59			
博士後期課程	3	7		21		0.47			
歴史空間論専攻							平成12年度		
修士課程	2	20		40		0.47			
博士後期課程	3	9		27		0.69			
言語・文学専攻							平成12年度		
修士課程	2	20		40		0.90			
博士後期課程	3	9		27		0.84			
比較社会文化学府			−					福岡県福岡市西区	
日本社会文化専攻							平成12年度	元岡744番地	平成26年より学生募集停止
修士課程	2	−		−		−			
博士後期課程	3	−		−		−			
国際社会文化専攻							平成12年度		平成26年より学生募集停止
修士課程	2	−		−		−			
博士後期課程	3	−		−		−			
地球社会統合科学府			−					福岡県福岡市西区	
地球社会統合科学専攻					修士（学術）		平成26年度	元岡744番地	
修士課程	2	60		120	修士（理学）	0.58			
博士後期課程	3	35		105	博士（学術）	0.69			
					博士（理学）				
人間環境学府			−		修士（人間環境学）			福岡県福岡市西区	
都市共生デザイン専攻					修士（文学）		平成12年度	元岡744番地	
修士課程	2	20		40	修士（教育学）	1.30			
博士後期課程	3	5		15	修士（心理学）	0.53			
人間共生システム専攻					修士（工学）		平成12年度		
修士課程	2	11		22	博士（人間環境学）	0.67			
博士後期課程	3	9		27	博士（文学）	0.96			
行動システム専攻					博士（教育学）		平成12年度		
修士課程	2	17		34	博士（心理学）	0.97			
博士後期課程	3	10		30	博士（工学）	1.06			
教育システム専攻							平成17年度		
修士課程	2	19		38		0.36			
博士後期課程	3	9		27		0.51			
空間システム専攻							平成12年度		
修士課程	2	28		56		1.65			
博士後期課程	3	7		21		0.47			
実践臨床心理学専攻							平成17年度		
専門職学位課程	2	30		60		1.00			
法学府			−		修士（法学）			福岡県福岡市西区	
法政理論専攻					博士（法学）		平成22年度	元岡744番地	
修士課程	2	72		134		0.41			
博士後期課程	3	17		51		0.27			
法務学府			−		法務博士（専門職）			福岡県福岡市西区	
実務法学専攻							平成16年度	元岡744番地	
専門職学位課程	3	45		135		0.83			
経済学府			−		修士（経済学）			福岡県福岡市西区	
経済工学専攻					博士（経済学）		平成12年度	元岡744番地	
修士課程	2	20		40	経営修士（専門職）	0.85			
博士後期課程	3	10		30		0.33			
経済システム専攻							平成15年度		
修士課程	2	27		54		0.92			
博士後期課程	3	14		42		0.47			
産業マネジメント専攻							平成15年度		
専門職学位課程	2	45		90		1.00			

理学府			−		修士（理学）			福岡県福岡市西区	
物理学専攻					博士（理学）		平成20年度	元岡744番地	
修士課程	2	41		82		0.96			
博士後期課程	3	14		42		0.59			
化学専攻							平成20年度		
修士課程	2	62		124		1.02			
博士後期課程	3	19		57		0.60			
地球惑星科学専攻							平成12年度		
修士課程	2	41		82		1.01			
博士後期課程	3	14		42		0.59			
数理学府			−		修士（数理学）			福岡県福岡市西区	
数理学専攻					修士（技術数理学）		平成12年度	元岡744番地	
修士課程	2	54		108	博士（数理学）	1.02			
博士後期課程	3	20		60	博士（機能数理学）	0.51			
システム生命科学府			−		修士（システム生命科学）			福岡県福岡市西区	
システム生命科学専攻					修士（理学）		平成15年度	元岡744番地	
博士課程	5	54		270	修士（工学）	1.41			
					修士（情報科学）				
					博士（システム生命科学）				
					博士（理学）				
					博士（工学）				
					博士（情報科学）				
医学系学府			−		修士（医科学）			福岡県福岡市東区	
医学専攻					修士（看護学）		平成20年度	馬出3丁目1番1号	
博士課程	4	107		428	修士（保健学）	1.16			
医科学専攻					博士（医学）		平成15年度		
修士課程	2	20		40	博士（看護学）	0.77			
保健学専攻					博士（保健学）				
修士課程	2	27		54	医療経営・管理学修士（専門職）	1.21	平成19年度		
博士後期課程	3	10		30		0.76	平成21年度		
臓器機能医学専攻									平成18年より学生募集停止
博士課程	4	−		−		−			
医療経営・管理学専攻							平成13年度		
専門職学位課程	2	20		40		0.95			
歯学府			−		博士（歯学）			福岡県福岡市東区	
歯学専攻					博士（臨床歯学）		平成12年度	馬出3丁目1番1号	
博士課程	4	43		172	博士（学術）	0.81			
薬学府			−		修士（創薬科学）			福岡県福岡市東区	
創薬科学専攻					博士（創薬科学）			馬出3丁目1番1号	
修士課程	2	55		110	博士（臨床薬学）	0.82	平成22年度		
博士後期課程	3	12		36		1.58	平成24年度		
臨床薬学専攻									
博士課程	4	5		20		1.00	平成24年度		
工学府			−		修士（工学）			福岡県福岡市西区	
物質創造工学専攻					博士（工学）		平成12年度	元岡744番地	
修士課程	2	38		76		1.25			
博士後期課程	3	10		30		1.60			
物質プロセス工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30		60		1.13			
博士後期課程	3	9		27		0.77			
材料物性工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	33		66		0.93			
博士後期課程	3	7		21		1.13			
化学システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	35		70		1.28			
博士後期課程	3	10		30		0.96			
建設システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	24		48		1.35			
博士後期課程	3	8		24		0.95			
都市環境システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	28		56		1.33			
博士後期課程	3	8		24		1.03			

海洋システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	21		42		1.35			
博士後期課程	3	8		24		0.58			
地球資源システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	20		40		1.27			
博士後期課程	3	8		24		1.66			
共同資源工学専攻							平成29年度		
修士課程	2	10		20		1.60			
エネルギー量子工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	28		56		1.15			平成29年度入学定員減
博士後期課程	3	10		30		0.50			(△2人)(博士後期課程)
機械工学専攻							平成22年度		
修士課程	2	62		124		1.40			平成29年度入学定員減
博士後期課程	3	16		48		1.10			(△3人)(博士後期課程)
水素エネルギーシステム専攻							平成22年度		
修士課程	2	30		60		1.06			
博士後期課程	3	9		27		0.99			
航空宇宙工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30		60		1.33			
博士後期課程	3	12		36		0.49			
知能機械システム専攻									平成22年より学生募集停止
博士後期課程	3	－		－		－			
芸術工学府			－		修士（芸術工学）			福岡県福岡市南区	
芸術工学専攻					修士（デザインストラテジー）		平成15年度	塩原4丁目9番1号	
修士課程	2	92		184	博士（芸術工学）	1.26			
博士後期課程	3	25		75	博士（工学）	0.61			
デザインストラテジー専攻									
修士課程	2	28		56		1.13	平成18年度		
博士後期課程	3	5		15		1.00	平成20年度		
システム情報科学府			－		修士（情報科学）			福岡県福岡市西区	
情報学専攻					修士（理学）		平成21年度	元岡744番地	
修士課程	2	40		80	修士（工学）	1.30			
博士後期課程	3	14		42	修士（学術）	0.52			
情報知能工学専攻					博士（情報科学）		平成21年度		
修士課程	2	45		90	博士（理学）	1.49			
博士後期課程	3	15		45	博士（工学）	0.53			
電気電子工学専攻					博士（学術）		平成21年度		
修士課程	2	55		110		1.45			
博士後期課程	3	16		48		0.47			
総合理工学府			－		修士（理学）			福岡県春日市春日	
量子プロセス理工学専攻					修士（工学）		平成12年度	公園6丁目1番地	
修士課程	2	37		74	修士（学術）	1.81			
博士後期課程	3	14		42	博士（理学）	0.95			
物質理工学専攻					博士（工学）		平成12年度		
修士課程	2	37		74	博士（学術）	1.43			
博士後期課程	3	14		42		1.09			
先端エネルギー理工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	34		68		1.20			
博士後期課程	3	12		36		0.52			
環境エネルギー工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	26		52		1.30			
博士後期課程	3	9		27		1.21			
大気海洋環境システム学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30		60		1.19			
博士後期課程	3	11		33		0.57			
生物資源環境科学府			－		修士（農学）			福岡県福岡市西区	
資源生物科学専攻					博士（農学）		平成22年度	元岡744番地	平成30年度入学定員増
修士課程	2	66		132		0.99			(16人)
博士後期課程	3	26		78		0.50			(7人)
環境農学専攻							平成22年度		平成30年度入学定員減
修士課程	2	66		132		0.92			(△9人)
博士後期課程	3	21		63		0.50			(△6人)

	農業資源経済学専攻							平成22年度		
	修士課程	2	13		26		0.72			
	博士後期課程	3	5		15		0.93			
	生命機能科学専攻							平成22年度		平成30年度入学定員減(△9人)(修士課程) 平成30年度入学定員増(13人)(博士後期課程)
	修士課程	2	99		198		0.90			
	博士後期課程	3	25		75		0.56			
	生物産業創成専攻							平成22年度		平成30年より学生募集停止
	博士後期課程	3	－		－		－			
	統合新領域学府			－		修士（感性学） 修士（芸術工学）			福岡県福岡市西区元岡744番地	
	ユーザー感性学専攻									
	修士課程	2	30		60	修士（工学）	0.63	平成21年度		
	博士後期課程	3	4		12	修士（オートモーティブサイエンス）	0.41	平成23年度		
	オートモーティブサイエンス専攻					修士（ライブラリーサイエンス）		平成21年度		
	修士課程	2	21		42	修士（学術）	0.94			
	博士後期課程	3	7		21	博士（感性学） 博士（芸術工学）	0.42			
	ライブラリーサイエンス専攻									
	修士課程	2	10		20	博士（工学）	0.65	平成23年度		
	博士後期課程	3	3		9	博士（オートモーティブサイエンス） 博士（ライブラリーサイエンス） 博士（学術）	0.55	平成25年度		

附属施設の概要	○附属病院 名　　称：九州大学病院 目　　的：患者の診療を通じて医学、歯学の教育と研究を行うこと。 所 在 地：福岡市東区馬出3-1-1 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地面積313,745㎡ （病院地区：九州大学病院、医学部、歯学部、薬学部、生体防御医学研究所） 校舎等敷地88,043㎡（九州大学病院） 病床数1,275床、診療科37科 ○農場 名　　称：九州大学農学部附属農場 目　　的：農学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：(農学部附属農場)福岡県糟屋郡粕屋町原町111 (高原農業実験実習場)大分県竹田市久住町久住字4045-4 設置年月：大正10年4月 規 模 等：土地面積396,670㎡(高原農業実験実習場を含む。) ○演習林 名　　称：九州大学農学部附属演習林 目　　的：林学及び林産学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：(福岡演習林)福岡県糟屋郡篠栗町津波黒394 (宮崎演習林)宮崎県東臼杵郡椎葉村大河内949 (北海道演習林)北海道足寄郡足寄町北五条1-85 (早良実習場)福岡県福岡市西区生の松原1-23-2 設置年月：大正11年5月 規 模 等：土地面積（全演習林の合計）71,425,335㎡ ○薬用植物園 名　　称：九州大学薬学府附属薬用植物園 目　　的：薬学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：福岡県糟屋郡篠栗町津波黒394(九州大学農学部附属演習林内) 設置年月：昭和49年4月 規 模 等：土地面積26,800㎡	

国立大学法人九州大学　設置申請等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
九州大学				九州大学				
共創学部				共創学部				
共創学科	105	―	420	共創学科	105	―	420	
文学部				文学部				
人文学科	151	―	604	人文学科	151	―	604	
教育学部	46	―	184	教育学部	46	―	184	
法学部	189		756	法学部	189		756	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済・経営学科	141	10	584	経済・経営学科	141	10	584	
経済工学科	85	10	360	経済工学科	85	10	360	
理学部				理学部				
物理学科	55	―	220	物理学科	55	―	220	
化学科	62	―	248	化学科	62	―	248	
地球惑星科学科	45	3年次	180	地球惑星科学科	45	3年次	180	
数学科	50	5	210	数学科	50	5	210	
生物科学科	46	―	184	生物科学科	46	―	184	
医学部				医学部				
医学科	110	―	660	医学科	110	―	660	
生命科学科	12	―	48	生命科学科	12	―	48	
保健学科	134	―	536	保健学科	134	―	536	
歯学部				歯学部				
歯学科	53	―	318	歯学科	53	―	318	
薬学部				薬学部				
創薬科学科	49	―	196	創薬科学科	49	―	196	
臨床薬学科	30	―	180	臨床薬学科	30	―	180	
工学部				工学部				
建築学科	58	―	232		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
電気情報工学科	153	―	612		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
物質科学工学科	163	―	652		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
地球環境工学科	145	―	580		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
エネルギー科学科	95	―	380		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
機械航空工学科	164	―	656		0	―	0	令和3年4月学生募集停止
				電気情報工学科	153	―	612	学科の設置（届出）
				材料工学科	53	―	212	学科の設置（届出）
				応用化学科	72	―	288	学科の設置（届出）
				化学工学科	38	―	152	学科の設置（届出）
				融合基礎工学科	57	20	268	学科の設置（届出）
				機械工学科	135	―	540	学科の設置（届出）
				航空宇宙工学科	29	―	116	学科の設置（届出）
				量子物理工学科	38	―	152	学科の設置（届出）
				船舶海洋工学科	34	―	136	学科の設置（届出）
				地球資源システム工学科	34	―	136	学科の設置（届出）
				土木工学科	77	―	308	学科の設置（届出）
				建築学科	58	―	232	学科の設置（届出）
芸術工学部				芸術工学部				
芸術工学科	187	―	748	芸術工学科	187	―	748	
農学部				農学部				
生物資源環境学科	226	―	904	生物資源環境学科	226	―	904	
計	2,554	25	10,652	計	2,554	45	10,692	

【大学院】

人文科学府			
人文基礎専攻			
修士課程	16	―	32
博士後期課程	7	―	21
歴史空間論専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	9	―	27
言語・文学専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	9	―	27
地球社会統合科学府			
地球社会統合科学専攻			
修士課程	60	―	120
博士後期課程	35	―	105
人間環境学府			
都市共生デザイン専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	5	―	15
人間共生システム専攻			
修士課程	11	―	22
博士後期課程	9	―	27
行動システム専攻			
修士課程	17	―	34
博士後期課程	10	―	30
教育システム専攻			
修士課程	19	―	38
博士後期課程	9	―	27
空間システム専攻			
修士課程	28	―	56
博士後期課程	7	―	21
実践臨床心理学専攻			
専門職学位課程	30	―	60
法学府			
法政理論専攻			
修士課程	72	―	144
博士後期課程	17	―	51
法務学府			
実務法学専攻			
専門職学位課程	45	―	135
経済学府			
経済工学専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	10	―	30
経済システム専攻			
修士課程	27	―	54
博士後期課程	14	―	42
産業マネジメント専攻			
専門職学位課程	45	―	90
理学府			
物理学専攻			
修士課程	41	―	82
博士後期課程	14	―	42
化学専攻			
修士課程	62	―	124
博士後期課程	19	―	57
地球惑星科学専攻			
修士課程	41	―	82
博士後期課程	14	―	42
数理学府			
数理学専攻			
修士課程	54	―	108
博士後期課程	20	―	60
システム生命科学府			
システム生命科学専攻			
博士課程	54	―	270
医学系学府			
医学専攻			
博士課程	107	―	428

【大学院】

人文科学府			
人文基礎専攻			
修士課程	16	―	32
博士後期課程	7	―	21
歴史空間論専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	9	―	27
言語・文学専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	9	―	27
地球社会統合科学府			
地球社会統合科学専攻			
修士課程	60	―	120
博士後期課程	35	―	105
人間環境学府			
都市共生デザイン専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	5	―	15
人間共生システム専攻			
修士課程	11	―	22
博士後期課程	9	―	27
行動システム専攻			
修士課程	17	―	34
博士後期課程	10	―	30
教育システム専攻			
修士課程	19	―	38
博士後期課程	9	―	27
空間システム専攻			
修士課程	28	―	56
博士後期課程	7	―	21
実践臨床心理学専攻			
専門職学位課程	30	―	60
法学府		―	
法政理論専攻			
修士課程	72	―	144
博士後期課程	17	―	51
法務学府			
実務法学専攻			
専門職学位課程	45	―	135
経済学府		―	
経済工学専攻			
修士課程	20	―	40
博士後期課程	10	―	30
経済システム専攻			
修士課程	27	―	54
博士後期課程	14	―	42
産業マネジメント専攻			
専門職学位課程	45	―	90
理学府			
物理学専攻			
修士課程	41	―	82
博士後期課程	14	―	42
化学専攻			
修士課程	62	―	124
博士後期課程	19	―	57
地球惑星科学専攻			
修士課程	41	―	82
博士後期課程	14	―	42
数理学府			
数理学専攻			
修士課程	54	―	108
博士後期課程	20	―	60
システム生命科学府			
システム生命科学専攻			
博士課程	54	―	270
医学系学府			
医学専攻			
博士課程	107	―	428

医科学専攻					医科学専攻		
修士課程	20	―	40		修士課程	20	―	40	
保健学専攻					保健学専攻		
修士課程	27	―	54		修士課程	27	―	54	
博士後期課程	10	―	30		博士後期課程	10	―	30	
医療経営・管理学専攻					医療経営・管理学専攻		
専門職学位課程	20	―	40		専門職学位課程	20	―	40	
歯学府					歯学府		
歯学専攻					歯学専攻		
博士課程	43	―	172		博士課程	43	―	172	
薬学府					薬学府		
創薬科学専攻					創薬科学専攻		
修士課程	55	―	110		修士課程	55	―	110	
博士後期課程	12	―	36		博士後期課程	12	―	36	
臨床薬学専攻					臨床薬学専攻		
博士課程	5	―	20		博士課程	5	―	20	
工学府					工学府		
物質創造工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	38	―	76			0	―	0	
博士後期課程	10	―	30			0	―	0	
物質プロセス工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	30	―	60			0	―	0	
博士後期課程	9	―	27			0	―	0	
材料物性工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	33	―	66			0	―	0	
博士後期課程	7	―	21			0	―	0	
化学システム工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	35	―	70			0	―	0	
博士後期課程	10	―	30			0	―	0	
					材料工学専攻				専攻の設置（届出）
					修士課程	43	―	86	
					博士後期課程	10	―	30	
					応用化学専攻				専攻の設置（届出）
					修士課程	68	―	136	
					博士後期課程	18	―	54	
					化学工学専攻				専攻の設置（届出）
					修士課程	30	―	60	
					博士後期課程	8	―	24	
建設システム工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	24	―	48			0	―	0	
博士後期課程	8	―	24			0	―	0	
都市環境システム工学専攻									令和3年4月学生募集停止
修士課程	28	―	56			0	―	0	
博士後期課程	8	―	24			0	―	0	
					土木工学専攻				専攻の設置（届出）
					修士課程	52	―	104	
					博士後期課程	16	―	48	
海洋システム工学専攻					船舶海洋工学専攻				名称変更
修士課程	21	―	42		修士課程	25	―	50	定員変更(4)
博士後期課程	8	―	24		博士後期課程	8	―	24	
地球資源システム工学専攻					地球資源システム工学専攻				
修士課程	20	―	40		修士課程	20	―	40	
博士後期課程	8	―	24		博士後期課程	8	―	24	
共同資源工学専攻					共同資源工学専攻				
修士課程	10	―	20		修士課程	10	―	20	
エネルギー量子工学専攻					量子物理工学専攻				名称変更
修士課程	28	―	56		修士課程	30	―	60	定員変更(2)
博士後期課程	10	―	30		博士後期課程	10	―	30	
機械工学専攻					機械工学専攻				
修士課程	62	―	124		修士課程	73	―	146	定員変更(11)
博士後期課程	16	―	48		博士後期課程	16	―	48	
水素エネルギーシステム専攻					水素エネルギーシステム専攻				
修士課程	30	―	60		修士課程	35	―	70	定員変更(5)
博士後期課程	9	―	27		博士後期課程	9	―	27	
航空宇宙工学専攻					航空宇宙工学専攻				
修士課程	30	―	60		修士課程	30	―	60	
博士後期課程	12	―	36		博士後期課程	10	―	30	定員変更(△2)
芸術工学府					芸術工学府				
芸術工学専攻					芸術工学専攻				
修士課程	92	―	184		修士課程	92	―	184	
博士後期課程	25	―	75		博士後期課程	25	―	75	
デザインストラテジー専攻					デザインストラテジー専攻				
修士課程	28	―	56		修士課程	28	―	56	
博士後期課程	5	―	15		博士後期課程	5	―	15	

システム情報科学府				
情報学専攻				
修士課程	40	―	80	
博士後期課程	14	―	42	
情報知能工学専攻				
修士課程	45	―	90	
博士後期課程	15	―	45	
電気電子工学専攻				
修士課程	55	―	110	
博士後期課程	16	―	48	
総合理工学府				
量子プロセス理工学専攻				
修士課程	37	―	74	
博士後期課程	14	―	42	
物質理工学専攻				
修士課程	37	―	74	
博士後期課程	14	―	42	
先端エネルギー理工学専攻				
修士課程	34	―	68	
博士後期課程	12	―	36	
環境エネルギー工学専攻				
修士課程	26	―	52	
博士後期課程	9	―	27	
大気海洋環境システム学専攻				
修士課程	30	―	60	
博士後期課程	11	―	33	
生物資源環境科学府				
資源生物科学専攻				
修士課程	66	―	132	
博士後期課程	26	―	78	
環境農学専攻				
修士課程	66	―	132	
博士後期課程	21	―	63	
農業資源経済学専攻				
修士課程	13	―	26	
博士後期課程	5	―	15	
生命機能科学専攻				
修士課程	99	―	198	
博士後期課程	25	―	75	
統合新領域学府				
ユーザー感性学専攻				
修士課程	30	―	60	
博士後期課程	4	―	12	
オートモーティブサイエンス専攻				
修士課程	21	―	42	
博士後期課程	7	―	21	
ライブラリーサイエンス専攻				
修士課程	10	―	20	
博士後期課程	3	―	9	
計	2,668	―	6,424	

システム情報科学府				
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
情報理工学専攻				専攻の設置(届出)
修士課程	105	―	210	
博士後期課程	29	―	87	
電気電子工学専攻				専攻の設置(届出)
修士課程	65	―	130	
博士後期課程	16	―	48	
総合理工学府				
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
				令和3年4月学生募集停止
	0	―	0	
	0	―	0	
総合理工学専攻				専攻の設置(届出)
修士課程	172	―	344	
博士後期課程	62	―	186	
生物資源環境科学府				
資源生物科学専攻				
修士課程	66	―	132	
博士後期課程	26	―	78	
環境農学専攻				
修士課程	66	―	132	
博士後期課程	21	―	63	
農業資源経済学専攻				
修士課程	13	―	26	
博士後期課程	5	―	15	
生命機能科学専攻				
修士課程	99	―	198	
博士後期課程	25	―	75	
統合新領域学府				
ユーザー感性学専攻				
修士課程	30	―	60	
博士後期課程	4	―	12	
オートモーティブサイエンス専攻				
修士課程	21	―	42	
博士後期課程	7	―	21	
ライブラリーサイエンス専攻				
修士課程	10	―	20	
博士後期課程	3	―	9	
計	2,733	―	6,554	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部電気情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー　＊	1前②	1				○		1	2				兼28
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			1	2	0	0	0	兼28
	課題協学科目	課題協学科目　＊	1後③～④	2.5				○							兼11
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11
	言語文化科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8
	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1
		専門英語	2前①～②		1			○							兼3
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1
		ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○							兼2
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1
		フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○							兼1
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4
	中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A ＊	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B ＊	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Integrated Courses : Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Writing Courses：Advanced B	＊	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）		－	6	107	0		－		0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society		1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）		－	0	28	0		－		0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ		1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ		1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	＊	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	＊	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ		1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ		1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	＊	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	＊	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ		1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ		1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ		2前①～②	1				○		3					
	数理統計学		2前①～②		2		○								兼2
	身の回りの物理学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論		1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習		1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論		1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習		1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論		1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習		1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	＊	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	＊	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	＊	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	＊	1後③・④	0.5				○							兼2
	熱力学基礎		1後③・④	1			○			1					兼2
	熱力学基礎演習		1後③・④		0.5			○		1					兼1
	物理学の進展Ａ		2前①		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	物理学の進展Ｂ		2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎		2前①～②	2			○								兼2
	原子核物理学		2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	＊	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	＊	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	＊	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	＊	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ		1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ		1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ		1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ		1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学		2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学		2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	＊	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学		1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学		2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学		2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	＊	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	＊	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論		2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考		1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ		1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ		1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	＊	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ		1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論		2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論		2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史		2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史		2後③・④		2		○								兼1
	情報科学		1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	＊	1前②・後④・2前①・②	1				○		1	1				兼10
	コンピュータープログラミング入門		2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	＊	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	＊	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）		－	20.5	69.5	0	－			4	1	0	0	0	兼154

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論 ＊	1前①	1			○						1		兼4	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	1	0	兼4	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習 ＊	1前①～②	1				○							兼4	
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2	
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1	
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア ＊	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ ＊	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A ＊	1後③	1			○			1					兼5	
	先端技術入門B ＊	1後④	1			○			1					兼7	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			2					兼49	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		社会統計学A	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学B	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠA	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠB	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡA	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	34	391	0	－			6	2	0	1	0	兼352	

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	*	1前②	1			○			1						
		データサイエンス序論	*	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）		－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	電気情報工学入門	*	1前①	1			○			34	21				兼16	
		電気情報数学I	*	2前①	1			○			3						
		電気情報数学Ⅱ	*	2前②	1			○			3						
		回路理論Ⅰ	*	2前①	2			○			1	1					
		回路理論Ⅱ	*	2前②	2			○				1				兼1	
		論理回路	*	2前①	2			○				2				兼1	
		プログラミング論	*	2前①	2			○			1	1					
		プログラミング演習Ⅰ	*	2前②	1				○			2				兼1	
		コンピュータアーキテクチャⅠ	*	2前②	2			○			1	2					
		データ構造とアルゴリズムⅠ	*	2前①		1		○			2						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	*	2前②		1		○			2						
		工学概論		2前①～②	2			○			11	4				兼2	オムニバス
		小計（12科目）		－	16	2	0	－			34	22	0	0	0	兼17	
	学科・専攻科目 学科共通科目	ディジタル電子回路Ⅰ		2後③・3前①		1		○			2						
		ディジタル電子回路Ⅱ		2後④・3前②		1		○			2						
		常微分方程式とラプラス変換	*	2後③～④	2			○								兼3	
		電気情報工学基礎実験	*	2後③～④	2					○				2			
		電気情報工学セミナーA	*	2後③	0.5				○		33	21				兼16	
		電気情報工学セミナーB	*	2後④		0.5			○		33	21				兼16	
		アナログ電子回路Ⅰ	*	3前①		1		○			2						
		アナログ電子回路Ⅱ	*	3前②		1		○			2						
		アナログ電子回路Ⅲ		3後③		1		○			2						
		アナログ電子回路Ⅳ		3後④		1		○			2						
		情報理論I		3前①		1		○				1				兼1	
		情報理論Ⅱ		3前②		1		○				1				兼1	
		ディジタル信号処理I		3前①		1		○								兼2	
		ディジタル信号処理Ⅱ		3前②		1		○								兼2	
		複素関数論	*	3前①～②		2		○								兼3	
		電気情報工学実験Ⅰ	*	3前①～②	2					○		1		3			
		電気情報工学実習		3前①～②		1				○	1						
		電気情報工学実験Ⅱ	*	3後③～④	2					○				4			
		離散数学I		3前①		1		○			1						
		離散数学Ⅱ		3前②		1		○			1						
		電気エネルギー工学通論Ⅰ	*	3後③		1		○				1					
		電気エネルギー工学通論Ⅱ	*	3後④		1		○				1					
		電磁気学Ⅰ	*	2後③		2		○			2					兼1	
		電磁気学Ⅱ		2後④		2		○			2					兼1	
		電磁気学Ⅲ		3前①		1		○			2						
		電磁気学Ⅳ		3前②		1		○			2						
		信号とシステムⅠ		2後③		1		○			1	1					
		信号とシステムⅡ		2後④		1		○			1	1					
		計測工学BI		3前①		1		○			1						
		計測工学BⅡ		3前②		1		○			1						
		通信方式Ⅰ		3後③		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	通信方式Ⅱ	3後④		1		○								兼1
	通信ネットワークⅠ	3後③		1		○				1				
	通信ネットワークⅡ	3後④		1		○				1				
	数理計画法Ⅰ	3後③		1		○				1				
	数理計画法Ⅱ	3後④		1		○				1				
	制御工学AⅠ ＊	2・3後③		1		○			2					
	制御工学AⅡ ＊	2・3後④		1		○			2					
	回路理論Ⅲ	2後③		1		○			1	1				
	回路理論Ⅳ	2後④		1		○			1	1				
	電子物性Ⅰ	2後③		1		○			2					
	電子物性Ⅱ	2後④		1		○			2					
	プログラミング演習Ⅱ	2後③		1			○		1					
	プログラミング演習Ⅲ	2後④		1			○			1				
	半導体の性質	3前①		1		○				1				
	トランジスタ基礎論	3前②		1		○				1				
	電磁波工学Ⅰ	3前①		1		○			1					
	電磁波工学Ⅱ	3前②		1		○			1					
	集積回路工学Ⅰ	3後③		1		○			1					
	集積回路工学Ⅱ	3後④		1		○			1					
	プラズマ工学Ⅰ	3後③		1		○			1					
	プラズマ工学Ⅱ	3後④		1		○			1					
	光エレクトロニクスⅠ	3後③		1		○			1					
	光エレクトロニクスⅡ	3後④		1		○			1					
	コンピュータシステム通論Ⅰ ＊	3後③		1		○								兼1
	コンピュータシステム通論Ⅱ ＊	3後④		1		○								兼1
	電気電子工学設計Ⅰ	4前①		1		○				1				
	電気電子工学設計Ⅱ	4前②		1		○				1				
	小計（58科目）	－	8.5	55.5	0	－			33	22	0	7	0	兼21
計算機工学科目	情報論理学Ⅰ ＊	2前①		1		○				1				
	情報論理学Ⅱ ＊	2前②		1		○				1				
	基礎PBLⅠ	2後③～④		1			○			1				
	データ構造とアルゴリズム演習	2後③～④		1			○			1				
	形式言語とオートマトンⅠ	2後③		1		○			1					
	オペレーティングシステムⅠ	2後③		1		○			1					
	形式言語とオートマトンⅡ	2後④		1		○			1					
	オペレーティングシステムⅡ	2後④		1		○			1					
	確率統計Ⅰ	3前①		1		○				1				
	データベースⅠ	3前①		1		○			1					
	基礎PBLⅡ ＊	3前①～②		1			○			1				兼1
	集積回路工学通論Ⅰ ＊	3前①		1		○			1					
	確率統計Ⅱ	3前②		1		○				1				
	データベースⅡ	3前②		1		○			1					
	集積回路工学通論Ⅱ ＊	3前②		1		○			1					
	コンパイラⅠ	3後③		1		○			1					
	電気情報工学実験Ⅲ ＊	3後③～④		2				○	1	1				
	コンパイラⅡ	3後④		1		○			1					
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後③		1		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	コンピュータアーキテクチャⅢ	2後④		1		○			1					
	コンピュータシステムⅠ	3前①		1		○				1				
	データ構造とアルゴリズムⅢ	3前①		1		○			1					
	ソフトウエア工学Ⅰ	3前①		1		○			1					
	プログラミング言語論Ⅰ	3前①		1		○			1					
	コンピュータシステムⅡ	3前②		1		○				1				
	データ構造とアルゴリズムⅣ	3前②		1		○			1					
	ソフトウエア工学Ⅱ	3前②		1		○			1					
	プログラミング言語論Ⅱ	3前②		1		○			1					
	アルゴリズム論Ⅰ	3後③		1		○			1					
	データ解析と実験計画法Ⅰ	3後③		1		○			1					
	コンピュータシステムⅢ	3後③		1		○								兼1
	サイバーセキュリティⅠ	3後③		1		○								兼1
	分散システムⅠ	3後③		1		○			1					
	技術表現法Ⅰ	3後③		1		○			1					
	人工知能Ⅰ	3後③		1		○								兼1
	パターン認識Ⅰ	3後③		1		○			1					
	アルゴリズム論Ⅱ	3後④		1		○			1					
	データ解析と実験計画法Ⅱ	3後④		1		○			1					
	コンピュータシステムⅣ	3後④		1		○								兼1
	サイバーセキュリティⅡ	3後④		1		○								兼1
	分散システムⅡ	3後④		1		○			1					
	技術表現法Ⅱ	3後④		1		○			1					
	人工知能Ⅱ	3後④		1		○								兼1
	パターン認識Ⅱ	3後④		1		○			1					
	小計（44科目）	－	0	45	0	－			9	8	0	0	0	兼4
電子通信工学科目	量子力学応用Ⅰ	3前①		1		○			1					
	量子力学応用Ⅱ	3前②		1		○				1				
	電子デバイスⅠ	3後③		1		○			1					
	電子デバイスⅡ	3後④		1		○			1					
	制御工学BⅠ	3後③		1		○			1	1				
	制御工学BⅡ	3後④		1		○			1	1				
	応用確率論	2後③～④		2		○								兼1
	小計（7科目）	－	0	8	0	－			3	2	0	0	0	兼1
電気電子工学科目	エネルギー基礎論Ⅰ	2後③		1		○			1					
	エネルギー基礎論Ⅱ	2後④		1		○			1					
	制御工学AⅢ	3前①		1		○			1					
	制御工学AⅣ	3前②		1		○			1					
	基礎エネルギー変換機器学Ⅰ	3前①		1		○			1					
	基礎エネルギー変換機器学Ⅱ	3前②		1		○			1					
	計測工学AⅠ ＊	3前①		1		○			1					
	計測工学AⅡ ＊	3前②		1		○			1					
	電力輸送工学Ⅰ	3前①		1		○			1					
	電力輸送工学Ⅱ	3前②		1		○			1					
	電気電子材料Ⅰ	3前①		1		○				1				
	電気電子材料Ⅱ	3前②		1		○				1				
	計測工学AⅢ	3後③		1		○				1				
	計測工学AⅣ	3後④		1		○				1				
	エネルギー変換機器工学Ⅰ	3後③		1		○			1					
	エネルギー変換機器工学Ⅱ	3後④		1		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	通信工学通論Ⅰ ＊	3後③		1		○			1					兼2
	通信工学通論Ⅱ ＊	3後④		1		○			1					兼2
	パワーエレクトロニクスⅠ	3後③		1		○			1					
	パワーエレクトロニクスⅡ	3後④		1		○			1					
	システム工学Ⅰ	3後③		1		○			2					
	システム工学Ⅱ	3後④		1		○			2					
	超伝導基礎論Ⅰ	3後③		1		○			1					
	超伝導基礎論Ⅱ	3後④		1		○			1					
	高電圧・パルスパワー工学Ⅰ	3後③		1		○				1				
	高電圧・パルスパワー工学Ⅱ	3後④		1		○				1				
	電気法規および施設管理Ⅰ	4後③		1		○								兼1
	電気法規および施設管理Ⅱ	4後④		1		○								兼1
	小計（28科目）	－	0	28	0	－			6	3	0	0	0	兼3
	小計（137科目）	－	8.5	137	0	－			33	22	0	7	0	兼23
卒業研究	電気情報工学卒業研究 ＊	4通	8				○		30	21				兼16
	小計（1科目）	－	8	0	0	－			30	21	0	0	0	兼16
	小計（152科目）	－	35.5	139	0	－			34	22	0	7	0	兼24
合計（503科目）		－	69.5	529	0	－			34	22	0	7	0	兼367

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から46単位以上、専攻教育科目から87.5単位以上を修得し、133.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　46単位以上（全コース共通） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（20.5単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数学演習B（1単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 電磁気学基礎演習（0.5単位） 熱力学基礎（1単位） 現代物理学基礎（2単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

2.専攻教育科目87.5単位以上
(1) 計算機工学コース
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（18単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学入門、電気情報数学Ⅰ、電気情報数学Ⅱ、
回路理論Ⅰ、回路理論Ⅱ、論理回路、プログラミング論、
プログラミング演習Ⅰ、コンピュータアーキテクチャⅠ、
データ構造とアルゴリズムⅠ、データ構造とアルゴリズムⅡ、工学概論
(c)学科・専攻科目（33.5単位修得）
①学科共通科目（14.5単位）
＜必修科目＞常微分方程式とラプラス変換、電気情報工学基礎実験、
電気情報工学セミナーA、情報理論Ⅰ、情報理論Ⅱ、電気情報工学実験Ⅰ、
電気情報工学実験Ⅱ、離散数学Ⅰ、離散数学Ⅱ、
電気エネルギー工学通論Ⅰ、電気エネルギー工学通論Ⅱ
②計算機工学科目（19単位）
＜必修科目＞情報論理学Ⅰ、情報論理学Ⅱ、基礎PBLⅠ、
データ構造とアルゴリズム演習、形式言語とオートマトンⅠ、
オペレーティングシステムⅠ、形式言語とオートマトンⅡ、
オペレーティングシステムⅡ、確率統計Ⅰ、データベースⅠ、
基礎PBLⅡ、集積回路工学通論Ⅰ、確率統計Ⅱ、データベースⅡ、
集積回路工学通論Ⅱ、コンパイラⅠ、電気情報工学実験Ⅲ、
コンパイラⅡ
(d)卒業研究（8単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学卒業研究（8単位）
(e)その他
学科群共通科目と学科・専攻科目の中から25単位以上修得

(2) 電子通信工学コース
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（16単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学入門、電気情報数学Ⅰ、電気情報数学Ⅱ、
回路理論Ⅰ、回路理論Ⅱ、論理回路、プログラミング論、
プログラミング演習Ⅰ、コンピュータアーキテクチャⅠ、工学概論
(c)学科・専攻科目（40.5単位修得）
①学科共通科目（38.5単位）
＜必修科目＞ディジタル電子回路Ⅰ、ディジタル電子回路Ⅱ、
常微分方程式とラプラス変換、電気情報工学基礎実験、
電気情報工学セミナーA、アナログ電子回路Ⅰ、アナログ電子回路Ⅱ、
情報理論Ⅰ、情報理論Ⅱ、複素関数論、電気情報工学実験Ⅰ、
電気情報工学実験Ⅱ、電気エネルギー工学通論Ⅰ、
電気エネルギー工学通論Ⅱ、電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、
電磁気学Ⅳ、信号とシステムⅠ、信号とシステムⅡ、通信方式Ⅰ、
通信方式Ⅱ、回路理論Ⅲ、回路理論Ⅳ、電子物性Ⅰ、電子物性Ⅱ、
プログラミング演習Ⅱ、プログラミング演習Ⅲ、半導体の性質、
トランジスタ基礎論、コンピュータシステム通論Ⅰ、
コンピュータシステム通論Ⅱ
②電子通信工学科目（2単位）
＜必修科目＞制御工学BⅠ、制御工学BⅡ
(d)卒業研究（8単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学卒業研究（8単位）
(e)その他
学科群・共通科目と学科・専攻科目の中から20単位以上修得

(3) 電気電子工学コース
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（16単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学入門、電気情報数学Ⅰ、電気情報数学Ⅱ、
回路理論Ⅰ、回路理論Ⅱ、論理回路、プログラミング論、
プログラミング演習Ⅰ、コンピュータアーキテクチャⅠ、工学概論
(c)学科・専攻科目（36.5単位修得）
①学科共通科目（28.5単位）
＜必修科目＞常微分方程式とラプラス変換、電気情報工学基礎実験、
電気情報工学セミナーA、アナログ電子回路Ⅰ、アナログ電子回路Ⅱ、
複素関数論、電気情報工学実験Ⅰ、電気情報工学実験Ⅱ、
電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、電磁気学Ⅳ、制御工学AⅠ、
制御工学AⅡ、回路理論Ⅲ、回路理論Ⅳ、電子物性Ⅰ、電子物性Ⅱ、
プログラミング演習Ⅱ、プログラミング演習Ⅲ、
コンピュータシステム通論Ⅰ、コンピュータシステム通論Ⅱ
②電気電子工学科目（8単位）
＜必修科目＞エネルギー基礎論Ⅰ、エネルギー基礎論Ⅱ、
基礎エネルギー変換機器学Ⅰ、基礎エネルギー変換機器学Ⅱ、
計測工学AⅠ、計測工学AⅡ、通信工学通論Ⅰ、通信工学通論Ⅱ
(d)卒業研究（8単位修得）
＜必修科目＞電気情報工学卒業研究（8単位）
(e)その他
学科群・共通科目と学科・専攻科目の中から24単位以上修得

3.備考
記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部材料工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	2				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ｉ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	8	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプ	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
・リン科目	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2後③～④	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○						1		兼13
	力学基礎演習	1前①～②		1			○					1		兼12
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○				1		1		兼5
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○			1	1				兼4
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○			1	1				兼4
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	2前①	1			○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	2前①	1			○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	2前①～②	2			○								兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	23	67	0	－			1	2	0	2	0	兼154
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○			1					兼5	
	先端技術入門B	1後④	1			○								兼8	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
	社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
	教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
	小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
	小計（351科目）	－	38.5	387	0	－			2	2	0	2	0	兼355	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	物理化学第一	2前①～②	2			○				1					
		量子力学第一	2前①～②	2			○			2						
		無機化学第一	2前①～②	2			○				1					
		有機化学第一	2前①～②	2			○								兼3	
		金属材料大意	2前①～②	2			○			2						
		機械工学大意第一	2前①～②	2			○								兼3	
		電気工学基礎Ⅰ	2前①	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	2前②	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1	
		安全学	2前①～②	2			○								兼1	
		テクノロジー・マーケティング	2前①～②		2				○						兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1					兼4	オムニバス
		小計（13科目）	－	18	4	0	－			4	2	0	0	0	兼12	
	学科・専攻科目	平衡組織学	2後③	2			○				1					
		冶金物理化学Ⅰ	2後③	2			○				1					
		冶金物理化学Ⅱ	2後④	2			○				1					
		材料工学実験第一	2後③～④	2					○	6	5		5		兼1	
		複素関数論	2後③～④	2			○								兼1	
		材料力学入門	2後③	1			○			1						
		材料設計製図Ⅰ	2後③	1			○	※							兼1	※演習
		材料設計製図Ⅱ	2後④	1			○								兼1	
		移動現象論	2後③	2			○				1					
		固体物理学	2後③	2			○			1						
		弾性・塑性変形工学	2後④	1			○			1						
		結晶化学	2後④	2			○				1					
		電子物性論	2後④	2			○			1						
		材料電気化学	3前①	2			○			1						
		超伝導材料工学	3前①		2		○				1					
		鉄鋼製錬学	3前①		2		○				1					
		材料工学実験第二	3前①～②	2					○	6	5		5		兼1	
		数理解析概論	3前①～②	2			○								兼1	
		凝固及び結晶成長	3前①	2			○			1						
		機械工作実習	3前①～②	1					○						兼1	
		産業科学技術特別講義	3前①～②		2		○			1						
		材料工学特別演習	3通		1		○			1						
		薄膜物理	3前②		2		○				1					
		材料強度物性	3前②	2			○			1						
		金属組織制御学	3前②	2			○			1						
		エネルギー材料工学	3前②		2		○								兼1	
		バイオマテリアル	3前②		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		データサイエンス	3後③	2			○			1						
		材料工学実験第三	3後③～④	2					○	6	5		5		兼1	
		材料表面科学	3後③		2		○			1						
		無機材料解析学	3後③		2		○				1					
		鉄鋼材料工学	3後③		2		○			1						
		高温材料強度学	3後③	1			○								兼1	
		非鉄金属製錬学	3後③		2		○				1					
		材料反応工学	3後③	2			○			1						
		半導体工学	3後④	2			○			1						
		接合・複合工学	3後④		2		○			1						
		電解工学	3後④		2		○			1						
		非鉄金属材料工学	3後④		1		○								兼1	
		セラミックス材料学	3後④		2		○				1					
		小計（40科目）	－	44	28	0				6	5	0	5	0	兼6	
	卒業研究	材料工学卒業研究	4通	8					○	6	5		5		兼1	
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			6	5	0	5	0	兼1	
		小計（56科目）	－	73	32	0	－			6	5	0	5	0	兼18	
合計（407科目）			－	112	419	0	－			6	5	0	5	0	兼361	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位修得） ＜必修科目＞物理化学第一、量子力学第一、無機化学第一、有機化学第一、金属材料大意、機械工学大意第一、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（44単位修得） ＜必修科目＞平衡組織学、冶金物理化学Ⅰ、冶金物理化学Ⅱ、材料工学実験第一、複素関数論、材料力学入門、材料設計製図Ⅰ、材料設計製図Ⅱ、移動現象論、固体物理学、弾性・塑性変形工学、結晶化学、電子物性論、材料電気化学、材料工学実験第二、数理解析概論、凝固及び結晶成長、機械工作実習、材料強度物性、金属組織制御学、データサイエンス、材料工学実験第三、高温材料強度学、材料反応工学、半導体工学 (d)卒業研究（8単位修得） ＜必修科目＞材料工学卒業研究（8単位） (e)その他 学科群共通科目と学科・専攻科目の中から13単位以上修得する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部応用化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー　＊	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目　＊	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	2				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A ＊	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B ＊	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	8	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ ＊	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ ＊	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	線形代数学Ⅰ	*	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ		1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ		1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ		2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学		2後③～④	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論		1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習		1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論		1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習		1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論		1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習		1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	*	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	*	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	*	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	*	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎		1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習		1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ		2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ		2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎		2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学		2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○			2					兼4
	無機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○			2					兼4
	有機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○			1					兼1
	有機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○			1					兼1
	基礎化学結合論Ⅰ		1前①・後③		1		○			1					兼3
	基礎化学結合論Ⅱ		1前②・後④		1		○			1					兼3
	基礎化学熱力学Ⅰ		2前①	1			○			2					兼2
	基礎化学熱力学Ⅱ		2前①	1			○			2					兼2
	現代化学		2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学		2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	*	2前①～②	2			○								兼3
	集団生物学		1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学		2前①～②		2		○			1					兼1
	生態系の科学		2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	*	1前①・後③		1		○								兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	最先端地球科学 ＊	2前①～②		1		○								兼2	
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1	
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8	
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8	
	空間表現実習Ⅰ ＊	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5	
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3	
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1	
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1	
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1	
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1	
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2	
	プログラミング演習 ＊	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12	
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験 ＊	1前①・後③	1					○						兼3	
	基礎科学実習 ＊	1前②・後④		1				○						兼3	
	小計（71科目）	－	23	67	0	－			6	0	0	0	0	兼153	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論 ＊	1前①	1			○								兼5	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習 ＊	1前①～②	1				○							兼4	
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2	
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1	
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア ＊	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ ＊	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
		先端技術入門A ＊	1後③	1			○			1					兼5	
		先端技術入門B ＊	1後④	1			○								兼8	
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
		音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○			1						
		自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			1	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	38.5	387	0	－			7	0	0	0	0	兼354	

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	*	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	*	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）		－	3	0	0	－			1	0	0	0	0		
	学科群共通科目	物理化学第一		2前①～②	2			○								兼1	
		量子力学第一		2前①～②	2			○								兼1	
		無機化学第一	*	2前①～②	2			○			1	1					
		有機化学第一	*	2前①～②	2			○				1					
		金属材料大意	*	2前①～②	2			○								兼2	
		機械工学大意第一		2前①～②	2			○								兼3	
		電気工学基礎Ⅰ	*	2前①	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	*	2前②	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ		2前①		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ		2前②		1		○								兼1	
		安全学		2前①～②	2			○			1						
		テクノロジー・マーケティング		2前①～②		2				○						兼1	
		工学概論		2前①～②	2			○			2					兼3	オムニバス
		小計（13科目）		－	18	4	0	－			2	2	0	0	0	兼12	
	学科・専攻科目	複素関数論	*	2後③～④		2		○								兼1	
		応用化学実験第一	*	2後③～④	2					○	12	2				兼4	共同
		生化学第一	*	2後③～④	2			○			1						
		高分子化学第一	*	2後③	2			○			1						
		分析化学第一	*	2後③	2			○			1						
		有機化学第二	*	2後③	2			○				1					
		物理化学第二	*	2後③	2			○			1						
		応用物理学第一		2後③		2		○				1					
		データサイエンス		2後④	2			○			2						
		化学工学第一	*	2後④	2			○			2						
		無機化学第二	*	2後④	2			○			1						
		量子化学第二	*	2後④	2			○			1	1					
		数理解析概論		3前①～②		2		○								兼1	
		応用化学実験第二	*	3前①～②	2					○	12	2				兼4	共同
		化学工学第二		3前①～②	2			○			2						
		分析化学第二	*	3前①	2			○			1						
		高分子化学第二	*	3前①	2			○			1						
		有機化学第三	*	3前①	2			○			1	1					
		生化学第二		3前②		2		○				2					
		無機化学第三	*	3前②	2			○			1						
		物理化学第三		3前②		2		○				2					
		表面化学		3前②		2		○								兼1	
		応用化学実験第三	*	3後③～④	2					○	12	2				兼4	共同
		物理化学演習		3後③	1				○		1						
		触媒化学		3後③	2			○			1						
		高分子化学第三		3後③		2		○				1				兼1	
		生体機能化学		3後③		2		○			1						
		有機化学第四		3後③		2		○			1	1					
		量子化学演習		3後④	1			※	○			2				兼1	※講義
		分析化学第三および演習		3後④	2			※	○		1	1					※講義
		無機化学第四		3後④		2		○				1					
		分子組織化学		3後④		2		○			1						
		応用化学特別講義第一		3後④		1		○			2						
		応用化学特別講義第二		4前①		1		○			2						
		応用化学特別講義第三		4前②		1		○			2						
		応用化学特別演習第一	*	4前①～②		1			○		1	1					
		応用化学特別講義第四		4後③		1		○			2						
		応用化学特別講義第五		4後④		1		○			2						
		応用化学特別演習第二		4後③～④		1			○		1	1					
		小計（39科目）			40	29	0				12	10	0	0	0	兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	卒業研究	応用化学卒業研究 ＊	4通	8					○	12	2				兼4	
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			12	2	0	0	0	兼4	
		小計（55科目）	－	69	33	0	－			12	10	0	0	0	兼17	
合計（406科目）			－	107.5	420	0	－			12	10	0	0	0	兼359	

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位修得） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎科学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎科学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位修得） ＜必修科目＞物理化学第一、量子力学第一、無機化学第一、有機化学第一、 金属材料大意、機械工学大意第一、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、 安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（40単位修得） ＜必修科目＞応用化学実験第一、生化学第一、高分子化学第一、分析化学第一、 有機化学第二、物理化学第二、データサイエンス、化学工学第一、 無機化学第二、量子化学第二、応用化学実験第二、化学工学第二、 分析化学第二、高分子化学第二、有機化学第三、無機化学第三、 応用化学実験第三、物理化学演習、触媒化学、量子化学演習、 分析化学第三および演習 (d)卒業研究（8単位修得） ＜必修科目＞応用化学卒業研究（8単位） (e)その他 学科群共通科目と学科・専攻科目の中から17単位以上修得 （ただし、複素関数論及び数理解析概論のうち1科目の修得を要する。）		
3.備考 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部化学工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	2				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ｉ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	8	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプ	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
・リン科目	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2後③～④	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○			1					兼13
	力学基礎演習	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○			1					兼1
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○			1					兼1
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	2前①	1			○			1					兼3
	基礎化学熱力学Ⅱ	2前①	1			○			1					兼3
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	2前①～②	2			○			1					兼2
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	分子生物学	2前①～②		2		○			1					兼1
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	23	67	0	－			5	0	0	0	0	兼154
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○			1					兼5	
	先端技術入門B	1後④	1			○								兼8	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1					兼50	
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	38.5	387	0	－			5	0	0	0	0	兼356	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○				1					
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○				1					
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			0	2	0	0	0		
	学科群共通科目	物理化学第一	2前①～②	2			○			2						
		量子力学第一	2前①～②	2			○				1					
		無機化学第一	2前①～②	2			○				2					オムニバス
		有機化学第一	2前①～②	2			○			1	1					
		金属材料大意	2前①～②	2			○								兼2	
		機械工学大意第一	2前①～②	2			○								兼3	
		電気工学基礎Ⅰ	2前①	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	2前②	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1	
		安全学	2前①～②	2			○								兼1	
		テクノロジー・マーケティング	2前①～②		2				○						兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1					兼4	オムニバス
		小計（13科目）	－	18	4	0	－			2	3	0	0	0	兼11	
	学科・専攻科目	物理化学第二	2後③～④	2			○			2						オムニバス
		化学工学量論	2後③～④	2			○			1						
		基礎生命工学	2後③	2			○			2	1					オムニバス
		化工数学	2後③	2			○			1						
		化学工学実験第一	2後③～④	2					○		1					
		応用物理学第一	2後③～④		2		○			1						
		数理解析概論	2後③～④	2			○								兼1	
		物質移動工学	2後④	2			○			1						
		基礎流体工学	2後④	2			○			1						
		エネルギー材料工学	2前②		2		○								兼1	
		プロセス物理化学	3前①	2			○				1					
		化工流体工学	3前①	2			○			1						
		生物プロセス工学第一	3前①	2			○			2						オムニバス
		機械工学大意第二	3前①～②		2		○								兼3	
		接合・複合工学	3後④		2		○								兼1	
		データサイエンス	3前①	2			○				1					
		化学工学実験第二	3前①～②	2					○		1					
		化学工学特別講義	3前①		1		○				1					
		応用物理学第二	3前①～②		2		○			1						
		基礎熱工学	3前①	2			○			2						オムニバス
		プロセス制御	3前②	2			○				1					
		反応工学第一	3前①～②	2			○			2						
		プロセス計装	3前②		1		○				1					
		生物プロセス工学第二	3後③	2			○			2						オムニバス
		高分子化学第三	3後③～④		2		○								兼2	
		化工情報処理演習	3後③	1				○			1					
		化学工学実験第三	3後③～④	2					○		1					
		生命工学特別講義	3後③		1		○				1					
		化工熱工学	3前②	2			○			2						オムニバス
		分離工学	3後④	2			○				1					
		プロセスシステム工学	3後④	2			○				1					
		生物化学工学	3後④	2			○			2	1					オムニバス
		反応工学第二	3後③	2			○			1						
		小計（33科目）	－	47	15	0	－			7	5	0	0	0	兼8	
	卒業研究	化学工学卒業研究	4通	8					○	6	5					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			6	5	0	0	0	
		小計（49科目）	－	76	19	0	－			7	5	0	0	0	兼19
合計（400科目）			－	115	406	0	－			7	5	0	0	0	兼363

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から85単位以上を修得し、133.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位修得） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎科学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎科学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　85単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位修得） ＜必修科目＞物理化学第一、量子力学第一、無機化学第一、有機化学第一、金属材料大意、機械工学大意第一、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（47単位修得） ＜必修科目＞物理化学第二、化学工学量論、基礎生命工学、化工数学、化学工学実験第一、数理解析概論、物質移動工学、基礎流体工学、プロセス物理化学、化工流体工学、生物プロセス工学第一、データサイエンス、化学工学実験第二、基礎熱工学、プロセス制御、反応工学第一、生物プロセス工学第二、化工情報処理演習、化学工学実験第三、化工熱工学、分離工学、プロセスシステム工学、生物化学工学、反応工学第二 (d)卒業研究（8単位修得） ＜必修科目＞化学工学卒業研究（8単位） (e)その他 学科群共通科目と学科・専攻科目の選択科目の中から9単位以上修得する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部融合基礎工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0		－		0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0		－		0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	2				○							兼3	
		ドイツ語ⅠA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅠB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ⅠA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ⅠB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ⅠA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ⅠB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2	
		中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	8	106	0		－		0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0		－		0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							
	数理統計学	2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○			1				
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○				1				兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5	
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3	
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1	
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1	
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1	
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1	
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2	
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12	
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3	
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3	
	小計（71科目）	－	19	71	0	－			0	2	0	0	0	兼157	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4	
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2	
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1	
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○			1					兼5	
	先端技術入門B	1後④	1			○								兼8	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
高年次基	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
	社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
	教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
	小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
	小計（351科目）	－	34.5	391	0	－			1	2	0	0	0	兼358	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○				1					
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			1	1	0	0	0		
	学科群共通科目	無機化学第一	2前①～②		2		○								兼1	
		有機化学第一	2前①～②		2		○								兼3	
		金属材料大意	2前①～②		2		○								兼2	
		物理化学第一	2前①～②		2		○			1						
		量子力学第一	2前①～②		2		○			1						
		機械工学大意第一	2前①～②		2		○								兼3	
		電気工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1	
		安全学	2前①～②		2		○								兼1	
		テクノロジー・マーケティング	2前①～②		2		○								兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1	1				兼7	オムニバス
		ベクトル解析と微分方程式	2前①～②		2		○								兼1	
		工業力学	2前①		2		○								兼1	
		材料力学Ⅰ	2前①		1		○								兼1	
		材料力学Ⅱ	2前②		2		○			1						
		熱力学Ⅰ	2前①		2		○			1						
		流れ学Ⅰ	2前②		2		○			1						
		現代物理学入門	2前①～②		2		○								兼1	
		原子力工学概論	2前①～②		2		○								兼3	オムニバス
		応用量子物理学入門	2前①～②		2		○								兼9	オムニバス・共同（一部）
		小計（22科目）	－	2	37	0	－			5	1	0	0	0	兼32	
	学科・専攻科目 学科共通科目	複素関数論	2後③～④		2		○								兼1	
		常微分方程式とラプラス変換	2後③～④		2		○								兼1	
		フーリエ解析と偏微分方程式	3前①～②		2		○				1					
		データ解析の数学	3後③～④		2		○			1						
		エネルギー変換工学	3前①～②		2		○			1						
		光・量子物理計測	3前①～②		2		○				1					
		材料強度学	3前①～②		2		○			1						
		化学反応論Ⅰ	3前①		1		○				1					
		化学反応論Ⅱ	3前②		1		○				1					
		プロセス化学工学	3後③～④		2		○				1					
		光エレクトロニクス	3後③～④		2		○								兼1	
		構造材料学	3後③		1		○				1					
		材料加工学	3後④		1		○				1					
		先端計測科学	4前①		1		○			2	1				兼1	オムニバス
		エネルギー・環境学A	4前①		1		○			2	2				兼1	オムニバス
		エネルギー・環境学B	4前①		1		○			2					兼3	オムニバス
		半導体・デバイス工学A	4前①		1		○								兼4	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
			半導体・デバイス工学B	4前①		1		○								兼4	オムニバス
			プラズマ応用工学	4前①		1		○								兼1	
			融合基礎情報学Ⅰ	2後③～④		2		○				1		1			共同
			融合基礎情報学Ⅱ	3前①～②		2		○			1						
			融合基礎情報学Ⅲ	3後③～④		2		○								兼1	
			融合応用情報学A	4前①		1		○								兼1	
			融合応用情報学B	4前①		1		○				1					
			融合応用情報学C	4前①		1		○			1						
			融合応用情報学D	4前①		1		○				1					
			知的財産論	4前②		1		○			1						
			マネージメント論	4後④		1		○			1						
			マーケティング論	4後④		1		○			1						
			インターンシップⅠ（長期）	4通		3				○	1						
			インターンシップⅡ（短期）	4通		1				○	1						
			融合基礎工学展望	2後③～④		2		○			2					兼1	オムニバス
			融合工学概論Ⅰ	3前①～②	2			○			4	1				兼8	オムニバス
			融合工学概論Ⅱ	3後③～④		2		○			3	1				兼11	オムニバス
			研究プロジェクト	4前①		4				○	1						
			グローバル科目Ⅰ（論文）	4前②	1				○		1						集中
			グローバル科目Ⅱ（討論）	4後③	1				○		1						集中
			融合基礎工学特別講義A	3後③		1		○			1						集中
			融合基礎工学特別講義B	3後③		1		○			1						集中
			小計（39科目）	ー	4	55	0	ー			8	7	0	1	0	兼22	
		物質材料コース科目	材料力学入門	2後③		1		○								兼1	
			物理化学第二	2後③～④		2		○								兼1	
			分析化学第一	2後③～④		2		○								兼1	
			無機化学第二	2後③～④		2		○								兼2	
			弾性・塑性変形工学	2後④		1		○								兼1	
			相平衡論	3前①～②		2		○				1					
			固体物理Ⅰ	3前①		2		○								兼1	
			結晶学基礎	3前①		1		○				1					
			分光学基礎	3前①		1		○				1					
			機器分析学	3前②		2		○								兼1	
			材料速度論	3前②		1		○				1					
			無機化学第三	3前①～②		2		○			1						
			固体物理Ⅱ	3後③		1		○				1					
			電気化学Ⅰ	3後③		1		○				1					
			電気化学Ⅱ	3後④		1		○				1					
			触媒化学Ⅰ	3後③		1		○			1						
			触媒化学Ⅱ	3後④		1		○			1						
			材料組織制御学	3後③		1		○				1					
			相転移論	3後④		1		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
			材料表面工学	3後④		1		○								兼1	
			磁性材料学	3後④		1		○								兼1	
			構造解析学	3後③		1		○								兼1	
			セラミックス材料学Ⅰ	3後③		1		○				1					
			セラミックス材料学Ⅱ	3後④		1		○				1					
			物質材料科学実験Ⅰ	3前①		2				○		6		4		兼5	オムニバス・共同（一部）
			物質材料科学実験Ⅱ	3前②		2				○		6		4		兼5	オムニバス・共同（一部）
			物質材料科学実験Ⅲ	3後③		2				○		1					
			物質材料科学実験Ⅳ	3後④		2				○		1					
			小計（28科目）	－	0	39	0	－			2	6	0	4	0	兼12	
		機械電気コース科目	力学	2後③		1		○			1						
			流体力学Ⅰ	2後③～④		2		○			1						
			熱エネルギー変換基礎	2後③～④		2		○			1						
			振動力学	2後③～④		2		○			1						
			熱・流体計測学	3前①		1		○			1						
			自動制御	3前①～②		2		○			1						
			統計力学	2後③～④		2		○			1						
			量子力学	3前①		2		○			1						
			電磁気学Ⅰ	2後③～④		2		○								兼1	
			電磁気学Ⅱ	3前①～②		2		○			1						
			電気回路Ⅰ	2後③～④		2		○								兼1	
			電気回路Ⅱ	3前①～②		2		○								兼1	
			流体力学Ⅱ	3前①～②		2		○								兼1	
			伝熱学	3前①～②		2		○			1						
			航空力学	3後③		1		○				1					
			流体機械	3後③		1		○				1					
			熱機関工学	3後④		1		○			1						
			流体力学演習	3前①～②		1			○							兼1	
			熱工学演習	3前①～②		1			○			1					
			電気エネルギー工学	3前②		1		○								兼1	
			高電圧・パルスパワー工学	3後③～④		2		○								兼1	
			プラズマ理工学Ⅰ	3後③		1		○				1					
			プラズマ理工学Ⅱ	3後④		1		○								兼1	
			機械電気科学実験Ⅰ	3前①		1				○		2		5		兼5	共同
			機械電気科学実験Ⅱ	3前②		1				○		2		5		兼5	共同
			機械電気科学実験Ⅲ	3後③		1				○		2				兼1	共同
			機械電気科学実験Ⅳ	3後④		1				○		2				兼1	共同

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	機械電気科学設計演習	3後③		1			○			1		1			共同
	小計（28科目）	－	0	41	0	－			5	4	0	5	0	兼10	
	小計（95科目）	－	4	135	0	－			9	12	0	9	0	兼39	
卒業研究	卒業研究	4通	6				○		9	12				兼31	
卒業研究	小計（1科目）	－	6	0	0	－			9	12	0	0	0	兼31	
	小計（120科目）	－	15	172	0	－			9	12	0	9	0	兼72	
合計（471科目）		－	49.5	563	0	－			9	12	0	9	0	兼408	

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 物質材料コース 基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、 134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上（全コース共通） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） 2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位以上修得） ＜必修科目＞無機化学第一、有機化学第一、金属材料大意、 物理化学第一、量子力学第一、機械工学大意第一、 電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（59単位以上修得） ①学科共通科目（16単位以上） ＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、 融合基礎情報学Ⅱ、融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、 融合工学概論Ⅰ、グローバル科目Ⅰ（論文）、 グローバル科目Ⅱ（討論） なお、学科共通科目のうち、常微分方程式とラプラス変換、 化学反応論Ⅰ、化学反応論Ⅱから2単位を選択必修とする。 ②物質材料コース科目（23単位以上） ＜必修科目＞材料力学入門、物理化学第二、分析化学第一、 無機化学第二、弾性・塑性変形工学、固体物理Ⅰ、結晶学基礎、 分光学基礎、機器分析学、固体物理Ⅱ、物質材料科学実験Ⅰ、 物質材料科学実験Ⅱ、物質材料科学実験Ⅲ、物質材料科学実験Ⅳ その他、学科共通科目と物質材料コース科目の選択科目から、 20単位以上修得する。 (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞卒業研究（6単位）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

(2) 機械電気コース
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上
(a)基幹教育セミナー（1単位修得）
＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位）
(b)課題協学科目（2.5単位修得）
＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位）
(c)言語文化科目(12単位修得)
＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位）
学術英語・グローバルイシューズ（1単位）
学術英語・CALL1（1単位）
学術英語・プロダクション1（1単位）
学術英語・プロダクション2（1単位）
学術英語・CALL2（1単位）
専門英語（1単位）
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得）
(e)理系ディシプリン科目（20単位）
＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位）
微分積分学Ⅱ（2単位）
線形代数学Ⅰ（2単位）
線形代数学Ⅱ（2単位）
数理統計学（2単位）
力学基礎（2単位）
電磁気学基礎（1単位）
熱力学基礎（1単位）
無機物質化学Ⅰ（1単位）
無機物質化学Ⅱ（1単位）
有機物質化学Ⅰ（1単位）
図形科学Ⅰ（1単位）
プログラミング演習（1単位）
自然科学総合実験（1単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得）
＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位）
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得）
＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位）
(h)総合科目（2単位修得）
＜必修科目＞先端技術入門A（1単位）
先端技術入門B（1単位）
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（15単位以上修得）
＜必修科目＞工学概論、ベクトル解析と微分方程式、工業力学、
材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、現代物理学入門
(c)学科・専攻科目（65単位以上修得）
①学科共通科目（16単位以上）
＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、融合基礎情報学Ⅱ、
融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、融合工学概論Ⅰ、
グローバル科目Ⅰ（論文）、グローバル科目Ⅱ（討論）
なお、学科共通科目のうち、フーリエ解析と偏微分方程式、
エネルギー変換工学から2単位を選択必修とする。

②機械電気コース専門科目（18単位以上）
＜必修科目＞力学、流体力学Ⅰ、熱エネルギー変換基礎、電磁気学Ⅰ、
電気回路Ⅰ、流体力学Ⅱ、伝熱学、機械電気科学実験Ⅰ、
機械電気科学実験Ⅱ、機械電気科学実験Ⅲ、機械電気科学実験Ⅳ、
機械電気科学設計演習

その他、学科共通科目と機械電気コース科目の選択科目から、
31単位以上修得する。

(d)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

(3) 高専連携教育プログラム
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上（編入時に単位認定）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)編入時の単位認定（32単位修得）
(b)学科共通科目（必修）（13単位修得）
＜必修科目＞インターンシップⅠ（長期）、融合工学概論Ⅰ、
融合工学概論Ⅱ、研究プロジェクト、グローバル科目Ⅰ（論文）、
グローバル科目Ⅱ（討論）
(c)学科共通科目（選択）（11単位以上修得）
(d)高専専攻科１年次修得単位（27単位修得）
※読替等で単位認定
(e)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部機械工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー　＊	1前②	1				○			1				兼30	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	1	0	0	0	兼30	
	課題協学科目	課題協学科目　＊	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	1				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A ＊	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B ＊	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Intermediate 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）		－	7	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society		1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）		－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ		1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ		1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	*	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ		1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ		1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	*	1前①～②	2			○								兼7

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	線形代数学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ		1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ		1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ		2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学		2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論		1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習		1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論		1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習		1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論		1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習		1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	*	1前①～②	2			○			3					兼11
	力学基礎演習	*	1前①～②		1			○		1	1		1		兼10
	電磁気学基礎	*	1前①・②	1			○			1	1				兼5
	電磁気学基礎演習	*	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎		1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習		1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ		2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ		2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎		2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学		2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④	1			○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ		1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ		1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ		1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ		1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学		2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学		2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	*	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学		1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学		2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学		2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	*	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	*	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論		2前①～②		2		○								兼1

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		デザイン思考		1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		図形科学Ⅰ		1前①・②・後③・④	1			○			3	1				兼4	
		図形科学Ⅱ		2後③	1			○			3	1				兼4	
		空間表現実習Ⅰ	*	2後③～④	2				○			1		2		兼2	
		空間表現実習Ⅱ		1後③～④・2前①～②		2			○							兼3	
		世界建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
		日本建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
		近・現代建築史		2後③・④		1		○								兼1	
		デザイン史		2後③・④		2		○								兼1	
		情報科学		1前①～②・後③～④・2前①～②		2		○								兼2	
		プログラミング演習	*	1前②・後④・2前①・②	1				○			1		1		兼10	
		コンピュータープログラミング入門		2後③・④		1		○								兼1	
		自然科学総合実験	*	1前①・後③	1					○						兼3	
		基礎科学実習	*	1前②・後④		1				○						兼3	
		小計（71科目）		－	23	67	0	－			7	4	0	4	0	兼144	
	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	*	1前①	1			○								兼5	
		小計（1科目）		－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	*	1前①～②	1				○							兼4	
		身体運動科学実習ⅠA		1後③		0.5				○						兼3	
		身体運動科学実習ⅠB		1後④		0.5				○						兼3	
		身体運動科学実習ⅡA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅡB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅢA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅢB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅣA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅣB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習Ⅴ		1後③～④		1				○						兼2	
		健康・スポーツ科学講義A		1後③		1		○								兼1	
		健康・スポーツ科学講義B		1後④		1		○								兼1	
		小計（12科目）		－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ		1前①		1		○								兼1	
		アカデミック・フロンティアⅡ		1前②		1		○								兼1	
		大学とは何かⅠ		1前①		1		○								兼1	
		大学とは何かⅡ		1前②		1		○								兼1	
		九州大学の歴史Ⅰ		1後③		1		○								兼1	
		九州大学の歴史Ⅱ		1後④		1		○								兼1	
		女性学・男性学Ⅰ		1前①		1		○								兼1	
		女性学・男性学Ⅱ		1前②		1		○								兼1	
		社会連携活動論：ボランティア	*	1前②		1		○								兼1	
		社会連携活動論：インターンシップ	*	1前①		1		○								兼1	
		Law in Everyday Life A		1後③		1		○								兼1	
		Law in Everyday Life B		1後④		1		○								兼1	
		バリアフリー支援入門		1前①		1		○								兼1	
		ユニバーサルデザイン研究		1後③		1		○								兼1	
		アクセシビリティ入門		1前②		1		○								兼1	
		アクセシビリティ支援入門		1後④		1		○								兼1	集中
		アクセシビリティ基礎		1後③～④		1		○								兼1	集中
		人と人をつなぐ技法		1後③		1		○								兼1	
		コミュニケーション入門		1前①		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A ＊	1後③	1			○			1					兼5	
	先端技術入門B ＊	1後④	1			○								兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
		音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
		自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	37.5	387	0	－			7	5	0	4	0	兼345	

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	*	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	*	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）		－	3	0	0	－			1	0	0	0	0		
	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	*	2前①	1			○			1	1					
		材料力学Ⅱ	*	2前②	2			○			1	1					
		工業力学	*	2前①	2			○			2	2		3			
		熱力学Ⅰ	*	2前①	2			○	※		2	1		1			※演習
		流れ学Ⅰ	*	2前②	2			○	※		2	2		1			※演習
		現代物理学入門		2前①～②	2			○								兼1	
		ベクトル解析と微分方程式	*	2前①～②	2			○								兼2	
		工学概論	*	2前①～②	2			○			1					兼3	オムニバス
		応用量子物理学入門		2前①～②		2		○								兼9	オムニバス
		原子力工学概論		2前①～②		2		○								兼3	オムニバス
		小計（10科目）		－	15	4	0	－			7	6	0	5	0	兼17	
	学科・専攻科目	材料力学Ⅲ	*	2後③	1.5			○	※		1	2					※演習
		複素関数論	*	2後③～④	2			○								兼2	
		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	*	2後③～④	2			○								兼2	
		機械工作実習Ⅰ		2後③	1					○	2			2			
		電気工学基礎Ⅰ	*	2後③	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	*	2後④	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	*	2後③	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	*	2後④	1			○								兼1	
		熱力学Ⅱ	*	2後③	1.5			○	※		2	1		1			※演習
		機械力学A	*	2後③	1.5			○	※		2	2		3			※演習
		流れ学Ⅱ	*	2後③	1.5			○	※		2	2		1			※演習
		機械材料Ⅰ		2後④	1			○			1						
		材料力学Ⅳ	*	2後④	1			○				2					
		機械工作実習Ⅱ		2後④	1					○	2			2			
		機械設計Ⅰ	*	2後④	1.5			○	※			2		1			※演習
		機械力学B	*	2後④	1.5			○	※		2	2		3			※演習
		流体力学Ⅰ	*	2後④	1.5			○	※		2	2		1			※演習
		弾性力学A		3前①	1			○				2					
		機械工学実験第一	*	3前①～②	1					○	1	6		4			
		数値解析基礎	*	3前①	2			○			1					兼1	
		システム制御A	*	3前①	1			○			1	1					
		機械製作法Ⅰ	*	3前①	2			○			1						
		機械要素Ⅰ	*	3前②		1		○				1					
		機械設計Ⅱ		3前①	1.5			○	※			2		1			※演習
		機械要素設計製図Ⅰ		3前①	0.5					○		2					
		伝熱学Ⅰ	*	3前①	1.5			○	※		1	1					※演習
		機械力学C	*	3前①	1.5			○	※		2	2		3			※演習
		流体力学Ⅱ	*	3前①	1.5			○	※		1	2		1			※演習
		弾性力学B		3前②	1			○				2					
		システム制御B	*	3前②	1			○			1	1					
		機械製作法Ⅱ	*	3前②	2			○			1						
		機械要素Ⅱ		3前②		1		○				1					
		機械要素設計製図Ⅱ		3前②	0.5					○	1	2					

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		テクノロジー・マーケティング		3前②		2		○									兼1
		伝熱学Ⅱ	*	3前②	1.5			○	※		1	1					※演習
		内燃機関Ⅰ	*	3前②		1		○			1						
		連続体の振動学		3前②		1		○			2	2		3			
		応用流体工学		3前②		2		○			1						
		機械材料Ⅱ		3後③		1		○				1					
		機械工学実験第二	*	3後③～④	1					○		3		7			
		データサイエンス応用	*	3後③～④	2			○			1			1			
		ロボティックスⅠ		3後③		1		○			1						
		システム制御C	*	3後③	1			○			1	1					
		機械工学設計製図	*	3後③～④	1					○		3					
		熱エネルギー変換Ⅰ		3後③		1		○			1			1			
		内燃機関Ⅱ	*	3後③		1		○			1						
		燃焼学Ⅰ		3後③	1			○			1	1					
		機構学・振動制御		3後③		1		○			2	2		3			
		水素工学基礎		3後④		2		○			2	1				兼2	
		システム工学		3後④		2		○			1					兼1	
		ロボティックスⅡ		3後④		1		○				1					
		システム制御D	*	3後④	1			○			1	1					
		加工機器・精密測定法		3後④		2		○			1						
		生体工学基礎		3後④		2		○			2	4				兼1	
		熱エネルギー変換Ⅱ		3後④		1		○				1					
		燃焼学Ⅱ		3後④	1			○			1	1					
		機械工学特別講義Ⅰ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅱ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅲ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅳ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅴ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅵ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅶ		4前①～②		0.5		○			1						
		機械工学特別講義Ⅷ		4前①～②		0.5		○			1						
		小計（64科目）		－	50	27	0				18	17	0	14	0	兼10	
	卒業研究	機械工学卒業研究	*	4前②～後④	6					○	18	19		15		兼2	
		小計（1科目）		－	6	0	0	－			18	19	0	15	0	兼2	
		小計（77科目）		－	74	31	0	－			19	19	0	16	0	兼26	
合計（428科目）				－	112	418	0	－			19	19	0	16	0	兼357	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 無機物質化学Ⅱ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅱ（1単位） 空間表現実習Ⅰ（2単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（15単位修得） ＜必修科目＞材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、工業力学、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、現代物理学入門、ベクトル解析と微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（52単位修得） ＜必修科目＞材料力学Ⅲ、複素関数論、フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式、機械工作実習Ⅰ、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、電子情報工学基礎Ⅰ、電子情報工学基礎Ⅱ、熱力学Ⅱ、機械力学A、流れ学Ⅱ、機械材料Ⅰ、材料力学Ⅳ、機械工作実習Ⅱ、機械設計Ⅰ、機械力学B、流体力学Ⅰ、弾性力学A、機械工学実験第一、数値解析基礎、システム制御A、機械製作法Ⅰ、機械設計Ⅱ、機械要素設計製図Ⅰ、伝熱学Ⅰ、機械力学C、流体力学Ⅱ、弾性力学B、システム制御B、機械製作法Ⅱ、機械要素設計製図Ⅱ、伝熱学Ⅱ、機械工学実験第二、データサイエンス応用、システム制御C、機械工学設計製図、燃焼学Ⅰ、システム制御D、燃焼学Ⅱ (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞機械工学卒業研究（6単位） (e)その他 専攻教育科目中の選択科目から10単位以上修得 なお、選択科目のうち、機械工学特別講義Ⅰ～Ⅷの8科目から2単位を選択必修とする。		
3.備考 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部航空宇宙工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー　＊	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目　＊	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	1				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ｉ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A ＊	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B ＊	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Intermediate 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	*	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	*	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）		－	7	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門		1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門		1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society		1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）		－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ		1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ		1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	*	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ		1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ		1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	*	1前①～②	2			○								兼7

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	線形代数学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ		1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ		1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ		2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学		2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論		1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習		1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論		1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習		1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論		1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習		1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	*	1前①～②	2			○			1	1				兼12
	力学基礎演習	*	1前①～②		1			○		2	1				兼10
	電磁気学基礎	*	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	*	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎		1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習		1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ		2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ		2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎		2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学		2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④	1			○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ		1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ		1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ		1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ		1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学		2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学		2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	*	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	*	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学		1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学		2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学		2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	*	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	*	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論		2前①～②		2		○								兼1

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		デザイン思考		1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		図形科学Ⅰ		1前①・②・後③・④	1			○								兼8	
		図形科学Ⅱ		2後③	1			○								兼8	
		空間表現実習Ⅰ	*	2後③～④	2				○							兼5	
		空間表現実習Ⅱ		1後③～④・2前①～②		2			○							兼3	
		世界建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
		日本建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
		近・現代建築史		2後③・④		1		○								兼1	
		デザイン史		2後③・④		2		○								兼1	
		情報科学		1前①～②・後③～④・2前①～②		2		○								兼2	
		プログラミング演習	*	1前②・後④・2前①・②	1				○					1		兼11	
		コンピュータープログラミング入門		2後③・④		1		○								兼1	
		自然科学総合実験	*	1前①・後③	1					○						兼3	
		基礎科学実習	*	1前②・後④		1				○						兼3	
		小計（71科目）		－	23	67	0	－			2	1	0	1	0	兼155	
	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	*	1前①	1			○								兼5	
		小計（1科目）		－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	*	1前①～②	1				○							兼4	
		身体運動科学実習ⅠA		1後③		0.5				○						兼3	
		身体運動科学実習ⅠB		1後④		0.5				○						兼3	
		身体運動科学実習ⅡA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅡB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅢA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅢB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅣA		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習ⅣB		2前①・②		0.5				○						兼2	
		身体運動科学実習Ⅴ		1後③～④		1				○						兼2	
		健康・スポーツ科学講義A		1後③		1		○								兼1	
		健康・スポーツ科学講義B		1後④		1		○								兼1	
		小計（12科目）		－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ		1前①		1		○								兼1	
		アカデミック・フロンティアⅡ		1前②		1		○								兼1	
		大学とは何かⅠ		1前①		1		○								兼1	
		大学とは何かⅡ		1前②		1		○								兼1	
		九州大学の歴史Ⅰ		1後③		1		○								兼1	
		九州大学の歴史Ⅱ		1後④		1		○								兼1	
		女性学・男性学Ⅰ		1前①		1		○								兼1	
		女性学・男性学Ⅱ		1前②		1		○								兼1	
		社会連携活動論：ボランティア	*	1前②		1		○								兼1	
		社会連携活動論：インターンシップ	*	1前①		1		○								兼1	
		Law in Everyday Life A		1後③		1		○								兼1	
		Law in Everyday Life B		1後④		1		○								兼1	
		バリアフリー支援入門		1前①		1		○								兼1	
		ユニバーサルデザイン研究		1後③		1		○								兼1	
		アクセシビリティ入門		1前②		1		○								兼1	
		アクセシビリティ支援入門		1後④		1		○								兼1	集中
		アクセシビリティ基礎		1後③～④		1		○								兼1	集中
		人と人をつなぐ技法		1後③		1		○								兼1	
		コミュニケーション入門		1前①		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A ＊	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B ＊	1後④	1			○			1					兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
		音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
		自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	37.5	387	0	－			3	1	0	1	0	兼356	

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	*	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	*	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）		－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	*	2前①	1			○								兼2	
		材料力学Ⅱ	*	2前②	2			○								兼2	
		工業力学	*	2前①	2			○						1			
		熱力学Ⅰ	*	2前①	2			○	※					1			※演習
		流れ学Ⅰ	*	2前②	2			○	※		1						※演習
		現代物理学入門		2前①～②	2			○								兼1	
		ベクトル解析と微分方程式	*	2前①～②	2			○								兼1	
		応用量子物理学入門		2前①～②			2	○								兼9	オムニバス共同（一部）
		原子力工学概論		2前①～②			2	○								兼3	オムニバス
		工学概論	*	2前①～②	2			○			1					兼3	オムニバス
		小計（10科目）		－	15	0	4	－			2	0	0	1	0	兼17	
	学科・専攻科目	複素関数論	*	2後③～④	2			○								兼1	
		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	*	2後③～④	2			○								兼1	
		応用確率論		3後③～④		2		○								兼1	
		情報処理概論	*	2後③～④	2			○								兼1	
		材料力学Ⅲ	*	2後③	1.5			○	※							兼3	※演習
		材料力学Ⅳ	*	2後④	1			○								兼2	
		弾性力学		3前①～②	2			○			1						
		航空宇宙伝熱学	*	2後③～④	2			○			1						
		エネルギー変換基礎論		3前①～②	2			○				1					
		ジェットエンジン工学		3後④		2		○				1					
		航空流体力学	*	2後③～④	2			○			1						
		気体力学	*	3前①	2			○				1					
		飛行力学Ⅰ	*	2後③～④	2			○				1					
		飛行力学Ⅱ	*	3前①～②		2		○				1					
		応用飛行制御論		4前①～②		2		○				1					
		軌道力学	*	2後③～④	2			○			1						
		誘導・制御基礎論Ⅰ		3前①～②	2			○			1						
		誘導・制御基礎論Ⅱ		3後③～④		2		○			1						
		航空宇宙基礎物理学		3後③～④		2		○			1						
		宇宙利用学		3後③～④		2		○			1	1					オムニバス
		基礎設計製図	*	3前①～②	2					○						兼1	
		航空宇宙工学設計実習	*	3後③～④	2					○				5			共同
		基礎振動学		2後③～④	2			○			1						
		基礎構造力学		3前①～②		2		○			1						
		応用構造力学		3後③～④		2		○			1						
		航空宇宙機振動学		3後③～④		2		○			1						
		航空宇宙機材料学		3前①～②		2		○			1						
		人工衛星工学		3前①～②		2		○			1						
		ロケット工学		3後③		2		○				1					
		航空宇宙機設計論		4前①～②		2				○	1						
		航空宇宙工学実験	*	4前①～②	2					○				5			共同
		電気工学基礎Ⅰ	*	2後③	1			○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		電気工学基礎Ⅱ ＊	2後④	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ ＊	2後③	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ ＊	2後④	1			○								兼1	
		テクノロジー・マーケティング	3前②		2			○							兼1	
		工業マネジメント	4前①～②		2		○								兼2	集中
		航空工学特別講義	4前①～②		1		○								兼1	集中
		宇宙工学特別講義	4前①～②		1		○								兼1	集中
		航空宇宙機設計生産システム	4前①～②		1		○								兼1	集中
		ジェットエンジン構造設計	4前①～②		1		○								兼1	集中
		航空機運用・整備	4前①～②		1		○								兼1	集中
		宇宙環境制御システム	4前①～②		1		○								兼1	集中
		産業活動実習Ⅰ	3前①～②		2		○			5	4					
		産業活動実習Ⅱ	3後③～④		2		○			5	4					
		小計（45科目）	－	36.5	42	0	－			5	4	0	5	0	兼19	
	卒業研究	航空宇宙工学卒業研究 ＊	4前②～後④	6					○	5	4					
		小計（1科目）	－	6	0	0	－			5	4	0	0	0		
		小計（58科目）	－	60.5	42	4	－			5	4	0	5	0	兼34	
合計（409科目）			－	98	429	4	－			5	4	0	5	0	兼376	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86.5単位以上を修得し、135単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） 無機物質化学Ⅱ（1単位） 図形科学Ⅱ（1単位） 空間表現実習Ⅰ（2単位） 数理統計学（2単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　86.5単位以上 (a)工学部・共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群・共通科目（15単位修得） ＜必修科目＞材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、工業力学、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、 現代物理学入門、ベクトル解析と微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（36.5単位修得） ＜必修科目＞複素関数論、フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式、 情報処理概論、材料力学Ⅲ、材料力学Ⅳ、弾性力学、航空宇宙伝熱学、 エネルギー変換基礎論、航空流体力学、気体力学、飛行力学Ⅰ、軌道力学、 誘導・制御基礎論Ⅰ、基礎設計製図、航空宇宙工学設計実習、基礎振動学、 航空宇宙工学実験、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、電子情報工学基礎Ⅰ、 電子情報工学基礎Ⅱ (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞航空宇宙工学卒業研究（6単位） (e)その他 専攻教育科目中の選択科目から26単位以上修得		
3.備考 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、グローバルコース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部量子物理工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②	1				○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	7	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
目	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○				2				兼12
	力学基礎演習	1前①～②		1			○			2				兼11
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○			1					兼5
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④	1			○			1					兼5
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○					1		兼11
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	20	70	0	－			1	4	0	1	0	兼153
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ａ	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶＡ	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B	1後④	1			○			2					兼6	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			2	0	0	0	0	兼49	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
	社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
	教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
	小計（70科目）	―	0	105	0		―		0	0	0	0	0	兼60	
	小計（351科目）	―	34.5	390	0		―		3	4	0	1	0	兼353	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部量子物理工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	2前①	1			○								兼2	
		材料力学Ⅱ	2前②	2			○								兼2	
		工業力学	2前①	2			○								兼7	
		熱力学Ⅰ	2前①	2			○	※							兼4	※演習
		流れ学Ⅰ	2前②	2			○	※							兼5	※演習
		現代物理学入門	2前①～②	2			○			1						
		ベクトル解析と微分方程式	2前①～②	2			○								兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1					兼3	オムニバス
		応用量子物理学入門	2前①～②		2		○			4	5					オムニバス・共同(一部)
		原子力工学概論	2前①～②		2		○			2	1					オムニバス
		小計（10科目）	－	15	4	0	－			6	6	0	0	0	兼21	
	学科・専攻科目	複素関数論	2後③～④	2			○								兼1	
		力学	2後③～④	2			○				1					
		振動・波動論基礎	2後③～④	2			○			1						
		物理化学	2後③～④	2			○			1	1					
		電磁気学	2後③～④	2			○			1						
		情報処理概論	2後③～④	2			○								兼1	
		量子物理工学演習Ⅰ	2後③～④	1				○		1	1					オムニバス
		量子物理工学演習Ⅱ	3前①～②	1				○		1	1					オムニバス
		量子物理工学演習Ⅲ	3後③～④	1				○		5	8					
		創造科学工学基礎実験	2後③～④		1				○		1		6			共同
		原子核物理学入門	2後③～④		2		○				1					
		原子核物理学	3後③～④		2		○				1					
		連続体力学	2後③～④		2		○			1						
		量子線物理計測	2後③～④		2		○						1			
		電気・電子回路	2後③～④		2		○			1						
		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	3前①～②	2			○								兼1	
		量子力学Ⅰ	3前①	1			○				1					
		量子力学Ⅱ	3前②	1			○				1					
		量子力学Ⅲ	3後③		1		○				1					
		統計力学Ⅰ	3前①～②	2			○			1						
		統計力学Ⅱ	3後③～④		2		○				1					
		輸送現象論	3前①～②	2			○				1					
		データ解析概論	3前①～②	2			○						9			オムニバス
		量子物理工学実験	3通	2					○		1		7			共同
		固体物理学Ⅰ	3後③～④	2			○			1						
		固体物理学Ⅱ	4前①～②		2		○			1						
		放射化学	3前①～②		2		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		ビーム工学	3前①～②		2		○			1						
		材料科学概論	3前①～②		2		○				1					
		応用光学	3前①～②		2		○				1					
		応用確率論	3後③～④		2		○								兼1	
		現代科学技術論	3後③～④	1			○				1					
		量子物理工学概論	3後④	1			○			5	4					オムニバス
		原子炉物理学Ⅰ	3後③		1		○			1						
		原子炉物理学Ⅱ	3後④		1		○			1						
		プラズマ理工学	3後③		1		○				1					
		核融合概論	3後④		1		○				1					
		原子炉熱流動工学	3後③～④		2		○			1	1					
		ソフトマター物理学	3後③～④		2		○						1			
		材料分析学	4前①～②		2		○				1					
		産業活動実習	3前①～②		1				○	1						
		量子物理工学特別講義Ⅰ	3後③～④		1		○				1					集中
		量子物理工学特別講義Ⅱ	3後③～④		1		○				1					集中
		量子物理工学特別講義Ⅲ	4前①～②		1		○			1						集中
		量子物理工学特別講義Ⅳ	4前①～②		1		○				1					集中
		小計（45科目）	－	31	41	0	－			6	8	0	9	0	兼4	
	卒業研究	量子物理工学卒業研究	4通	8				○		5	8					
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			5	8	0	0	0		
		小計（58科目）	－	57	45	0	－			7	8	0	9	0	兼25	
合計（409科目）			－	91.5	435	0	－			7	8	0	9	0	兼362	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から87単位以上を修得し、132.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　45.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（20単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 無機物質化学Ⅱ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　87単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（15単位修得） ＜必修科目＞材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、工業力学、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、 現代物理学入門、ベクトル解析と微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（31単位修得） ＜必修科目＞複素関数論、力学、振動・波動論基礎、物理化学、電磁気学、 情報処理概論、量子物理工学演習Ⅰ、量子物理工学演習Ⅱ、 量子物理工学演習Ⅲ、フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式、 量子力学Ⅰ、量子力学Ⅱ、統計力学Ⅰ、輸送現象論、データ解析概論、 量子物理工学実験、固体物理学Ⅰ、現代科学技術論、量子物理工学概論 (d)卒業研究（8単位修得） ＜必修科目＞量子物理工学卒業研究（8単位） (e)その他 専攻教育科目中の選択科目から30単位以上修得		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部船舶海洋工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○		1					兼30	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			1	0	0	0	0	兼30	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②		1			○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	6	107	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
目	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○				1				兼13
	力学基礎演習	1前①～②	1				○			1				兼12
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	2前①・②		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	2前①・②		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	2前①～②		2		○								兼2
	細胞生物学	1前①・②・後③・④		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	2前①		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○			1					兼7
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○			1					兼7
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○					1		兼4
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	20	70	0	－			1	1	0	1	0	兼156
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ａ	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶＡ	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B	1後④	1			○			1					兼7	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学A	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学B	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠA	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠB	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡA	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	ー	0	105	0	ー			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	ー	33.5	391	0	ー			2	1	0	1	0	兼357	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	2前①～②	2			○								兼1	
		複素関数論	2前①～②	2			○								兼1	
		固体力学	2前①～②	2			○								兼3	
		地球環境総合工学	2前①～②	2			○			2					兼4	オムニバス・共同
		フーリエ変換と偏微分方程式	2後③～④	2			○								兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）	－	12	0	0	－			3	0	0	0	0	兼11	
	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅰ	2後③	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	2後④	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅰ	2後③	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	2後④	1			○								兼1	
		機械工学大意第一	2後③～④	2			○								兼3	
		空間表現実習	2後③～④	1					○				2			
		流体力学第一および同演習	2後③	1.5			○	※		1						※演習
		船舶設計	2後③	2			○				1					
		船舶算法および同演習	2後③	1.5			○	※			1					※演習
		材料力学および同演習	2後③	1.5			○	※		1						※演習
		船舶復原性および同演習	2後④	1.5			○	※		1						※演習
		流体力学第二および同演習	2後④	1.5			○	※		1						※演習
		自動制御工学	2後④	2			○			1						
		材料加工学	2後④	2			○			1						
		弾性力学	3前①～②	2			○			1						
		船舶海洋製図第一	3前①～②	1			※		○		1					※講義
		船舶海洋流体力学第一	3前①	2			○			1						
		機能設計工学	3前①	2			○			1	1					
		構造力学第一および同演習	3前①	1.5			○	※		1						※演習
		計算工学演習第一	3前①	1				○	※	1						※実験・実習
		船舶運動論	3前②	2			○			1						
		構造力学第二および同演習	3前②	1.5			○	※		1						※演習
		船舶海洋製図第二	3後③～④	2			※		○		1					※講義
		情報処理概論	3後③～④	2			○			1						
		船舶海洋構造力学	3後③	2			○			1						
		船舶海洋流体力学第二	3後③	2			○			1						
		船舶海洋振動学第一	3後③	2			○			1						
		材料強度学	3後③	2			○			1						
		運動制御工学	3後④	2			○			1						
		環境設計工学	3後④	2			○			1	1					
		システム設計工学	3後④	2			○			1						
		船舶海洋工学実験	4前①～②	1					○	4	1		2			共同
		舶用機関	4前①～②	2			○								兼1	
		工学力学	2後③～④		2		○				1					
		工学力学演習	3前①		1			○			1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		海洋環境情報学	3前②		2		○				1					
		海洋機器工学	3前②		2		○			1						
		船舶海洋振動学第二	3後④		2		○			1						
		工業マネージメント	4前①		2		○				1					
		計算工学演習第二	4前①		1			○		6	3		2			
		構造解析演習	4前①		1			○		1						
		船舶海洋工学特別講義第一	4前②		1		○			1						
		船舶海洋工学特別講義第二	4後③		1		○			1						
		船舶海洋工学特別講義第三	4後④		1		○			1						
		小計（44科目）	－	54.5	16	0	－			7	3	0	2	0	兼6	
	卒業研究	船舶海洋工学卒業研究	4前②～後④	6				○		6	3		2			
		小計（1科目）	－	6	0	0	－			6	3	0	2	0		
		合計（53科目）	－	75.5	16	0	－			7	3	0	2	0	兼17	
合計（404科目）			－	109	407	0	－			7	3	0	2	0	兼364	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から49.5単位以上、専攻教育科目から85.5単位以上を修得し、135単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　49.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（24単位（選択必修科目4単位を含む）） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 力学基礎演習（1単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） なお、理系ディシプリン科目の選択科目のうち、電磁気学基礎演習、熱力学基礎演習、無機物質化学Ⅱ、基礎化学結合論Ⅰ、基礎化学結合論Ⅱ、生物学概論、地球科学、最先端地球科学から4単位を選択必修とする。 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　85.5単位以上 (a)工学部・共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群・共通科目（12単位修得） ＜必修科目＞常微分方程式とラプラス変換、複素関数論、地球環境総合工学、固体力学、フーリエ変換と偏微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（必修）（54.5単位修得） ＜必修科目＞電子情報工学基礎Ⅰ、電子情報工学基礎Ⅱ、電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、機械工学大意第一、空間表現実習、流体力学第一および同演習、船舶設計、船舶算法および同演習、材料力学および同演習、船舶復原性および同演習、流体力学第二および同演習、自動制御工学、材料加工学、弾性力学、船舶海洋製図第一、船舶海洋流体力学第一、機能設計工学、構造力学第一および同演習、計算工学演習第一、船舶運動論、構造力学第二および同演習、船舶海洋製図第二、情報処理概論、船舶海洋構造力学、船舶海洋流体力学第二、船舶海洋振動学第一、材料強度学、運動制御工学、環境設計工学、システム設計工学、船舶海洋工学実験、船舶用機関 (d)学科・専攻科目（選択）（10単位以上修得） (e)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞船舶海洋工学卒業研究（6単位）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部地球資源システム工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○			1				兼30	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼30	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②		1			○							兼3	
		ドイツ語ⅠA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅠB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ⅠA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ⅠB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ⅠA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ⅠB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	6	107	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
目	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	1前①～②	1				○							兼13
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○				2				兼5
	電磁気学基礎演習	2前①・②		0.5			○					1		兼1
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	2前①・②		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	2前①～②		2		○				1				兼1
	細胞生物学	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	2前①		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○					1		兼11
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	20	70	0	－			0	3	0	2	0	兼154
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ａ	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶＡ	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B	1後④	1			○			1					兼7	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	―	0	105	0	―			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	―	33.5	391	0	―			1	3	0	2	0	兼355	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○			1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	2前①～②	2			○								兼1	
		複素関数論	2前①～②	2			○								兼1	
		固体力学	2前①～②	2			○			1			1		兼1	
		地球環境総合工学	2前①～②	2			○			1	1				兼4	オムニバス・共同
		フーリエ変換と偏微分方程式	2後③～④	2			○								兼1	
		工学概論	2前①～②	2			○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）	－	12	0	0	－			2	1	0	1	0	兼10	
	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅰ	2後③	1			○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	2後④	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	2後③	1			○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	2後④	1			○								兼1	
		機械工学大意第一	2後③～④	2			○								兼3	
		情報処理概論	2後③	2			○						1			
		地球システム学概論	2後④	2			○			1						
		地球環境のイメージング	2後④	2			○			1						
		地球熱学	2後④	2			○				1					
		資源流体工学	2後④	2			○				1					
		岩盤工学	2後③	2			○				1					
		資源処理工学	2後③	2			○				1				兼1	
		エネルギー資源工学	2後④	2			○								兼1	
		資源環境科学	3後④	2			○				1					
		フィールド地球科学演習	2後③～④	1			※	○			1					※講義
		物理探査学	3前①	2			○				1					
		地熱工学	3前②	2			○				1					
		地球工学実験第一	3前①～②	1			※		○				3		兼1	※講義
		地球工学実験第二	3後③～④	1			※		○				3		兼1	※講義
		石油工学	3前②	2			○				1					
		地下空洞設計法	3前①	2			○			1						
		水圏環境化学平衡論	3前②	2			○			1	1					
		工業爆薬学	3前①～②	2			○				1				兼1	
		資源システム工学実験第一	3前①～②	1					○		2		1			
		資源システム工学実験第二	3後③～④	1					○		2		1			
		地層内物質移動工学	3前①	2			○								兼1	
		地球資源システム工学実習	2後③～④	0.5					○	1	1		1		兼1	
		資源地球科学	3前①		2		○			1						
		環境地球物理学	3後③		2		○			1						
		地熱貯留層工学	3後③		2		○			1						
		石油開発生産工学	3後④		2		○				1					
		固体資源開発工学	3後④		2		○				1					
		資源微生物工学	3後③		2		○				1					
		新エネルギー工学	2後④		1		○								兼2	集中
		地熱発電工学	3前②		1		○			1					兼1	集中
		石灰石資源	3前①		1		○			1					兼1	
		石油・天然ガス資源開発	3後③		1		○				1				兼1	集中
		海外資源・資源経済学	3後③		1		○			1					兼1	集中
		廃棄物資源循環工学	3後③		1		○								兼2	集中
		地球資源システム工学インターンシップ	3通		4				○	5	6		5		兼4	
		地球資源システム工学国際インターンシップ	3通		4				○	5	6		5		兼4	
		機械工学大意第二	3前①～②		2		○								兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		無機化学第三	3後③		2		○								兼1	
		金属材料大意	4前①～②		2		○								兼2	
		テクノロジー・マーケティング	3前②		2		○								兼1	
		小計（45科目）	－	43.5	34	0	－			5	6	0	5	0	兼24	
	卒業研究	地球資源システム工学卒業研究	4前②～後④	6				○		4	6				兼3	
		小計（1科目）	－	6	0	0	－			4	6	0	0	0	兼3	
		小計（54科目）	－	64.5	34	0	－			5	6	0	5	0	兼34	
合計（405科目）			－	98	425	0	－			5	6	0	5	0	兼374	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から49.5単位以上、専攻教育科目から85.5単位以上を修得し、135単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　49.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（24単位（選択必修科目4単位を含む）） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 力学基礎演習（1単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） なお、理系ディシプリン科目の選択科目のうち、電磁気学基礎演習、熱力学基礎演習、無機物質化学Ⅱ、基礎化学結合論Ⅰ、基礎化学結合論Ⅱ、生物学概論、地球科学、最先端地球科学から4単位を選択必修とする。 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　85.5単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（12単位修得） ＜必修科目＞常微分方程式とラプラス変換、複素関数論、地球環境総合工学、固体力学、フーリエ変換と偏微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（必修）（43.5単位修得） ＜必修科目＞電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、電子情報工学基礎Ⅰ、電子情報工学基礎Ⅱ、機械工学大意第一、情報処理概論、地球システム学概論、地球環境のイメージング、地球熱学、資源流体工学、岩盤工学、資源処理工学、エネルギー資源工学、資源環境科学、フィールド地球科学演習、物理探査学、地熱工学、地球工学実験第一、地球工学実験第二、石油工学、地下空洞設計法、水圏環境化学平衡論、工業爆薬学、資源システム工学実験第一、資源システム工学実験第二、地層内物質移動工学、地球資源システム工学実習 (d)学科・専攻科目（選択）（21単位以上修得） (e)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞地球資源システム工学卒業研究（6単位）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部土木工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー　＊	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目　＊	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②		1			○							兼3	
		ドイツ語ＩA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ＩB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ＩA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ＩB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ＩA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ＩB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ｉ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A ＊	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B ＊	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A ＊	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B ＊	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	6	107	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門 ＊	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ ＊	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ ＊	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ ＊	1前①～②	2			○								兼7

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	線形代数学Ⅱ	*	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ		1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ		1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ		2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学		2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論		1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習		1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論		1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習		1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論		1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習		1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	*	1前①～②	2			○				3				兼11
	力学基礎演習	*	1前①～②	1				○					3		兼10
	電磁気学基礎	*	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	*	2前①・②		0.5			○							兼2
	熱力学基礎		1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習		2前①・②		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ		2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ		2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎		2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学		2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	*	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	*	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ		1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ		1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ		2前①・②		1		○								兼4
	現代化学		2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ		2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ		2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学		2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ		1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ		1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	*	2前①～②		2		○								兼2
	細胞生物学	*	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学		1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学		2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学		2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学		1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	*	2前①		1		○								兼2
	最先端地球科学	*	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論		2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	デザイン思考		1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	図形科学Ⅰ		1前①・②・後③・④	1			○				2				兼6	
	図形科学Ⅱ		1前①・②・後③・④		1		○				2				兼6	
	空間表現実習Ⅰ	*	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5	
	空間表現実習Ⅱ		1後③～④・2前①～②		2			○							兼3	
	世界建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
	日本建築史概論		2前①・②		1		○								兼1	
	近・現代建築史		2後③・④		1		○								兼1	
	デザイン史		2後③・④		2		○								兼1	
	情報科学		1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2	
	プログラミング演習	*	1前②・後④・2前①・②	1				○					2		兼10	
	コンピュータープログラミング入門		2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験	*	1前①・後③	1					○						兼3	
	基礎科学実習	*	1前②・後④		1				○						兼3	
	小計（71科目）		－	20	70	0	－			0	5	0	5	0	兼154	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	*	1前①	1			○								兼5	
	小計（1科目）		－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	*	1前①～②	1				○							兼4	
	身体運動科学実習ⅠA		1後③		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅠB		1後④		0.5				○						兼3	
	身体運動科学実習ⅡA		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅡB		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢA		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅢB		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣA		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習ⅣB		2前①・②		0.5				○						兼2	
	身体運動科学実習Ⅴ		1後③～④		1				○						兼2	
	健康・スポーツ科学講義A		1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義B		1後④		1		○								兼1	
	小計（12科目）		－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ		1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ		1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ		1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ		1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ		1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ		1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ		1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ		1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	*	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	*	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A		1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B		1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門		1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究		1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門		1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門		1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎		1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法		1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門		1前①		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A ＊	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B ＊	1後④	1			○			1					兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼49	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
		音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○			1						
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
		自然災害と防災	2後③～④		2		○				1					
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			1	1	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	33.5	391	0	－			2	6	0	5	0	兼348	

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	*	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	*	1後③～④	2			○								兼１	
		小計（2科目）		－	3	0	0	－			1	0	0	0	0	兼１	
	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	*	2前①～②	2			○								兼1	
		複素関数論	*	2前①～②	2			○								兼1	
		地球環境総合工学		2前①～②	2			○				2				兼4	オムニバス・共同
		固体力学	*	2前①～②	2			○			1					兼2	
		フーリエ変換と偏微分方程式	*	2後③～④	2			○								兼1	
		工学概論		2前①～②	2			○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）		－	12	0	0	－			2	2	0	0	0	兼10	
	学科・専攻科目	構造力学Ⅰ	*	2後④	2			○			1						
		構造力学Ⅱ	*	3前①	2			○				1					
		地震工学	*	3後③		2		○			1	1					
		構造解析学	*	3後④		2		○				1					
		土木材料学	*	2後③	2			○			1						
		コンクリート構造工学Ⅰ	*	3後③		1		○				1					
		コンクリート構造工学Ⅱ	*	3後④		1		○				1					
		鋼構造工学	*	3後④		2		○				1					
		維持管理工学	*	4前①		2		○			1	1					
		地盤力学Ⅰ	*	2後④	2			○			1					兼1	
		地盤力学Ⅱ	*	3前①	2			○				1					
		応用地盤工学	*	3後③	2			○			1					兼1	
		社会基盤計画学Ⅰ		2後③	1			○			1						
		社会基盤計画学Ⅱ		2後④	1			○			1						
		まちづくり・地域づくり概論Ⅰ		2後③		1		○				2					
		まちづくり・地域づくり概論Ⅱ		2後④		1		○				2					
		計画数理	*	3前①	2			○				1					
		都市計画		3後④		2		○			1						
		交通計画学	*	4前①		2		○				1					
		交通施設工学		4前②		2		○				1					
		環境システム学	*	2後③	2			○			1	1					
		環境基礎学	*	3後③	2			○			1						
		環境保全と開発		4前①		2		○			1						
		流体力学基礎	*	2後③	2			○			1						
		水理学Ⅰ	*	2後④	2			○			1						
		水理学Ⅱ	*	3前①	2			○				1					
		水文学		3前①		2		○				3		1			
		河川工学	*	3後③		2		○				1					
		上下水道及び水資源工学	*	3後④		2		○				1					
		海岸水理学	*	3後④		2		○				1					
		沿岸域管理工学		4前①		2		○				2					
		土木と社会セミナーA		2後③	1			○				2					オムニバス・共同(一部)
		土木と社会セミナーB		2後④	1			○				2					オムニバス・共同(一部)

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		土木と社会セミナーC		3前①	1			○				2					オムニバス・共同(一部)
		土木地理学		2後③	2			○			2	1		1			
		土木エンジニア史		2後③	2			○				2					
		環境と防災A		2後④	1			○				2					オムニバス・共同(一部)
		環境と防災B		3前①	1			○				2					オムニバス・共同(一部)
		データサイエンス	＊	3前①	2			○				1					
		景観学	＊	2後④		2		○				2					
		生態工学	＊	3前①		2		○				1					
		合意形成論		3前①		2		○				3					
		土木実践教室A	＊	2後③～④	2					○		13		9		兼2	
		土木実践教室B	＊	3後③～④	2					○		13		9		兼2	
		測量学・実習	＊	2後④～3前①		3		○		※	1					兼1	※実験・実習
		基礎土木工学演習	＊	3前②	1				○		3	1					
		プロジェクト・ものづくり		3後③～④		2			○			6					共同
		プロジェクト・まちづくり		3後③～④		2			○			1		2			共同
		土木工学総合演習		3後③～④	2				○			13				兼1	
		電子情報工学基礎Ⅰ	＊	2後③		1		○								兼1	
		電子情報工学基礎Ⅱ	＊	2後④		1		○								兼1	
		機械工学大意第一		2後③～④		2		○								兼3	
		電気工学基礎Ⅰ	＊	2後③		1		○								兼1	
		電気工学基礎Ⅱ	＊	2後④		1		○								兼1	
		工業爆薬学		3前①～②		2		○								兼2	
		小計（55科目）		－	44	51	0	－			10	13	0	9	0	兼10	
	卒業研究	土木工学卒業研究	＊	4前②～④	6					○	7	12				兼2	
		小計（1科目）		－	6	0	0				7	12	0	0	0	兼2	
		小計（64科目）		－	65	51	0	－			10	13	0	9	0	兼21	
合計（415科目）				－	98.5	442	0	－			10	13	0	9	0	兼357	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から49.5単位以上、専攻教育科目から85単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　49.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（24単位（選択必修科目4単位を含む）） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 力学基礎演習（1単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） なお、理系ディシプリン科目の選択科目のうち、電磁気学基礎演習、熱力学基礎演習、無機物質化学Ⅱ、基礎化学結合論Ⅰ、基礎化学結合論Ⅱ、生物学概論、地球科学、最先端地球科学から4単位を選択必修とする。 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　85単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（12単位修得） ＜必修科目＞常微分方程式とラプラス変換、複素関数論、地球環境総合工学、固体力学、フーリエ変換と偏微分方程式、工学概論 (c)学科・専攻科目（必修）（44単位修得） ＜必修科目＞構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、土木材料学、地盤力学Ⅰ、地盤力学Ⅱ、応用地盤工学、社会基盤計画学Ⅰ、社会基盤計画学Ⅱ、計画数理、環境システム学、環境基礎学、流体力学基礎、水理学Ⅰ、水理学Ⅱ、土木と社会セミナーA、土木と社会セミナーB、土木と社会セミナーC、土木地理学、土木エンジニア史、環境と防災A、環境と防災B、データサイエンス、土木実践教室A、土木実践教室B、基礎土木工学演習、土木工学総合演習 (d)学科・専攻科目（選択）（20単位以上修得） なお、プロジェクト・ものづくり、プロジェクト・まちづくりから2単位を選択必修とする。 (e)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞土木工学卒業研究（6単位）		
3.備考 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部建築学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	言語文化科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○								兼8	
		学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○								兼1	
		学術英語・プロダクション１	1後③	1			○								兼17	
		学術英語・プロダクション２	1後④	1			○								兼17	
		学術英語・CALL ２	1後③～④	1			○								兼1	
		学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○							兼8	
		学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○							兼7	
		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○							兼1	
		専門英語	2前①～②		1			○							兼3	
		ドイツ語ⅠA	1前①		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅠB	1前②		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡA	1後③		1		○								兼5	
		ドイツ語ⅡB	1後④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		フランス語ⅠA	1前①		1		○								兼2	
		フランス語ⅠB	1前②		1		○								兼2	
		フランス語ⅡA	1後③		1		○								兼2	
		フランス語ⅡB	1後④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○							兼1	
		中国語ⅠA	1前①		1		○								兼4	
		中国語ⅠB	1前②		1		○								兼4	
		中国語ⅡA	1後③		1		○								兼4	
		中国語ⅡB	1後④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	6	107	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
目	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							兼3
	数理統計学	2前①～②		2		○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○							兼1
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○								兼2
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○				1				兼7
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④	1			○				1				兼7
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	2				○			1				兼4
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○					1		兼2
	世界建築史概論	2前①・②	1			○			1					兼1
	日本建築史概論	2前①・②	1			○						1		兼1
	近・現代建築史	2後③・④	1			○			1					兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④ ・2前①～②		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	23	67	0	－			1	1	0	1	0	兼156
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ａ	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶＡ	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	先端技術入門A	1後③	1			○								兼6	
	先端技術入門B	1後④	1			○			1					兼7	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼51	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
	社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
	社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
	教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
	小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
	小計（351科目）	－	36.5	388	0	－			1	1	0	1	0	兼358	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	工学部共通科目		工学倫理	1前①	1			○			1						
			データサイエンス序論	1後③～④	2			○			1						
			小計（2科目）	－	3	0	0	－			2	0	0	0	0		
	学科・専攻科目	総合科目	建築概論	1後③～④	2			○			6	10					オムニバス
			特別プログラム	3前②		2		※	※	○	6	9		5			※講義・演習
			情報処理概論	3後③	2			○	※							兼1	※演習
			建築学研究序説	3後④	2			○			6	9		5			オムニバス・共同(一部)
			小計（4科目）	－	6	2	0	－			6	10	0	5	0	兼1	
		法規科目	建築法規	4前①	2			○								兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ａ	2前①	3				○		1	1		1		兼1	共同
			建築設計基礎演習Ｂ	2前②	3				○			2		1		兼1	共同
			建築設計基礎演習Ｃ	2後③	3				○		1			1		兼2	共同
			建築設計基礎演習Ｄ	2後④	3				○		1	1		1		兼1	共同
			建築設計基礎演習Ｅ	3前①	3				○		1	4		1		兼1	共同
			都市・建築設計演習Ａ	3前②		3			○		1	1		1		兼1	共同
			都市・建築設計演習Ｂ	3後③		3			○			2		1		兼1	共同
			都市・建築設計演習Ｃ	3後④		3			○		1	1		1		兼1	共同
			都市・建築設計演習Ｄ	4前②		3			○					2			共同
			建築環境設備実験演習	3後③		3		※	※	○		2					オムニバス ※講義・演習
			建築環境設備設計演習	3後④		3			○		1	2				兼2	オムニバス・共同(一部)
			建築構造材料実験演習	3前②		3				○	1	2		2			オムニバス 共同(一部)
			建築構造設計演習Ａ	3後③		1.5			○		1	1					オムニバス 共同(一部)
			建築構造設計演習Ｂ	3後④		1.5			○		1	1		1			オムニバス 共同(一部)
			小計（14科目）	－	15	24	0	－			5	9	0	5	0	兼11	
		建築計画科目	建築設計計画Ａ	2前①	1			○				1					
			建築設計計画Ｂ	2前②	1			○				1					
			建築設計計画Ｃ	2後③	1			○						1			
			建築設計計画Ｄ	2後④	1			○						1			
			建築設計計画Ｅ	3前①	1			○				1					
			住環境計画論	3後③		1		○				1					
			居住文化論	3後④		1		○								兼1	
			小計（7科目）	－	5	2	0	－			0	3	0	1	0	兼1	
		都市計画科目	都市計画概論	2前①	1			○			1						
			都市設計概論	2後③	1			○				1					
			ハウジング論	2後④	1			○				1					
			まちづくり概論	3前①	1			○			1	3		1			オムニバス
			景観設計	3前②		1		○								兼1	
			都市再生	3後③		1		○				2					オムニバス
			都市解析	3後④		1		○			1						
			空間メディア	4前①		1		○								兼1	
			小計（8科目）	－	4	4	0	－			2	3	0	1	0	兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	歴史・意匠科目	世界建築史詳論	3前②		1		○			1			1			オムニバス
		日本建築史詳論	3前②		1		○						1			
		現代建築デザイン	4前②		1		○				1					
		都市史	4前①		1		○			1			1			オムニバス
		小計（4科目）	－	0	4	0	－			1	1	0	2	0		
	環境科目	建築環境設備基礎A	2前①	1			○			1	1					オムニバス
		建築環境設備基礎B	2前②	1			○			1	1					オムニバス
		建築環境設備応用A	2後③	1			○			1	1					オムニバス
		建築環境設備応用B	2後④	1			○				2					オムニバス
		建築環境デザイン	3前①	2			○			1	2					オムニバス
		小計（5科目）	－	6	0	0	－			1	2	0	0	0		
	構造科目	建築構造力学基礎	2前①	2			○			1						
		静定建築構造力学	2前②	2			○				1					
		建築材料	2前②	2			○				1					
		建築構法	2後③	2			○			3	2					オムニバス
		木質構造	2後④	1			○				1					
		鉄骨構造	3前①	1			○				1					
		鉄筋コンクリート構造	3前①	1			○				1				兼1	オムニバス
		建築施工	3後③	2			○			1						
		不静定建築構造力学	2後③		2		○				1					
		建築振動学	2後④		2		○	※		1			1			共同・※演習
		建築構造設計技法A	2後③		1		○	※			1		1			共同・※演習
		建築構造設計技法B	2後④		1		○	※			1		1			共同・※演習
		建築荷重論	3前①		2		○			1	1		1			オムニバス
		建築防災	3前②		2		○			2	1		1			オムニバス・共同(一部)
		合成構造	3後③		1		○			1						
		建築土質力学	3後③		1		○			1						
		空間構造計画	3後④		2		○			2	2				兼2	オムニバス
		基礎構造	3後④		1		○								兼1	
		建築応用力学	4前①		2		○				2					オムニバス
		建築耐震設計	4前②		2		○			1	2					オムニバス
		小計（20科目）	－	13	19	0	－			3	4	0	1	0	兼4	
	工学一般科目	測量学・実習	3前①～②		3		○								兼1	
		テクノロジー・マーケティング	3前②		2		○								兼1	
		数理解析概論	3前①～②		2		○								兼1	
		複素関数論	3後③～④		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	9	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		小計（67科目）	－	51	64	0	－			6	10	0	5	0	兼22	
	卒業研究	建築学卒業研究	4通	6					○	6	9		5			
		小計（1科目）		6	0	0	－			6	9	0	5	0		
		小計（70科目）	－	60	64	0	－			6	10	0	5	0	兼22	
合計（421科目）			－	96.5	452	0	－			6	10	0	5	0	兼372	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から82単位以上を修得し、130.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅰ（1単位） 図形科学Ⅱ（1単位） 空間表現実習Ⅰ（2単位） 世界建築史概論（1単位） 日本建築史概論（1単位） 近・現代建築史（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位以上修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　82単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科・専攻科目（必修）（49単位修得） ＜必修科目＞建築概論、情報処理概論、建築学研究序説、建築法規、建築設計基礎演習A、建築設計基礎演習B、建築設計基礎演習C、建築設計基礎演習D、建築設計基礎演習E、建築設計計画A、建築設計計画B、建築設計計画C、建築設計計画D、建築設計計画E、都市計画概論、都市設計概論、ハウジング論、まちづくり概論、建築環境設備基礎A、建築環境設備基礎B、建築環境設備応用A、建築環境設備応用B、建設環境デザイン、建築構造力学基礎、静定建築構造力学、建築材料、建築構法、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、建築施工 (c)学科・専攻科目（選択）（24単位以上修得） (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞建築学卒業研究（6単位）		

別記様式第２号（その２の１）

伊都キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部融合基礎工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼31
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼11
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11
	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1前①～②	1			○							兼8
			学術英語・グローバルイシューズ	1前①～②	1			○							兼8
			学術英語・CALL 1	1前①～②	1			○							兼1
			学術英語・プロダクション１	1後③	1			○							兼17
			学術英語・プロダクション２	1後④	1			○							兼17
			学術英語・CALL 2	1後③～④	1			○							兼1
			学術英語・テーマベース	2前①・②		1			○						兼8
			学術英語・スキルベース	2前①・②		1			○						兼7
			学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通		2			○						兼1
			専門英語	2前①～②	2				○						兼3
			ドイツ語ＩA	1前①		1		○							兼5
			ドイツ語ＩB	1前②		1		○							兼5
			ドイツ語ⅡA	1後③		1		○							兼5
			ドイツ語ⅡB	1後④		1		○							兼5
			ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			ドイツ語Ⅳ	2後③～④		1		○							兼1
			ドイツ語プラクティクムＩ	1後③～④		1			○						兼2
			ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○						兼1
			ドイツ語プラクティクムⅢ	2後③～④		1			○						兼1
			フランス語ＩA	1前①		1		○							兼2
			フランス語ＩB	1前②		1		○							兼2
			フランス語ⅡA	1後③		1		○							兼2
			フランス語ⅡB	1後④		1		○							兼2
			フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			フランス語Ⅳ	2後③～④		1		○							兼1
			フランス語プラティクＩ	1後③～④		1			○						兼1
			フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○						兼1
			フランス語プラティクⅢ	2後③～④		1			○						兼1
			中国語ＩA	1前①		1		○							兼4
			中国語ＩB	1前②		1		○							兼4
			中国語ⅡA	1後③		1		○							兼4
			中国語ⅡB	1後④		1		○							兼4
			中国語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2
	中国語実践Ⅲ	2後③～④		1			○							兼2
	中国語集中演習	1後③～④		2			○							兼2
	ロシア語ⅠA	1前①		1		○								兼1
	ロシア語ⅠB	1前②		1		○								兼1
	ロシア語ⅡA	1後③		1		○								兼1
	ロシア語ⅡB	1後④		1		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語Ⅳ	2後③～④		1			○							兼1
	韓国語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	韓国語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	韓国語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	韓国語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	韓国語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	韓国語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	スペイン語ⅠA	1前①		1		○								兼2
	スペイン語ⅠB	1前②		1		○								兼2
	スペイン語ⅡA	1後③		1		○								兼2
	スペイン語ⅡB	1後④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅳ	2後③～④		1		○								兼2
	スペイン語表現演習Ⅰ	2前①～②		1			○							兼2
	スペイン語表現演習Ⅱ	2後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	Integrated Courses：Beginners A	1前①・後③		1		○								兼2
	Integrated Courses：Beginners B	1前②・後④		1		○								兼2
	Integrated Courses：Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses：Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Integrated Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Integrated Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Integrated Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Kanji Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Elementary 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 1B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Intermediate 2B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Speaking Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Pre-Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced A	1前①・後③		1		○								兼1
	Writing Courses : Advanced B	1前②・後④		1		○								兼1
	小計（111科目）	－	8	106	0	－			0	0	0	0	0	兼51
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（15科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼45
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	入門微分積分Ⅰ	1後③		1		○								兼4
	入門微分積分Ⅱ	1後④		1		○								兼4
	微分積分学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼3
	微分積分学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼3
	入門線形代数Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	入門線形代数Ⅱ	1前②		1		○								兼2
	線形代数学Ⅰ	1前①～②	2			○								兼7
	線形代数学Ⅱ	1後③～④	2			○								兼7
	数学演習ＡⅠ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＡⅡ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ｂ	2前①～②		1			○							
	数理統計学	2前①～②	2			○								兼2
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	力学概論	1前①～②		2		○								兼3
	力学概論演習	1前①～②		1			○							兼2
	電磁気学概論	1後③		1		○								兼1
	電磁気学概論演習	1後③		0.5			○		1					
	熱力学概論	1後④		1		○								兼2
	熱力学概論演習	1後④		0.5			○							兼1
	力学基礎	1前①～②	2			○								兼14
	力学基礎演習	1前①～②		1			○							兼13
	電磁気学基礎	1前①・②	1			○								兼7
	電磁気学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	熱力学基礎	1後③・④	1			○								兼3
	熱力学基礎演習	1後③・④		0.5			○							兼2
	物理学の進展Ａ	2前①		1		○								兼1
	物理学の進展Ｂ	2前②		1		○								兼1
	現代物理学基礎	2前①～②		2		○				1				兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	無機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼6
	無機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼6
	有機物質化学Ⅰ	1前①・後③	1			○								兼2
	有機物質化学Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼2
	基礎化学結合論Ⅰ	1前①・後③		1		○								兼4
	基礎化学結合論Ⅱ	1前②・後④		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅰ	1後③・2前①・②		1		○								兼4
	基礎化学熱力学Ⅱ	1後④・2前①・②		1		○								兼4
	現代化学	2前①		2		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生物有機化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	基礎生化学Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1
	機器分析学	2後③・④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	生物学概論	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2		○								兼3
	集団生物学	1後③～④・2前①～②		2		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		2		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		2		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		2		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学Ⅰ	1前①・②・後③・④	1			○								兼8
	図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④		1		○								兼8
	空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②		2			○							兼5
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	日本建築史概論	2前①・②		1		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		1		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2
	プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1				○							兼12
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験	1前①・後③	1					○						兼3
	基礎科学実習	1前②・後④		1				○						兼3
	小計（71科目）	－	19	71	0	－			1	1	0	0	0	兼157
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼5
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼4
	身体運動科学実習ⅠA	1後③		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅠB	1後④		0.5				○						兼3
	身体運動科学実習ⅡA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅡB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅢB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣA	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習ⅣB	2前①・②		0.5				○						兼2
	身体運動科学実習Ⅴ	1後③～④		1				○						兼2
	健康・スポーツ科学講義A	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義B	1後④		1		○								兼1
	小計（12科目）	－	1	7	0	－			0	0	0	0	0	兼4
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
		セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
		分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
		「留学」考	1後③～④		1		○								兼1	集中
		Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
		アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
		アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
		先端技術入門A	1後③	1			○			1					兼5	
		先端技術入門B	1後④	1			○								兼8	
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（69科目）	－	2	74	0	－			1	0	0	0	0	兼50	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
		音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
		自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
		東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○								兼1	
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学A	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学B	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠA	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠB	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡA	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（70科目）	－	0	105	0	－			0	0	0	0	0	兼60	
		小計（351科目）	－	34.5	391	0	－			2	1	0	0	0	兼358	
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1前①	1			○			1						
		データサイエンス序論	1後③～④	2			○				1					
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			1	1	0	0	0		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	学科群共通科目	無機化学第一	2前①～②		2		○								兼1
		有機化学第一	2前①～②		2		○								兼3
		金属材料大意	2前①～②		2		○								兼2
		物理化学第一	2前①～②		2		○			1					
		量子力学第一	2前①～②		2		○			1					
		機械工学大意第一	2前①～②		2		○								兼3
		電気工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1
		電気工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1
		電子情報工学基礎Ⅰ	2前①		1		○								兼1
		電子情報工学基礎Ⅱ	2前②		1		○								兼1
		安全学	2前①～②		2		○								兼1
		テクノロジー・マーケティング	2前①～②		2		○								兼1
		工学概論	2前①～②	2			○			1	1				兼7 オムニバス
		ベクトル解析と微分方程式	2前①～②		2		○								兼1
		工業力学	2前①		2		○								兼1
		材料力学Ⅰ	2前①		1		○								兼1
		材料力学Ⅱ	2前②		2		○			1					
		熱力学Ⅰ	2前①		2		○			1					
		流れ学Ⅰ	2前②		2		○			1					
		現代物理学入門	2前①～②		2		○								兼1
		原子力工学概論	2前①～②		2		○								兼3 オムニバス
		応用量子物理学入門	2前①～②		2		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		小計（22科目）	－	2	37	0	－			5	1	0	0	0	兼32
	学科・専攻科目 学科共通科目	複素関数論	2後③～④		2		○								兼1
		常微分方程式とラプラス変換	2後③～④		2		○								兼1
		融合基礎情報学Ⅰ	2後③～④		2		○				1		1		共同
		融合基礎工学展望	2後③～④		2		○			2					兼1 オムニバス
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	1	0	1	0	兼3
	物質材料コース科目	材料力学入門	2後③		1		○								兼1
		物理化学第二	2後③～④		2		○								兼1
		分析化学第一	2後③～④		2		○								兼1
		無機化学第二	2後③～④		2		○								兼2
		弾性・塑性変形工学	2後④		1		○								兼1
		小計（5科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼6
	機械電気コース科目	力学	2後③		1		○			1					
		流体力学Ⅰ	2後③～④		2		○			1					
		熱エネルギー変換基礎	2後③～④		2		○			1					
		振動力学	2後③～④		2		○			1					
		統計力学	2後③～④		2		○			1					
		電磁気学Ⅰ	2後③～④		2		○								兼1
		電気回路Ⅰ	2後③～④		2		○								兼1
		小計（7科目）	－	0	13	0	－			4	0	0	0	0	兼2
		小計（16科目）	－	0	29	0	－			5	1	0	1	0	兼10
		小計（40科目）	－	5	66	0	－			8	3	0	1	0	兼41
合計（391科目）			－	39.5	456	0	－			8	4	0	1	0	兼376

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 物質材料コース 基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、 134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上（全コース共通） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） 2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位以上修得） ＜必修科目＞無機化学第一、有機化学第一、金属材料大意、 物理化学第一、量子力学第一、機械工学大意第一、 電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（59単位以上修得） ①学科共通科目（16単位以上） ＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、 融合基礎情報学Ⅱ、融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、 融合工学概論Ⅰ、グローバル科目Ⅰ（論文）、 グローバル科目Ⅱ（討論） なお、学科共通科目のうち、常微分方程式とラプラス変換、 化学反応論Ⅰ、化学反応論Ⅱから2単位を選択必修とする。 ②物質材料コース科目（23単位以上） ＜必修科目＞材料力学入門、物理化学第二、分析化学第一、 無機化学第二、弾性・塑性変形工学、固体物理Ⅰ、結晶学基礎、 分光学基礎、機器分析学、固体物理Ⅱ、物質材料科学実験Ⅰ、 物質材料科学実験Ⅱ、物質材料科学実験Ⅲ、物質材料科学実験Ⅳ その他、学科共通科目と物質材料コース科目の選択科目から、 20単位以上修得する。 (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞卒業研究（6単位）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

(2) 機械電気コース
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上
(a)基幹教育セミナー（1単位修得）
＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位）
(b)課題協学科目（2.5単位修得）
＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位）
(c)言語文化科目(12単位修得)
＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位）
学術英語・グローバルイシューズ（1単位）
学術英語・CALL1（1単位）
学術英語・プロダクション1（1単位）
学術英語・プロダクション2（1単位）
学術英語・CALL2（1単位）
専門英語（1単位）
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得）
(e)理系ディシプリン科目（20単位）
＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位）
微分積分学Ⅱ（2単位）
線形代数学Ⅰ（2単位）
線形代数学Ⅱ（2単位）
数理統計学（2単位）
力学基礎（2単位）
電磁気学基礎（1単位）
熱力学基礎（1単位）
無機物質化学Ⅰ（1単位）
無機物質化学Ⅱ（1単位）
有機物質化学Ⅰ（1単位）
図形科学Ⅰ（1単位）
プログラミング演習（1単位）
自然科学総合実験（1単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得）
＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位）
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得）
＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位）
(h)総合科目（2単位修得）
＜必修科目＞先端技術入門A（1単位）
先端技術入門B（1単位）
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（15単位以上修得）
＜必修科目＞工学概論、ベクトル解析と微分方程式、工業力学、
材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、現代物理学入門
(c)学科・専攻科目（65単位以上修得）
①学科共通科目（16単位以上）
＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、融合基礎情報学Ⅱ、
融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、融合工学概論Ⅰ、
グローバル科目Ⅰ（論文）、グローバル科目Ⅱ（討論）
なお、学科共通科目のうち、フーリエ解析と偏微分方程式、
エネルギー変換工学から2単位を選択必修とする。

②機械電気コース専門科目（18単位以上）
＜必修科目＞力学、流体力学Ⅰ、熱エネルギー変換基礎、電磁気学Ⅰ、
電気回路Ⅰ、流体力学Ⅱ、伝熱学、機械電気科学実験Ⅰ、
機械電気科学実験Ⅱ、機械電気科学実験Ⅲ、機械電気科学実験Ⅳ、
機械電気科学設計演習

その他、学科共通科目と機械電気コース科目の選択科目から、
31単位以上修得する。

(d)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

(3) 高専連携教育プログラム
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上（編入時に単位認定）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)編入時の単位認定（32単位修得）
(b)学科共通科目（必修）（13単位修得）
＜必修科目＞インターンシップⅠ（長期）、融合工学概論Ⅰ、
融合工学概論Ⅱ、研究プロジェクト、グローバル科目Ⅰ（論文）、
グローバル科目Ⅱ（討論）
(c)学科共通科目（選択）（11単位以上修得）
(d)高専専攻科１年次修得単位（27単位修得）
※読替等で単位認定
(e)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

別記様式第２号（その２の１）

筑紫キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部融合基礎工学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	フーリエ解析と偏微分方程式	3前①～②		2		○				1					
			データ解析の数学	3後③～④		2		○			1						
			エネルギー変換工学	3前①～②		2		○			1						
			光・量子物理計測	3前①～②		2		○				1					
			材料強度学	3前①～②		2		○			1						
			化学反応論Ⅰ	3前①		1		○				1					
			化学反応論Ⅱ	3前②		1		○				1					
			プロセス化学工学	3後③～④		2		○				1					
			光エレクトロニクス	3後③～④		2		○								兼1	
			構造材料学	3後③		1		○				1					
			材料加工学	3後④		1		○				1					
			先端計測科学	4前①		1		○			2	1				兼1	オムニバス
			エネルギー・環境学A	4前①		1		○			2	2				兼1	オムニバス
			エネルギー・環境学B	4前①		1		○			2					兼3	オムニバス
			半導体・デバイス工学A	4前①		1		○								兼4	オムニバス
			半導体・デバイス工学B	4前①		1		○								兼4	オムニバス
			プラズマ応用工学	4前①		1		○								兼1	
			融合基礎情報学Ⅱ	3前①～②		2		○			1						
			融合基礎情報学Ⅲ	3後③～④		2		○								兼1	
			融合応用情報学A	4前①		1		○								兼1	
			融合応用情報学B	4前①		1		○				1					
			融合応用情報学C	4前①		1		○			1						
			融合応用情報学D	4前①		1		○				1					
			知的財産論	4前②		1		○			1						
			マネージメント論	4後④		1		○			1						
			マーケティング論	4後④		1		○			1						
			インターンシップⅠ（長期）	4通		3				○	1						
			インターンシップⅡ（短期）	4通		1				○	1						
			融合工学概論Ⅰ	3前①～②	2			○			4	1				兼8	オムニバス
			融合工学概論Ⅱ	3後③～④		2		○			3	1				兼11	オムニバス
			研究プロジェクト	4前①		4				○	1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		グローバル科目Ⅰ（論文）	4前②	1				○		1						集中
		グローバル科目Ⅱ（討論）	4後③	1				○		1						集中
		融合基礎工学特別講義A	3後③		1		○			1						集中
		融合基礎工学特別講義B	3後③		1		○			1						集中
		小計（35科目）	ー	4	47	0	ー			8	7	0	1	0	兼20	
	物質材料コース科目	相平衡論	3前①～②		2		○				1					
		固体物理Ⅰ	3前①		2		○								兼1	
		結晶学基礎	3前①		1		○				1					
		分光学基礎	3前①		1		○				1					
		機器分析学	3前②		2		○								兼1	
		材料速度論	3前②		1		○				1					
		無機化学第三	3前①～②		2		○			1						
		固体物理Ⅱ	3後③		1		○				1					
		電気化学Ⅰ	3後③		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	3後④		1		○				1					
		触媒化学Ⅰ	3後③		1		○			1						
		触媒化学Ⅱ	3後④		1		○			1						
		材料組織制御学	3後③		1		○				1					
		相転移論	3後④		1		○								兼1	
		材料表面工学	3後④		1		○								兼1	
		磁性材料学	3後④		1		○								兼1	
		構造解析学	3後③		1		○								兼1	
		セラミックス材料学Ⅰ	3後③		1		○				1					
		セラミックス材料学Ⅱ	3後④		1		○				1					
		物質材料科学実験Ⅰ	3前①		2				○		6		4		兼5	オムニバス・共同（一部）
		物質材料科学実験Ⅱ	3前②		2				○		6		4		兼5	オムニバス・共同（一部）
		物質材料科学実験Ⅲ	3後③		2				○		1					
		物質材料科学実験Ⅳ	3後④		2				○		1					
		小計（23科目）	ー	0	31	0	ー			2	6	0	4	0	兼7	
	機械電気コース科目	熱・流体計測学	3前①		1		○			1						
		自動制御	3前①～②		2		○			1						
		量子力学	3前①		2		○			1						
		電磁気学Ⅱ	3前①～②		2		○			1						
		電気回路Ⅱ	3前①～②		2		○								兼1	
		流体力学Ⅱ	3前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	伝熱学	3前①～②		2		○			1						
	航空力学	3後③		1		○				1					
	流体機械	3後③		1		○				1					
	熱機関工学	3後④		1		○			1						
	流体力学演習	3前①～②		1			○							兼1	
	熱工学演習	3前①～②		1			○			1					
	電気エネルギー工学	3前②		1		○								兼1	
	高電圧・パルスパワー工学	3後③～④		2		○								兼1	
	プラズマ理工学Ⅰ	3後③		1		○				1					
	プラズマ理工学Ⅱ	3後④		1		○								兼1	
	機械電気科学実験Ⅰ	3前①		1				○		2		5		兼5	共同
	機械電気科学実験Ⅱ	3前②		1				○		2		5		兼5	共同
	機械電気科学実験Ⅲ	3後③		1				○		2				兼1	共同
	機械電気科学実験Ⅳ	3後④		1				○		2				兼1	共同
	機械電気科学設計演習	3後③		1			○			1		1			共同
	小計（21科目）	－	0	28	0	－			4	4	0	5	0	兼10	
	小計（79科目）	－	4	106	0	－			9	12	0	9	0	兼32	
卒業研究	卒業研究	4通	6				○		9	12				兼31	
	小計（1科目）	－	6	0	0	－			9	12	0	0	0	兼31	
	小計（80科目）	－	10	106	0	－			9	12	0	9	0	兼38	
合計（80科目）		－	10	106	0	－			9	12	0	9	0	兼38	

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 物質材料コース 基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、 134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上（全コース共通） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位修得) ＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位） 学術英語・グローバルイシューズ（1単位） 学術英語・CALL1（1単位） 学術英語・プロダクション1（1単位） 学術英語・プロダクション2（1単位） 学術英語・CALL2（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位） ＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位） 微分積分学Ⅱ（2単位） 線形代数学Ⅰ（2単位） 線形代数学Ⅱ（2単位） 数理統計学（2単位） 力学基礎（2単位） 電磁気学基礎（1単位） 熱力学基礎（1単位） 無機物質化学Ⅰ（1単位） 有機物質化学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅰ（1単位） 基礎化学熱力学Ⅱ（1単位） 細胞生物学（2単位） 図形科学Ⅰ（1単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（1単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（2単位修得） ＜必修科目＞先端技術入門A（1単位） 先端技術入門B（1単位） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） 2.専攻教育科目　86単位以上 (a)工学部共通科目（3単位修得） ＜必修科目＞工学倫理（1単位） データサイエンス序論（2単位） (b)学科群共通科目（18単位以上修得） ＜必修科目＞無機化学第一、有機化学第一、金属材料大意、 物理化学第一、量子力学第一、機械工学大意第一、 電気工学基礎Ⅰ、電気工学基礎Ⅱ、安全学、工学概論 (c)学科・専攻科目（59単位以上修得） ①学科共通科目（16単位以上） ＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、 融合基礎情報学Ⅱ、融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、 融合工学概論Ⅰ、グローバル科目Ⅰ（論文）、 グローバル科目Ⅱ（討論） なお、学科共通科目のうち、常微分方程式とラプラス変換、 化学反応論Ⅰ、化学反応論Ⅱから2単位を選択必修とする。 ②物質材料コース科目（23単位以上） ＜必修科目＞材料力学入門、物理化学第二、分析化学第一、 無機化学第二、弾性・塑性変形工学、固体物理Ⅰ、結晶学基礎、 分光学基礎、機器分析学、固体物理Ⅱ、物質材料科学実験Ⅰ、 物質材料科学実験Ⅱ、物質材料科学実験Ⅲ、物質材料科学実験Ⅳ その他、学科共通科目と物質材料コース科目の選択科目から、 20単位以上修得する。 (d)卒業研究（6単位修得） ＜必修科目＞卒業研究（6単位）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

(2) 機械電気コース
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上
(a)基幹教育セミナー（1単位修得）
＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位）
(b)課題協学科目（2.5単位修得）
＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位）
(c)言語文化科目(12単位修得)
＜必修科目＞学術英語・アカデミックイシューズ（1単位）
学術英語・グローバルイシューズ（1単位）
学術英語・CALL1（1単位）
学術英語・プロダクション1（1単位）
学術英語・プロダクション2（1単位）
学術英語・CALL2（1単位）
専門英語（1単位）
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得）
(e)理系ディシプリン科目（20単位）
＜必修科目＞微分積分学Ⅰ（2単位）
微分積分学Ⅱ（2単位）
線形代数学Ⅰ（2単位）
線形代数学Ⅱ（2単位）
数理統計学（2単位）
力学基礎（2単位）
電磁気学基礎（1単位）
熱力学基礎（1単位）
無機物質化学Ⅰ（1単位）
無機物質化学Ⅱ（1単位）
有機物質化学Ⅰ（1単位）
図形科学Ⅰ（1単位）
プログラミング演習（1単位）
自然科学総合実験（1単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得）
＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位）
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得）
＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位）
(h)総合科目（2単位修得）
＜必修科目＞先端技術入門A（1単位）
先端技術入門B（1単位）
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)工学部共通科目（3単位修得）
＜必修科目＞工学倫理（1単位）
データサイエンス序論（2単位）
(b)学科群共通科目（15単位以上修得）
＜必修科目＞工学概論、ベクトル解析と微分方程式、工業力学、
材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、流れ学Ⅰ、現代物理学入門
(c)学科・専攻科目（65単位以上修得）
①学科共通科目（16単位以上）
＜必修科目＞複素関数論、融合基礎情報学Ⅰ、融合基礎情報学Ⅱ、
融合基礎情報学Ⅲ、融合基礎工学展望、融合工学概論Ⅰ、
グローバル科目Ⅰ（論文）、グローバル科目Ⅱ（討論）
なお、学科共通科目のうち、フーリエ解析と偏微分方程式、
エネルギー変換工学から2単位を選択必修とする。

②機械電気コース専門科目（18単位以上）
＜必修科目＞力学、流体力学Ⅰ、熱エネルギー変換基礎、電磁気学Ⅰ、
電気回路Ⅰ、流体力学Ⅱ、伝熱学、機械電気科学実験Ⅰ、
機械電気科学実験Ⅱ、機械電気科学実験Ⅲ、機械電気科学実験Ⅳ、
機械電気科学設計演習

その他、学科共通科目と機械電気コース科目の選択科目から、
31単位以上修得する。

(d)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

(3) 高専連携教育プログラム
基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、
134.5単位以上修得すること。

1.基幹教育科目　45.5単位以上（編入時に単位認定）

2.専攻教育科目　89単位以上
(a)編入時の単位認定（32単位修得）
(b)学科共通科目（必修）（13単位修得）
＜必修科目＞インターンシップⅠ（長期）、融合工学概論Ⅰ、
融合工学概論Ⅱ、研究プロジェクト、グローバル科目Ⅰ（論文）、
グローバル科目Ⅱ（討論）
(c)学科共通科目（選択）（11単位以上修得）
(d)高専専攻科１年次修得単位（27単位修得）
※読替等で単位認定
(e)卒業研究（6単位修得）
＜必修科目＞卒業研究（6単位）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部建築学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼35
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼35
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12
	言語文化科目 言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○								兼10
		学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○								兼10
		学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○								兼1
		学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○								兼18
		学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○								兼1
		学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○								兼1
		学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼9
		学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼8
		学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○							兼9
		専門英語	2後③～④		1			○							兼3
		ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
		フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		中国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼4
		中国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼4
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2
		ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1
		ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○							兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	小計（44科目）	－	6	40	0	－								兼50
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47
理系ディシプリン	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3
	微分積分学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目	微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②		1.5			○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3
	線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7
	線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7
	数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ⅱ	2前①～②		1			○							兼4
	数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4
	物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2
	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○							兼2
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②	1				○							兼19
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④		1.5		○								兼27
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④		1			○							兼19
	力学演習	1後③～④		1			○							兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②		1.5		○								兼4
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	無機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	有機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼5
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○								兼8
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼10

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学	1前①・②	1.5			○				1				兼10
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④	2				○			1				兼6
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②	2				○					1		兼2
	世界建築史	2前①・②	2			○			1					
	日本建築史	2前①・②	2			○						1		
	近・現代建築史	2後③・④	2			○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼11
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1				○							兼26
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○						兼26
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○						兼26
	小計（63科目）	－	23	65	0	－			1	1	0	2	0	兼243
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼13
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本事情	1前①		2		○								兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史Ｂ	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○							兼1	集中
	バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※							兼1	※演習
		技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
		医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		薬害	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		リスクマネジメント	2後③～④		2		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学A	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学B	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠA	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅠB	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡA	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（81科目）	－	0	120	0	－			0	0	0	0	0	兼59	
		小計（286科目）	－	34.5	342	0	－			1	1	0	2	0	兼463	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	建築概論	1前①～②・後③～④	4			○			6	10					オムニバス
		建築環境設備基礎A	2前①	1			○			1	1					オムニバス
		建築構造力学基礎	2前①	2			○			1						
		建築設計基礎演習A	2前①	3				○		1	1		1		兼1	共同
		建築計画A	2前①	1			○				1					
		建築環境設備基礎B	2前②	1			○			1	1					オムニバス
		建築材料	2前②	2			○				1					
		建築設計基礎演習B	2前②	3				○			2		1		兼1	共同
		建築計画B	2前②	1			○				1					
		静定建築構造力学	2前②	2			○				1					
		建築構法	2後③	2			○			3	2					オムニバス
		建築設計基礎演習C	2後③	3				○		1			1		兼2	共同
		建築計画C	2後③	1			○						1			
		居住論	2後③	2			○								兼1	
		建築環境設備応用A	2後③	1			○			1	1					オムニバス
		建築設計基礎演習D	2後④	3				○		1	1		1		兼1	共同
		情報処理概論	2後④	2			○	※							兼1	※演習
		建築計画D	2後④	1			○						1			
		都市計画	2後④	2			○			1						
		建築環境設備応用B	2後④	1			○				2					オムニバス
		木質構造	2後④	1			○				1					
		建築設計基礎演習E	3前①	3				○		1	4		1		兼1	共同
		建築計画E	3前①	1			○				1					
		建築環境デザイン	3前①	2			○			1	2					オムニバス
		鉄骨構造	3前①	1			○				1					
		鉄筋コンクリート構造	3前①	1			○				1				兼1	オムニバス
		建築法規	3後③	2			○								兼1	
		建築施工	3後③	2			○			1						
		建築学研究序説	3後④	2			○			6	9		5			オムニバス・共同(一部)
		建築の職能と倫理	4前②	2			○			1						
		建築学研究	4前①～②・後③～④	6					○	6	9		5			
		小計（31科目）	－	61	0	0	－			6	10	0	5	0	兼10	
	選択科目	測量学・実習	2前①～②		3		○								兼1	
		都市設計	2前①		2		○								兼1	
		不静定建築構造力学	2後③		2		○				1					
		建築構造設計技法Ⅰ	2後③		1		○	※			1		1			共同・※演習
		建築振動学	2後④		2		○			1			1			共同・※演習
		建築構造設計技法Ⅱ	2後④		1		○	※			1		1			共同・※演習
		複素関数論	2後③～④		2		○								兼1	
		建築荷重論	3前①		2		○			1	1		1			オムニバス
		建築特別プログラム	3前②		2		※	※	○	6	9		5			※講義・演習

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		都市・建築設計演習A	3前②		3			○		1	1		1		兼1	共同
		建築防災	3前②		2		○			2	1		1			オムニバス・共同(一部)
		建築構造材料実験演習	3前②		3				○	1	2		2			オムニバス 共同(一部)
		テクノロジー・マーケティング	3前②		2		○								兼1	
		応用数理解析	3前①～②		2		○								兼1	隔年
		都市・建築設計演習B	3後③		3			○			2		1		兼1	共同
		住環境計画論	3後③		2		○				1					
		空間メディア	3後③		2		○								兼1	
		建築環境設備実験演習	3後③		3		※	※	○		2					オムニバス ※講義・演習
		建築土質力学	3後③		1		○			1						
		合成構造	3後③		1		○			1						
		建築構造設計演習Ⅰ	3後③		1.5			○		1	1					オムニバス 共同(一部)
		都市・建築設計演習C	3後④		3			○		1	1		1		兼1	共同
		景観設計	3後④		2		○								兼1	
		建築環境設備設計演習	3後④		3			○		1	2				兼2	オムニバス・共同(一部)
		基礎構造	3後④		1		○								兼1	
		空間構造計画	3後④		2		○			2	2				兼2	オムニバス
		建築構造設計演習Ⅱ	3後④		1.5			○		1	1		1			オムニバス 共同(一部)
		品質管理	3後③～④		2		○								兼1	
		建築応用力学	4前①		2		○				2					オムニバス
		都市・建築設計演習D	4前②		3			○					2			共同
		建築耐震設計	4前②		2		○			1	2					オムニバス
		小計（31科目）	－	0	64	0	－			6	9	0	5	0	兼15	
	参考科目	国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（3科目）	－	0	0	12	－			0	0	0	0	0	兼2	
		小計（65科目）	－	61	64	12	－			6	10	0	5	0	兼25	
合計（351科目）			－	95.5	406	12	－			6	10	0	5	0	兼488	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から50単位以上、専攻教育科目から81単位以上を修得し、131単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　50単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（23単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習A（1.5単位） 微分積分学・同演習B（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ⅠA（1.5単位） 基幹物理学ⅠA演習（1単位） 図形科学（1.5単位） 空間表現実習Ⅰ（2単位） 空間表現実習Ⅱ（2単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 世界建築史（2単位） 日本建築史（2単位） 近・現代建築史（2単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、2単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　81単位以上 (a)必修科目（61単位修得） (b)選択科目（20単位以上修得）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部電気情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○		2	2				兼33
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			2	2	0	0	0	兼33
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12
	言語文化科目 言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○								兼10
		学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○								兼10
		学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○								兼1
		学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○								兼18
		学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○								兼1
		学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○								兼1
		学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼9
		学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼8
		学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○							兼1
		専門英語	2後③～④		1			○							兼3
		ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
		フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		中国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼4
		中国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼4
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2
		ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1
		ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○							兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	小計（44科目）	－	6	40	0	－			0	0	0	0	0	兼50
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47
理系ディシプ	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3
	微分積分学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
リン科目	微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②		1.5			○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3
	線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7
	線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7
	数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ⅱ	2前①～②	1				○		2	1				兼1
	数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4
	物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2
	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○							兼2
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②	1				○							兼19
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④	1				○							兼19
	力学演習	1後③～④		1			○							兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②	1.5			○								兼4
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	無機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	有機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼5
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④	1.5			○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④	1.5			○								兼8
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼10
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学	1前①・②		1.5		○								兼11
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④		2			○							兼7
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史	2前①・②		2		○								兼1
	日本建築史	2前①・②		2		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼11
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1				○		1	1				兼24
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○						兼26
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○						兼26
	小計（63科目）	－	19.5	68.5	0	－			2	2	0	0	0	兼243
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○						1		兼12
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	1	0	兼12
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本事情	1前①		2		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○							兼1	集中
	バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※							兼1	※演習
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	薬害	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○								兼1
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○								兼1
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1
	社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1
	社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1
	社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1
	教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2
	小計（81科目）	－	0	120	0	－			0	0	0	0	0	兼59
	小計（286科目）	－	31	346	0	－			2	2	0	1	0	兼462

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	電気情報工学入門Ⅰ	1前①～②	2			○			34	21				兼16	
		電気情報工学入門Ⅱ	1後③～④	2			○			34	21				兼16	
		電気情報数学	2前①～②	2			○			3						
		回路理論Ⅰ	2前①	2			○			1	1					
		回路理論Ⅱ	2前②	2			○				1				兼1	
		論理回路	2前①	2			○				2				兼1	
		プログラミング論Ⅰ	2前①	2			○			1	1					
		プログラミング演習Ⅰ	2前②	1				○			2				兼1	
		コンピュータアーキテクチャⅠ	2前②	2			○			1	2					
		常微分方程式	2後③～④	2			○								兼3	
		電気情報工学基礎実験	2後③～④	2					○				2			
		電気情報工学実験Ⅰ	3前①～②	2					○		1		3			
		電気情報工学実験Ⅱ	3後③～④	2					○				4			
		電気情報工学卒業研究	4前①～②・後③～④	6					○	30	21				兼16	
		小計（14科目）	－	31	0	0	－			34	21	0	8	0	兼20	
	選択科目	電磁気学Ⅰ	2後③～④		2		○			2					兼1	
		電磁気学Ⅱ	2後④		2		○			2					兼1	
		電磁気学Ⅲ	3前①～②		2		○			2						
		回路理論Ⅲ	2後③～④		2		○			1	1					
		ディジタル電子回路	2後③～④・3前①～②		2		○			2						
		制御工学Ⅰ	2後③～④・3後③～④		2		○			2						
		制御工学ⅡA	3前①		1		○			1	1					
		制御工学ⅡB	3前②		1		○			1	1					
		離散数学	3前①～②		2		○			1						
		情報論理学	2前①～②		2		○				1					
		プログラミング論Ⅱ	3前①～②		2		○			1	1					
		アナログ電子回路Ⅰ	3前①～②		2		○			2						
		アナログ電子回路Ⅱ	3後③～④		2		○			2						
		電子物性	2後③～④		2		○			2						
		計算機プログラミング演習Ⅰ	2後③		1			○			2				兼1	
		計算機プログラミング演習Ⅱ	2後④		1			○		1						
		計測工学Ⅰ	3前①～②		2		○			1						
		計測工学Ⅱ	3後③～④		2		○			1						
		信号とシステム	2後③～④		2		○			1	1					
		データ構造とアルゴリズムⅠA	2前①・後③		1		○			2						
		データ構造とアルゴリズムⅠB	2前②・後④		1		○			2						
		データ構造とアルゴリズムⅡA	3前①		1		○			2						
		データ構造とアルゴリズムⅡB	3前②		1		○			2						
		基礎エネルギー変換機器学	3前①～②		2		○			1						
		エネルギー基礎論	2後③～④		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		コンピュータシステムⅠA	3前①		1		○				1					
		コンピュータシステムⅠB	3前②		1		○				1					
		コンピュータシステムⅡA	3後③		1		○								兼1	
		コンピュータシステムⅡB	3後④		1		○								兼1	
		形式言語とオートマトンA	2後③		1		○			1						
		形式言語とオートマトンB	2後④		1		○			1						
		オペレーティングシステム	2後③～④		2		○			1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ演習	2後③～④		1			○			1					
		計測工学A	3前①		1		○				1					
		計測工学B	3前②		1		○				1					
		応用確率論	2後③～④		2		○								兼1	
		情報理論	3前①～②		2		○				1				兼1	
		半導体の性質	3前①		1		○				1					
		トランジスタ基礎論	3前②		1		○				1					
		電子デバイス	3後③～④		2		○			1						
		電磁波工学Ⅰ	3前①		1		○			1						
		電磁波工学Ⅱ	3前②		1		○			1						
		通信方式	3後③～④		2		○								兼1	
		電力輸送工学	3前①～②		2		○			1						
		制御工学A	3後③		1		○			2						
		制御工学B	3後④		1		○			2						
		確率統計	3前①～②		2		○				1					
		コンピュータアーキテクチャⅡ	2後③～④		2		○			1						
		コンパイラA	3後③		1		○			1						
		コンパイラB	3後④		1		○			1						
		データベースA	3前①		1		○			1						
		データベースB	3前②		1		○			1						
		サイバーセキュリティ	3後③～④		2		○								兼1	
		電気情報工学実験Ⅲ	3後③～④		2				○	1	1					
		エネルギー変換機器工学	3後③～④		2		○			1						
		電気電子材料A	3前①		1		○				1					
		電気電子材料B	3前②		1		○				1					
		プログラミング言語論A	3前①		1		○			1						
		プログラミング言語論B	3前②		1		○			1						
		複素関数論	3前①～②		2		○								兼3	
		量子力学応用Ⅰ	3前①		1		○			1						
		量子力学応用Ⅱ	3前②		1		○				1					
		電気エネルギー工学通論	3後③～④		2		○				1					
		集積回路工学通論A	3前①		1		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		集積回路工学通論B	3前②		1		○			1						
		通信工学通論A	3後③		1		○			1					兼2	
		通信工学通論B	3後④		1		○			1					兼2	
		コンピュータシステム通論A	3後③		1		○								兼1	
		コンピュータシステム通論B	3後④		1		○								兼1	
		ディジタル信号処理	3前①～②		2		○								兼2	
		集積回路工学	3後③～④		2		○			1						
		パワーエレクトロニクス	3後③～④		2		○			1						
		システム工学	3後③～④		2		○			2						
		電気電子工学設計	3後③～④		2		○				1					
		通信ネットワークA	3後③		1		○				1					
		通信ネットワークB	3後④		1		○				1					
		超伝導基礎論A	3後③		1		○			1						
		超伝導基礎論B	3後④		1		○			1						
		プラズマ工学	3後③～④		2		○			1						
		データ解析と実験計画法	3後③～④		2		○			1						
		数理計画法	3後③～④		2		○				1					
		技術表現法A	3後③		1		○			1						
		技術表現法B	3後④		1		○			1						
		電気情報工学実習	4前①～②		1				○	1						
		光エレクトロニクスⅠ	3後③		1		○			1						
		光エレクトロニクスⅡ	3後④		1		○			1						
		電気法規および施設管理	4後③～④		2		○								兼1	
		高電圧・パルスパワー工学	3後③～④		2		○				1					
		分散システム	3後③～④		2		○			1						
		アルゴリズム論A	3後③		1		○			1						
		アルゴリズム論B	3後④		1		○			1						
		パターン認識A	4前①		1		○			1						
		パターン認識B	4前②		1		○			1						
		人工知能	3後③～④		2		○								兼1	
		基礎PBLⅠ	2後③～④		1			○			1					
		基礎PBLⅡ	3前①～②		1			○			1				兼1	
		基礎PBLⅢ	4前①～②		2			○			1				兼1	
		テクノロジー・マーケティング	2前①・②・後③・④		2		○								兼1	
		小計（98科目）	－	0	142	0	－			29	19	0	0	0	兼14	
	参考科目	国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（3科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼2	
		小計（115科目）	－	31	142	14	－			34	21	0	8	0	兼25	
合計（401科目）			－	62	488	14	－			34	21	0	8	0	兼487	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から46.5単位以上、専攻教育科目から83単位以上を修得し、129.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　46.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（19.5単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習A（1.5単位） 微分積分学・同演習B（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ⅠA（1.5単位） 基幹物理学ⅠA演習（1単位） 基幹物理学ⅠB（1.5単位） 基幹物理学ⅠB演習（1単位） 基礎化学結合論（1.5単位） 基礎化学熱力学（1.5単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 数学演習Ⅱ（1単位） 基幹物理学Ⅱ（1.5単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、2単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　83単位以上 (a)必修科目（31単位修得） (b)選択科目（52単位以上修得）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部物質科学工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○							兼35
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼35
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12
	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○							兼10
			学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○							兼10
			学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○							兼1
			学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○							兼18
			学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○							兼1
			学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○							兼1
			学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○						兼9
			学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○						兼8
			学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○						兼9
			専門英語	2後③～④		1			○						兼3
			ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼5
			ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼5
			ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○						兼2
			ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○						兼1
			フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼2
			フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼2
			フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○						兼1
			フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○						兼1
			中国語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼4
			中国語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼4
			中国語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○						兼2
			中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○						兼2
			ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼1
			ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼1
			ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1
			ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○						兼1
			韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼2
			韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼2
			韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼2
			韓国語フォーラム	1後③～④		1			○						兼2
			スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼2
			スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼2
			スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼2
			スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○						兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	小計（44科目）	－	6	40	0	－			0	0	0	0	0	兼50
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3
	微分積分学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②		1.5			○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3
	線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7
	線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7
	数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ⅱ	2前①～②		1			○							兼4
	数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4
	物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2
	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○							兼2
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②		1			○							兼19
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④	1.5			○			1			1		兼25
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④		1			○					1		兼18
	力学演習	1後③～④		1			○							兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②		1.5		○								兼4
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○			2	2				兼8
	無機物質化学	1前①～②・後③～④	1.5			○			2	2				兼8
	有機物質化学	1前①～②・後③～④	1.5			○			3					兼2
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④	1.5			○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④	1.5			○			3					兼5
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④	1.5			○			1					兼9
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	分子生物学	2前①～②	1.5			○			2					兼3
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学	1前①・②		1.5		○								兼11
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④		2			○							兼7
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史	2前①・②		2		○								兼1
	日本建築史	2前①・②		2		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報科学	1前①～②・後③～④	1.5			○								兼11	
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④		1			○							兼26	
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○		1				兼25	
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○		2				兼24	
	小計（63科目）	－	21.5	66.5	0	－			11	5	0	1	0	兼230	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼13	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20	
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17	
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7	
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3	
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3	
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1	
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本事情	1前①		2		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○			1						
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○							兼1	集中
	バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※							兼1	※演習
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
		薬害	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		リスクマネジメント	2後③～④		2		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（81科目）	－	0	120	0	－			1	0	0	0	0	兼58	
		小計（286科目）	－	33	344	0	－			13	4	0	1	0	兼449	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	機械工学大意第一	2前①～②	2			○								兼3	
		電気工学基礎	2前①～②	2			○								兼1	
		応用数理解析	3前①～②	2			○								兼3	
		情報処理概論	2前②・3後③～④	2				○							兼1	
		物質科学工学実験第一	2後③～④	2					○	18	8		5		兼5	
		物質科学工学実験第二	3前①～②	3					○	18	8		5		兼5	
		物質科学工学実験第三	3後③～④	3					○	18	8		5		兼5	
		物質科学工学卒業研究	4前①～②・後③～④	8					○	24	12		5		兼5	
		小計（8科目）	－	24	0	0	－			24	12	0	5	0	兼13	
	選択科目	工業倫理・工業経営（A）	2前①		1		○			2	1					
		工業倫理・工業経営（B）	2前②		1		○			2	1					
		工業倫理・工業経営（C）	2後③		1		○			2	1					
		工業倫理・工業経営（D）	2後④		1		○			2	1					
		複素関数論	2後③～④		2		○								兼3	
		物質科学工学概論第一	1前①～②		1		○			4						
		物質科学工学概論第二	1後③～④		1		○			4						
		金属材料大意	2前①～②・4前①～②		2		○			1	1					
		機械工学大意第二	3前①～②		2		○								兼3	
		電子情報工学基礎	2前①～②		2		○								兼1	
		品質管理	2後③～④		2		○								兼3	
		応用物理学第一	2前②・後③～④		2		○			1						
		応用物理学第二	3前①～②		2		○			1						
		プロセス物理化学	3前①		2		○				1					
		反応工学第一	3前②		2		○			2						
		反応工学第二	3後④		2		○			1						
		物質移動工学	2後④		2		○			1						
		化学工学量論A	2前①		1		○			1						
		化学工学量論B	2前②		1		○			1						
		基礎熱工学	3前②		2		○			2						オムニバス
		化工熱工学	3後③		2		○			2						オムニバス
		基礎流体工学	2後④		2		○			1						
		化工流体工学	3前①		2		○			1						
		生物プロセス工学第二	3後③		2		○			2						オムニバス
		分離工学	3後③		2		○				1					
		プロセス制御	3前②		2		○				1					
		プロセスシステム工学	3後④		2		○				1					
		化工数学	2後③		2		○			1						
		化工情報処理演習	3後④		1			○			1					
		工業化学基礎第一A	2前①		1		○			1						
		工業化学基礎第一B	2前②		1		○			1						
		工業化学基礎第二	3前①		2		○			1						
		基礎生命工学	2後③		2		○			2	1					オムニバス
		生物プロセス工学第一	3前①		2		○			2						オムニバス
		プロセス計装	3後③～④		1		○				1					
		化学プロセス特別講義一	3前①～②		1		○				1					
		化学プロセス特別講義二	4前①～②		1		○				1					
		生命工学特別講義一	3後③～④		1		○				1					
		生命工学特別講義二	4後③～④		1		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		生物化学工学	3後④		2		○			2	1					オムニバス
		基礎物理化学第三	3前②		2		○			2						
		基礎物理化学第一及び演習	2前①～②		2		○			2						
		基礎物理化学第二及び演習	2後③～④		2		○			2						
		量子化学第一	2後④		2		○			1	1					
		無機化学第一	2前①		2		○			1	1					
		無機化学第二	2後④		2		○			1						
		分析化学第一	2後③		2		○			1						
		有機化学第一	2前①		2		○				1					
		高分子化学第一	2後③		2		○			1						
		化学工学第一	2後④		2		○			2						
		分析化学第二	3前①		2		○			1						
		有機化学第二	2後③		2		○				1					
		高分子化学第二	3前①		2		○			1						
		分子組織化学	3前②		2		○			1						
		安全学	2前①～②		2		○			1						
		化学工学第二	3前①～②		2		○			2						
		物理化学演習	3後④		1		○			2						
		量子化学演習	3後④		1		※	○			2				兼1	※講義
		無機化学第三	3後③		2		○			1						
		表面化学	3後④		2		○								兼1	
		量子化学第二	3前②		2		○			1	1					
		生化学第一	2後③～④		2		○			1						
		有機化学第三	3前①		2		○			1	1					
		分析化学第三および演習	3後③		2		※	○		1	1					※講義
		物理化学第三	3前②		2		○				2					
		高分子化学第三	3後③		2		○				1				兼1	
		生化学第二	3前②		2		○				2					
		生体機能化学	3後③		2		○			1						
		応用化学特別講義第一	3後④		1		○			2						
		応用化学特別講義第二	4前①		1		○			2						
		応用化学特別講義第三	4前②		1		○			2						
		応用化学特別講義第四	4後③		1		○			2						
		応用化学特別講義第五	4後④		1		○			2						
		応用化学特別演習第一	4前①～②		1			○		1	1					
		応用化学特別演習第二	4後③～④		1			○		1	1					
		触媒化学	3後③		2		○			1						
		有機化学第四および演習	3後③		1		※	○		1	1					
		無機化学第四	3後④		2		○				1					
		物理化学第一	2前①		2		○				2					
		物理化学第二	2後③		2		○				2					
		回析結晶学	2後④		2		○				1					
		固体物性学	2後③		2		○			1						
		平衡組織学	2前②		2		○				1					
		デバイス物理学	3後④		2		○									
		材料物理化学	2前①		2		○									
		材料電気化学	2後④		2		○			1						
		材料設計製図	2後③～④		1		○	※							兼1	※演習
		金属組織制御学	3前②		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		移動現象論	2後③		2		○				1					
		凝固及び結晶成長	3後④		2		○			1						
		材料強度物性	3前①		2		○			1						
		金属製錬学第一	3後④		2		○				1					
		半導体工学	3後③		2		○			1						
		材料表面科学	3前②		2		○			1						
		電解工学	4前①		2		○			1						
		鉄鋼材料工学	3後③		2		○			1						
		非鉄材料工学	3後③		2		○								兼1	
		セラミックス材料学	3後④		2		○				1					
		材料反応工学	3前①		2		○			1						
		金属製錬学第二	4前②		2		○				1					
		接合・複合工学	3前①・4前①		2		○			1						
		薄膜工学	3前①		2		○				1					
		エネルギー材料工学	2後③		2		○								兼1	
		無機材料解析学	3前②		2		○				1					
		バイオマテリアル	3前②		2		○			1						
		産業科学技術特別講義	3前①		2		○			1						
		材料工学特別演習	4前①		1		○			1						
		電磁気学	2後③		2		○			1						
		超伝導材料工学	2後④		2		○				1					
		熱力学・動力学演習	3後③		2			○						兼1		
		機械工作実習	4前①		1				○					兼1	兼1	
		機械製作法Ⅱ	4前①		2		○									
		弾性・塑性変形工学	2後④		1		○			1						
		材料力学入門	2後③		1		○			1						
		テクノロジー・マーケティング	2後④・3前①・②・後③		2		○								兼1	
		小計（115科目）	－	0	199	0	－			25	21	0	0	0	兼16	
	参考科目	国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（3科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼2	
		小計（126科目）	－	24	199	8	－			26	21	0	5	0	兼27	
合計（412科目）			－	57	543	8	－			26	21	0	5	0	兼476	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から86単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） 専門英語（2単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（21.5単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習A（1.5単位） 微分積分学・同演習B（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ⅠA（1.5単位） 基幹物理学ⅠB（1.5単位） 無機物質化学（1.5単位） 有機物質化学（1.5単位） 細胞生物学（1.5単位） 情報科学（1.5単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 基礎化学結合論（1.5単位） 基礎化学熱力学（1.5単位） 分子生物学（1.5単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、2単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　86単位以上 (a)必修科目（24単位修得） (b)選択科目（62単位以上修得）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部地球環境工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○		1					兼34	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			1	0	0	0	0	兼34	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○							兼10	
			学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○							兼10	
			学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○							兼1	
			学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○							兼18	
			学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○							兼1	
			学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○							兼1	
			学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○						兼9	
			学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○						兼8	
			学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○						兼9	
			専門英語	2後③～④		1			○						兼3	
			ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼5	
			ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼5	
			ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1	
			ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○						兼2	
			ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○						兼1	
			フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼2	
			フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼2	
			フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1	
			フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○						兼1	
			フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○						兼1	
			中国語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼4	
			中国語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼4	
			中国語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1	
			中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○						兼2	
			中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○						兼2	
			ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○							兼1	
			ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○							兼1	
			ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○							兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	小計（44科目）	－	6	40	0	－			0	0	0	0	0	兼50
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3
	微分積分学・同演習Ａ	1前①～②		1.5			○							兼4
	微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④		1.5			○							兼4
	微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②	1.5				○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④	1.5				○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②	1.5				○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3
	線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7
	線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7
	数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2
	数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ⅱ	2前①～②		1			○							兼4
	数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4
	物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2
	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○							兼2
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②	1				○							兼19
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④	1.5			○				4				兼23
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④		1			○			1		3		兼15
	力学演習	1後③～④		1			○							兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②		1.5		○								兼4
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	無機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12
	有機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼5
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○								兼8
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	生命の科学A	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学B	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○				1				兼1
	細胞生物学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼10
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1
	デザイン思考	1前⑴・⑵・後⑶・⑷		1		○								兼1
	図形科学	1前①・②	1.5			○			1	3				兼7
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④		2			○							兼7
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史	2前①・②		2		○								兼1
	日本建築史	2前①・②		2		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1
	情報科学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼11
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1				○			1		3		兼22
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○				1		兼25
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○				1		兼25
	小計（63科目）	－	16	72	0	－			1	9	0	8	0	兼229
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼13
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
目	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本事情	1前①		2		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○			1						
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○				1					
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○							兼1	集中
	バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※							兼1	※演習
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		薬害	3前①・②		1		○								兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1	
		アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1	
		リスクマネジメント	2後③～④		2		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○							兼1	
		社会調査法ⅡＢ	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（81科目）	－	0	120	0	－			1	1	0	0	0	兼57	
		小計（286科目）	－	27.5	349	0	－			2	11	0	8	0	兼446	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	地球環境工学入門Ⅰ	1前①～②	1			○			3						オムニバス
		地球環境工学入門Ⅱ	1後③～④	1			○			3						オムニバス
		常微分方程式	2後③～④	2			○								兼1	
		複素関数論	2後③～④	2			○								兼1	
		フーリエ解析と偏微分方程式	3前①～②	2			○								兼1	
		情報処理概論	3後③～④	2			○			1						
		地球環境工学卒業研究	4前①～②・後③～④	6					○	18	22		2		兼4	
		小計（7科目）		16	0	0	－			18	22	0	2	0	兼7	
	選択科目	応用複素関数論	3前①～②		2		○								兼1	
		電気工学基礎	2前①～②・3前①～②・4前①～②		2		○								兼1	
		電子情報工学基礎	2後③～④・3後③～④・4後③～④		2		○								兼1	
		機械工学大意第一	2前①～②・3前①～②・4前①～②		2		○								兼3	
		流体力学第一	2前①・後③		2		○			1						
		固体力学	2前①・②		2		○								兼3	
		確率統計	2前①		2		○								兼1	
		構造力学Ⅰ	2後③		1		○			1						
		構造力学Ⅱ	2後④		1		○			1						
		水理学Ⅰ	2後③		1		○			1						
		水理学Ⅱ	2後④		1		○			1						
		地盤力学Ⅰ	2後③		1		○			1					兼1	
		地盤力学Ⅱ	2後④		1		○			1					兼1	
		環境システム学	2前②		2		○			1	1					
		構造力学Ⅲ	3前①		1		○				1					
		構造力学Ⅳ	3前①		1		○				1					
		水理学Ⅲ	3前①		1		○				1					
		水理学Ⅳ	3前①		1		○				1					
		地盤力学Ⅲ	3前①		1		○				1					
		地盤力学Ⅳ	3前①		1		○				1					
		土木材料学Ⅰ	2後④		1		○			1						
		土木材料学Ⅱ	2後④		1		○			1						
		環境基礎学Ⅰ	3後③		1		○			1						
		環境基礎学Ⅱ	3後③		1		○			1						
		計画数理Ⅰ	3前①		1		○				1					
		計画数理Ⅱ	3前①		1		○				1					
		社会基盤計画学Ⅰ	2後③		1		○			1						
		社会基盤計画学Ⅱ	2後④		1		○			1						
		流体力学基礎	2前①		2			○		1						
		基礎土木工学演習	2後③～④		2			○		3	1					
		土木工学総合演習	3後③～④		2			○			13				兼1	
		土木地理学	2前②		2		○			2	1		1			
		土木実践教室１	2後③～④		2				○		13		9		兼2	
		土木実践教室２	3後③～④		2				○		13		9		兼2	
		土木実践教室３	4前①～②		2				○		13		9		兼2	
		構造解析学	3後④		2		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		土木エンジニア史	2前①		2		○				2					
		河川工学Ⅰ	3後③		1		○				1					
		河川工学Ⅱ	3後③		1		○				1					
		上下水道および水資源工学Ⅰ	3後④		1		○				1					
		上下水道および水資源工学Ⅱ	3後④		1		○				1					
		まちづくり・地域づくり概論Ⅰ	2後③		1		○				2					
		まちづくり・地域づくり概論Ⅱ	2後④		1		○				2					
		コンクリート構造工学Ⅰ	3後③		1		○				1					
		コンクリート構造工学Ⅱ	3後③		1		○				1					
		海岸水理学Ⅰ	3後④		1		○				1					
		海岸水理学Ⅱ	3後④		1		○				1					
		応用地盤工学Ⅰ	3後③		1		○			1					兼1	
		応用地盤工学Ⅱ	3後③		1		○			1					兼1	
		環境保全と開発Ⅰ	4前①		1		○			1						
		環境保全と開発Ⅱ	4前①		1		○			1						
		交通計画学	4前①		2		○				1					
		鋼構造工学	3後④		2		○				1					
		地震工学	3後③		2		○			1	1					
		都市計画	3後④		2		○			1						
		水文学Ⅰ	3前①		1		○				3		1			
		水文学Ⅱ	3前①		1		○				3		1			
		測量学・実習	2前①～②		3		○		※	1					兼1	※実験・実習
		景観学	2前②		2		○				2					
		交通施設工学	4前②		2		○				1					
		合意形成論	3前①		2		○				3					
		維持管理工学	4前①		2		○			1	1					
		環境と防災１	2後③		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
		環境と防災２	2後④		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
		沿岸域管理工学	4前①		2		○				2					
		プロジェクト・ものづくり	3後③～④・4前①～②		2			○			6					共同
		プロジェクト・まちづくり	3後③～④・4前①～②		2			○			1		2			共同
		生態工学	2後③		2		○				1					
		土木と社会セミナー１	2前①～②		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
		土木と社会セミナー２	2後③～④		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
		土木と社会セミナー３	4前①～②		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
		力学Ⅰ	2後③～④		2		○				1					
		流体力学第二	2前①・後④		2		○			1						
		材料力学	2後③～④		4		○			1						
		船舶設計	2後③		2		○				1					
		自動制御工学	2後③		2		○			1						
		船舶海洋流体力学第一	3前①		2		○			1						
		船舶運動論	3前②		2		○			1						
		弾性力学第一	3前①～②		2		○			1						
		材料加工学	2前②・3前②		2		○			1						
		機能設計工学	3前①		2		○			1	1					
		システム設計工学	3後③		2		○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	船舶海洋製図第一	3前①～②		1		※		○		1					※講義
	運動制御工学	3後④		2		○			1						
	船舶海洋流体力学第二	3後③		2		○			1						
	船舶海洋構造力学	3後③		2		○			1						
	船舶海洋振動学第一	3後③		2		○			1						
	環境設計工学	3後④		2		○			1	1					
	材料強度学	3後③		2		○			1						
	船舶海洋製図第二	3後③～④		2		※		○		1					※講義
	海洋機器工学	2前②・4前②		2		○			1						
	船舶海洋振動学第二	3後④		2		○			1						
	海洋環境情報学	3前①		2		○				1					
	舶用機関	4前①～②		2		○								兼1	
	技術者倫理	3後④		2		○			1						
	工業マネージメント	4前①		2		○				1					
	船舶海洋システム工学実験	4前①～②		1				○	4	1		2			共同
	計算工学演習第一	2後④		1			○	※	1						※実験・実習
	計算工学演習第二	4前①		1			○		6	3		2			
	構造解析演習	4前①		1			○		1						
	船舶海洋システム工学特別講義第一	4前②		1		○			1						
	船舶海洋システム工学特別講義第二	4後③		1		○			1						
	船舶海洋システム工学特別講義第三	4後④		1		○			1						
	海事統計学	2前①		2		○			1						
	工学基礎力学	3前①		2		○				1					
	船舶算法および同演習	2前①		1.5		○	※			1					※演習
	船舶復原性および同演習	2後④		1.5		○	※		1						※演習
	構造力学	3前①～②		4		○			1						
	地球システム学概論	2後④		2		○			1						
	地球環境のイメージング	2後④		2		○			1						
	地球熱学	2後④		2		○				1					
	資源流体工学	2後③		2		○				1					
	岩盤工学	2後③		2		○				1					
	資源処理工学	2後③		2		○				1				兼1	
	石油工学	3前②		2		○				1					
	環境地球科学	3後④		2		○			1						
	フィールド地球科学演習	2後③～④		1		※	○			1					※講義
	物理探査学	3前①		2		○				1					
	地熱工学	3前②		2		○				1					
	地球工学実験第一	3前①～②		1		※		○				3		兼1	※講義
	地球工学実験第二	3後③～④		1		※		○				3		兼1	※講義
	地下空洞設計法	3前①		2		○			1						
	環境修復工学	3前②		2		○				1					
	資源システム工学実験第一	3前①～②		1				○		2		1			
	資源システム工学実験第二	3後③～④		1				○		2		1			
	地層内物質移動工学	3前①		2		○								兼1	
	資源工学倫理及びマネージメントⅠ	2後③		1		○			1						
	資源工学倫理及びマネージメントⅡ	2後④		1		○			1						
	地球環境化学	2後④		2		○			1						
	地球システム工学実習	2後③～④		1				○	1	1		1		兼1	
	地球システム工学インターンシップ	3通		4				○	5	6		5		兼4	
	資源地球科学	3前①		2		○			1						
	環境地球物理学	3後③		2		○			1						
	地熱貯留層工学	3後③		2		○			1						
	地圏開発システム工学	3後③		2		○				1					
	資源微生物工学	3後③		2		○				1					
	エネルギー資源工学	2後③		2		○								兼1	
	工業爆薬学	3前①～②		2		○				1				兼1	
	新エネルギー工学	2後④		1		○								兼2	集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		地熱発電工学	3前②		1		○			1					兼1	集中
		石灰石資源	3前①		1		○			1					兼1	
		石油・天然ガス資源開発	3後③		1		○				1				兼1	集中
		海外資源・資源経済学	3後③		1		○			1					兼1	集中
		廃棄物資源循環工学	3後③		1		○								兼2	集中
		石油開発生産工学	3後④		2		○				1					
		スクールオンザムーブ国際インターンシップ	3通		4				○	5	6		5		兼4	
		品質管理	3後③～④		2		○								兼1	
		機械工学大意第二	3前①～②		2		○								兼3	
		無機化学第三	3後③		2		○								兼1	
		金属材料大意	4前①～②		2		○								兼2	
		テクノロジー・マーケティング	2後③～④・3前②・後③～④・4前②		2		○								兼1	
		小計（151科目）	－	0	247	0	－			22	22	0	17	0	兼29	
	参考科目	課題集約演習	4前①～②			1		○		3						
		産業活動実習	3前①～②			1			○	3						
		国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（5科目）	－	0	0	14	－			3	0	0	0	0	兼2	
		小計（163科目）	－	16	247	14	－			22	22	0	17	0	兼33	
合計（449科目）			－	43.5	596	14	－			22	22	0	17	0	兼479	

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から85単位以上を修得し、133.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（21.5単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習Ⅰ（1.5単位） 微分積分学・同演習Ⅱ（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ⅠA（1.5単位） 基幹物理学ⅠA演習（1単位） 基幹物理学ⅠB（1.5単位） 図形科学（1.5単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） なお、理系ディシプリン科目のうち、基幹物理学ⅠB演習、無機物質化学、基礎生物学概要、地球と宇宙の科学、情報科学、数理統計学、基礎化学熱力学、細胞生物学、地球科学、最先端地球科学、空間表現実習Ⅰから5.5単位を選択必修とする。 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、2単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　85単位以上 (a)必修科目（16単位修得） (b)選択科目（69単位以上修得）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部エネルギー科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○		1					兼34
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			1	0	0	0	0	兼34
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12
	言語文化科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○								兼10
	言語文化基礎科目	学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○								兼10
		学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○								兼1
		学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○								兼18
		学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○								兼1
		学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○								兼1
		学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼9
		学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼8
		学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○							兼9
		専門英語	2後③～④		1			○							兼3
		ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼5
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼2
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
		フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼1
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1
		中国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼4
		中国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼4
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2
		ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1
		ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1
		ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
		ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○							兼1
		韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1
	小計（44科目）	－	6	40	0	－			0	0	0	0	0	兼50
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5
	文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4
	社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6
	現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5
	法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3
	政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1
	経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3
	微分積分学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼4
	微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④		1.5			○							兼3
	微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②		1.5			○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3
	線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7
	線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7
	数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2
	数学演習Ⅱ	2前①～②		1			○							兼4
	数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8
	身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3
	物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4
	物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2
	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○			1				兼1
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②	1				○							兼19
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④	1.5			○				2				兼25
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④	1				○			2				兼17
	力学演習	1後③～④		1			○							兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②		1.5		○				1				兼3
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○			1					兼11
	無機物質化学	1前①～②・後③～④	1.5			○			1					兼11
	有機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼5
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④	1.5			○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○								兼8
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼2
	細胞生物学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼10
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼6
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1
	図形科学	1前①・②	1.5			○								兼11
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④		2			○							兼7
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②		2			○							兼3
	世界建築史	2前①・②		2		○								兼1
	日本建築史	2前①・②		2		○								兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○								兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報科学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼11	
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1				○					1		兼25	
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○						兼26	
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○						兼26	
	小計（63科目）	－	18.5	69.5	0	－			1	6	0	1	0	兼239	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼13	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20	
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17	
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7	
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3	
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3	
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1	
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本事情	1前①		2		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○								兼1	
	デザインと観察	2前①～②		2		○								兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③・④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○							兼1	集中
	バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○								兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※							兼1	※演習
	技術と倫理	2後③・④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○								兼1	集中
	薬害	3前①・②		1		○								兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○								兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○								兼1
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○								兼1
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○								兼1
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○								兼1
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○								兼1
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○								兼1
	社会統計学A	3前①・②		1			○							兼1
	社会統計学B	3前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ⅠA	2前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ⅠB	2前①・②		1			○							兼1
	社会調査法ⅡA	2後③・④		1			○							兼1
	社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1
	教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1
	日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2
	小計（81科目）	－	0	120	0	－			0	0	0	0	0	兼59
	小計（286科目）	－	30	347	0	－			2	6	0	1	0	兼458

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	エネルギー科学展望	1前①～②	1			○			2					兼1	オムニバス
		基礎物理数学	1後③～④	2			○			1						
		エネルギー科学と倫理	2前①～②	1			○			1						
		熱力学	2前①	2			○	※							兼4	※演習
		元素科学	2前①	2			○				1					
		力学	2前②	2			○				1					
		基礎確率統計学	2前①	2			○								兼1	
		振動・波動論基礎	2前②	2			○			1						
		原子物理学	2前②	2			○				1					
		物理化学	2前①	2			○			1	1					
		電磁気学E	2前①	2			○			1						
		エネルギー材料科学	2前②	2			○			1						
		エネルギー環境論	2前①	2			○			2	2				兼1	オムニバス
		常微分方程式	2後③～④	2			○								兼1	
		情報処理概論	2後③	2			○								兼1	
		熱・統計力学Ⅰ	2後③	2			○			1						
		輸送現象論Ⅰ	2後③	1			○				1					
		輸送現象論Ⅱ	2後④	1			○				1					
		量子力学Ⅰ	2後③	1			○				1					
		量子力学Ⅱ	2後④	1			○				1					
		創造科学工学基礎実験	2後③～④	2					○		1		6			共同
		固体物理学Ⅰ	3前②	2			○			1						
		フーリエ解析と偏微分方程式	3前①～②	2			○								兼1	
		エネルギー科学卒業研究	4前①～②・後③～④	4					○	15	20				兼31	
		小計（24科目）	－	44	0	0	－			15	20	0	6	0	兼38	
	選択科目	電気回路Ⅰ	2後③		1		○								兼1	
		電気回路Ⅱ	2後④		1		○								兼1	
		量子化学基礎	3後③		2		○				1					
		化学反応論Ⅰ	2後③		1		○				1					
		化学反応論Ⅱ	2後④		1		○				1					
		量子線物理計測	2後③		2		○						1			
		無機材料科学Ⅰ	2後④		2		○								兼1	
		基礎熱工学	2後③		2		○				1					
		連続体力学	2後④		2		○			1						
		量子理工学演習Ⅰ	2後③～④		1			○		1	1					オムニバス
		エネルギー物質工学演習	2後③～④		1			○		1						
		複素関数論	2後③～④		2		○								兼1	
		電子回路	3前①		2		○								兼1	
		熱・統計力学Ⅱ	3前②		2		○				1					
		量子力学Ⅲ	3前①		1		○				1					
		量子力学Ⅳ	3前②		1		○				1					
		無機材料科学Ⅱ	3前①		1		○								兼2	
		無機材料科学Ⅲ	3前②		1		○			1						
		応用物理化学Ⅰ	3前①		1		○			1	1					
		応用物理化学Ⅱ	3後④		1		○			1	1					
		化学反応論Ⅲ	3前②		2		○				1					
		応用物理学Ⅰ	3前②		1		○			1	1					
		応用物理学Ⅱ	3前②		1		○			1	1					
		原子核物理学Ⅰ	3前①		2		○				1					
		金属材料学Ⅰ	2後③		1		○								兼2	
		金属材料学Ⅱ	2後④		1		○								兼2	
		構造材料学Ⅰ	3後③		1		○				1					
		構造材料学Ⅱ	3後④		1		○				1					
		材料組織制御学Ⅰ	3前①		1		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	材料組織制御学Ⅱ	3前②		1		○				1					
	有機物質科学Ⅰ	2後③		1		○								兼3	
	有機物質科学Ⅱ	2後④		1		○								兼3	
	流体力学Ⅰ	3前①		2		○			1						
	基礎材料力学Ⅰ	3前①		1		○								兼1	
	基礎材料力学Ⅱ	3前②		1		○			1						
	伝熱学Ⅰ	3前①		1		○			1						
	伝熱学Ⅱ	3前②		1		○			1						
	自動制御	3後③		2		○			1						
	環境システム学	4前①		2		○								兼1	
	現代科学技術論	3前①～②		1		○				1					
	量子理工学演習Ⅱ	3前①～②		1			○		1	1					オムニバス
	エネルギー工学基礎Ⅰ	3前①		1		○			2	2				兼1	オムニバス
	エネルギー工学基礎Ⅱ	3前②		1		○			2	2				兼1	オムニバス
	産業活動実習	3前①～②		1				○	1						
	量子理工学実験	3前①～②		2				○		1		7			共同
	エネルギー物質工学実験Ⅰ	3前①～②		2				○		6		4		兼5	オムニバス・共同（一部）
	エネルギー工学実験	3前①～②		2				○		2		5		兼5	共同
	応用複素関数論	3前①～②		2		○								兼1	
	結晶回折学	2後④		1		○				1					
	固体物理学Ⅱ	3後④		2		○			1						
	基礎分光計測学	3後③		2		○				1					
	原子核物理学Ⅱ	3後③		1		○				1					
	原子核物理学Ⅲ	3後④		1		○				1					
	原子炉物理学Ⅰ	3後③		1		○			1						
	原子炉物理学Ⅱ	3後④		1		○			1						
	基礎プラズマ物理Ⅰ	3後③		1		○				1					
	基礎プラズマ物理Ⅱ	3後④		1		○				1					
	プロセス化学工学Ⅰ	3後③		1		○				1					
	プロセス化学工学Ⅱ	3後④		1		○				1					
	材料強度学Ⅰ	3前①		1		○			1						
	材料強度学Ⅱ	3前②		1		○			1						
	有機材料科学Ⅰ	3後③		1		○								兼3	
	有機材料科学Ⅱ	3後④		1		○								兼3	
	有機物質科学Ⅲ	3前①		1		○								兼3	
	有機物質科学Ⅳ	3前②		1		○								兼3	
	材料計測学Ⅰ	3後③		1		○			2	1				兼1	オムニバス
	材料計測学Ⅱ	3後④		1		○			2	1				兼1	オムニバス
	材料物性学Ⅰ	3後③		1		○			2	1				兼1	オムニバス
	材料物性学Ⅱ	3後④		1		○			2	1				兼1	オムニバス
	流体力学Ⅱ	3後③		1		○								兼1	
	流体力学Ⅲ	3後④		1		○								兼1	
	振動力学	3前①		2		○			1						
	相転移論Ⅰ	3後③		1		○								兼1	
	相転移論Ⅱ	3後④		1		○								兼1	
	課題集約演習	3後③～④		1			○		5	8					
	量子理工学演習Ⅲ	3後③～④		1			○		5	8					
	エネルギー工学演習	3後③～④		1			○		5	8					
	エネルギー物質工学実験Ⅱ	3後③～④		2				○		1					
	エネルギー科学特別講義Ⅰ	3後③～④		1		○				1					集中
	エネルギー科学特別講義Ⅱ	3後③～④		1		○				1					集中
	エネルギー科学特別講義Ⅲ	3後③～④		1		○			1						集中
	エネルギー科学特別講義Ⅳ	3後③～④		1		○				1					集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		エネルギー科学特別講義Ⅴ	3後③～④		1		○			1						集中
		エネルギー科学特別講義Ⅵ	4前①～②		1		○			1						集中
		エネルギー科学特別講義Ⅶ	4前①～②		1		○			1						集中
		エネルギー科学とマネージメントⅠ	4前①～②		1		○			1						
		エネルギー科学とマネージメントⅡ	4前①～②		1		○			1						
		エネルギー科学とマネージメントⅢ	4前①～②		1		○			1						
		固体物理学Ⅲ	4前①		1		○			1						
		固体物理学Ⅳ	4前②		1		○			1						
		応用物理学Ⅲ	4前①		1		○			1	1					
		応用物理学Ⅳ	4前②		1		○			1	1					
		応用確率論	3後③～④		2		○								兼1	
		核融合概論Ⅰ	4前①		1		○				1					
		核融合概論Ⅱ	4前②		1		○				1					
		原子力工学概論Ⅰ	3前①		1		○			2	1					オムニバス
		原子力工学概論Ⅱ	3前②		1		○			2	1					オムニバス
		テクノロジー・マーケティング	2後③		2		○								兼1	
		小計（98科目）	－	0	121	0	－			15	18	0	16	0	兼28	
	参考科目	国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（3科目）	－	0	0	12	－			0	0	0	0	0	兼2	
		小計（125科目）	－	44	121	12	－			15	20	0	17	0	兼56	
合計（411科目）			－				－			15	20	0	17	0	兼514	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から49.5単位以上、専攻教育科目から82単位以上を修得し、131.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　49.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（18.5単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習A（1.5単位） 微分積分学・同演習B（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ＩA（1.5単位） 基幹物理学ＩA演習（1単位） 基幹物理学ＩB（1.5単位） 基幹物理学ＩB演習（1単位） 無機物質化学（1.5単位） 図形科学（1.5単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 基礎化学結合論（1.5単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、6単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　82単位以上 (a)必修科目（44単位修得） (b)選択科目（38単位以上修得）		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部機械航空工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1前②	1				○			1				兼34	
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	1	0	0	0	兼34	
	課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○							兼12	
		小計（1科目）	－	2.5	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1前①～②	1			○								兼10	
		学術英語Ａ・プロダクション	1前①～②	1			○								兼10	
		学術英語Ａ・CALL	1前①～②	1			○								兼3	
		学術英語Ｂ・インテグレイト	1後③～④	2			○								兼3	
		学術英語Ｂ・CALL	1後③～④	1			○								兼5	
		学術英語ＡＢ・再履修	1後③～④・2前①～②		1		○								兼6	
		学術英語Ｃ・テーマベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼3	
		学術英語Ｃ・スキルベース	2前①・②・後③・④		1			○							兼1	
		学術英語Ｃ・集中演習	2前①～②		2			○							兼4	
		専門英語	2後③～④		1			○							兼3	
		ドイツ語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼6	
		ドイツ語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼5	
		ドイツ語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼5	
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1後③～④		1			○							兼3	
		ドイツ語プラクティクムⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		フランス語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
		フランス語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2	
		フランス語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		フランス語プラティクⅠ	1後③～④		1			○							兼47	
		フランス語プラティクⅡ	2前①～②		1			○							兼1	
		中国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼4	
		中国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼4	
		中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		中国語実践Ⅰ	1後③～④		1			○							兼2	
		中国語実践Ⅱ	2前①～②		1			○							兼2	
		ロシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
		ロシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
		ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
		ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○							兼1	
		韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2	
		韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2	

		韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
		韓国語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2	
		スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼2	
		スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼2	
		スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
		スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○							兼2	
		日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
		日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
		日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
		日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
		日本語Ⅴ	2前①～②		1		○								兼1	
		日本語Ⅵ	2前①～②		1		○								兼1	
		日本語Ⅶ	2前①～②		1		○								兼1	
		小計（44科目）	－	6	40	0	－			0	0	0	0	0	兼50	
	文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3	
		先史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3	
		歴史学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼5	
		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6	
		芸術学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3	
		文化人類学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1	
		地理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼4	
		社会学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3	
		心理学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼6	
		現代教育学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5	
		教育基礎学入門	1前①・②・後③・④		1		○								兼5	
		法学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼3	
		政治学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1	
		経済学入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼1	
		経済史入門	1前①～②・後③～④		2		○								兼2	
		The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○								兼1	
		小計（16科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼47	
	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼3	
		微分積分学	1後③～④		1.5		○								兼3	
		微分積分学・同演習Ａ	1前①～②		1.5			○							兼4	
		微分積分学・同演習Ｂ	1後③～④		1.5			○							兼4	
		微分積分学・同演習Ⅰ	1前①～②	1.5				○							兼3	
		微分積分学・同演習Ⅱ	1後③～④	1.5				○							兼3	
		微分積分学・同演習Ⅲ	2前①～②	1.5				○							兼3	
		線形代数	1前①～②		1.5		○								兼3	
		線形代数学・同演習Ａ	1前①～②	1.5				○							兼7	
		線形代数学・同演習Ｂ	1後③～④	1.5				○							兼7	
		数学演習ＩＡ	1前①～②		1			○							兼2	
		数学演習ＩＢ	1後③～④		1			○							兼2	
		数学演習Ⅱ	2前①～②		1			○							兼4	
		数理統計学	2前①～②・後③～④		1.5		○								兼8	
		身の回りの物理学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼2	
		身の回りの物理学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼3	
		物理学概論Ａ	1前①～②		1.5		○								兼4	
		物理学概論Ａ演習	1前①～②		1			○							兼2	

	物理学概論Ｂ	1後③～④		1.5		○								兼4	
	物理学概論Ｂ演習	1後③～④		1			○							兼2	
	基幹物理学ＩＡ	1前①～②	1.5			○								兼27	
	基幹物理学ＩＡ演習	1前①～②	1				○							兼19	
	基幹物理学ＩＢ	1後③～④	1.5			○			5	1				兼21	
	基幹物理学ＩＢ演習	1後③～④		1			○		4	2				兼13	
	力学演習	1後③～④	1				○		3						
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1	
	基幹物理学Ⅱ	2前①～②		1.5		○								兼4	
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1	
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1	
	身の回りの化学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2	
	基礎化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼12	
	無機物質化学	2後③～④	1.5			○								兼12	
	有機物質化学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼5	
	基礎化学結合論	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼8	
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○								兼8	
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1	
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1	
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1	
	機器分析学	2後③～④		2		○								兼1	
	生命の科学Ａ	1前①・②・後③・④		1		○								兼7	
	生命の科学Ｂ	1前①・②・後③・④		1		○								兼6	
	基礎生物学概要	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼2	
	細胞生物学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼10	
	集団生物学	2前①～②		1.5		○								兼6	
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼6	
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1	
	地球と宇宙の科学	1前①・②・後③・④		1		○								兼2	
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2	
	最先端地球科学	2前①～②		1		○								兼2	
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○								兼1	
	デザイン思考	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
	図形科学	1前①・②	1.5			○			3	1				兼7	
	空間表現実習Ⅰ	1後③～④	2				○			1		2		兼4	
	空間表現実習Ⅱ	2前①～②		2			○							兼3	
	世界建築史	2前①・②		2		○								兼1	
	日本建築史	2前①・②		2		○								兼1	
	近・現代建築史	2後③・④		2		○								兼1	
	デザイン史	2後③・④		2		○								兼1	
	情報科学	1前①～②・後③～④		1.5		○								兼11	
	プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1				○			1		4		兼21	
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○								兼1	
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○						兼26	
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○						兼26	
	小計（63科目）	－	20.5	67.5	0	－			9	4	0	5	0	兼229	

サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○								兼13	
	小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○							兼20	
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○						兼17	
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○						兼7	
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○						兼3	
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○						兼3	
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○								兼1	
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○								兼1	
	小計（8科目）	－	1	8	0	－			0	0	0	0	0	兼22	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○								兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○								兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○								兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本事情	1前①		2		○								兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○								兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○								兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○								兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○								兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○								兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○								兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○								兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○								兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	

		医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
		バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
		科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
		科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
		糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
		糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
		食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
		先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
		先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
		体験的農業生産学入門	1後③～④		1			○							兼1	集中
		農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
		農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
		食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
		作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
		農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
		企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○								兼1	
		企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○								兼1	
		サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○							兼2	集中
		セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○							兼1	集中
		セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○							兼1	集中
		セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○							兼1	集中
		分子の科学	1後③～④		2		○								兼1	集中
		「留学」考	1後③・④		1		○								兼1	集中
		Japan in Global Society	1後④		1		○								兼1	
		アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○								兼1	
		アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○								兼1	
		伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○								兼1	
		少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○								兼1	
		小計（71科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0	0	兼44	
	高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の歴史B	2前①・②		1		○								兼1	
		科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○								兼1	
		脳情報科学入門	3前①・②		1		○								兼1	
		認知心理学	2後③・④		1		○								兼1	
		Brain and Mind	2後③・④		1		○								兼1	
		機械学習と人工知能	2後③・④		1		○								兼1	
		現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
		現代史Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
		現代史Ⅲ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		現代史Ⅳ	2後③～④		2		○								兼1	隔年
		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②		2		○								兼1	
		技術と産業・企業	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○								兼1	隔年
		金融と経済	2後③～④		2		○								兼1	
		サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○								兼1	
		芸術学概論	3前①・②		1		○								兼1	

		音楽・音響論	2後③～④		2		○										兼1	
		デザインと観察	2前①～②		2		○										兼1	
		環境問題と自然科学	2後③～④		2		○										兼1	
		環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○										兼1	
		グリーンケミストリー	2後③～④		2		○										兼1	
		自然災害と防災	2後③～④		2		○										兼1	
		生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○										兼1	隔年
		生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○										兼1	隔年
		男女共同参画	2後③・④		2		○										兼1	
		ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○								兼1	
		ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○								兼1	
		インターンシップⅠ	2通		1				○								兼1	
		インターンシップⅡ	2通		1				○								兼1	
		漢方医薬学	3前①・②		1		○										兼1	集中
		チーム医療演習	3前①・②		1			○									兼1	集中
		バイオインフォマティックス	3前①・②		2		○										兼1	集中
		臨床イメージング	2後③・④		1		○										兼1	
		社会と健康	3前①・②		2		○										兼1	
		国際保健と医療	2後③～④		2		○										兼1	
		アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○										兼1	集中
		地球の進化と環境	2後③～④		2		○										兼1	
		生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○										兼1	
		生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○										兼1	
		遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○										兼1	
		バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○										兼1	隔年
		平和と安全の構築学	2後③・④		1		○										兼1	
		文化と社会の理論	2前①～②		2		○										兼1	
		東アジアと日本－その歴史と現在－	2前①～②		2		○										兼1	隔年
		法文化学入門	2前①～②		2		○										兼1	隔年
		法史学入門	2前①～②		2		○										兼1	隔年
		ローマ法史	2前①～②		2		○										兼1	
		アジア共同体入門	2後③～④		2		○										兼1	
		プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○									兼1	集中
		レトリック基礎	2前①・②		1			○									兼1	集中
		共創発想法	2後③・④		2			○									兼1	
		データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○	※									兼1	※演習
		技術と倫理	2後③・④		1		○										兼1	
		医療における倫理	2前①～②		2		○										兼1	
		研究と倫理	3前①・②		1		○										兼1	
		インフォームドコンセント	3前①・②		1		○										兼1	集中
		薬害	3前①・②		1		○										兼1	集中
		臨床倫理	3前①・②		1		○										兼1	集中
		アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○										兼1	
		アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○										兼1	
		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○										兼1	
		アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○										兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○										兼1	
		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○										兼1	
		リスクマネジメント	2後③～④		2		○										兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○										兼1	
		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○										兼1	
		社会統計学Ａ	3前①・②		1			○									兼1	
		社会統計学Ｂ	3前①・②		1			○									兼1	
		社会調査法ＩＡ	2前①・②		1			○									兼1	
		社会調査法ＩＢ	2前①・②		1			○									兼1	
		社会調査法ⅡＡ	2後③・④		1			○									兼1	

		社会調査法ⅡB	2後③・④		1			○							兼1	
		教育学特論	2前①～②・後③～④		2		○								兼2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○								兼1	
		日本国憲法	3前①・②		2		○								兼2	
		小計（81科目）	－	0	120	0	－		0	0	0	0	0	兼59		
		小計（286科目）	－	32	345	0	－		9	5	0	5	0	兼448		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	必修科目	常微分方程式	2前①～②	2			○								兼2	
		複素関数論	2後③～④	2			○								兼2	
		フーリエ解析と偏微分方程式	2後③～④	2			○								兼2	
		機械航空工学卒業研究	4通	6					○	23	23		15		兼2	
		材料力学Ⅰ	1後④	1			○			1	1					
		材料力学Ⅱ	2前①	1.5			○			1	1					
		材料力学Ⅲ	2前②	1.5			○	※		1	2					※演習
		材料力学Ⅳ	2後③	1			○				2					
		機械工学・航空宇宙工学序論	1前①～②	2			○			2						オムニバス
		小計（9科目）	－	19	0	0	－			23	23	0	15	0	兼7	
	選択科目	応用複素関数論	3前①～②		2		○								兼2	
		力学Ⅰ	2後③～④		2		○			2	2		3			
		電気工学基礎	2後③～④		2		○								兼1	
		電子情報工学基礎	2後③～④		2		○								兼1	
		情報処理概論	2後③～④		2		○			1						
		日本語コミュニケーション	4前①～②		1		○	※							兼1	
		工業マネジメント	4前①～②		2		○								兼2	集中
		機械要素設計製図Ⅰ	2後④		0.5				○		2					
		機械要素設計製図Ⅱ	3前①		0.5				○	1	2					
		創造設計	3前①～②		1		○	※			2		1			※演習
		機械工学設計製図	3後③～④		1				○		3					
		機械工学実験第一	3前①～②		1				○	1	6		4			
		機械工学実験第二	3後③～④		1				○		3		7			
		機械力学Ⅰ	2前②		1.5		○	※		2	2		3			※演習
		機械力学Ⅱ	2後③		1.5		○	※		2	2		3			※演習
		機械力学Ⅲ	2後④		1.5		○	※		2	2		3			※演習
		機械力学Ⅳ	3前①		1.5		○	※		2	2		3			※演習
		機械振動学Ⅰ	3後③		1		○			2	2		3			
		機械振動学Ⅱ	3後④		1		○			2	2		3			
		機械設計Ⅰ	2後③		1.5		○	※			2		1			※演習
		機械設計Ⅱ	2後④		1.5		○	※			2		1			※演習
		機械要素Ⅰ	3前①		1		○				1					
		機械要素Ⅱ	3前②		1		○				1					
		流れ学Ⅰ	2前①		1.5		○	※		2	2		1			※演習
		流れ学Ⅱ	2前②		1.5		○	※		2	2		1			※演習
		流体力学Ⅰ	2後③		1.5		○	※		2	2		1			※演習
		流体力学Ⅱ	2後④		1.5		○	※		1	2		1			※演習
		応用流体工学	3前①		2		○			1						
		熱力学Ⅰ	2前①		1.5		○	※		2	1		1			※演習
		熱力学Ⅱ	2前②		1.5		○	※		2	1		1			※演習
		伝熱学Ⅰ	2後③		1.5		○	※		1	1					※演習
		伝熱学Ⅱ	2後④		1.5		○	※		1	1					※演習
		内燃機関Ⅰ	3前①		1		○			1						
		内燃機関Ⅱ	3前②		1		○			1						
		熱エネルギー変換Ⅰ	3後③		1		○			1			1			
		熱エネルギー変換Ⅱ	3後④		1		○				1					
		燃焼学Ⅰ	3後③		1		○			1	1					
		燃焼学Ⅱ	3後④		1		○			1	1					
		機械製作法Ⅰ	2後④		2		○			1						
		機械工作実習Ⅰ	2後③		1				○	2			2			
		機械工作実習Ⅱ	2後④		1				○	2			2			
		機械製作法Ⅱ	3前①		2		○			1						
		加工機器・精密測定法	3後③		2		○			1						
		システム工学	3前②		2		○			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	システム制御Ⅰ	3後③		2		○			1	1					
	システム制御Ⅱ	3後④		2		○			1	1					
	機械材料Ⅰ	2後③		1		○			1						
	機械材料Ⅱ	3前①		1		○				1					
	弾性力学A	2後④		1		○				2					
	弾性力学B	3前①		1		○				2					
	弾性力学Ⅰ	2後④		1		○				2					
	弾性力学Ⅱ	3前①		1		○				2					
	数値解析基礎	3前①		2		○			1					兼1	
	数値解析応用	3後③		1		○			1					兼1	
	ロボティクスⅠ	3後③		1		○			1						
	ロボティクスⅡ	3後④		1		○				1					
	生体工学基礎	3後③		2		○			2	4				兼1	
	水素工学基礎	3前①		2		○			2	1				兼2	
	数理統計学概論	3後③～④		2		○								兼2	
	機械工学特別講義第一	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第二	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第三	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第四	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第五	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第六	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第七	4前①～②		0.5		○			1						
	機械工学特別講義第八	4前①～②		0.5		○			1						
	基礎設計製図	2後③～④		1				○						兼1	
	航空宇宙機設計製図	3前①～②		1				○				5			共同
	航空宇宙工学実験	3後③～④・4前①～②		2				○				5			共同
	エネルギー変換基礎論ⅠA	2前①		1		○				1					
	エネルギー変換基礎論ⅠB	2前②		1		○				1					
	エネルギー変換基礎論Ⅱ	3前①		2		○				1					
	ジェットエンジン工学	3前②		2		○				1					
	航空流体力学Ⅰ	2後③		2		○			1						
	航空流体力学Ⅱ	2後④		2		○			1						
	気体力学	3前①		2		○				1					
	航空宇宙基礎物理学A	3後③		1		○			1						
	航空宇宙基礎物理学B	3後④		1		○			1						
	構造振動学A	2前①		1		○			1						
	構造振動学B	2前②		1		○			1						
	航空宇宙機振動学A	3後③		1		○			1						
	航空宇宙機振動学B	3後④		1		○			1						
	基礎構造力学A	3前①		1		○			1						
	基礎構造力学B	3前②		1		○			1						
	応用構造力学A	3後③		1		○			1						
	応用構造力学B	3後④		1		○			1						
	航空宇宙機材料学A	4前①		1		○			1						
	航空宇宙機材料学B	4前②		1		○			1						
	誘導・制御基礎論Ⅰ	3前①		2		○			1						
	誘導・制御基礎論ⅡA	3後③		1		○			1						
	誘導・制御基礎論ⅡB	3後④		1		○			1						
	飛行制御論A	4前①		1		○				1					
	飛行制御論B	4前②		1		○				1					
	飛行力学Ⅰ	3前①		2		○				1					
	飛行力学ⅡA	3後③		1		○				1					
	飛行力学ⅡB	3後④		1		○				1					
	軌道力学	3前①		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		航空宇宙機設計論A	4前①		1				○	1						
		航空宇宙機設計論B	4前②		1				○	1						
		ロケット工学	3前②		2		○				1					
		人工衛星工学	3前②		2		○			1						
		航空宇宙伝熱学A	2後③		1		○			1						
		航空宇宙伝熱学B	2後④		1		○			1						
		宇宙利用学A	3後③		1		○			1	1					オムニバス
		宇宙利用学B	3後④		1		○			1	1					オムニバス
		航空工学特別講義	4前①～②		1		○								兼1	集中
		宇宙工学特別講義	4前①～②		1		○								兼1	集中
		航空宇宙機設計生産システム	4前①～②		1		○								兼1	集中
		ジェットエンジン構造設計	4前①～②		1		○								兼1	集中
		航空機運用・整備	4前①～②		1		○								兼1	集中
		宇宙環境制御システム	3後③～④		1		○								兼1	集中
		工学倫理	4前①～②		1		○			1						
		テクノロジー・マーケティング	3前②		2			○							兼1	
		小計（114科目）	－	0	145	0	－			23	21	0	18	0	兼20	
	参考科目	積分論の基礎	3前①～②・4前①～②			2	○								兼1	
		関数解析の基礎	3後③～④・4後③～④			2	○								兼1	
		抽象代数学の基礎	3前①～②			2	○								兼1	
		品質管理	3後③～④・4後③～④			2	○								兼1	
		応用確率論	3後③～④			2	○								兼1	
		日本産業論	3後③～④			2	○								兼1	
		工学解析・計画概論	4前①～②			2	○			1						
		産業活動実習Ⅰ	3前①～②			1			○	2						
		産業活動実習Ⅱ	3後③～④			1			○	2						
		国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際オープンマインド入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		国際コラボレーション入門	2・3・4後③～④			4			○						兼2	
		小計（12科目）	－	0	0	28	－			3	0	0	0	0	兼7	
	小計（135科目）		－	19	145	28	－			24	24	0	21	0	兼29	
合計（421科目）			－	51	490	28	－			24	24	0	21	0	兼477	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から82単位以上を修得し、130.5単位以上修得すること。 1.基幹教育科目　48.5単位以上 (a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞基幹教育セミナー（1単位） (b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞課題協学科目（2.5単位） (c)言語文化科目(12単位以上修得) ＜必修科目＞学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレイト（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d)文系ディシプリン科目（4単位以上修得） (e)理系ディシプリン科目（20.5単位以上修得） ＜必修科目＞微分積分学・同演習Ⅰ（1.5単位） 微分積分学・同演習Ⅱ（1.5単位） 線形代数学・同演習A（1.5単位） 線形代数学・同演習B（1.5単位） 基幹物理学ⅠA（1.5単位） 基幹物理学ⅠA演習（1単位） 基幹物理学ⅠB（1.5単位） 力学演習（1単位） 無機物質化学（1.5単位） 図形科学（1.5単位） 空間表現実習Ⅰ（2単位） プログラミング演習（1単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 微分積分学・同演習Ⅲ（1.5単位） 無機物質化学（1.5単位） (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g)健康・スポーツ科目（1単位以上修得） ＜必修科目＞健康・スポーツ科学演習（1単位） (h)総合科目（1.5単位以上修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位以上修得） (j)その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、4.5単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分
2.専攻教育科目　82単位以上 (a)必修科目（19単位修得） (b)選択科目（63単位以上修得）		

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部電気情報工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し、工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し、安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気情報工学入門	電気情報工学分野における最先端の研究内容を簡明に講義し、今後の学習の動機づけを行う。学生は、電気情報工学科での今後の学びについてのオリエンテーションを受けた後、本学科を担当する教員の複数の研究室を訪問し、各研究室で行われている研究内容について、実験装置やソフトウェア等を前にしながら概要講義を受ける。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気情報数学Ⅰ	本講義では、「ベクトル解析」を学ぶ。授業時間の前半を講義にあて、後半の演習問題を解くことで、種々の問題を実際に解く力を身につける。ベクトル解析は電磁場など多くの物理量がベクトルで表現されることから、その数学的な取り扱いを修得しておくことは重要である。まず、ベクトル代数、空間曲線、曲面の取り扱いを通じベクトルに習熟する。その後、スカラー場の勾配、ベクトル場の発散、回転、さらに積分定理によりベクトル解析を学ぶが、特にその物理的意味に重点を置いて説明する。 1. ベクトルとベクトル関数 2. スカラー場・ベクトル場と微分形式 3. 線積分と面積分 4. 積分定理 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気情報数学Ⅱ	本講義では、「フーリエ解析」を学ぶ。授業時間の前半を講義にあて、後半の演習問題を解くことで、種々の問題を実際に解く力を身につける。フーリエ解析は、工学のほとんどの分野に現れる重要な解析手段であり、その数学的取り扱いを理解しておくことは重要である。数学的に厳密な理解には、複素関数論の知識を必要とするため、本講義では物理的意味に重点を置いて説明する。 1. 直交関数とフーリエ級数展開 2. フーリエ級数展開の計算例と応用 3. フーリエ変換と逆変換 4. フーリエ変換の性質 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	回路理論Ⅰ	電気回路とは、何種類かある回路素子を幾つかつなぎあわせてできたものである。電気工学、通信工学、情報工学などの各分野においては、電気回路が直接、間接、常に現れるので、回路の理論を理解することは、これらの技術分野に関係する人にとって最も基本的な条件である。本講義では、抵抗、キャパシタ（コンデンサ）、インダクタ（コイル）、変成器、電源等の回路素子の性質と、回路素子やその接続点における電流や電位などを問題にして、電気回路がどのように働くかを学ぶ。 1 回路の変数と回路の法則（回路素子、電源、交流、回路素子における電力とエネルギー、キルヒホッフの電流則と電圧則、直流電流源と直流電圧源） 2 回路と微分方程式（L・R・Cの直列回路、機械系・音響系との類推、定常解の計算） 3 正弦波と複素数（複素数、フーリエ級数とフーリエ積分、正弦波とフェーザ） 4 交流回路と計算法（インピーダンスとアドミタンス、電力） 5 直並列回路と共振回路（直並列回路、共振回路、ブリッジと定抵抗回路） （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	回路理論Ⅱ	本講義では先ず、二つの端子対を持つ回路をブラックボックスと見る見方を説明し、かつ各種の特性表現法を与える。また、2端子対網について、その相互接続、伝送的性質の計算等について学び、より複雑な伝送回路解析の基礎を身につける。さらにトランジスタ、演算増幅器等の能動回路の等価回路、従属電源の性質とその回路的な取り扱いについて講述する。更に、回路解析の基本法則であるキルヒホッフの法則と回路の接続情報を定式化するためのグラフ理論を説明する。次に与えられた回路の動作、すなわち回路の各部の電圧、電流を求めるための回路方程式の立て方を与える。回路に関する幾つかの重要な定理を通して、回路解析に対する理解を深める。 （*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	論理回路	デジタル情報処理を支えるデジタル回路の構成法として、組み合わせ回路および順序回路について解説する。CMOSとトランジスタによって構成される基本論理素子を組み合わせて、任意の論理関数および有限順序機械を論理回路として実現できる能力を身に付けることを目標とする。 1. アナログとディジタル 2. ブール代数と論理関数 3. 論理関数の表現 4. MOS トランジスタの機能とCMOS論理と基本論理ゲート 5. 論理式の最小化 6. 組み合わせ論理回路の設計 7. 組み合わせ回路と順序回路 8. フリップフロップと記憶 9. 有限状態機械:状態遷移表、状態遷移図、自動販売機の例 10. 有限状態機械の状態数の最小化 11. 同期式順序回路による有限状態機械の実現 12. 同期式順序回路の設計 13. 算術演算回路の設計 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	プログラミング論	本講義では、プログラムを作成するための基本的な知識と技術を身につける。プログラミングの目的は、データおよびその処理手順であるアルゴリズムを見つけ、そのアルゴリズムに沿った計算のプロセス全体を定式化し、プログラミング言語を用いて書き下すことである。本講義の内容は本質的に言語非依存であるが、簡潔で正しいプログラム作成を習得可能な言語Scheme を用いる。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	プログラミング演習Ⅰ	良いプログラムを書く能力を身に付けることは非常に重要であり、プログラム作成時の無駄な労力を省いたり、プログラムのミスによるさまざま問題を回避することに役に立つ。本演習では、手本となる良いプログラムをじっくりと解説するので、そこから、プログラムをする上で役に立つさまざまな技術を学び取って欲しい。言語としては、UNIX オペレーティングシステム等で広く使われている C言語を用いるが、市販の解説書によくあるような単なる文法解説を行なうので無く、背後にある「プログラムする上での考え方」を重視する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	コンピュータアーキテクチャⅠ	コンピュータの基本動作原理と、それを実現する構成要素の理解を目的とする。特に、コンピュータの主要構成要素であるマイクロプロセッサに焦点をあて、ハードウェア／ソフトウェア・インタフェースとなる命令セットの概念を理解し、、プログラムがコンピュータ上で実行される原理を理解する。また、メモリシステムにも焦点を当て、コンピュータシステム全体としての性能決定要因を学習し、コンピュータシステムに存在するトレードオフを解析する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	データ構造とアルゴリズムⅠ	プログラムの作成能力を高めるには、データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関する知識が重要である。データ構造とアルゴリズムに関する基本知識（グラフや行列などの基本データ(構造)の格納方法とアクセス方法など）、およびアルゴリズムの計算量（計算の複雑さの尺度、漸近的アルゴリズム解析、上界O記法、下界Ω記法、Θ記法）、そして文字列照合について講義を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	データ構造とアルゴリズムⅡ	プログラムの作成能力を高めるには、データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関する知識が重要である。本講義では、データ構造とアルゴリズムIの後を受けて、リスト、スタック、 キュー、木といった基本的データ構造とそれを操作するアルゴリズム(整列(バブルソート、クイックソート、マージソート、ヒープソート)、探索(線形探索、2分探索、ハッシュ、B木、幅優先、深さ優先))に関して講義を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） 電気情報工学科卒業後の仕事の内容を理解し、在学中の学習の動機付けを行うために、複数の学内教員による講義を行う。また、クラス担当教員の研究室において学習指導を受ける。 （オムニバス方式　全９回） （12 川崎 洋／１回） 計算機工学分野の研究内容を講義する。 （31 湯浅(福澤) 裕美／１回） 電子通信工学分野の研究内容を講義する。 （23 末廣 純也／１回） 電気電子工学分野の研究内容を講義する。 （152 竹内 純一、9 興 雄司、13 川邊 武俊、6 内田 誠一、15 木村 俊二、21 庄山 正仁、2 池上 浩、4 井上 弘士、1 荒川 豊、55 山内(来嶋) 由紀子、44 多喜川 良、37 小野 貴継、46 田中 輝光、347 堀　磨伊也／６回（それぞれ、自身の担当クラスのみを担当する。）） 各研究室の研究内容について講義するとともに、研究室における、学習指導を行う。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	ディジタル電子回路Ⅰ	今日の電子情報通信技術の発展を支えているのは、コンピュータに代表される、高速高精度に信号をディジタル処理する多様な装置の存在である。ディジタル信号処理装置の構成は、コンピュータのような規模の大きなものから，特定の機能のみを果たす比較的規模の小さなものまで多岐にわたるが、それらの主要部は2値論理と論理演算を高速に実行する多数の論理ゲート回路と記憶素子からなっている。ディジタル電子回路Ⅰにおいては、ディジタル電子回路の基本要素となるディジタル情報の取り扱いの基礎、電子回路によってディジタル信号処理を実現するスイッチング素子の構造と動作原理、基本論理ゲートの回路構成と動作原理、および論理ゲートの動作解析とスイッチング特性について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	ディジタル電子回路Ⅱ	今日の電子情報通信技術の発展を支えているのは、コンピュータに代表される、高速高精度に信号をディジタル処理する多様な装置の存在である。ディジタル信号処理装置の構成は、コンピュータのような規模の大きなものから、特定の機能のみを果たす比較的規模の小さなものまで多岐にわたるが、それらの主要部は、2値論理と論理演算を高速に実行する多数の論理ゲート回路と記憶素子からなっている。ディジタル電子回路Ⅱにおいては、論理ゲートにより構成される組み合わせ論理回路の設計と構成、記憶素子の構成と動作解析、コンピュータの基本原理となる順序回路の設計と解析について講義する。さらに、ディジタル電子回路の規模の拡大によって発生する電力消費と高速化に関する諸問題とその対応法について講義する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	常微分方程式とラプラス変換	以下の内容を、クラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 一階の常微分方程式 2. 解の存在と一意性 3. 線形常微分方程式の一般的性質 4. （定数係数）線形常微分方程式の解法 5. （定数係数）連立線形常微分方程式の解法 6. ラプラス変換の定義・例・性質 7. ラプラス変換の応用 8. デルタ関数などについて （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学基礎実験	講義科目で学んだことを活かして実際的課題を解決するためには、知識を持っているだけでなく、体験によって解決能力を養うことが必要である。また、体験はさらなる知識修得への動機づけともなる。本実験では、電気情報工学科に共通する内容を題材とし、体験による講義内容のさらなる理解と、そのために必要な計測技術の体得を目的として、以下の実験テーマについて実験を行なう。同時に、実験の計画を立て、共同で実験を実施し、プレゼンテーションを行うことにより、計画性、実行力、協調的精神、表現・伝達能力をも養う。なお、実験に先立ち、実験を行なう際に不可欠な測定値と誤差の取扱いについての講義を行う。 1 LCR回路の周波数特性と過渡応答 2 ブリッジ回路 3 ダイオードとセンサ 4 論理回路 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学セミナーA	電気情報工学分野における最先端の研究の一端に接することにより、課題を設定してその解決に必要なことを自ら学ぶ目的指向型アクティブラーニングの方法を学ぶ。学生は電気情報工学科を担当する教員の研究室を一つ選び、その研究室で行われている研究の一部あるいは研究に関連する初歩的内容を演習として実施する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学セミナーB	電気情報工学分野における最先端の研究の一端に接することにより、課題を設定してその解決に必要なことを自ら学ぶ目的指向型アクティブラーニングの方法を学ぶ。学生は電気情報工学科を担当する教員の研究室のうち、電気情報工学セミナーAで選択した研究室とは異なる研究室を一つ選び、その研究室で行われている研究の一部あるいは研究に関連する初歩的内容を演習として実施する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	アナログ電子回路Ⅰ	アナログ電子回路Ⅰでは、ダイオードやトランジスタ等、半導体素子の基本特性、及びそれらを使用した回路の解析法・設計法の基礎について、アナログ増幅回路を中心に説明する。アナログ電子回路は電気回路を基礎としているが、さらに、等価回路を用いた考え方、適当な近似による計算の簡略化等、アナログ電子回路に特有の解析手法を修得する必要がある。以下に講義内容を示す。 1 アナログ電子回路に必要な電気回路の基礎 2 半導体とダイオード 3 ダイオード整流回路 4 トランジスタの基礎特性 5 電界効果トランジスタ （*国際コースでも開講）	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	アナログ電子回路Ⅱ	アナログ電子回路Ⅱでは、ダイオードやトランジスタ等、半導体素子の基本特性,及びそれらを使用した回路の解析法・設計法の基礎について、アナログ増幅回路を中心に説明する。アナログ電子回路は電気回路を基礎としているが、さらに,等価回路を用いた考え方、適当な近似による計算の簡略化等、アナログ電子回路に特有の解析手法を修得する必要がある。以下に講義内容を示す。（アナログ電子回路Ⅰに引き続き） 1 トランジスタ増幅回路(1)（回路構成、バイアス安定化） 2 トランジスタ増幅回路(2)（小信号等価回路、hパラメータ） 3 トランジスタ増幅回路(3)（利得、周波数特性、入出力インピーダンス） 4 電力増幅回路 5 差動増幅回路 6 オペアンプ回路(1)（オペアンプの内部構成、周波数特性、反転・非反転増幅回路、加減算回路、電流電圧変換回路） 7 オペアンプ回路(2)（微分・積分回路、アクティブフィルタ） （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	アナログ電子回路Ⅲ	アナログ電子回路Ⅰ、Ⅱを基礎とし、これに引き続きアナログ電子回路の解析法・設計法を説明する。オペアンプ回路や正弦波発振回路については、帰還制御理論の考え方が含まれており、回路と制御の概念が合体するところである。また、回路の非線形性を積極的に利用し、波形の発生や各種の波形操作を行う非線形回路(パルス回路)についても説明する。アナログ電子回路Ⅲでは、オペアンプ回路や正弦波発振回路を中心に講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	アナログ電子回路Ⅳ	アナログ電子回路Ⅰ、Ⅱを基礎とし、これに引き続きアナログ電子回路の解析法・設計法を説明する。オペアンプ回路や正弦波発振回路については、帰還制御理論の考え方が含まれており、回路と制御の概念が合体するところである。また、回路の非線形性を積極的に利用し、波形の発生や各種の波形操作を行う非線形回路(パルス回路)についても説明する。アナログ電子回路Ⅳでは、非線形回路を中心に講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	情報理論I	情報は、物質、エネルギーと並んで、近代科学で取り扱う3大要素である。物質やエネルギーにはその「量」を測る単位が定義され、効率的な変換・加工、保存、輸送等の理論が構築されている。「知」の対象である情報に対して、単位を定義し、効率よい表現、伝送・記憶等の方式を追求するための基礎を与えてくれるのが情報理論である。まず、確率の概念に基づいて、文字や記号などの離散的情報の量を測る単位として「ビット」を定義し、その性質について整理する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	情報理論Ⅱ	情報理論Iの内容を踏まえた発展系として、符号化理論に関して説明する。具体的には、情報の単位「ビット」を用いて、情報表現(符号化）の効率、伝送・記憶の効率の評価法、雑音に対して強い伝送・記憶方式の理論などを展開する。特に、情報の伝送・記憶の効率の定量的な限界を明確にする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	ディジタル信号処理Ⅰ	ディジタル的な処理手法によって信号を処理するディジタル信号処理技術は、高精度、高信頼性、処理の柔軟さなど、多くの利点をもっており、現在では幅広い分野で共通的な信号処理手法として利用されている。本講義では、ディジタル信号処理を理解し、活用するための基礎的な理論を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	ディジタル信号処理Ⅱ	ディジタル的な処理手法によって信号を処理するディジタル信号処理技術は、高精度、高信頼性、処理の柔軟さなど、多くの利点をもっており、現在では幅広い分野で共通的な信号処理手法として利用されている。本講義では、ディジタル信号処理Ⅰに引き続いてディジタル信号処理を理解し、活用するための基礎的な理論を学んだ上で、各分野での応用に備えて知識を拡充させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用 （*国際コースでも開講）	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学実験Ⅰ	電気情報工学基礎実験を履修した学生を対象に，以下に示すいずれかの分野の基礎的な実験を行い，体験によって知識を修得し理解を深めるとともに，機器の取扱いを修得する。さらに，実験結果や考察をレポートにまとめることによって，報告書作成の基本的方法を学ぶ。 Ⅰ．計算機工学分野 1 論理回路の設計，2 マイクロプロセッサの動作理解，3 ハードウェア記述言語を用いたマイクロプロセッサの設計，4 マイクロプロセッサの設計検証 Ⅱ．電子通信工学分野 1 演算増幅器，2 発振器，3 マルチバイブレータ，4 トランジスタ増幅器，5 フィルタ，6 太陽電池，7 ホール素子，8 振幅変調及び周波数変調 Ⅲ．電気電子工学分野 1 変圧器と三相誘導電動機，2 同期機と直流機，3 演算増幅器，4 発振器，5 マルチバイブレータ，6 トランジスタ増幅器，7 フィルタ，8 太陽電池 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学実習	本学科で学修する内容が、企業あるいは研究機関においてどのように活用されているか、あるいはどのように関連するのかを実地に経験し、これを学修と将来設計に活かすために、企業あるいは研究機関において２週間以上の実習またはインターンシップを実施する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気情報工学実験Ⅱ	電気情報工学基礎実験，電気情報工学実験Ⅰ を履修した学生を対象とし，以下に示すいずれかの分野の基礎的ではあるが実践に近い実験を行うことによって体験を通して知識を修得し理解を深めるとともに，システムの構成・製作・制御法及び計器の取り扱いを習得する。さらに，実験結果や考察をレポートにまとめることによって，報告書作成の基本的方法を学ぶ。 Ⅰ 計算機工学分野 1 簡易OSプログラムの設計と作成，2. 協調して稼働する情報システムを実現するプログラムの作成 Ⅱ．電子通信工学分野 1 プラズマの制御，2 システム制御，3 ディジタル伝送実験，4 レーザ光の回折・干渉，5 アンテナ実験，6 磁気異方性，7 ICの製作/MOSFET Ⅲ．電気電子工学分野 1 プラズマの制御，2 システム制御，3 パワーエレクトロニクス制御，4 高電圧･パルスパワー，5 スイッチングレギュレーターの制御特性，6 ディジタル伝送実験 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	離散数学Ⅰ	離散数学は，情報科学を学ぶ上での基礎であり，現実世界の現象を計算機上で扱うためのモデル化や計算機の振る舞いの理解に役立つ．本講義では，論理，集合演算，背理法と数学的帰納法，関係，写像といった，離散数学の基礎を学び，数学的な思考を身に付ける．また，計算可能性などとも密接に関連する無限集合の濃度について学ぶ．。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	離散数学Ⅱ	本講義では，確率統計Iでも学んだ基礎的な確率論に基づき，推定，検定，回帰などの統計的手法について，不偏推定，最尤推定，区間推定，仮説検定，線形回帰，ベイズ推定などの統計学の基礎を概説する．基礎的な統計技法の概念を理解し，これらの統計手法の使い方を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気エネルギー工学通論Ⅰ	本講義では，社会に欠かせないものとなっている電気エネルギーの発生・輸送・利用のために，電気エネルギー変換工学について扱う。具体的には，電気エネルギーの発生・輸送・利用が，電気エネルギーの変換を通して行われており，それを実現する発電機，変圧器，電動機などの電気機器およびパワーエレクトロニクス回路はさまざまな場面で利用されていることを述べる。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気エネルギー工学通論Ⅱ	本講義では，社会に欠かせないものとなっている電気エネルギーの発生・輸送・利用のために，電気エネルギーシステム工学について扱う。電気エネルギーの発生・輸送を適切かつ経済的に行うためには各種の計画・運用・制御が必要である。このため今講義では，電力システムが，発電・送電設備に加え，コンピュータ，電力用半導体デバイス，通信ネットワークなどをオンラインで使用する大規模複雑システムとなっていることを述べる。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁気学Ⅰ	電磁気学は、電気・電子・情報工学の基礎となる物理学の一つで、電気情報工学科に進む学生にとって最も基礎的な学科目の一つである。電磁気学は真空中及び導体を含む系に存在する電荷による静電界にはじまりマクスウェル電磁方程式に至る古典電磁気学の体系が講じられる。 本講義ではその第一段階として、導体を含む真空中の静電界の解析について学ぶ。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁気学Ⅱ	電磁気学では、真空中及び導体を含む系に存在する電荷による静電界にはじまりマクスウェル電磁方程式に至る古典電磁気学の体系が講じられるが、電磁気学IIでは、電磁気学Iで学んだ導体を含む真空中の静電界の解析に、引き続き誘電体の誘電分極、電束密度、誘電体の境界条件、境界値問題について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁気学Ⅲ	電磁気学は、物質の電気的現象や磁気的現象を理解するために必要な学問であり、これらの現象を工学的に利用する電気・電子・情報工学では最も基本的な授業科目の一つである。またその基礎知識は電気情報工学科で修得する他の講義を理解する際に重要となる。 本講義では電磁気学Ⅰ、Ⅱに引き続き、物質の磁気現象と電磁現象を理解するための基礎について学ぶ。 1 磁性体(物質の磁化) 2 磁性体中での基本方程式 3 磁性体中の磁界の計算(1)(一様磁界中の球磁性体、磁気シールド) 4 磁性体中の磁界の計算(2)(磁気回路) 5 電磁誘導の法則(1)(静止系の電磁誘導則) 6 電磁誘導の法則(2)(回路の運動による電磁誘導、電磁誘導起電力の計算)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁気学Ⅳ	電磁気学は物質の電気的現象や磁気的現象を理解するために必要な学問であり、これらの現象を工学的に利用する電気・電子・情報工学では最も基本的な授業科目の一つである。またその基礎知識は電気情報工学科で修得する他の講義を理解する際に重要となる。 本講義では電磁気学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続き、物質の磁気現象と電磁現象を理解するための基礎について学ぶ。 1 磁界のエネルギー 2 磁気力 3 マクスウェル方程式と変位電流 4 準定常電磁界(1)(波動方程式と拡散方程式、表皮効果) 5 準定常電磁界(2)(集中定数回路と分布定数回路) 6 波動方程式と電磁波	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	信号とシステムI	信号処理は、音声・画像処理、通信、制御、計測などの工学分野だけでなく、医用、経済など幅広い分野で必要不可欠な必須技術であり、その重要性はますます増大している。この信号処理技術を支える基盤が信号の理論とシステムの理論である。信号とシステムは連続時間の場合と離散時間の場合があるが、理論を理解し実感として体得するには、物理的に対応性の良い連続時間の場合が便利であることから、本講義では、連続時間の信号とシステムを取り上げて、フーリエ変換、ラプラス変換、サンプリング定理について論じる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	信号とシステムⅡ	本講義では、信号とシステムIに引き続き、離散時間の信号とシステムについて取り上げる。具体的には、基本的な信号処理手法として、離散フーリエ変換、z変換、D変換、について説明し、さらに離散的システムの基本的構成法である、順序回路について論じる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	計測工学BI	計測とは、種々の物理量を数値で表し、事象に対する諸量の関係を定量的に明らかにする操作であり、工学、自然科学の基礎として極めて重要である。近年特に、IoTに代表されるように情報通信技術との融合によって、その適用範囲と重要性が飛躍的に拡大している。本講義では、第一歩として、信頼性の高いデータを得るための基礎となる計測器の、基本的な動作原理について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	計測工学BⅡ	本講義では、「計測工学BI」に引き続き、工学、自然科学の基礎として極めて重要な計測に関して、特に各種電磁気量の測定法について学習する。具体的には、波形の測定、周波数の測定、および位相の測定について説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	通信方式Ⅰ	アナログおよびディジタル信号の伝送方式について講義を行う。導入として、信号の表現、スペクトル、雑音、線形システムなどの基礎概念を簡単に履修する。「信号とシステム」の課目を履修していることが望ましい。ディジタル伝送の基礎知識として、パルス波形伝送、誤り率、整合フィルタ(相関受信)の概念を学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	通信方式Ⅱ	本講義では、通信方式Ⅰで学んだ内容を踏まえながら、アナログ変調と復調(変調方式、スペクトル、回路、復調方式、回路、S/N)、ディジタル変調と復調方式（変調方式（PSK,、QAM)、スペクトル、復調方式、誤り率）の説明を行う。最後に多重伝送について、それぞれの特長とシステムへの応用事例について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	通信ネットワークI	通信ネットワークはIT(情報技術)を支える基盤技術の一つである。本講義では通信ネットワークの基礎となる伝送システム、交換方式、回線交換、パケット交換、トラフィック理論について簡潔に述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	通信ネットワークⅡ	通信ネットワークはIT(情報技術)を支える基盤技術の一つである。本講義では通信ネットワークの基礎となるネットワークアーキテクチャ、伝送制御、OSI参照モデル、LAN、インターネットについて簡潔に述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	数理計画法I	最適化問題を解く手法として数理計画法の基礎を理解し、それを応用する力を身につけることを目標とする。特に、問題の定式化手法の習得を目指す。更に、定式化された問題を解く際の最適なアルゴリズムの選択、あるいは設計の重要性を理解する。具体的には、数理計画法、線形計画（定式化、シンプレックス法、双対定理、感度分析）、ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題、最小費用流問題）について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	数理計画法Ⅱ	数理計画法Iに続き、最適化問題を解く手法として数理計画法の基礎を理解し、それを応用する力を身につけることを目標とする。特に本講義では、非線形計画問題（制約なし最適化問題、最急降下法、ニュートン法、制約付き最適化問題）および組合せ計画（欲張り法、分枝限定法、動的計画法）について理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	制御工学AⅠ	装置・システムを希望通りに動作させるフィードバック制御の考えは、電気・電子、機械、化学などの工学システムだけでなく、生体、社会分野にも利用されている。本講義では、フィードバック制御の考えに基づいて制御系を設計する方法について、古典制御理論の枠内で講義する。適切な制御のためには、まず相手を知り、相手に応じた制御をする必要がある。そこで本講義では、システムの数学モデルによる表現、システムの特性解析を中心に講義を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	制御工学AⅡ	制御工学AⅠに続き、古典制御理論における適切なフィードバック制御のための、制御器の設計を中心に講義を行う。具体的には、制御系の設計仕様(開ループ仕様と閉ループ仕様、外乱やパラメータ変動の影響)、補償要素、PID制御器、周波数応答による制御系設計法について述べる。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	回路理論Ⅲ	発電機、電動機等の大電力を扱う機器では、効率的に電力を送るために3本の導線を用いる3相方式が用いられている。講義ではY-Δ変換等、3相交流回路計算の具体的な方法について学ぶ。回路のスイッチが入れられる等、回路の状態が急に変化すると、電圧、電流の一時的な変動が生じるがこの変動は時間と共に減衰する。このような過渡状態を解析するための微分方程式の立て方を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	回路理論Ⅳ	回路理論Ⅲに引き続き、過渡状態を表す微分方程式を解く有力な手段の一つであるラプラス変換の手法について講述する。さらに、高周波信号において重要となる分布定数回路の取り扱い、高周波信号の伝送特性について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電子物性Ⅰ	電子物性は量子力学、統計力学、電磁気学を基礎とした非常に完成された学問である。また、この学問自体として発展するとともに、現代のエレクトロニクスや材料開発の工学分野での研究の基礎となっている。本講義では、量子力学の初歩を学び、それに引き続いて電子統計力学、固体中の電子状態に関する講義を行い、巨視的な現象としての金属・半導体・絶縁体・誘電体・磁性体等々の物性が微視的な電子レベルからどう解明されているかを講述する。 1. 古典論の破綻 黒体輻射、光の量子性、光電効果、原子内の電子 2. 量子力学(1) シュレディンガー方程式 3. 量子力学(2) 1次元箱型ポテンシャル障壁、状態密度、トンネル効果 4. 統計力学(1) カノニカル集合、フェルミ分布 5. 統計力学(2) ボーズ分布、熱電子放出 6. 電子輸送現象 (1) 電子の有効質量、ドリフト電流、オームの法則	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電子物性Ⅱ	電子物性は量子力学、統計力学、電磁気学を基礎とした非常に完成された学問である。また、この学問自体として発展するとともに、現代のエレクトロニクスや材料開発の工学分野での研究の基礎となっている。本講義では、量子力学の初歩を学び、それに引き続いて電子統計力学、固体中の電子状態に関する講義を行い、巨視的な現象としての金属・半導体・絶縁体・誘電体・磁性体等々の物性が微視的な電子レベルからどう解明されているかを講述する。（電子物性Ⅰに引き続き） 1. 電子輸送現象 (2) 拡散電流、拡散方程式,アインシュタインの関係 2. エネルギーバンド構造(1) ブロッホの定理、クローニッヒ・ペニーモデル 3. エネルギーバンド構造(2) ほとんど自由な電子による近似、ブリルアン領域の概念 4. エネルギーバンド構造(3) 金属、半導体、絶縁体の区別 5. 結晶構造 逆格子、ミラー指数、結合状態、結晶構造 6. 半導体中の電流輸送 有効質量、不純物半導体、移動度	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プログラミング演習Ⅱ	プログラミング演習で取り扱った数値計算法の原理に基づき、現在最も高度な計算環境を提供しているMathematica について学び、より高度な数値計算及び解析について知識と経験を得る。Mathematica においては、数式解析技法や微分積分計算ベクトル解析を中心に行う。 1. Mathematica の利用方法。近似値と厳密値 2. 方程式の解析的解法とベクトル・行列計算。 3. 微分方程式の解析・計算とデータの可視化 4. 偏微分方程式の計算と3D データの可視化 5. フーリエ変換と画像処理 6. 信号の標本化、量子化、符号化とデータの補間 7. 機械学習 8. 過渡現象シミュレーション(電気回路) [Mathematica] 9. 電磁界シミュレーション(電磁気) [Mathematica] 10. 機械学習による画像解析 [Mathematica] 11. 関数型プログラミングを利用したデータ処理と解析 [Mathematica]	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プログラミング演習Ⅲ	科学技術計算で用いられる数値計算のツール及び数学思考ツールとして研究開発の前線で利用される言語、MATLAB について、その代表的な特徴ある算法をについて計算する。更に電気・電子分野で必要と思われる主要な応用問題を解決する方法を学び、プログラミング実習を通して、計算機を利用した問題解決能力を体得させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	半導体の性質	エレクトロニクス機器に広く用いられているトランジスタや光デバイスの基盤となる半導体の性質を、エネルギーバンド構造やキャリアの振る舞いに基づいて理解する。 なお、トランジスタの動作原理はトランジスタ基礎論で、光半導体デバイス・磁性体デバイス等は電子デバイスⅡにて講義する。 1. 半導体の特徴 2. 固体のエネルギーバンド構造　(直接遷移//間接遷移、有効質量近似) 3. 半導体への不純物添加　(真性半導体、外因性半導体) 4. 半導体のフェルミ準位とキャリヤ密度　(有効状態密度、キャリヤ密度の温度依存性) 5. 半導体中の電気伝導　(キャリヤ散乱機構、ドリフト電流、拡散電流、キャリヤ連続の式) 6. PN接合　(空乏層、電圧-電流特性、電圧-容量特性) 7. 金属/半導体接触　(ショットキー障壁、電圧-電流特性)	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	トランジスタ基礎論	電子工学分野で最も重要な半導体デバイスである、バイポーラ接合トランジスタ(BJT)とMOS型電界効果トランジスタ(MOSFET)の構造、動作原理、デバイスの特性・性能を決定する因子と設計指針について理解する。 なお、半導体の基礎理論は半導体の性質で、光半導体デバイス・磁性体デバイス等は電子デバイスⅡにて講義する。 1. ショートベースダイオード 2. バイポーラ接合トランジスタ(1)　動作原理と入出力特性 3. バイポーラ接合トランジスタ(2)　増幅回路と素子設計指針 4. 電界効果トランジスタの基礎　接合型トランジスタ、MESFET 5. MOSFET(1)　動作原理と入出力特性 6. MOSFET(2)　構造と特性(nMOS/pMOS、E型/D型) 7. CMOS　構造と動作原理	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁波工学Ⅰ	光と電波、すなわち電磁波が情報伝送に用いられ、その利用が加速度的に増加していることは周知のとおりである。 一方、電磁波は、映像レーダ、ホログラフィのようにセンシングや映像化の技術にも利用されている。大量の情報を高速に処理する光及びミリ波・マイクロ波回路等の電磁波デバイスでは、従来の電圧・電流ではなく電磁波そのものが取り扱われ、極めて集積度の高いULSIでは波動が重要になる。電磁波には上記分野以外に、電子レンジ、マイクロ波による電力伝送などのエネルギー利用がある。最近では、不要電波(雑音) の情報機器、生体への影響も研究されている。本講義では、以上の分野で電磁波を取り扱うときに最小限必要な基本式をマクスウエル方程式から系統的に導き、そこから得られる基本知識とその有用性を講義する。講義内容は以下の通りである。 1. 電磁波工学とは:電磁波工学の範囲、周波数の分類、伝送路、電磁放射とアンテナ、伝搬と散乱、電磁波計測、環境電磁工学 2. 電磁波の基礎:マクスウェル方程式、構成関係式、各種媒質、電磁界の複素表示 3. 電磁波の基礎:波源を伴うマクスウェル方程式、電磁エネルギー 4. 電磁波の基礎:波動方程式、ポテンシャル関数、電磁界の境界条件 5. 平面波:平面波、伝搬定数、波の速度、偏波 6. 平面波:平面波の反射、屈折、透過、表面波	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電磁波工学Ⅱ	光と電波、すなわち電磁波が情報伝送に用いられ、その利用が加速度的に増加していることは周知のとおりである。一方、電磁波は、映像レーダ、ホログラフィのようにセンシングや映像化の技術にも利用されている。大量の情報を高速に処理する光及びミリ波・マイクロ波回路等の電磁波デバイスでは、従来の電圧・電流ではなく電磁波そのものが取り扱われ、極めて集積度の高いULSIでは波動が重要になる。電磁波には上記分野以外に、電子レンジ、マイクロ波による電力伝送などのエネルギー利用がある。最近では、不要電波(雑音) の情報機器、生体への影響も研究されている。本講義では、以上の分野で電磁波を取り扱うときに最小限必要な基本式をマクスウエル方程式から系統的に導き、そこから得られる基本知識とその有用性を講義する。講義内容は以下の通りである。（電磁波工学Ⅰに引き続き） 1. 電磁波の放射:電磁流源による放射、遠方電磁界 2. 電磁波の放射:電気及び磁気ダイポール源からの放射 3. 電磁波の放射:開口面からの放射 4. 電磁波の伝送:一様導波路によって伝送される電磁波(TEM、TE、TM、混成の各波)、同軸線路 5. 電磁波の伝送: ストリップ線路、光ファイバ、金属導波管(方形及び円形導波管)、壁面導体による伝送損失 6. 伝送線路：伝送線路の等価回路、線路特性パラメータ、分布定数回路、基礎方程式と1次定数・2次定数、整合、反射、短絡、開放、結合と漏話	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	集積回路工学Ⅰ	過去四半世紀に渡り、集積回路技術は目覚ましく発展をしてきた。既にあらゆる産業の基盤として定着すると同時に、21世紀における高度情報化社会の実現に不可欠な技術となっている。本講義では、この様な集積回路技術の特質とプロセス、デバイス、回路構成に関する基本的な概念を理解し、将来新たに開発される技術やその応用に対応できる基本的能力を涵養する事を目標に、以下の内容について学ぶ。 1. 半導体デバイスの小型化と集積化の利点 2. MOS集積回路の基礎:MOS-FETの基本構造と特性、スケーリング則 3. 集積化プロセス(1):Siウエハ、エピタキシャル成長 4. 集積化プロセス(2):酸化、絶縁膜堆積 5. 集積化プロセス(3):不純物拡散、イオン注入 6. 集積化プロセス(4):リソグラフィ、エッチング	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	集積回路工学Ⅱ	過去四半世紀に渡り、集積回路技術は目覚ましく発展をしてきた。既にあらゆる産業の基盤として定着すると同時に、21世紀における高度情報化社会の実現に不可欠な技術となっている。本講義ではこの様な集積回路技術の特質とプロセス、デバイス、回路構成に関する基本的な概念を理解し、将来新たに開発される技術やその応用に対応できる基本的能力を涵養する事を目標に、以下の内容について学ぶ。 1. スケーリング則の限界とブレークスルー新技術 2. 論理集積回路(1):基本論理回路の構造と特性 3. 論理集積回路(2):CMOS集積回路 4. メモリ集積回路の基本構造と特性 5. 集積回路の設計:マスク設計、統合シミュレーション 6. 集積回路工学の課題とナノエレクトロニクスへの期待	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プラズマ工学Ⅰ	電子と種々のイオン・中性粒子より構成される『物質の第4状態』であるプラズマは、固体・液体・気体に比べて高いエネルギー状態にある。その特長を生かして、様々な形態のプラズマは、半導体プロセスにおけるエッチングや機能性薄膜の作製、各種光源やレーザー発振等の光エネルギーへの変換、環境浄化プロセスなどへ応用されている。また、宇宙推進や核融合反応による新エネルギー発生への利用も計画されている。プラズマ技術は、希薄気体から大気圧下での放電、さらに気液界面・液中プラズマ放電と、その活躍する場を広げ、急激に技術革新と新規応用展開が進んでいる。特に大気圧非平衡プラズマは、室温で放射線の約30倍の高濃度活性酸素種を表面のみに供給できる特長がある。このため、薬剤に頼らない低温急速殺菌・滅菌法としてプラズマ殺菌・滅菌、低侵襲医療機器としてプラズマ止血装置等へと展開され実用化・産業化を目指して急速に研究が進展している。このようなプラズマのバイオ応用展開の一環として、プラズマの医療応用が興味を集めている。プラズマの利用は今後益々盛んになり、プラズマ工学の果たす役割もその重要性を増すことが予想される。本講義では、様々な分野でのプラズマの利用において必要となる基礎的な知識や考え方に重点を置き学習を進める。以下に主な講義内容を示す。 1 プラズマとは（プラズマ状態、プラズマ現象と利用） 2 気体に関する基礎知識（Maxwellの速度分布則、衝突現象） 3 プラズマの生成（原子のエネルギー準位、電離と励起） 4 気体の絶縁破壊（放電開始電圧、パッシェンの法則） 5 気体のプラズマ化の方法（直流放電、高周波放電、マイクロ波放電） 6 電界・磁界中の荷電粒子の運動（サイクロトロン運動、ExBドリフト）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プラズマ工学Ⅱ	電子と種々のイオン・中性粒子より構成される『物質の第4状態』であるプラズマは、固体・液体・気体に比べて高いエネルギー状態にある。その特長を生かして、様々な形態のプラズマは、半導体プロセスにおけるエッチングや機能性薄膜の作製、各種光源やレーザー発振等の光エネルギーへの変換、環境浄化プロセスなどへ応用されている。また、宇宙推進や核融合反応による新エネルギー発生への利用も計画されている。プラズマ技術は、希薄気体から大気圧下での放電、さらに気液界面・液中プラズマ放電と、その活躍する場を広げ、急激に技術革新と新規応用展開が進んでいる。特に大気圧非平衡プラズマは、室温で放射線の約30倍の高濃度活性酸素種を表面のみに供給できる特長がある。このため、薬剤に頼らない低温急速殺菌・滅菌法としてプラズマ殺菌・滅菌、低侵襲医療機器としてプラズマ止血装置等へと展開され実用化・産業化を目指して急速に研究が進展している。このようなプラズマのバイオ応用展開の一環として、プラズマの医療応用が興味を集めている。プラズマの利用は今後益々盛んになり、プラズマ工学の果たす役割もその重要性を増すことが予想される。本講義では、様々な分野でのプラズマの利用において必要となる基礎的な知識や考え方に重点を置き学習を進める。以下に主な講義内容を示す。（プラズマ工学Ⅰに引き続き） 1 プラズマ中の波動現象（プラズマ振動、イオン音波） 2 プラズマ中の輸送現象（電気抵抗、拡散、熱伝導） 3 プラズマ中の電磁波現象（電磁波の放射、吸収、散乱） 4 プラズマの応用(1)（核融合、プラズマプロセス） 5 プラズマの応用(2)（レーザー、PDP、蛍光灯） 6 プラズマの応用(3)（大気環境浄化、プラズマ化学、宇宙推進）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	光エレクトロニクスⅠ	光は照明や写真など古くから利用されてきたが、現在もレーザーや光ファイバー、フォトダイオードなど光エレクトロニクスを支える各種の装置・デバイスが利用され、これらは高度情報化社会を支えるもっとも重要な基盤技術の一つになっている。本講義では、光エレクトロニクスを理解する上で基礎的概念・理論を電磁波の中で光波が有する特徴を考慮しながら、光の伝搬・物質との相互作用・電子との相互作用について学習する。 1. 光学の基礎・複素記述と各種基礎定理 2. 光の伝搬・空間伝搬モードと光線解析行列法 3. 光の伝搬・ガウスビームと複素半径 4. 光の伝搬・導波伝搬と光ファイバー 5. 物質と光の相互作用・散乱・吸収 6. 物質と光の相互作用・レート方程式と誘導放出 7. 光と電子　光エレクトロニクスの基礎	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	光エレクトロニクスⅡ	光エレクトロニクスⅡでは、世界の情報通信を支えている最先端の光通信に関して、実用例なども交えながら講義を行う。中心となる項目としては導波路理論・モード結合理論・レーザー共振器・光量子検出があり、送信(発光)・通信（光導波路）・変調（導波路デバイス）・受信（光検出）のそれぞれの部位に適用できる理論と実装を解説し、光通信を総合的に理解することを目指す。 1. 光導波路の仕組み・円筒導波路における伝搬モード 2. 光ファイバーの応用と最新技術動向 3. 光ファイバー通信の基礎・伝搬定数とモード分散 4. 光ファイバー通信・外部との光結合とモード結合理論 5. 光通信デバイス・半導体レーザーの基礎技術 6. 光通信デバイス・方向性結合と干渉系素子 7. 光通信の現状と最新動向	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	コンピュータシステム通論Ⅰ	コンピュータシステムを構成する計算機について、特にハードウェアの原理について、事例を交えながら解説する。具体的には、コンピュータシステムの構成（プロセッサ、メモリ、バス、IOC、DK、FDD、LAN、ソフトウェア(OS、応用プログラム)、コンピュータシステムの動作（プログラム実行、入出力、計算機間通信）、インタフェース方式（シリアル転送、パラレル転送）、外部記憶装置、入力装置、印刷表示について説明する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	コンピュータシステム通論Ⅱ	コンピュータシステム通論Ⅰに続き、コンピュータシステムを構成するソフトウェア、および計算機を結ぶ通信路の原理について、事例を交えながら解説する。具体的には、実時間処理（応答時間、スループット、ハードリアルタイム/ソフトリアルタイム、トランザクション）、並列処理、分散処理、データベース、インターネットサービス（Webの仕組みとWebを利用したサービス、インターネットとデータベース）、そしてセキュリティ（認証、コンピュータウイルス、セキュリティホール）について説明する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気電子工学設計Ⅰ	ディジタルおよびアナログの電気電子回路技術は、双方ともに電気電子機器の基礎をなす重要な技術のひとつである。各種計測装置、信号処理や高品質電源のためのアクティブフィルタ、家電や産業用電源、コンピュータ用無停電電源など応用範囲は極めて広い。本講義では、エンベデッド（組込み）システムを例に取り上げ、設計という観点から電気電子回路の本質についての理解を深めると共に、コンピュータ援用による回路シミュレーションを設計にどのように取り入れたら良いかについて、その基本事項を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	電気電子工学設計Ⅱ	ディジタルおよびアナログの電気電子回路技術は、双方ともに電気電子機器の基礎をなす重要な技術のひとつである。各種計測装置、信号処理や高品質電源のためのアクティブフィルタ、家電や産業用電源、コンピュータ用無停電電源など応用範囲は極めて広い。本講義では、エンベデッド（組込み）システムを例に取り上げ、電気電子工学設計Ⅰで学んだ事項を活用しながらエンベデッドシステムの設計を行い、さらに、設計したエンベデッドシステムを実際に作製し、その特性を計測評価する事によって、設計の検証を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	情報論理学I	計算機ハードウエア、ソフトウエアの数学的基礎学問である論理学に関する基礎知識を与える。また、論理プログラミングとの関連性についても触れる。具体的には、命題論理の形式的体系と命題論理式の意味論、命題論理の公理系と演繹定理、決定問題と論理的帰結、について述べる。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	情報論理学II	情報論理学Iに引き続き、論理の数学的側面に焦点をあてた講義を行う。具体的には、導出原理、タブロー法、完全性と健全性、そして述語論理の形式的体系と述語論理の意味論について講義する。以上を通して、論理の数学的側面を理解することを目指す。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	基礎PBLⅠ	要求分析、設計、プログラミング、テストなどから構成されるソフトウェア開発手法の基礎を学ぶ。具体的には、ソフトウェア工学、オブジェクト指向、オブジェクト指向プログラミング、UMLによる分析、設計、実装、ならびに、ミニPBLを学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データ構造とアルゴリズム演習	データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関する知識は、実際のプログラム作成の経験を通して自分のものとする事が重要である。本演習は「データ構造とアルゴリズムI」と「データ構造とアルゴリズムⅡ」で学ぶ内容に関する演習であり、具体的にはキュー、スタック、リスト、木などのデータ構造と、それらのデータ構造における探索や並べ替えといったアルゴリズムを実際のプログラミング言語を利用して実現することを学習する。なお、本演習で使用するプログラム言語はCまたはC++とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	形式言語とオートマトンI	本講義では、有限オートマトン、正規表現、正規言語に現れる基礎的な概念について説明し、多くの例を用いて理解を深める。具体的には、数学的準備、オートマトンと形式文法、情報工学におけるオートマトンと形式文法の理論の位置づけ、情報工学におけるオートマトンと形式文法の理論の応用について述べた後、有限オートマトンと正規文法、決定性有限オートマトン、非決定性、正規表現、正規文法、正規言語の特徴付け、有限オートマトンの最小化について教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	オペレーティングシステムI	オペレーティングシステム(OS)は、計算機(コンピュータやスマートフォン)を動作させる基盤ソフトウェアである。OSは、ハードウェアを制御し、効率的な利用を可能にしている。また、上位ソフトウェア(応用プログラム)の効率的な動作を支援するための機能を実現している。本講義では、OSの機能や構造を学び、その背景にある基本的な概念について講述する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	形式言語とオートマトンⅡ	本講義では、プッシュダウンオートマトンとチューリング機械、そして文脈自由文法と句構造文法に関する基礎的な概念について説明する。具体的には、文脈自由文法、文脈自由言語の特徴付け、（非決定性）プッシュダウンオートマトン、プッシュダウンオートマトンと文脈自由文法、および構文木、そしてチューリング機械に関してその定義と例、模倣と対角線論法、計算不可能性と計算困難性について教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	オペレーティングシステムⅡ	本講義では、オペレーティングシステム（OS）を構成する機能の中でも、多重プロセス、ファイルシステム、仮想メモリなど重要な機能の目的と仕組みを学ぶ。特に、プロセスやメモリのスケジューリングアルゴリズムについて講述する。また、OSの性能評価やセキュリティについても教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	確率統計I	確率・統計は、実験データの処理や、パターン認識、機械学習、データマイニング、画像処理などの基礎としてますます重要になりつつある。本講義では、コルモゴロフの公理から始め、独立性、ベイズの定理、離散分布、連続分布、期待値、分散、モーメント、マルコフの不等式やチェビシェフの不等式などの確率不等式、大数の法則、中心極限定理などの確率論の基礎を論じる。確率論の基礎概念を理解し、基本的な確率不等式の使い方を習得して、統計学の基礎となる大数の法則、中心極限定理を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データベースI	データを管理する基盤システムであるデータベースシステムについて、良いデータベースを構築するための素養となる関係設計論を教える。特に、データベースシステムの必要性、技術的課題、関係データベース、関係データモデル、関係操作、関係設計論、関係データベース言語、SQL による問い合わせ実例について教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	基礎PBLⅡ	ディジタル論理回路設計と計算機アーキテクチャの間隙を埋めて、計算機システムのハードウェア、ソフトウェア両面からの理解を深めることを目的として、論理回路としてのプロセッサについて学習するとともに、ハードウェアの設計とアセンブリ言語のプログラミングを行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	集積回路工学通論I	先端コンピュータ・アーキテクチャを対象とし、半導体技術の基礎、コンピュータ・システムの性能・コスト・消費電力決定要因、メモリアーキテクチャ、仮想化技術、命令レベル並列処理、などに関する集積回路の基礎・応用技術の知識習得を目的とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	確率統計Ⅱ	本講義では、確率統計Iでも学んだ基礎的な確率論に基づき、推定、検定、回帰などの統計的手法について、不偏推定、最尤推定、区間推定、仮説検定、線形回帰、ベイズ推定などの統計学の基礎を概説する。基礎的な統計技法の概念を理解し、これらの統計手法の使い方を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データベースⅡ	データを管理する基盤システムであるデータベースシステムを使いこなすための素養となるデータベース管理システムの知識を教える。特に、データ定義とメタデータ管理、トランザクション、ファイルアクセス手法と索引、問い合わせ処理と実行計画、高度応用データベース、 種々のデータモデル、データベースシステムの今後、について教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	集積回路工学通論Ⅱ	本講義では、集積回路工学通論Iに続き、集積回路の基礎・応用技術について、さらに発展した内容を学習する。具体的には、データレベル並列処理、スレッドレベル並列処理、そしてアクセラレーション技術（機械学習、AI処理、FPGA）について述べる。また最後にこの分野の将来展望を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンパイラI	コンパイラは、計算機の重要な基本ソフトウェアの一つで、プログラミング言語とオペレーティングシステム/計算機アーキテクチャとの間のギャップを埋める言語処理系である。人間可読な高級プログラミング言語で書かれたプログラムが、機械可読なコードにどのように変換されて計算機で実行されるか理解することは、計算機システムの理解にも多いに役立つ。本講義では、コンパイラの役割、基本的な概念、機能、構造、実現方式について講述する。コンパイラIでは、主に構文解析までの内容を取り扱う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	電気情報工学実験Ⅲ	計算機の基盤となるソフトウェアを試作し、計算機全体をシステム的に捉える見方を身に付ける。システムプログラム記述言語の一つであるC 言語を理解し、プロセスを制御するプログラムを試作する。具体的には、アセンブリ言語とC言語を用いたシステム作成演習を通してスケジューラ、ディスパッチャ、セマフォ機能等を学び、多重プロセス環境でのプロセス制御を実現する。（*国際コースでも開講）	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンパイラⅡ	コンパイラは、計算機の重要な基本ソフトウェアの一つで、プログラミング言語とオペレーティングシステム/計算機アーキテクチャとの間のギャップを埋める言語処理系である。人間可読な高級プログラミング言語で書かれたプログラムが、機械可読なコードにどのように変換されて計算機で実行されるか理解することは、計算機システムの理解にも多いに役立つ。本講義では、コンパイラの役割、基本的な概念、機能、構造、実現方式について講述する。コンパイラⅠ、コンパイラⅡは連続する科目である。コンパイラⅡでは、コード生成などの内容を取り扱う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータアーキテクチャⅡ	コンピュータシステムにおける高性能技術、ならびに、高機能技術に関する理解を目的とする。特に、現代マイクロプロセッサでの基本高性能技術である命令パイプライン技術、分岐予測技術、キャッシュメモリ技術、などに着目し、各技術の利点欠点を整理するとともに、そのメカニズムを理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータアーキテクチャⅢ	コンピュータアーキテクチャⅡに続き、コンピュータシステムにおける高性能技術、ならびに、高機能技術に関する理解を目的とする。特に、現代マイクロプロセッサでの基本高性能技術である命令レベル並列処理の概論を解説するとともに、仮想メモリ技術や入出力処理について概説し、オペレーティングシステムとの連携に関する理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータシステムⅠ	コンピュータシステムを構成する計算機のハードウェアとソフトウェア、および計算機を結ぶ通信路について解説する。具体的には、パソコンやワークステーションなどのハードウエアとソフトウエアに関する基礎的な知識を与えるのと同時に、ハードウエアとソフトウエアとの関連やアーキテクチャなどさまざまな側面から解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データ構造とアルゴリズムⅢ	プログラムの作成能力を高めるには、データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関する知識が重要である。本講義では、データ構造とアルゴリズムⅠ、Ⅱの後を受けて、基本的に知っておくべき重要なアルゴリズムパラダイム（動的計画法、貪欲法）およびデータ構造、そして基本的計算量解析手法について講述する。適宜、実習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	ソフトウエア工学I	ソフトウェアは既に我々の社会基盤の多くの部分で利用されており、現在はもちろん今後もますます高い信頼性が要求されるものである。本講義では、ソフトウェア作成の基礎を習得している学生を対象に、ソフトウェアの信頼性を高め、要求された仕様を満たす製品として作成するための形式手法(formal method)の基礎について講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	プログラミング言語論I	プログラミング言語において構文と意味があることと、それらがそれぞれの言語においてどのように定義されているかを理解する。また、データ構造やアルゴリズムの表現法、および構造化や抽象化などのプログラミングにおいて重要な概念が、それぞれの言語でどのように定義されているかを見ることで、種々の言語に共通する概念や機能と、それぞれの言語を特徴づける概念や機能とがあることを理解する。これらを通して、プログラミング言語を客観的な対象物として取り扱う態度を身に付ける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータシステムⅡ	コンピュータシステムを構成する計算機のハードウェアとソフトウェア、および計算機を結ぶ通信路について解説する。具体的には、パソコンやワークステーションなどのハードウエアとソフトウエアに関する基礎的な知識を与えるのと同時に、処理方式、信頼性、セキュリティ、入出力装置などさまざまな側面から解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データ構造とアルゴリズムⅣ	プログラムの作成能力を高めるには、データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関する知識が重要である。本講義では、データ構造とアルゴリズムⅠ、Ⅱ、Ⅲの後を受けて、基本的に知っておくべき重要なアルゴリズムパラダイム（グラフアルゴリズム、単一始点最短路、全点対間最短路、最大フロー）およびデータ構造について講述する。適宜、実習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	ソフトウエア工学Ⅱ	本講義では、ソフトウェア工学Iに引き続き、ソフトウェア作成の基礎ならびに形式手法の基礎を習得している学生を対象に、プログラムの正しさとそれを検証するための手法、プログラムの仕様を適切な抽象度で厳密に記述するための形式仕様記述言語について講述し、適宜例題を用いた解説や実習も行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	プログラミング言語論Ⅱ	プログラミング言語において構文と意味があることと、それらがそれぞれの言語においてどのように定義されているかを理解する。また、データ構造やアルゴリズムの表現法、および構造化や抽象化などのプログラミングにおいて重要な概念が、それぞれの言語でどのように定義されているかを見ることで、種々の言語に共通する概念や機能と、それぞれの言語を特徴づける概念や機能とがあることを理解する。これらを通して、プログラミング言語を客観的な対象物として取り扱う態度を身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	アルゴリズム論I	計算機で問題を解くための計算手続きであるアルゴリズムについて論ずる。まず、「問題」、「解く」、「手続き」といった基本的な概念を導入し、その上で、アルゴリズムの良さや問題の難しさを数学的に厳密に議論する。具体的には、「データ構造とアルゴリズム(I、Ⅱ)」で学んだ良いアルゴリズムを構成するための基礎的な技法を受けて、アルゴリズムを考える楽しさ、計算機のモデルとしてのチューリング機械、チューリング機械によるチューリング機械の模倣、そしてチューリング機械の限界について論ずる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データ解析と実験計画法I	本授業ではデータ解析の基礎を主に取り扱う。具体的には平均、分散、相関、線形回帰から、重回帰分析や主成分分析、相関や平均の差の検定である。これらについて演習を通して学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータシステムⅢ	単体の計算機では実現できないような処理性能を達成するために、多数の計算機を用いる並列処理や、、離れた場所にある複数の計算機を用いる分散処理について解説する。また、そのために解決しなければならない問題点を明らかにし、その解決策を紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	サイバーセキュリティI	コンピュータネットワークの仕組みに関する知識を得て、その知識に基づいて最新のサイバーセキュリティの技術課題を把握し、今後の発展などについて、深く考察する。特に、サイバーセキュリティIでは、サイバーセキュリティの基本的課題、およびネットワーク7階層モデルについて述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	分散システムI	本講義では、IoT(Internet of Things)やクラウドサービスの基本となる、分散処理（Distributed Computing）の基本構成と、要素技術について講述する。具体的には、アーキテクチャ、通信処理、同期処理について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	技術表現法I	学部学生は、卒論、修論など論文発表、ならびに学会講演など、技術に関する表現を行う機会が今後増える。本授業では、技術表現に関する方法、作法、倫理を学ぶ。授業は二部構成となっている。第一部に当たる本講義では、科学論文の書き方（英語・日本語）に関して学ぶ。技術表現は実践を通して自ら獲得する技術である。このため、本授業では毎回演習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	人工知能I	人工知能は、人間の知能をモデル化し、コンピュータシステム上に実現することを目標とする。本講義では、人間の知能を機械上にシミューレートしようとする工学的な立場から研究されて来た共通の基礎理論について述べる。本講義では、その導入として人工知能研究の歴史および到達点を述べた後、状態空間探索・問題解決の基本法、意味ネットワークとフレームによる知識表現について述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	パターン認識I	パターン認識は、認識したい対象をなんらかの形で記憶しておき、新しく与えられた未知のパターンが、これらの対象のうちのどれと最も類似しているかを判断するものであり、その理論は、パターン空間におけるパターンの近さによって識別する方法について教授する。具体的には、パターンのベクトル表現と距離、最近傍法、クラスタリング、次元圧縮法について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	アルゴリズム論Ⅱ	アルゴリズム論Iの内容を発展させ、アルゴリズムの設計・設計・解析・評価に必須の知識を与えることを目的とする。具体的には、停止するチューリング機械としてのアルゴリズム、アルゴリズムが存在しない問題、アルゴリズムが存在すれば十分か？、世紀の大問題:P = NP問題、そして最近の話題から「並列化、分散化、近似可能性」について論ずる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	データ解析と実験計画法Ⅱ	本授業では主に実験計画法を取り扱う。実験計画法は、数理統計学の一つの応用手法である。数理統計的手法の多くは、得られたデータの解析に主として用いられるが、実験計画法は、データの集め方を決める1つの有力な手法である。RやExcelを用いた演習を通して実験計画法を学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	コンピュータシステムⅣ	単体の計算機では実現できないような処理性能を達成するために多数の計算機を用いる並列処理や、離れた場所にある複数の計算機を用いる分散処理にについて解説する。その基礎的な概念は「コンピュータシステムⅢ」により既習であることを前提とし、実システムに採り入れられている各種技術と最新のシステム事例について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	サイバーセキュリティⅡ	サイバーセキュリティI に引き続き、最新のサイバーセキュリティの技術課題を把握し、今後の発展などについて述べる。具体的にこのサイバーセキュリティⅡではＩＰ技術、ＩＰアドレスの体系、およびネットワーク技術の総合的考察について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	分散システムⅡ	本講義では、分散システムの具体例である、分散ファイルシステムやWebシステム、エッジコンピューティング、パーベイシブシステムを題材としながら、その構成要素となる技術について教授する。さらに、IoTにおける省電力システムや経済的なエコシステムについても講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	技術表現法Ⅱ	技術表現法の第二部として本講義では、英語・日本語でのプレゼンテーションに関して学ぶ。特に、サーベイの仕方、英語での表現法、プレゼンテーション時の表現法、そして表現の倫理について述べる。 技術表現法Iと同様に、技術表現は実践を通して自ら獲得する技術であるために、本授業では毎回演習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	人工知能Ⅱ	人工知能Iの講義内容を踏まえ、本講義では人工知能に関する発展的項目について学習する。具体的には、機械学習（教師有学習と教師無学習）、分散人工知能（エージェント、分散問題解決）、さらに人工知能のゲーム、自然言語処理、画像処理などへの応用について述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算機工学科目	パターン認識Ⅱ	パターン認識のさらに進んだ理論として、統計的決定論、特にベイズ識別に基づくパターン認識の手法を説明する。そして、より一般的なパターン認識法である、線形識別関数および高次識別関数について説明する。最後に、学習サンプルが与えられた場合に、それら識別関数を求める方法、すなわち教師あり機械学習による識別関数の決定法について説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	量子力学応用Ⅰ	量子力学応用Ⅰでは、量子力学に関する応用的内容を学習するため、主に以下の項目について講義する。 ・量子力学的原理と量子効果 ・物質の量子力学、量子化学、理論物質科学 （原子と分子の構造、分子軌道法、第一計算原理、分子動力学法） ・ナノマテリアル、ナノ領域の物理現象、量子効果デバイス、量子標準 ・量子光学、ナノフォトニクス、単一光子の振る舞い	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	量子力学応用Ⅱ	量子力学応用Ⅱでは、量子力学Ⅰに引き続いて、量子力学に関する応用的内容を学習するため、主に以下の項目について講義する。 ・量子情報、量子通信、量子テレポーテーション ・量子計算理論、量子コンピューティング （量子アルゴリズム、量子ゲート、量子アニーリング、量子エラー訂正、量子ビット） ・量子コンピュータ、量子計算の物理的実現、量子計算デバイス	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	電子デバイスⅠ	エレクトロニクスの根幹を成す電子デバイスは、電子及びそれに関連する荷電粒子の性質、効果を巧みに工夫して作り出されたものである。特に半導体デバイスはその中心的なデバイスであるが、それ以外にも特徴的な性質を持つデバイスが多数存在する。本講義では、材料物性を上手に利用した重要な電子デバイスについてその動作原理、特性、性能などを講義する。 1. 光デバイス(1) 受光素子、PINフォトダイオード、太陽電池 2. 光デバイス(2) 発光素子、LED 3. 光デバイス(3) レーザの発振原理、誘導放出、反転分布、光増幅、光共振器 4. 磁性体デバイス(1) 磁気異方性、磁区構造、マイクロマグネティクス 5. 磁性体デバイス(2) 磁化過程、磁気記録 6. 磁性体デバイス(3) 光と物質の相互作用、光磁気効果	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	電子デバイスⅡ	エレクトロニクスの根幹を成す電子デバイスは、電子及びそれに関連する荷電粒子の性質、効果を巧みに工夫して作り出されたものである。特に半導体デバイスはその中心的なデバイスであるが、それ以外にも特徴的な性質を持つデバイスが多数存在する、本講義では材料物性を上手に利用した重要な電子デバイスについてその動作原理、特性、性能などを講義する。（電子デバイスⅠに引き続き） 1. 半導体デバイス(1) アモルファスシリコンTFT、ポリシリコンTFT 2. 半導体デバイス(2) 熱電効果、ゼーベック効果、ペルチェ素子、熱電素子 3. 超伝導デバイス(1) 永久電流、BCS理論、マイクロ波 ・ミリ波デバイス 4. 超伝導デバイス(2) ジョセフソン効果,SQUID 5. 有機材料デバイス 液晶,液晶セル、電気光学効果、導電性高分子、有機LED 6. 量子デバイス(1) 半導体超格子、量子井戸、超高速光デバイス 7. 量子デバイス(2) メゾスコピック系の物理、メゾスコピック系のデバイス応用	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	制御工学BⅠ	装置・システムを希望通りに動作させるフィードバック制御の考えは、電気・電子、機械、化学などの工学システムだけでなく、生体、社会分野にも利用されている。本講義では、フィードバック制御の考えに基づいて制御系を設計する方法について、古典制御理論の枠内で講義する。特に、システムの数学モデルによる表現とシステムの特性解析について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	制御工学BⅡ	装置・システムを希望通りに動作させるフィードバック制御の考えは、電気・電子、機械、化学などの工学システムだけでなく、生体、社会分野にも利用されている。本講義では、フィードバック制御の考えに基づいて制御系を設計する方法について、古典制御理論の枠内で講義する。特に、制御仕様の設定と制御系の設計について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子通信工学科目	応用確率論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 確率変数と様々な例 2. 独立確率変数とその和の極限(大数の法則、中心極限定理) 3. ポアソン過程(1) 待ち時間を用いた直感的構成 4. ポアソン過程(2) 独立増分性、確率の満す微分方程式による特徴付け 5. 時間的に一様でないポアソン過程とその応用 6. 生成死滅過程(1) 確率の満たす微分方程式による構成とユール過程 7. 生成死滅過程(2) M/M/1型の待ち行列における待ち時間、待ち行列長 8. 生成死滅過程(3) M/M/s型の待ち行列とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	エネルギー基礎論Ⅰ	エネルギー変換が容易で制御性に優れる電気エネルギーは、高度情報化社会を支える重要なインフラストラクチャの1つになっている。また、化石燃料の枯渇や地球規模の環境問題を背景に、自然エネルギーの導入や高効率エネルギー変換技術の開発が急務となっている。本講義は、これからの電気エネルギーに関連する種々の講義の出発点になるものである。本講義では、特に水力発電、火力発電、原子力発電などの発電方式について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	エネルギー基礎論Ⅱ	エネルギー変換が容易で制御性に優れる電気エネルギーは、高度情報化社会を支える重要なインフラストラクチャの1つになっている。また、化石燃料の枯渇や地球規模の環境問題を背景に、自然エネルギーの導入や高効率エネルギー変換技術の開発が急務となっている。本講義は、これからの電気エネルギーに関連する種々の講義の出発点になるものである。本講義ではエネルギー基礎論Ⅰに引き続き、特に太陽光発電、風力発電、燃料電池、核融合種発電などの発電方式について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	制御工学AⅢ	本講義では、状態方程式表現に基づく線形システムの解析に関する基本事項を習得することを目的とし、線形システムの状態方程式表現、状態方程式表現と伝達関数表現の関係、可制御性・可観測性、およびシステムの安定性について講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	制御工学AⅣ	本講義では、状態方程式表現に基づいた、線形システムに対する制御系設計の基礎を習得することを目的とする。講義「制御工学AⅢ」で習得した内容を礎に、状態フィードバック制御系（レギュレータ）の設計、状態観測器（オブザーバ）の設計、オブザーバ併合レギュレータの設計、およびステップ状の目標値に対するサーボ系の設計法について講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	基礎エネルギー変換機器学Ⅰ	今日、電気機器及び半導体電力変換装置は、エネルギー変換機器として、産業界から家庭まで広く使用されており、その基礎知識は電気情報工学科の学生にとって不可欠である。電気機器には、磁気エネルギーを介して、電気・機械エネルギー変換を行う動く電気機械と、電気・電気エネルギー変換を行う静止した変圧器がある。すべての電気機器は、電磁気学を基礎として、磁気エネルギーを蓄えるインダクタンスの概念を用い、回路理論的に取り扱うことができる。一方、半導体電力変換装置は、パワー半導体素子のスイッチングを介して、電気・電気エネルギー変換を行う電気電子回路であり、この分野はパワーエレクトロニクスとよばれる。本講義では、エネルギー変換という視野から、すべての電気機器と半導体電力変換装置の基礎を回路理論的に統一して学ぶ。基礎エネルギー変換機器学Ⅰでは、特に電磁エネルギー変換機器の統一理論を中心に講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	基礎エネルギー変換機器学Ⅱ	今日、電気機器及び半導体電力変換装置は、エネルギー変換機器として、産業界から家庭まで広く使用されており、その基礎知識は電気情報工学科の学生にとって不可欠である。電気機器には、磁気エネルギーを介して、電気・機械エネルギー変換を行う動く電気機械と、電気・電気エネルギー変換を行う静止した変圧器がある。すべての電気機器は、電磁気学を基礎として、磁気エネルギーを蓄えるインダクタンスの概念を用い、回路理論的に取り扱うことができる。一方、半導体電力変換装置は、パワー半導体素子のスイッチングを介して、電気・電気エネルギー変換を行う電気電子回路であり、この分野はパワーエレクトロニクスとよばれる。本講義では、エネルギー変換という視野から、すべての電気機器と半導体電力変換装置の基礎を回路理論的に統一して学ぶ。基礎エネルギー変換機器学Ⅱでは、電磁エネルギー変換機器の統一理論を基礎とした各種電気機器の基本特性、および半導体電力変換装置の基礎を中心に講義を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	計測工学AⅠ	計測とは、種々の物理量を数値で表し、事象に対する諸量の関係を定量的に明らかにしようとする操作であり、工学のみならず科学全般の基礎を支えるものである。本講義では、計測を実施するため、また、実験で様々な測定機器を取り扱う場合に必要となる、電気･電子計測の基本概念、単位系と電気標準、基本的なセンサの動作原理、信号源や雑音の挙動など、電気・電子計測の基礎について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	計測工学AⅡ	本講義では、「計測工学AⅠ」に引き続き、計測器の基本的な動作原理と各種電磁気量の測定法や信号処理の手法について学習するとともに、目的に適した測定手段の選択やシステムの構築、計測器から得られるデータの持つ物理的意味を考察するための基礎的力を養う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電力輸送工学Ⅰ	電力システムは、発電所で発生した電気エネルギーを需要家に送るために構築された、巨大なシステムである。電気エネルギーは貯蔵することが困難であるため、電力システム内ではその発生と輸送と消費と同時に行われなければならない。そのために、電力システムの運用は、種々の制御装置、情報伝達装置、コンピュータ等によって支えられている。本講義では、電力システムの構成（ハード面）について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電力輸送工学Ⅱ	電力システムは、発電所で発生した電気エネルギーを需要家に送るために構築された、巨大なシステムである。電気エネルギーは貯蔵することが困難であるため、電力システム内ではその発生と輸送と消費と同時に行われなければならない。そのために、電力システムの運用は、種々の制御装置、情報伝達装置、コンピュータ等によって支えられている。本講義では、電力システムの運用(ソフト面)について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電気電子材料Ⅰ	電力、通信、情報、エレクトロニクス分野の急速な進展により高機能かつ多種の電気電子材料がますます要求されてきている。一方、新規材料の創出、発見、発明が従来考えられなかった技術革新をもたらした例は枚挙にいとまがない。このような電気電子材料がどのように利用されているかを、単なる材料の羅列にならないように材料物性の観点から学んでいく。講義内容は、主に以下のとおりである。 1電気電子材料の基礎（材料の分類、物質の構造、結晶と非結晶、セラミックス、薄膜、人工格子、高分子と複合材料） 2 誘電体・絶縁体材料(1)（誘電分極、内部電界、強誘電体、反強誘電体、絶縁破壊、絶縁劣化、絶縁材料、誘電材料） 3 誘電体・絶縁体材料(2)（焦電材料、圧電材料、高誘電・強誘電材料） 4 導電材料（導電材料の基本物性、合金と電気抵抗、金属導電材料、電線およびケーブル、配線材料、抵抗材料、イオン導電材料、電池） 5 超伝導材料（超伝導物質、超伝導線、超伝導材料の機器への応用、超伝導エレクトロニクス材料）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電気電子材料Ⅱ	電力、通信、情報、エレクトロニクス分野の急速な進展により高機能かつ多種の電気電子材料がますます要求されてきている。一方、新規材料の創出、発見、発明が従来考えられなかった技術革新をもたらした例は枚挙にいとまがない。このような電気電子材料がどのように利用されているかを、単なる材料の羅列にならないように材料物性の観点から学んでいく。講義内容は、主に以下のとおりである。 1 半導体材料(1)（半導体材料の分類、半導体材料の精製と作製法、半導体の加工技術） 2 半導体材料(2)（ダイオード材料、トランジスタ材料、集積回路材料、パワーエレクトロニクス材料、センサ材料） 3 光エレクトロニクス材料(1)（受光素子材料、発光素子材料、光変調素子材料、光メモリ材料、画像表示材料） 4 光エレクトロニクス材料(2)（液晶表示素子材料、光ファイバ材料、太陽電池） 5 磁性体材料(1)（磁性体、高透磁率材料、高保磁力材料） 6 磁性体材料(2)（磁気記録材料、光磁気記録材料、特殊磁性材料） 7 材料の評価法（組成・構造分析法、結晶性評価法、電気磁気物性評価法）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	計測工学AⅢ	計測とは、種々の物理量を数値で表し、事象に対する諸量の関係を定量的に明らかにする操作であり、工学、自然科学の基礎として極めて重要である。「計測工学AⅠ」「計測工学AⅡ」において基礎的電磁気量の計測法について学んだのを受けて、本講義では電気電子応用計測について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	計測工学AⅣ	計測とは、種々の物理量を数値で表し、事象に対する諸量の関係を定量的に明らかにする操作であり、工学、自然科学の基礎として極めて重要である。「計測工学AⅠ」「計測工学AⅡ」において基礎的電磁気量の計測法について学んだのを受けて、本講義では各種センサについて学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	エネルギー変換機器工学Ⅰ	本講義では、前講義の「基礎エネルギー変換機器学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ電気機器の統一理論から誘導し、回路理論的に理解した基本特性を構造的特徴とその空間的電磁現象から深く学び、直流機が原理として理想的なものであることを理解する。さらに、電圧と周波数を自由に制御できるパワーエレクトロニクス技術によって、交流機が直流機を凌駕可能であり、特にかご形誘導機とPM形同期機はコンタクトレスの観点からも極めて実用であることを理解することが重要である。電気機器を応用するには、ダイナミックな動作の理解が重要であり、計算機シミュレーションによる過渡特性を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	エネルギー変換機器工学Ⅱ	本講義では、前講義の「基礎エネルギー変換機器学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ電気機器の統一理論から誘導し、回路理論的に理解した基本特性を構造的特徴とその空間的電磁現象から深く学び、直流機が原理として理想的なものであることを理解する。さらに、電圧と周波数を自由に制御できるパワーエレクトロニクス技術によって、交流機が直流機を凌駕可能であり、特にかご形誘導機とPM形同期機はコンタクトレスの観点からも極めて実用であることを理解することが重要である。電気機器の統一理論をより簡単に取りあつかえる空間ベクトル理論の考え方を理解し、誘導機に適用する方法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	通信工学通論Ⅰ	コンピュータネットワークシステムの基本技術、最新技術などについて、具体的な事例を使って解説する。具体的には、ネットワークの階層モデル（物理層、データリンク層、ネットワーク層、トランスポート層）、P2P ネットワーク、Web アプリケーションについて説明する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	通信工学通論Ⅱ	コンピュータネットワークにおける様々なサービスおよびサイバーセキュリティの最新技術、課題、今後の発展などについて、具体的な事例を使って解説する。具体的には、Web2.0、電子メール、SNS、サイバーセキュリティ最新情報、サイバーセキュリティ法律、情報・研究倫理、著作権について説明する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	パワーエレクトロニクスⅠ	パワーエレクトロニクスとはパワー半導体デバイスを用いることによって、電力の変換、制御および電力回路の開閉などを行う技術をいい、電気エネルギーを取り扱うためのキー・テクノロジーである。本講義では、その基本技術や回路を理解し、動作原理について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	パワーエレクトロニクスⅡ	パワーエレクトロニクスとはパワー半導体デバイスを用いることによって、電力の変換、制御および電力回路の開閉などを行う技術をいい、電気エネルギーを取り扱うためのキー・テクノロジーである。パワーエレクトロニクスⅠに引き続き、本講義では、その基本技術や回路を理解し，動作原理について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	システム工学Ⅰ	機械部品を作る装置も、電話やFAXも、道を走る車も、それら単体のみで機能しているのではなく、より大規模で複雑な生産システム、通信システム、交通システムなどの中に組み込まれている。このような大規模システム化は、ネットワーク化やグローバル化の進展とともに今後ますます進むものと思われる。これらのシステムは単に規模が大きいだけでなく、システム利用者の意志のように不確定な要素も関わってくるため、その設計・運用には、装置単体の場合とは大きく異なる扱いが必要である。そこで、本講義では、複雑なシステムを表現し、分析して、設計を行なうために必要な方法論のうち、特に表現と分析の方法論について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	システム工学Ⅱ	機械部品を作る装置も、電話やFAXも、道を走る車も、それら単体のみで機能しているのではなく、より大規模で複雑な生産システム、通信システム、交通システムなどの中に組み込まれている。このような大規模システム化は、ネットワーク化やグローバル化の進展とともに今後ますます進むものと思われる。これらのシステムは単に規模が大きいだけでなく、システム利用者の意志のように不確定な要素も関わってくるため、その設計・運用には、装置単体の場合とは大きく異なる扱いが必要である。そこで、本講義では、複雑なシステムを表現し、分析して、設計を行なうために必要な方法論のうちの設計の方法論と代表的なシステムの取り扱いについて講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	超伝導基礎論Ⅰ	超伝導技術は、抵抗ゼロに起因する超低損失性と、磁束量子化に起因する超高速、超高感度性を特長とし、強電、弱電を問わず既存技術では到達しえない領域を切り開く可能性を持った先端技術である。本講義では、超伝導現象の基礎から実際の応用例までを最新の動向を織りまぜて平易に概説する。超伝導基礎論Ⅰでは、超伝導現象の基礎を中心に講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	超伝導基礎論Ⅱ	超伝導技術は、抵抗ゼロに起因する超低損失性と、磁束量子化に起因する超高速、超高感度性を特長とし、強電、弱電を問わず既存技術では到達しえない領域を切り開く可能性を持った先端技術である。本講義では、超伝導現象の基礎から実際の応用例までを最新の動向を織りまぜて平易に概説する。超伝導基礎論Ⅱでは、実際の応用例を中心に講義を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	高電圧・パルスパワー工学Ⅰ	高電圧工学は、電気機器・電子デバイス等の絶縁設計の基礎となる学問である。一方、パルスパワー工学は、電磁エネルギーを時空間的に圧縮して得られる電力（パルスパワー）の発生、伝送、計測、応用を取り扱う。本講義では、高電圧パルスパワー工学の基礎、高電圧現象と絶縁破壊、高電圧パルスパワーの発生について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	高電圧・パルスパワー工学Ⅱ	高電圧工学は、電気機器・電子デバイス等の絶縁設計の基礎となる学問である。一方、パルスパワー工学は、電磁エネルギーを時空間的に圧縮して得られる電力（パルスパワー）の発生、伝送、計測、応用を取り扱う。高電圧・パルスパワー工学Ⅰに引き続き、本講義では、高電圧パルスパワーの伝送と制御、高電圧パルスパワーの計測法、さらにパルスパワーの応用について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電気法規および施設管理Ⅰ	電気エネルギーは、現代社会を支える必要不可欠な存在である。電気設備の不適切な使用は、感電事故や漏電火災を発生させるなどの危険な面も有しているため、電気事業法などの各種法規により規制されている。本講義では、電気関係における法体系の概要、および電力需給や系統運用などの電気施設管理に係わる基礎知識を学ぶ。電気法規および施設管理Ⅰでは、主に電気関連法規の概要と電気工作物の保安に関する法規について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気電子工学科目	電気法規および施設管理Ⅱ	電気エネルギーは、現代社会を支える必要不可欠な存在である。電気設備の不適切な使用は、感電事故や漏電火災を発生させるなどの危険な面も有しているため、電気事業法などの各種法規により規制されている。本講義では、電気関係における法体系の概要、および電力需給や系統運用などの電気施設管理に係わる基礎知識を学ぶ。電気法規および施設管理Ⅱでは、主に電気工作物の技術基準と電気施設管理について学ぶ。	
専攻教育科目	卒業研究		電気情報工学卒業研究	各研究室で行われている研究に参加し、文献読解、、研究の進め方、論文のまとめ方等を学ぶ。また、これら全体を通して、課題を解決するために自ら主体的に学ぶ目的指向型アクティブラーニングの方法と姿勢を学ぶ。（*国際コースでも開講）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部材料工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1B	Integrated Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2B	Integrated Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	Integrated Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1B	Integrated Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	物理化学第一	熱力学の基本原理について学習する。熱力学とは熱的な現象を巨視的な立場から現象論として取り扱う学問であり、３つの法則の形で表されている。これらの法則を理解するために、物理的な見方に重点をおいて、その”概念”を理解し、”方法論”ではこの考え方を、化学的な問題に応用し理解を深める。　気体の性質、熱力学第一法則（概念と方法論）および熱力学第二法則（概念と方法論）について学習する。講義の進行に併せて演習を行うことによって、理解の質を高める	
専攻教育科目	学科群共通科目	量子力学第一	物質の物理・科学的性質は、原子核と電子のふるまいに支配されているが、それらを記述するのは量子力学である。この科目では、物質の粒子性・波動性を始め、分子軌道・シュレディンガー方程式・量子数・パウリの法則等など量子力学の基礎概念について講義を行い、理解を深める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	無機化学第一	本講義では、まず初年度で習得した原子の性質と化学結合についての理解の確認を行う。その後、固体の構造、金属とイオン性固体の性質、固体に固有の電子構造と欠陥の概念を学ぶ。次いで、酸-塩基と酸化-還元反応とそれらの溶液中での化学を理解する。最後に、錯体化学と配位化合物への導入を講義する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	有機化学第一	本講義では基礎的な有機化学の原理と反応について学ぶ。工業化学を理解するために必要な有機化学の基礎を身につける事を目標とする。 （主な内容） 構造と結合、アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、立体化学、求核置換と脱離、アルデヒドとケトン、カルボニル化合物	
専攻教育科目	学科群共通科目	金属材料大意	本講義は、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質に関する基礎的内容から構成される。さらに、将来懸念される社会環境の変化についての資料を提供し、金属材料を将来いかに活用して行くべきかを考えるきっかけとする。	
専攻教育科目	学科群共通科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は、多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び、機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では、機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに，機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気・電気回路を基礎とし、電気計測・制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	安全学	化学に関する実験を行う際の危険性、注意すべき事項を解説する。 （主な内容） 第１回　ガイダンス・イントロ、薬品・関連法規・ガラス（１，４章） 第２回　高圧ガス（２章）、電気・光（３章） 第３回　生体物質（５章） 第４回　放射線（６章） 第５回　有機化学実験（７章） 第６回　防火・地震・廃棄物（８，９章） 第７回　振り返り	
専攻教育科目	学科群共通科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。 本講座では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） Ⅱ群に所属する教員が、オムニバス形式で４学科（化学工学科、応用化学科、材料工学科、融合基礎工学科）の教育と最新の研究成果について概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （3 土山　聡宏／３回） 材料工学分野におけるプロセスと物性に関する基礎理論と応用技術、ならびに最新の研究動向について概説する。 （142 藤ヶ谷　剛彦／３回） 応用化学、特に分子システム工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （133 林　克郎／３回） 応用化学、特に機能物質化学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （154 三浦　佳子／３回） 化学工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （306 光原　昌寿／３回） 融合基礎工学科における教育概要及び物質科学と材料工学を融合した学際領域についての専門知識について概説する。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	平衡組織学	自然界に存在する様々な物質を利用しようとするとき、その物質は材料となる。材料はその構成元素・組織によって種々の機能を発現するが、材料組織はある組成・圧力の下にその材料が経てきた処理の履歴の結果として現れる。本講義は、学部2年生を対象に、平衡状態を基本とした材料組織の成り立ちについて講義し、材料分野の学問を理解するための礎とする。その為に、金属の結晶構造・その構造に異種原子が入り込む「固溶」の概念に始まり、結晶格子内における原子拡散の基礎、相変態、種々の合金系において現れる不変形反応とその状態図、熱力学と状態図の関係、合金系における自由エネルギー曲線の成り立ち、そして相変態に伴う核生成について、講義および演習により習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	冶金物理化学 Ⅰ	金属・ガラス・セラミックス・半導体等の無機基盤材料は、気体ー液体ー固体間の相転移および反応によって生産されている。これらの相転移および化学反応を司るのは、平衡状態でのゴールを予測する熱力学と、ゴールにたどり着くまでの速度を支配する動力学である。ここでは、熱力学を中心に、低年次において履修した物理化学を実際に使いこなすための講義および演習を行い、熱力学諸量およびその記述法・計算法について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	冶金物理化学Ⅱ	冶金物理化学Ⅰに引き続き、化学熱力学を中心に、金属および関連の無機材料生産に必要な、熱化学計算を実際に使いこなすための講義および演習を行う。具体的には、純物質の相平衡、液体の混合にともなう自由エネルギー変化、および各種凝縮相同士または気相との反応について、化学ポテンシャルを基軸とする物理化学現象の、熱化学的な理解を深化させることを目標とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料工学実験第一	結晶材料の合成方法や組織観察および解析方法、合金や半導体などの基礎的な特性評価方法を学習する。 また、これら各テーマを通して、実験ノートやレポートの作成方法を習得する。 ・4端子法による半導体の電気的物性評価 ・無機結晶材料の合成およびX線回折法よる評価 ・顕微鏡法による無機結晶材料の組織観察および構造解析 ・LCRメーターによる物理量測定 ・結晶モデルによる構造解析 ・金属粉体の物性評価 ・金属粉末形態観察およびその圧粉体・焼結体の組織観察	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	複素関数論	以下の内容を、クラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学入門	構造材料の設計で必要な力学として、材料が運動しない静力学を用いられる。この講義では、静力学の一つである固体力学の基礎を学ぶ。まず応力と歪の関係について、その定義と概念を学ぶ。次に、モールの円を用いた最大剪断応力の求め方を演習を通して学ぶ。なお、本講義では、塑性変形には立ち入らず弾性変形の基礎として、短軸引張・梁の曲げ・針のねじり・座屈について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料設計製図Ⅰ	ものづくりに不可欠な製図の基礎となる図学について学ぶ。 投影の概念、正投影法、副投影法、第三角法、回転法、軸側投影、斜投影、切断などの講義を行う。 また、演習問題で実際に作図することにより図学をより深く理解する。	講義９時間 演習３時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料設計製図Ⅱ	文字・線・寸法・断面図・穴・表面粗さ・はめあい・幾何公差等の製図の基礎について講義し、JISに基づいた部品図や組立図の作図や読図について学ぶ。 ねじ・軸受・歯車などの機械要素についても取り上げ、ものづくりの基本となる設計製図について知識と技術を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	移動現象論	本講義は、材料科学工学を学ぶ学生のための移動現象論の分野への導入を意図しており、運動量の移動(粘性流)・エネルギーの移動(熱伝導、対流伝熱、放射)，および物質の移動(拡散)を対象として学習する。移動現象論は、あらゆる材料プロセスに関連する重要な現象であり、それらは物質科学工学の分野の技術者であれば一般的知識として取得し、解析技法を習得していることが求められる。本講義では、具体的な例を示しながら、熱・運動量・物質移動などの移動現象の基本的な表現のための定式化と解法を取得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	固体物理学	固体の性質は、それを構成する原子の集団の振る舞いにより支配されている。本講義では特に、結晶性固体の電子および原子の集団的状態と、固体の弾性的・熱的・および電気的性質との関連を学ぶ。 （主な内容） ・空間格子、格子方向と格子面、ブラベー格子、結晶構造、X線回折と結晶構造 ・原子間ポテンシャル・エネルギー、ばねとおもり、連続体の振動、1次元格子振動、ブリユアン領域、結晶基が2個の原子を含む1次元振動、フォトンとフォノン ・固体の比熱（古典論）、固体の比熱（アインシュタイン理論、デバイ理論）、固体の熱膨張 ・自由電子、自由電子模型、衝突時間、流動速度 ・水素原子中の電子のエネルギー、水素分子中の電子のエネルギー、結晶中の電子のエネルギー帯、結晶中のポテンシャル・エネルギー、固体中の自由電子、周期ポテンシャル場中の電子、ブリユアン領域模型、フェルミエネルギー、電界中の固体電子の運動、正と負の有効電荷	
専攻教育科目	学科・専攻科目	弾性・塑性変形工学	本講義は、材料力学入門の延長として開講される。材料力学入門では、材料の弾性変形に着目した応力・歪について学んだ。本講義では、材料の引張試験において求まる応力ー歪曲線を基本として、弾性変形に加えて塑性変形についても学ぶ。弾性変形に関しては、応力テンソル・歪テンソルについて学ぶ。塑性変形挙動について、単軸応力状態だけでなく、多軸応力状況下での降伏条件、歪エネルギーについても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	結晶化学	鉄鋼、金属などの金属材料ならびにセラミックスを含む無機材料において、その性質を理解するために最も基本的な知見となるのはその結晶構造である。本講義では、無機材料における結晶構造を理解および記述するために必要な基礎的な知識について概説する。主に解説する項目は、結晶の定義、単位格子、結晶系とブラベー格子、並進性と対称性、空間群、格子面と方向（ミラー指数）、ステレオ投影、化学結合、金属・セラミックスにおける代表的な結晶構造、イオン性結晶の一般則（ポーリング則、イオン半径、静電結合力、半径比則など）、点欠陥についても一部解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子物性論	電子の挙動によって生じる物性に関する内容について基礎的を学ぶ。 金属、半導体中、絶縁体などの電子の準位、バンド構造などについて説明し、誘電体や磁性材料に関しても、電子の挙動と物性を関連付けて講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料電気化学	電気化学は、電流によって引き起される物質の化学的、物理的変化や、逆に化学変化のエネルギーから電気を製造することを取り扱う学問領域である。電気化学に基礎を置く工業は極めて多岐にわたるが、材料工学においても、金属素材の採取・精製、種々の材料の表面改質・磁性体などの各種機能膜の製造・および金属の腐食防食など多くの分野が電気化学と密接に関連している。本講義においては、材料工学関連分野への応用を念頭に、電気化学基礎理論を解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	超伝導材料工学	超伝導体は、極低温において電気抵抗ゼロを示す材料であり、その特性に起因して、社会での様々な分野においてその応用が期待されている材料である。本講義では、特に液体窒素冷却にて超伝導特性を示す高温超伝導体に着目し、本材料の基本特性や作製方法を学習し、物理的・化学的に理解を深めるとともに、薄膜線材化による電力機器への応用展開などについて学ぶ。板書とスライドを併用した講義形式で行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	鉄鋼製錬学	日本の一貫製鉄所においては、高炉-転炉法によって鉄鋼を製造している。これは、高炉ー転炉法による鉄鋼の製造が最も安価で多量生産に適しているためであり、日産1万トンを超える高炉も多数操業されている。本講義においては、高炉-転炉法を中心とした鉄鋼の製錬法、すなわち鉄鉱石やその他の原料から鋼を得る操作に関する基本原理と工業規模プロセスについての理解を深めることをめざすとともに新しい製鉄法に関しても学習する。この過程において、材料の製造プロセスを設計し最適な運転を行うためには、物質収支・エネルギー収支、化学平衡論、反応速度論、移動現象論、シミュレーション技術、経済性評価、環境負荷評価などこれまでに学んできた様々な基礎知識が、実際の鉄鋼製造プロセスにおいてどのように活用されているかを習得させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料工学実験第二	材料プロセスに関する講義(材料反応工学、材料電気化学、材料精製工学)に関連した下記の実験を行い、各科目の理解を深めるとともに、実験技術や報告書の作成法を修得させる。実験の各項目について、テキストをもとに説明を行い、実験をさせ、報告書を提出させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	数理解析概論	以下の内容を、クラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 常微分方程式の解法・求積法 2. 定数係数線形常微分方程式 3. ラプラス変換の基礎 4. フーリエ級数展開 5. 弦の振動の方程式の解法 6. 熱方程式の解法	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	凝固及び結晶成長	金属材料を始めとする材料工学の多くの分野において、適切な大きさの結晶を育成することは極めて重要である。一般構造材料では微細な結晶が、半導体やジェットエンジンのタービンブレードでは逆に大きな単結晶が求められている。また、物質移動係数の大きい融体からの結晶成長では、ミクロ及びマクロ偏析に関する理解も重要である。 本講義では、純金属及び合金の凝固を中心に、結晶核生成・成長機構及びその制御法について講義する。 なお、本講義の工業的応用として、３年後期に「接合・複合工学」が開講されている。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工作実習	機械工作に関わる基礎原理・加工法・加工機器の言葉遣いと実際について、成形加工・除去加工・付加加工および材料改質などの機械製作法を体験するとともに、各実習項目における安全について十分な理解を学ぶだけでなく、それらを融合して使うべき様々な状況にも対応できる技能を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	産業科学技術特別講義	鉄鋼・非鉄・電機などの分野における材料の開発や技術がどのような形で行われているのか、実際に産業界で活躍されている研究者や技術者などゲストスピーカーによる講話も交えながら学ぶ。本講義を通して、産業界の現況や未来について考える契機とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料工学特別演習	材料設計で必要となる金属材料およびエレクトロニクス材料に関する知識について調査や実習を行い、金属材料とそれらの強度特性に関する基礎知識・および半導体や超伝導などのデバイスへの応用など、基礎的な学力と実践的な技術力を身につける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	薄膜物理	薄膜は、一般的に、基材の上に極く薄い状態で作製される。そのため、バルクとは異なる性質を示すことが多く、その特性を活かして現代社会を支える様々な産業分野において広く応用されている。本講義では、気相蒸着法にて基材上で薄膜材料が作製される現象に重きを置いて、表面の形態や構造に起因して生じる様々な物理現象を学習するとともに、薄膜成長や得られる特性についての理解を深めることを目的とする。授業は、「薄膜材料の定義・目的」、「真空装置・真空度の測定」、「吸着」、「表面拡散」、「成長様式」、「エピタキシャル成長」、などから主に構成される。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料強度物性	あらゆる製品は、最終的に人が使いやすい「形」を持たねばならない。しかしそれは、ただ単純に材料を曲げたり伸ばしたりするだけでは決してうまく行かない。例えば、安全で環境性能に優れ、且つ美しい形を持つ自動車ボディーを創り出すためには、材料中に存在する種々の結晶格子欠陥を制御（利用）するための「サイエンス」が不可欠となる。本講義では、結晶性材料における変形媒体となる転位の概念を学ぶ。さらに、材料の強度を決める因子について転位の運動挙動に着目して学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	金属組織制御学	固体結晶の構造・固体中の拡散現象・固体の熱力学などに関する材料組織学に基づいて、金属材料の相変態（同素変態、平衡相変態、マッシブ変態、共析変態、マルテンサイト変態）・析出・加工・再結晶などにおける組織形成機構、ならびに速度論の考え方について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	エネルギー材料工学	エネルギー問題は、今世紀最大の課題である。太陽光などの持続可能なエネルギー源を効率よく変換・貯蔵・利用することができれば、持続可能なエネルギー社会を構築することも可能となる。本講義では、持続可能なエネルギーサイクルを構築するために必要不可欠な光触媒・太陽電池・リチウムイオン電池・燃料電池及び触媒などを対象に、エネルギー機能の発現機構や制御因子を理解することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	バイオマテリアル	再生医療とバイオマテリアル、バイオマテリアルに求められる条件、生体の異物反応、生体適合性、金属系のバイオマテリアルの特徴、セラミックス系のバイオマテリアルの特徴、合成高分子系バイオマテリアルの特徴、天然高分子系バイオマテリアルの特徴等について講義を行なう。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	データサイエンス	検索エンジンなどの検索ワードから感染病の流行を予測したり、購買データからその時々の流行を分析して広告を提示するなど、データを活用し科学的に物事を分析する技術は、これから重要になってくる分野である。 本講義では、データとは何か？データを活用するとはどういうことか？について基礎的な講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料工学実験第三	材料組織を設計し、材料特性の改善及び新素材の開発をするためには固相・液相・気相間の変態を利用する必要がある。そのためには、鋼を始めとする構造材料の組織制御、凝固と融体加工プロセス、および構造材料の力学的性質と変形を理解しておく必要がある。 本実験では、種々の実験を通して、材料の組織制御および力学的諸特性を理解することを目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料表面科学	材料の表面は、使用環境にさらされ環境と直接反応を起こす場所である。特に金属材料の腐食現象は資源の無駄であり、エネルギーのロスに繋がり重要な問題である。ここでは、金属の電気化学特性と腐食に及ぼす環境の影響、評価方法、およびその防止策について電気化学的手法など基礎的な知識の習得を目指す。 腐食反応の電気化学的意味を理解して、外部分極曲線を用いて腐食速度を測定する。各種腐食の原因とメカニズムを理解して、平衡論・速度論的観点から防食の手法を考える。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	無機材料解析学	私たちの生活には多種多様な無機材料が用いられている、本講義では、特に無機材料の中で非金属の材料、主にセラミックスを対象として、１．セラミックスの構造、２．セラミックスが示す物理的な性質、３．セラミックス材料の解析に関する基礎的な知識を説明する。１においては、結晶構造・点欠陥・化学結合などを中心に、２にておいては、セラミックスの電気的な性質、特に電子伝導性・イオン伝導性・誘電性を中心に、３においては、X線回折法ならびに電子顕微鏡法を中心に説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	鉄鋼材料工学	鉄鋼材料は最も広く利用されている構造用金属材料であり、その用途に応じて様々な機械的性質が必要とされている。例えばバネやギヤなどの機械部品に使用される場合は高い強度と硬さが要求され、自動車のボディーに応用される場合は強度だけでなく延性や加工性が重視されます。本講義では、鉄鋼材料の重要性と現状を理解するため、鉄鋼製品の製造プロセス、熱処理の基礎理論、組織と機械的性質の関係、鉄鋼の強化機構などについて紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	高温材料強度学	我々の身近には高温環境で使う材料が多くある。その材料の強度を理解する上で、高温での変形（クリープ変形）理論を学ぶことは必須である。本講義では、高温で起こる種々のクリープ変形機構とそれらによる材料の破壊、ならびに高温における材料強化の基礎知識を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	非鉄金属製錬学	金属は、現代社会において大量に使用されている材料の一つである。現在、周期律表には１０９の元素が記載されているが、そのうちの８７種が金属元素であり、これらは酸素や硫黄などと結びついた鉱物として自然界に存在する。この鉱物が濃縮したものが鉱石であり、鉱石を処理して金属材料の基となる金属素材を製造する一連の抽出・精製過程を金属製錬と称する。金属は、鉄とそれ以外の非鉄金属に大別される。本講義においては、非鉄金属の製錬方法の原理とその工程について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料反応工学	材料反応工学とは、反応器内で起こる化学反応を定量的に解析する化学工学の一分野である。この講義では、まず反応に係わる熱と物質の収支に関して講義した後、化学反応平衡論、化学反応速度論、化学反応モデルなどについて講義する。目的とする反応を効率的に起こさせるためには、反応システムをどのように構築し操作するかといった、工学的手法を身につけることを目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	半導体工学	近代社会では、不可欠となっている電子デバイスには半導体が用いられている。この講義ではそのデバイスがどのような原理で機能しているか基礎的な知識を学ぶ。 材料の持つ様々な機能(代表的なものとしては､例えば光・熱を電気に変換する機能)を理解するために重要となる基礎知識の修得を目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	接合・複合工学	金属材料を素材とした構造材料の多くは、製品形成を構成するために、部品を接合する必要がある。板材・棒材・パイプ材など単純形状の素材の組織をいくら緻密に制御しても、接合部は溶融接合によって凝固組織に戻り、ひいては機械的性質も接合部に支配される。そこで本講義では、広義の接合について材料の結合を把握するとともに、種々の金属材料を例に溶融接合について、凝固組織・得られる機械的性質及び対策について理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電解工学	電解プロセスでは、電極と電解液の界面で起こる電極反応を利用して、物質製造および機能処理を行う。電気化学平衡論及び速度論の基礎については、材料電気化学において概説した。本講義は、その応用編であり、実用的に重要な陰極反応と陽極反応を解説し、電解プロセスによる金属製造および機能処理の実例を示す。 電気化学の平衡論および速度論の基礎知識を基に、金属の電析・金属のアノード現象の理論を学び、電池反応・無電解めっき・電解製錬・電気めっきなどの電解現象を理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	非鉄金属材料工学	現代の工業では、多種多様な材料が、まさに適材適所で用いられ効率化が図られている。本講義では、「非鉄」として鉄鋼材料以外の金属材料をまとめ、それらの種類や特性ならびにその特性を生み出す材料科学的知識や、製造方法や用途などの工学的観点からの知識を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	セラミックス材料学	金属の酸化物や窒化物・炭化物の粉末を成形・焼結することによって得られるセラミックス材料は、金属材料と並んで人類の生活に必要不可欠な無機基盤材料である。この講義においては、セラミックス材料のパウダープロセッシング、成形および焼結といった基礎的な製造プロセスについて順を追って解説するとともに、それぞれの素過程に存在する熱力学・電気化学・移動現象的なバックグラウンドを含めて理解を深める。	
専攻教育科目	卒業研究	材料工学卒業研究	授業担当教員のもとで、材料科学工学に関する卒業論文研究を行う。文献検索を始め、実験方法の選択・解析結果の整理の仕方・他研究との比較・考察等についての一連の研究方法を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部応用化学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ＩA、ＩBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ＩA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ＩB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1B	Integrated Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2B	Integrated Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	Integrated Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1B	Integrated Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	物理化学第一	熱力学の基本原理について学習する。熱力学とは熱的な現象を巨視的な立場から現象論として取り扱う学問であり、３つの法則の形で表されている。これらの法則を理解するために物理的な見方に重点をおいてその”概念”を理解し、”方法論”ではこの考え方を、化学的な問題に応用し理解を深める。気体の性質、熱力学第一法則（概念と方法論）および熱力学第二法則（概念と方法論）について学習する。講義の進行に併せて演習を行うことによって、理解の質を高める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	量子力学第一	物質の物理・科学的性質は、原子核と電子のふるまいに支配されているが、それらを記述するのは量子力学である。この科目では、物質の粒子性・波動性を始め、分子軌道、シュレディンガー方程式、量子数、パウリの法則等など量子力学の基礎概念について講義を行い、演習を絡め理解を深める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	無機化学第一	本講義では、まず初年度で習得した原子の性質と化学結合についての理解の確認を行う。より詳細な化学結合に関する事柄は他講義にゆずる。その後、固体の構造、金属とイオン性固体の性質、固体に固有の電子構造と欠陥の概念を学ぶ。次いで、酸-塩基と酸化-還元反応とそれらの溶液中での化学を理解する。最後に、錯体化学と配位化合物への導入を講義する。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	有機化学第一	本講義では、基礎的な有機化学の原理と反応について学ぶ。工業化学を理解するために必要な有機化学の基礎を身につける事を目標とする。 （主な内容） 構造と結合、アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、立体化学、求核置換と脱離、アルデヒドとケトン、カルボニル化合物 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	金属材料大意	本講義は、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質に関する基礎的内容から構成される。さらに、将来懸念される社会環境の変化についての資料を提供し、金属材料を将来いかに活用して行くべきかを考えるきっかけとする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気，電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気、電気回路を基礎とし、電気計測・制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	安全学	化学に関する実験を行う際の危険性、注意すべき事項を解説する。 第１回　ガイダンス・イントロ、薬品・関連法規・ガラス（１、４章）、第２回　高圧ガス（２章）、電気・光（３章）、第３回　生体物質（５章）、第４回　放射線（６章）、第５回　有機化学実験（７章）、第６回防火・地震・廃棄物（８、９章）	
専攻教育科目	学科群共通科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。本講義では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） Ⅱ群に所属する教員が、オムニバス形式で４学科（化学工学科、応用化学科、材料工学科、融合基礎工学科）の教育と最新の研究成果について概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （120 土山　聡宏／３回） 材料工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （12 藤ヶ谷　剛彦／３回） 応用化学、特に分子システム工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （11 林　克郎／３回） 応用化学、特に機能物質化学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （153 三浦　佳子／３回） 化学工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （309 光原　昌寿／３回） 融合基礎工学科における教育概要及び物質科学と材料工学を融合した学際領域についての専門知識について概説する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学実験第一	【機能物質化学コース】 以下のテーマに関する実習を通して、実験技術の基礎と研究実施の基本的な考え方について習得する。 デジタルピペットを使った水の量りとり、弱酸の酸解離反応とpH緩衝作用、銀塩化銀電極の電位測定（電池の起電力）、電解質の電気伝導度と電気伝導度滴定、 SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動によるタンパク質の分離、アルドール縮合によるジベンザルアセトンの合成、塩化tert-ブチルの加水分解、発光色素の合成、ラジカル重合による架橋構造の形成と温度応答性ゲルの調製、粘度測定による高分子の平均分子量の評価、カラムクロマトグラフィーによる化学物質の分離、リビングラジカル重合法、分子軌道計算、水酸化鉄の湿式化学合成、色素増感太陽電池、中和滴定と活性炭への酢酸の吸着平衡。 【分子生命工学コース】 金属錯体の合成と電子スペクトルの測定実験を通じて、錯体化学、物理化学に関する理解を深める。また、電気分解、電解重量分析からなる基礎電気化学および電位差滴定について実験を行い、電気化学分析法の基礎知識を身につける。さらに金属およびタンパク質の液液抽出を行い、油水二相間の反応と分配に基づく分離分析法を習得する。 さらに、分光分析を用いて、生体分子（DNA、タンパク質）の定量法を学ぶ。また、生細胞の代謝に基づく定量についても学ぶ。 （11 林 克郎、16 清水 宗治、10 田中 敬二、2 石原 達己、1 安達 千波矢、4 加地 範匡、18 中野 幸二、232 小椎尾 謙、174 吉澤 一成） 機能物質化学コースを担当する。 (9 嶌越 恒、7 君塚 信夫、3 小江 誠司、5 片山 佳樹、12 藤ヶ谷 剛彦、8 後藤 雅宏、6 神谷 典穂、73 木戸秋 悟、113 田中 賢) 分子生命工学コースを担当する。 （*国際コースでも開講）	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	生化学第一	生命科学に関する最も基礎的な知識と理解を得るために、生体を構成する基本的な生体高分子に関する科学、化学的性質、構造、機能、生体内での役割などを理解することを目的として、 糖の化学と生体での機能と役割 、ペプチド、タンパク質、核酸、脂質について解説を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	高分子化学第一	高分子化学は２０世紀に生まれた新しい学問分野であり、合成繊維、耐熱性高分子、エンジニアリングプラスチックや医用高分子材料など、私たちの生活に欠かすことのできない多くの材料を生み出している。 本講義では、高分子の合成法を中心として高分子化学の基礎を理解する。高分子の固体構造と基本的特性、重縮合反応、重付加反応、付加縮合反応、ラジカル重合、カチオン重合、アニオン重合、リビング重合、配位アニオン重合、開環重合について解説する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	分析化学第一	化合物の溶液中における存在状態と、化学反応を定量的に取り扱うための化学平衡論を中心とした溶液化学について学ぶ。この過程で基礎となる計測した数値の統計的取り扱い方を習得し、酸塩基平衡、錯体形成反応、固液平衡、イオン交換反応、分配平衡、酸化還元反応ならびにこれらの反応を化学量論的に取り扱うための滴定法について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	有機化学第二	基本的な有機化合物の性質、構造および反応について、その根底にある基礎原理・理論を中心に講義する。 有機反応の概観、アルケンの構造と反応性、反応と合成、有機合成序論、有機ハロゲン化物、ハロゲン化アルキルの反応：求核置換と脱離、ベンゼンと芳香族性、ベンゼンの化学：芳香族求電子置換、アルコールとフェノール、エーテルとエポキシド、チオールとスルフィドについて学ぶ。 （*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理化学第二	化学熱力学の基本法則を用いて、相平衡、化学平衡及び平衡電気化学への応用について学習する。特に、部分モル量としての化学ポテンシャルを用いて、物理変化や化学反応の方向を判断し、平衡における状態や組成を推定できることを学ぶ。具体的には、(1)単純な溶液平衡と相平衡、(2)相律、多成分系の気液、液液、液固平衡、状態図、(3)化学反応の平衡に及ぼす温度や圧力の影響、ルシャトリエの原理と平衡移動、(4)平衡電気化学について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用物理学第一	光や電磁波と物質との相互作用に焦点を定め、物質が示す光学的性質がどのように生まれ、それがどのように応用できるかを理解し、自分で説明できる能力を習得する。具体的には以下の4項目について講義を実施する。①光波と物質を記述するための基本概念と数学的基礎。②古典的概念を基礎とした光と物質の相互作用モデル。③界面での光波の振る舞い。④レーザーの原理と応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	データサイエンス	情報科学分野の多様な手法を利用して、蓄積された化学実験データやシミュレーションデータからの効率的な探索法に基づく、高速の新物質・新素材開発が可能になってきている。このような情報科学と応用化学をつなぐ新しいアプローチのために必要な基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学第一	化学工学は、化学品から医薬・食品製造にいたる様々な製品を効率良く生産するためのプロセスを構築する上で重要な学問である。本講義では、反応速度の取扱いと反応器設計の基礎について学ぶ。 （主な内容） (1) 反応工学と反応速度論、(2) 反応器と化学反応の分類、(3) 反応速度式の記述法、(4) 反応速度の温度依存性、(5) 反応速度式の導出法（定常状態近似法、律速段階近似法、(6) 生物化学工学の基礎、(7) 反応器設計の基礎（連続槽型反応器、管型反応器）、(8) 複合反応における反応器の設計 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	無機化学第二	金属錯体の構造、性質、反応性など、錯体化学の基礎を学ぶ。 （主な内容） １）身の回りの錯体、２）錯体の命名法、３）結晶場理論、４）錯体の立体化学、５）錯体の合成と反応、６）安定度定数、７）錯体の反応機構（配位子置換反応、電子移動反応）、８）有機金属化学と最近の生物無機化学トピックス （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子化学	分子分光学について講義する。分子励起状態の基礎的な理解を深める事、速度定数等、種々の計算を実践的に行えるようになること、分子光化学の全体像を理解し、他の学問分野への展開を図ることができることを目標とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	数理解析概論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 常微分方程式の解法・求積法 2. 定数係数線形常微分方程式 3. ラプラス変換の基礎 4. フーリエ級数展開 5. 弦の振動の方程式の解法 6. 熱方程式の解法	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学実験第二	【機能物質化学コース】 以下のテーマに関する実習を通して、実験技術と基礎と研究実施の基本的な考え方について習得する。 有機合成の基本操作、化合物の分離精製法（濾過、蒸留、再結晶等）、基本的な有機反応（アルコールの脱水、アルドール縮合、カルボニル還元、アセタール保護、ジアゾカップリング、Grignard反応、Wittig反応、化学発光実験）、銅イオンセンサーによるTrien-銅イオン錯体の安定度数の測定、反応速度論-グルコースオキシダーゼによる触媒反応のMichaelis-Menten解析、溶液内吸着平衡－血清アルブミンへの低分子化合物の結合、イオン交換平衡の理解と樹脂の交換容量及び選択係数の算出、ボルタンメトリー法によるヒドロキノンとアスコルビン酸の電気化学測定、吸光光度法によるメチルオレンジのpKaの測定とその応用、発振・増幅回路の製作とその電気信号の計測、光の誘導現象の体験―色素レーザーの作製、吸収実験。 【分子生命工学コース】 有機化合物および有機金属化合物の合成実験を通して、加熱、冷却、窒素置換、乾燥、再結晶、分液、ろ過、昇華などの基本操作を修得する。合成または分離・精製した化合物の赤外吸収スペクトル、紫外可視吸収スペクトルおよびサイクリックボルタンメトリー測定を行い、有機金属化合物やナノカーボン化合物の諸物性を理解する。さらに有機金属錯体の 酸化・還元反応の非線形速度論解析の実験を通じ、生命現象 の基礎となる時空間の動的自己秩序形成反応の特質について、物理化学的理解を涵養する。 （11 林 克郎、16 清水 宗治、10 田中 敬二、2 石原 達己、1 安達 千波矢、4 加地 範匡、18 中野 幸二、232 小椎尾 謙、174 吉澤 一成） 機能物質化学コースを担当する。 (9 嶌越 恒、7 君塚 信夫、3 小江 誠司、5 片山 佳樹、12 藤ヶ谷 剛彦、8 後藤 雅宏、6 神谷 典穂、74 木戸秋 悟、113 田中 賢) 分子生命工学コースを担当する。 （*国際コースでも開講）	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学第二	化学工学は、物質の収支、エネルギーの収支、平衡関係、移動または変化の速度、経済的な最適化に基づき、物質やエネルギーを有効に利用するための学問である。本講義では、(1) 化学プロセスと工学、(2) 変化する過程の表現（長さ、質量、時間を基本とする単位系、反応、反応速度の記述に関して解説）、(3) 物質の分離操作（化学プロセスでは反応で得られた有用物質を副生成物や溶媒などから分離、精製している。このため吸収、吸着、溶媒抽出、膜分離、結晶成長などの操作が行われており、これらを例として物質が移動する過程を解説）、(4) 熱移動操作（通常の化学反応は熱によって進行する。熱の伝わり方を理解し、定量的に表現）、(5) 流動操作（液体と気体の流れの理解）、(6) 分散系の取り扱い（粉あるいは粒子の大きさの分布の記述、流体中で分散している粒子の運動の表現）について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	分析化学第二	実験・研究において新たな化合物や材料を合成する際に欠かせない作業が機器分析である。分析なしではどんな物質ができたかを調べられないからである。これまでの機器技術の発達により、ますます多機能化、高感度化、多様化が進んでいる。測定原理や装置機構の理解なしでこれらを使いこなすのは非常に危険で、時として誤った結論を導くことさえある。本授業においては特に分光分析技術に比重を置き、装置原理、測定原理、スペクトル解読法について学習する。また、同様に質量分析についても学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	高分子化学第二	高分子鎖の高次構造と緩和現象を物理化学的に考察し、高分子を材料として捉えることを目指す。 高分子の定義、分子鎖の描像、高分子の工学応用、高分子の歴史、高分子の化学構造、高分子鎖の特性、高分子溶液、高分子の凝集状態、高分子の物性 （弾性・粘性・粘弾性、動的粘弾性、電気・光学物性）について学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	有機化学第三	基本的な有機化合物の性質、構造および反応について、その根底にある基礎原理・理論を中心に講義する。また、有機化学の体系的な理解を目的とする。 （主な内容） カルボニル化合物、アルデヒドとケトン：求核付加反応、カルボン酸とニトリル、カルボン酸誘導体：求核アシル置換反応、カルボニルα置換反応、カルボニル縮合反応。 （*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	生化学第二	基礎的な有機化学、生化学の知識を基に、主として細胞内で起こる生命現象について分子を中心としての理解のため、細胞を構成する生体膜や反応を司る酵素の役割、細胞がいかにエネルギーを獲得するかについて中心的に学習する。 （主な内容） 生命・細胞、セントラルドグマ、脂質と生体膜、膜輸送、酵素触媒 、酵素の反応速度、阻害、調節、シグナル伝達の生化学、生体内の化学反応概論、生体内でのエネルギーの獲得 、グルコースの異化代謝、クエン酸サイクル、電子伝達と酸化的リン酸化。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	無機化学第三	物質の性質を決める要因は、構成原子の種類、化学結合の様式、そして結晶構造である。実用的な、あるいは新規の無機固体化合物を合成し、その機能を効果的に発現させるためには、合成方法と評価方法についての知識も必要となる。本講義では、セラミックスに代表される無機固体物質の構造と合成方法、評価法の基礎を学び、機械的、電気的、磁気的特性の起源と応用についての知識を習得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理化学第三	物理化学の分野における熱統計力学と誘電性、回折法についての理解を深める。ボルツマン分布や分子分配関数、分子のエネルギーといった微視的性質から熱力学的な系を組み立て、内部エネルギーやエントロピー、各種熱力学関数などの巨視的性質を導き出す方法を修得する。また、分子内の電荷の偏りと誘電特性の関連を学ぶとともに、結晶性固体の誘電性に繋げる。結晶や固体の構造を調べるための回折学的方法についても理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	表面化学	現代社会の様々な分野で活用されている機能材料において、その重要な役割を担う材料表面の基礎化学に関して、物理化学、材料化学、表面分析科学、表面機能性材料の観点から講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学実験第三	【機能物質化学コース】 以下のテーマに関する実習を通して、実験技術と基礎と研究実施の基本的な考え方について習得する。 Raman分光法-有機化合物の同定-、多光子イオン化質量分析法による芳香族化合物の分析、ガスクロマトグラフ、多光子イオン化、飛行時間型質量分析法を用いるダイオキシン類の分析、有機デバイス実験、有機半導体物性実験、有機合成実験、計算化学実験、酸化亜鉛の焼結と電気伝導特性、金属アルコキシドのゾルゲルプロセスによる無機材料の製造と評価、アルカリリン酸ガラスの作成と熱特性、光吸収、イオン伝導性、水酸化鉄の湿式化学合成、燃料電池の発電特性、Liイオン二次電池、Al-空気電池、活性炭の比表面積測定、活性炭を用いた水の浄化、高分子の合成と物性評価、精密重合による高分子の設計と合成、感温性高分子薄膜の表面濡れ性評価、高分子の引張特性。 【分子生命工学コース】 光学活性な金属錯体の合成や天然物からの光合成色素の抽出実験を通じて、錯体化学、生物無機化学、有機物理化学に関する基礎知識を学ぶ。光化学反応が関与する光異性化反応および光増感反応と色素増感太陽電池について実験を行い、光化学について理解を深める。酵素反応速度論を用いて、酵素の触媒としての性質や、由来による特性の違いを学ぶ。大腸菌からのプラスミドDNAの抽出とその電気泳動による分析、培養細胞への遺伝子導入、生体親和性高分子の合成とそれを用いた評価を行い、生命工学、遺伝子治療、生体に触れる高分子材料の設計・合成の基礎を理解し、基本実験技術を習得する。 （11 林 克郎、16 清水 宗治、10 田中 敬二、2 石原 達己、1 安達 千波矢、4 加地 範匡、18 中野 幸二、232 小椎尾 謙、174 吉澤 一成） 機能物質化学コースを担当する。 (9 嶌越 恒、7 君塚 信夫、3 小江 誠司、5 片山 佳樹、12 藤ヶ谷 剛彦、8 後藤 雅宏、6 神谷 典穂、74 木戸秋 悟、113 田中 賢) 分子生命工学コースを担当する。 （*国際コースでも開講）	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理化学演習	化学熱力学の基本法則を用いて、実在気体の表現法、仕事と熱、熱力学の第一及び第二法則、エントロピー、エンタルピー、ギブスエネルギー、相平衡、相転移、混合液体、活量、化学平衡及び電極電位に関する概説と演習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	触媒化学	触媒は多くの分野で使われており、現在の工業では、なくてはならない物質である。本講義では固体触媒について、ガスの吸着現象と吸着に伴う分子の活性化について、触媒作用の発現機構を学ぶ。さらに、環境とエネルギーの分野における触媒の応用について学習するとともに、触媒作用の発現する機構を説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	高分子化学第三	本講義では、種々の高性能高分子、機能性高分子の材料設計の基本と応用例について解説する。主に、ポリマーアロイの構造（ブレンド、コポリマー）、高性能高分子材料（耐熱性、耐衝撃性、高強度化）高機能高分子材料（電気物性、光物性）合成高分子のナノバイオ応用について解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生体機能化学	酵素は何故、温和な条件で高効率かつ高選択に、望みの反応を触媒することが出来るのか？酵素反応の仕組みを、有機化学、物理化学の視点から捉え、その理由について学ぶ。また酵素反応の例として、加水分解酵素、金属酵素を例に学び、その反応機構について学習する。さらに、酵素反応を人工的に再現する酵素模倣反応と人工酵素の開発について、具体的な例を挙げながら説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	有機化学第四	「有機化学第一、第二、第三」を学んだ学生を対象に有機化学に関係する応用分野について講義を行う。 （主な内容） アミンと複素環、アルカン、アルケン、アルキン、ハロゲン化アルキル、構造決定、ベンゼン、アルコールとフェノール、エーテルとエポキシド。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子化学演習	原子・分子の検出・同定、化合物の構造解明、化学反応の追跡、赤外・ラマン分光法、および電子スペクトル分析法、表面・界面現象に各種の分光法は欠かすことができない。これらの微視的現象の理解と解析方法の実際について、講義と演習を通じて習得することを目標とする。	講義10時間 演習12.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	分析化学第三および演習	分析化学に不可欠な知識について、講義と演習形式について理解を深める。分離技術、とくに分析化学において最近広く利用されているようになってきた電気泳動分析法とキャピラリークロマトグラフィーについて講義する。 また、光学顕微鏡、電子顕微鏡、プローブ顕微鏡と言った微小領域を可視化する測定手法についても講義を行い、これらの顕微鏡と分光分析を組み合祖せた微小領域の分析技術を学習する。また、電子化学の基礎についても理解を深める。	講義10時間 演習12.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	無機化学第四	本講義では、無機固体における結晶構造、機械的性質、熱的性質なども諸々の物性について、講義を通して学習するとともに、固体の関与する反応についても学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	分子組織化学	分子の自己組織化を利用して分子組織体や超分子構造を設計・構築することは、分子レベルで制御された新しい機能性材料をデザインするための基盤となる。本講義では、分子の自己組織化の基礎について学ぶ。 （主な内容） （１）分子間力（Coulomb力、イオン-双極子相互作用、双極子-双極子相互作用、電荷-誘起双極子相互作用、分散力、van der Waals力、水素結合、疎水性相互作用、π-π相互作用、カチオン-π相互作用、電荷移動相互作用）、（２）ホストーゲストの化学（クラウンエーテル、クリプタンド、スフェランド、シクロデキストリン、カーカビトゥリル、ロタキサン、ポリロタキサン）、（３）超分子化学（核酸、水素結合型超分子、配位結合型超分子）（４）界面化学の基礎と生体膜・合成二分子膜の化学（ミセル、生体膜、合成二分子膜）について、有機化学ならびに物理化学の観点から解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別講義第一	学外のゲストスピーカーによる談話なども交えた、応用化学に関わる専門的もしくは実践的課題に関する集中講義を受講し、関連する課題探求を行う。これらの達成度を勘案して単位を認定する。応用化学特別講義第二、第三、第四および第五と異なる課題を選定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別講義第二	学外のゲストスピーカーによる談話なども交えた、応用化学に関わる専門的もしくは実践的課題に関する集中講義を受講し、関連する課題探求を行う。これらの達成度を勘案して単位を認定する。応用化学特別講義第一、第三、第四および第五と異なる課題を選定する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別講義第三	学外のゲストスピーカーによる談話なども交えた、応用化学に関わる専門的もしくは実践的課題に関する集中講義を受講し、関連する課題探求を行う。これらの達成度を勘案して単位を認定する。応用化学特別講義第一、第二、第四および第五と異なる課題を選定する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別演習第一	４年次前期を対象として、応用化学の分野に関連する特定の課題に取り組み、十分に達成度が認められた際に、単位を認定する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別講義第四	学外のゲストスピーカーによる談話なども交えた、応用化学に関わる専門的もしくは実践的課題に関する集中講義を受講し、関連する課題探求を行う。これらの達成度を勘案して単位を認定する。応用化学特別講義第一、第二、第三および第五と異なる課題を選定する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別講義第五	学外のゲストスピーカーによる談話なども交えた、応用化学に関わる専門的もしくは実践的課題に関する集中講義を受講し、関連する課題探求を行う。これらの達成度を勘案して単位を認定する。応用化学特別講義第一、題二、第三、および第五と異なる課題を選定する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用化学特別演習第二	４年次後期を対象として、応用化学の分野に関連する特定の課題に取り組み、十分に達成度が認められた際に、単位を認定する。	
専攻教育科目	卒業研究	応用化学卒業研究	教員の指導の下、応用化学の分野に個々の課題を設定して実践的な研究を行う。研究の進展に必要な情報の集約、実験や理論の実施展開法、得られた結果に対する考察法、結論法を修得する。研究成果を卒業論文を執筆することで取りまとめ、研究成果発表と議論を介して、十分な達成度が認められた際に単位を認定する。（*国際コースでも開講）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部化学工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1B	Integrated Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2B	Integrated Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	Integrated Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1B	Integrated Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	物理化学第一	熱力学の基本原理について学習する。熱力学とは熱的な現象を巨視的な立場から現象論として取り扱う学問であり、３つの法則の形で表されている。これらの法則を理解するために物理的な見方に重点をおいてその”概念”を理解し、”方法論”ではこの考え方を、化学的な問題に応用し理解を深める。気体の性質、熱力学第一法則（概念と方法論）および熱力学第二法則（概念と方法論）について学習する。講義の進行に併せて演習を行うことによって、理解の質を高める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	量子力学第一	物質の物理・科学的性質は、原子核と電子のふるまいに支配されているが、それらを記述するのは量子力学である。この科目では、物質の粒子性・波動性を始め、分子軌道、シュレディンガー方程式、量子数、パウリの法則等など量子力学の基礎概念について講義を行い、理解を深める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	無機化学第一	（概要） 本講義では、まず初年度で習得した原子の性質と化学結合についての理解の確認を行う。より詳細な化学結合に関する事柄は他講義にゆずる。その後、固体の構造、金属とイオン性固体の性質、固体に固有の電子構造と欠陥の概念を学ぶ。次いで、酸-塩基と酸化-還元反応とそれらの溶液中での化学を理解する。最後に、錯体化学と配位化合物への導入を講義する。 （オムニバス方式　全１５回） （10 星野　友／７回） 原子構造、分子構造と結合、固体の構造に関する基礎および総論 （12 山本　剛／８回） 酸と塩基、酸化と還元に関する基礎および総論	オムニバス方式
専攻教育科目	学科群共通科目	有機化学第一	本講義では基礎的な有機化学の原理と反応について学ぶ。工業化学を理解するために必要な有機化学の基礎を身につける事を目標とする。 （主な内容） 構造と結合、アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、立体化学、求核置換と脱離、アルデヒドとケトン、カルボニル化合物	
専攻教育科目	学科群共通科目	金属材料大意	本講義は、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質に関する基礎的内容から構成される。さらに、将来懸念される社会環境の変化についての資料を提供し、金属材料を将来いかに活用して行くべきかを考えるきっかけとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気，電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気，電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路，回路素子，交流回路，回路に関する諸定理，二端子対網，三相交流回路，過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気，電気回路を基礎とし、電気計測，制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定，抵抗・容量・インダクタンスの測定，電力の測定 ，位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル，伝達関数とブロック線図，周波数特性，安定性など）について学習する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	安全学	化学に関する実験を行う際の危険性、注意すべき事項を解説する。 （主な内容） 第１回　ガイダンス・イントロ、薬品・関連法規・ガラス（１，４章） 第２回　高圧ガス（２章）、電気・光（３章） 第３回　生体物質（５章） 第４回　放射線（６章） 第５回　有機化学実験（７章） 第６回　防火・地震・廃棄物（８，９章） 第７回　振り返り	
専攻教育科目	学科群共通科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。本講義では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） Ⅱ群に所属する教員が、オムニバス形式で４学科（化学工学科、応用化学科、材料工学科、融合基礎工学科）の教育と最新の研究成果について概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （111 土山　聡宏／３回） 材料工学分野におけるプロセスと物性に関する基礎理論と応用技術、ならびに最新の研究動向について概説する。 （135 藤ヶ谷　剛彦／３回） 応用化学、特に分子システム工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （126 林　克郎／３回） 応用化学、特に機能物質化学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （6 三浦　佳子／３回） 化学工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （304 光原　昌寿／３回） 融合基礎工学科における教育概要及び物質科学と材料工学を融合した学際領域についての専門知識について概説する。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理化学第二	（概要） 物理化学第一で学習した熱力学の基本原理に基づき、純物質や混合系の相平衡、化学平衡、電極反応の平衡がどのようにして定まるかを学ぶ。 （オムニバス方式　全１５回） （6 三浦　佳子／５回） ・熱力学第一～第三法則についての概説および演習 ・純物質の物理的な変態 （1 井嶋　博之／１０回） ・単純な混合物 ・化学平衡 ・平衡電気化学	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学量論	化学工業で使用される装置やプラントを設計したり、操作する場合、各装置内における物質やエネルギーの流れを定量的に把握する必要がある。全ての量を測定できるわけではないため、物質収支やエネルギー収支によって既知量から未知量を評価することが重要となってくる。本講義では、化学工学計算の基礎である単位・次元の扱い、エネルギー収支計算、物質収支、燃焼計算について学ぶ。 第１回：化学工学のはじまり 第２回：単位と次元（単位換算、無次元数） 第３回：次元解析 第４回：演習（単位と次元、次元解析） 第５回：物質収支計算の基礎 第６回：反応を伴う操作の物質収支 第７回：演習（物質収支の基礎） 第８回：エンタルピーと反応熱 第９回：エネルギー収支計算の基礎 第１０回：熱収支計算の基礎 第１１回：演習（反応熱、エネルギー収支） 第１２回：燃焼計算の基礎（発熱量） 第１３回：燃焼計算の基礎（固体・液体・気体燃料の燃焼計算、燃焼ガス温度） 第１４回：演習（燃焼計算） 第１５回：課題試験	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎生命工学	（概要） 近年、微生物や植物および動物細胞などを利用するバイオテクノロジーの進歩は著しく、これらの技術は医薬品などの有用物質生産のみならず、再生医療などの医療分野への応用についても期待されている。この講義では、こうしたバイオテクノロジーにおける基礎を学ぶ。 （オムニバス方式　全１５回） （3 上平　正道／５回） ・細胞工学および遺伝子工学の基礎的内容 （1 井嶋　博之／４回） ・植物細胞工学および動物細胞工学の基礎的内容 （11 水本　博／６回） ・再生医工学および微生物工学の基礎的内容	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	化工数学	工学に見られる現象の多くは微分方程式で記述され、その解を求めることで工学的問題を解決する場合が多くある。また、力や速度など多くの物理量は空間的にはベクトルとして取り扱われる。そこで本講義では、微分方程式の解法および3次元空間におけるベクトル関数の取り扱いについて講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学実験第一	化学工学に関連した基礎的な実験を数人のグループに分かれて行う。具体的には酸化還元・起電力・化学平衡定数・拡散係数・高分子合成・反応速度・クロマトグラフィー・酵素反応等に関する実験を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用物理学第一	我々の身の回りには多種多様な物質が存在し、それらは独特の構造（原子間結合、結晶構造など）とそれに関連した物性をもっている。そして、現代社会を支える様々な材料、電子機器や光学機器などには、物質のもつその多様な性質が機能として生かされている。では、物質の多様な性質（すなわち、熱をよく伝える・伝えにくい、電気をよく通す・通さない、透明・不透明など）は何によって決まり、どのようにして違いが生じているのか。このような疑問に対して、物質を多数の原子（原子核と電子）からなる系として取り扱い、基礎的な物理学（量子力学、統計力学、電磁気学など）を土台として、その基本的な性質を統一的に理解し、説明できるようになることが本講義の大きな目的である。応用物理第一では、主に電磁波と物質との相互作用を中心として、物質の構造と物性（光学的性質、光物性）について、物理的考え方とその応用を学ぶ。一口で物性と言ってもその範囲は非常に広いので、本講義では多くの分野に共通する内容を取り上げ、基礎的な内容から学んでいく。研究開発におけるトピックスにも適宜触れる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	数理解析概論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 常微分方程式の解法・求積法 2. 定数係数線形常微分方程式 3. ラプラス変換の基礎 4. フーリエ級数展開 5. 弦の振動の方程式の解法 6. 熱方程式の解法	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質移動工学	多成分の液体・気体からの有用・有害成分の分離など、分離・精製は化学工業で重要である。また、有用な物質を生成する化学反応装置や生化学反応が行われる生体（バイオリアクター）中では、混合が必要である。このような分離や混合の基礎学問が物質移動工学であり、多成分系の成分物質の移動現象を取り扱う。本講義の工業的応用は、分離工学で学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎流体工学	本講義は、化学工学において必要とされる流体工学の基礎を教えるものである。化学工学者に要求される重要な能力は、化学プラントや環境中での熱と物質と運動量の輸送現象を容易に扱うことができることにある。流体の流れに関する知識は、これらの輸送現象解析の基礎となるものであり、その基礎的な理解が極めて重要とされている。本講義では移動現象をもとにして流体工学の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	エネルギー材料工学	今日のエネルギー問題に関する意識を高め、物質科学工学としての立場で何が必要で何ができるか、どんな知識が必要かを考え、学ぶ。講義形式および討論形式で行い、最後にグループ発表を行う。 （講義の主な目的） ・今日のエネルギー問題について学び、何が必要かを考える。 ・エネルギー問題に役立つ材料を研究・開発する上で必要な基礎知識を身に付ける。 ・エネルギーに関する最先端の新しい材料に関する基礎物理・化学の知識を身に付ける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロセス物理化学	化学工業で取り扱われる物質の種類は数千種とも１万種とも言われている。このように多彩な物質を取り扱うことを前提とし、プロセス設計の基礎としての物理化学について講義する。 （主な内容） ・活量係数式 ・状態方程式 ・気液平衡・液々平衡・固液平衡の計算法 ・気体分子運動論 ・統計熱力学と分配関数 ・高分子物理化学	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化工流体工学	本講義は基礎流体工学の講義の続編であり、化学プロセス等の設計に役立つ流体工学について授業を行う。既に学んだ基礎流体工学をベースに対象とする化学プロセスの代表例として、粒子プロセス、充てん層、流動層、ろ過、沈降分離、遠心分離、流体計測などに関して、その内容、考え方、設計法等に関する応用を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生物プロセス工学第一	(概要) 酵素、微生物もしくは動植物細胞の生物化学的機能を物質生産、環境保全ならびに医療に役立てようとするバイオテクノロジーの発展は目覚しいものがある。本講義では、バイオプロセスの開発に際して必要となる酵素の性質、反応速度論、バイオリアクター技術の基礎について学ぶ。 （オムニバス方式　全１５回） （1 井嶋　博之／１１回） ・バイオプロセスとその構成 ・酵素の分類、命名法、特徴 ・固定化酵素と反応速度論 ・酵素反応用バイオリアクター （3 上平　正道／４回） ・酵素反応速度論	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学大意第二	機械工学のうち、流体工学、熱力学、内燃工学および伝熱学は、様々なエネルギーを用いて私たちが生活するうえで根幹となす重要な学問であることを理解する。 そのために、まずはこれらの基礎原理を理解する。そして、これらの学問が身の回りの実際のエネルギー機器等にどのように応用されているかを学ぶ。なかでも基本的で重要な、流体の諸性質と流れの基本法則、熱と仕事の間のエネルギー変換の概念と基本法則、実際の機械として内燃機関の動作原理の把握、伝熱のメカニズムと計算法について重点を置く。なお、講義だけでなく、授業中に適宜、演習を行って理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	接合・複合工学	溶融接合は板状や棒状の塑性加工品を接合する不可欠のプロセスである。素材の種類に応じて適切な接合法を選択しなければならないが、過剰なエネルギーの付加は接合部及び母材の特性を著しく劣化させる。一方、溶融接合の基礎理論をミクロスケールで利用することにより、セラミックス／金属、セラミックス／高分子材料、金属／高分子材料等の様々な組み合わせで組織を作製することができ、新素材としての応用が期待される。 本講義では、接合技術として溶融接合を例に物質の溶融接合法についてその制御法を講義する。さらに、ミクロ組織に応用した複合材料について、その設計法、特性予測、及び組織制御法について講義する。金属、半導体、セラミックスなど個々の物質の性質を知ると共に、異質物間の界面挙動について熱力学的に理解することを目標とする。また、溶融金属とセラミックスの複合材料を例に複合材料の製造プロセス技術の特徴と問題点を理解することを目標とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	データサイエンス	化学プロセスの設計、運転、制御のためには、プロセス内の化学反応や輸送現象の理解が重要である。その方法として反応速度式や物質収支式などの数理モデルに基づいた解析に加え、実際のプロセス内で取得される温度、濃度、圧力、流量等の多くのデータの挙動から内部現象を推定し、相関関係を把握することが必要である。本講義では、各自のＰＣを用いて（１）各種数理モデルの数値解析に必要なプログラミング手法やアルゴリズムの習得と、（２）データの検証、検定、またその活用による相関取得の手法を習得する。そして本講義内でアプローチの異なる両手法の基礎を理解し、これらを融合できる能力を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学実験第二	化学工学に関連した基本事項について実験を行う。実験課題は以下の通りであり、３グループに分かれて、各グループで毎週異なったテーマの実験を行う。なお、サブテーマを有しているテーマの場合、さらにサブグループに分かれて実験を実施する。実験結果や課題をレポートにまとめ、(i)実験結果について面接により質問を行う方式、または(ii)総合討論により議論する方式をとり、学生の理解度・習熟度を確認する。 （実験課題） ・環境・エネルギー分野に関する実験：気液平衡、伝熱、流動、プロセス ・バイオ分野に関する実験：微生物培養、遺伝子工学、、バイオリアクター ・材料分野に関する実験：微粒子合成	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学特別講義	化学プロセス分野における教育機関・研究機関・民間企業で活躍されている経営者、研究者、技術者の講話を交えながら、当該分野における技術開発の現況や展望について議論を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用物理学第二	我々の身の回りには多種多様な物質が存在し、それらは独特の構造（原子間結合、原子配列など）とそれに関連した物性をもっている。そして、現代社会を支える様々な材料、電子機器や光学機器などには、物質のもつその多様な性質が機能として活かされている。では、物質の多様な性質、すなわち硬い・軟らかい、熱をよく伝える・伝えにくい、電気をよく通す・通さない、透明・不透明などは何によって決まり、どのようにして違いが生じているのか。このような疑問に対して、物質を多数の原子（原子核と電子）からなる系として取り扱い、主に量子力学と統計力学を土台として、その基本的な性質を統一的に理解し、説明できるようになることが本講義の大きな目的である。そこで、応用物理第二では、結晶における構造と物性（熱物性、電気伝導など）を中心とした内容について、物理的考え方とその応用を学ぶ。一口で物性と言ってもその範囲は非常に広いので、本講義では多くの分野に共通する内容を取り上げ、基礎的な内容から学ぶこととする。また、講義では研究開発におけるトピックスにも触れる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎熱工学	(概要) 生産プロセスにおいて物質変換を行うためには熱エネルギーが不可欠である。その熱エネルギーを効率よく作りだし、効率よく輸送し、反応器内の物質に効率よく伝えることがプロセスの省エネルギー化である。さらには、熱エネルギーを有効に利用することが地球規模のエネルギー・環境問題の解決につながる。生産プロセスでは、熱エネルギーを利用するための様々な装置があるが、その基本となる伝熱形態は３つである。本講義では、そのような熱エネルギー移動（伝熱）に関する基礎知識を習得するとともに、それを用いて様々なところで生じている伝熱現象の理解を深める。 （オムニバス方式　全１５回） （5 深井　潤／１３回） ・伝熱基礎、伝導、対流、放射、熱交換器について （7 渡邉　隆行／２回） ・省エネルギー機器について	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロセス制御	化学プロセスで製品を安全に得るためには、プロセス内の温度、圧力、流量といった状態変数の値を目標値に保つ必要がある。それを自動的に行ってくれるのがプロセス制御系である。本講義では、まず、制御対象のモデル化と動特性の解析について学ぶ。次に、プロセス制御の基本形であるフィードバック制御とフィードフォワード制御に重点をおいて、化学プロセスにおける制御系の設計法を学ぶ。特に、フィードバック制御系の安定性解析とPID調節計のパラメータチューニングについて理解を深めさせる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	反応工学第一	化学プロセスにおける反応器を設計するためには、化学反応速度論を理解するとともに、反応器の設計方程式を自在に扱える必要がある。本講義では、前者の化学反応速度論に重点をおき、さらに反応器設計につなげるための反応速度解析法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロセス計装	化学プロセスで製品を安全に得るためには、プロセス内の温度、圧力、流量といった状態変数の値を的確に把握して安定運転を実現する必要がある。そのために、計器をどのように配置してどのような制御系を構成するかを決定しなければならない。その方法がプロセス計装であり、プロセス設計と実際の運転管理とを繋げるものである。本講義では、実プラントにおける事例に基づき、プロセス計装の基本的な考え方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	生物プロセス工学第二	(概要) 　低分子有機化合物から、抗生物質、酵素、抗体などのタンパク性医薬品まで、バイオプロダクトを生産するためのバイオプロセスの構成、生産細胞の育種法、バイオリアクター操作法、バイオプロダクトの分離法、および生物的排水処理プロセスについて、それらの原理や特徴、理論的な取扱いの基礎について学ぶ。 （オムニバス方式　全１５回） （3 上平　正道／１１回） ・微生物反応の量論、菌体・代謝産物の収率、微生物反応熱 ・バイオセパレーション ・生物的廃水処理プロセス （1 井嶋　博之／４回） ・微生物反応の速度論、操作および装置 ・バイオリアクター	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	高分子化学第三	高分子材料は、工業的に極めて重要な材料で、一般に高性能高分子と機能性高分子に大別される。高性能高分子とは、極低温、高温、外部からの大きな力などに対して高い耐性を持っている高分子材料であり、主として優れた受動的物性を示す。これに対して機能性高分子は材料側自身が様々な機能を発現する。たとえば、光や電気を通したり、それらのエネルギーを変換したり、物質を選択的に分離したり、血液を凝固させなかったり、薬理活性を発現したりといった機能を持つ材料である。このような目的を実現するためには機能を志向した材料設計が必要不可欠である。本講義では種々の高性能高分子、機能性高分子の材料設計の基本と応用例について解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化工情報処理演習	化学工学の分野における利用頻度の高い数値計算法について、計算法の原理と基礎を学習するとともに、他のプログラムの講義で得た内容・知識を利用し、実際に教育情報システムのコンピュータを使用してプログラミングを行う。さらに、パラメーターを変更して計算を実施し、その結果について考察を行うことで、プログラムへの理解を深めていく。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	化学工学実験第三	化学工学が対象とする化学プロセスおよび生命工学分野の基礎をなす概念と理論について、他の講義で得た内容の理解を深めるための演習を行う。この科目では、以下の項目について典型的な問題に理論計算を適用できることを目標とする。 （主な内容） 膜型反応器の特性、固液分離と分離装置、連続精留塔とその制御、液液平衡と液液抽出装置、単位換算と化学工学量論 反応器設計、配管内流動とポンプ、調湿と乾燥、熱交換器と蒸発缶、生物プロセス工学、 気液平衡と精留塔、生物化学工学	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生命工学特別講義	生命工学分野における教育機関・研究機関・民間企業で活躍されている経営者、研究者、技術者の講話を交えながら、当該分野における技術開発の現況や展望について議論を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	化工熱工学	(概要) 生産システム・装置内部では、流体の流れ、物質の移動と同時に様々な熱移動現象が生じている。このような現象を詳細に把握することは、物質生産の最適化、システムの省エネルギー化に不可欠なことである。本講義では、そのような熱移動現象を解析する際に必要となる支配方程式の導出法を解説すると同時に、熱移動・熱輸送に関する理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式　全１５回） （5 深井　潤／１４回） ・shell balance、各種伝導・対流伝熱問題、熱エネルギー方程式の導出について （2 梶原　稔尚／１回） ・方程式の解法について	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	分離工学	多成分系から有用物質のみを取り出したり、有害物質のみを除去したりすることはあらゆる化学・バイオプロセスで必須の技術である。化学工業では、そのような分離・精製を達成するプロセスおよび装置が利用されている。この科目では代表的な分離・精製プロセスについて講義する。それらの原理を理解し、効率的に分離・精製を達成する装置設計の考え方と基礎を理解することを目的とする。熱力学および物質移動工学が学問的基礎となっている。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロセスシステム工学	化学工学では、価値の低い原料から価値の高い製品を得るために物質に状態変化を起こさせる物理的または化学的操作を単位操作と呼び、最終的に製品を得るために単位操作を組み合わせたシステムをプロセスシステムと呼ぶ。プロセスシステムのライフサイクル（計画→開発→設計→建設→運用→廃棄）の各段階で行われる意志決定を合理的に行うための方法論を追求する工学がプロセスシステム工学である。本講義では、プロセスシステム工学で最も重要な要素技術である最適化の手法（数理計画法）について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生物化学工学	(概要) バイオテクノロジーの進歩は著しく、タンパク質や抗体生産といった有用物質の工業生産から新しい医薬品の開発まで幅広く利用されている。本講義では、講義並びに演習を通じてこうしたバイオテクノロジーにおける課題解決能力を習得する。 （オムニバス方式　全１５回） （11 水本　博／５回） ・生物化学工学のための基礎 ・生体触媒の特性 （1 井嶋　博之／６回） ・生体反応における量論･速度論 ・バイオリアクターの設計 （3 上平　正道／５回） ・通気・撹拌、スケールアップ ・滅菌	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	反応工学第二	化学工業など多くの産業分野においては、化学・生化学反応を巧みに利用して粗原料から各種の有用生産物が効率的に製造されている。本講義では、反応プロセスにおいて使用されている各種反応装置の合理的な設計法ならびに操作法について学ぶ。	
専攻教育科目	卒業研究	化学工学卒業研究	化学工学に関する基礎知識をもとに、理論的または実験的な手法を用いて、化学工学に関わる現象・機構の解明を行うとともに、この結果を卒業論文にまとめ、目的課題を達成する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部融合基礎工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、製造物責任法（PL法）などの法律を中心に、製造物の安全性や製造業者が負う責任等について、実例を参照しながら講義する。加えて、技術者としての社会的責任について学び、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得することを目標とする。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが重要であり、それぞれの分野の専門性に加えて、データサイエンスの基礎を理解することが必須となってきている。そこで本講義では、工学系の様々な分野においてデータサイエンスを取り入れるための基礎を身に付けることを目的に、データ解析に必要となる数学・情報学の基礎並びに関連する諸技法を講義する。加えて、データ収集法，多変量データの解析法等について学び、応用・発展的な情報系科目修得するために必要な知識を習得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	無機化学第一	本講義では、まず初年度で習得した原子の性質と化学結合についての理解の確認を行う。より詳細な化学結合に関する事柄は他講義にゆずる。その後、固体の構造、金属とイオン性固体の性質、固体に固有の電子構造と欠陥の概念を学ぶ。次いで、酸-塩基と酸化-還元反応とそれらの溶液中での化学を理解する。最後に、錯体化学と配位化合物への導入を講義する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	有機化学第一	本講義では、基礎的な有機化学の原理と反応について学ぶ。工業化学を理解するために必要な有機化学の基礎を身につける事を目標とする。 （主な内容） 構造と結合,アルカン，アルケン，アルキン，芳香族化合物，立体化学，求核置換と脱離，アルデヒドとケトン，カルボニル化合物	
専攻教育科目	学科群共通科目	金属材料大意	本講義は、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質に関する基礎的内容から構成される。さらに、将来懸念される社会環境の変化についての資料を提供し、金属材料を将来いかに活用して行くべきかを考えるきっかけとする。	
専攻教育科目	学科群共通科目	物理化学第一	熱力学の基本原理について学習する。熱力学とは熱的な現象を巨視的な立場から現象論として取り扱う学問であり、３つの法則の形で表されている。これらの法則を理解するために物理的な見方に重点をおいてその”概念”を理解し、”方法論”ではこの考え方を、化学的な問題に応用し理解を深める。 気体の性質、熱力学第一法則（概念と方法論）および熱力学第二法則（概念と方法論）について学習する。講義の進行に併せて演習を行うことによって、理解の質を高める	
専攻教育科目	学科群共通科目	量子力学第一	物質の物理・科学的性質は、原子核と電子のふるまいに支配されているが、それらを記述するのは量子力学である。この科目では、原子論と前期量子論から、物質の粒子性・波動性，不確定性原理、波動力学とシュレディンガー方程式など、量子力学の基礎知識について体系的に講義を行う。さらに、水素類似原子の構造と軌道量子数，パウリの排他律等など、化学・材料の基盤となる原子構造の考え方について学ぶ。また、原子軌道から分子軌道理論，密度汎関数理論へのつながりについて概説する。いずれも演習を行いながら学習し、理解を深める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気，電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気，電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路，回路素子，交流回路，回路に関する諸定理，二端子対網，三相交流回路，過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気，電気回路を基礎とし、電気計測，制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定，抵抗・容量・インダクタンスの測定，電力の測定 ，位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル，伝達関数とブロック線図，周波数特性，安定性など）について学習する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	安全学	化学に関する実験を行う際の危険性、注意すべき事項を解説する。 （主な内容） 第１回　ガイダンス・イントロ、薬品・関連法規・ガラス（１，４章） 第２回　高圧ガス（２章）、電気・光（３章） 第３回　生体物質（５章） 第４回　放射線（６章） 第５回　有機化学実験（７章） 第６回　防火・地震・廃棄物（８，９章） 第７回　振り返り	
専攻教育科目	学科群共通科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。本講義では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択，価格の決定，人事配置，広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルを、グループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要）【物質材料コース】 Ⅱ群に所属する教員が、オムニバス形式で４学科（化学工学科、応用化学科、材料工学科、融合基礎工学科）の教育と最新の研究成果について概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （145 土山　聡宏／３回） 材料工学分野におけるプロセスと物性に関する基礎理論と応用技術、ならびに最新の研究動向について概説する。 （177 藤ヶ谷　剛彦／３回） 応用化学、特に分子システム工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （165 林　克郎／３回） 応用化学、特に機能物質化学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （191 三浦　佳子／３回） 化学工学分野における教育概要と最新の研究成果について概説する。 （19 光原　昌寿／３回） 融合基礎工学科における教育概要及び物質科学と材料工学を融合した学際領域についての専門知識について概説する。 （概要）【機械電気コース】 第Ⅲ群に属する機械工学科、航空宇宙工学科、応用量子工学科、融合基礎工学科の関わる学問分野について講義し、それぞれの分野についての知識を深める。 （オムニバス方式　全１５回） （179 藤本望／４回） ・本講義についてのガイダンス。講義の実施方法、評価方法。第Ⅲ群に属する学科の概要等 ・量子物理工学科のカバーする原子炉工学、核燃料工学、材料工学、量子ビーム工学、応用物理学分野についての概要と今後の展望 （95 雉本信哉／５回） 機械系工学で基礎となる4力学（材料力学，機械力学，流体力学，熱力学）についての概要と機械工学の社会に対する役割 （129 高橋厚史／３回） 航空宇宙工学科における熱・流体、構造強度、航行ダイナミクス、宇宙システムに関する教育研究の概要 （3 杉原裕司／３回） 融合基礎工学科（機械電気コース）において学ぶ、熱・流体工学，エネルギー変換工学，電磁気学、プラズマ理工学、量子工学および，それらの基礎工学と情報学が融合した学際領域に関する概要	オムニバス方式
専攻教育科目	学科群共通科目	ベクトル解析と微分方程	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. ベクトル値関数 2. 線積分 3. 面積分 4. グリーンの定理，ガウスの定理 5. 一階の常微分方程式 6. 線形常微分方程式の一般的性質 7. （定数係数）線形常微分方程式の解法 8. （定数係数）連立線形常微分方程式の解法	
専攻教育科目	学科群共通科目	工業力学	機械工学分野の諸科目では、物体に作用する力や物体の運動の理解が最も重要な基礎知識の一つである。本講義では、質点・質点系の力学，剛体の力学について学び、材料力学，流体力学，熱力学など機械工学の中でも主要な力学系科目を習得するための基礎を身につける。主として、力の釣り合いを考える静力学，力と運動との関係を取り扱う動力学について講義し、機械の運動を理解するために必要な知識を習得するとともに、仕事やエネルギーの概念を理解することを目標とする。	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学I	機械を安全に設計し使用するには、物体に作用する力によって物体がどう変形し、内部の状態はどのようになるのかを理解する必要がある。そのために機械系のエンジニアには必須の知識である材料力学について、本講義及び材料力学IIによって、基礎から応用までを体系的に講義する。本講義は材料力学の入門として、特に、応力と歪み，弾性限度，許容応力，自重や遠心力による変形などについて講義し、応力やひずみに関する概念，材料と破壊のメカニズムを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学II	材料力学Ｉに引き続き、機械を安全に設計し使用するために必要となる，物体の変形や内部の状態を記述するためのさらに進んだ材料力学に関する知識と解析手法について講義する。物体に外力を加えると、物体はどのように変形するか，物体内部にはどのような力が作用するか，物体内部にはどのような力が作用するか，物体は壊れずに耐えうるか，を明らかにするのが材料力学である。本講義では、材料力学の基本的な考え方や物体の変形，物体内部応力の計算法などについて学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	熱力学I	熱力学は、熱と仕事の変換など機械工学で応用される熱に関する重要な基礎科目である。熱力学の基礎を習得し、熱機関などに関する発展的な科目の理解につなげるため、本講義では特に、理想気体の状態変化，熱力学の第1法則，第2法則等を中心に講義する。それらの中で、熱平衡やエンタルピ，エントロピ等の概念，熱力学的な状態量と状態変化について知識を習得する。さらに、熱機関の基本であるカルノーサイクルについて学び、熱機関の効率やエネルギーの保存について理解を深める。	
専攻教育科目	学科群共通科目	流れ学I	流体とは、気体や液体の総称であり空気や水のように自由に変形できることが特徴である。流体の搬送や流体を利用した機械など、様々な科学技術が流体に関連しており、その特性や運動を理解することは流体に関わる現象の解明や流体機械の設計・解析に不可欠である。本講義では、流体力学への入門として、流体の運動ならびに流体の運動に影響を与える流体の諸性質を中心に講義する。特に、流体の粘性や圧縮性などの概念，流体運動の解析に必要となる流体の質量保存則，運動量保存則，エネルギー保存則について学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	現代物理学入門	21世紀の先端工学では、原子や原子核レベルのミクロ世界の物理現象、質量とエネルギーの関係や光速に近い速度で運動する物体の運動学を理解することが重要となる場合がある。そのためには、「量子力学」や「特殊相対性理論」に代表される現代物理学が必要となる。この授業では、真空中の光の速度に近い速度の運動や質量とエネルギーの関係を取り扱う「特殊相対性理論」とミクロ世界を対象とする「量子力学」を導入する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	原子力工学概論	（概要） 原子力は、我が国の経済成長、エネルギー安定供給を確保しつつ、環境負荷の低減を図るために必要不可欠なエネルギー供給源である。このため、安全確保に万全を期しつつ、中核的な電源として着実な利用と開発が進められている。本講では、原子力工学の初学者を対象に、核エネルギーの発生原理とエネルギー変換過程、原子力発電のしくみと安全性、核燃料サイクルと放射性廃棄物処理等に関してそれらの基礎的事項を概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （179 藤本　望／５回） ・核エネルギーの発生原理とそれを応用した原子炉の物理について理解する。 （202 守田　幸路／５回） ・原子炉プラントと熱設計、動力炉の種類と安全上の特徴について基礎的事項を理解する。 （231 稲垣　八穂広／５回） ・核燃料サイクルに含まれるウラン濃縮、再処理、廃棄物処理処分を統合的に理解する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目		応用量子物理学入門	(概要) 応用量子物理学の基礎と研究の最前線を「量子線を用いた科学計測」と「量子物性と材料開発」という二つの観点から紹介する。以下に記すオムニバス型式の講義を通して、応用量子物理学の基盤をなす学問、最先端の研究を支える技術・設備、研究成果とその工学的利用等について理解を深める。 (オムニバス方式・共同(一部)　全１５回) (199 村上　恭和／４回) ・イントロダクション、磁性材料の物理と工学、ナノ物質の物理と工学、講義全体のまとめ (45 池田　伸夫／３回) ・加速器の開発とその応用、中性子線とその応用、施設見学(加速器・ビーム応用科学センター) (236 魚住　裕介／１回) ・高エネルギー粒子線とその応用 (365 安田　和弘／１回) ・電子線とその応用 (233 伊豫本(深澤)　直子／１回) ・放射線計測とデバイス開発 (135 田中　悟／１回) ・表面と２次元物質の構造と物性 (263 河江　達也／１回) ・超伝導現象と量子多体効果 (247 岡部　弘高／１回) ・有機材料の先端物理学 (168 原　一弘、247 岡部　弘高／１回) ・放射光とその応用 (263 河江　達也、199 村上　恭和／１回) ・施設見学：低温センター、超顕微解析研究センター	オムニバス方式 共同(一部)
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	複素関数論	以下の内容を、クラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	常微分方程式とラプラス変換	以下の内容を、クラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 一階の常微分方程式 2. 解の存在と一意性 3. 線形常微分方程式の一般的性質 4. (定数係数) 線形常微分方程式の解法 5. (定数係数) 連立線形常微分方程式の解法 6. ラプラス変換の定義・例・性質 7. ラプラス変換の応用 8. デルタ関数などについて	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	フーリエ解析と偏微分方程式	フーリエ解析は応用数学の一つとして極めて重要であり、機械，電気，情報など様々な工学分野で実用的に利用されている。本講義では、始めにフーリエ級数，フーリエ積分，フーリエ変換について、周期関数及び非周期関数のフーリエ積分表示や計算法と収束性などの基礎知識を学び、工学的問題に対する応用能力を涵養する。そして、偏微分方程式の基本的な性質について学んだ上で、フーリエ変換の応用として、基本的な線形偏微分方程式の解法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	データ解析の数学	データ解析を実践するためには、基盤となる数学を理解し、使いこなすことが重要である。本講義では、データサイエンスの基礎学問として、ベイズ統計，多変量解析(因子分析，クラスター分析，数量化理論)，最適化理論(線形計画法，非線形計画法，動的計画法)，スペクトル解析など、データ解析に利用される統計理論や解析手法を学ぶ。そして、ビッグデータと呼ばれるような膨大なデータの分析にそれらを応用するための数学的素養を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	エネルギー変換工学	化学エネルギー，力学的エネルギー，電気エネルギー，熱エネルギーなど、エネルギーの様々な形態について理解し、また、それらを相互に変換する技術について学ぶ。具体的には、エネルギー変換に関連する熱力学的基礎，及び個別の変換技術について動作原理と仕組みを講義する。特に、燃料電池や二次電池，コージェネレーション，再生可能エネルギー発電技術等を扱う。加えて、エネルギーの供給から需要までを包含するエネルギーシステムについて学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	光・量子物理計測	最先端科学測定の基盤技術として、光や量子の計測は確立されてきている。例えば、レーザー光を対象に照射し反射光との位相差を測定することで距離を求める技術や、ベータ線の透過量から試料の厚みを精密に測定する技術などが挙げられる。両者ともに、サブナノ秒の時間分解能や、光子をひとつひとつカウンティングする半導体などの最新技術によって高精度に計測可能になったものである。これらの実際に用いられている技術やその原理、到達しうる精度などについて理解を深め、得たい物理量に対して自身で計測器を提案・設計し、それを用いた具体的な実験企画を行うことができる能力を習得させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	材料強度学	構造体の設計には、その構造部材の強度に関する理解が不可欠である。本講義では、結晶性材料における変形と強度を弾性論と塑性論の双方から説明し、特に結晶性材料の変形を担う格子欠陥の性質、格子欠陥周囲の弾性応力・ひずみ場、外力により格子欠陥に作用する力、その運動様式、材料組織内部の諸因子と格子欠陥との相互作用に関する基礎知識を習得する。これにより、材料強化に必要な材料組織因子とその強化機構を、格子欠陥の運動に立脚して理解することができ、材料組織設計への応用が可能になる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	化学反応論Ⅰ	物質や材料の合成などにおいて化学反応論を学ぶことは重要である。化学反応とは化学結合の生成や切断によって化学物質が生成したり消滅したりする過程のことで、この過程の速度や機構を取り扱うのが化学反応速度論である。本講義の目的は化学反応を解析するための手法を身に付けることである。そのために、化学反応速度論の基本(定義，速度式，反応次数，速度定数)，1次反応と2次反応の積分型速度式や反応速度定数の温度依存性などの化学反応速度論の基本をおさえたのちに、素反応，遂次反応，律速段階と定常状態近似，前駆反応について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	化学反応論Ⅱ	化学反応論Ⅱでは化学反応論Ⅰで学んだ内容を発展させて、さらに複雑な反応について理解を深める。受講にあたっては化学反応論Ⅰの内容を理解している必要がある。本講義では、連鎖反応，重合反応，均一系触媒反応，酵素反応とMichaelis-Mentenの式，光化学反応，表面反応について理解し、速度式を導出する方法を身につける。さらに衝突理論と遷移状態理論(活性錯合体理論)など反応速度の理論的な取り扱いについても学習する。化学反応速度論ⅠとⅡを身に付けることで、様々な化学反応を定量的に取り扱うための基礎を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プロセス化学工学	本講義では、バイオ，環境，材料，医療等の幅広い分野で活用されている化学工学について、その考え方を理解し、代表的なプロセスについて学ぶ。物質，運動量，熱の輸送に関する移動現象論等の化学工学の基礎から始め、化学プロセス、反応器や反応最適化に関する反応工学、蒸留・抽出、吸着、分離等の分離プロセス、プロセスシステム等についての知識を習得させる。また、プロセス制御や生物化学工学といった化学工学の発展領域についても講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	光エレクトロニクス	光通信や光センシングなど、光エレクトロニクスは最先端科学技術として現在発展している。半導体光デバイスのうち発光素子（発光ダイオード，半導体レーザ），受光素子（フォトダイオード，太陽電池）の動作原理および特性を解説し、さらに、社会でどのように使われているのかを紹介する。この講義では特に，光導波路の原理，光導波モードなど光導波工学を中心とする基礎を学ぶとともに、光ファイバ通信などの応用的内容についても触れていく。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	構造材料学	社会インフラを支える構造材料の特性、製造方法、種類を知ることは、それを使いこなし、新たな構造体を生み出す上で必要不可欠である。この講義では特に金属系の構造材料に注目し、鉄鋼・アルミニウム・マグネシウム・チタン・銅などの代表的な材料の性質を網羅的に紹介する。また、それぞれの材料の製造方法を、各素材の鉱石の還元方法から説明し、得られた地金を「材料」へ変化させるための工業的な工程をその用途ごとに示す。各材料の工業的価値、製品の種類、性能向上のための合金化手法にも触れ、金属系構造材料に関する広範な基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	材料加工学	材料加工・成形はものづくりの基本であり、機械工学と材料工学にまたがる分野である。本講義では、素材を材料として製品化とする際に欠かせない鋳造法や鍛造法の原理、種類、その応用法を学ぶ。また、圧延、押出加工等に代表される各種塑性加工の原理と関連する基礎知識を学ぶ。加えて、大型材料に欠かせない製造プロセスである溶接・接合の基礎知識、種類、工法等を紹介し、その応用例として、積層造形法（3Dプリンター)の技術についても講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	先端計測科学	(概要) 基礎科学、産業応用、医療等の先端的な分野で、光・量子ビーム（レーザー，電子線，中性子，γ線など）が使われている。これらの光・量子計測技術と応用例について学ぶとともに、計測で得られる膨大なデータの情報処理や最新の解析技術についても理解を深める。 （オムニバス形式　全8回） (6 原田　明／2回) レーザー分光の原理とその応用 (160 波多　聡／2回) 電子顕微鏡の原理と画像データ解析 (9 渡辺　幸信／2回) 量子ビーム発生の原理、ビームと物質との相互作用、ビーム応用技術 (14 金　政浩／2回) 光・放射線センサー、データ収集およびデータ解析手法	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	エネルギー・環境学A	(概要) 持続的社会の構築に関連して、従来型エネルギー利用技術と派生する環境問題について学ぶ。日本と世界の産業構造とその歴史、石油、石炭、天然ガスなどの旧来型化石資源の有効利用技術及び原子力発電技術、さらに省エネルギー技術、CO2などの温暖化ガスによる気候変動などの地球環境問題についての解説を通じて、現在の社会が直面するエネルギー・環境技術の問題点について理解を深める。 （オムニバス形式　全８回） (1 永長　久寛／２回) 日本および九州地域の産業と資源・エネルギー技術 (99 國信　洋一郎／１回) 化成品製造技術 (13 片山　一成／２回) 原子力発電技術 (20 薮下彰啓／１回) 資源・エネルギー利用と環境問題 (7 宮﨑隆彦／２回) 省エネルギー技術	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	エネルギー・環境学B	(概要) 持続的社会の構築に関連し先進的な研究が進んでいる新しいエネルギー・環境技術として、太陽、風力、バイオマスなどの再生可能型エネルギーの利用技術と核融合技術に関する最新の研究動向、将来の展望について学ぶ。また、CO2を低減するための環境技術、3R（リサイクル，リユース，リデュース）についても理解を深め、エネルギー・環境技術について俯瞰力を養成する。さらにSustainable Development Goals (SDGs)の重要性を認識し、環境共生社会の構築に必要な技術と学問的素養を身に着ける。 (オムニバス形式　全８回) (166 林　潤一郎／２回) 新エネルギーと社会科学、バイオマス利用技術 (214 吉田　茂雄／１回) 自然エネルギーと風力発電技術 (2 島ノ江　憲剛／２回) 電池、蓄電技術 (56 稲垣　滋／２回) 核融合技術 (1 永長　久寛／１回) ３Rと循環型社会の構築	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	半導体・デバイス工学A	(概要) 近代社会において不可欠となっている情報通信機器には半導体が用いられている。半導体材料の持つ様々な機能、例えば光、熱を電気に変換する機能を理解するために重要となる基礎知識の修得し、それらを基盤に代表的デバイスの動作原理を学ぶ。さらには、光通信、ディスプレイ、パワー半導体デバイス、センサーなどの最新動向を紹介する。 (オムニバス形式　全８回) (164 濱本　貴一／２回) 光通信の原理とデバイスを紹介する。 (161 服部　励治／２回) タッチディスプレイの原理を紹介する。 (316 堤井　君元／２回) パワー半導体のデバイス原理を紹介する。 (377 吉武　剛／２回) 光や磁気のセンサーを紹介する。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	半導体・デバイス工学B	(概要) 良く光る、エネルギー変換効率が高いなど、革新的な特長を備えた新材料は社会に大きな恩恵をもたらしうる。本講義では有機、無機系の機能材料を基盤としたデバイス、電子材料の設計と開発について基礎的な学理から応用面まで俯瞰した講義を行う。 (オムニバス形式　全８回) (93 菊池　裕嗣／２回) 液晶材料 (33 吾郷浩樹／２回) 炭素系デバイス材料 (345 藤田　克彦／２回) 有機半導体材料 (92 寒川　義裕／２回) 薄膜系材料	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	プラズマ応用工学	近年注目されているプラズマの新規な応用に着目し、必要な要素技術を説明してプラズマの社会実装の現状および未来について討論等も含めて講義する。プラズマの新規な工業応用（新規材料合成，表面処理等）、環境保全技術（ガス処理，水処理，重金属除去）、医療応用（がん治療，免疫活性向上）および農業応用（農産物鮮度保持・殺菌，農産物の機能性向上）ついて講義する。加えて、これらの工学応用に必要な各種プラズマ装置（大気圧プラズマ，低圧プラズマ等）について詳解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎情報学Ⅰ	Pythonによる基礎的なプログラミング講義および実習を通して、オブジェクト指向プログラミングの特徴を知り、ループや条件分岐などを用いた基本的なアルゴリズムの構築方法を学ぶ。特に1年次および2年次前期に習得した、大学レベルの数学や物理の具体的な問題を数値計算的に解く技術の習得を目指す。また計算結果を考察するために、図やグラフを用いたデータ可視化技術も学ぶ。これらを通して、基礎工学の研究に関連する計算科学の基盤を構築し、3年次への情報教育へ接続することが目的となる。 （14 金　政浩） オブジェクト指向プログラミング、アルゴリズム構築方法、可視化技術の講義を担当 （25 川瀬頌一郎） プログラミング実習の担当	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎情報学Ⅱ	様々なデータの解析に際して必要な、データ構造とそれを操作するアルゴリズムに関して講義演習を交えて解説する。スタックやキューなどのデータ構造の持つ性質とそれによる影響を学び、それをどのようにアルゴリズムに生かすのかを、実際にソートや探索などの各種アルゴリズムのプログラムにして実際に動かしつつ学ぶ。アルゴリズムの学習においては、アルゴリズムの基本とともにそれらの計算量の評価方法を学ぶ。さらにデータ解析の基礎として、様々な分析方法、解析方法の原理、手法に関して実データを用いながら学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎情報学Ⅲ	大量に観測されたデータから、有用なパターンや知識を発見する数理的技術手法を身に着ける為に必要となる、機械学習技術やデータマイニング技術の基礎の習得を目指す。近年、計測技術，通信技術などの発展に伴い、大量のデータの収集・利用が可能となってきている。機械学習技術の応用例の紹介なども交えながら、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンやデータの傾向を抽出するための情報処理技術の基礎について、数理的側面から学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合応用情報学A	融合基礎情報学I，II，III で修得したデータ解析技術やアルゴリズムに関する知見を、各々の今後の専門領域での学習・研究過程において活用することができるようにするために、情報処理技術の実践的な習得を目指す。具体的には、これまで学んだプログラミング技術・アルゴリズムとデータ構造の知見・機械学習技術・データマイニング技術を活用して、実際の演習等に取り組むことを通じて、情報処理技術に基づく具体的な課題の解決方法を実践的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合応用情報学B	融合基礎情報学I，II，III で修得したプログラミング手法・技術を活かして、自ら設定する課題解決に向けたソフトウェアを開発する。Pythonに限らず、C#などを用いたダイアログベースプログラミングを基本とし、さまざまなライブラリを駆使して、例えば、画像解析によるパターンマッチングソフト，物理現象の時間発展を予測するシミュレータなどを開発する。また、基礎工学に関連する内容であれば、ゲーム作成などでも制限を設けず、自由な発想で実用に近いソフトウェア開発を目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合応用情報学C	これまで学んだ情報科学の知見を応用するために、ロボットに代表される自動化機械を例にとり、搭載センサを介して取得される種々のデータに基づいた機械制御の情報処理技術（センサ信号の情報処理によってアクチュエータを動作させる制御原理と手法）の基本を習得する。その原理を理解するために、教育用教材等を活用した演習課題に取り組む。本講義で学習する内容は，電気回路や電磁気学など電気系の基礎科目と工業力学，振動力学，自動制御など機械系の基礎科目をベースに、それらに情報処理技術を融合した応用情報技術である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合応用情報学D	情報処理技術の進展によって、従来の技術では処理できないような大量のデータを収集・解析することが可能となってきた。本講義では、ビッグデータを自ら収集し統計解析をして、必要な情報を抽出する一連のビッグデータ情報処理の流れを学ぶ。エネルギー・環境問題に関連した具体的なビッグデータ（例えば、気象データ，電力使用量データ，二酸化炭素排出量データなど）を取り上げ、その情報処理技術やデータ解析技術について演習を交えながら学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	知的財産論	知的財産は、自分の創作物を守ることを第一に考えられるが、他人の創作物を尊重する意味でも重要であり、単に発明者に利益をもたらすのみではなく、知的財産を活用することで、産業と社会の発展へ寄与するものである。本講義では、技術者のための産業財産権（意匠と商標）、研究に役立つ特許情報の活用、技術者のための特許と実用新案、技術契約などについて、ケーススタディを交えながら解説する。また、アイデア創出法、グループ討議、特許調査、特許明細書の作成など、実践的な観点からも演習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	マネージメント論	本講義では、チームとして研究や開発をどのように達成するかをテーマとして、目標の設定（短期および長期の目標設定、無形の目標とは、社会に対する責任）、組織化（個の資源から組織としての資源への展開）、コミュケーション力（方法論ではなく、コミュニケーションが与える知覚力）、評価測定（組織を構成する人をどのように評価するか、なぜ賞罰があるのか）、問題解決（問題の見極め、対処力、行動の調和）などについて解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	マーケティング論	マーケティングでは、ニーズに対するイノベーションが求められるが、その基本的な要素である、調査（市場における理想的な製品やサービスを考察し、現実とのギャップから機会を考察し、製品の入手から廃棄に至るまでの流れを把握して機会を探る），セグメンテーション（共通のニーズを持つグループ分け），ターゲティング（有利なセグメントの抽出），ポジショニング（製品やサービスの位置付け），マーケティングミックス（ツールの組み合わせ），実施，管理などについて学び、いくつかのケーススタディを交えながら討論も行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	インターンシップⅠ（長期）	公募情報，学科推薦企業などの中から、インターンシップ派遣先（企業や国立研究所等）を各自選定する。実践的なスキルや技術を学び、大学で学んだ専門知識や技能と派遣先での経験の統合を図り、専門知識の学習や研究に対する目的意識を確立する。また、実社会での経験を通じて視野を広げることで、π型人材としての俯瞰力を身に着ける。インターンシップ終了後に各自レポート提出を行う。実習期間は4週間以上とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	インターンシップⅡ（短期）	公募情報，学科推薦企業などの中から、インターンシップ派遣先（企業や国立研究所等）を各自選定する。実践的なスキルや技術を学び、大学で学んだ専門知識や技能と派遣先での経験の統合を図り、専門知識の学習や研究に対する目的意識を確立する。また、実社会での経験を通じて視野を広げることで、π型人材としての俯瞰力を身に着ける。インターンシップ終了後に各自レポート提出を行う。実習期間は2週間程度とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎工学展望	（概要） 情報システムについて、情報の表現方法、情報の伝達・通信等の情報に関する基礎項目を習得し、実社会や産業界におけるAIやデータ科学の実践例を学ぶことで、本学科の学びにおける情報科学の位置づけを理解する。物質・材料について、その基礎となる学問領域，必要とされる融合領域などを理解し、それらの応用と今後の展開について学ぶ。機械・電気について、基礎となる物理法則を理解し、それらの複合である実社会における工業技術について基礎知識を習得することで、学問領域と産業との関わりを学ぶ。 （オムニバス形式　全１５回） （164 濵本貴一／５回） 情報科学分野 （2 島/江憲剛／５回） 物質・材料工学分野 （7 宮﨑隆彦／５回） 機械・電気電子工学分野	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合工学概論Ⅰ	（概要） 融合基礎工学科では、物質・材料、機械・電気の専門分野に深い知識を有しながらデータサイエンス、コンピュータサイエンス、情報技術を駆使できる人材の育成を目的としている。融合工学概論Ⅰでは、物理・化学を基盤とした様々な工学分野について、各教員が基礎的な学理から学問的課題、最先端の研究成果について講義を行う。環境・エネルギー・物質科学の諸分野および情報工学を融合した新しい科学技術を開拓するための基盤となる知識を得る。本講義は複数名の教員が分担し、以下のとおりオムニバス方式で行う。 （オムニバス形式　全１５回） （160 波多　聰／１回）　電子顕微鏡 （6 原田　明／１回）　分析・計測化学 （5 中島　英治／１回）　金属構造材料 （12 板倉　賢／１回）　金属機能材料 （192 水野　清義／１回）　表面科学 （2 島ノ江　憲剛／１回）無機機能材料1 （70 大瀧　倫卓／１回）　無機機能材料2 （1 永長　久寛／３回）　無機機能材料3 物質科学と社会科学1 物質科学と社会科学2 （178 藤野　茂／１回）　機能性ガラス （93 菊池　裕嗣／１回）　ソフトマテリアル1 （345 藤田　克彦／１回）　ソフトマテリアル2 （99 國信　洋一郎／１回）ソフトマテリアル3 （321 東藤　貢／１回）　バイオマテリアル	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合工学概論Ⅱ	（概要） 融合基礎工学科では、物質・材料，機械・電気の専門分野に深い知識を有しながらデータサイエンス，コンピュータサイエンス，情報技術を駆使できる人材の育成を目的としている。融合工学概論Ⅱでは、融合工学概論Ⅰと同様に、物理・化学を基盤とした様々な工学分野について、各教員が基礎的な学理から学問的課題、最先端の研究成果について講義を行う。環境・エネルギー・物質科学の諸分野および情報工学を融合した新しい科学技術を開拓するための基盤となる知識を得る。本講義は複数名の教員が分担し、以下のとおりオムニバス方式で行う。 （オムニバス形式　全１５回） （164 濵本　貴一／１回）　電子デバイス1 （161 服部　励治／１回）　電子デバイス2 （377 吉武　剛／１回）　電子デバイス3 （92 寒川　義裕／１回）　電子デバイス4 （316 堤井　君元／１回）　電子デバイス5 （33 吾郷　浩樹／１回）　電子デバイス6 （362 森野　佳生／１回）　応用情報科学１ （14 金　政浩／１回）　応用情報科学１ （9 渡辺　幸信／１回）　応用原子核物理 （167 林　信哉／１回）　低温プラズマ応用技術 （56 稲垣　滋／１回）　プラズマ物理工学 （51 出射　浩／１回）　核融合物理工学 （8 山本　直嗣／１回）　宇宙工学 （7 宮崎　隆彦／１回）　熱エネルギー応用工学 （214 吉田　茂雄／１回）　風力発電工学	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	研究プロジェクト	融合基礎工学科では、機械・電気工学、物質・材料工学について各専門分野の早期基礎教育研究を受けた学生を対象として、研究力の向上を図る。本プロジェクトでは、物理・化学を基盤とした様々な工学分野について、産学官連携型もしくは国家プロジェクト型の高度な研究課題に従事して基礎的な学理と高度な実験技術を習得する。環境・エネルギー・物質科学の諸分野における応用研究に取り組み、社会的課題を解決するためのエンジニアリング・実践的研究力を育成する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	グローバル科目Ⅰ（論文）	英語論文の「読み書き」を深めるために、外国人研究者を交えて講義と演習を行う。具体的には、論文の一般的な構成，テンプレートである基本構文，文献の引用などについて解説し、背景を述べるときの表現，論点を整理するための表現，論理に関わる表現，考察・分析に関わる表現，図・表を示したり参照させたりするための表現を、実際の論文形式であるAbstract，Introduction，Methods(Experiments)，Results，Discussion，Conclusionを基にして学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	グローバル科目Ⅱ(討論)	英語による「プレゼンテーションとディスカッション」を深めるために、外国人研究者を交えて講義と演習を行う。具体的には、いくつかの事例に基づきプレゼンテーション資料を作成し、その表現力（文句），力説点（アピールポイント），展開・解析力（構成）など様々な観点から解説し、指導を行う。また、ディスカッションでは、発表者と質問者の双方の理解が深まる手法について、具体例を示しながら指導する。さらに、図表による表現のテクニックや、アニメーションや動画の活用法なども紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎工学特別講義A	物質科学や材料工学に関連する、先端的な研究の現状や問題点について学ぶための特別講義である。講義に関連する分野としては以下が挙げられるが、これら以外にも、社会動向や科学技術の発展に応じて内容を設定することがある。 1. 機能性無機材料の合成，材料評価およびそのデバイス応用 2. 無機固体触媒の合成と構造・機能相関 3. 固体表面および薄膜の電子状態，磁気物性，結晶構造 4. 構造用金属材料の微細構造と力学特性 5. 機能性金属材料・半導体材料の組織学と物性評価 6. 電子顕微鏡法とプラズモニクス 7. 金属やセラミックス中の水素同位体挙動 8. 放射光を用いた機能材料の局所構造ダイナミクス解析 9. 放射光，レーザー光，および電気化学計測システムを用いた新規物質計測手法	
専攻教育科目	学科・専攻科目	学科共通科目	融合基礎工学特別講義B	機械工学や電気電子工学に関連する、先端的な研究（特に、環境・エネルギー技術関連分野）の現状や問題点について学ぶための特別講義である。講義に関連する分野としては以下が挙げられるが、これら以外にも、社会動向や科学技術の発展に応じて内容を設定することがある。 1. 環境・エネルギー技術における機械工学分野（主に、熱流動工学等）の最新動向 2. 環境・エネルギー技術における電気・電子工学分野の最新動向 3. 環境・エネルギー技術への情報科学の応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	材料力学入門	構造材料の設計で必要な力学として、材料が運動しない静力学を用いられる。この講義では、静力学の一つである固体力学の基礎を学ぶ。まず応力と歪の関係について、その定義と概念を学ぶ。次に、モールの円を用いた最大剪断応力の求め方を演習を通して学ぶ。なお、本講義では、塑性変形には立ち入らず弾性変形の基礎として、短軸引張，梁の曲げ，針のねじり，座屈について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	物理化学第二	化学熱力学の基本法則を用いて、相平衡，化学平衡及び平衡電気化学への応用について学習する。特に、部分モル量としての化学ポテンシャルを用いて、物理変化や化学反応の方向を判断し、平衡における状態や組成を推定できることを学ぶ。具体的には、(1)単純な溶液平衡と相平衡、(2)相律，多成分系の気液，液液，液固平衡，状態図、(3)化学反応の平衡に及ぼす温度や圧力の影響，ルシャトリエの原理と平衡移動、(4)平衡電気化学、について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	分析化学第一	化合物の存在状態と化学反応を定量的に取り扱うための、基礎的・原理的な方法を学ぶ。すなわち化学量論及び基礎的な平衡論を、溶液中にある有機，無機化学物を主な対象として学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	無機化学第二	無機化学第二では、錯体化学の分野の授業を実施する。錯体化学は、物理化学，有機化学，無機化学の境界領域であり、近年その重要性が増している。金属錯体は、化学工業における触媒として、また生命現象においては、金属補酵素として機能している。光合成ではマグネシウム錯体が集光性色素として重要な役割を演じ、動物においては酸素を運ぶヘモグロビンは鉄錯体である。本講義では、金属錯体の構造と反応について理解することを目的とする。特に、金属錯体の色について、結晶場理論で説明できることを最低限の目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	弾性・塑性変形工学	本講義は、材料力学入門の延長として開講される。材料力学入門では材料の弾性変形に着目した応力・歪について学んだ。本講義では、材料の引張試験において求まる応力ー歪曲線を基本として、弾性変形に加えて塑性変形についても学ぶ。弾性変形に関しては、応力テンソル，歪テンソルについて学ぶ。塑性変形挙動について、単軸応力状態だけでなく、多軸応力状況下での降伏条件，歪エネルギーについても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	相平衡論	成分を変え、濃度を変えると、無限に異なった材料を作り出すことができる。この無限の材料の中から、使用目的に最も適した材料を選び出すための手掛かりを与えてくれるのが、「状態図」である。また、材料がもつ素晴らしい性能を引き出すには、微視的構造（組織）をうまく制御する必要があり，組織制御の基本的な情報を与えてくれるのも「状態図」である。この講義では，状態図に関連する基礎知識を習得するとともに、基本的な状態図の見方と利用法を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	固体物理Ⅰ	固体物理学は、金属、半導体、絶縁体などの固体中の主に電子分布に起因する諸性質を取り扱う学問である。固体物理Ⅰでは、まずはブラベー格子の種別や逆格子の基本を解説し、固体物質の基礎となる結晶構造の概念を学ぶ。続いて、結晶中での原子の運動である格子振動が取り得る量子状態、フォノンについて、その取り扱い、フォノンの運動量などの基礎について学ぶ。最後にフォノンの関係した熱的性質（格子比熱、熱膨張、熱伝導）について説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	結晶学基礎	結晶とは原子あるいは分子が空間的に周期的に配列している物質である。固体物質の種々の特性は一般にその原子配列によって決まることから、結晶学は固体物理や材料科学の基礎となる学問である。本講義では晶系、ブラベー格子、点群、空間群について順を追って説明し、結晶の分類方法を学ぶ。続いて、結晶の格子面と方位の表記法について説明する。最後に、このような結晶構造を実験的に決定する方法として広く使用されているX線回折を例にとり、その原理を原子散乱因子、構造因子の観点から学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	分光学基礎	光を使って化学物質や材料の性質を調べるための基礎となる分光学について学習する。本講義は分光計測のための光学入門である。歴史が長く応用が広いために様々な学問分野において重複して学ぶことになる光学・分光学について、分光計測応用の幅広い展開を概観しつつも基礎事項を整理して学ぶ。まず分光計測についての概論、電磁波(Maxwell方程式)、光の偏光、反射、屈折について理解したのち、原子・分子という物質のミクロな視点から光と物質との相互作用に主眼をおいて学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	機器分析学	材料の機能向上や合成法の改良には、材料の組成，含有量，構造，存在状態について知見を得る必要がある。近年分析機器の進歩は速く、 実験・研究を進める上で機器分析は必要不可欠なものとなっている。本講義では、物質と光もしくは電子の相互作用を利用した測定法，物質の電気化学的性質を利用した測定法，物質の質量を測定する方法，物質間の相互作用を利用して分離するクロマトグラフィーなどの機器分析法について学ぶ。分析装置の基礎・原理を理解し、実用例について知識を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	材料速度論	本講義では物質内での拡散を取り扱う。拡散は物質科学の様々な反応の素過程であり、熱力学や変形学とも関連する重要な現象である。本講義では固体中での原子の拡散を取り扱う。初めに拡散のメカニズムと、拡散流速に関するフィックの第1法則，第2法則を学び、その他の様々な拡散方程式の取り扱い方，実際の物質内での拡散挙動（体拡散，粒界拡散，転位芯拡散）に関する基礎知識を習得する。さらには、拡散係数測定のための実験手法についても紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	無機化学第三	多くの機能を有する無機材料は、様々な分野で広く使用されている。それら無機材料の機能は、合成法に由来する微細構造，組織，組成，表面状態などに依存する。これら無機材料の合成では、古典的な固相反応，溶液を用いた湿式反応，真空プロセスを用いた蒸着法に大別され、各プロセスへの理解は、機能材料を設計するうえで重要である。そこで、本講義では、各種合成法の特徴を学んだのち、無機化学を基盤とした溶液合成化学の基礎を習得することを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	固体物理Ⅱ	固体物理Ⅱでは、まずは自由電子モデルを導入し、このモデルに基づき金属の様々な物理的性質（比熱，熱伝導，電気伝導）を学ぶ。引き続き、自由電子モデルを固体の周期格子を考慮して拡張することにより、エネルギーギャップが生じる理由について説明した後に、結晶における電子の状態を述べる上で重要なブロッホの定理、クローニッヒ・ペニーモデルを紹介する。最後に、有効質量，キャリア密度，移動度などの半導体の基本的な諸性質について説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	電気化学Ⅰ	電気化学はガルバニ電池を起源とし発達し、物質間の電子のやりとりに伴う化学反応、すなわち電極，電解液界面における電荷移動反応を中心に展開される学問である。電気化学は、電池，電解，センサなど、エネルギー，環境，エレクトロニクスに関する技術の原理・原則を記述する基礎学問である。本講義では、電気化学を基礎とする前述したエネルギー，環境，エレクトロニクス分野に応用される技術の実例を紹介し、電気化学の基礎および平衡状態における電気化学（電極電位，熱力学関数の導出，プルーベイダイヤグラムなど）を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	電気化学Ⅱ	電気化学Ⅰで学んだ平衡状態における電気化学の知識をもとに、実際の電気化学デバイスの動作中におこる現象を理解するため、動的平衡状態における電気化学（過電圧と電流の関係，バトラー・フォルマー式，ターフェル式，限界電流）を学ぶ。加えて、各種電気化学測定法の原理について概説したのち、実際の電池，水分解，燃料電池，電解，腐食などを例にを用いながら、実践的な電気化学測定法及び、材料の電気化学的解析法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	触媒化学Ⅰ	触媒は、様々な化学工業プロセスに不可欠の物質である。触媒化学Ⅰでは、触媒の定義と分類，歴史，用途および基礎的な概念について学ぶとともに、化学熱力学と平衡論との関りについて習う。続いて金属，金属酸化物の構造と特性およびそれらを利用した触媒基礎化学反応について説明する。特に、Haber-Bosch法によるアンモニア合成法，石油精製と有機工業プロセス，C1ケミストリー，自動車排ガス浄化触媒など、現在の社会で重要な役割を担っている反応プロセスについて概説する。最後に、太陽エネルギーやバイオマス資源利用，環境保全，リサイクル，CO2の低減と転換反応のための触媒材料・プロセス開発など、環境・エネルギー問題に関連した触媒研究の最前線を紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	触媒化学Ⅱ	触媒化学Ⅱでは、触媒材料の合成とキャラクタリゼーションの手法について講義を行うとともに、固体の活性点構造とその電子状態が固体材料表面の反応にどのように関わるかについて理解を深める。触媒の本質である速度論に焦点を絞り、種々の素過程について解説し、それらを組み合わせた固体触媒反応の反応速度論および遷移状態理論について説明する。また、表面における吸着，拡散過程など、反応システムを構築するために不可欠なプロセスについて学ぶ。さらに、電子顕微鏡や放射光を利用した最新の先端計測技術による触媒反応機構解析の手法について紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	材料組織制御学	材料特性の発現には、材料組織の制御が重要である。本講義では、材料組織形成の基礎知識として、初めに純金属での凝固現象，均質核生成・不均質核生成，デンドライト成長を取り扱い、次に合金系での凝固とそれに伴う溶質元素の再分配や偏析現象の原理を学ぶ。また、古典的核生成理論に基づく析出現象を理解し、材料組織中に生成する第2相の核生成と成長についての基礎知識を学ぶ。さらに、材料組織制御のための拡散型・無拡散型の相変態理論について習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	相転移論	物質は温度，圧力，磁場などの外的環境の変化とともに様々な状態に変化しうる。このような物質の異なる相状態への変化である相転移は、自然界の興味深い現象であるばかりでなく、材料特性制御の常套手段として工学的に多種多様に応用がなされている。本講義では、まず相転移の理解に必要な熱力学と統計熱力学の関連部分を学ぶ。次に、固体の自由エネルギーから相変態のダイナミクスに至るまでを、代表的な実験結果とその理論的記述の両面から学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	材料表面工学	材料の表面を理解することは、電子材料の開発，触媒反応の解明などに重要である。本講義では固体内部とは異なる、材料表面に特異的にあらわれる結晶構造，電子状態，輸送現象について学ぶ。材料表面では、３次元固体とは異なる原子位置の変位や原子層の配列があり、しばしば超構造を形成する。表面の特異的な結晶構造がもらたす二次元電子状態を、固体物理で習得した知識を基に学習する。さらに材料表面研究に用いられる電子や光を用いた測定方法について、原理および適用例を説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	磁性材料学	磁性材料は、大型のモーターからナノスケールの磁気記録媒体，磁気抵抗センサなど幅広い用途がある。本講義では、主に固体物理，電磁気学で学んだ内容を基に、原子の磁性から講義を始め、多体系にて、交換相互作用により電子スピンが自発的に整列することを説明する。また、磁性材料の構造と磁性の関係性，磁気異方性，磁区，磁化過程について学ぶ。金属からセラミックスまでの各種磁性材料の機能について原子レベルの基本から理解することを目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	構造解析学	物質・材料の物性の理解には、その物質・材料の微視的構造の知見が欠かせない。本講義では、物質・材料の原子レベルの微細構造解析に用いられる電子線およびX線を取り上げ、最も基礎となる散乱・回折現象とその解析法に関する基礎知識を習得する。まず、結晶構造，結晶の対称性と記述方法，逆格子とEwald球および回折現象の数学に関する基礎的な項目を学んだ後、X線回折法の結晶構造解析への応用の実例を紹介する。また、X線回折との比較を通して、電子線回折法による構造解析手法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	セラミックス材料学Ⅰ	本講義では、まずは種々のセラミックス材料の結晶構造について説明したのちに、点欠陥，転位，粒界などの格子欠陥の種類とその性質について説明する。続いて、これらの格子欠陥に起因した特性として、原子・イオン拡散および電気伝導について学ぶ。引き続き、相の数，種類，分布に影響を与える相平衡について学び、単成分，二成分系の相図についてその解釈の仕方を説明する。最後に、セラミックスを焼結する際の粒径・粒の形等の微構造を支配する、毛細管力について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	セラミックス材料学Ⅱ	セラミックス科学Ⅰで学んだ知識をもとに、機能性セラミックスあるいは構造セラミックスとして知られている様々な材料について、具体的な例を挙げながら、材料用途，特徴，結晶構造，工業的な生産プロセスなどについて説明する。特に、セラミックス材料の電気伝導性（電子伝導，イオン伝導），透光性，誘電性，力学特性と、材料の結晶構造，電子状態，微細構造などの関係について理解することを目指す。また、各機能の評価法についても概説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	物質材料科学実験Ⅰ	（概要） 本講義では、物質・材料科学における実践研究のための基礎知識・基本技術を習得することを目的とし、以下に示す基礎実験を行う。 （オムニバス方式・共同（一部）　全８回） (404 片平　賀子／２回) 試薬および機器に対する取り扱いと安全実験の説明と指導 (26 末松　昂一、21 渡邉　賢／１回) 混合溶液の密度と部分モル体積、状態変化 (411 斉藤　光、16 橋爪　健一／１回) 熱電対の作製と評価 (324 中川　剛志、17 北條　元／１回) 真空度計測とガス吸着 (22 赤嶺　大志、295 末國　晃一郎、12 板倉　賢／１回) 金属・セラミックス材料の電気抵抗測定 (23 石岡　寿雄、20 薮下　彰啓、331 西堀　麻衣子／１回) X線、電子線、光の回折 (30 山﨑　重人、19 光原　昌寿／１回) 金属、セラミックス材料の熱分析（状態変化と熱膨張）	オムニバス方式 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	物質材料科学実験Ⅱ	本講義では、物質材料科学実験Ⅰで学んだ物質・材料科学における基礎知識・基本技術を生かし、実践研究につながる応用的な技術及び知識を習得することを目的とし、以下に示す応用実験を行う。 （オムニバス方式　全８回） (404 片平　賀子／２回) 試薬および機器に対する取り扱いと安全実験の説明と指導 (26 末松　昂一、21 渡邉　賢、17 北條元、295 末國　晃一郎／２回) 無機材料の合成とその特性評価 (411 斉藤　光、22 赤嶺　大志、30 山﨑　重人、19 光原　昌寿、12 板倉　賢／２回) 金属材料の組織観察と力学特性の評価 (23 石岡　寿雄、20 藪下　彰啓、324 中川　剛志、331 西堀　麻衣子、16 橋爪　健一／２回) 金属・セラミックス材料の分析と計測	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	物質材料科学実験Ⅲ	本講義では、物質材料科学実験Ⅰ及びⅡで学んだ物質・材料科学における知識・技術を生かし、グループごとに３つの教育研究分野に分かれて、実践研究につながる専門的かつ発展的な技術及び知識を習得することを目的とする。各教育研究分野に属する研究室にて、それぞれの研究の社会的意義、学術的意義について理解を深め、実践研究で必須となる実験，評価，解析手法を具体的に学んでいく。教育研究分野は以下に示す。 1.　機能性無機材料分野 2.　金属材料分野 3.　計測・材料解析分野	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物質材料コース科目	物質材料科学実験Ⅳ	物質・材料系研究と計算工学を結び付けるためには、様々な実験装置から出力される多数・多種の情報を正確に収集，同期，整理することが重要である。本講義では、物質材料科学実験Ⅰ，Ⅱ及びⅢで学んだ物質・材料科学における知識・技術と、融合情報学基礎で学んだ情報応用の知識を、実践研究に生かしていくために必要となる、計測機器類の基本構造や情報取得のための仕組み，研究装置への実際の組み込み方を、実際の計測装置類を用いながら学ぶ。また、得られた計測装置類からの情報の取り扱い，解析手法の習得も目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	力学	低年次専攻教育科目として学習した工業力学の知識をさらに深め、かつ、古典物理学の基礎としての力学について理解を広げるために、様々な具体的問題を題材に示しながら、力学に関する幅広い内容を講義する。ニュートン力学に関しては、微積分学，線形代数等の数学的手法を活用し、運動の記述や運動方程式の解法などについて学ぶ。さらに、解析力学の体系，及び量子力学等の発展的科目を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	流体力学I	低年次専攻教育科目の流れ学で学習した流体の運動を基礎として、本講義では流体の諸現象の物理を理解し、数学的に記述するための基礎的な知識と能力を習得する。自然界に見られる流れや工業的に応用される流れについて、流体運動の力学とその解析手法について学ぶ。特に、静止流体の力学，連続の式，ベルヌーイの式などの理解を深め、発展科目である流体力学IIで学習する、より実践的な流体の解析を理解し実践するために必要な知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	熱エネルギー変換基礎	熱と仕事の変換は動力を生み出す工学的技術の基礎であり、現代社会の利便性の根底を支えていると同時に、エネルギー・環境問題など地球規模の課題に直結している。本講義では、熱力学の知識を基礎として、熱と仕事との変換に関して熱力学的な理解を深める。特に、実在気体の性質や相変化，ガスサイクル，蒸気サイクル等、熱力学の応用的な内容を講義する。そして、熱機関および逆熱機関の熱力学的理論サイクルと動作原理を理解し、発展科目である熱機関工学を習得するために必要な知識を蓄える。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	振動力学	本講義では、低年次専攻教育科目として学習した工業力学の知識を発展させ、振動という物理現象を理解し実際の構造について解析する力を身につける。特に、工学的応用を念頭において、固有値に裏付けられたモードの概念について体系的に学ぶ。1自由度系の自由振動，強制振動から多自由度系の振動へと進み、多自由度系振動の無限極限としての連続体の振動すなわち波動を理解を広げる。さらに、減衰振動，回転体の振動や振動の制御について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	熱・流体計測学	エネルギーや熱流体が関わる様々な技術の設計・解析には、温度や圧力の計測が必須である。本講義では、熱と流体に関する物質の状態を計測するセンサー技術について基本原理と測定手法を学ぶ。特に、熱電対，測温抵抗体など接触型の温度測定、及び、放射温度計など非接触温度測定の原理，ブルドン管や歪ゲージなど圧力測定の原理を理解する。加えて、計測に伴う誤差の取り扱いについて、不確かさの意味を学ぶとともに、統計学を用いた不確かさ解析手法や誤差解析手法を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	自動制御	現代の様々な技術にとって、自動制御は必須の機能といえる。本講義では、制御理論の基礎を習得し、機械系，電気系などにおける実際の科学技術への応用力を身につけることを目標に、古典制御理論を中心に学習する。特に、工学システムのモデル化やブロック線図による表現，伝達関数を理解し、自動制御における最も重要な要素であるフィードバック回路を理解する。さらに、フィードバックを含むシステムの時間応答，周波数応答を学習し、様々な領域に応用するための基盤となる知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	統計力学	統計力学では、熱力学で扱うマクロな体系の状態をその体系を構成するミクロな構成要素の状態をもとに記述する。本講義では、統計力学を習得するための道具立てとして、古典統計力学の基礎を学ぶ。初めに、エントロピーと温度，熱平衡，気体と分子など基礎的な内容を学び、気体分子の分布確率，ボルツマン因子と分配関数，ヘルムホルツの自由エネルギー，ギブスの自由エネルギーなど発展的内容へと進む。また、フェルミ気体，ボーズ気体など量子統計力学への導入も講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	量子力学	電気電子工学や応用物理学の分野では、原子そのものや原子を構成する電子，中性子，陽子などのミクロの世界、すなわち量子の世界で物理的法則を理解することが必要となる。本講義では、量子力学の基礎を習得し、量子を応用する様々な科学技術を理解する力を養うために、波と粒子の２重性，シュレージンガー方程式と波動関数，不確定性原理，箱の中の粒子，一次元での反射と透過，水素原子の構造などの量子力学に関する基礎知識を学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	電磁気学Ⅰ	1)静電場と静磁場，2)電位とポテンシャル，3)誘電体と導体，4)電荷・電流と磁場，5)電磁誘導，6)磁性体，7)電磁波などについて学び、エレクトロニクスを支える電気磁気現象の基本事項を理解する。これら現象の数学的な取扱いについて学習し、クーロンの法則，ガウスの法則，アンペールの法則といった電磁気の法則を応用して電磁気学の諸現象を理解することを目標とする。また、電気回路や電磁振動，回路方程式についても基礎的な事項について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	電磁気学Ⅱ	電磁気学は、目に見えない電場と磁場の作用を取り扱う学問である。その電場，磁場を記述するマックスウエルの方程式が、どのような物理背景から生まれ、どのような物理を含んでおり、どのように応用されているのかを解説する。その過程において波動方程式，電磁波のエネルギー，電磁波の伝搬，電磁波の発生など、電磁波現象の基礎理論を学ぶとともに、エネルギー伝送や光ピンセットなどの電気エネルギーの工学的利用について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	電気回路Ⅰ	電気回路の知識は電気系における最も重要な基礎の一つであり、本科目の知識は電気系の発展科目を理解するために必須である。本講義では、電気回路の基本的知識の提供，電気素子の基本的な性質，キルヒホッフの法則やラプラス変換を用いた電気回路の基本的な解析手法，複素表現やベクトル表現などの電気回路の基本的な表現方法，電気回路網の基本的な解き方を理解し、それらを用いて電気回路の電気回路の諸問題を解くことができるようになることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	電気回路Ⅱ	電気回路Iで学んだ電気回路の基礎をもとに、さらに広範な電気回路の取り扱いについて学ぶ。多くの演習問題に取り組むことで、実践的な問題に対応できる応用力を身につけるとともに、その過程で、自主的・継続的に学習する能力を身につける。 具体的には、1)回路の節点方程式と閉路方程式、, 2)等価電源の定理, 最大電力の定理に、3)過渡現象、4)二端子対回路網のアドミタンス行列, インピーダンス行列, 従属行列, 映像パラメータ、5) 三相交流、を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	流体力学Ⅱ	本講義では、流体力学Ⅰで学習した流体の運動や解析を基に、流体の諸現象の物理に対する理解や、数学的に記述するための知識と能力をさらに深める。そして、より実践的な工学分野の流体について、様々な流体現象が生じるメカニズムを理解し、実際の問題を解決する応用力を身につける。特に、ナビエ・ストークス方程式, 境界層, 乱流の解析, 圧縮性流体の挙動, 衝撃波などを理解し、流体力学の応用である流体機械や航空力学を理解するための、基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	伝熱学	熱と仕事の変換を行う熱機関や発熱・吸熱を伴うエネルギーの授受を行う装置・設備には、必ず熱の移動が伴う。本講義では、伝熱の基本形態である熱伝導, 対流伝熱, 放射伝熱について理解し、伝熱量の計算方法を学ぶ。特に、熱伝導のフーリエの法則, 定常一次元熱伝導, 拡大伝熱面, 境界層における対流熱伝達, 熱通過などを講義する。さらに、工学的に広く応用されている相変化を伴う伝熱や、熱交換器等の伝熱機器について、基礎的な知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	航空力学	本講義では、低年次専攻教育科目として学習した流れ学やそれに続く流体力学I, IIで学習した流体の性質や運動に関する知識を基礎に、固定翼航空機の飛行メカニズムと性能評価について学ぶ。特に、空気中を飛行する物体に働く力を取り扱う空気力学をベースとして、揚力, 抗力と翼の理論を理解する。さらに、実際の航空機への応用として、全機形状での飛行性能, 飛行の安定性, 操縦性, 設計に係る性能評価などを学習し、航空力学の基礎を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	流体機械	ポンプや圧縮機、タービンなど流体と機械の間でエネルギー授受を行う流体機械について、流体力学に基づく原理や機械の仕組み, 特性, 解析方法などを学習する。流体力学で学んだ流体の運動やエネルギー保存を基礎に、流体機械の構造や作動原理を理解する。主に、運動量の保存, エネルギー保存, 速度三角形など基礎的な知識とともに、流体機械の基本的分類や性能の特徴, 理論設計や運転時に生じる各種流体現象に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	熱機関工学	熱力学や熱エネルギー変換基礎で学習した熱力学的サイクルを、実際の機械の構造や動作として理解する。特に、ガソリンエンジンやガスタービン等の内燃機関、並びに蒸気ランキンサイクルやスターリングエンジン等の外燃機関に関して、仕組みと動作原理を講義する。往復動エンジンや速度型機関の機械的な構造、実際の装置で生じる諸損失, 熱効率, 仕事, 燃焼に関する基礎的知識を習得する。さらに、燃焼に伴う環境汚染物質や二酸化炭素の低減手法、再生可能エネルギーを利用する熱機関など、熱機関の分野における地球環境問題への取り組みについても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	流体力学演習	多様な問題に取り組むことを通じて、流れ学, 流体力学I, IIで学習した流体の性質, 運動, エネルギーの保存など、これまでに学んできた流体力学分野の知識を再整理すると共に、それらを実際の工学的課題の解決に応用するための能力を涵養する。特に、運動量の保存, 連続の式, ベルヌーイの式などを使って静止流体の力学や流体の流れに関する解析を実行する力を身につける。また、層流と乱流、管内部の流れと諸損失など実用的に重要な問題にも取り組む。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	熱工学演習	熱力学, 熱エネルギー変換基礎, 伝熱学, 熱機関工学など熱工学に関する多様な問題演習を通じて、これまでに学んできた熱工学分野の知識を再整理すると共に、それらを実際の工学的課題の解決に応用するための能力を涵養する。特に、熱力学の分野では、理想気体の状態変化と熱力学的サイクル, 蒸気の性質, 実在気体のサイクルについて、熱機関や冷凍機・ヒートポンプの設計や解析に関連する問題を解く。また、熱交換器に関して、熱通過率や対数平均温度差などを使って実用的な問題を解く力をつける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	電気エネルギー工学	電気工学の基礎理論、特に電磁波の発生，伝搬に関する講義を行い、 電気プロセスへとの関連性やプラズマへの応用について検討する。すなわちマックスウエルの方程式，平面波，電磁波のエネルギー，電磁波の反射と屈折に関する基礎理論を講義し、問題演習を通してその具体的な応用について学んでもらう。具体的には、マクスウェル方程式，平面波，電磁波の発生，電磁波の伝搬，電気工学およびプラズマプロセスとの関連、について講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	高電圧・パルスパワー工学	電気機器・電子デバイス等の絶縁設計の基礎となる高電圧工学，及び電磁エネルギーの時空間的圧縮で得られる高電圧や大電力の発生，伝送，応用等のパルスパワー工学を講義する。具体的には、1)高電圧パルスパワー工学の基礎、2)高電圧現象と絶縁破壊、3)高電圧パルスパワー発生、4)高電圧パルスパワー伝送制御、5)高電圧パルスパワー計測、6)パルスパワー応用、の内容に関して解説を行う。 本講義を通じて、電磁気学ならびに電気回路の知識を深化させ、高電圧・パルスパワーの基礎を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	プラズマ理工学I	様々な分野への応用が期待されるプラズマについて、電磁気学や量子力学で学習した知識を基礎に、プラズマの性質や応用などを理解する。特に、プラズマの基礎特性，生成法，プラズマの計測や電場磁場中のプラズマ粒子の各種ドリフト、プラズマ中に生じる静電波および電磁波の伝播特性などを講義する。本講義によってプラズマに関する基礎を習得し、プラズマ理工学IIで講義するさらに発展した内容や、プラズマ応用工学で講義する様々な応用について、理解する力を身につける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	プラズマ理工学II	熱陰極を用いた直流放電からRFやマイクロ波による高周波放電プラズマまでの、プラズマ生成方法および生成原理について習得する。同時に、ラングミュアプローブ法からマイクロ波吸収，レーザー誘起蛍光法まで、種々のプラズマ計測方法を学習する。また、半導体製造から水処理やバイオ・医療応用まで、プラズマの各種応用に適した低圧および大気圧プラズマの生成方法と生成装置を学ぶ。生成される各プラズマの特性（密度，温度，空間分布等）について解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	機械電気科学実験Ⅰ	（概要） 本実験では，機械工学，電気工学，応用物理学の各分野における基礎的な物理現象に関する実験を行い、物理現象の理解を深めるとともに、レポート作成の基礎を学ぶ。実際の現象に触れることや、確立された実験手法を実際に体験することで、工学者として必要とされる物理的なものの見方と考え方を習得する。 (377 吉武　剛) 電気系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (10 安養寺　正之) 機械系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (14 金　政浩) 応用物理系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (423 富田　健太郎) 電磁気分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (409 姜(明全)　海松) 光学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (28 寺坂　健一郎) プラズマ分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (24 大宅　諒) 化学工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (25 川瀬　頌一郎) 物理工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (434 森田　太智) 宇宙工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (27 鶴　大輔) 熱工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (435 YOO SUNGJUN) 環境工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。 (29 山口　創一) 海洋工学分野の基礎実験に関する説明と指導を担当する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	機械電気科学実験Ⅱ	（概要） 本実験では、機械電気科学実験Iで学んだ基礎的現象を応用する技術について、基本特性等を実験によって確認し、機械工学，電気工学，応用物理学の各分野における応用技術の知識を深める。本実験によって、実際の機器や機械装置の物理的要素を見極め、正しく理解し応用する力を養う。 (377 吉武　剛) 電気系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (10 安養寺　正之) 機械系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (14 金　政浩) 応用物理系の実験機器について取扱説明と安全指導を担当する。 (423 富田　健太郎) 電磁気分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (409 姜（明全）　海松) 光学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (28 寺坂　健一郎) プラズマ分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (24 大宅　諒) 化学工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (25 川瀬　頌一郎) 物理工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (434 森田　太智) 宇宙工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (27 鶴　大輔) 熱工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (435 YOO SUNGJUN) 環境工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。 (29 山口　創一) 海洋工学分野の応用実験に関する説明と指導を担当する。	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	機械電気科学実験Ⅲ	本実験では、機械工作に必要な知識を学び、各種工作機械の使用方法を習得する。特に、切削加工や研削加工について基礎的な知識を習得するとともに、実際にボール盤，旋盤，フライス盤，研削盤などの工作機械を操作し、基礎的な操作方法や様々な加工法，面粗さなど加工面の仕上がり具合と寸法公差、安全に取り扱うための注意点などを実体験として身につける。また、3Dプリンタを使ったものづくりについて、その原理や操作方法などの基礎的知識を身につける。 (14 金　政浩) 工具類の使い方や安全性について指導する。 (10 安養寺　正之) 工作機械の使い方や安全性について指導する。 (377 吉武　剛) レーザー加工や放電加工など、実習では扱わない加工方法について原理などを講義する。	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	機械電気科学実験Ⅳ	本実験では、機械電気科学実験IIIで習得する機械工作に関する基本的スキル、および機械電気科学設計演習で学ぶ設計に関する知識を利用し、機械制御や物理計測に関連するものづくりを経験し、エンジニアとしての実践力を身につける。電気，応用物理，機械の3分野に跨るテーマとして、例えば物理計測センサーを取り付けたロボットなどの設計と製作を行う。各テーマには、数名を1グループとしてグループで取り組み、チームにおける役割分担や協調など、社会に出てものづくりを実践する際に必要となる力も養う。 (377 吉武　剛) 電気系の演習テーマについてガイダンスと指導を担当する。 (10 安養寺　正之) 機械系の演習テーマについてガイダンスと指導を担当する。 (14 金　政浩) 応用物理系の演習テーマについてガイダンスと指導を担当する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械電気コース科目	機械電気科学設計演習	本演習では、機械製図に関する基礎的な知識を身につけるとともに、実際の機械についてCADを用いた製図の演習を行う。特に、部品図と組み立て図，図面の書き方と役割，投影図・断面図・寸法の表し方，面の仕上げ，幾何公差，ネジの製図等、設計製図に関する基本的知識を学習するとともに、CADソフトウェアの基本的操作法，2D-CAD・3D-CADの描き方などを学ぶ。本演習によって、機械電気科学実験IVや卒業研究などで必要とされる製図の基礎力を身につける。 (10 安養寺　正之) 機械製図法について講義を担当する。 (27 鶴　大輔) CADを用いた製図演習を担当する。	共同
専攻教育科目	卒業研究		卒業研究	各授業担当教員毎に研究テーマを設定する。関連する先行研究に関する文献調査を行い、研究目的、研究方法、計画をまとめ、各研究室において、研究活動を行い、卒業論文の執筆、提出、卒業論文発表会における発表および学術的な討論を学生自身で行えるよう、指導、教育する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部機械工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。それらを可能にするためには、物体が力の作用によってどのように変形し、その内部の力学状態はどのようになるのかを理解する必要がある。本授業では、工学的にそれを可能にする体系の基礎的な部分を講義する。具体的には、応力とひずみの概念、そしてトラス構造の変形である。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標としては、静力学の基本的な素養を持ち、材料力学の各種問題を考えることができるようになることである。特に、引張負荷における応力とひずみ・平衡条件・内力・エネルギー法の考え方・不静定問題の考え方を理解し、トラス構造の変形をイメージできるようになることを目標とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅱ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では材料力学Iに続き、主に曲げを受ける構造物の変形について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、曲げ・せん断力線図と曲げモーメント線図・組み合わせ負荷・ひずみエネルギー・カスティリアーノの定理について理解することである。さらに，曲げを受ける構造物に関して、発生する応力や変位・たわみ・不静定量等を求めることができるようになり、曲げ負荷による構造物の変形をイメージできるようになることである。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	工業力学	機械が運動する際には慣性力により必ず動力学の問題が生じる。機械の運動と発生する力を知ることは機械装置の設計において重要な基礎事項である。ここでは、機械の運動を理解するために必要な、質点・質点系の力学・剛体の力学に関する、主としてニュートンの運動方程式に基づいた運動の解析について講義する。これらの基礎をもとに、質点・質点系・剛体の動力学の問題を解くことのできる能力を身に付ける。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	熱力学Ⅰ	機械工学における熱力学の役割は、熱に関わる自然界の物理現象を理解するだけでなく、実際の熱流体機器の設計や動作原理を理解することにある。このため、熱力学I・IIでは、物質の状態変化とその性質、状態変化に伴う熱と仕事の収支を計算する知識を習得し、それらの知識を応用して熱機関や冷凍機の動作原理、性能評価など熱エネルギー機器の基礎を学ぶ。熱力学Iでは、具体的に、熱力学の第0法則、第1法則、第2法則、エントロピー、ガスサイクルを学ぶ。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科群共通科目	流れ学Ⅰ	地球に存在する大気無くして人類の生存はない。また水の存在するところに文明は発達してきた。そのような大気(気体)や水(液体)を総称した流体について、その動き(流れ)を理解し、活用することが文明と科学の発展をもたらす。本講義では、その第一歩として、流体工学の基礎、すなわち、流体が持つ性質と流体運動を支配する力学的・エネルギー的諸法則を巨視的に学び、その知識を問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。応用として、静止状態と見なせる流体に作用する力を推定したり、３保存則を応用して、簡単な問題に対して様々な流体の物理量を推定できるようになることを目標とする。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	現代物理学入門	21世紀の先端工学では、原子や原子核レベルのミクロ世界の物理現象、質量とエネルギーの関係や光速に近い速度で運動する物体の運動学を理解することが重要となる場合がある。そのためには、「量子力学」や「特殊相対性理論」に代表される現代物理学が必要となる。この授業では、真空中の光の速度に近い速度の運動や質量とエネルギーの関係を取り扱う「特殊相対性理論」とミクロ世界を対象とする「量子力学」を導入する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	ベクトル解析と微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. ベクトル値関数 2. 線積分 3. 面積分 4. グリーンの定理, ガウスの定理 5. 一階の常微分方程式 6. 線形常微分方程式の一般的性質 7. (定数係数) 線形常微分方程式の解法 8. (定数係数) 連立線形常微分方程式の解法 (*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	(概要) 第Ⅲ群に属する機械工学科、航空宇宙工学科、応用量子工学科、融合基礎工学科の関わる学問分野について講義し、それぞれの分野についての知識を深める。 (オムニバス方式　全１５回) (181 藤本望／４回) ・本講義についてのガイダンス。講義の実施方法、評価方法。第Ⅲ群に属する学科の概要等 ・量子物理工学科のカバーする原子炉工学、核燃料工学、材料工学、量子ビーム工学、応用物理学分野についての概要と今後の展望 (4 雉本信哉／５回) 機械系工学で基礎となる4力学（材料力学, 機械力学, 流体力学, 熱力学）についての概要と機械工学の社会に対する役割 (139 高橋厚史／３回) 航空宇宙工学科における熱・流体、構造強度、航行ダイナミクス、宇宙システムに関する教育研究の概要 (131 杉原裕司／３回) 融合基礎工学科（機械電気コース）において学ぶ、熱・流体工学, エネルギー変換工学, 電磁気学、プラズマ理工学、量子工学および, それらの基礎工学と情報学が融合した学際領域に関する概要 (*国際コースでも開講)	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	応用量子物理学入門	（概要） 応用量子物理学の基礎と研究の最前線を「量子線を用いた科学計測」と「量子物性と材料開発」という二つの観点から紹介する。以下に記すオムニバス型式の講義を通して、応用量子物理学の基盤をなす学問、最先端の研究を支える技術・設備、研究成果とその工学的利用等について理解を深める。 （オムニバス方式・共同（一部）　全１５回） （202 村上　恭和／４回） ・イントロダクション、磁性材料の物理と工学、ナノ物質の物理と工学、講義全体のまとめ （70 池田　伸夫／３回） ・加速器の開発とその応用、中性子線とその応用、施設見学（加速器・ビーム応用科学センター） （236 魚住　裕介／１回） ・高エネルギー粒子線とその応用 （352 安田　和弘／１回） ・電子線とその応用 （233 伊豫本(深澤)　直子／１回） ・放射線計測とデバイス開発 （145 田中　悟／１回） ・表面と２次元物質の構造と物性 （262 河江　達也／１回） ・超伝導現象と量子多体効果 （246 岡部　弘高／１回） ・有機材料の先端物理学 （171 原　和弘、246 岡部　弘高／１回） ・放射光とその応用 （262 河江　達也、202 村上　恭和／１回） ・施設見学：低温センター、超顕微解析研究センター	オムニバス方式
専攻教育科目	学科群共通科目	原子力工学概論	（概要） 原子力は、我が国の経済成長、エネルギー安定供給を確保しつつ、環境負荷の低減を図るために必要不可欠なエネルギー供給源である。このため、安全確保に万全を期しつつ、中核的な電源として着実な利用と開発が進められている。本講では、原子力工学の初学者を対象に、核エネルギーの発生原理とエネルギー変換過程、原子力発電のしくみと安全性、核燃料サイクルと放射性廃棄物処理等に関してそれらの基礎的事項を概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （181 藤本　望／５回） ・核エネルギーの発生原理とそれを応用した原子炉の物理について理解する。 （204 守田　幸路／５回） ・原子炉プラントと熱設計、動力炉の種類と安全上の特徴について基礎的事項を理解する。 （231 稲垣　八穂広／５回） ・核燃料サイクルに含まれるウラン濃縮、再処理、廃棄物処理処分を統合的に理解する。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学Ⅲ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では材料力学IIに続き、ねじりを受ける構造物の変形・組合せ負荷を受ける立体構造物の変形および座屈について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だでではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、ねじり・応力とひずみ・ひずみエネルギー・薄肉管・コイルバネ・座屈を学び、構造物に発生する応力や変位・たわみ，不静定量等、柱の座屈応力を求めることができるようになることである。さらには、複雑な形状の構造物、あるいは組合せ負荷を受ける立体構造物に関して、発生する応力や変位・たわみ、不静定量等を求める能力を身に着け、組合せ負荷による立体構造物の変形をイメージできるようになることである。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. ラプラス変換の定義・例・性質 2. ラプラス変換の応用 3. 周期函数，三角函数の直交性，フーリエ級数展開 4. 正弦展開・余弦展開 5. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 6. フーリエ変換とその性質 7. フーリエ正弦・余弦変換と応用 8. 波動方程式・拡散方程式 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工作実習Ⅰ	成形加工、除去加工、付加加工および材料改質などの機械製作法を体験するとともに、各実習項目における安全について学ぶ。 特に、工作機械、工具等の使用を通じて、機械製作法に係わる技能（鋳造、焼結、切削、研削、溶接、熱処理、組立、CAD/CAM）を身に着けるとともに、座学で得た知識を直接的・体験的に検証していく形態。使用の手順通りに工作機械、工具等を用いることが求められる。複数の学生と協力して一つの作業を行うこともある。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気、電気回路を基礎とし、電気計測、制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コ ンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	熱力学Ⅱ	機械工学における熱力学の役割は、熱に関わる自然界の物理現象を理解するだけでなく、実際の熱流体機器の設計や動作原理を理解することにある。このため、熱力学I・IIでは、物質の状態変化とその性質、状態変化に伴う熱と仕事の収支を計算する知識を習得し、それらの知識を応用して熱機関や冷凍機の動作原理、性能評価など熱エネルギー機器の基礎を学ぶ。熱力学IIでは、具体的に、エクセルギー、熱力学の一般関係式、蒸気サイクル、冷凍サイクル、空気調和を学ぶ。 (*国際コースでも開講)	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械力学A	機械は動いて仕事をする。機械が動くことで必ず動力学の問題が生じる。機械力学は機械の運動をその原因である力に基づいて明らかにしようとする学問であり、メカトロニクス、ロボティクスなどの基盤ともなっている。ここでは、力学の基礎を習得した後の内容としてエネルギー概念、解析力学の基礎を中心に、動力学の取り扱い方とその応用を講義するとともに、その内容について理解を深めるため演習および解説を行う。学んだ知識をもとに、工業上の諸問題に応用する。 (*国際コースでも開講)	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	流れ学Ⅱ	地球に存在する大気無くして人類の生存はない。また水の存在するところに文明は発達してきた。そのような大気(気体)や水(液体)を総称した流体について、その動き(流れ)を理解し、活用することが文明と科学の発展をもたらす。本講義では、その第一歩として、流体工学の基礎、すなわち、流体が持つ性質と流体運動を支配する力学的・エネルギー的諸法則を巨視的に学び、その知識を問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。 特に、ベルヌーイの定理、管路抵抗（損失）、流体計測、次元解析と相似則の意味を理解し、管路抵抗とエネルギー収支の関係から、管路系の流動状況を推定でき、次元解析等を用いて、流体の相似則を適用できることを目標とする。 (*国際コースでも開講)	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械材料Ⅰ	機械材料における、結晶構造・格子欠陥・転位運動・弾塑性変形ならびに材料強化法など、機械材料学の力学的性質の基礎について講義する。 このような機械材料の基礎を修得することにより、工業材料の構造、変形と強度に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力を養う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学Ⅳ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では、応力とひずみの性質・応力とひずみの変換・フックの法則・サンブナンの原理について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、複雑な形状の構造物、あるいは組み合わせ応力を受ける構造物に関して、発生する応力やひずみを求める力を身につけることである。 (*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工作実習Ⅱ	成形加工、除去加工、付加加工および材料改質などの機械製作法を体験するとともに、各実習項目における安全について学ぶ。特に、鋳造、焼結、切削、研削、溶接、熱処理、組立、CAD/CAMの要素技術を学ぶとともに、工作機械、工具等の使用を通じて、機械製作法に係わる技能を身に着け、座学で得た知識を直接的・体験的に検証していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械設計Ⅰ	機械を設計するために必要な(1)強度設計、(2)生産設計の関連事項、の基礎と応用に関する講義および、講義の内容に沿った演習を行う。具体的には、強度設計における重要な概念（材料の機械的特性、許容応力、安全率など）や、生産設計の関連事項（寸法公差とはめあい、表面粗さ、工業規格など）に関する講義および演習を行う。以上の基礎知識を実際の設計事例へ応用する能力の習得を本科目の目標とする。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械力学B	機械は動いて仕事をする。機械が動くことで必ず動力学の問題が生じる。機械力学は機械の運動をその原因である力に基づいて明らかにしようとする学問であり、メカトロニクス、ロボティクスなどの基盤ともなっている。ここでは、力学の基礎を習得した後の内容として1自由度系の振動、剛性ロータの力学を中心に、動力学の取り扱い方とその応用を講義するとともに、その内容について理解を深めるため演習および解説を行う。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	流体力学Ⅰ	流体の諸現象を数式的に解析する手法を学び、現象が生じるメカニズムを理解する基礎的知識を修得することにより、問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。特に、基礎知識として、流体運動の微分形式での表現、微小検査空間における3保存則、ポテンシャル流れの特徴、それによる流れの解析手法を理解することを目指す。さらには、以上を基礎に、微視的検査空間での保存則を導いて、簡単な流れの解析ができ、最終的には、様々な流体現象に興味を持ち、その性質を流体力学を用いて定性的に説明できることを目指す。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	弾性力学A	弾性体に作用する応力とその変形に関する２次元および３次元の基本法則を修得し、それらを応用することにより、多くの発展的問題を解決する工学的センスを養う。また、弾性力学に対する理解を深めるため、種々の演習問題を解くことを通して、弾性力学に関する諸問題を解決する能力を養う。本授業では、特に、材料力学Ⅳで学んだ応力とひずみの性質を、様々な二次元問題に応用する。応力集中の概念の重要性と種々の応用問題の解法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学実験第一	これまでに修得した材料・加工・熱工学の関連科目についての知識を深化させるために、自らの手で実験を行い、結果をレポートにまとめる。特に、延性材料と脆性材料の各種強度特性の測定法を理解し、破壊現象を応力やひずみを用いて定量化することを、また精密加工、塑性加工、精密測定についてその実験方法を理解し、実践できることを、さらに状態量と状態変化、熱移動と温度についての実験法を理解し、実践できることを身につける。このような実習を通して、実験装置・測定器具を取り扱う技能、実験データを取り扱うためのデータ処理方法、レポートの正しい書き方を習得する。同時に、安全に実験を行うための心構えと態度や、実験を円滑に遂行するためのコミュニケーション能力を身につけることも目指す。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	数値解析基礎	数値計算法について、アルゴリズムの基礎的な数理から実用的な応用に至るまで、いくつかの計算課題に対し標準的な手法を学ぶ。特に、連立一次方程式、非線形方程式、関数近時、数値積分、常微分方程式、固有値問題を題材に、基本アルゴリズムの選択し、プログラミング言語Cによる数値計算アルゴリズムの実装し、計算機ネットワークを用いて実行できるようになることを目指す。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム制御A	自動車、航空機、発電プラント、、工作機械、建設機械、ロボットなど、あらゆる機械は制御をおこなうことを前提に設計・製作される。また、高層ビルや大規模橋梁、銀行における決済システムなど、制御工学におけるシステム解析の手法は様々な分野に応用されている。この授業ではこれら工学やシステムの分野において基礎となる自動制御の考え方を講義する。 特に、ラプラス変換、逆ラプラス変換、ダイナミカルシステムのモデリング、伝達関数、ブロック線図と伝達関数の等価変換、時間応答、電圧関数の安定性とラウスの安定判別法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械製作法Ⅰ	いかにすばらしい設計を行っても、実際に製作できなければ意味がない。機械工学の根幹をなすモノ作りの基礎と応用を修得することは必要不可欠である。ここでは、鋳造、塑性加工、溶接について、基礎から最新の加工方法までを含め、その特徴について講義・演習を行う。 特に、鋳造法のプロセス、塑性加工法（圧延、押し出し、引抜、鋳造、転造、絞り、深絞り）のプロセスと特徴、塑性変形時の降伏条件・構成式、溶接法プロセス、鋼の熱処理の種類、熱処理、粉末冶金プロセスを学び、降伏条件式を用い塑性変形時の材料内部の応力状態を導出し、塑性変形時の構成式を用いて初頭的な塑性変形問題を解くことを目指す。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械要素Ⅰ	本科目では、機械を構成する機械要素の種類やそれらの機能に関する講義を行う。回転や並進運動を支持するすべり軸受や転がり軸受、密封装置であるガスケットやパッキンを取り扱う。これら機械要素の形式、種類について講義を行うほか、軸受については潤滑方法および潤滑のメカニズムについても講義を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械設計Ⅱ	本科目では、機械を構成する機械要素の種類やそれらの機能に関する講義を行う。動力伝達要素である軸、固体の弾性エネルギーを利用する機械要素であるばね、そして部品間を締結する機械要素であるねじの形式、種類、力学、そして設計について講義を行う。	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械要素設計製図Ⅰ	機械のエンジニアにとって、基礎的な設計手法や製図法を正確に身につけておく必要がある。本科目では、機械の設計および製図に関する実習を行う。設計課題についてはトラス平面トラス構造物を取り扱う。各自与えられた課題に対し、力学的解析を行い、要求仕様を満足させるよう機械を設計する。そして、構造物の種類を規格物から選定して、最終的には構造物の製図を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	伝熱学Ⅰ	様々な機械や装置、デバイスあるいはそれらを組み合わせたシステムの設計、運転には温度や伝熱量の制御、管理が必要である。そのためには、熱の移動のメカニズムを理解し、その移動速度を予測する必要がある。伝熱学はその基本となる学問である。この授業では、熱移動の三形態の中で最も基本となる定常熱伝導および最も重要な概念である熱収支について学び、熱伝導のみに支配される簡単な伝熱問題が解けるようになることを目標とする。また、対流伝熱の基礎についても学ぶ。 （*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械力学C	機械は動いて仕事をする。機械が動くことで必ず動力学の問題が生じる。機械に発生する大きな動力学問題の一つが振動問題である。高性能な機械を開発するには、機械に発生する多種多様な振動現象の発生メカニズムを解明することが重要であり、そのためには現象の適切なモデル化と力学原理に基づく物理的な考察が必要である。本講義では、機械力学の基礎を習得した後の内容として。回転機械で発生する振動問題の応用的な内容および多自由度系で発生する振動問題を中心に、動力学の取り扱い方を講義するとともに理解を深めるため演習および解説を行う。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	流体力学Ⅱ	本講義では、流体の諸現象を数式的に解析する手法を学び、現象が生じるメカニズムを理解する基礎的知識を修得することにより、問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。特に、粘性流体、ナビエ・ストークス方程式、層流、乱流、境界層、圧縮性流体、等エントロピー流れ、衝撃波を学び、微視的検査空間での保存則を導いて、簡単な流れの解析ができることを目指す。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	弾性力学B	弾性体に作用する応力とその変形に関する２次元および３次元の基本法則を修得し、それらを応用することにより、多くの発展的問題を解決する工学的センスを養う。また、弾性力学に対する理解を深めるため、種々の演習問題を解くことを通して、弾性力学に関する諸問題を解決する能力を養う。本授業では特に、熱応力・エネルギー原理およびこれを基礎とした有限要素法を学び、最終的には実際の問題への応用を目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム制御B	自動車、航空機、発電プラント、工作機械、建設機械、ロボットなど、あらゆる機械は制御をおこなうことを前提に設計・製作される。また、高層ビルや大規模橋梁、銀行における決済システムなど、制御工学におけるシステム解析の手法は様々な分野に応用されている。この授業ではこれら工学やシステムの分野において基礎となる自動制御の考え方を講義する。特に、フィードバック制御、定常偏差と制御系の型、根軌跡法、周波数応答、ナイキストの安定定理、制御系の性能評価、制御系の設計法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械製作法Ⅱ	いかにすばらしい設計を行っても、実際に製作できなければ意味がない。機械工学の根幹をなすモノ作りの基礎と応用を修得することは必要不可欠である。ここでは、除去加工について、基礎から最新の加工方法までを含め、その特徴について講義・演習を行う。具体的には、機械製作法おける除去加工の位置づけと加工法のとらえ方をはじめとし、切削加工に関する切削機構・工具形状から切削抵抗を導出し、せん断角の決定法・被切削抵抗について理解する。さらに工具材料および工具寿命に与える要因・切削温度・切削油剤について学ぶとともに、実際の切削加工に触れながら切削への理解を深める。また、砥粒加工である研削加工ならびに研磨加工に関する除去機構、砥石の3要素・5因子、実際の砥粒加工について、基本的な加工法を例にその実際を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械要素Ⅱ	本科目では、機械を構成する機械要素の講義を行う。本科目では、数ある機械要素の中でも動力伝達要素である歯車、ベルト、、チェーン、動力伝達の遮断や結合を行うクラッチ、速度制動を行うブレーキを取り扱う。これらの機械要素の形式、種類、力学、そして設計に関する講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械要素設計製図Ⅱ	機械のエンジニアにとって、基礎的な設計手法や製図法を正確に身につけておく必要がある。ここでは、歯車動力伝動装置について、設計および製図を行う。歯車などの規格物から要求仕様に合ったものを選択し、製図表記を正しく理解し、製図できるようにする。そして、これまで培った材料力学などの知識を用い、強度設計ができるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。 本講座では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	伝熱学Ⅱ	様々な機械や装置、デバイスあるいはそれらを組み合わせたシステムの設計、運転には温度や伝熱量の制御、管理が必要である。そのためには、熱の移動のメカニズムを理解し、その移動速度を予測する必要がある。伝熱学はその基本となる学問である。伝熱学Iに続くこの授業では、非定常熱伝導とふく射伝熱の基礎について学ぶとともに、実際の機器で生じる沸騰や凝縮など相変化を伴う伝熱についても学ぶ。また、熱交換器の基礎についても学ぶ。さらに、複数の伝熱形態が混在する場合の考え方についても取り扱う。 (*国際コースでも開講)	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	内燃機関Ⅰ	内燃機関全般の歴史、分類、特徴などの基礎知識を修得したうえで、内燃機関Iでは特に往復動式内燃機関について学ぶ。火花点火機関と圧縮点火機関について、動作原理、構造、燃焼形態、燃料性状、理論サイクル、エネルギー計算、実在サイクルを学習する。 (*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	連続体の振動学	機械に生じる動的な挙動は振動の現象の形をとることが多く、ほとんどの機械にとって振動は有害である。機械に発生する多種多様な振動現象のメカニズムを解明して抜本的な防止対策を確立するには、現象の適切なモデル化と力学原理に基づく物理的な考察が必要である。本講義では、振動体を質量と剛性が連続的に分布した連続体としてモデル化する方法を解説する。連続体では振動を支配する運動方程式が偏微分方程式として導出されることを示し、その解を得ることで数学的考察と物理的考察を行い、振動学の方法論を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用流体工学	機械エネルギーを流体に付与して流体を輸送したり、高圧ガス・真空ガスを作る。さらには流体が持つエネルギーを取り出して機械エネルギーに変換する。そのような機械と流体の間の動力変換装置を流体機械という。この講義では、流れ学および流体力学の応用として、流体機械の基本的分類・構造と作動原理、性能の特徴を理解し、用途に応じた機械選定ならびに流体エネルギーの観点から流体機械の運転法について学ぶ。また、流体機械の運転時に現れる様々な流動現象について基礎的知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械材料Ⅱ	原子の拡散・回復と再結晶・合金の平衡状態図・材料組織の形成・構造材料の組織と強度・構造材料の熱処理など機械材料学の基礎について講義する。そして、機械工学分野に不可欠な機械材料の基礎を修得することにより、工業材料のミクロ組織形成と強度に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力を養う。具体的には、結晶構造、原子の拡散、回復と再結晶、合平衡状態図、材料組織の形成、構造材料の組織と強度、構造材料の熱処理、自動車材料に関するケーススタディなどを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学実験第二	本科目では、3年次修了までに履修する機械工学分野の講義（流れ、燃焼、伝熱、エネルギー、振動、計測・制御、トライボロジー）に関する実験を行い、結果を解析し、それを工学的に考察する能力を養う。また、レポート作成を通して日本語による論理的な記述力を養う。具体的には、以下の項目に関する実験の遂行及び結果の解析を行う能力および現象を工学的に理解する能力を身につける。 １．エネルギー保存則、熱移動と温度 ２．水素生成と燃料電池 ３．減衰自由振動、ふれまわり運動、モード解析 ４．伝達関数とフィードバック制御 ５．トライボロジー （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	データサイエンス応用	工学分野の数値解析の基礎となる数値計算アルゴリズムについて、そのアルゴリズム設計と実装法について学ぶ。具体的には、統合開発環境の使い方・C言語の変数・制御構造、算術計算・数学関数・ライブラリ、乱数を用いた計算、非線形方程式の数値解法、数値積分、常微分方程式の数値解法、ラグランジュ補間法などについて学習する。 また学習者のプログラミングスキルの向上も目指す。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	ロボティックスⅠ	メカニカルシステムの運動学、動力学、制御工学に基づいて、ロボティクスの基本的考え方を授業する。具体的には、回転行列、姿勢表現、同次変換行列、ＤＨ表記法、静力学などについて学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム制御C	自動車、航空機、発電プラント、工作機械、建設機械、ロボットなど、あらゆる機械は制御をおこなうことを前提に設計・製作される。また、高層ビルや大規模橋梁、銀行における決済システムなど、制御工学におけるシステム解析の手法は様々な分野に応用されている。この授業ではこれら工学やシステムの分野において基礎となる制御工学の考え方を講義する。特に、線形状態方程式の解、線形システムの安定性、可制御と可観測、状態フィードバック、オブザーバー、最適レギュレータを学び、線形状態方程式が記述でき、可制御と可観測が判定できる力を身につける。　（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学設計製図	熱流体に関連した機械装置のうち、軸流ファン、放射ボイラ、ガソリンエンジンのいずれか一つを対象（テーマ）として設計製図を行う。これまでに修得した熱工学と流体工学の知識に、設計手法の知識を結びつけて、設計計算に活かすことができるように学習する。そして、これらの知識を活用して、最適な各種パラメータの設定を行うことができ、要求機能を満たしかつ高い性能を実現した装置の設計ができるようにする。さらに、設計計算を正しく反映させた図面を作成できるようにする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	熱エネルギー変換Ⅰ	現代社会は地球上に存在する種々のエネルギー資源を用い、それを人間が必要とするエネルギー形態に変換することで成り立っている。地球環境問題や資源枯渇問題はエネルギー変換に関する知識なくしては語れない。発電システムに用いられる蒸気動力や低温熱エネルギーを利用するヒートポンプを中心に、現代の熱エネルギー変換機器とその特徴について講義する。ここでは、熱エネルギー変換Ⅰでは、特に蒸気ランキンサイクル、その要素技術であるボイラー、蒸気タービンについて学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	内燃機関Ⅱ	まずは内燃機関Iに続き往復動式内燃機関について学ぶ。火花点火機関と圧縮点火機関について、機構、各構成装置、潤滑、伝熱、排気中の有害成分、大気汚染対策を学習する。次に、流動式内燃機関であるガスタービンエンジンについて、動作原理、構造、理論サイクル、エネルギー計算を学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	燃焼学Ⅰ	私たちは、日々大量のエネルギーを消費して生活している。このエネルギーの80%以上を燃焼によりまかなっており、燃焼はエネルギー変換の重要な役割を果たしている。この燃焼により得られるエネルギーを効率よく有効に、また、環境にも配慮しながら利用するためには、燃焼のメカニズムを理解する必要がある。燃焼学Ⅰの授業では、燃焼が熱・流体・化学に関わる物理的、化学的現象であることを理解し、燃焼反応、燃焼のエネルギーバランスを学び、発熱量、必要空気量、燃焼ガス量などを計算できるようにする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機構学・振動制御	機械を設計するには、機械が所要の運動を行うために部品をどのような形状にし、どのように組み立てればよいか、すなわち、どのような機構を形成すればよいかを考える必要がある。機構学はこの内容を扱う学問であり、本講義の前半では機構学の基礎を学習する。一方で、機械に生じる動的な挙動は振動の現象の形をとることが多く、ほとんどの機械にとって振動は有害である。高性能な機械を開発するには、種多様な振動現象のメカニズムを解明して抜本的な防止対策を確立することが重要である。本講義の後半では、動吸振器等を用いた振動現象の具体的な制御方法・防止対策方法について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	水素工学基礎	水素工学の基盤となる化学・材料関連の基礎学理を教える。 具体的には、（1）エネルギー資源と水素、（2）水素エネルギー体験（燃料電池自動車（FCV）試乗、水素ステーション見学等）、（3）物質の結合と状態、（2）化学熱力学、（3）化学平衡、（4）化学反応、（5）電気化学、（6）電子・イオン伝導体、を学び、水素利用、水素製造等の水素工学技術の基礎を理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム工学	機械要素や部品を組み合わせてシステムを構築すると、個々の部品だけでは存在しなかった特徴や問題が生じる。本講義では、システム特有の事柄を理解し、またそれらを具体的に取り扱うための手法について用いることための基礎的手法について学習し、単純な事例に対して適用できる技術を身につけることを目的とする。具体的には、マルコフ過程によるモデル化、待ち行列理論、システムの信頼性、スケジューリング、線形計画法、ニューラルネットワークなどを学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	ロボティックスⅡ	メカニカルシステムの運動学、動力学、制御工学に基づいて、ロボティクスの基本的考え方を授業する。 具体的には、ニュートン・オイラーの運動方程式、一般化座標と一般化速度・力、ダランベールの原理と変分原理、ラグランジュの運動方程式、多関節構造体の動力学などを学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム制御D	自動車、航空機、発電プラント、工作機械、建設機械、ロボットなど、あらゆる機械は制御をおこなうことを前提に設計・製作される。また、高層ビルや大規模橋梁、銀行における決済システムなど、制御工学におけるシステム解析の手法は様々な分野に応用されている。この授業では、これら工学やシステムの分野において基礎となる制御工学の考え方を講義する。特に、Ｚ変換の基礎、差分方程式とＺ変換、ディジタル制御系、離散時間システムの安定性、デジタルフィルタ、シーケンス制御基礎、制御機器の設計とラダーロジックを学び、Ｚ変換が計算でき、差分方程式の解を求め、離散時間システムの安定性を判定できる力を身につける。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	加工機器・精密測定法	機械製作法Ⅱで履修した除去加工の基礎をベースに、加工機器という機械システムを対象に、その構成要素である機械要素並びに機械システムとして成り立つ加工機器の設計・製作について、基礎から最新の加工機器・精密計測機器までを含め、その特徴について講義・演習を行う。具体的には、力の流れ・剛性について理解し、加工機器の機械的構成要素の実際を学ぶとともに、サーボモータおよび検出器、数値制御、曲線・曲面加工への応用についても学ぶ。さらに、加工法と車の両輪の関係にある精密測定法についても、基本となる単位系に始まり、機械的測定機器、光学的測定法の実際を通して理解するとともに、加工精度と測定精度の関係、測定のトレーサビリティについても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生体工学基礎	生命・生物の機能を理解し、機械工学の知識（材料宇力学、機械力学、流体力学、熱力学）を用いて、生命・生物の機能を模倣・代替システムを構築する基礎を学ぶ。具体的には、人体の構造と機能、生体の材料力学、生体の機械力学、生体の流体力学、生体の輸送現象論、生体計測、電気系と機械のアナロジー、材料力学的アプローチ、機械力学的アプローチ、流体力学的アプローチ、バイオミメティクスなどを学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	熱エネルギー変換Ⅱ	現代社会は地球上に存在する種々のエネルギー資源を用い、それを人間が必要とするエネルギー形態に変換することで成り立っている。地球環境問題や資源枯渇問題はエネルギー変換に関する知識なくしては語れない。発電システムに用いられる蒸気動力や低温熱エネルギーを利用するヒートポンプを中心に、現代の熱エネルギー変換機器とその特徴について講義する。ここでは、熱エネルギー変換Ⅰに引き続き、特に複合発電、原子力発電およびヒートポンプを中心に講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	燃焼学Ⅱ	私たちは、日々大量のエネルギーを消費して生活している。このエネルギーの80%以上を燃焼によりまかなっており、燃焼はエネルギー変換の重要な役割を果たしている。この燃焼により得られるエネルギーを効率よく有効に、また、環境にも配慮しながら利用するためには、燃焼のメカニズムを理解する必要がある。燃焼学Ⅱの授業では、化学平衡を理解し火炎温度や燃焼ガス組成などを計算できるようにする。また、火炎の特性、燃焼形態、着火・消炎、ジェットエンジンやバーナーなどの燃焼機器について学び、エネルギー、地球環境問題およびその解決策についての理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅰ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主に製造物責任法をテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅱ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主に医療機器、、メディカルエンジニアリング、バイオメカニクスをテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅲ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主にロボティクス・メカトロニクスをテーマとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅳ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主にバイオテクノロジー/MEMS/ナノテクをテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅴ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主に加工技術をテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅵ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主に製銑等をテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅶ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主に自動車工学をテーマとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学特別講義Ⅷ	機械工学分野の中でも特に重要なのテーマに関して、企業の第一線で活躍されている方の講話なども交えながら、当該分野における研究開発の実務や最新情報について紹介する。受講者は、機械工学のこれまでの学習内容が、実際の研究開発においてどのように生かされているかを学ぶ。 本講義においては、主にエネルギー工学をテーマとする。	
専攻教育科目	卒業研究	機械工学卒業研究	学内外の実験室、計算機室での実験、計算、解析、ディスカッション、データのまとめ、発表など、一連の研究活動を体験させる。 これに基づき、機械工学に関する基礎知識をもとに、理論的または実験的な手法を用いて機械工学に関する現象・機構の解明、あるいは新しい機械・要素・ソフトウェアの開発を行うとともに、この結果を卒業論文にまとめ、教員グループによる試問を受ける。（*国際コースでも開講）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部航空宇宙工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。それらを可能にするためには、物体が力の作用によってどのように変形し、その内部の力学状態はどのようになるのかを理解する必要がある。本授業では、工学的にそれを可能にする体系の基礎的な部分を講義する。具体的には、応力とひずみの概念、そしてトラス構造の変形である。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標としては、静力学の基本的な素養を持ち、材料力学の各種問題を考えることができるようになることである。特に、引張負荷における応力とひずみ・平衡条件・内力・エネルギー法の考え方・不静定問題の考え方を理解し、トラス構造の変形をイメージできるようになることを目標とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅱ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では材料力学Iに続き、主に曲げを受ける構造物の変形について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、曲げ・せん断力線図と曲げモーメント線図・組み合わせ負荷・ひずみエネルギー・カスティリアーノの定理について理解することである。さらに、曲げを受ける構造物に関して、発生する応力や変位・たわみ・不静定量等を求めることができるようになり、曲げ負荷による構造物の変形をイメージできるようになることである。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	工業力学	機械が運動する際には、慣性力により必ず動力学の問題が生じる。機械の運動と発生する力を知ることは、機械装置の設計において重要な基礎事項である。ここでは、機械の運動を理解するために必要な、質点・質点系の力学・剛体の力学に関する、主としてニュートンの運動方程式に基づいた運動の解析について講義する。これらの基礎をもとに、質点・質点系・剛体の動力学の問題を解くことのできる能力を身に付ける。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	熱力学Ⅰ	機械工学における熱力学の役割は、熱に関わる自然界の物理現象を理解するだけでなく、実際の熱流体機器の設計や動作原理を理解することにある。このため、熱力学I・IIでは、物質の状態変化とその性質、状態変化に伴う熱と仕事の収支を計算する知識を習得し、それらの知識を応用して熱機関や冷凍機の動作原理、性能評価など熱エネルギー機器の基礎を学ぶ。熱力学Iでは、具体的に、熱力学の第0法則、第1法則、第2法則、エントロピー、ガスサイクルを学ぶ。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科群共通科目	流れ学Ⅰ	地球に存在する大気無くして人類の生存はない。また水の存在するところに文明は発達してきた。そのような大気(気体)や水(液体)を総称した流体について、その動き(流れ)を理解し、活用することが文明と科学の発展をもたらす。本講義では、その第一歩として、流体工学の基礎、すなわち、流体が持つ性質と流体運動を支配する力学的・エネルギー的諸法則を巨視的に学び、その知識を問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。応用として、静止状態と見なせる流体に作用する力を推定したり、３保存則を応用して、簡単な問題に対して様々な流体の物理量を推定できるようになることを目標とする。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	現代物理学入門	21世紀の先端工学では、原子や原子核レベルのミクロ世界の物理現象、質量とエネルギーの関係や光速に近い速度で運動する物体の運動学を理解することが重要となる場合がある。そのためには、「量子力学」や「特殊相対性理論」に代表される現代物理学が必要となる。この授業では、真空中の光の速度に近い速度の運動や質量とエネルギーの関係を取り扱う「特殊相対性理論」とミクロ世界を対象とする「量子力学」を導入する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	ベクトル解析と微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. ベクトル値関数 2. 線積分 3. 面積分 4. グリーンの定理、ガウスの定理 5. 一階の常微分方程式 6. 線形常微分方程式の一般的性質 7. (定数係数) 線形常微分方程式の解法 8. (定数係数) 連立線形常微分方程式の解法 (*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科群共通科目	応用量子物理学入門	(概要) 応用量子物理学の基礎と研究の最前線を「量子線を用いた科学計測」と「量子物性と材料開発」という二つの観点から紹介する。以下に記すオムニバス型式の講義を通して、応用量子物理学の基盤をなす学問、最先端の研究を支える技術・設備、研究成果とその工学的利用等について理解を深める。 (オムニバス方式・共同(一部)　全１４回) (162 村上　恭和／３回) ・イントロダクション、磁性材料の物理と工学、ナノ物質の物理と工学、講義全体のまとめ (28 池田　伸夫／３回) ・加速器の開発とその応用、中性子線とその応用、施設見学(加速器・ビーム応用科学センター) (198 魚住　裕介／１回) ・高エネルギー粒子線とその応用 (317 安田　和弘／１回) ・電子線とその応用 (195 伊豫本(深澤)　直子／１回) ・放射線計測とデバイス開発 (110 田中　悟／１回) ・表面と２次元物質の構造と物性 (224 河江　達也／１回) ・超伝導現象と量子多体効果 (208 岡部　弘高／１回) ・有機材料の先端物理学 (134 原　一弘、208 岡部　弘高／１回) ・放射光とその応用 (224 河江　達也、162 村上　恭和／１回) ・施設見学：低温センター、超顕微解析研究センター	オムニバス方式 ・共同(一部)
専攻教育科目	学科群共通科目	原子力工学概論	(概要) 原子力は、我が国の経済成長、エネルギー安定供給を確保しつつ、環境負荷の低減を図るために必要不可欠なエネルギー供給源である。このため、安全確保に万全を期しつつ、中核的な電源として着実な利用と開発が進められている。本講では、原子力工学の初学者を対象に、核エネルギーの発生原理とエネルギー変換過程、原子力発電のしくみと安全性、核燃料サイクルと放射性廃棄物処理等に関してそれらの基礎的事項を概説する。 (オムニバス方式　全１５回) (143 藤本　望／５回) ・核エネルギーの発生原理とそれを応用した原子炉の物理について理解する。 (165 守田　幸路／５回) ・原子炉プラントと熱設計、動力炉の種類と安全上の特徴について基礎的事項を理解する。 (193 稲垣　八穂広／５回) ・核燃料サイクルに含まれるウラン濃縮、再処理、廃棄物処理処分を統合的に理解する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） 第Ⅲ群に属する機械工学科、航空宇宙工学科、応用量子工学科、融合基礎工学科の関わる学問分野について講義し、それぞれの分野についての知識を深める。 （オムニバス方式　全１５回） （143 藤本 望／４回） ・本講義についてのガイダンス。講義の実施方法、評価方法。第Ⅲ群に属する学科の概要等 ・量子物理工学科のカバーする原子炉工学、核燃料工学、材料工学、量子ビーム工学、応用物理学分野についての概要と今後の展望 （70 雉本 信哉／５回） 機械系工学で基礎となる4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）についての概要と機械工学の社会に対する役割 （2 高橋 厚史／３回） 航空宇宙工学科における熱・流体、構造強度、航行ダイナミクス、宇宙システムに関する教育研究の概要 （96 杉原 裕司／３回） 融合基礎工学科（機械電気コース）において学ぶ、熱・流体工学、エネルギー変換工学、電磁気学、プラズマ理工学、量子工学および、それらの基礎工学と情報学が融合した学際領域に関する概要 （*国際コースでも開講）	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. ラプラス変換の定義・例・性質 2. ラプラス変換の応用 3. 周期函数、三角函数の直交性、フーリエ級数展開 4. 正弦展開・余弦展開 5. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 6. フーリエ変換とその性質 7. フーリエ正弦・余弦変換と応用 8. 波動方程式・拡散方程式 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用確率論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 確率変数と様々な例 2. 独立確率変数とその和の極限(大数の法則、中心極限定理) 3. ポアソン過程(1) 待ち時間を用いた直感的構成 4. ポアソン過程(2) 独立増分性、確率の満す微分方程式による特徴付け 5. 時間的に一様でないポアソン過程とその応用 6. 生成死滅過程(1) 確率の満たす微分方程式による構成とユール過程 7. 生成死滅過程(2) M/M/1型の待ち行列における待ち時間、待ち行列長 8. 生成死滅過程(3) M/M/s型の待ち行列とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	情報処理概論	コンピュータの仕組みや機能および計算のアルゴリズムを、プログラムの実習を通じて学ぶ。最初はパソコンと Linux ワークステーションを使う上での基礎的な事項を実習し、その後は Web 上で配布するテキスト・資料にしたがって、四則演算から始まり、行列演算、数値計算などと順次高度なプログラミングへと進む。プログラミング言語としては Fortran 90/95 を用いる。Windows や Macintosh の初歩的な利用法についても説明する。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学Ⅲ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では材料力学IIに続き、ねじりを受ける構造物の変形・組合せ負荷を受ける立体構造物の変形および座屈について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だでではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、ねじり・応力とひずみ・ひずみエネルギー・薄肉管・コイルバネ・座屈を学び、構造物に発生する応力や変位・たわみ，不静定量等、柱の座屈応力を求めることができるようになることである。さらには、複雑な形状の構造物、あるいは組合せ負荷を受ける立体構造物に関して、発生する応力や変位・たわみ、不静定量等を求める能力を身に着け、組合せ負荷による立体構造物の変形をイメージできるようになることである。（*国際コースでも開講）	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学Ⅳ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では、応力とひずみの性質・応力とひずみの変換・フックの法則・サンブナンの原理について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、複雑な形状の構造物、あるいは組み合わせ応力を受ける構造物に関して、発生する応力やひずみを求める力を身につけることである。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	弾性力学	弾性力学では、材料力学の基礎知識をもとに固体の応力や変形挙動を正確に求め、機械や構造物の破壊事故を防止する強度設計のもとになる考え方を修得する。応力・ひずみの性質とこれらを関係づける構成方程式に基づき、材料や構造に生じる応力と変形を予測する方法を修得する。また、固体の複雑な問題に対する近似解法に用いるエネルギに関する諸定理を学ぶ。さらに、構造力学への入口として、棒を題材として弾性不安定現象の解法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙伝熱学	本講義では伝熱学の基礎を学ぶ。特に、熱伝導・熱伝達・輻射について深く理解することで、具体的な伝熱現象を、物理的に説明するために必要な知識を習得する。その上で、近年、重要性が増している、航空宇宙分野における伝熱現象やその技術背景を紹介し、伝熱学の実用的な応用事例を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	エネルギー変換基礎論	本講義では、群共通の必修科目である「熱力学１」で学修した、熱現象や熱力学の基礎とそれらの基本概念や基本法則の具体的な現象への理解・応用を、さらに展開・深化させて、航空宇宙工学に必要な熱力学とエネルギー変換に関連する分野を学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	ジェットエンジン工学	本講義では、空気吸い込み推進機関であるジェットエンジンについて学修する。まず、流体力学、熱力学をジェットエンジンについて展開・深化して学修する。次に、要素性能と工学、全体性能など、ジェットエンジン固有の工学について学修する。さらに、非定常・不安定現象、部分性能などのトピックについて学修する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空流体力学	本講義では、航空機が飛行する力学原理を理解するために必要となる、流体力学に関する以下の諸項目に関する知識を修得する。 ・流体の性質 ・流体運動の基礎方程式 ・非圧縮性完全流体の運動 ・複素速度ポテンシャル ・二次元翼まわりの流れ ・二次元翼理論の基礎 ・三次元翼理論の基礎 ・粘性流体の基礎 ・Reynoldsの相似則 ・粘性流れの厳密解の例 ・層流境界層 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	気体力学	航空機、ロケットなど飛翔体の飛行に必要な圧縮性流体力学の基礎理論とその応用を講義し、等エントロピー流れ・衝撃波・膨張波といった高速流中における圧縮性流体の特徴的現象や、粘性・高温による影響及び非定常流れの特性についての基本的理解を深める。 （*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	飛行力学Ⅰ	おもに固定翼航空機の静的特性の推定法について学ぶ。まず航空機の分類とそれぞれの飛行原理の違いについて学んだのち、固定翼航空機の各部の名称とその働き、二次元翼および三次元翼の特性から固定翼航空機の迎角静安定性が得られる原理等について学ぶ。その後、固定翼航空機の重要な静的性能、すなわち速度性能、上昇性能、滑空性能、離着陸性能、旋回性能、引き起こし性能、航続距離、航続時間などの性能推定法、トリム計算の方法等について学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	飛行力学Ⅱ	固定翼航空機の動的特性を理解するため、剛体の運動方程式から微小擾乱仮定にもとづく線形運動方程式、および姿勢の方程式、経路の方程式等の導出方法を学ぶ。またエクセルを用いて微分方程式を数値的に解く方法を学び、線形運動のシミュレーションを行う方法を学ぶ。線形運動方程式の固有値解析により、縦運動および横・方向運動の固有モードと固有運動について理解し、それらの固有運動に関係の深い安定微係数の推算方法について学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用飛行制御論	飛行制御の基本的な目的は、観測により得られた情報をアクチュエータに伝え、システムの挙動を望ましいものに修正することはことである。このために必要なディジタル制御やカルマンフィルタなどのデータ駆動型の解析・設計手法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	軌道力学	天体力学の基本法則を基に宇宙機の運動、地球周回軌道の表し方、軌道変換、近接物体の運動の近似法、軌道摂動とその応用、惑星間航行について授業する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	誘導・制御基礎論Ⅰ	工学システムを動かすためには、それらを適切に制御するシステムが必要である。本講義では、制御工学がどのような学問であるかを学び、制御理論の種類・大枠を理解する。その上で、古典制御理論を用いて、線形系に対する安定判別法および解析手法ついて学ぶ。また、制御性能を評価する基準を用いて、基本的な制御器の設計法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	誘導・制御基礎論Ⅱ	工学システムをより適切に制御するためには、古典制御理論では不十分であり、現代制御理論を適用したより高度な制御システムが求められる。本講義では、古典制御理論との違いに留意しつつ、現代制御理論における新しい概念（状態変数法、可制御性・可観測性）を学び、制御系設計法（レギュレータ／オブザーバの設計法、最適フィードバック制御、定常カルマンフィルタの設計法）を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙基礎物理学	航空宇宙機に求められる高性能を追求し実現するためには時として原子分子のスケールから物理現象や物性を理解する必要がある。その基本的な学理である気体分子運動論、統計力学の基礎、固体物理学の基礎を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	宇宙利用学	（概要） 宇宙環境の有効利用に向け、熱・微小重力・真空といった宇宙特有の環境・現象及び影響を理解し、輻射・流体・伝熱による熱制御や微小重力・宇宙資源などを活用し、極限的作動条件を前提とした宇宙科学技術の実現へ応用できるよう知識の構築を行う。 （オムニバス方式　全14回） （2 高橋　厚史／７回） 宇宙における熱制御技術およびその基礎となる熱物性について理解を深める。 （7 小川　秀朗／７回） 微小重力環境や宇宙資源の活用について理解を深める。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎設計製図	機械要素および機器製作用の図面を、JIS規格に定められた製図規則に基づいて作成する知識と技術を修得する。また、製作図の作成、および複雑な機械を設計製図するための基礎知識を学ぶ。材料力学および図形科学の知識を、製図対象物の動作原理と結びつけて理解し、性能・機能が実現出来る製作手法を考察する。製作図の作図者の意図が製作者に確実に伝わり、誤りの無い見やすい図面を完成させる技能を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙工学設計実習	航空宇宙機の設計製図で必要とされる製図に関する３次元空間の理解とその処理理論やプログラムについて学ぶ。また、航空宇宙工学の各分野の研究を幅広く実体験することで4年次の航空宇宙工学卒業研究への準備を行う。（*国際コースでも開講）	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎振動学	航空機や宇宙構造物をはじめとする実構造物の振動現象の把握は、これらの構造設計に不可欠である。振動解析の基礎理論をを理解するため、1自由度の振動系の運動方程式の解析法を学び、自由振動、強制振動、過渡応答の解析法を修得する。また、1自由度系で学んだ理論と解析法を多自由度系の振動に拡張する。構造物を適切にモデル化し、固有振動数と固有振動モードを解析する方法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎構造力学	力学の原理や定理などを用いて各種構造物、特に骨組構造や航空宇宙機構造物などの力学特性を解析する方法を学ぶ。構造物の設計を行うときに必要不可欠な力の伝達のメカニズムを定量的および直観的に把握し、最も基本的な構造である骨組構造について静定、不静定構造の解析方法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用構造力学	構造力学では、弾性力学の基礎知識をもとに航空機構造の変形挙動を正確に求め、破壊事故を防止する強度設計のもとになる考え方を学ぶ。航空機や宇宙機の構造様式は、薄板や殻（シェル）、薄板モノコック構造やセミ・モノコック構造に代表される。これらの構造要素の曲げやねじり変形に関する理論と解析法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙機振動学	航空宇宙機の構造設計には、その構造要素である棒・はり・板・膜などの連続体の振動現象の把握が不可欠である。航空宇宙機振動学では、このような連続体の振動現象の基礎理論を学ぶ。まず、１次元連続体である弦や棒の伸縮・ねじり振動を対象として、連続体の振動現象の解析法を修得する。 さらに、はり・板・膜などの振動現象の理論と解析法を修得する。 また、航空宇宙機に発生するフラッターのような自励振動の解析法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙機材料学	航空宇宙機に使用される構造材料の概要を理解した上で、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質について学修し、近年航空宇宙機に用いられるようになった先進複合材料の力学特性や複合材構造の解析手法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	人工衛星工学	人工衛星は大きく分けてペイロード（ミッション機器）とバスに分けられる。さらにバスは構造系、熱制御系、電源系、データ処理系、姿勢・軌道制御系に分けられる。本講義では、人工衛星がミッション期間中に健全性を保証すべき宇宙環境（放射線、高エネルギー粒子および宇宙ごみ）について学修し、人工衛星の構成要素ならびに全体システムの設計・評価手法についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	ロケット工学	宇宙推進システムとしてのロケットの構成、性能、運動、構造、システム等のロケット基礎理論について講義を行う。その中で、流体力学や構造力学などの基礎的な知識が、ロケットの機体やエンジンというモノの設計に対してどのように応用され、貢献するかを理解する。また、様々なエンジン方式とそれらの特徴を紹介し、宇宙ミッションを成立させるために必要な条件を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙機設計論	宇宙ミッションは、宇宙機（人工衛星）だけでなく、打ち上げロケット、地上局、ミッション運用、通信アーキテクチャ、観測・計測対象、ミッション軌道の７つから構成される。本講義では、この７つの要素から構成される宇宙ミッションの定性的な目標決定から定量的な要求設定までの設計・評価手法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙工学実験	航空宇宙工学の各分野での基本的な実験を体験し、講義で学んだ現象に対する理解を深めるとともに、関連する基本的実験法を修得し、航空宇宙工学を学ぶのに必要な測定法やデータの取りまとめ方を身に着けることを目的とする。与えられた実験テーマに基づいて、少人数のグループで実験を行い、報告書を作成、提出する。計測の原理および手段などの基本的な実験方法、計測データの取り扱い方、報告書の書き方などを修得する。（*国際コースでも開講）	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気、電気回路を基礎とし、電気計測、制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コ ンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。 本講座では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	工業マネジメント	民間航空機を取り巻く環境、国際的な安全性基準の策定プロセス、安全性基準への適合証明プロセス等について理解するとともに、我が国が航空機設計国として取り組んできた国産リージョナルジェット機の安全性審査を通じて得られた教訓および「空飛ぶクルマ」をはじめとする次世代航空機に対する今後の課題等について学ぶ。 航空機・宇宙機の開発・生産における市場調査・商品企画・開発・量産・アフターサービスの各段階のプロセスと課題を理解し、事業を成功に導くためのトータルマネージメントの手法と航空宇宙産業におけるその具体例について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空工学特別講義	航空機開発の流れを理解し、機体規模の決定や空力設計、飛行制御設計、構造設計、装備設計等の概要を学ぶ。航空宇宙産業の歴史や現状、今後の展望についても学修する。航空機に要求される安全性や型式証明・耐空証明取得の流れについても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	宇宙工学特別講義	現代社会においては、人工衛星を利用した各種サービス（通信、天気予報など）が日常生活において必要不可欠になっている。本講義では、人工衛星の設計開発の流れを概説し、各開発段階における設計方法や試験などがどのように行われているかを学ぶ。また、打ち上げ後の衛星が軌道上で運用されるまでのプロセスについても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空宇宙機設計生産システム	民間航空機の開発について、商品企画から始め、設計・製造・試験・運用支援までを含めた流れを学ぶ。民間航空機として製品をまとめ上げて行くには、幅広い分野を動員して精緻なプロセスを遂行することが重要であることを理解し、民間航空機開発の実例を通して『もの作り』の全容を学修する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	ジェットエンジン構造設計	この講義では、ジェットエンジンメーカから非常勤講師を招聘し、３年時までに学修した基礎的な熱力学・流体力学・材料力学・構造力学などの知識がジェットエンジンの構造および設計の実際に対してどのように応用されるかについて具体的かつ総合的に学修する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	航空機運用・整備	この講義では、エアライン会社から招聘した非常勤講師により、旅客や貨物を輸送する民間航空機を安全に効率よく運用・整備するに必要な手法・取り組みと、それら手法・取り組みと航空工学との関わりについて学修する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	宇宙環境制御システム	ロケット推進システム、特に反動推進系の基礎を理解することを目的とする。ロケットは総合的な工学分野であるため多種多様な学問体系を必要とするが、本講義では熱・流体力学などをベースとした燃焼学および反応流体の基礎に重点をおく。これらを俯瞰的に理解しながら実機設計への適用について学修し、さらには設計計算の演習による定着を目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	産業活動実習Ⅰ	航空宇宙工学関連の企業が実施するインターンシッププログラムでの就業体験を通して、企業が求める人物像や仕事への姿勢、必要とされる知識・能力等を学修し、将来のキャリアパス選択に備えて航空宇宙産業を体系的に把握するとともに、自らの適性や備えておくべき知識・能力等を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	産業活動実習Ⅱ	産業活動実習Iに引き続き、企業等の就業体験を通して企業が求める人物像や仕事への姿勢、必要とされる知識・能力等をさらに深く学修し、将来のキャリアパス選択に備えて自らの適性を判断しながら、社会へ貢献する具体的な方向性を見つける。	
専攻教育科目	卒業研究	航空宇宙工学卒業研究	航空宇宙工学に関する基礎知識をもとに、理論的または実験的な手法を用いて、航空宇宙工学に関わる現象・機構の解明、あるいは新しい装置やソフトウェアの開発を行うとともに、その結果を卒業論文にまとめ、試問を受ける。（*国際コースでも開講）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部量子物理工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅰ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。それらを可能にするためには、物体が力の作用によってどのように変形し、その内部の力学状態はどのようになるのかを理解する必要がある。本授業では、工学的にそれを可能にする体系の基礎的な部分を講義する。具体的には、応力とひずみの概念、そしてトラス構造の変形である。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標としては、静力学の基本的な素養を持ち、材料力学の各種問題を考えることができるようになることである。特に、引張負荷における応力とひずみ・平衡条件・内力・エネルギー法の考え方・不静定問題の考え方を理解し、トラス構造の変形をイメージできるようになることを目標とする。	
専攻教育科目	学科群共通科目	材料力学Ⅱ	安全な機械を設計し、安全に使用することは、機械工学者の義務である。本授業では材料力学Iに続き、主に曲げを受ける構造物の変形について講義する。授業では、基礎的な知識の習得だけではなく、応用力を涵養する。そのため例題や練習問題を多くこなすことを求める。到達目標は、曲げ・せん断力線図と曲げモーメント線図・組み合わせ負荷・ひずみエネルギー・カスティリアーノの定理について理解することである。さらに、曲げを受ける構造物に関して、発生する応力や変位・たわみ・不静定量等を求めることができるようになり、曲げ負荷による構造物の変形をイメージできるようになることである。	
専攻教育科目	学科群共通科目	工業力学	機械が運動する際には、慣性力により必ず動力学の問題が生じる。機械の運動と発生する力を知ることは、機械装置の設計において重要な基礎事項である。ここでは、機械の運動を理解するために必要な、質点・質点系の力学・剛体の力学に関する、主としてニュートンの運動方程式に基づいた運動の解析について講義する。これらの基礎をもとに、質点・質点系・剛体の動力学の問題を解くことのできる能力を身に付ける。	
専攻教育科目	学科群共通科目	熱力学Ⅰ	機械工学における熱力学の役割は、熱に関わる自然界の物理現象を理解するだけでなく、実際の熱流体機器の設計や動作原理を理解することにある。このため、熱力学I・IIでは、物質の状態変化とその性質、状態変化に伴う熱と仕事の収支を計算する知識を習得し、それらの知識を応用して熱機関や冷凍機の動作原理、性能評価など熱エネルギー機器の基礎を学ぶ。熱力学Iでは、具体的に、熱力学の第0法則、第1法則、第2法則、エントロピー、ガスサイクルを学ぶ。	講義12.5時間 演習10時間
専攻教育科目	学科群共通科目	流れ学Ⅰ	地球に存在する大気無くして人類の生存はない。また水の存在するところに文明は発達してきた。そのような大気(気体)や水(液体)を総称した流体について、その動き(流れ)を理解し、活用することが文明と科学の発展をもたらす。本講義では、その第一歩として、流体工学の基礎、すなわち、流体が持つ性質と流体運動を支配する力学的・エネルギー的諸法則を巨視的に学び、その知識を問題解決に応用できる能力を養う。理解度深化のために徹底した演習を課す。応用として、静止状態と見なせる流体に作用する力を推定したり、３保存則を応用して、簡単な問題に対して様々な流体の物理量を推定できるようになることを目標とする。	講義12.5時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	現代物理学入門	21世紀の先端工学では、原子や原子核レベルのミクロ世界の物理現象、質量とエネルギーの関係や光速に近い速度で運動する物体の運動学を理解することが重要となる場合がある。そのためには、「量子力学」や「特殊相対性理論」に代表される現代物理学が必要となる。この授業では、真空中の光の速度に近い速度の運動や質量とエネルギーの関係を取り扱う「特殊相対性理論」とミクロ世界を対象とする「量子力学」を導入する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	ベクトル解析と微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. ベクトル値関数 2. 線積分 3. 面積分 4. グリーンの定理、ガウスの定理 5. 一階の常微分方程式 6. 線形常微分方程式の一般的性質 7. (定数係数) 線形常微分方程式の解法 8. (定数係数) 連立線形常微分方程式の解法	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	(概要) 第Ⅲ群に属する機械工学科、航空宇宙工学科、応用量子工学科、融合基礎工学科の関わる学問分野について講義し、それぞれの分野についての知識を深める。 (オムニバス方式　全１５回) (5 藤本望／４回) ・本講義についてのガイダンス。講義の実施方法、評価方法。第Ⅲ群に属する学科の概要等 ・量子物理工学科のカバーする原子炉工学、核燃料工学、材料工学、量子ビーム工学、応用物理学分野についての概要と今後の展望 (78 雉本信哉／５回) 機械系工学で基礎となる4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）についての概要と機械工学の社会に対する役割 (112 高橋厚史／３回) 航空宇宙工学科における熱・流体、構造強度、航行ダイナミクス、宇宙システムに関する教育研究の概要 (104 杉原裕司／３回) 融合基礎工学科（機械電気コース）において学ぶ、熱・流体工学、エネルギー変換工学、電磁気学、プラズマ理工学、量子工学および、それらの基礎工学と情報学が融合した学際領域に関する概要	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	応用量子物理学入門	（概要） 応用量子物理学の基礎と研究の最前線を「量子線を用いた科学計測」と「量子物性と材料開発」という二つの観点から紹介する。以下に記すオムニバス型式の講義を通して、応用量子物理学の基盤をなす学問、最先端の研究を支える技術・設備、研究成果とその工学的利用等について理解を深める。 （オムニバス方式・共同（一部）　全１５回） （6 村上　恭和／３回） ・イントロダクション、磁性材料の物理と工学、ナノ物質の物理と工学、講義全体のまとめ （1 池田　伸夫／３回） ・加速器の開発とその応用、中性子線とその応用、施設見学（加速器・ビーム応用科学センター） （10 魚住　裕介／１回） ・高エネルギー粒子線とその応用 （14 安田　和弘／１回） ・電子線とその応用 （9 伊豫本(深澤)　直子／１回） ・放射線計測とデバイス開発 （3 田中　悟／１回） ・表面と２次元物質の構造と物性 （12 河江　達也／１回） ・超伝導現象と量子多体効果 （11 岡部　弘高／１回） ・有機材料の先端物理学 （4 原　一弘、11 岡部　弘高／１回） ・放射光とその応用 （12 河江　達也、6 村上　恭和／１回） ・施設見学：低温センター、超顕微解析研究センター	オムニバス方式 共同(一部)
専攻教育科目	学科群共通科目	原子力工学概論	（概要） 原子力は、我が国の経済成長、エネルギー安定供給を確保しつつ、環境負荷の低減を図るために必要不可欠なエネルギー供給源である。このため、安全確保に万全を期しつつ、中核的な電源として着実な利用と開発が進められている。本講では、原子力工学の初学者を対象に、核エネルギーの発生原理とエネルギー変換過程、原子力発電のしくみと安全性、核燃料サイクルと放射性廃棄物処理等に関してそれらの基礎的事項を概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （5 藤本　望／５回） ・核エネルギーの発生原理とそれを応用した原子炉の物理について理解する。 （7 守田　幸路／５回） ・原子炉プラントと熱設計、動力炉の種類と安全上の特徴について基礎的事項を理解する。 （8 稲垣　八穂広／５回） ・核燃料サイクルに含まれるウラン濃縮、再処理、廃棄物処理処分を統合的に理解する。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	力学	力学は物理学の中で最初に体系化され、その後の科学発展の模範となった分野である。また、力学で導入される力・運動量・エネルギーといった概念は、物理学全般にわたる基礎概念にもなっている。本講義では、ニュートン力学で確立された物理的アプローチ、観測で得られた結果を定量的に記述し基本法則に基づいて論理的に説明するという方法を、様々な力学モデルを例に取りながら学ぶ。さらにニュートン力学を数学的に整理することで一般性の高い形に書き直した解析力学について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	振動・波動論基礎	物体の「振動・波動」は日常的な現象であり、学生諸君は高校の物理においてその基礎的な性質についてすでに学習している。この現象はほぼ全ての工学分野と関わっており、その一般的な理解は科学工学を専門とする者には必須であろう。一方、物質の要素である電子や陽子・中性子なども波動の性質を有しており、波動に関する理解は、諸君が「量子力学」「固体物理学」などの現代物理学の基礎と応用について学習していく上において、大いに助けとなる。さらに振動・波動は、線形代数・微分方程式などの具体的で良い例題を与える。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理化学	熱力学は「錬金術」という人間の欲望から生じた学問であるが、現在では物理数学のレベルにまで精密化され、自然科学を理解・探求する上で必要な学問となっている。 本講義では、熱力学において本質的な役割を果たしているエントロピーおよび化学ポテンシャルの二つの物理量を定義し、熱力学体系を明確に理解させたのち、相の安定性・状態変化に関する物理化学現象を記述するための方法論を詳述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電磁気学	マクスウェル方程式を基本法則とする電磁現象の基礎を学ぶ。電磁気学はすべての理工学の基礎となる重要な学問である。講義及び演習によって電磁気学の理解と応用力を徹底させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	情報処理概論	コンピュータの仕組みや機能および計算のアルゴリズムを、プログラムの実習を通じて学ぶ。最初はパソコンと Linux ワークステーションを使う上での基礎的な事項を実習し、その後は Web 上で配布するテキスト・資料にしたがって、四則演算から始まり、行列演算、数値計算などと順次高度なプログラミングへと進む。プログラミング言語としては Fortran 90/95 を用いる。Windows や Macintosh の初歩的な利用法についても説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学演習Ⅰ	（概要） 力学、電磁気学で観測される物理現象に対して微積分学や線形代数学を用いた解法を演習し、自然現象を数学的に記述することの利便性・重要性について理解して行く。 （オムニバス方式　全１５回） （12 河江　達也／８回） 1.運動法則と微分方程式 2.力・ポテンシャルと偏微分 3.振り子の運動とテイラー展開 4.連成振動と固有値・固有ベクトル （1 池田　伸夫／７回） 5.電気回路と2階常微分方程式 6.マクスウェル方程式とベクトル場の発散・回転 7.マクスウェル方程式と面積分・線積分	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学演習Ⅱ	（概要） 量子物理工学科の専攻教育科目である「量子力学I」、「量子力学II」、「統計力学I」に関する課題演習を通して、これらの科目に対する理解を深めるとともに、応用力の強化を図る。3年次の第1クウォーターと第2クウォーターに開講される上記の専攻教育科目と並行する形で実施し、講義と演習の連動・相補性を重視する。 （オムニバス方式全１５回） （9 伊豫本(深澤) 直子／８回） ・量子力学I、および量子力学IIに関わる演習を通して、当該科目に対する理解と応用力を養う。 （6 村上 恭和／７回） ・統計力学Iに関わる演習を通して、当該科目に対する理解と応用力を養う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学演習Ⅲ	学生一人一人に量子物理工学に関する各種の分野についての英語のテキストを指定し、そのうちの数章の講読を行い内容の理解を進める。最終回には各自が購読した内容についてのプレゼンテーションを学生、担当教員を前にして行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	創造科学工学基礎実験	将来の高度で複雑な専門的･創造的な実験に対処するために、個々のテーマの専門性に囚われない、基本的な実験力の涵養を目指す。量子物理工学に関連するレーザー、半導体、電子回路、放射線計測の基本的なテーマを題材として、あらゆる実験に共通して必要となる実験課題の把握の仕方、実験の進め方、課題の処理の仕方、データの整理法、考察の方法、レポートの作成方法等を徹底的に訓練する。これらを通じて、実験知識、実験技術の習得に加え、実験への真摯な姿勢、自らの頭で考え、意欲的に取り組む実験力と創造力を培う。学生を7グループに分けて各テーマを受講させ、合計で7個のテーマを学習する。 （21 日高　芳樹） ・レーザーによる光の干渉・回折 （23 吉岡　聰） ・強誘電体の誘電率 （19 執行　信寛） ・論理回路 （24 米村　祐次郎） ・演算増幅器と負帰還制御 （18 稲垣　祐次） ・低温による金属及び半導体の電気抵抗 （13 松浦　秀明） ・GM計数管による放射線測定 （16 有馬　立身） ・Ge半導体検出器による放射線測定	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	原子核物理学入門	原子核は各種放射線を発することができ、医療や工業など多くの分野で利用されている。また、原子炉や核融合炉におけるエネルギー源として用いられる。本科目では、原子核の基本的な性質と、放射性崩壊について講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	原子核物理学	微視的体系である原子核は量子力学により記述される。本科目では原子核の構造と反応の基本的内容を取り上げ、それらの量子力学性質に焦点を当てて説明する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	連続体力学	流体、弾性体などの連続体の運動・変形とそこに介在する力との関係は、テンソルという、ベクトルよりも高次の概念を用いなければ的確に記述することができない。本講義では、テンソルを中心に連続体を自在に取り扱うための数学的表現法を学んで、引き続く流体力学、材料力学、伝熱学、振動力学などを修得するための準備を行う。教科書および配布資料を使って講義を進める。理解を助けるために、適宜、演習やレポート課題を取り入れる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子線物理計測	量子線（エックス線、ガンマ線、アルファ線、ベータ線、中性子線、電子ビーム、陽子ビームなど）を安全に利用するためには、量子線の物理現象とそれを利用した計測に関する知識と理解が必要とされる。さらに、近年では、物質科学や環境科学において必要とされる高精度微量分析や、医療の診断や治療において、量子線を応用した最先端技術が不可欠となっている。 この科目では、量子線と物質の相互作用に関する物理現象と、量子線の計測法の基礎を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気・電子回路	電気・電子回路技術は現代社会のあらゆる側面で重要な役割を果たしている。まず、電気回路の基礎として、直流回路と交流回路について、抵抗やインダクタ、キャパシタおよび、これらの組み合わせによって電流、電圧などがどのように変化するかを理解する。次に、オペアンプを中心に、現代の電子回路の機能等について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. ラプラス変換の定義・例・性質 2. ラプラス変換の応用 3. 周期函数、三角函数の直交性、フーリエ級数展開 4. 正弦展開・余弦展開 5. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 6. フーリエ変換とその性質 7. フーリエ正弦・余弦変換と応用 8. 波動方程式・拡散方程式	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子力学Ⅰ	本講義は量子力学の入門講義である。ここでは、まず量子力学の基本であるシュレディンガー方程式が導入された経緯と、それが厳密に解ける１次元のポテンシャルでの束縛状態の問題を学ぶことを通して、量子力学の基礎概念を理解させる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子力学Ⅱ	本講義は「量子力学Ⅰ」に引き続いて行われる講義である。１次元のポテンシャルの非束縛状態での散乱の問題、実用上極めて重要な中心力場の代表であるクーロン場の水素原子の問題を詳述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子力学Ⅲ	「量子力学Ⅰ、II」に引き続いて行われる講義である。量子力学Ⅰ、IIでは主に1粒子について厳密に解くことが出来る微視的な束縛状態や1次元の散乱問題について学んだ。本講義では量子力学を実際の問題に適用する際に必要となる基本事項について学ぶ。具体的には、角運動量の一般的な性質、多粒子系の取扱い、代表的な近似解放などについて述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	統計力学I	熱力学で扱うマクロな体系（例えば気体）の状態を、その体系を構成するミクロな構成要素（例えば気体を構成する分子）の状態をもとに記述する道具立てとして、古典統計力学の基礎を学ぶ。熱力学や古典力学との接点に加えて、固体物理や反応化学でしばしば登場するボルツマン因子など幾つかの重要な概念を、統計力学の立場から理解することをめざす。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	統計力学Ⅱ	ミクロな粒子は量子力学に従って離散的なエネルギー準位をもつ体系（量子系）を構成する。また量子力学に従うミクロな粒子には同種粒子を区別できないという性質が有り、これによってミクロな粒子は波動関数の対称性によってボース粒子とフェルミ粒子に分けられ、それぞれ異なる統計則に従う。この２種類の量子力学的な粒子が従う統計力学、すなわち量子統計力学の基礎と、それに基づく量子効果について講述する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	輸送現象論	流体の流動現象を運動量の移動として捉えるとき、運動量、熱および物質の輸送機構は相似で、統一的取扱いが可能となる。この観点から一つの学問体系として組み立てられたのが輸送現象論である。本講では、この輸送機構の相似性と保存式について学んだ後、輸送現象論の枠組みの中で、流動論（運動量輸送）、伝熱論（熱輸送）、拡散論（物質輸送）の基礎について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	データ解析概論	（概要） 実験や数値計算によって得られたデータの適切な取り扱いについて系統的に学ぶ。単位系、誤差論、統計解析（分散、相関、分布関数、高次モーメントなど）、フーリエ・ラプラス変換と高速フーリエ変換、カーブフィッティング、画像解析等を、数値データから得る手法を学ぶ。また、それらの解析結果からどのような知見を得ることができるかについても学ぶ。Excelやプログラミングを用いて実際に解析を行なう演習も含む。 （オムニバス方式　全１５回） （17 有馬　秀彦／２回） ・Excelによるデータの取り扱い、グラフの描き方 （19 執行　信寛／１回） ・データ解析プログラミング （24 米村　祐次郎／1回） ・回帰分析とカーブフィッティング （22 松元　達也／２回） ・物理量と単位系、物理量の測定と有効数字 （23 吉岡　聰／２回） ・誤差論(1)（系統誤差と偶然誤差）、誤差論(2)（誤差の伝播） （16 有馬　立身／２回） ・統計解析(1)（平均、分散、標準偏差、高次モーメント）、統計解析(2)（主な分布と分布関数の求め方） （20 Visikovskiy Anton／１回） ・統計解析(3)（相関係数、自己相関関数と相互相関関数） （18 稲垣　祐次／１回） ・フーリエ変換とラプラス変換 （21 日高　芳樹／３回） ・ガイダンス、画像解析(1)（画像データの種類と画像データの取り扱い）、画像解析(2)（画像解析プログラミング）	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学実験	創造科学工学基礎実験からの発展として、量子物理工学に関連するより高度な放射線計測、材料抽出、熱伝達、輸送現象、超電導、液晶に関するテーマを題材として、時間をかけて実験課題の把握から実験の進め方、課題解決、データの整理法、考察、レポート作成等を時間をかけて習得する。学生を8グループに分けて各テーマを受講させ、合計で8つのテーマについて学習する。 （17 有馬　秀彦） ・中性子計測に関する実験 （19 執行　信寛） ・ガンマ線計測に関する実験 （23 吉岡　聰） ・石鹸泡模型に関する実験 （16.有馬　立身） ・ウランの抽出分離に関する実験 （22 松元　達也） ・沸騰熱伝達に関する実験 （13 松浦　秀明） ・輸送現象に関する実験 （18 稲垣　祐次） ・超伝導体に関する実験 （21 日高　芳樹） ・液晶ディスプレイに関する実験	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	固体物理学Ⅰ	固体の性質は、それを構成する原子の集団の振る舞いにより支配されている。本講義では特に結晶性固体の電子および原子の集団的状態と、固体の弾性的、熱的、および電気的性質との関連を学ぶ。本講義では、空間講師、結晶構造、空間格子、格子方向と格子面、ブラベー格子、結晶構造、X線回折と結晶構造、原子間ポテンシャル・エネルギー、ばねとおもり、連続体の振動、1次元格子振動、ブリユアン領域、結晶基が2個の原子を含む1次元振動、フォトンとフォノン、固体の比熱（古典論）、固体の比熱（アインシュタイン理論、デバイ理論）、固体の熱膨張、自由電子、自由電子模型、衝突時間、流動速度について学ぶ	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	固体物理学Ⅱ	固体の性質は、それを構成する原子の集団の振る舞いにより支配されている。本講義では、金属、半藤田、絶縁体の性質の理解、バンド理論、半導体と光の相互作用、絶縁体（誘電体）の性質について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	放射化学	放射化学は、原子核、素粒子、放射能、放射線等に関わる量子的な現象と物理化学等のマクロな法則を結びつける学術分野である。また、量子的なな自然現象の応用である原子力発電、放射線治療等、さらには宇宙誕生や生命科学を理解・発展させる基礎となる。本講義では、放射化学の基礎と様々な応用例について解説、講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	ビーム工学	量子ビームは素粒子・原子核科学の最先端を拓くとともに、物質科学への応用や新材料開発、医療・診断、考古学応用など、現代社会において広く利用されている。この講義では、荷電粒子ビームの生成、制御について基礎を学ぶ。生成については、種々の加速器の原理について学ぶ。制御については、電磁場による収束・発散作用を用いた粒子の輸送および電磁解析による荷電粒子の分析法について概説する。本講義の内容は加速器だけでなく、電子顕微鏡も対象としている。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料科学概論	物質が示す多様な性質を理解するために必要な材料科学の原理について、その基礎を初歩的立場から学ぶ。講義内容は多岐に亘り、（1）結晶構造とその解析法（結晶構造と表し方、逆格子、Ｘ線回折、回折図形）、（2）格子欠陥（格子欠陥の種類とその性質、熱平衡状態と放射線環境での格子欠陥形成）、（3）力学的性質（材料強度試験法、転位とその性質、破壊の基礎）、（4）状態図と相転移（自由エネルギー曲線、代表的な状態図、相律、核形成成長過程）、（5）原子の拡散（フィックの法則、拡散係数）、について材料科学の基礎を幅広く教授する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用光学	現代の工学・科学において、物質の性質を調べるために欠かすことのできない測定手段の一つである光について学ぶ。そのため、光の性質と振る舞いを記述する光学の中で、特に物質との相互作用を理解することを目標とする。波動光学と電磁波、偏光を基礎とし、物資による屈折、反射、散乱、吸収について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用確率論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 確率変数と様々な例 2. 独立確率変数とその和の極限(大数の法則、中心極限定理) 3. ポアソン過程(1) 待ち時間を用いた直感的構成 4. ポアソン過程(2) 独立増分性、確率の満す微分方程式による特徴付け 5. 時間的に一様でないポアソン過程とその応用 6. 生成死滅過程(1) 確率の満たす微分方程式による構成とユール過程 7. 生成死滅過程(2) M/M/1型の待ち行列における待ち時間、待ち行列長 8. 生成死滅過程(3) M/M/s型の待ち行列とその応用	
専攻教育科目	学科・専攻科目	現代科学技術論	我が国のエネルギー・科学技術政策について、如何にして我が国の技術を発展させていくべきかを、過去の実例に基づいて解説するとともに、その効果、将来の重要分野の設定に関してブレインストーミングを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学概論	（概要） 量子物理工学科の卒業研究を担当する各研究室で行なわれている研究内容について、オムニバス方式で、基礎から最新の研究まで学ぶ。3年次までに学んできたことが研究の最前線でどのように応用されているかを知るとともに、卒業研究の研究室選択の参考とする。 （オムニバス方式・共同（一部）　全８回） （1 池田　伸夫、9 伊豫本(深澤)　直子／１回） ・応用原子核物理・電磁解析学教育分野及び量子線物理計測教育分野で実施している研究内容概説 （7 守田　幸路／１回） ・原子力エネルギーシステム教育分野で実施している研究内容概説 （5 藤本　望／２回） ・ガイダンス ・原子炉物理及び核融合理工学教育分野で実施している研究内容概説 （6 村上　恭和／１回） ・放射線物性工学教育分野で実施している研究内容概説 （8 稲垣　八穂広／１回） ・エネルギー創生材料学教育分野で実施している研究内容概説 （3 田中　悟、12 河江　達也／１回） ・物性物理学教育分野で実施している研究内容概説 （11 岡部　弘高／１回） ・応用物理学教育分野で実施している研究内容概説	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	原子炉物理学Ⅰ	原子炉物理学では、原子炉の中で起こっている中性子と物質の相互作用を理解し、原子炉の基本的特性について学ぶ。原子炉物理学Ⅰでは中性子の発生、中性子と他の原子核との衝突により起こる各種の反応、媒質中の中性子のふるまいについての講義を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	原子炉物理学Ⅱ	原子炉物理学Ⅰの内容をふまえ、原子炉の臨界、中性子の減速、原子炉の動特性、燃焼による反応度変化、反応度フィードバック係数、原子炉の燃焼挙動について講義を行い、原子炉の基本的特性について理解することを目指す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	プラズマ理工学	個体、液体、気体に続く第４の物質の状態と言われるプラズマの概念、プラズマを記述する基本モデルとその考え方、プラズマを表す基礎理、基本的な性質について要点を講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	核融合概論	核融合反応の基本的な特徴から将来のエネルギー源として実用化が期待されている核融合炉の概念について、広くその概要を理解することを目的とする。核融合プラズマの理工学的な面と核融合炉システムとしての炉工学的要素、その開発の現状について概説する。自然界に存在するプラズマや工学的な応用についても紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	原子炉熱流動工学	原子力熱流動工学は、原子炉設計において原子炉の出力や発電システムの熱効率などの重要なパラメータを決定するための基礎となっている。また、原子炉事故時の安全性を評価するうえでも、原子炉の冷却の健全性を評価するための基礎となっている。本講では、原子炉の設計・安全評価を行うために必要となる流体力学、伝熱学及び混相流の基礎について学んだ後、原子炉での熱発生、冷却材の冷却性能の評価、気液二相流の不安定性、及び原子炉熱設計の基本的な考え方について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	ソフトマター物理学	近年「ソフトマター」と呼ばれる柔らかい物質の重要性が増している。現代人の身近にあり、ソフトマターの代表例である高分子と液晶を例に取り、その構造や物性、応用例について基礎を学ぶ。また、ソフトマター物性の実験手法（光の吸収と散乱、回折、粘弾性測定、光ピンセット）や、理論的基盤となる非平衡統計力学（線形応答理論、ブラウン運動、揺動散逸定理）についても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料分析学	材料に関するさまざまな現象の理解、解明には、材料の性質や状態とその変化を計測／分析することが必要となる。本講義では、材料の組成、化学形、結合状態、結晶構造等の性質を計測／分析するための機器分析化学の基礎について、原理と応用例を示し解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	産業活動実習	企業、研究所または他の大学の研究室等において実習を行い、その内容についてのレポートをまとめる。実習の内容と成果、実習期間期間等を勘案して科目の成績を判定する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学特別講義Ⅰ	量子物理工学のうち、極低温化での超流動現象、低温・高圧下での超電導現象といった新規な量子現象や得意な秩序状態といった量子現象に関する特定のテーマを取り上げ、研究の現状と将来の展望等について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学特別講義Ⅱ	量子物理工学のうち、核融合について、プラズマ物理、プラズマ計測、ブランケット、ダイバータ等の核融合炉工学について特定のテーマを取り上げ、核融合システムに関する研究の現状と将来の展望等について講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学特別講義Ⅲ	実用原子力発電所の概要、設備機器の構成、設備の運転保守、法規制に対する対応について講義を行い、原子力発電の基礎から現状までを理解する。更に九州電力の原子力訓練センターで運転シミュレータを用いた実習を実施し、現場を体験する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	量子物理工学特別講義Ⅳ	量子物理工学のうち、核燃料に関して、核燃料の製造、原子炉内での挙動、使用済み燃料の再処理、最終処分等研究・開発に関する特定のテーマを取り上げ、最新の研究の現状と将来の見通し等について講義する。	
専攻教育科目	卒業研究	量子物理工学卒業研究	量子物理工学に関する特定のテーマについて、先行研究の調査や文献調査等により研究課題を明確にする。設定した研究課題について実験・解析を行い研究室内での議論を踏まえ論文としてまとめる。まとめた論文について発表し試問を受けることにより卒業論文としてふさわしいことを判定する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部船舶海洋工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展ともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 一階の常微分方程式 2. 解の存在と一意性 3. 線形常微分方程式の一般的性質 4. （定数係数）線形常微分方程式の解法 5. （定数係数）連立線形常微分方程式の解法 6. ラプラス変換の定義・例・性質 7. ラプラス変換の応用 8. デルタ関数などについて	
専攻教育科目	学科群共通科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	学科群共通科目	固体力学	構造物や地盤などに発生する力や応力を把握するために、以下のような弾性力学の基本的な知識を学ぶ。 1)弾性力学の基礎式を理解する。 a) 応力とひずみの定義および構成方程式 b) 応力の釣り合い式 c) 変位とひずみの関係式 2)主応力・主ひずみを理解する。 3)３次元応力場と２次元応力場（平面応力・平面ひずみ）の関係を理解する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	地球環境総合工学	（概要） 「人と自然が調和した持続的環境の創造」を目指して、地球温暖化や人口問題、資源の問題といった諸課題を解決するため、地球環境に関わる工学的、実用的な知識や能力を身につけることを目標とする。 （オムニバス方式・共同　全１５回） （282 林　博徳、186 石藏　良平／５回） 環境アセスメント、環境リスク、温暖化防止、持続可能な社会について講義を行う。 （5 篠田　岳思、2 宇都宮　智昭／５回） 海洋環境保全、海洋エネルギー、海洋開発を通じた低炭素社会実現について講義を行う。 （112 辻　健、239 笹岡　孝司/５回） 産業活動と社会生活を支えるエネルギー資源と鉱物資源の持続可能な環境適応型開発技術（探査・開発・生産・資源循環・環境修復）について講義を行う。	オムニバス方式 共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	フーリエ変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 周期函数、三角函数の直交性、フーリエ級数展開 2. 正弦展開・余弦展開 3. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 4. フーリエ変換とその性質 5. フーリエ正弦・余弦変換と応用 6. 波動方程式 7. 拡散方程式 8. Laplace方程式	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） 第Ⅳ群（総合工学）の概要を知るために、土木工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科の概要に関する講義を行う。 各学科で、5回程度の講義を担当し、オムニバス形式のセミナーを開催する。 担当教員が資料等を用意して、それに従って講義を進める。 （オムニバス方式　全１５回） （152 三谷　泰浩／５回） 防災・減災、地球環境問題、社会資本整備と国際貢献、土木の魅力など （7 柳原　大輔／５回） 私たちの生活と船舶海洋工学の関わり、海洋・地球科学における船舶の貢献、海洋の環境と探査、海洋エネルギーなど （112 辻　健/５回） エネルギー資源および鉱物資源の現状および環境に優しい資源開発技術について	オムニバス方式
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピューターの成り立ち・電子回路・アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路・ディジタル回路・半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科群共通科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気・電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気・電気回路を基礎とし、電気計測・制御の基礎について概説する。 電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。 最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では、機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	空間表現実習	ＪＩＳの製図規格を基にした機械製図についてテキスト及び実習を通じて学ぶ。前半の講義では、製図の基礎である文字や線の描き方、ねじやカップリングなどの機械要素の作図法などを説明し、後半は実際に手書きによる製図を行う。最終的には複雑な図面を読み取り、部品図・組立図を写すことで機械製図への理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	流体力学第一および同演習	海洋において運動を行う船舶や海洋構造物に作用する力の推定を行うためには、周囲の流体の性質に関する学問、すなわち流体力学を学ぶ必要がある。本講義では流体力学の基礎を学習する。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶設計	船を設計するためには、安全性と経済性を調和させて船の構造と性能を計画する必要がある。 この授業では、船の計画と設計のために必要な船舶と海事についての基本的な知識を修得し、船の基本計画の方法を学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶算法および同演習	船舶工学を学ぶ上で必要となる船舶に関する基礎的な知識や諸計算法、また水上や水中に浮かぶ浮体の平衡と安定、初期復原力、排水量計算について学習する。 船舶海洋システム工学コースにて作成したテキストに従って授業を進めるとともに、基本的な計算法について演習を行う。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料力学および同演習	機械や構造物の強度設計を行うためには、材料に発生する応力やひずみを評価する必要がある。この授業では、基本的な構造部材に外力などが作用したときに発生する応力・ひずみ（変形）を求めるための、基礎理論と計算法を修得する。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶復原性および同演習	船舶工学を学ぶ上で必要となる、船舶に関する基礎的な知識や諸計算法、また水上や水中に浮かぶ浮体の平衡と安定、復原力計算法、復原性能の判定法について学習する。 船舶海洋システム工学コースにて作成したテキストに従って授業を進めるとともに、基本的な計算法について演習を行う。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	流体力学第二および同演習	船舶の主な推進装置であるスクリュー・プロペラ、船舶の操縦装置である舵や操縦運動中の船体まわりの流れと流体力を理解するための翼理論ならびに船の粘性抵抗や船尾伴流を理解するための粘性流体力学を学ぶ。	講義15時間 演習7.5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	自動制御工学	機械や電器機器など多くのシステムでは、状態を一定に保ったり、好ましい状態へ遷移することが求められる。自動制御工学は、これを実現するための解析方法およびシステムの設計方法を与える。本講義では、特にフィードバック制御に話題を絞り、解析および設計方法の基礎を示す。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料加工学	船舶・海洋構造物に代表される大型鋼構造物の製作に必要な、鉄鋼材料を中心とする金属材料の性質と、その加工方法としての溶接技術、熱切断技術及び非破壊検査技術に関する基礎知識を講義する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	弾性力学	機械や構造物の破壊事故を防止するためには、強度設計のもとになる応力や応力集中に関する考え方を修得しなければならない。本講義では、応力・ひずみの性質と、両者を関係づける「フックの法則」を理解し、その応用方法を修得する。さらに、弾性力学問題の解決の基礎となる適合条件式・平衡方程式・境界条件・サンブナンの原理を理解し、応力集中の概念の重要性と種々の応用問題の解法・ねじり問題の考え方と応用法を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋製図第一	商船の設計演習として、船種・船型・主要寸法等を適宜選択決定し、学生一人々々異なる船を新たに設計することが課題として与えられる。船舶海洋製図第一では、主として、船型設計を行い、船型を表わす線図の描き方・排水量・復原挺等計算法の実際の技法を修得する。 週1回のノート講義と中間審査(約4回)において質疑討論を行う。	講義3時間 実験・実習19.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋流体力学第一	船体に働く抵抗成分、船体・プロペラ・舵の相互干渉のメカニズム、プロペラの幾何形状、模型船を用いた水槽試験の目的と方法等について学ぶことにより、船の推進性能に関する基礎知識を身につける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機能設計工学	船舶・海洋構造物、海洋システム機器などは、その使用目的に合致した移動・位置の検知と保持・積荷の品質保持と積卸し・姿勢の制御・操舵・安全などの機能を備えて、初めて役に立つことができる。これらの種々の機能を生み出すためには、熱工学・流体力学・解析力学・設計工学などに基づき、種々の設計要因の組み合わせと設計条件を満足させながら機能設計を行い、その性能の評価を行う必要がある。講義では、機能設計・計画に関する理論および評価解析法について、講義や課題の取組を行いながら理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造力学第一および同演習	船舶・海洋構造物の構造設計では、構造物に生じる応答（変形や応力）を求める必要がある。また、船舶や海洋構造物は、基本的には平板および曲面板（殻）を防撓材で補強した構造の組み合わせにより成り立っている。そこで本授業では、棒や梁で構成された骨組構造、平板や曲面板等の板構造を対象とした構造力学と、エネルギー原理、さらには強度理論や安定限界、構造設計に関する考え方を学ぶ。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算工学演習第一	アプリケーション・プログラムとして表計算ソフトExcel、数値計算・グラフ化ソフトSCILAB、数式処理ソフトMAXIMAの３つを取り上げ、それらの基本的な使い方の演習を行う。	演習15時間 実験・実習7.5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶運動論	波浪中の船舶の動揺、特に横揺は船の転覆などに対する安全性の見地から極めて重要な問題である。この授業では、波浪中の浮体・航行体の動揺特性と海象について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造力学第二および同演習	船舶・海洋構造物の構造設計では、構造物に生じる応答（変形や応力）を求める必要がある。また、船舶や海洋構造物は、基本的には平板および曲面板（殻）を防撓材で補強した構造の組み合わせにより成り立っている。そこで本授業では、棒や梁で構成された骨組構造、平板や曲面板等の板構造を対象とした構造力学と、エネルギー原理、さらには強度理論や安定限界、構造設計に関する考え方を学ぶ。	講義15時間 演習7.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋製図第二	船舶海洋製図第一で各学生が設計した船について、一般配置図と船体中央横断面図を作成する。 容積図を作りトリム計算を行って配置計画を検討すると共に、強度計算を実施して構造設計の実際の技法を習得する。 また、船と構造システムが異なる海洋構造物構造図を模写し、その機能についての知識を深める。	講義3時間 実験・実習19.5時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	情報処理概論	工学に関する種々の問題を解析するためには、数学の解析学の知識とあわせて計算機を利用した数値解析の知識も必要である。ここでは、数値解析のための手法と計算アルゴリズムを学習し、さらに計算機言語Pythonを用いてコンピュータ・プログラミングする方法を、実習を通して修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋構造力学	船舶や海洋構造物の構造様式と特徴，構造設計の手順，作用する荷重の特徴，使用する材料について学んだ後に，船舶の基本的な構造強度である，縦曲げ強度，横強度，捩り強度について学び，船舶や海洋構造物の構造設計に関する基本的な考え方，基礎知識を修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋流体力学第二	船舶海洋流体力学第一で講義した内容を理論を重視して一歩掘り下げ、プロペラ理論および風車の流体力学・造波理論について学ぶ。また、新しく水中音響の基礎についても学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋振動学第一	質点および多自由度系の振動の基礎理論を学び、振動計測の原理および簡単な振動解析法を修得する。 具体的には，1自由度系の自由振動、強制振動、過渡応答、2自由度系の振動特性，周波数応答曲線、多自由度系の運動方程式、モーダルパラメータ、減衰の種類等を学ぶ。また、モーダル振動解析の理論とその応用についても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	材料強度学	溶接構造の局部強度評価法、破壊防止設計に関する基礎理論を修得することを目的に，溶接残留応力や溶接変形の発生メカニズム，溶接構造物の疲労強度評価手法，破壊力学のの基礎概念と応用手法，船体用材料に関する基礎知識について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	運動制御工学	船舶や海洋構造物の所用の目的の為に、航行又は停止などの運動をするには、航行体に働く流体力とその運動を制御する方法に関する知識が必要である。この授業では、航行体に作用する流体力の推定法および運動の制御方法について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境設計工学	船舶居住区・クルーズ客船・フェリー・および海洋空間利用の浮体構造物は、その居住空間の快適さや安全性・海洋保全性などの環境の提供が要求される。これらの環境設計に関わる条件・理論・思考法や知識として、1)環境設計により提供する目的の理解、2)物理量としての環境要因の理解、3)人間の理解（生理的性質、心理的性質）、4)環境設備（環境を提供する装置および機器）について学習していく。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	システム設計工学	システム設計は、問題を正しく捉えてうまく表現する「モデル化」のステップと、そのモデルを用いて何らかの評価指標の意味で最も好ましい設計パラメータを見つける「最適化」のステップより構成される。扱うシステムは機械・物流・通信・人工知能またはそれらの組合せなど多種多様だが、どのような設計問題でもモデル化と最適化を適切に行うことにより同様に扱うことが可能である。本講義では、特にコンピュータを利用して多様な設計問題の問題解決を行う方法論を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋工学実験	技術者は、研究などにおいて理論の検証や現象の把握をするためにしばしば実験を行う。この実験は、以下に示す個別の題材についての実験を行うことで、実現象を体感すると共に、報告書の取り纏め能力を身につける事を目的とする。 （4 後藤(長)　浩二、7 柳原　大輔） ・材料の力学的特性の測定法を学ぶ。 （9 田中　太氏） ・種々の環境問題を検討する際に必要となる諸量の測定法を学ぶ。 （12 吉武　朗） ・模型船の抵抗推定実験法及びこの結果から実船の抵抗を推定する手法を学ぶ。 （6 古川　芳孝、11 茨木　洋） ・船舶動揺特性の測定法を学ぶ。 （3 木村　元） ・フィードバック制御で動くシステムの安定性について学ぶ。	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	舶用機関	熱機関では熱をエネルギー源として動力生産が行われ、工業上の各プロセスでは加熱や冷却が行われているなど、熱には非常に多くの応用例がある。一方、熱はエネルギーの最終形態でもあり、日常的に熱に関連した多くの現象に触れる機会は多い。本講義では、熱を理解するために不可欠である熱力学および伝熱学に関する基礎知識を修得する。またこれをもとに様々な熱の応用例について幅広い知識を得て、正しい理解を身につける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	工学力学	近代科学は17世紀に力学を端緒として進展していき、現在では素粒子や原子の極微の世界から広大な宇宙あるいは生命の世界にまでその考究範囲を広げている。このように広範囲な科学の中でも力学はすべての自然科学の基礎をなしており、力学で取り扱われる概念を習得することなしには現代科学を理解することは不可能である。授業では力学に現れる力や質量などの基礎概念を把握し、運動の法則の取り扱いに習熟し、それから導かれる保存則について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	工学力学演習	広範囲な科学の中でも力学はすべての自然科学の基礎をなしており、力学で取り扱われる概念を習得することなしには現代科学を理解することは不可能である。授業では力学に現れる力や質量などの基礎概念を把握し、運動の法則の取り扱いに習熟し、それから導かれる保存則について理解を深めるために、工学的問題など実際の問題に関連する演習に取り組む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	海洋環境情報学	船舶や海洋開発機器は海洋という厳しい自然環境の中で作動するために、その計画・設計・開発のためには、海洋の物理的メカニズムの知識が必要となる。この授業では、海洋の物理的メカニズムを理解するための基礎となる、海洋流体力学，確率過程論，衛星情報の利用技術等について学習する。 毎回配布するプリントを中心に授業を行う。毎回の授業の最後には簡単な演習を行う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	海洋機器工学	海洋開発には様々な海洋機器が用いられるが、そこで必要となる機能や性能を理解するためには、海洋開発の全体像を理解しておくことが重要である。本講義では、海洋石油・ガス開発を主な対象としてその概要を講義するとともに、海洋再生可能エネルギーならびに今後の海洋開発についても展望する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋振動学第二	基本構造要素、および大型船舶や海洋構造物の振動論を学び、その防振設計法、振動解析法と振動計測法を修得する。具体的には，構造部材の弾性振動、船体振動の種類と起振力と起振源，船体節振動の特徴と推定方法，船体上部構造の振動推定法と防振設計，船舶の局部振動特性および解析法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	工業マネージメント	製造業では生産効率の向上は必須課題であり、激しく変化する経営環境に対して、創造的に適応していくダイナミズムが求められている。講義では、主にIE(Industrial Engineering)に関する手法を学習し、座学だけでは無く、実際に体験型の課題演習に取り組みながら、「作業の見える化」や「作業改善」の意義と思想への理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計算工学演習第二	卒業研究等で必要となるプログラミング言語についてプログラミングの演習を行い、自分でプログラムを作成するための知識を修得する。更に、数値解析のための計算プログラムを理解し、独自に新しいプログラムを開発するための技術を身につける。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造解析演習	材料力学・構造力学・振動学などに関連する実問題を解くための手法である有限要素法について講義、および例題解析を通じて理解を深めると共に、数値シミュレーションの基礎を学ぶ事を目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋工学特別講義第一	船舶海洋工学において、一つの専攻教育科目として設置するほどの分量はまだ整っていないが、その時々で重要である複数の学問の種を紹介する。また、造船海運業界における新鮮な情報等にも触れるとともに、当業界における情報収集の手法についても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋工学特別講義第二	船舶海洋工学科では、例えば構造や流体系科目といったように便宜上、複数の科目に分割して学んできた。しかしながら、科目の明確な分割は不可能である。そこで、高速艇を題材とし、その諸性能や設計に関わる複数の学問を、それらの繋がりも含め総合的に学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	船舶海洋工学特別講義第三	船舶海洋工学特別講義第二では、高速艇を題材としてその諸性能や設計について総合的に学んだ。船舶の設計の後の過程は、その建造であり、これに関わる専攻教育科目は複数設置されている。本講義では船舶建造に工場管理も含め、これらを総合的に学ぶ。	
専攻教育科目	卒業研究	船舶海洋工学卒業研究	各科目の履修により修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学習に取り組み、造船技術および海洋利用技術の計画・設計に必要な技術や考慮すべき条件等について考察する能力を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部地球資源システム工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 一階の常微分方程式 2. 解の存在と一意性 3. 線形常微分方程式の一般的性質 4. (定数係数) 線形常微分方程式の解法 5. (定数係数) 連立線形常微分方程式の解法 6. ラプラス変換の定義・例・性質 7. ラプラス変換の応用 8. デルタ関数などについて	
専攻教育科目	学科群共通科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	学科群共通科目	固体力学	岩盤や地盤の中に発生する力や応力を知るためには、弾性力学の基本的な知識が不可欠である。本講義では、岩盤力学、地盤力学などの地球資源システム工学科における重要な専門基礎科目として、弾性力学を中心とした固体の変形に関する必要最小限の基本的事項を修得する。	
専攻教育科目	学科群共通科目	地球環境総合工学	(概要) 「人と自然が調和した持続的環境の創造」を目指して、地球温暖化や人口問題、資源の問題といった諸課題を解決するため、地球環境に関わる工学的、実用的な知識や能力を身につけることを目標とする。 (オムニバス方式・共同　全１５回) (293 林　博徳、195 石藏　良平／５回) 環境アセスメント、環境リスク、温暖化防止、持続可能な社会について講義を行う。 (95 篠田　岳思、 46 宇都宮　智昭／５回) 海洋環境保全、海洋エネルギー、海洋開発を通じた低炭素社会実現について講義を行う。 (4 辻　健、7 笹岡　孝司/５回) 産業活動と社会生活を支えるエネルギー資源と鉱物資源の持続可能な環境適応型開発技術（探査・開発・生産・資源循環・環境修復）について講義を行う。	オムニバス方式 共同
専攻教育科目	学科群共通科目	フーリエ変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 周期函数，三角函数の直交性，フーリエ級数展開 2. 正弦展開・余弦展開 3. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 4. フーリエ変換とその性質 5. フーリエ正弦・余弦変換と応用 6. 波動方程式 7. 拡散方程式 8. Laplace方程式	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	（概要） 第Ⅳ群（総合工学）の概要を知るために、土木工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科の概要に関する講義を行う。 各学科で、5回程度の講義を担当し、オムニバス形式のセミナーを開催する。 担当教員が資料等を用意して、それに従って講義を進める。 （オムニバス方式　全１５回） （160 三谷　泰浩／５回） 防災・減災、地球環境問題、社会資本整備と国際貢献、土木の魅力など （171 柳原　大輔／５回） 私たちの生活と船舶海洋工学の関わり、海洋・地球科学における船舶の貢献、海洋の環境と探査、海洋エネルギーなど （4 辻　健/５回） エネルギー資源および鉱物資源の現状および環境に優しい資源開発技術について	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎I	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。 まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎II	電磁気、電気回路を基礎とし、電気計測、制御の基礎について概説する。 電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定 、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。 最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎I	コンピューターの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎II	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	情報処理概論	工学における様々な問題を解決するために、Python言語によるプログラミング、ライブラリ関数の利用、データ処理や数値計算の基本的なアルゴリズムの実装などのコンピューターの基本的な利用を、演習を交えて学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球システム学概論	地下から得られる様々な鉱物・エネルギー資源は人類が存続するために必要不可欠なものであるが、それらを見出すことは困難を極めるようになっている。一方、これらの資源の開発には少なからず環境破壊を伴う。このような地球資源問題と地球環境問題を理解し、対策を講じるには地球システムについての理解が必要である。また、地球を構成する物質の最も小さな基本単元である鉱物や、その集合物である岩石についての理解が必要である。この授業では、資源の対象としての鉱物、あるいは資源の"入れ物"としての岩石について、その構造や物理的・化学的な性質などを学ぶ。さらに地球の構成、地質年代、テクトニクス、火山活動など地球資源や地球環境を理解するうえで欠かすことのできない地球システムの各分野について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球環境のイメージング	地球科学・環境学では、物理探査によって、地下構造のイメージングが求められることが多い。例えば、地震断層の形状や特徴を調べることは、防災の点で重要となる。また大気中に排出されるCO2の削減に向けて、地熱発電やCO2地中貯留といった地下空間を利用するプロジェクトも多く、その実現には地下構造の情報が必要となる。最近では、宇宙資源開発にも、物理探査技術が求められている。本講義では、地下を調べる手法（物理探査）の概要を紹介する。また物理探査によって、これまで明らかになってきた地球内部構造、地震断層や火山の活動を紹介する。さらに、資源エネルギーの開発における物理探査の役割、最新の探査技術についても紹介する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球熱学	地球内部には巨大な地熱エネルギーが貯えられており、そのごく一部が地熱発電などとして利用されている。自然の恵みである地球のエネルギーを環境と適合して利用して行くためには、地球の熱的状態をよく理解する必要がある。この授業では、特に地球内部の熱伝導に関する問題の理解を深めると共に、地球内部の構造と動きに関する基礎的知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源流体工学	地下流体資源を安全に、かつ経済性と環境を考慮して生産するためには、流体資源の地下における流動特性を理解することが重要である。また、地上に生産された流体資源の輸送・運搬を設計する際には、地下における流動特性とは異なる特性の理解が求められる。本講義では、身の回りに見られる身近な流体現象の理解から始め、石油・天然ガス開発、汚染物質の地下水流動、鉱山通気ならびに地熱開発など、流体資源開発や流体が関わる環境に関連する流体現象を理解するための基礎を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	岩盤工学	地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を採取するためには、必要な大きさの空間を地殻中に設ける。この空間を安全で経済的にかつ効率よく掘削し、維持管理する上で必要な、地殻を構成する岩の力学的な応答を理解するための基本的な考え方を修得する。さらに、露天採掘法の基本概念を学び、露天採掘における岩盤工学の役割について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源処理工学	資源処理を行うにあたり、まず重要な知識として「粉体の基礎」を学習した上で、複数の単一操作から成る「選鉱」プロセスを学ぶ。最終的には、一連の「選鉱フローシート」を構築・説明できる力が求められる。「選鉱」について学んだ後は、「製錬」の概要を説明した上で、特に「湿式製錬」について学習する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	エネルギー資源工学	従来のエネルギー資源と再生可能エネルギーの特性を理解し、エネルギー利用について学習する。すなわち、世界のエネルギー事情と最適なエネルギー・ミックスの概念について学ぶとともに日本におけるエネルギー事情の理解と、世界のエネルギー政策、特に将来の日本のエネルギー政策についての理解を深める。さらに、社会的、環境的、経済的影響の可能性の観点から、主要なエネルギー源（再生可能エネルギーと化石燃料）について簡単に紹介し、熱工学、基本的な熱力学、地球資源利用の社会的受容性、環境影響評価（EIA）、戦略的影響アセスメント（SIA）についても取り上げる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源環境科学	鉱物資源・エネルギー資源として鉱業（Mining）の対象となる地質体のことを鉱床というが、それは地球表層部で有用な元素や鉱物が周囲に比べて濃集した部分であると言える。さまざまな鉱床の生成過程や地理的分布、各資源の埋蔵量、需給バランスなどについての理解を深めることを目指す。対象とする資源は金、銀、白金族元素、リチウム、希土類元素、ニッケル、アルミニウム、銅、鉛、亜鉛、スズ、鉄などの鉱物資源に加えて、石油、石炭、地熱などのエネルギー資源である。また、地化学的な資源探査手法および地化学分析、海底鉱物資源、地熱発電に伴われるシリカスケール問題についても取り扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	フィールド地球科学演習	地質調査は鉱物・エネルギー資源探査にとって不可欠である。特にフィールドの現場ですべきことや、フィールドで得られた地質・地化学試料の室内分析で必要なことの理解は資源のポテンシャル評価などにとって重要である。ここでは、座学と野外調査演習によって、1. 地質図学の基礎及び地質調査の方法を学び、ルートマップ及び地質図の作成　2. 粉末X線回折、偏光・反射顕微鏡を用いて鉱物同定、記載の方法の習得　3. 地化学分析の基礎を学び、岩石試料中の化学成分分析測定、を行う。	講義7.5時間 演習15時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	物理探査学	物理探査法は、人間の目には見えない地下構造を、目の替わりとなる種々のセンサーを用いて可視化する方法である。物理探査法は、地下資源の探査を始め、海洋資源探査、遺跡探査、土木分野の基礎地盤調査、土壌・水質汚染源の探査、地下環境のモニタリング等に広く利用されている。本授業では、物理探査法の基礎原理や特徴を学ぶとともに、物理探査法の実際の適用例を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地熱工学	地熱発電等によって、経済的に地球の熱エネルギーを利用することを可能にするためには、地下深部に存在する熱を水の循環によって地表近くに集中的に集める機構、すなわち熱水系の存在が重要である。この授業では、まず地熱系及び熱水系についての概論を導入部として、液相単相流の熱水系を現象論的・数学的に理解し、次に地熱系・熱水系の機構の解明や地熱資源開発などのための地熱探査法を学び、最後に地熱資源評価のプロセスを学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球工学実験第一	地球における種々の物理現象の解明に必要な実験･測定技術を習得する。 環境に配慮した資源の開発を行うためには、地球上における様々な事象や現象を実験･測定などを通して解明する必要がある。 本授業では、物理探査に関する実験を行うことにより、資源開発に必要な知識・技術・思考法などの習得を目指す。 各実験は２回の授業より構成される。第１回では実験室・屋外における実験またはPCを用いた演習を行い、第２回において実験内容および結果に関する講義・解説、実験レポートの採点を行う。	講義10.5時間 実験・実習12時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球工学実験第二	地球における種々の物理現象の解明に必要な実験･測定技術を習得する。 環境に配慮した資源の開発を行うためには、地球上における様々な事象や現象を実験･測定などを通して解明する必要がある。 本授業では、地熱開発などに関する実験を行うことにより、資源開発に必要な知識・技術・思考法などの習得を目指す。 各実験は２回の授業より構成される。第１回では実験室・屋外における実験またはPCを用いた演習を行い、第２回において実験内容および結果に関する講義・解説、実験レポートの採点を行う。	講義10.5時間 実験・実習12時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	石油工学	石油・天然ガスを開発するために必要な基礎的知識を習得する。石油開発の一連の流れに沿って、石油産業の概要から、石油貯留層の地質学的特性、油井掘削・仕上げ、物理検層、貯留層流体の性質、貯留層内の流体流動特性、石油の回収法、ならびに坑井テストの実施方法を解説し、石油の開発現場で用いられている各種技術の基本的な考え方を理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地下空洞設計法	地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を開発する上で必要な岩盤工学上の種々の問題を取り上げ、安全で経済的な坑内採掘ならびに地下空洞の開削を行うために必要な各種力学的試験法、岩盤評価法、現位置応力測定法、掘削法、支保設計法を解説し、坑内採掘設計ならびに地下空洞の設計に必要な各種技術の基本的な考え方を理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	水圏環境化学平衡論	地球は水の惑星といわれ、水は循環しながら、生物界も含めた地球上の物質移動に深くかかわっている。本講義では、自然水の化学的性質に基づき、水が関与する地球環境現象を化学平衡論で理解することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	工業爆薬学	土木・鉱山等に使用されている産業用火薬類に関する知識及び施工使用例を習得する。具体的には、以下の様な項目について授業を行う。 ・火薬類の歴史、種類と分類、火薬類取締法 ・火薬類の性状、感度、性能及びそれらの試験法 ・発破の概念と基本的な工法及び環境問題	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源システム工学実験第一	資源システム工学とは、産業の基盤となるエネルギー資源・鉱物資源の開発・評価・プロセッシング・利用・リサイクリング、環境修復を取り扱う、資源開発工学、岩盤工学、資源処理・環境修復工学などの分野で構成されている。資源システム工学実験第一においては、資源システム工学の中でも、資源開発工学および岩盤・開発機械システム工学の基礎的な実験および解析方法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源システム工学実験第二	資源システム工学とは、産業の基盤となるエネルギー資源・鉱物資源の開発・評価・プロセッシング・利用・リサイクリング、環境修復を取り扱う、資源開発工学、岩盤工学、資源処理・環境修復工学などの分野で構成されている。資源システム工学実験第二においては、資源システム工学の中でも、資源処理・環境修復工学および岩盤・開発機械システム工学の基礎的な実験および解析方法について学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地層内物質移動工学	地層内の物質およびエネルギー移動現象の物理的・化学的メカニズムを理解し、それらを表現するための偏微分方程式の導出・解法を習得することを目指す。特に、流体の詳細な振る舞いを決定づける運動量移動に焦点を当て、様々な流体の流れを解くために必要な流体の基礎方程式（質量、エネルギー、運動量保存）を導出する。 また、流体や流路の特性（粘性、密度、多孔質媒体、亀裂、浸透率、空隙率、熱伝導率、比熱など）についても学習し、これらを基に、地熱、地下水システム、および溶存物質における地下輸送現象の実例について紹介する。さらに、ナノバブルなどの流体化学に関連する産業用途のトピックスや、輸送現象に関連する資源生産の感度を理解するために環境影響評価（EIA）についても学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球資源システム工学実習	鉱物資源およびエネルギー資源の開発および地質調査に関して、授業で得た知識・観察方法・調査技術が資源関連の現場で、どのように応用され活かされているかを体験を通して理解する。野外での地質観察や地熱発電所・鉱山ならびに材料を扱う工場などの見学を通して、地球資源の存在状態や開発・処理等の過程を実際に目にすることにより、実践的に授業で得た知識・観察方法・調査技術の応用例の理解を深めるとともに、地球資源の地球における存在状況および地質現象と人間社会との関係を理解することを目的とする。 前期に、地熱発電所およびボーリング現場（九重大岳・八丁原地区）の見学を、後期に金属あるいは非金属鉱山（採掘現場および選鉱処理現場）の見学・資源開発および資源処理に関わる技術開発に関する事業所の見学・資源の地球における存在状況を理解できる地域ならびに地質現象と人間社会との関係を理解するための地質巡検を、それぞれ数日間併せて約１週間行い、報告書にまとめる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源地球科学	鉱物資源として鉱業（Mining）の対象となる地質体のことを鉱床というが、それは地球表層部で有用な元素や鉱物が周囲に比べて濃集した部分である。さまざまな鉱床の生成過程ついての理解を深めることを目指す。成因的分類に基づく代表的な鉱床タイプについて、生成過程、分布を解説する。また、成因を理解するために必要な地質学的過程や、研究手法についても解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境地球物理学	物理探査法は、（１）地下水やCO2削減に関連した環境分野、（２）地震や火山、地滑り等の防災分野、（３）石油やガスの開発に関わる資源エネルギー分野、（４）月や火星探査といった宇宙開発分野など、広く利用されている。本授業では、物理探査の基礎原理を学ぶと共に、様々な分野での応用例を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	地熱貯留層工学	地熱エネルギーを開発するためには、どの程度の期間にわたってどの程度のエネルギーを取り出すことができるかを正確に予測する必要があり、地熱系における熱と水の流れを理解することが欠かせない。この授業では、地球熱学と地熱工学を基礎に、地熱貯留層内の気液二相流の挙動や熱水系の数値モデリング手法を学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	石油開発生産工学	石油開発において実施される油井掘削・仕上げ、物理検層、石油の一次/二次回収、石油増進回収法、ならびに坑井テストは、開発対象油層の状況に応じて、最適な実施条件が検討され設計される。本講義では、上述した各種開発技術の設計法について詳述するとともに、とりわけ石油開発において重要な油層シミュレーション技術に直結する知識として、資源流体工学と石油工学を基礎とした石油貯留層内の流体移動や数値モデリング手法を解説する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	固体資源開発工学	固体資源開発工学とは、岩盤構造物を設計、施工する上で必要な理論および数値解析の基礎を理解する学問である。特に、数値解析の中でも応力解析における有限要素法は、地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を開発する上で広く利用されている。本授業では、固体資源開発工学の基本概念や各種採掘法、最新技術について修得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	資源微生物工学	資源工学に微生物を利用したバイオテクノロジー技術について、地球と微生物との関わりや、微生物学の基礎知識を習得しながら学んでいく。特に、鉱物プロセッシング、資源リサイクル、環境汚染修復に微生物がどのように利用できるのかを学ぶことで、地球資源分野における微生物学の重要性を認識する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	新エネルギー工学	気候変動対策への貢献が大きく期待されている太陽光、風力、中小水力、地熱、バイオマスなどの新エネルギーの技術や現状の普及状況について講義を行う。授業では新エネルギーの技術に関する演習問題を交えながら理解を深めていく。さらに、近年のエネルギー問題の背景と政策や経済の動向、地域の取り組みについても講義を行い、将来の新エネルギー利用について議論するための理解を深める。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・ 各新エネルギー技術の発電の仕組みや発電量の計算方法、普及に向けた課題 ・ 世界と日本における新エネルギーの普及動向 ・ 新エネルギーの普及政策と近年の取り組み	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地熱発電工学	地熱は、火山国であるわが国にとって恵まれた国産エネルギー資源であり、その利用において燃焼を伴わないためCO2の発生が少なく地球環境にも優しいエネルギーである。また、地熱発電はこの地熱エネルギーを利用しやすい電力に変換して利用するものである。 本授業では、地熱発電の種類や発電設備の構造など、地熱エネルギーを発電に利用していく技術について理解するとともに、地熱開発の進め方や社会的な役割についても学ぶことを目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	石灰石資源	石灰石資源は国内で自給できる唯一の地下資源である。この授業の目的は以下のとおりである。 1)石灰石の生成や用途、資源開発、生産に関する技術や考え方を、実例に即して学ぶ。 2)石灰石鉱業の学習を通して、グローバルなマイニング技術の視点提供を試みる。 3)講師の体験談の紹介等を通じて、マイニングエンジニアの仕事に関する理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	石油・天然ガス資源開発	海外における資源争奪戦の中で、日本がいかにして石油・天然ガスを確保していくか、その戦略とともに、石油技術者の果たすべき役割を考えていく。日本企業が参加している世界各地のさまざまなプロジェクトの特徴を紹介し、新しい技術の紹介とともに、その生かし方、油価や地政学的情勢など、技術以外の話題についても解説する。また、重要な石油開発技術のいくつか（探鉱、モデリング、IOR・EOR、シェールなど）を紹介するとともに、地熱を含む再生可能エネルギーの現状について説明する。さらに、メタンハイドレート、CO2地中貯留についても、実例を示して課題を説明する。 基礎的な学問や技術の教育ではなく、多くの事例を知ってもらうための講義である。このため、授業はトピックス形式の講義で行い、最後に設問に対して自ら考える形式のレポートを提出してもらう。 石油開発技術者が実際の現場でどんな作業をしているかについても、実例などを示しながら説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	海外資源・資源経済学	1. 資源開発におけるリスクと経済性評価 現在、多くの日本企業が海外で金属資源開発に取り組んでいる。海外において金属資源を開発するためには、地質鉱床、採鉱、選鉱等の技術的事項に関する知識だけでなく、プロジェクトの経済性やカントリーリスク、環境リスク等の分析が重要となる。講義では、探査から開発に至る金属資源開発の一連の流れを総括した上で、資源開発事業の特殊性と各種リスクの所在及び最近のリスクの傾向について紹介する。また、資源開発で重要となる鉱量評価の原理を学ぶとともに、演習を交えた講義によりDCF(Discounted Cash Flow)法を用いた経済性評価や最新のファイナンススキームを紹介する。 2. 海洋鉱物資源の概要と開発に向けた取り組み 世界の海底には、海底熱水鉱床、マンガン団塊、コバルトリッチクラストといった鉱物資源の分布が知られている。こうした海洋鉱物資源は、開発事例はないものの、近年では世界的に関心が高まっている。日本でも、平成25年12月に経済産業省が策定した「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」に定められたロードマップに基づき、これらの鉱物資源の商業化に向けた取り組みが行われている。しかし、商業化を実現するためには、技術的、経済的、さらにその他様々な課題がある。講義では、海洋鉱物資源の概要、及び開発に向けた取り組みの現状と課題について紹介するとともに、現場の映像や実際に海底から採取したサンプルを観察する機会を設け、視覚的にも理解を深める。 3. 金属資源の概要と金属鉱床探査における解析及び評価 中国等の新興国の需要増大、資源ナショナリズム、価格の乱高下、メジャー企業の寡占化など、鉱物資源の確保がますます困難な状況になっている。一方で、日本の自動車産業、ハイテク・省エネ製品産業などを支える上で、ベースメタルのみならずレアメタルなどの供給が重大な問題となっている。このような鉱物資源をとりまく現状と、その安定供給にむけた対策の一つとして鉱物資源探査の取り組みを現場の視点から紹介する。講義では、鉱石サンプルに触れる機会を設け、実際の鉱物資源探査現場（地質・技術）を、視覚的にも理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	廃棄物資源循環工学	廃棄物問題は、今後益々深刻になるものと思われる。「廃棄物工学」ではマスフロー、廃棄物の発生、処理の現状及び処理技術とその原理を理解すると共に、廃棄物問題が地球環境保全にとって如何に大切かを修得する。廃棄物問題の本質についても解説するとともに、循環型社会の形成における廃棄物のあり方についても述べる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球資源システム工学インターンシップ	資源関連の現場を体験し、現場の状況に関してプレゼンテーションできる素養を身につける。 国内にある石炭、金属、石灰石鉱山あるいは石油、天然ガス、地熱、地中熱開発会社など、またセラミック製造やリサイクルなどの資源加工関連会社において実習を行い、講義で習ったことを含めて幅広く体験し、資源エネルギーの開発・利用における種々の問題点について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地球資源システム工学国際インターンシップ	資源関連の現場を体験し、現場の状況に関してプレゼンテーションできる素養を身につける。 海外にある石炭、金属、石灰石鉱山あるいは石油、天然ガス、地熱、地中熱開発会社など、またセラミック製造やリサイクルなどの資源加工関連会社において実習を行い、講義で習ったことを含めて幅広く体験し、資源エネルギーの開発・利用における種々の問題点について理解を深める。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学大意第二	機械工学のうち、流体工学、熱力学、内燃工学および伝熱学は、様々なエネルギーを用いて私たちが生活するうえで根幹となす重要な学問であることを理解する。 そのために、まずはこれらの基礎原理を理解する。そして、これらの学問が身の回りの実際のエネルギー機器等にどのように応用されているかを学ぶ。なかでも基本的で重要な、流体の諸性質と流れの基本法則、熱と仕事の間のエネルギー変換の概念と基本法則、実際の機械として内燃機関の動作原理の把握、伝熱のメカニズムと計算法について重点を置く。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	無機化学第三	物質の性質を決める要因は、構成原子の種類、化学結合の様式、そして結晶構造である。実用的な、あるいは新規の無機固体化合物を合成し、その機能を効果的に発現させるためには、合成方法と評価方法についての知識も必要となる。本講義では、セラミックスに代表される無機固体物質の構造と合成方法、評価法の基礎を学び、機械的、電気的、磁気的特性の起源と応用についての知識を習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	金属材料大意	金属材料は、社会生活の基盤となるインフラ、各種輸送機器,さらには各種民生機器に使用される材料として身近な材料である。これらの応用分野における技術進歩は、極限をめざした金属材料の機械的特性や物性の進歩によって支えられてきたともいえる。この点において、金属材料の物性がいかに決定されて、どのように改善されうるかを理解することは、金将来の金属材料研究者、あるいは技術者として非常に有益である。 講義は、金属材料の性質と構造の関係、鉄鋼材料等の実用金属材料の組織と性質に関する基礎的内容から構成される。さらに、将来懸念される社会環境の変化についての資料を提供し、金属材料を将来いかに活用して行くべきかを考えるきっかけとする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れる、とは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。 本講座では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	
専攻教育科目	卒業研究	地球資源システム工学卒業研究	卒業研究の課題は、 ・現象解明のための調査、実験、理論解析、データ解析 ・工学的応用を目指した調査・分析・解析法の案出や改善 ・資源工学における設計・開発論の創出 ・開発に伴う地球環境管理技術の考案 など、各講座の幅広い専門分野の中から選定する。その設定は各自の希望を重視してなされるので、入学時から資源工学に関わる事象をそのような視点で認識しておくことが欠かせない。なお、最終的に各自研究成果を取りまとめ卒業論文として提出する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部土木工学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ＩA、ＩBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ＩA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ＩB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ｉ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 1B	Integrated Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Elementary 2B	Integrated Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Intermediate B	Integrated Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 1B	Integrated Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグローバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	常微分方程式とラプラス変換	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 一階の常微分方程式 2. 解の存在と一意性 3. 線形常微分方程式の一般的性質 4.（定数係数）線形常微分方程式の解法 5.（定数係数）連立線形常微分方程式の解法 6. ラプラス変換の定義・例・性質 7. ラプラス変換の応用 8. デルタ関数などについて （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科群共通科目	地球環境総合工学	（概要） 「人と自然が調和した持続的環境の創造」を目指して、地球温暖化や人口問題、資源の問題といった諸課題を解決するため、地球環境に関わる工学的、実用的な知識や能力を身につけることを目標とする。 （オムニバス方式・共同　全１５回） （20 林　博徳、12 石藏　良平／５回） 環境アセスメント、環境リスク、温暖化防止、持続可能な社会について講義を行う。 （109 篠田　岳思、62 宇都宮　智昭／５回） 海洋環境保全、海洋エネルギー、海洋開発を通じた低炭素社会実現について講義を行う。 （133 辻　健、257 笹岡　孝司/５回） 産業活動と社会生活を支えるエネルギー資源と鉱物資源の持続可能な環境適応型開発技術（探査・開発・生産・資源循環・環境修復）について講義を行う。	オムニバス方式 共同
専攻教育科目	学科群共通科目	固体力学	構造物や地盤などに発生する力や応力を把握するために、以下のような弾性力学の基本的な知識を学ぶ。 1)弾性力学の基礎式を理解する。 a)　応力とひずみの定義および構成方程式 b)　応力の釣り合い式 c)　変位とひずみの関係式 2)主応力・主ひずみを理解する。 3)３次元応力場と２次元応力場（平面応力・平面ひずみ）の関係を理解する。 （*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科群共通科目	フーリエ変換と偏微分方程式	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 周期函数, 三角函数の直交性, フーリエ級数展開 2. 正弦展開・余弦展開 3. フーリエ級数展開定理・パーセヴァルの等式 4. フーリエ変換とその性質 5. フーリエ正弦・余弦変換と応用 6. 波動方程式 7. 拡散方程式 8. Laplace方程式 (*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科群共通科目	工学概論	(概要) 第Ⅳ群(総合工学)の概要を知るために、土木工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科の概要に関する講義を行う。 各学科で、5回程度の講義を担当し、オムニバス形式のセミナーを開催する。 担当教員が資料等を用意して、それに従って講義を進める。 (オムニバス方式　全１５回) (8 三谷　泰浩／５回) 防災・減災、地球環境問題、社会資本整備と国際貢献、土木の魅力など (183 柳原　大輔／５回) 私たちの生活と船舶海洋工学の関わり、海洋・地球科学における船舶の貢献、海洋の環境と探査、海洋エネルギーなど (133 辻　健/５回) エネルギー資源および鉱物資源の現状および環境に優しい資源開発技術について	オムニバス方式
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造力学Ⅰ	力のつり合いだけで断面力を求めることができる静定ばりや静定トラスを対象に、部材内に生じる断面力(軸力、せん断力、曲げモーメント)や変形量を求める方法を学ぶ。(*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造力学Ⅱ	構造解析の基本原理とその適用法を修得して、以下に示す不静定構造を解く能力を養うことを目的とする。仮想仕事の原理、Castiglianoの定理や最小仕事の原理などを理解して、不静定のはり、トラス、ラーメンなどの構造やそれらの複合構造を解くことができること。(*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地震工学	構造物の長大化や複雑化に伴い、都市防災における地震工学の役割は重要度が増してきている。このような現象を理解するためには、その基礎となる振動学に関する知識の修得は技術者及び研究者にとって必要不可欠である。 本講義では、土木工学で必要な振動学の基礎を段階的に身に着けたのち、地震の発生メカニズムや震害例に関して学び、耐震設計の基本事項及び設計に関わる解析・評価手法の基本を修得する。(*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	構造解析学	はりやトラス、ラーメン構造物をコンピューターを利用して構造計算することを目的とする。具体的には、マトリックス構造解析や有限要素法の基礎理論を学び、剛性マトリックスの作成方法を学ぶ 。(*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木材料学	社会基盤施設を構成する鋼材やコンクリート、その他の材料の様々な性質について理解する。社会基盤諸施設を構成する主要材料は、鋼材とコンクリートであり、構造物の品質はコンクリートの品質に大きく影響される。コンクリートは、その使用材料や配合等により、多種類にわたり、多様な性質を有している。このため、構造物の設計施工にあたり、コンクリートに関する知識は必要不可欠であり、要求される耐荷力や耐久性を満足するコンクリートを製造するための基本的な考え方を身につけることが必要となる。また、最近特に問題となっている環境保全を鑑み、木質材料などの自然材料についてもその基礎を習得する。(*国際コースでも開講)	
専攻教育科目	学科・専攻科目	コンクリート構造工学Ⅰ	鉄筋コンクリート(RC)およびプレストレストコンクリート(PC)の各種荷重作用下での力学的特性について修得することを目的とする。RCおよびPCの原理、曲げモーメントを受けるRC部材の曲げ応力度、ひび割れ幅、たわみ、曲げ耐力の算定法について学ぶ。(*国際コースでも開講)	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	コンクリート構造工学Ⅱ	鉄筋コンクリート（RC）およびプレストレストコンクリート（PC）の各種荷重作用下での力学的特性について修得することを目的とする。RC部材のせん断耐力や曲げと軸力を受ける場合の耐力の算定法、および、構造細目について学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	鋼構造工学	鋼橋をはじめとする鋼構造物の単一部材の引張、圧縮、曲げなどに対する強度設計や部材相互の接合法についての基本的な考え方を身につける。特に、構造設計法が許容応力度設計から性能照査型（限界）設計に移行しつつある現状においては、抵抗強度を正しく評価できる基礎的知識を習得すると共に、設計・製作技術者としての倫理観についても身につけることが必要である。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	維持管理工学	高度経済成長期に建設された構造物において、各種の劣化が認められるようになり、今後さらに長期間供用していくためには、適切な維持管理が必要である。既存構造物の維持管理を正しく行うことのできる土木技術者が今後必要とされている。構造物の維持管理を行っていく上で求められる、劣化機構に関する基礎知識、非破壊検査、破壊検査に関する基礎知識、補修、補強に関する基礎知識を習得することを目的とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地盤力学Ⅰ	人間社会が活動を続け発展していくために必要な生活基盤施設、産業経済基盤施設、国土環境保全施設などの社会基盤施設は全て地盤に支えられている。これらの施設を安全かつ合理的・経済的に建設し、その機能を十分に発揮させるためには、それを支える「基礎としての地盤」と「材料としての土」の特性を適切に理解し、それらを科学的に取り扱うことが重要である。地盤は自然の生成物であるために多様で複雑な特性を有している。 この講義では、主として、１．地球の歴史と関連づけた土の生い立ちが理解できること、２．土の基本的性質を理解し、その基本的物理量を計算できること、３．地盤内の水の形態と挙動を理解し、ダルシー則と透水係数を用いて地盤内の透水量や浸透力の計算ができること、４．二次元定常浸透問題の流線網による図式解放が理解でき、使えるようになること、５．有効応力の概念を理解し、地盤力学の諸問題に適用できること、６．土の圧縮、圧密現象とテルツァーギの圧密理論を理解し、地盤の圧密沈下の計算に活かせること、を目指す。また、技術者の倫理について、地盤工学にかかわる事例を通して、考える。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	地盤力学Ⅱ	土木構造物を設計・施工するにあたっては、その基礎を支える地盤の変形および破壊、地盤内の荷重伝達、地盤と構造物の相互作用等について、基本的な考え方を理解する必要がある。この講義では、地盤を構成する土要素のせん断強さについて一般法則を理解するとともに、地盤の破壊現象ならびに土圧、支持力に関する解析法の基礎的知識を身につけることを目的とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	応用地盤工学	本講義では、地盤力学第１と第２で学習した内容を基に、土工、斜面安定、土留め工、地盤基礎、トンネルおよびダムなどを対象として、地盤構造物や地中構造物の設計の考え方、設計基準、設計法および施工法などに関して学習する。具体的には、地盤力学第１と第２で学習した地盤の工学的性質、地盤内応力、土圧、せん断、透水、圧密および支持力の知識を活用して、以下の内容を習得する。 １．土や岩盤などを堀り、運搬し、盛固める土工の計画・管理ができる。 ２．斜面災害の分類ができ、斜面の安定計算、土留めおよび擁壁の設計ができる。 ３．直接基礎や杭基礎などの基礎構造物の設計法が説明でき、適切な地盤改良工法を提案できる。 ４．岩盤力学の知識・専門用語を理解し、トンネルなど地中構造物の設計や施工法が説明できる。 ５．ダムのような大型構造物の設計・施工法が説明できる。 （*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	社会基盤計画学Ⅰ	社会基盤整備を進めるに当事者として必要な、経済、財政、行政、社会に関する基礎知識を習得する。社会資本整備の歴史的経緯を踏まえ、今日的な課題を、国土計画の観点から、工学的視点を踏まえ理解する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	社会基盤計画学Ⅱ	社会基盤整備を進めるに当事者として必要な、経済、財政、行政、社会に関する基礎知識を習得する。社会資本整備の歴史的経緯を踏まえ、今日的な課題を、地域計画、都市計画の観点から、工学的視点を踏まえ理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	まちづくり・地域づくり概論Ⅰ	まちづくり・地域づくりの動きの着実な全国的広がりの中で、土木技術者がそれらに参加する場面は確実に増大しつつある。そうした社会状況に鑑み、本講義では九州を中心に全国多数の事例を取り上げ、土木技術者が理解しておくべき「地域づくり」の基礎的な素養を学ぶことを目的としてる。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	まちづくり・地域づくり概論Ⅱ	まちづくり・地域づくりの動きの着実な全国的広がりの中で、土木技術者がそれらに参加する場面は確実に増大しつつある。そうした社会状況に鑑み、本講義では九州を中心に全国多数の事例を取り上げ、土木技術者が理解しておくべき「まちづくり」の基礎的な素養を学ぶことを目的としている。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	計画数理	土木計画は、自然、社会、産業経済上の環境問題を内包し、個人の思考や行動にまでも立ち入る。従って、計画数理は、社会システムの分析・評価手法に中心をおくものとなり、情報処理や現象分析、予測に必要な現象システムのための数理と最適解の発見、代替案の評価など評価システムのための数理とに大別される。本講義では前者に含まれる分散分析、重回帰分析、待ち行列理論、線形計画法、ネットワーク理論の基礎を修得する。あわせて、演習や課題を通じて工学問題の解決能力を養う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	都市計画	基本的な経済学を使って、都市・環境の問題を解決するための政策について自ら考える力を身につけることを目標とする。授業では経済学と計量的手法の初歩を学び、公害などの環境問題や交通渋滞などの都市の諸問題に応用し、自ら考え、科学的な議論ができる力を重視する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	交通計画学	現代の都市化とモータリゼーションにより、都市は慢性的な交通混を呈している。本講義は、まず、現代の都市で起こる交通現象の調査方法、それにもとづいた交通需要の予測手法、交通ネットワークの計画手法について学ぶ。次に、自動車の交通流の特性、道路交通の運用方法、交通需要のコントロール手法、通過交通を排除する道路網形態などについて学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	交通施設工学	交通機関の運行と交通施設の備えるべき機能・能力を理解し、交通施設の設計・建設についての基本的な考え方を身につける。また、交通施設の設計、建設、管理に必要な知識と、派生する問題を解決する能力を養う。交通機関の建設にかかわる技術者の役割と倫理について考える。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境システム学	環境問題は、人間活動と自然との対立あるいは相互関係の中から発生する。その発生原因、問題と問題とのつながり、問題に対する解決策などを追及していくには、自然科学及び社会科学の幅広い総合的知識と分析力が必要となる。この講義では、環境問題の持つこうした特性を理解し、問題を総合的な視野から考察したり、分析したりするために必要な基本的な原理の理解と思考方法を修得する。建設都市工学が対象とする具体的事業はすべて環境と深いつながりを持つとともに、社会経済とも不可分である。従って、技術のみならず法制度や経済との関連についても基本的事項を修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境基礎学	授業テーマは、環境に関する必要最低限の基礎原理・知識を幅広く修得することである。環境に対する関心は近年ますます拡がり、かつ、深まりつつあるが、当コースの学生にも幅広い環境に関する知識とその考え方を修得することが求められている。建設都市工学には、特に環境に配慮しなければならない領域として、技術者倫理と環境倫理分野、地球環境・地域環境・都市環境・環境システムなどの環境計画分野、水循環や水資源などの資源分野、上下水道・廃棄物処理のような都市施設分野、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音防止のような環境保全分野など、多数ある。この講義では、これらいずれの分野の課題にも対応できるようにするための必要最低限の基礎原理・知識を幅広く修得し、現象の理解および環境問題の解決の上で必要となる基礎能力を身につける。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境保全と開発	授業テーマは、持続型社会構築のための環境保全技術やシステムについて学ぶことである。 環境保全の対象は、大気圏、水圏、土壌圏、生物圏すべてにわたる。これらの環境を護り、創造していくためには、人間活動による環境への負荷を少しでも減らし、環境を改善していくことが求められる。大気・水・土壌の保全に加えて、排気ガス・排水・固形廃棄物を処理し、人間への悪影響を最小化し、生物の多様性を保障できるようにしなければならない。 この講義では開発や環境問題による人や生態系への影響を学び、その影響を回避するための環境保全の基本コンセプトを理解し、さらに、具体的技術や環境管理・環境創造手法およびシステムを習得し、課題解決のための方策を案出できるようになることを目的とする。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	流体力学基礎	地表および地下の流体流動の特性を理解し、安全かつ環境に配慮した地球環境を保持・創造するためには、流体運動のメカニズムに対する知識は不可欠となってくる。以上のような問題を取り扱える工学者を生育するために、本授業では、流体力学の基礎を学習する。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	水理学Ⅰ	地表および地下の流体流動の特性を理解し、安全かつ環境に配慮した地球環境を保持・創造するためには、流体運動のメカニズムに対する知識は不可欠となってくる。以上のような問題を取り扱える工学者を生育するために、本授業では、水理学の基礎を学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	水理学Ⅱ	本講義では、流体の基礎方程式であるナビエストークスの方程式の様々な流れへの応用例を学ぶ。 基礎方程式を力学的に理解し、実際の現象をイメージ出来るようにすることを目標とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	水文学	世界では局地的な水不足や洪水が多発している。近い将来は加速する地球温暖化や人口増加のために、大規模な水不足、大洪水などが予想される。この講義では、将来予測される水に関する問題に幅広く対応するための基本的な水文学的アプローチを理解・習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	河川工学	最近、地球規模の気候変動、水資源や豪雨災害に関連して水循環の一層の理解が要求されている。本講義は、地球上における水循環過程の主要な要素である河川流域を対象とし、水の挙動と種々の水文現象、システム解析としての流出解析、流域管理のための水文予測システムについて基本的な事項を理解し、それらに関する問題を解決するための能力を養うことを目的とする。また、流域システム工学にかかわる技術者の倫理についても考える。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	上下水道及び水資源工学	我々の生活は、上下水道という社会基盤施設の上に成り立っている。安全な水の確保や使用した水を適切に処理していくことが出来なければ、安全な生活をすることが出来ない。どのようにして安全な飲料水を確保し、どのようにして適切に処理し水域環境を保全するかが、快適な国土計画や街造りの要となる。具体的には、重要な社会基盤である上水道および水資源の大枠の構成を理解すること。現在の上水道および水資源の種々の問題点を水循環などの視点より捉え理解すること。上水道を含めた水問題と地球環境問題との関わり合いを理解すること。これらを踏まえ、土木技術者としてこの目標を達成するための知識や考え方を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	海岸水理学	海岸、沿岸および海洋の利用開発、環境の保存や改善、沿岸災害の防止などに関連して、種々の計画を立案し、構造物の設計をおこなうには、そこで生じる水理現象を十分に理解しておくことが必要である。本講義では、主要な自然外力である水の波の理論とその基本的性質、浅海での波の変形、高潮や津波などの長周期の波による水位変動、波の統計的性質や波の推算など、海岸、沿岸および海洋における水理現象に関する基礎的な知識の修得と、それに基づく問題の解決能力を養うことを目的とする。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	沿岸域管理工学	沿岸域とは海と陸が接する場である。沿岸域管理工学の授業では、ダイナミックな海洋の自然と、人間社会の安心安全や経済活動をどう調整して、海の恵みを受けながら豊かな社会を形成するかを考える。 沿岸域の物流、開発、観光、防災、環境保全などの多様な利用、保全について、科学技術や自然と社会の接点に注目しながら学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木と社会セミナーA	（概要） 「土木と社会セミナー」は、学生自らが、社会人あるいはCivil Engineer ・土木技術者として必要な問題意識を認識し、その解決方法を学ぶことができるよう、Civil Engineering・土木工学 だけではなく、その関連領域における最近の話題を取り上げる。実務家や専門家から解説していただくセミナーも交えて授業を実施する。ものの見方や考え方、価値観の異なる多様な人との交流も目的としている。セミナーAでは、「まちづくり」について学んでいく。 （オムニバス方式・共同(一部)　全７回） （21 樋口 明彦、20 林　博徳／１回） オリエンテーションを行う。 （21 樋口 明彦／３回） 住民参加の意義や地域づくりの仕組みなど「まちづくり」の基礎に関する講義と演習を行う。 （20 林 博徳／３回） 「まちづくり」の実践事例に関する講義と演習を行う。	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木と社会セミナーB	（概要） 「土木と社会セミナー」は、学生自らが、社会人あるいはCivil Engineer ・土木技術者として必要な問題意識を認識し、その解決方法を学ぶことができるよう、Civil Engineering・土木工学 だけではなく、その関連領域における最近の話題を取り上げる。実務家や専門家から解説していただくセミナーも交えて授業を実施する。ものの見方や考え方、価値観の異なる多様な人との交流も目的とている。セミナーBでは、「ものづくり」について学んでいく。 （オムニバス方式・共同(一部)　全７回） （21 樋口 明彦、20 林 博徳／１回）（共同） オリエンテーションを行う。 （21 樋口 明彦／３回） 実際の道路や橋梁、河川などをつくる土木分野の「ものづくり」の基礎に関する講義と演習を行う。 （20 林 博徳／３回） 「ものづくり」の実践事例に関する講義と演習を行う。	オムニバス方式 共同(一部)
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木と社会セミナーC	（概要） 「土木と社会セミナー」は、学生自らが、社会人あるいはCivil Engineer ・土木技術者として必要な問題意識を認識し、その解決方法を学ぶことができるよう、Civil Engineering・土木工学 だけではなく、その関連領域における最近の話題を取り上げる。実務家や専門家から解説していただくセミナーも交えて授業を実施する。ものの見方や考え方、価値観の異なる多様な人との交流も目的としている。セミナーCでは，「国際連携や起業家精神」について学んでいく。 （オムニバス方式・共同(一部)　全７回） （21 樋口 明彦、20 林 博徳／１回）（共同） オリエンテーションを行う。 （21 樋口 明彦／３回） 土木分野の「国際連携や起業家精神」の基礎に関する講義と演習を行う。 （20 林 博徳／３回） 「国際連携や起業家精神」の実践事例に関する講義と演習を行う。	オムニバス方式 共同(一部)
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木地理学	土木学の基礎として地理学を学ぶ。大地の形である様々な空間スケールの地形、さらにその時間的変化への知識を得、理解を深める。気象により環境、生態系が形成され、そこに人類が居住してきた。経済活動の盛衰、環境へのインパクト、災害、環境問題や異常気象の発生と克服、地球規模・長期の気候変動への適応などを、地理学的知見で読み解けるような理解力を養う。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木エンジニア史	主に明治維新以来の日本の国づくり、地域づくりを支えたシビルエンジニア達はどのような時代をどのような思いで走り抜けたのか、土木技術や土木構造物は何を目指しどのように発展してきたのかについて、当時の当時の手描き図面や逸話に触れながら勉強する。彼らの生きざまを通じて、これからの時代を担う皆さんの世代が目標とすべき技術者像や技術者倫理について考える機会を提供する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境と防災A	（概要） 土木工学科で履修する土木技術、土木工学が「環境」と「防災」にどのように関 係するのかを実際のプロジェクトをもとに紹介することを通して、「環境」と 「防災」に関する知識の重要性と社会ニーズを認識させ、土木系技術者・研究者の役割・重要性および土木系技術者・研究者の魅力について講義する。毎回の講 義で各テーマが完結するオムニバス形式のセミナーを開催する。本科目では、” 環境”に関する講義を行う。 （オムニバス方式・共同(一部)　全７回） （15 梶田 幸秀、19 中山 裕文／１回）（共同） オリエンテーション （15 梶田 幸秀／３回） 自然現象（地震・火山の噴火，大雨・少雨，台風など）の発生により，人間社会の生活環境が受けるインパクトについて考える。 （19 中山 裕文／３回） 日常における廃棄物問題，上下水道整備（衛生問題），生態系など，身の回りの環境問題の現状を学び，その対策について考える。	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	環境と防災B	（概要） 土木工学科で履修する土木技術、土木工学が「環境」と「防災」にどのように関 係するのかを実際のプロジェクトをもとに紹介することを通して、「環境」と 「防災」に関する知識の重要性と社会ニーズを認識させ、土木系技術者・研究者 の役割・重要性および土木系技術者・研究者の魅力について講義する。毎回の講義で各テーマが完結するオムニバス形式のセミナーを開催する。本科目では、” 防災”に関する講義を行う。 （オムニバス方式　全７回） （15 梶田 幸秀、19 中山 裕文／１回）（共同） オリエンテーション （15 梶田 幸秀／３回） 自然現象（地震・火山の噴火，大雨・少雨，台風など）の発生により，橋梁，トンネル，港湾施設などの社会基盤施設が受ける影響について学び，その対策を考える。 （19 中山 裕文／３回） 自然災害発生時における廃棄物問題，ライフライン問題（水道・電気・ガス），緊急輸送道の確保など，生活環境の変化への対応について，現状を学び，その対策について考える。	オムニバス方式 共同(一部)
専攻教育科目	学科・専攻科目	データサイエンス	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では，特に，土木工学で必要となるデータ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	景観学	戦後の復興から高度成長を経て最近まで、わが国における社会基盤の整備は「開発」という概念で簡略化され、「環境」や「景観」などの概念とは対極にある相容れないものであるとの常識が存在していた。しかし、わが国もようやく成熟社会への移行期に入り、社会の意識も大きく変わりつつあるなか、社会基盤整備を取り巻く環境は、これまでのような「開発」か「環境」か、という対立的な構図から、「自然や地域の風土を大切にしながら必要な社会基盤の整備を進めていく」という協調的な構図に180度切り替えることが求められている。どうすれば巨大な土木構造物を自然のなかにうまく溶け込ませることができるか、地域の風土にしっくりと馴染む橋の姿とはどのようにすれば描き出せるのか、市民の思いを社会基盤整備のなかでどう活かしていけばよいのか、美しい山並みや田園の風景を過剰な開発から守るにはどのようなルールを設ける必要があるのか・・・この講義では、様々な視点から、わが国の美しい「風景」をいかに残し・修復し・創造していくかについて学生の皆さんと考えていく。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	生態工学	人類はこれまでに自らの手で多くの自然環境を消失させ、その勢いは現在も止まっていない。自然資源の持続可能な利用のためには、現状把握や原因究明を進める必要がある。特に、生物多様性の保全策や生物生息地の自然再生は重要な解決手段である。里山や里海など人間の働きを前提としてきた環境の維持や活用も重要である。授業では、特に生態学の基礎、生物多様性の考え方、生態工学的視点による自然再生について学ぶ。身近な伊都キャンパスの動植物や生態系から始め、山から海までの物質循環と生息地、物理環境と生態系との対応への理解を進める。工学系の学生が生態系と人間活動の関係を実地で判断できる基礎の習得を行う。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	合意形成論	社会資本整備時には多様な価値観を尊重し、自然環境の保全や持続的な利用を保ちながら最上の解を探る必要がある。現場では、利害調整や社会的な摩擦の回避や軽減が必要となっている。本講義は社会資本整備時の合意形成の基本的な考え方、合意形成の場の設定、ワークショップ（WS）のデザインなどの方法論を演習しながら学ぶ。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木実践教室A	講義で学習する項目や関連する内容について、自ら実際に体験することで、土木工学に関する様々な専門知識についての理解を深めることを目的する。地盤や構造物を構成する要素や材料に目を向け、それらの性質や利用の仕方について体験的に学びます。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木実践教室B	講義で学習する項目や関連する内容について、自ら実際に体験することで、土木工学に関する様々な専門知識についての理解を深めることを目的する。自然界における原理・現象に目を向け、それらの性質や利用の仕方について体験的に学びます。（*国際コースでも開講）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科・専攻科目	測量学・実習	この講義では、測量の基礎的な知識の習得、さらには、測量に必要な各種の器械器具（ﾚﾍﾞﾙ・ﾄﾗﾝｼｯﾄ・光波など）の取り扱い方や種々の測定法に関する基本的な技術と計算法を習得するとともに、近年の最新の測量技術であるリモートセンシング、ＧＰＳ測量、地理情報システム（GIS）などの応用測量について学び、測量に関する理解を深める。なお、卒業後に測量士および測量士補の資格を取得するためには、本講義の単位を取得しておかねばならない。（*国際コースでも開講）	講義35.5時間 実験・実習32時間
専攻教育科目	学科・専攻科目	基礎土木工学演習	建設都市工学コースにおける基礎力学科目である構造力学・地盤力学・水理学の3科目についての演習を行う。また、土木工学に関する特別講演を1回開催する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロジェクト・ものづくり	構造力学や土木材料学などの講義で学んだことを基礎として、構造物の計画、設計および施工に関する理解を深めるため、「ものづくり」に関する実習を行う。幾つかのグループに分かれて実習を行う。与えられた条件で製作を行う中で、課題を発見し、それを解決するための方法、知識、コミュニケーション能力を養う。	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	プロジェクト・まちづくり	本来のまちづくりは、地域住民が主体となって実施され、長期にわたるのが普通である。本講義では、限られた時間の中で、地元ヒアリングを出発点に、指定された特定のテーマについて考え、地域の将来に寄与するアイデアをグループでまとめる作業に取り組み、その成果を地域の方々に提案し意見を伺うことを通じて、まちづくりの入り口部分を実体験する。	共同
専攻教育科目	学科・専攻科目	土木工学総合演習	土木工学に関連する様々な職業、キャリア、働き方を学ぶとともに、自分の進路や将来について考える。従来からの土木工学の範囲のみならず、新しい分野を切り開いている社会人や近年注目されているプロジェクトに関わっている技術者を講師陣として招き、講義をしていただく。 この授業では、土木技術者としての進路やキャリアを自分で思い描くことにより、残された大学生活での目標や課題を再認識する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅰ	コンピュータの成り立ち、電子回路、アプリケーション、について理解をすることを目指す。まず、コンピュータの歴史とアーキテクチャの基礎を概説し、次にハードウエアアーキテクチャとソフトウェアアーキテクチャについて学ぶ。その後、コンピュータの応用を学習し、電子情報の基礎を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電子情報工学基礎Ⅱ	コンピューターを形成する半導体における物理現象から、電子デバイスの動作原理とアプリケーションについて理解をすることを目指す。まず、物性物理の礎となる電子現象の基礎を学び、次にその機能を利用した半導体素子、具体的にはトランジスタからオプトエレクトロニクスについて学習する。次にこれら素子を用いた電子回路・増幅回路、ディジタル回路、半導体集積回路、を理解し、電子情報の基礎を包括的に学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	機械工学大意第一	現代の社会生活は多種多様な機械に支えられており、機械に関する基礎 知識を学び機械技術を利用することは、工学を専攻する上で必要不可欠である。この講義では機械工学のうち、機械力学の基礎とそれに基づく機械設計理論を学ぶとともに、機械を構成する機械要素および機械製作法に関する基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅰ	電気・電子工学の基礎となる電磁気、電気回路について概説する。まず、基礎的な電磁気学（電気と磁気、電流と磁界）を学ぶ。 次に、各種電気回路（抵抗回路、回路素子、交流回路、回路に関する諸定理、二端子対網、三相交流回路、過渡現象）を理解するとともに解析手法を学ぶ。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	電気工学基礎Ⅱ	電磁気、電気回路を基礎とし、電気計測、制御の基礎について概説する。電気計測では電気諸量（電流・電圧の測定、抵抗・容量・インダクタンスの測定、電力の測定、位相・周波数の測定など）の測定手法について学ぶ。 最後に応用ともなる制御（システムとモデル、伝達関数とブロック線図、周波数特性、安定性など）について学習する。（*国際コースでも開講）	
専攻教育科目	学科・専攻科目	工業爆薬学	土木・鉱山等に使用されている産業用火薬類に関する知識及び施工使用 例を習得する。具体的には、以下の様な項目について授業を行う。 ・火薬類の歴史、種類と分類、火薬類取締法 ・火薬類の性状、感度、性能及びそれらの試験法 ・発破の概念と基本的な工法及び環境問題	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	卒業研究	土木工学卒業研究	卒業研究は研究の全プロセスを通して「研究を通した教育」を行うことにより、学生に「新しい知識の獲得の仕方」を学び取らせるとともに、「社会のリーダーとしての素養」を身に付けさせる。研究課題設定の根拠・意義、関連資料の調査・分析、実験・解析等の計画・実施、結果の考察、成果の発表・討議という卒業研究のプロセスに、学生を主体的に参画させ、取組ませることによって、自分の知らない知識を自らの力で獲得し、新しい知識を発見する方法を学び取らせる。また、その過程を通して、社会が要求する様々な課題、すなわち、必ずしも解が一つでない課題や最適な解を出すことが難しい課題等に対して、専門分野の知識・能力だけでなく、種々の学問・技術・情報を利用・統合し、能動的かつ論理的な思考の下で、実現性のある解を見つけ出していくために必要となる知識・能力を身に付けさせる。したがって、学生は、主体的に卒業研究に取り組むことによって、課題探求能力、既存成果を分析・活用する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、論理性、創造性、応用力、協調性、計画性など、「新しい知識の獲得の仕方」や「将来の社会のリーダーとして必要な素養」を身に付けることが、到達目標となる。（*国際コースでも開講）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部建築学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目		課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション１	アカデミック・ライティングの基礎となる５段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・プロダクション２	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション１/２」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。 クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要な表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩA	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ＩB	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ＩA、ＩBで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティークⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ＩB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の４技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の４技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＡ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ＩＢ	「ロシア語ＩＡ」にひきつづいて、初級レヴェルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＡ	「ロシア語ＩＡ」「ロシア語ＩＢ」をふまえて、基礎レヴェルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡＢ	「ロシア語ⅡＡ」にひきつづいて、基礎レヴェルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レヴェル文法を取得した学生を対象とした中級レヴェルの授業である。本格的なテクストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レヴェルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ＩB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ｉ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ＩB	本科目では「スペイン語IA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ＩA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ＩA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ｉ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という４技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ｉ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Beginners B	Integrated Courses：Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Intermediate 2B	Integrated Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた４技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Pre-Advanced B	Integrated Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses：Advanced B	Integrated Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 1B	Kanji Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses：Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2A	Kanji Courses：Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Elementary 2B	Kanji Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Intermediate B	Kanji Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 1B	Kanji Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Intermediate 2B	Kanji Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses：Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Pre-Advanced B	Kanji Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses：Advanced B	Kanji Courses：Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 1B	Speaking Courses：Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Elementary 2B	Speaking Courses：Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的でさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Intermediate B	Speaking Courses：Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 1B	Speaking Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Intermediate 2B	Speaking Course：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Pre-Advanced B	Speaking Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話をすることができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses：Advanced B	Speaking Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 1B	Writing Courses：Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Intermediate 2B	Writing Courses：Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など多様な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Pre-Advanced B	Writing Courses：Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses：Advanced B	Writing Courses：Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部１年の皆さんには、時にはなかなかに咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目		芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学（sociology）は、社会の（socio-）論理（-logy）を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理（法則）が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの見方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりは学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりと深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】　法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉学で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に１変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および２変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に２変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、２変数の偏微分、２重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、２変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅰでは、主に１変数函数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、１変数および多変数の函数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に２変数函数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換） 【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。 【キーワード】 ３次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。 【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅠ	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、 微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ＡⅡ	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性(線形空間、 線形写像)の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ｂ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、１変数及び多変数函数の微分法及びその応用、１変数及び多変数函数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ａ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ａでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学Ｂ	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Ｂでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 （高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の３法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	力学基礎に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	電磁気学基礎に対応した演習科目。 電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその１例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。 （高校物理既履修者対象。）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	熱力学基礎に対応した演習科目。 熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ａ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ａでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展Ｂ	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Ｂでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α線、β線、γ線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α壊変、β壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅰ	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅰでは、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学Ⅱを履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学Ⅱ	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学Ⅱでは、無機物質化学Ⅰに引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。 本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例 【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性ついて概観する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	【キーワード】 ルイス構造，電子対反発モデル，波と粒子，前期量子論，シュレーディンガー方程式，波動関数 【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し，化学結合において電子対が重要な役割を担うことと，電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後，電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後，基礎化学結合論Ⅱを履修することで，化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	【キーワード】 原子軌道，水素原子，多電子原子，分子軌道，混成軌道 【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて，化学結合を現代的な立場から解説する。まず，水素原子について，原子軌道を特徴づける量子数，収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に，複数の電子をもつ一般の原子について，原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに，二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて，二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて，三原子以上の分子など，さらに発展的な内容も用意されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	【キーワード】 気体の法則、熱力学第１法則、熱力学第２法則、エントロピー 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第１法則、第２法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化 【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学 【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から２１世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原理に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅰ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学Ⅱ	【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸 【概要】 基礎生物有機化学Ⅰで学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅰ	【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、 【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学Ⅱ	【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸 【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ａ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・ 生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学Ｂ	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・ 細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・ 遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。 具体的な内容は以下のような項目からなる。 ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識してもらう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という３つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	高等学校での地学の履修率がほとんど０％に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。 本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまの三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。 本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち１「圧縮」： 情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち２「自動誤り訂正」： 情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち３「暗号」： 情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原理について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウエアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	自然科学総合実験では、全理系学部に共通した内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記６テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ｉ－１ 重力加速度の測定 物理学Ｉ－２ 磁束密度の測定 化学Ｉ－１ 炎色反応と原子スペクトル 化学Ｉ－２ 金属イオンの系統分離 生物科学Ｉ－１ 顕微鏡の使用法と動物組織の観察 生物科学Ｉ－２ 植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験の基本的手法を学ぶ。 物理学Ⅱ－１ 物理学実験 地球科学Ⅱ－１ 地球の形成と構成物質 化学Ⅱ－１ アセチルサリチル酸の化学合成 化学Ⅱ－２ ダニエル電池の起電力 生物科学Ⅱ－１ アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 生物科学Ⅱ－２ 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められてる。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。 ＊アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常の健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されてる。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩA	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ＩB	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習IBにおいては、IAとは異なるコースを設置する。 なお、病気やけが、障害などの理由により、通常の身体運動科学実習ＩBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅴ	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ａ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ａでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ｂ	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Ｂでは、主として人文社会科学的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む　―モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 （参考）2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学校まで遡る。140年を越える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in ″Law in Everyday Life A″, students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技能の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性(視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能)、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を２０名までとする。 自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ａ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学Ｂ	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことそ重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する 科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法律学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」（test theory）と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり　など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的変化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグルーバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios（life、生命、生活）とラテン語ethica（倫理）、ギリシャ語（習性的、習俗的）を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、 生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	『科学の進歩と女性科学者Ⅱ』では『科学の進歩と女性科学者Ⅰ』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合って、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリアンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら，現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の９研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバリゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボⅠ	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである（Drucker、 1993）。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅰ（軌跡編）では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅱ（現在編）では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。Ⅲ（展望編）では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ａ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ａでは、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門Ｂ	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。 先端技術入門Ｂでは、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることにより、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史Ｂ	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原理、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を１つ１つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎―制度と経済―	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テクストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅰ	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施するようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティックス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探求する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本－その歴史と現在－	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。本講義では、そのようなローマ法がいかに成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離して行ったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基いた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、“描きながら考える”ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理学的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは？」「医療倫理とは？」「薬とは何か？」「将来何を目指すのか？」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下ＩＣ）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ＩＣの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ＩＣを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅠにおいては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケッティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケッティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ａ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、 分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学Ｂ	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＡ	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ＩＢ	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＡ	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡＢ	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡＢでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目		工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されうるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目		データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目	建築概論	（概要） 建築学は建築に関わるさまざまな知識を統合する総合学問である。本講義は、建築計画、建築構造、建築環境、都市防災、都市計画の側面から建築を考える建築学初学者のための導入科目である。本講義では建築学の全体系を理解するために、関連する人類の文化、歴史、社会の総合的な基礎知識を修得し、現代社会と建築の関係性や地球環境問題に関する幅広い理解を通して、建築・都市において取り組むべき課題を考究する。 （オムニバス方式　全１６回） （15 鶴崎　直樹／１回）地域再生デザイン学 （3 趙　世晨／１回）都市計画学 （7 黒瀬　武史／１回）都市設計学 （2 神野　達夫／１回）都市環境リスク学 （14 清家　規／１回）災害情報管理学 （1 尾崎　明仁／１回）健康建築環境学 （8 古賀　靖子／１回）建築照明学 （13 住吉　大輔／１回）持続建築エネルギー学 （5 堀　賀貴／１回）建築史学 （12 末廣　香織／１回）建築意匠論 （11 志賀　勉／１回）持続居住計画学 （4 蜷川　利彦／１回）建築生産学 （16 松尾　真太朗／１回）持続型耐震構造学 （10 佐藤　利昭／１回）木質構造学 （6 山口　謙太郎／１回）循環建築構造学 （9 小山　智幸／１回）建築材料学	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目	特別プログラム	本授業は、教員が設定したカリキュラムや課題に取り組む一般の講義科目と異なり、学生自ら建築・都市について主体的に学ぶ機会を提供することを目的としている。AIの進化や人口減少に代表されるように、建築・都市を取り巻く社会は大きく変化しており、本授業では「自ら目標を設定し学ぶ力」を涵養する。また、建築は非常に多岐にわたる分野から構成されており、４年生以降の進路や将来の職業を考える契機となることを期待している。履修学生は、短期留学型、インターンシップ型、スタジオ型、自由研究型の履修プログラムの中から1つを選択する。	講義／演習6時間 実習18時間
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目	情報処理概論	実務や研究で使用できるコンピューターの技術、およびプログラミングの基本の習得を目的とする。講義資料に従って実際の操作内容やコードを教授する。また、パソコンの操作方法とプログラミングを習得するために毎回レポート課題を示す。受講者は各自パソコンを操作しながら、授業内容を習得し、授業の中でレポートを作成する。	講義16時間 演習8時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目	建築学研究序説	（概要） 建築学は非常に幅広い専門分野を包含するため、多様な建築学の各専門分野に対して、自己の適性を見極め、進路を決定することは必ずしも容易でない。本授業では、ゼミナール形式の授業を通して、各専門分野の先端的な研究情報を提供し、建築学研究、就職、進学時における進路判断の機会を与える。また、大人数の授業では困難な、より専門的な事項の分かりやすい解説、質疑応答と討議を行う。受講生は、先端的研究と最新の専門分野のトピックスや、各研究室で精力的に進めている研究内容を題材として、建築学関連研究の一端をかいま見ることができる。受講者は、各教員によるオムニバス方式の授業を受けた後、各研究室で並行して開講されるゼミナールの中から、1つ以上を選択する。 （オムニバス方式　全１６回） （5 堀　賀貴／0.5回）　建築史学 （1 尾崎　明仁／0.5回）健康建築環境学 （3 趙　世晨／0.5回）　都市計画学　（4 蜷川　利彦／0.5回）建築生産学 （2 神野　達夫／0.5回）都市環境リスク学 （6 山口　謙太郎／0.5回）循環建築構造学 （8 古賀　靖子／0.5回）建築照明学　（12 末廣　香織／0.5回）建築意匠論 （11 志賀　勉／0.5回）　持続居住計画学 （13 住吉　大輔／0.5回）持続建築エネルギー学 （7 黒瀬　武史／0.5回）都市設計学　（9 小山　智幸／0.5回）建築材料学 （14 清家　規／0.5回）　災害情報管理学 （16 松尾　真太朗／0.5回）持続型耐震構造学 （10 佐藤　利昭／0.5回）木質構造学　（17 木島　孝之／0.5回）建築史学 （19 志波　文彦／0.5回）建築計画学　（21 箕浦　永子／0.5回）都市史学 （18 重藤　迪子／0.5回）地震工学　（20 南部　恭広／0.5回）木質構造学 （5 堀　賀貴、1 尾崎　明仁、3 趙　世晨、4 蜷川　利彦、2 神野　達夫、6 山口　謙太郎、8 古賀　靖子、12 末廣　香織、11 志賀　勉、13 住吉　大輔、7 黒瀬　武史、9 小山　智幸、14 清家　規、16 松尾　真太朗、10 佐藤　利昭／６回） 各研究室で実施するゼミナール	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目	法規科目	建築法規	わが国の建築行政と建築関連法規の体系を理解し、社会現場において建築物の設計・監理の法規的対応ができるよう、建築関連法規の基礎を学ぶための授業である。	
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ａ	建築設計のために表現技術を学ぶ演習科目であり、家具などの作品分析を通してデザインされたものにおける機能性と美学の関係を理解する。スケッチ・手描き図面・写真などを用いて、2次元・3次元表現の基礎技術を習得する。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ｂ	建築設計のために造形と単位空間を学ぶ演習科目であり、与えられた素材を用いて、造形物としての単位空間をグループでデザインし、実際に制作する。ものづくりの過程で、材料の特性やものの成り立ちを理解し、創造性を養う。また、グループ作業を通してリーダーシップや役割分担、段取りを学ぶ。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ｃ	建築設計における企画設計・業務を学ぶ演習科目であり、標準的な敷地と簡易なプログラムを設定した業務系施設の設計課題を解く。CAD等を用いた基礎的な製図技術と基本的な設計手法を習得し、建築におけるスケール感を身につける。最終的には企画設計レベルの図面一式を作成する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ｄ	生活空間を対象に、建築設計におけるコンセプトの立て方を学ぶ演習科目であり、具体的な敷地に対して独立住宅を設計する。具体的な居住者像とテーマを設定し、コンセプトの立て方、建築形態の作り方を学ぶ。最終的にはコンセプトを表現する企画資料、空間のイメージを表現するパース、模型を制作する。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習Ｅ	建築設計における実施設計を学ぶ演習科目であり、建築に用いる材料と構法を理解した上で、建築の計画、環境、構造の各技術を総合し、実施設計の初期レベルの図面と資料一式を作成する。また、既存施設を題材としてコンバージョンの手法を学ぶ。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	都市･建築設計演習Ａ	教育系施設を対象に、都市・建築設計のプログラムを学ぶ演習科目であり、学校や図書館などの教育系施設に関して、現代の社会状況を反映した企画案を作成する。事例の調査分析と課題抽出を行い、それに基づいてプログラムを組み、分かりやすく説得力のある企画提案書を作成する。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	都市･建築設計演習Ｂ	コミュニティと生活空間を対象に都市・建築設計を学ぶ演習科目であり、コミュニケーションを意識した生活空間を持つ建築を設計する。現代社会の課題に寄り添いながら、コミュニティの核となる建築のイメージを作り上げる。コンセプトの立て方、空間構成の手法、場の作り方を学ぶ。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	都市･建築設計演習Ｃ	まちづくりの観点から都市・建築設計を学ぶ演習科目であり、設計対象エリアの現況や歴史などを調査し、地区再生や都市デザインに関連した企画設計案を作る。建築単体ではなく、より広い視野で建築と都市の関係を理解し、「ものづくり」だけでなく「ことづくり」を含む提案を考える。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	都市･建築設計演習Ｄ	教員が自由に設定した複数のスタジオから、履修学生が自身の関心に応じて1つのスタジオを選択する。大学院人間環境学府修士課程の設計演習科目と共同の授業であり、大学院生と共同で課題に取り組む。スタジオの課題内容は、芸術・歴史、形態操作、社会的課題、まちづくり、構造デザイン、環境デザイン、3Dテクノロジーなど、多様なテーマや手法を含む。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築環境設備実験演習	（概要） 建築環境学および建築設備学に関する演習と実験であり、建築環境設備基礎Ａ・Ｂ、建築環境設備応用Ａ・Ｂ、建築環境デザインで学習した知識と技術を、演習と実験を通してより深く理解し、環境設計・設備設計へ応用する手法と技術を習得することを目標とする。 実験では、計画の立案、準備、実施、結果の分析を通して、計画立案の方法、センサーの種類や取り扱い、測定結果に含まれる誤差、結果のまとめ方や見せ方、レポートの作成方法などについて学ぶ。 机上演習では、設備設計の手法やさまざまな環境要素に関する計算方法を習得し、環境設計に必要な技術を学ぶ。 （オムニバス方式　全４５回） （8 古賀　靖子／１５回） レポートの書き方、太陽位置と日影の計算、照明計算、屋内光環境測定と評価 （13 住吉　大輔／３０回） レポートの書き方、建築エネルギー評価プログラム、空調負荷計算と空調設備計画、道路交通騒音測定、熱流の測定、室内環境の測定	オムニバス方式 講義17.5時間 演習18時間 実験32時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築環境設備設計演習	（概要） 建築環境デザインの演習であり、建築に関する総合的な視点から、建築環境デザインのための基本的な考え方や手法を習得する。設計課題について光環境、音環境、熱・空気環境、空調設備等の要件と各性能の目標を設定し、それらを満足する省エネルギーで快適な建築空間を実現するための計画と設計を行う。また、提案内容を第三者に的確に伝達するプレゼンテーション技術を習得する。 （オムニバス方式・共同（一部）　全４５回） （1 尾崎　明仁、8 古賀　靖子、13 住吉　大輔／３６回） 温熱・空気環境、光環境、建築設備とエネルギーに関する建築環境設計 （1 尾崎　明仁、8 古賀　靖子、13 住吉　大輔、378 伊藤　隆宏、382 栫　弘之／３回）講評 （378 伊藤　隆宏、8 古賀　靖子／３回）建築計画とプレゼンテーション技術 （382 栫　弘之、13 住吉　大輔／３回）建築設備の設計と実務	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築構造材料実験演習	（概要） 建築構造材料に関する講義および演習で、以下の項目の達成を目標に、各種材料の材料試験、測量演習、梁の曲げ実験や建設現場の見学を行う。 (1) 建築構造材料に要求される性能、およびそれを評価する材料試験の方法、ならびに規格に適するか否かの判定方法を、実習を通じて修得する。 (2) 建築物に要求される構造性能、耐久性能、居住性能を保持するための材料設計を行う能力を身につけて、持続可能な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。 (3)測定における「正確さ」と「精密さ」、精度、有効数字などに関する基礎知識を、実習を通じて修得する。 （オムニバス方式・共同（一部）　全４５回） （6 山口　謙太郎／６回）RC 構造部材の曲げ実験 （9 小山　智幸／２１回） 測量、現場見学、骨材・コンクリートの調合と材料試験 （10 佐藤　利昭／６回）木材のクリープ実験 （18 重藤　迪子／３回）常時微動計測 （20 南部　恭広／６回）鋼材の材料実験 （6 山口　謙太郎、9 小山　智幸、10 佐藤　利昭、18 重藤　迪子、20 南部　恭広／３回）レポート指導、講評	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築構造設計演習Ａ	（概要） 中規模の鉄骨造建築および鉄筋コンクリート造建築、木造住宅を対象とした設計課題を通じて、「建築構法」・「木質構造」・「鉄骨構造」・「鉄筋コンクリート構造」で学習した設計手法を利用した構造設計演習、構造種別横断型の建築構造計画に関する演習、ならびに建築構造物を構造種別によらず小規模なものから大規模なものまで幅広く対象として構造的な特徴を調査・分析する構造分析演習を行い、以下に掲げる項目の達成を目標としている。 (1) 建築の成り立ちを力学的に理解し、建築に力学を応用できる分析力と企画力を修得する。 (2) 建築物に要求される耐震性能と居住性能を保持するための構造設計を行う能力を身につけて、安全な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。 建築構造設計演習Ａでは、鉄骨構造および鉄筋コンクリート構造の構造設計演習を対象範囲とする。 （オムニバス方式・共同（一部）　全２２回） （6 山口　謙太郎／７回）鉄筋コンクリート構造の構造設計 （16 松尾　真太朗／１３回）鉄骨構造の構造設計 （6 山口　謙太郎、16 松尾　真太朗／１回）構造比較、ピアレビュー （6 山口　謙太郎、16 松尾　真太朗／１回）講評会	オムニバス方式 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	設計・実験演習科目	建築構造設計演習Ｂ	（概要） 中規模の鉄骨造建築および鉄筋コンクリート造建築、木造住宅を対象とした設計課題を通じて、「建築構法」・「鉄骨系建築構造（S造）」・「コンクリート系建築構造（RC造）」で学習した設計手法を利用した構造設計演習、構造種別横断型の建築構造計画に関する演習、ならびに建築構造物を構造種別によらず小規模なものから大規模なものまで幅広く対象として構造的な特徴を調査・分析する構造分析演習を行い、以下に掲げる項目の達成を目標としている。 (1) 建築の成り立ちを力学的に理解し、建築に力学を応用できる分析力と企画力を修得する。 (2) 建築物に要求される耐震性能と居住性能を保持するための構造設計を行う能力を身につけて、安全な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。 建築構造設計演習Ｂでは、木質構造の構造設計演習、構造計画演習、構造分析演習を対象範囲とする。 （オムニバス方式・共同（一部）　全２２回） （10 佐藤　利昭／６回）木質構造の構造設計 （4 蜷川　利彦、20 南部　恭宏／５回）構造計画 （10 佐藤　利昭、4 蜷川　利彦、20 南部　恭宏／１０回）構造分析 （10 佐藤　利昭、4 蜷川　利彦、20 南部　恭宏／１回）講評会	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	建築設計計画Ａ	人間の生活・行動・意識と空間との対応関係を基に建築空間を構想するための基礎知識として、建築計画の役割、人間の知覚と行動、単位空間のスケール、人の行動と場所のデザイン、空間の機能と動線に関する基本的事項を解説する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	建築設計計画Ｂ	建築の設計計画に関する以下のテーマについて、社会、経済、技術、美学などとの関連の中で位置づけながら講じる。 1. 建築を含む視覚芸術の歴史的な発展過程 2. 形の持つ論理とデザインの意味 3. 架構と構法の美学、素材とディティール、空間の特性と意味 3. 建築設計の現場から -建築家という仕事 -設計手法と思考方法 -合意形成の方法と社会的評価 授業は、講義だけでなく、映画やワークショップも交えながら進める。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	建築設計計画Ｃ	本講義では図書館と美術館を中心に、施設規模とプログラムの設定方法、ソーニングの考え方と機能の整理、空間のスケールと断面設定、施設種別による計画手法のポイントを中心に講述することで、建築計画の手法についての理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	建築設計計画Ｄ	本講義では学校とホテルを中心に、施設規模とプログラムの設定方法、ソーニングの考え方と機能の整理、空間のスケールと断面設定、施設種別による計画手法のポイントを中心に講述することで、建築計画の手法についての理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	建築設計計画Ｅ	実際の建築物を建てる際には基本計画や基本設計とともに、より詳細な情報を表現する実施設計および実施設計図面が必要となる。そこで本講義では実施設計に関する専門的知識の提供や具体的な建物の空間や部位の実施設計図面の読み取り等を通じて、実施設計図面の表現要素、内容および方法等について理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	住環境計画論	都市居住に関する諸問題を地域の文脈や制度を踏まえて理解し、快適な居住環境づくりに貢献する知識や技術の応用力を養う。本授業では、居住地の住環境改善・保全に関する理論・方法・プロセスについて、各種の事例を紹介しつつ講述する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	建築計画科目	居住文化論	人間の居住によって生まれてきた文化を、その歴史的経緯とそれを成り立たせている社会的背景を踏まえて解説する。建築から集落まで幅広いスケールの居住文化を解説し、具体的には古代の住まいと都城、近世の住宅と城下町、町家、農村住宅、集落等を取り扱う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	都市計画概論	都市設計（アーバンデザイン）に関する基礎的な内容を体系的に取り上げる。都市設計においては、都市空間を構成する各要素の関係性を理解し、区画、街区、地区、都市、都市圏など様々なスケールで都市を捉えることが重要となる。都市デザインは、人間の生活を中心に据えた物的環境の再統合であり、同時に都市空間で発生する様々な活動（非物的環境）と都市空間との融合を目指すものである。本講義では、都市デザインの歴史的な発展を理解し、各時代の計画意図が重なり合った都市を読み解く能力を身に着けるとともに、近年の社会的な変化に対応した新しい都市デザインのあり方についても議論する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	都市設計概論	都市設計（アーバンデザイン）に関する基礎的な内容を体系的に取り上げる。都市設計においては、都市空間を構成する各要素（私空間｜公共空間、 建造物｜街路｜オープンスペース）の関係性を理解し、区画、街区、地区、都市、都市圏など様々なスケールで都市を捉えることが重要となる。都市デザインは、人間の生活を中心に据えた物的環境の再統合であり、同時に都市空間で発生する様々な活動（非物的環境）と都市空間との融合を目指すものである。本講義では、都市デザインの歴史的な発展を理解し、各時代の計画意図が重なり合った都市を読み解く能力を身に着けるとともに、近年の社会的な変化に対応した新しい都市デザインのあり方についても議論する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	ハウジング論	現代日本の多様な住居のあり方を紹介するとともに、それぞれの歴史的経緯とそれを成り立たせている社会的背景を解説する。具体的には、住戸計画の理念と実践、現代の都市住宅、欧米における住宅地計画の理論、日本における集合住宅計画の流れ、コーポラティブ住宅等を取り扱う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	まちづくり概論	（概要） 都市計画や建築計画の分野で重要となりつつある「まちづくり」について総論的に取り扱い、地域社会との対話のなかで都市・建築の専門家として果たすべき役割についても学ぶ。 （オムニバス方式　全８回） （5 堀　賀貴／１回） 歴史的街並み、伝統的文化財を活用したまちづくりのあり方を講じる。 （11 志賀　勉／２回） 住宅地（戸建て、集合住宅）における住民参加によるまちづくりのあり方を講じる。 （15 鶴崎　直樹／２回） 大学がまちづくりの主体として関わり、新たなまちの創出や再生を実現した事例を通じてまちづくりにおける大学の役割や貢献の可能性等について講じる。 （7 黒瀬　武史／２回） 交通事業者や民間の開発事業者と連携した都心部のまちづくりとマネジメントのあり方を講じる。 （21 箕浦　永子／１回） 歴史的な市街地におけるまちづくりを、住民参加、歴史的な市街地の保全と再生の観点から講じる。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	景観設計	都市・建築の具体的々なケーススタディを通じて、景観設計の理論と方法を修得する。具体的には、概論、視点場、視対象、指標、景観の構図、文化的景観、色彩、プロポーション、具体的な景観論争について取り扱う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	都市再生	（概要） 近年の都市計画および都市デザインにおける重要課題である「都市再生」に焦点を当て、国内外の実例を通じて都市再生の領域や役割について学ぶとともに、個別事例の検証により都市再生の理念とそれを実現するプロセスや技術、手法および法制度等の専門的知識の獲得と理解を深める。また、事例の比較により、それらの特徴や問題点を把握し、今後の都市再生のあり方について考察する。 （オムニバス方式　全８回） （15 鶴崎　直樹／５回） 都市再生に関する体系的な知識・制度について、国内外の幅広い事例を挙げて講じる。 （7 黒瀬　武史／３回） 民間事業者による都市再生について、特に国内の具体的な事例を挙げて講じる。	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	都市解析	都市計画分野において、計画立案や将来予測に不可欠な分野である都市解析を総論的に取り扱う。具体的には、都市解析において必要となる都市情報の収集、統計的手法を用いた解析、地理情報システム（GIS）の活用等について講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目	空間メディア	都市計画・都市デザイン分野におけるコンピューターやマルチメディア技術の活用手法と、これらの技術が本分野に果たす役割と意義について、今日の都市問題をテーマとした講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目	世界建築史詳論	（概要） 建築学を学ぶ上で重要な専門的知識である世界の建築について詳しく学ぶ講義であり、芸術、自然科学の成り立ちや文化・社会的背景、あるいは地理的・政治的環境との関係性において建築・都市を構成する多様な要素を総合的かつ具体的に解説する。「語り」としての建築が「純粋芸術」として理論づけられ、「政治」や「都市」と結びつきながら普遍化し、新しく「宗教」と深く結びつき、技芸としての「構造」を発展させ、やがて「人間性」に帰着する経過を詳しく理解する。さらに、現代社会における建築・都市の役割あるいは存在、あるいは「建築家」として社会に関わっていく意義について、歴史的文脈の上で語ることのできる能力の習得を目指す。 （オムニバス方式　全８回） （5 堀　賀貴／７回）西洋建築史 （21 箕浦　永子／１回）東洋建築史（宗教の伝播と建築の変容）	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目	日本建築史詳論	日本建築に限らず建築が社会の産物である限り、建築を分析・理解するには、至極当然ながら、建築と社会構造(政治、経済、軍事等)・風土・文化との関わりを踏まえた考察、つまり、社会史の観点に立った思考が必要である。ここでは、日本建築の技術・意匠・形態について、表層的な編年だけではなく、その構造や変遷の史的意味を社会史の観点から捉える能力を学習する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目	現代建築デザイン	1970年代以降の現代建築デザインの流れについて、社会、経済、国際関係といった背景から解説する。また、実例を題材にしながら、建築の設計手法や建築家の姿勢や取り組み、建築作品の持つ社会的意義について解説する。講義だけでなく、グループワークなども交えながら学生自ら調査、考察、議論を進めることで、建築思潮の流れや、建築デザインが持つ論理性、建築家の仕事の意味についてより深く理解する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目	都市史	（概要） 西洋および日本の都市および都市住宅の発生、形成およびその構造について、文化、社会、経済などの面から歴史的に解説する。 （オムニバス方式　全８回） （5 堀　賀貴／６回）西洋都市・住宅史 （21 箕浦　永子／２回）アジア・日本の都市・建築史	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	環境科目	建築環境設備基礎Ａ	（概要） 建築環境学（光・音・温熱環境）の基礎を学ぶ講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。 （オムニバス方式　全８回） （1 尾崎　明仁／４回） 建築環境設備概論、熱移動の基本プロセス、壁体の熱貫流、日射 （8 古賀　靖子／４回） 視覚の基礎、測光・測色の基礎、明視論	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	環境科目	建築環境設備基礎Ｂ	（概要） 物理音響と建築設備の基礎を学ぶ講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。 （オムニバス方式　全８回） （1 尾崎　明仁／２回） 物理音響の基礎 （13 住吉　大輔／６回） 建築デザインと環境設備、空気調和設備計画、熱源設備、熱搬送設	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	環境科目	建築環境設備応用Ａ	（概要） 建築温熱環境と設備に関連する自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。 （オムニバス方式　全８回） （1 尾崎　明仁／４回） 湿り空気、空気線図、壁体の温湿度分布、表面結露と内部結露 （13 住吉　大輔／４回） 最大負荷計算、空調機の設計	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	環境科目	建築環境設備応用Ｂ	（概要） 建築照明と建築音響に関連する自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。 （オムニバス方式　全８回） （8 古賀　靖子／６回） 照明の質と照明環境性能、人工光源と照明設備、建築色彩計画 （13 住吉　大輔／２回） 建築の音響性能評価、室内音響	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	環境科目	建築環境デザイン	（概要） 建築環境学および建築設備学に関する講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。 （オムニバス方式　全１５回） （1 尾崎　明仁／４回）室内空気質、換気 （8 古賀　靖子／７回）吸音と遮音、照明設計と照明計算 （13 住吉　大輔／４回）温熱環境の評価基準、給水・給湯設備、排水設備、衛生設備	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構造力学基礎	建築構造力学の概要について講義すると共に、その基礎となるニュートン力学、構造物のモデル化、力の釣り合いに基づく構造物の支点反力や部材断面力の算定法に関する講義を行う。 自然の摂理や数理の面から建築の構造を理解し、安全な建築の「構造」を形づくる力を養うための第一歩として、建築構造力学の基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	静定建築構造力学	構造設計では、仮定する外力に対して、経済性や種々の要望を基に合理的な部材断面を決定することになる。 本講義は、これら部材断面の性能を表す基本量となる断面性能を理解し、それを用いた特定の外力下における、部材に生じる応力や構造物の変形を求める知識を習得することを目的とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築材料	建物を構成する要素として不可欠である建築材料の物理的あるいは化学的な性質を体系化し、各種材料が持つ特徴を生かしてこれらを適材適所に使用する方法について講義する。受講生は、建築物に要求される居住性能、耐久性能、および構造性能を発揮するための材料を選択できる能力、地域特有の材料について理解することができる能力、ならびに構造物の耐久診断と対策の立案ができる能力を身につける。具体的には、材料設計を行うための知識と方法、建築の構成材料、構法、施工法を選択でき、その合理性を説明し、具体的な生産に関する知識と技術を身につける。また、材料の3R（Recycle、Re-use、Reduce）の考え方を理解する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構法	（概要） 建築物にどのような性能が必要で、どのようなものから構成され、どのようにできているかについて、主として空間をかたち造る構造材料と構造形式に軸足を置いて解説する。 （オムニバス方式　全１５回） （4 蜷川　利彦／９回）基本事項、構造材料・種別の特徴 （2 神野　達夫／１回）基礎構造 （6 山口　謙太郎／２回）鉄筋コンクリート構造 （16 松尾　真太朗／２回）鉄骨構造 （10 佐藤　利昭／１回）木質構造	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	木質構造	木質構造は、 木造住宅に代表されるように、身近にある構造種別である。本講義は、木質構造に関する基礎知識の習得を目的としたもので、木材・木質材料の力学的な性質から木質構造の造られ方、壊れ方などを学ぶものである。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	鉄骨構造	我が国の建築物の着工床面積の3分の1は鉄骨構造であり、鉄骨構造は低層の住宅や工場、高層のホテルやオフィス、スポーツやイベントのための大空間構造など、幅広い用途に用いられている。鉄骨構造を理解し設計するためには、使用する鉄鋼材料の性質に始まり、部材（梁・柱など）の力学的特性、それらを接合する技術と構造性能、さらにはそれらを統合した鉄骨造骨組の力学性状を理解する必要がある。 本授業では、鉄骨構造による種々の建物の力学的特性を理解し、居住性や耐震性を確保するための構造設計の考え方について学習する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	鉄筋コンクリート構造	（概要） 鉄筋コンクリート構造の特徴を理解させた上で、主要構造部材の力学的性状とその設計法を概説する。 全体の教育目標:鉄筋コンクリート構造の主要構造部材における、外力に対する抵抗機構を理解させ、これらに要求される性能確保のための方法を習得させる。 個別の学習目標:鉄筋コンクリート構造建物が外力を受けると、その構成部材に断面力が生じる。この大きさの算定や評価法を学び、断面力に対する適切な部材設計の手法を理解する。 （オムニバス方式　全１５回） （9 小山　智幸／２回）基本方針、許容応力度の考え方 （322 吉岡　智和／１３回）部材設計、保有耐力、終局耐力	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築施工	建築生産に係ることを全般的に取り上げる。具体的には、建築生産を取り巻く制度、建築生産現場の実状、施工計画・施工管理の手法、各種工事の標準的な実施方法（流れと工事方法）の概要について解説する。授業計画に沿って講義を行う。図・写真を用いて視覚的に解説を行ない、適宜、講義資料を配布する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	不静定建築構造力学	不静定構造物の応力解析について、仮想仕事法を中心とした応力法とたわみ角法、固定モーメント法を中心とした変位法に関する講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築振動学	建築構造物の耐震安全性を評価には建物の地震応答解析が必要となる。本授業により、現行の建物の耐震設計用地震応答解析の基礎理論を習得させる。 （2 神野　達夫）建築物の振動に関わる基礎理論に関する講義 （18 重藤　迪子）建築物の振動に関わる基礎理論に関する演習	共同 講義12時間 演習10.5時間
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構造設計技法Ａ	これまでに学習してきた静定建築構造力学の基本的な知識および考え方を、演習を通じて再確認し、今後の構造系科目（各種構造、構造設計他）のための基礎力を身につける。建築構造設計技法Ａでは、静定建築構造を対象範囲とする。	共同 講義6時間 演習6時間
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構造設計技法Ｂ	これまでに学習してきた不静定建築構造力学の基本的な知識および考え方を、演習を通じて再確認し、今後の構造系科目（各種構造、構造設計他）のための基礎力を身につける。建築構造設計技法Ｂでは、静定建築構造を対象範囲とする。	共同 講義6時間 演習6時間
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築荷重論	（概要） 建築物の構造設計を適切に行うためには、建築物と外力の関係を理解し、建築物に作用する荷重や外力を適切に把握することが重要である。本講義では、建築物の構造設計を行う際に必要となる各種設計荷重を生じさせる現象に関する基礎知識をはじめ、各荷重の内容、特性、ならびにその計算方法について解説する。さらに、具体的な事例を用いた演習を通して、その理解をより深め、設計荷重の算定を行う上で必要な知識ならびに技能を習得させる。 （オムニバス方式　全１５回） （2 神野　達夫／５回）長期・短期荷重、確率・統計、再現期間 （14 清家　規／３回）地震荷重 （18 重藤　迪子／７回）各種荷重算定演習	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築防災	（概要） わが国は、地震や台風の発生頻度が高く、これまでに甚大な災害に見舞われてきた。本講義では、建築物に関わる自然災害や火災の状況、発生要因、防災・減災対策の概要について講義を行う。講義は大きく3部で構成され、第1部（第2回～第8回）では、個別の災害の状況や発生要因、防災・減災対策について、第2部（第9回～第12回）では、通常時、発災直後、応急対応期と時間経過に伴って変化する災害現場の問題について扱う。第3部（第13回～第14回）では、第1部と第2部の内容を踏まえ、都市で発生した甚大災害の具体的事例を通して、都市における防災・減災対策について学ぶ。 （オムニバス方式　全１５回） （4 蜷川　利彦／４回）災害全般、火災、日常安全性 （2 神野　達夫／６回）防災対策、地震被害 （10 佐藤　利昭／１回）火災 （18 重藤　迪子／２回）地震災害 （4 蜷川　利彦、2 神野　達夫、10 佐藤　利昭、18 重藤　迪子／２回）グループディスカッション	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	合成構造	合成構造のありようについて講義する。日本で用いられる代表的な鋼・コンクリート合成構造の設計手法と施工方法について概説し、力学的性質が異なる二つの材料で構成された部材の力学的性質の評価方法について解説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築土質力学	建築物を支えているのは言うまでもなく地盤であり、地盤、つまり土の性質を理解することは健全な建築物の建設にとって不可欠である。本講義では、建築物を支える地盤の物理的・力学的性質ならびに水理学的性質について解説する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	空間構造計画	（概要） 建築物における構造計画の概要について解説する。建築物に用いられている構造種別には、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鋼・コンクリート合成構造、木質構造などがある。これらの構造種別に応じた各構法の特性を理解し、適切な構造計画を立てるために必要な基礎能力を育むことを目標とする。 （オムニバス方式　全１５回） （4 蜷川　利彦／５回）免震構造、制振構造 （6 山口　謙太郎／１回）組積造 （9 小山　智幸／１回）耐久性設計 （10 佐藤　利昭／１回）木質ラーメン・シェル構造 （377 石出　一郎／３回）実施物件を事例とした構造計画 （389 西村　章／４回）実施物件を事例とした施工・監理計画	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	基礎構造	建築構造物がその使用目的を安定的に果たすためには、構造物の自重のほか、構造物利用者の重量や収納している家財道具や機械などの積載重量、そして自然現象に伴う外力などの各種荷重に対して十分な強度や変形性能を有するように設計・施工する必要がある。これらの設計荷重は構造物自身で受け止めたのち、基礎を介して地盤へと伝えられることになる。したがって、最終的には地盤が基礎を介して構造物から伝えられる荷重を支えきれる保証がないと、構造物は成立たないことになる。そこで、本講義では基礎の役割を理解したうえで、各種基礎の概要や設計するための必要な基本的な知識・技能を習得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築応用力学	（概要） 建築構造物の力学的挙動を詳細に分析し、その知見を設計に反映させるためには、これまでに習得した構造力学系・振動系・材料系科目に加えて、より高度な解析手法や材料の知識が必要となる。本講義では、今一度弾性力学の基礎理論を中心に解説するとともに、材料の力学特性として強度や破壊に関連する事項を扱い、建築構造へ応用する考え方について概説する。 （オムニバス方式　全１５回） （9 小山　智幸／５回）材料の性質、強度・破壊 （16 松尾　真太朗／１０回）弾性力学全般	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築耐震設計	（概要） 我が国は地震大国であり、建物の耐震設計は重要な課題の一つである。日本の耐震設計法は、耐力に基づく終局強度設計法と、応答変形についても評価しようとする性能設計法に大別される。本授業では、これまでの地震被害の分析から地震荷重の性質や建物の力学的性質に基づく地震応答についてまず理解する。その後、特に建物の終局状態にいたる挙動を塑性理論に基づいた解析手法により明らかにする。このような現象に基づいて現行の耐震設計法が成り立っていることを理解し、中でも保有水平耐力計算による耐震設計法、ならびにその活用法について重点的に学習する。講義の中盤では、木質構造特有の耐震設計の考え方について概説する。また、近年急増している超高層建築物や大スパン構造物などの大規模建築における耐震設計では、地震応答解析に基づく動的設計法が採用されているが、これについても本講義で解説する。 （オムニバス方式　全１５回） （4 蜷川　利彦／３回）耐震設計法、耐震規定 （16 松尾　真太朗／８回）塑性解析・設計 （10 佐藤　利昭／４回）木質構造の耐震設計	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	測量学・実習	測量は、社会基盤整備の計画・実施・評価・維持管理にあたって、現況把握や位置計測を行うための基本となる技術である。測量は建設現場で利用されるだけでなく、むしろ計画・設計・維持管理段階において利用されることが多いため、官公庁や設計・施工・維持管理会社などの各分野における技術者に必須の知識である。本講義では、測量の基礎的な知識の習得、さらには、測量に必要な各種の器械器具（レベル・トランシット・光波など）の取り扱い方や種々の測定法に関する基本的な技術と計算法を習得するとともに、近年の最新の測量技術であるリモートセンシング、ＧＰＳ測量、地理情報システム（GIS）などの応用測量について学び、測量に関する理解を深める。	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れるとは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは、革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて、初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。 本講義では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	数理解析概論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1.常微分方程式の解法・求積法 2. 定数係数線形常微分方程式 3. ラプラス変換の基礎 4. フーリエ級数展開 5. 弦の振動の方程式の解法 6. 熱方程式の解法	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する. 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. １次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	卒業研究		建築学卒業研究	大学の学部における建築学学習の集大成として、建築学に関する専門的な研究を行い、その成果を卒業論文や卒業設計としてまとめる。卒業研究の進め方として、所属する研究室を選択し、以下の2つの方法から1つを選択する。 イ）卒業論文だけを提出し、卒業論文発表会で発表する。 ロ）卒業論文と卒業設計を提出し、卒業設計を発表会で発表する。	

■ 交通アクセス

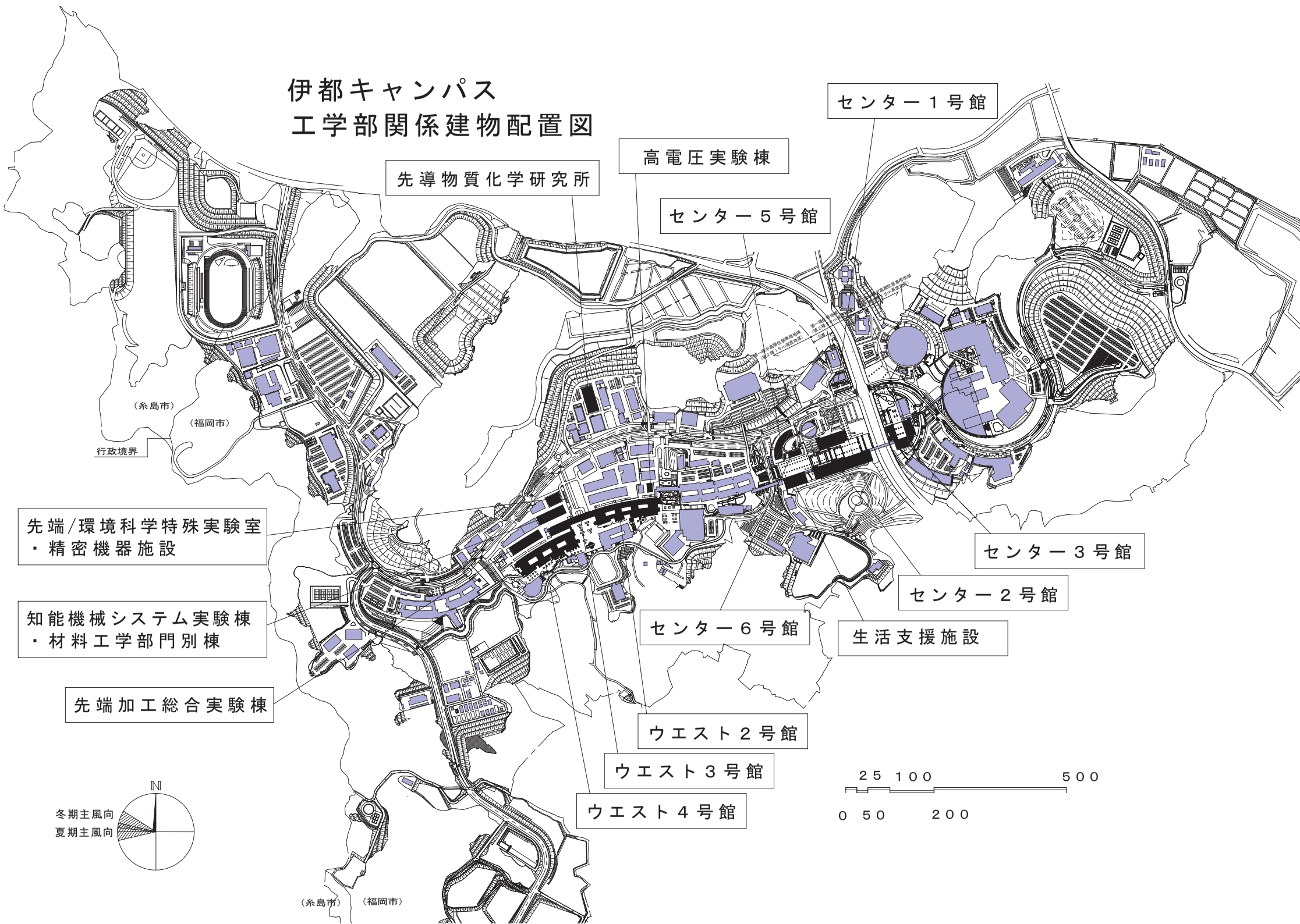
福　岡　空　港

地下鉄空港線 JR筑肥線 (姪浜駅接続) [32分]	地下鉄空港線 [9分]	地下鉄空港線 [5分]	地下鉄空港線 [11分]	
	地下鉄中洲川端駅	JR 博多駅	地下鉄天神駅	
	[8分] 地下鉄箱崎線 [5分]	JR鹿児島本線 [15分]	乗り換え	
JR 九大学研都市駅	地下鉄 箱崎九大前駅	地下鉄 馬出九大病院前駅	JR 大野城駅	西鉄福岡(天神)駅
				[7分]
				西鉄大橋駅
昭和バス [15分] 4km	徒歩 [1分] 30m	徒歩 [2分] 40m	徒歩 [1分] 30m	徒歩[5分] 450m
伊都キャンパス	箱崎キャンパス	病院キャンパス	筑紫キャンパス	大橋キャンパス

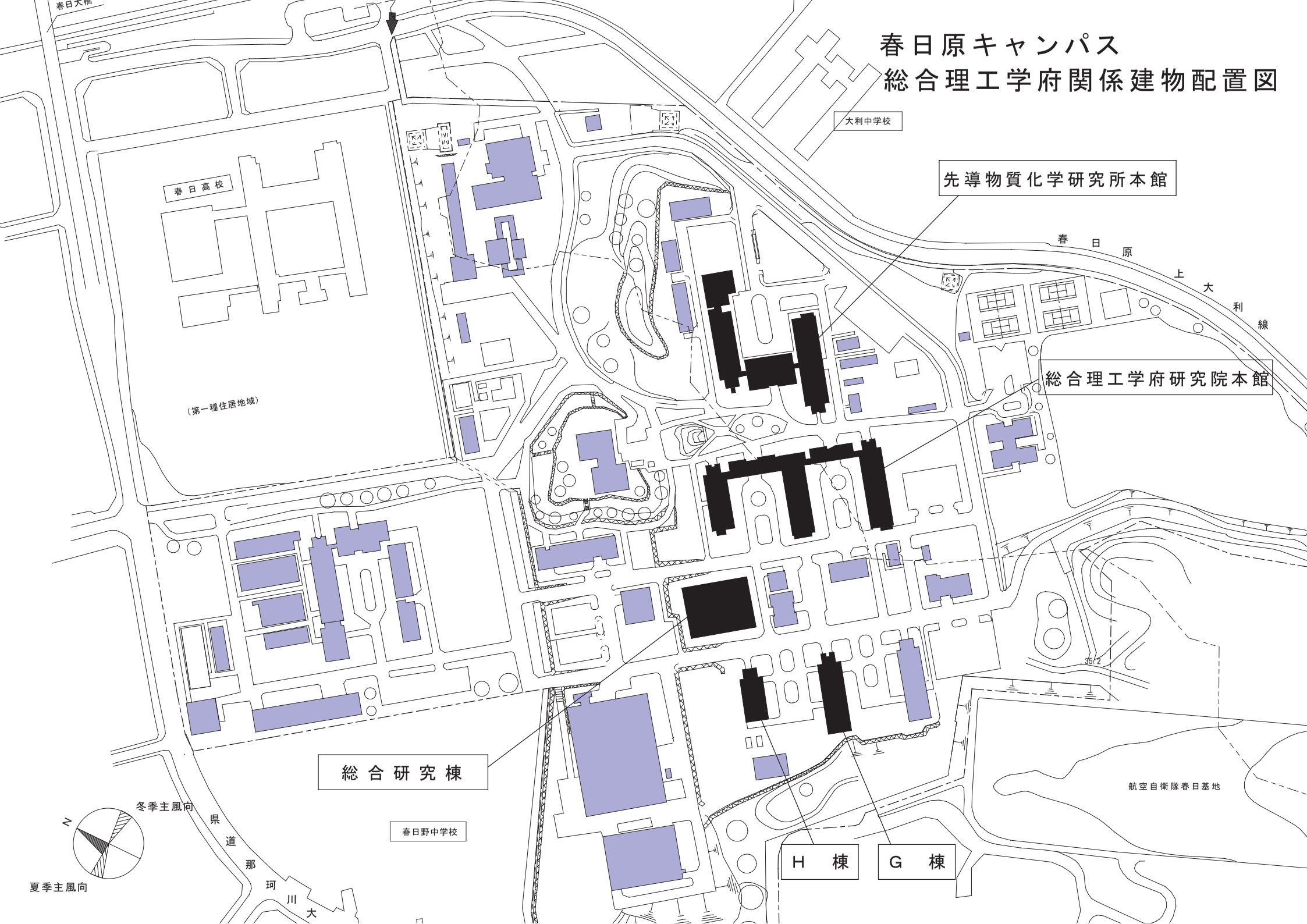
※所要時間はおおよその時間。
※伊都キャンパスへは，博多，天神からの直行バスも運行。
※その他のアクセス方法は http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/access/ito/ でご確認ください。

歴代総長／
運営組織
役員等／
経営協議会委員
教育研究
評議会評議員
沿革
伊都キャンパス
への移転
学府・研究院
制度について
大学の組織
部局長等
教育研究組織
学生定員及び
在籍学生数
入学状況
学位取得者数等
学部卒業・
大学院修了後
の進路状況
教職員数等
社会との連携
国際交流
収入・支出
研究プログラム
及び教育プログラム
の採択状況
キャンパスマップ
その他の地区
土地・建物・
諸施設
案内図

伊都キャンパス
工学部関係建物配置図



春日原キャンパス
総合理工学府関係建物配置図



九州大学学則（案）

平成１６年度九大規則第１号
制　　定：平成１６年　４月　１日
最終改正：令和　３年　３月　　日
（令和２年度九大規則第　　号）

目次

第１章　総則（第１条～第２条の２）
第２章　組織等（第３条～第１７条）
第３章　役員、職員等（第１８条～第２６条）
第４章　役員会、経営協議会、教育研究評議会及び総長選考会議（第２７条～第３０条）
第５章　部局長会議（第３１条～第３７条）
第６章　教授会（第３８条）
第７章　雑則（第３９条）
附則

第１章　総則

（目的等）

第１条　九州大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（平成１８年法律第１２０号）の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。【学教法第８３条】

２　本学は、前項の目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

（自己評価等）

第２条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。【学教法第１０９条】

２　本学は、前項の自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努めるものとする。

（教育研究活動状況の公表）

第２条の２　本学は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。【学教法第１１３条】

第２章　組織等

（学部）

第３条　本学に、次の表に掲げるとおり、学部及び学科を置く。【学教法第８５条】【大学設置基準第４条】

学　部	学　　科
共創学部	共創学科
文学部	人文学科
教育学部	
法学部	
経済学部	経済・経営学科、経済工学科
理学部	物理学科、化学科、地球惑星科学科、数学科、生物学科

医学部	医学科、生命科学科、保健学科
歯学部	歯学科
薬学部	創薬科学科、臨床薬学科
工学部	電気情報工学科、材料工学科、応用化学科、化学工学科、融合基礎工学科、機械工学科、航空宇宙工学科、量子物理工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科、土木工学科、建築学科
芸術工学部	芸術工学科
農学部	生物資源環境学科

２　学部又は学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に規則で定める。【大学設置基準第２条】

３　学部又は学科ごとの卒業認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針は、別に定める。

４　各学部の教員組織の編制その他必要な事項は、別に規則で定める。

５　学部の修業年限、教育課程、学生の入学、退学、卒業その他の学生の修学上必要な事項は、九州大学学部通則（平成１６年度九大規則第２号）で定める。

（大学院）

第４条　本学に、九州大学大学院（以下「本大学院」という。）を置く。【学教法第９７条】

２　本大学院は、本学の目的に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。【学教法第９９条】

３　本大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とする。【学教法第９９条】

第５条　本大学院に、学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１００条ただし書に規定する研究科以外の教育研究上の基本となる組織として、教育上の目的に応じて組織する学府及び研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して組織する研究院を置く。【学教法第１００条】

第６条　前条の本大学院に置く学府は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該学府にそれぞれ同表の右欄に掲げる専攻を置く。【大学院設置基準第６条】

学　　府	専　　攻
人文科学府	人文基礎専攻、歴史空間論専攻、言語・文学専攻
地球社会統合科学府	地球社会統合科学専攻
人間環境学府	都市共生デザイン専攻、人間共生システム専攻、行動システム専攻、教育システム専攻、空間システム専攻、実践臨床心理学専攻
法学府	法政理論専攻
法務学府	実務法学専攻

経済学府	経済工学専攻、経済システム専攻、産業マネジメント専攻
理学府	物理学専攻、化学専攻、地球惑星科学専攻
数理学府	数理学専攻
システム生命科学府	システム生命科学専攻
医学系学府	医学専攻、医科学専攻、保健学専攻、医療経営・管理学専攻
歯学府	歯学専攻
薬学府	創薬科学専攻、臨床薬学専攻
工学府	材料工学専攻、応用化学専攻、化学工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、土木工学専攻、船舶海洋工学専攻、地球資源システム工学専攻、共同資源工学専攻、量子物理工学専攻、機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻、航空宇宙工学専攻
芸術工学府	芸術工学専攻、デザインストラテジー専攻
システム情報科学府	情報学専攻、情報知能工学専攻、電気電子工学専攻
総合理工学府	量子プロセス理工学専攻、物質理工学専攻、先端エネルギー理工学専攻、環境エネルギー工学専攻、大気海洋環境システム学専攻
生物資源環境科学府	資源生物科学専攻、環境農学専攻、農業資源経済学専攻、生命機能科学専攻
統合新領域学府	ユーザー感性学専攻、オートモーティブサイエンス専攻、ライブラリーサイエンス専攻
備考 　各学府は、博士課程とする。ただし、医学系学府医科学専攻は修士課程、人間環境学府実践臨床心理学専攻、法務学府実務法学専攻、経済学府産業マネジメント専攻及び医学系学府医療経営・管理学専攻は専門職学位課程（第４条第３項の専門職大学院の課程をいう。以下同じ。）とし、そのうち法務学府実務法学専攻は法科大学院とする。	

2　学府又は専攻ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に規則で定める。【大学院設置基準第１条の２】

3　学府又は専攻ごとの修了認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針は、別に定める。

4　博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。【大学院設置基準第４条第１項】

5　修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。【大学院設置基準第３条第１項】

6　専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力

を培うことを目的とし、そのうち法科大学院にあっては、専ら法曹養成のための教育を行うことをその目的とする。【専門職大学院設置基準第２条第１項、第１８条】

７　各学府の教員組織の編制その他必要な事項は、別に規則で定める。

８　学府の修業年限、教育方法、学生の入学、退学、修了その他の学生の修学上必要な事項は、九州大学大学院通則（平成１６年度九大規則第３号）で定める。

第７条　第５条の本大学院に置く研究院は、次に掲げるとおりとする。

(1)　人文科学研究院
(2)　比較社会文化研究院
(3)　人間環境学研究院
(4)　法学研究院
(5)　経済学研究院
(6)　言語文化研究院
(7)　理学研究院
(8)　数理学研究院
(9)　医学研究院
(10)　歯学研究院
(11)　薬学研究院
(12)　工学研究院
(13)　芸術工学研究院
(14)　システム情報科学研究院
(15)　総合理工学研究院
(16)　農学研究院

（基幹教育院）

第７条の２　本学に、本学の学生として共通に期待される学びの基幹を育成するための全学組織として、基幹教育院を置く。

２　基幹教育院の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（高等研究院）

第７条の３　本学に、高度な研究活動を推進するための全学的組織として、高等研究院を置く。

２　高等研究院は、本学が世界的研究教育拠点として、学界をリードする卓越した研究成果を上げるために、分野を問わず、本学の誇る優れた研究者のうち、その専門分野において極めて高い研究業績を有する者、ポスト・プロフェッサー及び本学の次世代を担う若手研究者が実質的かつ高度な研究活動を展開する場として、全学的な協力体制のもとに設置するとともに、これらの活動を通じて人材を育成し、その研究成果を広く社会に還元することを目的とする。

３　高等研究院の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（附置研究所）

第８条　本学に、研究所を附置する。

２　前項の研究所（以下「附置研究所」という。）は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該附置研究所の目的は、それぞれ同表の右欄に定めるとおりとする。【学教法第９６条】

附置研究所	目　　的
生体防御医学研究所	生体防御医学に関する学理及びその応用の研究
応用力学研究所	力学に関する学理及びその応用の研究
先導物質化学研究所	物質化学に関する先導的な総合研究
マス・フォア・インダストリ研究所	数学の産業応用及びその学理研究

３　各附置研究所の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
（国際研究所）
第８条の２　本学に、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所を置く。
２　カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所は、カーボンニュートラル・エネルギー研究に関する基礎科学を創出するとともに、環境調和型で持続可能な社会の実現に向けた課題の解決に貢献することを目的とする。
３　カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
（病院）
第９条　医学部及び歯学部に、これらに附属する共用の教育研究施設として、医学部・歯学部附属病院を置き、九州大学病院（以下「病院」という。）と称する。　【大学設置基準第３９条】
２　病院の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
（附属図書館）
第１０条　本学に、附属図書館を置く。　【大学設置基準第３６条】
２　附属図書館の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
第１１条　削除
（情報基盤研究開発センター）
第１２条　本学に、研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他専門的業務を行う全国共同利用施設として、情報基盤研究開発センターを置く。
２　情報基盤研究開発センターは、前項の業務のほか、本学における情報基盤に係るシステム開発を行う。
３　情報基盤研究開発センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
（教育関係共同利用拠点）
第１２条の２　第７条の２に規定する基幹教育院は、学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号。以下「学教法施行規則」という。）第１４３条の２第２項の規定により、文部科学大臣の認定を受けた教育関係共同利用拠点として他大学の利用に供するものとする。
（共同利用・共同研究拠点）
第１２条の３　次の表に掲げる附置研究所等は、学教法施行規則第１４３条の３第２項の規定により、文部科学大臣の認定を受けた共同利用・共同研究拠点としてそれぞれ学術研究の発展に資するものとする。

附置研究所等	共同利用・共同研究拠点
生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点
応用力学研究所	応用力学共同研究拠点
先導物質化学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点
マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点
情報基盤研究開発センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

（エネルギー研究教育機構）
第１２条の４　本学に、エネルギー分野における高度な研究及び教育活動を推進するための全学的組織として、エネルギー研究教育機構を置く。
２　エネルギー研究教育機構の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（アジア・オセアニア研究教育機構）

第１２条の５　本学に、アジア・オセアニア地域における社会的課題の解決、課題の発掘及び提示に向けた研究教育活動を推進するための全学的組織として、アジア・オセアニア研究教育機構を置く。

２　アジア・オセアニア研究教育機構の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（学内共同教育研究センター）

第１３条　本学に、次に掲げるいずれかの機能を担い、本学の教員その他の者が共同して教育研究活動を行う組織として、学内共同教育研究センターを置く。　【学教法第９６条】

(1)　主に教育又は研究活動を支援すること。

(2)　主に教育又は研究を推進すること。

(3)　その他全学業務を推進すること。

２　学内共同教育研究センターは、次の表の左欄に掲げるとおりとし、そのうち設置期間を定める学内共同教育研究センターの当該設置期間の満了する日は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

学内共同教育研究センター	設置期間の満了する日
生物環境利用推進センター	
熱帯農学研究センター	
アイソトープ統合安全管理センター	
中央分析センター	
留学生センター	
総合研究博物館	
システムＬＳＩ研究センター	令和３年３月３１日
国際宇宙天気科学・教育センター	令和４年３月３１日
韓国研究センター	
医療系統合教育研究センター	
超伝導システム科学研究センター	令和５年３月３１日
未来デザイン学センター	
グローバルイノベーションセンター	
超顕微解析研究センター	
環境安全センター	
西部地区自然災害資料センター	

大学文書館	
ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター	
アドミッションセンター	
水素エネルギー国際研究センター	
未来化学創造センター	令和７年３月３１日
鉄鋼リサーチセンター	令和７年３月３１日
低温センター	
加速器・ビーム応用科学センター	
稲盛フロンティア研究センター	令和４年３月３１日
グリーンテクノロジー研究教育センター	令和５年３月３１日
シンクロトロン光利用研究センター	
先端医療オープンイノベーションセンター	令和７年３月３１日
極限プラズマ研究連携センター	令和６年３月３１日
有体物管理センター	
分子システム科学センター	令和５年３月３１日
日本エジプト科学技術連携センター	令和６年３月３１日
プラズマナノ界面工学センター	令和６年３月３１日
ＥＵセンター	令和３年５月３１日
環境発達医学研究センター	令和３年３月３１日
ユヌス＆椎木ソーシャル・ビジネス研究センター	令和３年９月３０日
バイオメカニクス研究センター	令和３年３月３１日
次世代燃料電池産学連携研究センター	令和４年３月３１日
科学技術イノベーション政策教育研究センター	令和８年３月３１日
先端素粒子物理研究センター	令和５年３月３１日

分子システムデバイス産学連携教育研究センター	令和６年３月３１日
水素材料先端科学研究センター	令和５年３月３１日
アジア埋蔵文化財研究センター	令和５年３月３１日
キャンパスライフ・健康支援センター	
五感応用デバイス研究開発センター	令和５年１０月３１日
持続可能な社会のための決断科学センター	
サイバーセキュリティセンター	
数理・データサイエンス教育研究センター	令和４年３月３１日
植物フロンティア研究センター	令和５年３月３１日
最先端有機光エレクトロニクス研究センター	令和６年３月３１日
都市研究センター	令和６年３月３１日
次世代接着技術研究センター	令和６年３月３１日
先進電気推進飛行体研究センター	令和１２年３月３１日

３　各学内共同教育研究センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

（先導的研究センター）

第１３条の２　本学に、先導的に研究を行う拠点として、先導的研究センターを置く。

２　先導的研究センターは、次の表の左欄に掲げるとおりとし、各先導的研究センターの設置期間の満了する日は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

先導的研究センター	設置期間の満了する日
ヒトプロテオーム研究センター	令和５年３月３１日
次世代蓄電デバイス研究センター	令和３年３月３１日
次世代経皮吸収研究センター	令和３年３月３１日
浅海底フロンティア研究センター	令和３年３月３１日
確率解析研究センター	令和３年３月３１日
多重ゼータ研究センター	令和３年３月３１日
がん幹細胞研究センター	令和３年３月３１日
大気物理統合解析センター	令和４年３月３１日

3　各先導的研究センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

（学部等の附属施設）

第１４条　次の表の左欄に掲げる学部、学府、研究院、附置研究所等に、それぞれ同表の右欄に掲げる附属の教育施設又は研究施設を置く。　【大学設置基準第３９条】

学　部　等	附　　属　　施　　設
理学部	天草臨海実験所
農学部	農場、演習林
人間環境学府	総合臨床心理センター
工学府	ものづくり工学教育研究センター
システム情報科学府	電気エネルギーシステム教育研究センター
薬学府	薬用植物園
生物資源環境科学府	水産実験所
理学研究院	地震火山観測研究センター
医学研究院	胸部疾患研究施設、心臓血管研究施設、脳神経病研究施設、ヒト疾患モデル研究センター、総合コホートセンター、プレシジョンメディシン研究センター
歯学研究院	オーラルヘルス・ブレインヘルス・トータルヘルス研究センター
薬学研究院	産学官連携創薬育薬センター
工学研究院	環境工学研究教育センター、アジア防災研究センター、国際教育支援センター、小分子エネルギーセンター
芸術工学研究院	応用知覚科学研究センター、応用生理人類学研究センター、ソーシャルアートラボ、環境設計グローバル・ハブ、ＳＤＧｓデザインユニット
農学研究院	生物的防除研究施設、遺伝子資源開発研究センター、国際農業教育・研究推進センター、イノベーティブバイオアーキテクチャーセンター、昆虫科学・新産業創生研究センター
生体防御医学研究所	トランスオミクス医学研究センター、システム免疫学統合研究センター
応用力学研究所	大気海洋環境研究センター、高温プラズマ理工学研究センター、自然エネルギー統合利用センター

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	次世代冷媒物性評価研究センター
情報基盤研究開発センター	汎オミクス計測・計算科学センター

２　各附属施設の内部組織その他必要な事項は、当該学部等の長が、別に定める。

（国際交流推進機構）

第１５条　本学に、次に掲げる特定の重要事項に関し、企画、実施又は推進する組織として、国際交流推進機構を置く。

(1)　学術の国際交流の推進

(2)　学生の海外留学及び外国人留学生受入れ等の推進

(3)　アジアの総合研究等の推進

２　国際交流推進機構の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（情報統括本部）

第１５条の２　本学に、全学的な情報支援を行うための組織として、情報統括本部を置く。

２　情報統括本部の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1)　全学的な情報基盤の整備

(2) 情報技術を用いた教育研究及び大学運営に関わる業務の総合的な支援

３　情報統括本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（統合移転推進本部）

第１５条の３　本学に、統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画を推進するための組織として、統合移転推進本部を置く。

２　統合移転推進本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（基金本部）

第１５条の４　本学に、九州大学基金による支援助成事業及び基金強化事業（以下「基金事業」という。）を推進するための組織として、基金本部を置く。

２　基金本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（広報本部）

第１５条の５　本学に、広報戦略の策定及び広報活動の推進を図るための組織として、広報本部を置く。

２　広報本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（グローバル化推進本部）

第１５条の６　本学に、全学的なグローバル化を推進するための組織として、グローバル化推進本部を置く。

２　グローバル化推進本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。

（学術研究・産学官連携本部）

第１５条の７　本学に、全学の学術研究及び産学官連携を推進するための組織として、学術研究・産学官連携本部を置く。

２　学術研究・産学官連携本部の構成その他必要な事項は、別に定める。

（教育改革推進本部）

第１５条の８　本学に、教育課程及び教育方法等の改善、高大接続・入試改革等の教育改革並びにキャリア教育の開発等を推進するための組織として、教育改革推進本部を置く。

２　教育改革推進本部の構成その他必要な事項は、別に定める。

（推進室等）

第１６条　本学に、特定の重要事項を企画、推進又は支援する組織として、推進室等を置く。

２　前項の推進室等は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該推進室等の目的は、それぞれ同表の右欄に定めるとおりとする。

推進室等	目　　的
社会連携推進室	社会連携（産学官連携を除く。）の推進を支援すること。
国際交流推進室	国際交流の推進を支援すること。
ＳＨＡＲＥオフィス	全学的なグローバル化の推進を支援すること。
インスティテューショナル・リサーチ室	大学運営の基礎となる情報の調査・収集・分析及び提供により、大学の意思決定を支援すること。
キャンパス計画室	キャンパス計画の推進を支援すること。
環境安全衛生推進室	安全衛生の推進を支援すること。
ハラスメント対策推進室	ハラスメントの防止及び対策の推進を支援すること。
男女共同参画推進室	男女共同参画の推進を支援すること。
情報環境整備推進室	情報環境整備の推進を支援すること。
統合移転事業推進室	統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画に係る企画・立案を行うこと。
法務統括室	法務機能の強化に係る企画・立案を行うこと。
基金事業推進室	基金事業の実施に係る企画・立案を行うこと。
同窓生連携推進室	同窓生との連携に関すること。
広報戦略推進室	広報戦略に基づく広報活動の推進を支援すること。
跡地処分統括室	移転跡地処分のリスクマネジメントに係る企画・立案等を行うこと。

３　前項の各推進室等の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（伊都診療所）

第１６条の２　本学に、伊都診療所（以下「診療所」という。）を置く。

２　診療所の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

（事務組織）

第１７条　本学に、庶務、会計、施設及び学生の厚生補導等に関する事務を処理させるため事務局を置く。

２　本学の学部、学府等に、その事務を処理させるため事務部を置く。ただし、必要がある場合は、数個の学部等の事務を併せて処理する事務部を置く。

３　前２項に規定する事務組織のほか、本学に、内部監査を実施させるとともに、監事監査の事務を補助させるため監査室を置く。

４　前３項の事務組織の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

【大学設置基準第４１条、第４２条】

（技術部）

第１７条の２　本学の学部、学府、研究院、基幹教育院、附置研究所等に、教育研究に関する技術的な支援を行わせるため、技術部を置くことができる。
２　前項の技術部の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

第３章　役員、職員等

（役員）

第１８条　国立大学法人法（平成１５年法律第１１２号。以下「法人法」という。）第１０条の規定に基づき、本学に、役員として、学長（「総長」と称する。）、理事８人以内及び監事２人を置く。【法人法第１０条】

第１９条　総長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、本学を代表し、その業務を総理する。【学教法第９２条】【法人法第１１条】
２　総長は、この規則その他の総長が定める規則等において理事又は職員に委任する業務について報告を求め、必要な措置を命じ、又はその措置を自ら行うことができる。

第２０条　理事は、総長の定めるところにより、総長を補佐して本学の業務を掌理し、総長に事故があるときはその職務を代理し、総長が欠員のときはその職務を行う。【法人法第１１条】

第２１条　監事は、本学の業務を監査する。この場合において、監事は、監査報告を作成しなければならない。
２　監事は、いつでも、役員（監事を除く。）及び職員に対して事務及び事業の報告を求め、又は本学の業務及び財産の状況を調査することができる。【法人法第１１条】

（職員）

第２２条　本学に、教員、事務職員、技術職員、高度専門職員その他必要な職員を置く。
２　前項の教員は、教授、准教授、講師、助教、准助教及び助手（「教務助手」と称する。）とする。
３　教授、准教授、講師、助教及び教務助手の職務は学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第９２条の定めるところによるものとし、准助教の職務は教授及び准教授の職務を助けることとする。【学教法第９２条】

（副学長）

第２３条　本学に、総長の定めるところにより、総長を助け、命を受けて校務をつかさどるため、副学長若干人を置く。
２　副学長は、理事のうちから総長が指名する者が兼ねる。
３　前項の規定にかかわらず、総長が特に必要と認めた場合は、職員のうちから総長が指名する者が副学長を兼ねることができるものとする。【学教法第９２条】

（副理事）

第２４条　本学に、総長の定めるところにより、理事の職務を助けるため、副理事若干人を置く。
２　副理事は、教授その他の職員のうちから総長が指名する。

（総長補佐）

第２４条の２　本学に、総長の定めるところにより、総長が命ずる特定の事項を担当し、総長を助けるため、総長補佐若干人を置くことができる。
２　総長補佐は、教授その他の職員のうちから総長が指名する。

（部局長等）

第２５条　学部、学府、研究院、基幹教育院、附置研究所、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所、病院、附属図書館及び情報基盤研究開発センター（以下「部局」という。）に長（以下「部局長」という。）を置く。
２　部局長は、当該部局の業務を掌理する。
３　各部局に、副部局長を置くことができる。
４　副部局長は、部局長の定めるところにより、部局長を補佐して部局の業務を処理し、部局長に事故があるときはその職務を代理し、部局長が欠員のときはその職務を行う。
５　部局長及び副部局長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
６　学科及び専攻に、それぞれ学科長又は専攻長を置くことができる。
７　学科長及び専攻長の任命手続その他必要な事項は、別に定めるものとする。

（センター長等）
第２６条　学内共同教育研究センターに長（以下「センター長」という。）を置く。
２　センター長は、当該学内共同教育研究センターの業務を掌理する。
３　各学内共同教育研究センターに、副センター長を置くことができる。
４　副センター長は、センター長の定めるところにより、センター長を補佐して当該学内共同教育研究センターの業務を処理し、センター長に事故があるときはその職務を代理し、センター長が欠員のときはその職務を行う。
５　センター長及び副センター長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
第２６条の２　先導的研究センターに長（以下「センター長」という。）を置く。
２　センター長は、当該先導的研究センターの業務を掌理する。
３　各先導的研究センターに、副センター長を置くことができる。
４　副センター長は、センター長の定めるところにより、センター長を補佐して当該先導的研究センターの業務を処理し、センター長に事故があるときはその職務を代理する。
５　センター長及び副センター長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
（所長）
第２６条の３　診療所に、所長を置く。
２　所長は、診療所の業務を掌理する。
３　所長は、本学の教員のうちから総長が指名する。
第４章　役員会、経営協議会、教育研究評議会及び総長選考会議
（役員会）
第２７条　本学に、法人法第１１条第３項各号に規定する事項を審議するため、総長及び理事で構成する役員会を置く。【法人法第１１条】
２　役員会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
（経営協議会）
第２８条　本学に、法人法第２０条の規定に基づき、本学の経営に関する重要事項を審議する機関として、経営協議会を置く。【法人法第２０条】
２　経営協議会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
（教育研究評議会）
第２９条　本学に、法人法第２１条の規定に基づき、本学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、教育研究評議会を置く。【法人法第２１条】
２　教育研究評議会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
（総長選考会議）
第３０条　本学に、法人法第１２条第２項から第６項までの規定に基づき、総長選考会議（以下「選考会議」という。）を置く。【法人法第１２条】
２　選考会議の組織に関し必要な事項は、別に規則で定める。
第５章　部局長会議
（部局長会議）
第３１条　本学に、今後の総合計画の企画立案等に関する基本的事項について審議するため、将来計画委員会を置く。
第３２条　本学に、予算管理に関する重要事項を審議するため、財務委員会を置く。
第３３条　本学に、大学評価に関する重要事項を審議するため、大学評価委員会を置く。
第３４条　本学に、ハラスメントの防止に関する事項を審議するため、ハラスメント委員会を置く。
第３５条　本学に、男女共同参画の推進に関する事項を審議するために、男女共同参画推進委員会を置く。
第３６条　本学に、大学運営上の課題に係る総合的な人事制度、人員管理及び人件費計画等に関する重要事項を審議するために、人事委員会を置く。
第３６条の２　本学に、基金事業に関する事項を審議するために、基金委員会を置く。
第３６条の３　本学に、障害者差別の解消の推進に関する事項を審議するために、障害者支援推

進委員会を置く。
第３７条　第３１条から前条までに規定する委員会（「部局長会議」と総称する。）の組織、議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。

第６章　教授会

第３８条　部局（病院及び附属図書館を除く。）に、教授会を置く。　【学教法第９３条】

２　教授会の組織、審議事項、議事の手続その他必要な事項は、九州大学教授会通則（平成１６年度九大規則第８号）で定める。

第７章　雑則

（雑則）

第３９条　この規則に定めるもののほか、本学の目的を達成するために必要な事項は、別に規則で定める。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

２　法人法附則第１６条第１項の規定に基づき本学に置かれる九州大学医療技術短期大学部（以下「短期大学部」という。）は、平成１６年４月１日に短期大学部に在学する学生が短期大学部に在学しなくなる日において、廃止する。

３　前項の短期大学部に在学する学生の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州大学医療技術短期大学部学則（昭和４６年４月８日施行）等の規定によるものとする。

４　法人法附則第１７条の規定に基づき、平成１５年９月３０日に当該大学に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた九州芸術工科大学に在学する者（以下「在学者」という。）の卒業又は大学院の課程修了のため必要となる教育は、九州大学芸術工学部（以下「芸術工学部」という。）又は九州大学大学院芸術工学府（以下「芸術工学府」という。）において行うものとする。

５　前項の在学者の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州芸術工科大学学則（平成５年４月１日施行）等の規定によるものとする。ただし、これによることができない事項については、総長又は芸術工学部若しくは芸術工学府の教授会が定めるところによる。

６　第１２条の３に規定する附置研究所等は、文部科学大臣の認定期間である平成３４年３月３１日までの間存続するものとする。

７　第１３条第１項に規定する宙空環境研究センターは、平成２４年３月３１日まで存続するものとする。

８　第１４条第１項に規定する工学研究院附属の環境システム科学研究センターは平成２０年３月３１日まで、生体防御医学研究所附属の感染防御研究センターは平成２３年３月３１日まで、応用力学研究所附属の力学シミュレーション研究センター及び炉心理工学研究センターは平成１９年３月３１日まで存続するものとする。

９　法人法等関係法令又はこの学則等に基づき定める諸規則等のほか、承継的、定型的又は簡易な事項で総長が必要と認めるものについては、当分の間、総長が定めるところにより、廃止前の国立学校設置法（昭和２４年法律第１５０号）に基づき設置された九州大学の諸規則等の規定を適用又は準用するものとする。

附　則（平成１６年度九大規則第１９３号）

１　この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

２　人間環境学府発達・社会システム専攻は、改正後の第６条第１項の規定にかかわらず、平成１７年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間､存続するものとする。

附　則（平成１７年度九大規則第４号）

１　この規則は、平成１７年７月１５日から施行し、平成１７年７月１日から適用する。

２　改正後の第１３条第１項に規定するデジタルメディシン・イニシアティブ及びアジア総合政策センターは、平成２２年６月３０日まで存続するものとする。

附　則（平成１７年度九大規則第２３号）

この規則は、平成１７年１１月７日から施行する。

附　則（平成１７年度九大規則第３０号）

１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

２　薬学部総合薬学科は、改正後の第３条第１項の規定にかかわらず、平成１８年３月３１日に当該学科に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（平成１８年度九大規則第２号）

この規則は、平成１８年６月１日から施行する。

附　則（平成１８年度九大規則第２５号）

この規則は、平成１８年１０月１日から施行する。

附　則（平成１８年度九大規則第３７号）

１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

２　改正後の第１４条第１項に規定する応用力学研究所附属の東アジア海洋大気環境研究センター及び高温プラズマ力学研究センターは、平成２９年３月３１日まで存続するものとする。

３　改正後の第２２条第２項に規定する准助教の職種は、平成１９年４月１日に当該職に在職する者が在職しなくなる日において、廃止する。

附　則（平成１９年度九大規則第２７号）

この規則は、平成１９年１１月１日から施行する。

附　則（平成１９年度九大規則第３１号）

この規則は、平成１９年１２月２６日から施行する。

附　則（平成１９年度九大規則第５８号）

１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

２　理学府基礎粒子系科学専攻、分子科学専攻、凝縮系科学専攻及び生物科学専攻並びに医学系学府機能制御医学専攻、生殖発達医学専攻、病態医学専攻、臓器機能医学専攻、分子常態医学専攻及び環境社会医学専攻は、改正後の九州大学学則（以下「新規則」という。）第６条第１項の規定にかかわらず、平成２０年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　新規則第１４条第１項に規定する工学研究院附属の循環型社会システム工学研究センターは、平成３０年３月３１日まで存続するものとする。

附　則（平成２０年度九大規則第１号）

この規則は、平成２０年４月１７日から施行し、平成２０年４月１日から適用する。

附　則（平成２０年度九大規則第９号）

この規則は、平成２０年１０月１日から施行する。

附　則（平成２０年度九大規則第３７号）

１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　システム情報科学府情報理学専攻、知能システム学専攻、情報工学専攻、電気電子システム工学専攻及び電子デバイス工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則（以下「新学則」という。）第６条第１項の規定にかかわらず、平成２１年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（平成２１年度九大規則第１号）

この規則は、平成２１年５月１日から施行する。

附　則（平成２１年度九大規則第５号）

この規則は、平成２１年６月１日から施行する。

附　則（平成２１年度九大規則第１２号）

この規則は、平成２１年８月１日から施行し、第１３条第１項にシンクロトロン光利用研究センターを加える改正規定は、平成２１年７月１日から適用する。

附　則（平成２１年度九大規則第２０号）

１　この規則は、平成２１年１０月１日から施行する。

２　この規則による改正後の九州大学学則第３６条の６の規定は、平成２１年９月１日から適用する。

附　則（平成２１年度九大規則第３３号）
この規則は、平成２１年１１月１日から施行する。
附　則（平成２１年度九大規則第４９号）
1　この規則は、平成２２年4月１日から施行する。
2　法学府基礎法学専攻、公法・社会法学専攻、民刑事法学専攻、国際関係法学専攻及び政治学専攻並びに薬学府医療薬科学専攻（修士課程）及び創薬科学専攻（修士課程）並びに工学府機械科学専攻及び知能機械システム専攻並びに生物資源環境科学府生物資源開発管理学専攻、植物資源科学専攻、生物機能科学専攻、動物資源科学専攻、農業資源経済学専攻、生産環境科学専攻、森林資源科学専攻及び遺伝子資源工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則（以下「新規則」という。）第６条第１項の規定にかかわらず、平成２２年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
3　九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号）附則第６項の規定にかかわらず、生体防御医学研究所附属の感染防御研究センターは、廃止する。
附　則（平成２２年度九大規則第１号）
この規則は、平成２２年４月２８日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。
附　則（平成２２年度九大規則第６号）
この規則は、平成２２年７月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第１２号）
1　この規則は、平成２２年８月１日から施行する。ただし、第１３条第１項に応用知覚研究センターを加える改正規定は同年９月１日から施行する。
2　この規則による改正後の九州大学学則第１３条第１項に規定する応用知覚研究センターは、平成２４年３月３１日まで存続するものとする。
附　則（平成２２年度九大規則第３０号）
この規則は、平成２２年１０月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第４５号）
この規則は、平成２２年１２月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第４７号）
この規則は、平成２２年１２月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第７４号）
この規則は、平成２３年１月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第７８号）
この規則は、平成２３年２月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第８１号）
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第１号）
この規則は、平成２３年５月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第４号）
この規則は、平成２３年６月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第８号）
1　この規則は、平成２３年７月１日から施行する。
2　この規則による改正後の九州大学学則第１４条第１項に規定するシステム情報科学府附属の高度ＩＣＴ人材教育開発センターは、平成３２年３月３１日まで存続するものとする。
附　則（平成２３年度九大規則第１０号）
この規則は、平成２３年８月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第１２号）
この規則は、平成２３年１０月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第６８号）
この規則は、平成２３年１１月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第７２号）

この規則は、平成２４年１月１日から施行する。

附　則（平成２３年度九大規則第８０号）

１　この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

２　この規則の施行前に設置された薬学府医療薬科学専攻（博士後期課程）及び創薬科学専攻（博士後期課程）は、この規則による改正後の九州大学学則第６条第１項の規定にかかわらず、平成２４年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（平成２４年度九大規則第１１号）

この規則は、平成２４年１０月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第２９号）

この規則は、平成２４年１２月１日から施行する。ただし、第２５条に係る改正規定は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第３６号）

この規則は、平成２５年１月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第３７号）

この規則は、平成２５年２月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第４２号）

この規則は、平成２５年３月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第４５号）

１　この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

２　この規則による改正後の九州大学学則第１４条第１項に規定する自然エネルギー統合利用センターは、平成３５年３月３１日まで存続するものとする。

附　則（平成２５年度九大規則第２号）

この規則は、平成２５年５月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第８号）

この規則は、平成２５年６月３日から施行し、平成２５年４月１日から適用する。

附　則（平成２５年度九大規則第１０号）

この規則は、平成２５年７月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第１６号）

この規則は、平成２５年８月１日から施行する。ただし、知的財産本部の名称及び目的に係る改正規定は、平成２５年９月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第４０号）

この規則は、平成２５年１１月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第４７号）

この規則は、平成２５年１２月１日から施行する。ただし、第１４条第１項の表に薬学研究院の項を加える改正規定は、平成２６年１月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第５１号）

この規則は、平成２６年１月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第７６号）

この規則は、平成２６年１月２７日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第７８号）

この規則は、平成２６年３月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第８３号）

１　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。

２　比較社会文化学府は、この規則による改正後の九州大学学則第６条第１項の規定にかかわらず、平成２６年３月３１日に当該学府に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（平成２６年度九大規則第２号）

この規則は、平成２６年４月３０日から施行し、この規則による改正後の九州大学学則の規定

は、平成２６年４月１日から適用する。
附　則（平成２６年度九大規則第６号）
この規則は、平成２６年８月１日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第１１号）
この規則は、平成２６年１０月１日から施行する。ただし、第１３条第１項の表に係る改正規定は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第６０号）
この規則は、平成２６年１２月１日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第７０号）
この規則は、平成２７年１月２２日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第７６号）
１　この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
２　九州大学高等教育機構規則（平成１８年度九大規則第３号）は、廃止する。
附　則（平成２６年度九大規則第７７号）
この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第１２０号）
この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第２号）
この規則は、平成２７年６月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第９号）
この規則は、平成２７年１０月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第２１号）
この規則は、平成２７年１２月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第２３号）
この規則は、平成２８年１月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第２６号）
この規則は、平成２８年２月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第３１号）
この規則は、平成２８年３月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第３４号）
１　この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
２　この規則による改正後の九州大学学則第１４条第１項に規定する次世代冷媒物性評価研究センターは、平成３３年３月３１日まで存続するものとする。
附　則（平成２８年度九大規則第３号）
この規則は、平成２８年６月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第８号）
この規則は、平成２８年７月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第１４号）
この規則は、平成２８年７月２９日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第２０号）
この規則は、平成２８年１０月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第６５号）
この規則は、平成２８年１２月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第６９号）
この規則は、平成２９年１月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第７６号）
この規則は、平成２９年２月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第８１号）
この規則は、平成２９年３月１日から施行する。

附　則（平成２８年度九大規則第８５号）

この規則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、第１４条第１項の表中のオーラルヘルス・ブレインヘルス・トータルヘルス研究センターを加える規定は、平成２８年４月１日から適用する。

附　則（平成２９年度九大規則第１号）

この規則は、平成２９年５月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第５号）

この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第８号）

この規則は、平成２９年１０月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第２３号）

この規則は、平成２９年１１月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第４０号）

この規則は、平成３０年１月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第４８号）

この規則は、平成３０年２月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第６７号）

１　この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

２　生物資源環境科学府生物産業創成専攻は、この規則による改正後の九州大学学則第６条第１項の規定にかかわらず、平成３０年３月３１日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（平成３０年度九大規則第１号）

この規則は、平成３０年５月１日から施行し、平成３０年４月１日から適用する。

附　則（平成３０年度九大規則第１１号）

この規則は、平成３０年７月１日から施行する。ただし、第１３条の２の規定は、平成３０年４月１日から適用する。

附　則（平成３０年度九大規則第１８号）

この規則は、平成３０年１１月１日から施行する。

附　則（平成３０年度九大規則第２２号）

この規則は、平成３０年１０月１日から施行する。

附　則（平成３０年度九大規則第４９号）

この規則は、平成３１年１月１日から施行する。

附　則（平成３０年度九大規則第６０号）

この規則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則（令和元年度九大規則第２号）

この規則は、令和元年８月１日から施行する。

附　則（令和元年度九大規則第４号）

この規則は、令和元年１０月１日から施行する。

附　則（令和元年度九大規則第１９号）

この規則は、令和元年１１月１日から施行する。

附　則（令和元年度九大規則第２４号）

１　この規則は、令和２年４月１日から施行する。

２　芸術工学部環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科及び芸術情報設計学科は、この規則による改正後の九州大学学則第３条第１項の規定にかかわらず、令和２年３月３１日に当該学科に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（令和２年度九大規則第　　号）

１　この規則は、令和３年４月１日から施行する。

２　工学部建築学科、電気情報工学科、物質科学工学科、地球環境工学科、エネルギー科学科及び機械航空工学科並びに工学府物質創造工学専攻、物質プロセス工学専攻、材料物性工学専攻、

化学システム工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、海洋システム工学専攻及びエネルギー量子工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則第３条第１項及び第６条第１項の規定にかかわらず、令和３年３月３１日に当該学科に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

九州大学学則の一部を改正する規則（案）

令和２年度九大規則第　　号
制　　定：令和　３年　３月　　日

工学部及び工学府を改組することに伴い、九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号）の一部を次のように改正する。

<table>
<tr><th>（新）</th><th>（旧）</th></tr>
<tr><td>（略）
（学部）
第３条　本学に、次の表に掲げるとおり、学部及び学科を置く。
<table><tr><th>学　部</th><th>学　科</th></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr><tr><td>工学部</td><td>電気情報工学科、材料工学科、応用化学科、化学工学科、融合基礎工学科、機械工学科、航空宇宙工学科、量子物理工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科、土木工学科、建築学科</td></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr></table>２～５　（略）
（略）
第６条　前条の本大学院に置く学府は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該学府にそれぞれ同表の右欄に掲げる専攻を置く。
<table><tr><th>学　府</th><th>専　攻</th></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr><tr><td>工学府</td><td>材料工学専攻、応用化学専攻、化学工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、土木工学専攻、船舶海洋工学専攻、地球資源システム工学専攻、共同資源工学専攻、量子物理工学専攻、機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻、航空宇宙工学専攻</td></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr></table></td><td>（略）
（学部）
第３条　（同左）
<table><tr><th>学　部</th><th>学　科</th></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr><tr><td>工学部</td><td>建築学科、電気情報工学科、物質科学工学科、地球環境工学科、エネルギー科学科、機械航空工学科</td></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr></table>２～５　（略）
（略）
第６条　（同左）
<table><tr><th>学　府</th><th>専　攻</th></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr><tr><td>工学府</td><td>物質創造工学専攻、物質プロセス工学専攻、材料物性工学専攻、化学システム工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、海洋システム工学専攻、地球資源システム工学専攻、共同資源工学専攻、エネルギー量子工学専攻、機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻、航空宇宙工学専攻</td></tr><tr><td colspan="2">（略）</td></tr></table></td></tr>
</table>

２～８　（略） （略）	２～８　（略） （略）

附　則

１　この規則は、令和３年４月１日から施行する。

２　工学部建築学科、電気情報工学科、物質科学工学科、地球環境工学科、エネルギー科学科及び機械航空工学科並びに工学府物質創造工学専攻、物質プロセス工学専攻、材料物性工学専攻、化学システム工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、海洋システム工学専攻及びエネルギー量子工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則第３条第１項及び第６条第１項の規定にかかわらず、令和３年３月３１日に当該学科に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

九州大学学部通則（案）

平成１６年度九大規則第２号
制　　定：平成１６年　４月　１日
最終改正：令和　３年　３月　　日
（令和２年度九大規則第　号）

目次

第１章　総則（第１条～第６条）
第２章　入学、再入学、転学部、転入学及び編入学（第７条～第１４条）
第３章　教育課程、卒業の認定等（第１５条～第２５条）
第４章　退学、転学、留学及び休学（第２６条～第３３条）
第５章　表彰、除籍及び懲戒（第３４条～第３７条）
第６章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第３８条～第４２条）
第７章　科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生（第４３条～第４７条）
附則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号）第３条第５項の規定に基づき、学部の修業年限、教育課程、学生の入学、退学、卒業その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（修業年限等）

第２条　修業年限は、４年とする。

２　前項の規定にかかわらず、医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科の修業年限は、６年とする。　【学教法第８７条】

３　九州大学（以下「本学」という。）の科目等履修生として一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数に応じて相当期間を修業年限の２分の１を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

４　前項の修業年限の通算は、学部教授会の議を経て各学部長が定める。

（在学期間の限度）

第３条　在学期間の限度は、８年とする。

２　前項の規定にかかわらず、医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科の在学期間の限度は、１２年とする。

（定員）

第４条　各学部・学科の学生定員は、別表のとおりとする。

（学年及び学期）

第５条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終る。　【学教法規則第１６３条】

２　学期の区分は、各学部規則において定める。　【大学設置基準第２３条】

３　前項に定める各学期は、２つの授業期間に区分することができる。

（休業日）

第６条　休業日（授業を行わない日）は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日
国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
本学記念日　５月１１日
別に定める春季、夏季及び冬季の各休業日　【大学設置基準第２２条】

２　臨時の休業日は、その都度定める。

３　前２項の休業日において、特に必要がある場合には、授業を行うことがある。

第２章　入学、再入学、転学部、転入学及び編入学

（入学の時期）

第７条　学生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特に必要があり、かつ、教育上支障がないと認めるときは、学期の始めに入学させることができる。

【学教法規則第１６３条】

（入学資格）

第８条　本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則（平成１７年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和２６年文部省令第１３号。以下この条において「旧規程」という。）による大学入学資格検定（以下この条において「旧検定」という。）に合格した者を含む。）

(8)　学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第９０条第２項の規定により大学に入学した者であって、本学において、本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9)　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達したもの　【学教法第９０条、学教法規則第１５０条】

２　前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めるものを、本学に入学させることができる。

(1)　高等学校に２年以上在学した者

(2)　中等教育学校の後期課程、高等専門学校又は特別支援学校の高等部に２年以上在学した者

(3)　外国において、学校教育における９年の課程に引き続く学校教育の課程に２年以上在学した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程に２年以上在学した者

(5)　前項第５号に規定する専修学校の高等課程に同号に規定する文部科学大臣が定める日以後において２年以上在学した者

(6)　文部科学大臣が指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則第４条に定める試験科目の全部（試験の免除を受けた試験科目を除く。）について合格点を得た者（旧規程第４条に規定する受験科目の全部（旧検定の一部免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）について合格点を得た者を含む。）で１７歳に達したもの

【学教法第９０条、学教法規則第１５３条、第１５４条】

（入学の出願）

第９条　入学を志願する者は、所定の期日までに、入学志願票に、所定の入学検定料その他別に定める書類を添えて願い出なければならない。

（入学者選抜）

第１０条　前条の入学を志願する者については、入学者選抜を行う。　【学教法規則第１４４条】

（入学の手続及び許可）

第１０条の２　総長は、前条の入学者選抜の結果合格した者で、所定の期日までに入学料の納付（入学料の全部若しくは一部の免除又は徴収猶予を受けようとする者にあっては、当該免除又は徴収猶予に係る申請）及び所定の書類の提出を完了したものに入学を許可する。

（再入学）

第１１条　第２６条の規定により退学した後、再び同一学部に入学を志願する者については、選

考の上、再入学を許可することがある。
（転入学又は編入学）
第１２条　次の各号のいずれかに該当する者については、選考の上、転入学又は編入学を許可することができる。
(1)　他の大学の学生で、本学に転入学を志願する者
(2)　我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）で、本学に転入学を志願するもの
(3)　大学において単位（科目等履修生として修得した単位を除く。）を修得した者で、編入学を志願するもの
(4)　大学を卒業し、又は学校教育法第１０４条第４項の規定により学士の学位を授与された者で、編入学を志願するもの
(5)　短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、編入学を志願するもの
(6)　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願するもの
(7)　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）で、編入学を志願するもの
(8)　高等学校の専攻科の課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）で、編入学を志願するもの
（転学部）
第１２条の２　学部長は、本学の学生で転学部を志願する者について、学部教授会の議を経て選考の上、転学部を許可することができる。
（再入学、転入学及び編入学の手続及び許可）
第１３条　第１１条及び第１２条に規定する再入学、転入学及び編入学に係る手続及び許可については、第１０条の２の規定を準用する。
（再入学等における修業年限等の取扱い）
第１４条　第１１条から第１２条の２までの規定により再入学、転学部、転入学及び編入学（以下「再入学等」という。）を許可された者の修業年限及び既修得単位の認定については、学部教授会の議を経て各学部長が別に定める。
２　前項の規定により修業年限を定められた者の在学期間の限度は、当該修業年限の２倍とする。

第３章　教育課程、卒業の認定等

（教育課程）
第１５条　各学部の教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。
２　前項の基幹教育科目の履修については、別に定める。
３　第１項の教育課程及び卒業の認定については、各学部規則において定める。
（チャレンジ２１）
第１６条　本学に、学部ごとに編成する教育課程のほか、学部共通の課程を置く。
２　前項の課程をチャレンジ２１と称し、当該課程について必要な事項は、別に定める。
（授業の方法）
第１６条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２　各学部は、文部科学大臣が定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
３　各学部は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。第２項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。　【大学設置基準第２５条】

（単位の計算方法）
第１７条　各授業科目（基幹教育科目を除く。）の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
(1)　講義及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で各学部規則に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2)　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲で各学部規則に定める時間の授業をもって１単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、当該学部規則に定める時間の授業をもって１単位とすることができる。
(3)　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して当該学部規則に定める時間の授業をもって１単位とする。　【大学設置基準第２１条】
２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目について、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認める場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。　【大学設置基準第２１条】
３　基幹教育科目の各授業科目の単位の計算方法は、別に定める。
（成績評価基準等の明示等）
第１７条の２　学部長は、学生に対して、授業科目の授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
２　学部長は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。　【大学設置基準第２５条の２】
（成績評価）
第１７条の３　学生が履修した授業科目について、試験により成績評価を行う。ただし、平素の成績をもって、試験の成績に代えることができる。
２　各授業科目の成績は、A、B、C、D及びFの５種の評語をもってあらわし、A、B、C及びDを合格とし、Fを不合格とする。
A　基準を大きく超えて優秀である。
B　基準を超えて優秀である。
C　望ましい基準に達している。
D　単位を認める最低限の基準には達している。
F　基準を大きく下回る。
３　前項の規定にかかわらず、演習、実験、実習等の合否等により判定する授業科目は、R又はFの評語をもってあらわすことができるものとし、Rを合格とする。
４　前３項に定めるもののほか成績評価に関し必要な事項は、別に定める。
（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第１７条の４　学部長は、当該学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。　【大学設置基準第２５条の３】
（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）
第１８条　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、当該学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。　【大学設置基準第２８条】
２　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。　【大学設置基準第２８条】
（休学期間中の外国の大学又は短期大学における授業科目の履修）
第１９条　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得

したものとみなすことができる。
（大学以外の教育施設における学修）
第２０条　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより単位を与えることができる。
【大学設置基準第２９条】
（入学前の既修得単位等の認定）
第２１条　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準（昭和３１年文部省令第２８号）第３１条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位についても同様とする。
【大学設置基準第３０条】
２　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより単位を与えることができる。【大学設置基準第３０条】
（本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数の限度）
第２２条　第１８条から前条までの規定により本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第１１条及び第１２条に規定する再入学等の場合を除き、合わせて６０単位を超えないものとする。この場合において、入学前の既修得単位等で第１５条第１項に規定する基幹教育科目の授業科目の履修により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、３０単位を超えないものとする。
【大学設置基準第２８条、第２９条、第３０条】
（長期にわたる教育課程の履修）
第２３条　学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を学部長に申し出たときは、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。
【大学設置基準第３０条の２】
（卒業）
第２４条　第２条に規定する期間在学し、所定の授業科目及び単位数を履修修得した者は、卒業者とし、これに卒業証書を授与する。【大学設置基準第３２条】
２　前項の規定にかかわらず、本学の各学部(医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科を除く。)に３年以上在学した者で、各学部規則の定めるところにより、所定の授業科目及び単位数を優秀な成績で履修修得したものは、卒業者とし、卒業証書を授与することができる。
３　第１項の規定による卒業に必要な単位のうち、第１６条の３第２項及び第３項に規定する授業の方法により修得する単位数は、６０単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位が１２４単位（医学部医学科及び歯学部歯学科にあっては１８８単位、薬学部臨床薬学科にあっては１８６単位）を超える学部にあっては、その超える部分の単位数を６０単位に加えることができる。【学教法第８９条】
（学位の授与）
第２５条　卒業者には、九州大学学位規則(平成１６年度九大規則第８６号)の定めるところにより、学士の学位を授与するものとする。【学教法第１０４条】【学位規則第２条】
第４章　退学、転学、留学及び休学
（退学）
第２６条　学生が退学しようとするときは、学部長を経て総長に退学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。
（転学）
第２７条　他の大学に転学を志望する学生は、学部長を経て総長に転学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。
（留学）

第２８条　外国の大学又は短期大学に留学を志望する学生は、学部長に留学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。
２　前項の許可を得て留学した期間は、第２条の修業年限に通算することができる。
（休学）
第２９条　疾病又は経済的理由のため２月以上修学できない学生は、学部長の許可を得て、その学年の終りまで休学することができる。
２　前項のほか、特別の事情があると認められたときは、学部長は、休学を許可することができる。
第３０条　疾病のため修学が不適当と認められる学生に対しては、学部長は、休学を命ずることができる。
第３１条　休学期間中に、その事由が消滅したときは、学部長の許可を得て、復学することができる。
第３２条　休学した期間は、在学期間に算入しない。
第３３条　休学期間は、第２条に規定する修業年限の年数を超えることはできない。ただし、第１１条又は第１２条の規定により再入学等をした者の休学期間は、第１４条第１項に規定する修業年限の年数を超えることができない。
第５章　表彰、除籍及び懲戒
（表彰）
第３４条　学生に表彰に価する行為があったときは、総長が表彰することがある。
２　表彰に関し必要な事項は、別に定める。
（除籍）
第３５条　総長は、学部長の報告により学生が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、当該学生を除籍することができる。
(1)　欠席が長期にわたるとき。
(2)　成業の見込みがないとき。
(3)　長期間にわたり行方不明のとき。
(4)　第３条又は第１４条第２項に規定する在学期間の限度を超えたとき。
(5)　第３３条に規定する休学期間を超えてなお復学できないとき。
第３６条　総長は、学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、当該学生を除籍する。
(1)　入学料の一部を免除された者若しくは免除を不許可とされた者又は入学料の徴収を猶予された者若しくは徴収の猶予を不許可とされた者が、所定の期日までに入学料を納付しないとき。
(2)　授業料の納付を怠り、督促を受けてなお納付しないとき。
（懲戒）
第３７条　総長は、学生が本学の規則に違反し、又はその本分に反する行為があったときは、当該学生を懲戒する。
２　前項の場合における懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
３　懲戒の手続その他懲戒に関し必要な事項は、別に定める。
第６章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料
（検定料）
第３８条　入学（再入学、転入学又は編入学を含む。次条において同じ。）を志願する者は、検定料を納付しなければならない。
（入学料）
第３９条　入学に当たっては、入学料を納付しなければならない。
２　入学料の納付が困難な者に対し、その全部若しくは一部を免除し、又は徴収猶予することができる。
３　前項の入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。
（授業料）
第４０条　各年度に係る授業料は、次の表に掲げる納付区分ごとに、それぞれ授業料の年額の２分の１に相当する額を同表に掲げる納期に納付しなければならない。ただし、当該期の授業料

の免除、徴収猶予又は月割分納を申請した者の納期については、この限りでない。

納　付　区　分	納　期
前期（４月１日から９月３０日まで）	４月３０日まで
後期（１０月１日から３月３１日まで）	１０月３１日まで

２　休学が前項に定めた授業料納付区分の全期間である場合は､その期間分の授業料を免除する。
３　経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀と認められる者その他やむを得ない特別の事情があると認められる者については、授業料の全部若しくは一部を免除し、徴収猶予し、又は月割分納を許可することができる。
４　前項の授業料の免除、徴収猶予及び月割分納に関し必要な事項は、別に定める。

（寄宿料）

第４１条　寄宿舎に入居した者は、所定の期日までに、寄宿料を納付しなければならない。
２　前項の規定にかかわらず、特別の事情があると認められる者については、寄宿料を免除することができる。

（検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額等）

第４２条　検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額、徴収方法その他の必要な事項については、国立大学法人九州大学における授業料その他の費用に関する規程（平成１６年度九大会規第１２号。以下「費用規程」という。）に定める。

第７章　科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生

（科目等履修生）

第４３条　本学の学生以外の者で、学部の授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、科目等履修生として入学を許可することがある。

【大学設置基準第３１条】

２　科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第４４条　本学において、学部で開講する特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、当該学部の教育研究上支障がない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
２　聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

（特別聴講学生）

第４５条　他の大学又は外国の大学の学生で、本学において、学部で開講する特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は外国の大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。
２　特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

（研究生及び専修生）

第４６条　学部において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、当該学部の教育研究上支障がない場合に限り、選考の上、研究生又は専修生として入学を許可することがある。
２　研究生及び専修生に関し必要な事項は、別に定める。

（授業料等）

第４７条　科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生の検定料、入学料及び授業料の額、徴収方法その他の必要な事項については、費用規程に定める。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　平成１６年３月３１日に本学に在学し、平成１６年４月１日以降も引き続き在学する者の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州大学通則（昭和２４年６月１日施行）等の規定によるものとする。

附　則（平成１６年度九大規則第１９４号）
この規則は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則（平成１７年度九大規則第３１号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則（平成１８年度九大規則第３８号）
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則（平成１９年度九大規則第３２号）
この規則は、平成１９年１２月２６日から施行する。
附　則（平成１９年度九大規則第５９号）
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　改正後の九州大学学部通則第１６条の２の規定は、平成２０年度に九州大学に入学する者から適用する。
附　則（平成２０年度九大規則第３８号）
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則（平成２１年度九大規則第５０号）
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第８３号）
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第８１号）
この規則は、平成２４年４月１日から施行する。
附　則（平成２４年度九大規則第４７号）
この規則は、平成２５年４月１日から施行する。
附　則（平成２５年度九大規則第８４号）
１　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。
２　この規則による改正後の九州大学学部通則第１５条及び第２２条の規定は、平成２６年度に九州大学に入学する者から適用し、平成２６年３月３１日に九州大学に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。
附　則（平成２６年度九大規則第７８号）
この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（平成２７年度九大規則第３６号）
この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
附　則（平成２８年度九大規則第８６号）
この規則は、平成２９年４月１日から施行する。
附　則（平成２９年度九大規則第６号）
この規則は、平成３０年４月１日から施行する。
附　則（平成２９年度九大規則第６８号）
１　この規則は、平成３０年４月１日から施行する。
２　この規則による改正後の九州大学学部通則は、平成３０年度に九州大学に入学する者から適用し、平成３０年３月３１日に九州大学に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。
附　則（平成３０年度九大規則第６１号）
この規則は、平成３１年４月１日から施行する。
附　則（令和元年度九大規則第２５号）
この規則は、令和２年４月１日から施行する。
附　則（令和２年度九大規則第　　号）
この規則は、令和３年４月１日から施行する。

別表（第４条関係）

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	
共創学部	共創学科	105	105	105	105	－	－	420
文学部	人文学科	151	151	151	151	－	－	604
教育学部		46	46	46	46	－	－	184
法学部		189	189	189	189	－	－	756
経済学部	経済・経営学科	141	141	141 (10)	141 (10)	－	－	564 (20)
	経済工学科	85	85	85 (10)	85 (10)	－	－	340 (20)
	計	226	226	226 (20)	226 (20)	－	－	904 (40)
理学部	物理学科	55	55	55	55	－	－	220
	化学科	62	62	62	62	－	－	248
	地球惑星科学科	45	45	45	45	－	－	180
	数学科	50	50	50 (5)	50 (5)	－	－	200 (10)
	生物学科	46	46	46	46	－	－	184
	計	258	258	258 (5)	258 (5)	－	－	1,032 (10)
医学部	医学科	110	110	111	111	111	111	664
	生命科学科	12	12	12	12	－	－	48
	保健学科	134	134	134	134	－	－	536
	計	256	256	257	257	111	111	1,248
歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬科学科	49	49	49	49	－	－	196
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180

	計	79	79	79	79	30	30	376
工学部	電気情報工学科	153	－	－	－	－	－	153
	材料工学科	53	－	－	－	－	－	53
	応用化学科	72	－	－	－	－	－	72
	化学工学科	38	－	－	－	－	－	38
	融合基礎工学科	57	－	－	－	－	－	57
	機械工学科	135	－	－	－	－	－	135
	航空宇宙工学科	29	－	－	－	－	－	29
	量子物理工学科	38	－	－	－	－	－	38
	船舶海洋工学科	34	－	－	－	－	－	34
	地球資源システム工学科	34	－	－	－	－	－	34
	土木工学科	77	－	－	－	－	－	77
	建築学科	58	－	－	－	－	－	58
	（建築学科）	－	58	58	58	－	－	174
	（電気情報工学科）	－	153	153	153	－	－	459
	（物質科学工学科）	－	163	163	163	－	－	489
	（地球環境工学科）	－	145	145	145	－	－	435
	（エネルギー科学科）	－	95	95	95	－	－	285
	（機械航空工学科）	－	164	164	164	－	－	492
	計	778	778	778	778	－	－	3,112
芸術工学部	芸術工学科	187	187	－	－	－	－	374
	（環境設計学科）	－	－	35	35	－	－	70
	（工業設計学科）	－	－	45	45	－	－	90
	（画像設計学科）	－	－	35	35	－	－	70

	（音響設計学科）	―	―	35	35	―	―	70
	（芸術情報設計学科）	―	―	37	37	―	―	74
	計	187	187	187	187	―	―	748
農学部	生物資源環境学科	226	226	226	226	―	―	904
総計		2,554	2,554	2,555 （25）	2,555 （25）	194	194	10,606 （50）

（備考）

1　学生定員の（　）を付したものは３年次編入学定員で外数

2　（　）を付した学科は、学部の改組により、学生募集を停止したものである。

3　外国人である学生は、定員外とすることができる。

九州大学学部通則の一部を改正する規則

令和２年度九大規則第　　号
制　　定：令和　３年　３月　　日

工学部を改組することその他改組の年次進行に伴い、九州大学学部通則（平成１６年度九大規則第２号）の一部を次のように改正する。

（新）	（旧）
（略） （定員） 第４条　各学部・学科の学生定員は、別表のとおりとする。 （略） 別表（第４条関係）　（別紙のとおり）	（略） （定員） 第４条　（同左） （略） 別表（第４条関係）　（別紙のとおり）

附　則

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

（別紙）

新

別表（第４条関係）

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	
共創学部	共創学科	105	105	105	105	－	－	420
文学部	人文学科	151	151	151	151	－	－	604
教育学部		46	46	46	46	－	－	184
法学部		189	189	189	189	－	－	756
経済学部	経済・経営学科	141	141	141 (10)	141 (10)	－	－	564 (20)
	経済工学科	85	85	85 (10)	85 (10)	－	－	340 (20)
	計	226	226	226 (20)	226 (20)	－	－	904 (40)
理学部	物理学科	55	55	55	55	－	－	220
	化学科	62	62	62	62	－	－	248
	地球惑星科学科	45	45	45	45	－	－	180
	数学科	50	50	50 (5)	50 (5)	－	－	200 (10)
	生物学科	46	46	46	46	－	－	184
	計	258	258	258 (5)	258 (5)	－	－	1,032 (10)
医学部	医学科	110	110	111	111	111	111	664
	生命科学科	12	12	12	12	－	－	48
	保健学科	134	134	134	134	－	－	536
	計	256	256	257	257	111	111	1,248
歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬化学科	49	49	49	49	－	－	196
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180

	計	79	79	79	79	30	30	376
工学部	電気情報工学科	153	—	—	—	—	—	153
	材料工学科	53	—	—	—	—	—	53
	応用化学科	72	—	—	—	—	—	72
	化学工学科	38	—	—	—	—	—	38
	融合基礎工学科	57	—	—	—	—	—	57
	機械工学科	135	—	—	—	—	—	135
	航空宇宙工学科	29	—	—	—	—	—	29
	量子物理工学科	38	—	—	—	—	—	38
	船舶海洋工学科	34	—	—	—	—	—	34
	地球資源システム工学科	34	—	—	—	—	—	34
	土木工学科	77	—	—	—	—	—	77
	建築学科	58	—	—	—	—	—	58
	（建築学科）	—	58	58	58	—	—	174
	（電気情報工学科）	—	153	153	153	—	—	459
	（物質科学工学科）	—	163	163	163	—	—	489
	（地球環境工学科）	—	145	145	145	—	—	435
	（エネルギー科学科）	—	95	95	95	—	—	285
	（機械航空工学科）	—	164	164	164	—	—	492
	計	778	778	778	778	—	—	3,112
芸術工学部	芸術工学科	187	187	—	—	—	—	374
	（環境設計学科）	—	—	35	35	—	—	70
	（工業設計学科）	—	—	45	45	—	—	90

	（画像設計学科）	－	－	35	35	－	－	70
	（音響設計学科）	－	－	35	35	－	－	70
	（芸術情報設計学科）	－	－	37	37	－	－	74
	計	187	187	187	187	－	－	748
農学部	生物資源環境学科	226	226	226	226	－	－	904
総計		2,554	2,554	2,555 (25)	2,555 (25)	194	194	10,606 (50)

（略）

旧

別表（第４条関係）

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	
共創学部	共創学科	105	105	105	－	－	－	315
文学部	人文学科	151	151	151	160	－	－	613
教育学部		46	46	46	50	－	－	188
法学部		189	189	189	200	－	－	767
経済学部	経済・経営学科	141	141	141 (10)	150 (10)	－	－	573 (20)
	経済工学科	85	85	85 (10)	90 (10)	－	－	345 (20)
	計	226	226	226 (20)	240 (20)	－	－	918 (40)
理学部	物理学科	55	55	55	59	－	－	224
	化学科	62	62	62	67	－	－	253
	地球惑星科学科	45	45	45	48	－	－	183
	数学科	50	50	50 (5)	54 (5)	－	－	204 (10)
	生物学科	46	46	46	49	－	－	187
	計	258	258	258 (5)	277 (5)	－	－	1,051 (10)
医学部	医学科	110	111	111	111	111	111	665
	生命科学科	12	12	12	12	－	－	48
	保健学科	134	134	134	137	－	－	539
	計	256	257	257	260	111	111	1,252
歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬化学科	49	49	49	50	－	－	197
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180

	計	79	79	79	80	30	30	377
工学部	建築学科	58	58	58	60	－	－	234
	電気情報工学科	153	153	153	158	－	－	617
	物質科学工学科	163	163	163	168	－	－	657
	地球環境工学科	145	145	145	150	－	－	585
	エネルギー科学科	95	95	95	99	－	－	384
	機械航空工学科	164	164	164	169	－	－	661
	計	778	778	778	804	－	－	3,138
芸術工学部	芸術工学科	187	－	－	－	－	－	187
	（環境設計学科）	－	35	35	38	－	－	108
	（工業設計学科）	－	45	45	48	－	－	138
	（画像設計学科）	－	35	35	38	－	－	108
	（音響設計学科）	－	35	35	38	－	－	108
	（芸術情報設計学科）	－	37	37	40	－	－	114
	計	187	187	187	202	－	－	763
農学部	生物資源環境学科	226	226	226	229	－	－	907
総計		2,554	2,555	2,555 (25)	2,555 (25)	194	194	10,607 (50)

（略）

九州大学学位規則

平成１６年度九大規則第８６号
施　　行：平成１６年　４月　１日
最終改正：令和　２年　３月３１日
（令和元年度九大規則第３３号）

（趣旨）
第１条　この規則は、学位規則（昭和２８年文部省令第９号）により定めるように規定されている事項その他九州大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。
（学位）
第２条　本学が授与する学位は、学士、修士及び博士とする。
２　本学が授与する専門職学位は、修士（専門職）及び法務博士（専門職）とする。
（学士の学位授与の要件）
第３条　学士の学位授与は、本学の課程を修了し、卒業を認定された者に対し行うものとする。
（修士の学位授与の要件）
第４条　修士の学位授与は、本学大学院の学府の修士課程を修了した者に対し行うものとする。
２　前項に定めるもののほか、修士の学位は、九州大学大学院通則（平成１６年度九大規則第３号。以下「大学院通則」という。）第２条第５項に定める一貫制博士課程（以下「一貫制博士課程」という。）において、大学院通則第２７条及び第２７条の２に規定する修了要件を満たした者に対し授与することができる。
（博士の学位授与の要件）
第５条　博士の学位授与は、本学大学院の学府の博士課程を修了した者に対し行うものとする。
（専門職学位の授与の要件）
第６条　専門職学位の授与は、本学大学院の学府の専門職大学院の課程を修了した者に対し行うものとする。
（修士の学位授与）
第７条　修士の学位授与に関して必要な事項は、各学府規則で定める。
（博士論文の提出）
第８条　博士論文（以下「論文」という。）は、博士後期課程にあっては２年以上（法科大学院の課程を修了した者が博士後期課程に入学した場合にあっては１年以上）、医学系学府医学専攻、歯学府及び薬学府臨床薬学専攻の博士課程（以下「医学系、歯学及び薬学の博士課程」という。）にあっては３年以上、一貫制博士課程にあっては４年以上在学し、各学府規則に定める所要の授業科目の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けなければ、提出することができない。
２　前項の規定にかかわらず、優れた研究業績を上げた者については、在学期間が博士後期課程にあっては２年、医学系、歯学及び薬学の博士課程にあっては３年、一貫制博士課程にあっては４年に満たなくても論文を提出させることができる。
３　論文は、在学期間中に提出するものとし、その期日は、各学府規則で定める。ただし、博士後期課程、医学系、歯学及び薬学の博士課程又は一貫制博士課程に所定の年限在学し、各学府規則に定める所要の授業科目の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学の上、別に定める期間内に論文を提出することができる。
４　論文は、論文審査願に、論文目録、論文要旨及び履歴書各１通を添え、当該学府長を経て総長に提出するものとする。
第９条　論文は、１編とし、２通を提出するものとする。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。
２　総長は、審査のため必要があるときは、論文の副本又は訳文、模型、標本等の提出を求めることがある。
３　受理した論文は、返還しない。
（論文の審査）
第１０条　総長は、論文を受理したときは、学府教授会にその審査を付託するものとする。
２　前項の審査は、論文を受理した後１年以内に終了するものとする。

第１１条　学府教授会は、前条第１項により付託された論文を審査するため、論文調査委員（以下「調査委員」という。）を定めて、その論文の調査及び最終試験を行わせる。
２　調査委員は、３名以上とし、必要に応じ、他の大学院又は研究所等の教員等を加えることができる。
第１２条　最終試験は、論文を中心とし、これに関連のある授業科目について、口頭又は筆答により行うものとする。
第１３条　調査委員は、論文調査及び最終試験を終了したときは、調査及び最終試験の結果の要旨を、文書をもって、学府教授会に報告しなければならない。
第１４条　学府教授会は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審査する。
２　前項の審査は、構成員の３分の２以上が出席し、出席者の３分の２以上の賛成があることを必要とする。
（審査結果の報告）
第１５条　学府教授会は、前条の審査の結果を文書をもって、総長に報告しなければならない。
（論文提出による博士）
第１６条　第５条に定めるもののほか、博士の学位授与は、本学大学院の学府の行う論文の審査に合格し、かつ、本学大学院の学府の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認（以下「学力の確認」という。）をされた者に対し行うことができる。
２　第８条第３項ただし書に規定する者が、退学の上、同項ただし書に定める期間を経過した後に論文を提出した場合も、前項の例による。
３　前２項により博士の学位を請求しようとする者は、学位申請書に、学位論文２通、同目録、論文要旨及び履歴書各１通並びに総長が定める審査手数料を添え、関係学府を経て、総長に提出しなければならない。
４　既納の審査手数料は、返還しない。
５　第９条の規定は、第３項の規定による学位の請求に準用する。
第１７条　総長は、前条による論文を受理したときは、学府教授会にその審査を付託するものとする。
２　学府教授会は、調査委員を定めて、その論文の調査及び学力の確認を行わせる。
３　第１０条第２項及び第１１条第２項の規定は、前２項の場合に準用する。
第１８条　論文の調査にあたっては、原則として試験を行う。
２　試験は、論文を中心とし、これに関連のある授業科目について、口頭又は筆答により行うものとする。
第１９条　学力の確認は、試問による。
２　試問は、口頭又は筆答によるものとし、専攻分野に関し本学大学院の学府の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有し、かつ、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力を有するか否かについて行う。この場合、外国語を課すものとし、その種類は、各学府教授会において定める。
３　第１項の規定にかかわらず、充分な研究歴と顕著な研究業績を有する者については、試問以外の方法により学力の確認を行うことができる。
第２０条　前２条の規定による論文の調査及び学力の確認の結果の取扱いについては、第１３条から第１５条までの規定を準用する。
（専門職学位の授与）
第２１条　専門職学位の授与に関して必要な事項は、専門職大学院の課程を置く学府の各学府規則で定める。
（学位記の授与）
第２２条　総長は、第１５条（第２０条において準用する場合を含む。）の報告を踏まえ、学位を授与すべきか否かを決定し、博士の学位を授与すべき者に学位記を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。
２　総長は、卒業並びに修士課程及び専門職大学院の課程修了の審査結果の報告を踏まえ、学位を授与すべきか否かを決定し、学士若しくは修士の学位又は専門職学位を授与すべき者に学位記を授与する。
（学位授与の報告等）

第２３条　総長は、前条第１項により博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から３月以内に、所定の様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するとともに、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

（学位論文の公表）

第２４条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から１年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

２　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学府の承認を得て、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該学府は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

３　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

４　第１項及び第２項により論文を公表する場合には、本学において審査を受けた学位論文であることを、明記しなければならない。

第２５条　本学の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「九州大学」と付記しなければならない。ただし、共同教育課程に係る学位にあっては、本学に加え、当該共同教育課程を編成する他の大学の名称を付記しなければならない。

（学位の名称）

第２６条　第２条の学位（法務博士（専門職）を除く。）を授与するに当たっては、専攻分野の名称を付記するものとし、学位の名称は、学士にあっては別表第１のとおりとし、修士の学位及び博士の学位にあっては別表第２のとおりとし、専門職学位にあっては、別表第３のとおりとする。

（学位授与の取消）

第２７条　本学において学位を授与された者が不正な方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位の栄誉を汚辱する行為があったときは、総長は、教育研究評議会の議を経て、既に与えた学位を取り消し、学位記を返納させ、かつ、その旨を公表するものとする。

２　教育研究評議会において前項の決定を行うには、構成員の３分の２以上が出席し、出席者の４分の３以上の賛成があることを必要とする。

（学位記等の様式）

第２８条　学位記及び学位申請関係書類の様式は、別記様式のとおりとする。

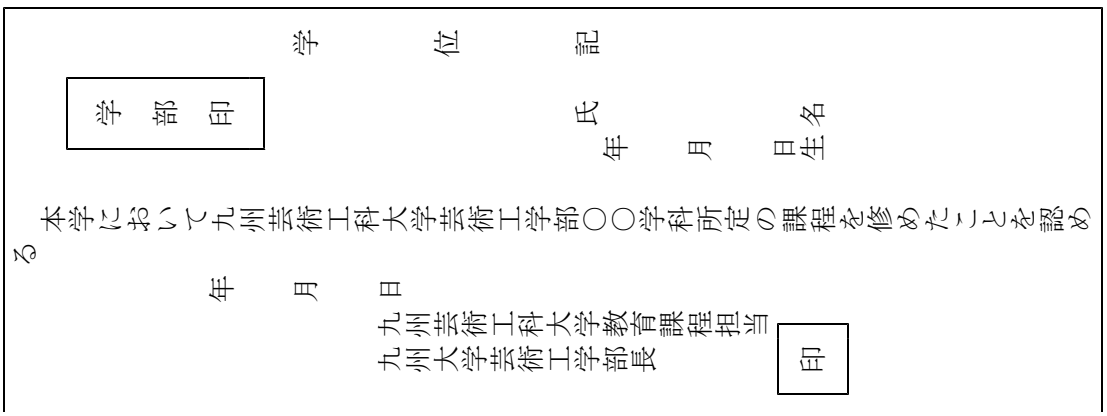
附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

２　平成１６年３月３１日に本学に在学し、平成１６年４月１日以降も引き続き在学する者（２１世紀プログラムの教育を受ける学生を除く。）については、九州大学学位規則（昭和３２年１１月１９日施行）の規定によるものとする。

３　九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号）附則第４項に規定する者に授与する学位記については、第２８条の規定にかかわらず、次の様式によるものとする。

(1) 九州芸術工科大学芸術工学部の課程を修めて卒業した者に授与する学位記の様式



本学芸術工学部長の認定により学士（芸術工学）の学位を授与する

大　学　印　　九州大学総長　　印

第　　号

(2) 九州芸術工科大学大学院の博士前期課程を修めて修士課程を修了した者に授与する学位記の様式

学　位　記

学　府　印　　氏　名
年　月　日生

本学において九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻の博士前期課程を修めたことを認める

年　月　日

九州芸術工科大学大学院教育課程担当
九州大学大学院芸術工学府長　印

本学大学院芸術工学府長の認定により修士（芸術工学）の学位を授与する

大　学　印　　九州大学総長　　印

芸修第　　号

(3) 九州芸術工科大学大学院の博士課程を修めて博士課程を修了した者に授与する学位記の様式

学　位　記

学　府　印　　氏　名
年　月　日生

本学において九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認める

年　月　日

九州芸術工科大学大学院教育課程担当
九州大学大学院芸術工学府長　印

本学大学院芸術工学府長の認定により博士（○○）の学位を授与する

大　学　印　　九州大学総長　　印

芸博甲第　　号

4　２１世紀プログラムの課程を修了した者に授与する学位の名称は、第２６条の規定にかかわらず、学士（学術）とし、学位記については、第２８条の規定にかかわらず、次の様式によるものとする。

第　　号

学　　位　　記

氏　名
年　月　日　生

大学印

本学所定の２１世紀プログラムの課程を修めたので本学の卒業を認め学士（学術）の学位を授与する

年　月　日

九州大学総長

印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth:○○
the Degree of
Bachelor of Arts and Science
having completed the prescribed program
of the 21st Century Program
（○○）
Date

大学印

Name
President

５　博士課程（博士課程教育リーディングプログラム）を修了した者に授与する学位の名称は、第２８条の規定にかかわらず、次の様式によるものとする。

△博甲第　　号

学　　位　　記

氏　　名
年　月　日　生

本学大学院○○学府○○専攻の博士課程（□□□□□□□□）において所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九　州　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Doctor of ○○
having passed the prescribed final examination
and completed a doctoral dissertation
in the Graduate School of ○
(○○)
with additional completion of □□□□
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入し、□印の箇所は博士課程教育リーディングプログラムの名称を記入する。

附　則（平成１６年度九大規則２０３号）
この規則は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則（平成１７年度九大規則第５５号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則（平成１８年度九大規則第１９号）
この規則は、平成１８年６月１日から施行する。
附　則（平成１８年度九大規則第１１８号）
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則（平成２０年度九大規則第７４号）
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第１１号）
1　この規則は、平成２２年６月１５日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。
2　平成２２年３月３１日に九州大学大学院薬学府の修士課程に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第２の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附　則（平成２２年度九大規則第１５１号）

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則（平成２３年度九大規則第１１３号）

この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第４号）

この規則は、平成２４年５月１日から施行し、平成２４年３月１４日から適用する。

附　則（平成２４年度九大規則第３５号）

この規則は、平成２４年１２月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第９２号）

１　この規則は、平成２５年４月１日（以下「施行日」という。）から施行する。

２　この規則による改正後の九州大学学位規則（以下「新規則」という。）第２３条の規定は、施行日以後に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

３　新規則第２４条の規定は、施行日以後に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

４　新規則別記様式の規定は、施行日以後に授与する学位記について適用し、同日前に授与する学位記については、なお従前の例による。

附　則（平成２５年度九大規則第１１６号）

１　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。

２　平成２６年３月３１日までに九州大学大学院比較社会文化学府に入学した者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２６年度九大規則第１４１号）

この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年度九大規則第５４号）

この規則は、平成２８年１０月１日から施行する。

附　則（平成２８年度九大規則第１０６号）

この規則は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則（平成２９年度九大規則第１０１号）

１　この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

２　平成３０年３月３１日に九州大学に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成３０年度九大規則第５３号）

この規則は、平成３１年１月１５日から施行する。

附　則（平成３０年度九大規則第８７号）

この規則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則（令和元年度九大規則第３３号）

この規則は、令和２年４月１日から施行する。

別表第１（学士の学位）

学　　部	学　位　の　名　称
共創学部	学士（学術）
文学部	学士（文学）
教育学部	学士（教育学）
法学部	学士（法学）
経済学部	学士（経済学）
理学部	学士（理学）
医学部	学士（医学） 学士（生命医科学） 学士（看護学） 学士（保健学）
歯学部	学士（歯学）
薬学部	学士（創薬科学） 学士（薬学）
工学部	学士（工学）
芸術工学部	学士（芸術工学）
農学部	学士（農学）

別表第２（修士の学位及び博士の学位）

学　　府	学　位　の　名　称	
	修　　士	博　　士
人文科学府	修士（文学）	博士（文学）
地球社会統合科学府	修士（学術） 修士（理学）	博士（学術） 博士（理学）
人間環境学府（臨床実践心理学専攻を除く。）	修士（人間環境学） 修士（文学） 修士（教育学） 修士（心理学） 修士（工学）	博士（人間環境学） 博士（文学） 博士（教育学） 博士（心理学） 博士（工学）
法学府	修士（法学）	博士（法学）

経済学府（産業マネジメント専攻を除く。）	修士（経済学）	博士（経済学）
理学府	修士（理学）	博士（理学）
数理学府	修士（数理学） 修士（技術数理学）	博士（数理学） 博士（機能数理学）
システム生命科学府	修士（システム生命科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学）	博士（システム生命科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（情報科学）
医学系学府（医療経営・管理学専攻を除く。）	修士（医科学） 修士（看護学） 修士（保健学）	博士（医学） 博士（看護学） 博士（保健学）
歯学府	――――――	博士（歯学） 博士（臨床歯学） 博士（学術）
薬学府	修士（創薬科学）	博士（創薬科学） 博士（臨床薬学）
工学府	修士（工学）	博士（工学）
芸術工学府	修士（芸術工学） 修士（デザインストラテジー）	博士（芸術工学） 博士（工学）
システム情報科学府	修士（情報科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（学術）	博士（情報科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（学術）
総合理工学府	修士（理学） 修士（工学） 修士（学術）	博士（理学） 博士（工学） 博士（学術）
生物資源環境科学府	修士（農学）	博士（農学）
統合新領域学府	修士（感性学） 修士（芸術工学） 修士（工学） 修士（オートモーティブサイエンス） 修士（ライブラリーサイエンス） 修士（学術）	博士（感性学） 博士（芸術工学） 博士（工学） 博士（オートモーティブサイエンス） 博士（ライブラリーサイエンス） 博士（学術）

別表第３（専門職学位）

専　門　職　大　学　院	学　　位　　の　　名　　称
人間環境学府実践臨床心理学専攻	臨床心理修士（専門職）
経済学府産業マネジメント専攻	経営修士（専門職）
医学系学府医療経営・管理学専攻	医療経営・管理学修士(専門職)
法科大学院 （法務学府実務法学専攻）	法務博士（専門職）

別記様式

(1)　第３条により本学を卒業した者に授与する学位記の様式

第　　号

学　　位　　記

氏　　名

年　月　日　生

大学印

本学○○学部○○学科所定の課程を修めたことを認める

九州大学○○学部長

印

本学○○学部長の認定により本学を卒業したことを認め学士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九州大学総長

印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Bachelor of ○○
having completed the prescribed program
of the School of ○○
(○○)
Date

Name

大学印

Dean of the School of ○○
Name
President

(2)　第４条１項により修士課程（共同教育課程を除く。）を修了した者に授与する学位記の様式

△修第　　号

学　位　記

氏　名
年　月　日　生

本学大学院○○学府○○専攻の修士課程を修了したので修士（○○）の学位を授与する

年　月　日

九　州　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Master of ○○
having completed the Master's Program
in the Graduate School of ○○
(○○)
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入する。

(3)　第４条１項により修士課程（共同教育課程）を修了した者に授与する学位記の様式

△修第　　号

学　位　記

氏　名
年　月　日　生

九州大学大学院○○学府及び□□大学大学院◇◇研究科の◎◎専攻の修士課程を修了したので修士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九　州　大　学　　大学印

□　□　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Master of ○○
having completed the Master's Program
in the Graduate School of ○○, Kyushu University
and the Graduate School of △△,□□
(◎◎)
Date

大学印　Name
President of Kyushu University

大学印　Name
President of □□ University

備考１　△印の箇所は学府名の略号を記入する。
２　□印の箇所は共同教育課程を構成する大学（本学を除く。）、◇印の箇所は構成大学の共同教育課程を編成する研究科の名称を記入する。
３　◎印の箇所は共同教育課程おける専攻の名称を記入する。

(4)　第４条２項により修士課程の修了に相当する要件を満たした者に授与する学位記の様式

△修第　　号

学　　位　　記

氏　　名
年　月　日　生

本学大学院○○学府○○専攻において修士課程の修了に相当する要件を満たしたので修士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九　州　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Master of ○○
having completed the requirement
for a Master's Qualification
in the Graduate School of ○
(○○)
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入する。

(5)　第５条により博士課程を修了した者に授与する学位記の様式

△博甲第　　号

学　　位　　記

氏　　名
年　月　日　生

本学大学院○○学府○○専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格をしたので博士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九　州　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Doctor of ○○
having passed the prescribed final examination
and completed a doctoral dissertation
in the Graduate School of ○
(○○)
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入する。

(6)　第６条により専門職学位課程を修了した者（法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を修了した者を除く。）に授与する学位記の様式

△専第　　号

学　位　記

氏　名
年　月　日　生

本学大学院○○学府○○専攻の専門職学位課程を修了したので修士（専門職）の学位を授与する

年　月　日

九　州　大　学

大学印

No.
KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Master of ○○
having completed the Professional Degree Program
in the Graduate School of ○
(○○)
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入する。

(7)　第６条により法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を修了した者に授与する学位記の様式

法専第　　号

学　位　記

氏　名
年　月　日　生

本学法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を修了したので法務博士（専門職）の学位を授与する

年　月　日

九　州　大　学

大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Juris Doctor
having completed the Professional Degree Program
in the Law School
(Legal Practice)
Date

大学印

Name
President

(8)　第１６条により博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認をされた者に授与する学位記の様式

△博乙第　　号

学　　位　　記

氏　　名
年　月　日　生

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する

年　　月　　日

九　州　大　学　　大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Doctor of ○○
having submitted a doctoral dissertation and
successfully fulfilled all the requirements
Date

大学印

Name
President

備考　△印の箇所は学府名の略号を記入する。

(9)　学位申請関係書類の様式

ア　第８条第４項による学位論文審査願様式

年　　月　　日

九州大学総長殿

○○学府○○学専攻
○○年入学
氏名印

学位論文審査願

このたび博士の学位を受けたいので、九州大学学位規則第８条により、下記のとおり関係書類を添え、学位論文を提出いたしますから御審査ください。

記

1　主論文　　１編　　冊　２通
2　参考論文　　編　　冊　１通
3　論文目録
4　論文要旨
5　履歴書

イ　第１６条第３項による学位申請書様式

年　　月　　日

九州大学総長殿

本籍：
氏名：　　印

学位申請書

貴学学位規則第１６条により、博士の学位を受けたいので、下記のとおり関係書類を添え、学位論文を提出いたします。
なお所定の手数料を納入いたします。

記

1　主論文　　１編　　冊　２通
2　参考論文　　編　　冊　１通
3　論文目録
4　論文要旨
5　履歴書

ウ　添付書類の様式
①　論文目録様式

論　文　目　録　　区分 甲乙

氏　　名	

主論文１編〇冊

題　名

（印刷公表の方法及びその時期（未公開の場合は予定を記入））

参考論文　　○編○冊

題　名
1
2　（同上）
3

備考

1　論文題名が外国語の場合は、訳を付すること。

2　未公表の論文の場合は、原稿の枚数を記入すること。

3　参考論文が 2 以上ある場合は、その題名を列記すること。

② 履歴書様式

履　歴　書　　区分 甲乙

（ふりがな） 氏　　名 生 年 月 日	年　月　日生	男 女
本　　籍 （都道府県名）	都 道 府 県	
現　住　所	都道府県　区市郡　町村　番地	

学　歴
年　月　日
年　月　日
職　歴
年　月　日
年　月　日
研究歴
年　月　日
年　月　日

上記のとおり相違ありません。
年　月　日
氏　　名　　印

備考

1　学歴は、新制大学卒業以後又は最終学歴を記載すること。

2　研究歴には研究した事項とその期間を明記すること。なお、学歴又は職歴に記載した期間中に研究歴に当たるものがある場合は、それについても記入すること。

九州大学工学部規則（案）

平成１６年度九大規則第１１５号
制　　定：平成１６年　４月　１日
最終改正：令和　３年　　月　　日
（令和２年度九大規則第　　号）

第１章　趣旨

第１条　この規則は、九州大学学部通則（平成１６年度九大規則第２号。以下「通則」という。）により各学部規則において定めるように規定されている事項その他工学部の教育に関し必要な事項を定めるものとする。

第１条の２　工学部は、エネルギー･資源・物質・環境・システムに関する専門基礎知識と様々な事象に対する理解力と説明能力を教授育成するとともに、幅広い教養と視野をもって工学に携わる人材を組織的に養成する。

第２章　コース

第２条　工学部の次の表の左欄に掲げる学科に、それぞれ右欄に掲げるコースを置く。

学　　科	コース
電気情報工学科	計算機工学コース 電子通信工学コース 電気電子工学コース
材料工学科	
応用化学科	機能物質化学コース 分子生命工学コース
化学工学科	
融合基礎工学科	物質材料コース 機械電気コース
機械工学科	
航空宇宙工学科	
量子物理工学科	
船舶海洋工学科	
地球資源システム工学科	
土木工学科	
建築学科	

２　工学部の次の表の左欄に掲げる学科に、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程をいう。以下同じ。）として、それぞれ右欄に掲げる国際コースを置く。

学　　科	国際コース
電気情報工学科	（電気情報工学コース）国際コース
応用化学科	（応用化学コース）国際コース
機械工学科及び航空宇宙工学科	（機械航空工学コース）国際コース
土木工学科	（土木工学コース）国際コース

第３章　入学及び再入学等

第３条　学生の入学に関し必要な事項は、別に定める。

２　学生の再入学、転学部、転入学及び編入学（工学部融合基礎工学科への編入学を除く。以下「再入学等」という。）については、工学部の収容定員に余裕がある場合又は特に必要と認める場合に、教授会の議を経て、許可することができる。

３　前項の規定により再入学等を許可された者及び工学部融合基礎工学科に編入学した者の修業年限、単位修得の方法等については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

第４条　科目等履修生として本学において一定の単位を修得した後に入学する者の修業年限の通算については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

第４条の２　学生が、通則第２３条の規定に基づき、標準修業年限を超えて一定の期間にわた　り計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を学部長に申し出たときは、教授会の議を経て学部長が定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

第４章　学期及び教育課程

第５条　学年を分けて次の２学期とする。

前期　４月１日から９月３０日まで

後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

２　前項に定める各学期の授業期間は、別に定める。

第６条　工学部における教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。

２　基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第１のとおりとする。

３　専攻教育科目に関する授業科目及び単位数は、別表第２のとおりとする。

４　専攻教育科目を工学部共通科目、学科群共通科目、学科・専攻科目及び卒業研究に分ける。

５　単位計算の基準は、講義及び演習については１５時間又は３０時間をもって１単位、実験及び実習については３０時間又は４５時間をもって１単位とする。

第７条　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第３及び別表第４とおりとする。

２　第２条第２項に掲げる国際コースの学生は、学科において教育上有益と認めるときは、別表第３及び別表第４の授業科目以外の授業科目を、自由科目（修得した単位を第１５条の２第１項に規定する卒業の要件となる単位数に算入しない科目をいう。）として履修することができる。

第８条　学生は、各学期の始めに、履修しようとする授業科目を学部長に届け出なければならない。

第９条　３年次以降に開講される専攻教育科目を履修するには、２年次終了までに、基幹教育科目のうち学科又はコースごとに定める授業科目の単位数を修得しておかなければならない。

第５章　単位修得及び卒業

第１０条　各授業科目の単位修得の認定は、教授会の議を経て、学部長がこれを行う。

第１１条　授業科目の成績評価は、通則第１７条の３の規定に基づき行うものとする。

２　実験、実習及び演習については、平素の成績考査をもって試験に替えることができる。

第１２条　卒業研究の単位修得の認定は、一定の問題について作製した論文、報告、計画等の審査及び口頭試問により行う。

第１３条　試験は、授業の行われた学期の授業期間の末に行う。ただし、必要に応じ、他の時期において行うことができる。

第１４条　単位を修得した授業科目に対しては、希望により成績証明書を与えることができる。

第１５条　工学部の卒業の要件は、工学部に４年以上在学し、別表第１及び別表第２の授業科目について、次の各号に定める単位数以上を修得しなければならない。

(1)　電気情報工学科　基幹教育科目から４６単位、専攻教育科目から８７．５単位、合計１３３．５単位

(2)　材料工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位

(3)　応用化学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．

５単位
(4)　化学工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８５単位、合計１３３．５単位
(5)　融合基礎工学科（物質材料コース）　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位
(6)　融合基礎工学科（機械電気コース）　基幹教育科目から４５．５単位、専攻教育科目から８９単位、合計１３４．５単位
(7)　機械工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位
(8)　航空宇宙工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６．５単位、合計１３５単位
(9)　量子物理工学科　基幹教育科目から４５．５単位、専攻教育科目から８７単位、合計１３２．５単位
(10)　船舶海洋工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５．５単位、合計１３５単位
(11)　地球資源システム工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５．５単位、合計１３５単位
(12)　土木工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５単位、合計１３４．５単位
(13)　建築学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８２単位、合計１３０．５単位
２　教授会は、前項の単位を修得した者について、卒業の審査を行う。
第１５条の２　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの卒業の要件は、工学部に４年以上在学し、別表第３及び別表第４の授業科目について、次の各号に定める単位数以上を修得しなければならない。
(1)　電気情報工学科（電気情報工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７２単位、合計１２４．５単位
(2)　応用化学科（応用化学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７６単位、合計１２８．５単位
(3)　機械工学科及び航空宇宙工学科（機械航空工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から８０単位、合計１３２．５単位
(4)　土木工学科（土木工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７２単位、合計１２４．５単位
２　教授会は、前項の単位を修得した者について、卒業の審査を行う。
第１５条の３　工学部融合基礎工学科に、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な問題に対応し、解決する能力を備えた工学系人材の育成を行うため、高専連携教育プログラムを置く。
２　高専連携教育プログラムの修了要件は、工学部融合基礎工学科に２年以上在学し、別表第１及び別表第２に定める授業科目について、基幹教育科目から４５．５単位以上、専攻教育科目から８９単位以上を修得し、合計１３４．５単位以上を修得することとする。
３　高専連携教育プログラムにかかる単位認定その他必要な事項については、別に定める。
第６章　科目等履修生及び聴講生
第１６条　科目等履修生として入学を志願できる者は、九州大学科目等履修生等規則（平成１６年度九大規則第９１号）第２条第１項に定めるところによる。
第１７条　科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書に履修しようとする授業科目名を記載し、履歴書及び検定料を添えて、学部長に願い出なければならない。
２　学部長は、学生の授業に支障がないときは、前項の願い出があった者について選考の上、学年又は学期の始めに入学を許可することができる。
第１８条　科目等履修生の履修した授業科目については、試験により所定の単位を与える。
２　前項の単位の授与については、第１０条、第１１条第１項及び第１３条の規定を準用する。

第１９条　学部長は、科目等履修生の修得した単位について、所要の証明書を交付することができる。
第２０条　工学部の特定の授業科目を聴講しようとする者は、所定の願書に聴講しようとする授業科目名を記載し、履歴書及び検定料を添えて、学期の始めに学部長に願い出なければならない。
第２１条　聴講生として、聴講を志願できる者は、大学において２年以上の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認めた者とする。
第２２条　学部長は、学生の履修に妨げがない場合は、教授会の議を経て、学期又は学年ごとに聴講を許可することができる。
第２３条　聴講生に対しては、単位修得の認定を行わない。ただし、法令等に基づく資格を得るため等特に単位を必要とする者については、単位修得の認定を行うことができる。
２　聴講生から請求があるときは、聴講証明書又は単位修得証明書を交付することができる。

第７章　雑則

（雑則）
第２４条　この規則その他の規則等に定めるもののほか、本学部の校務について必要な事項は、学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平成１７年度九大規則第７０号）

１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　改正後の九州大学工学部規則は、平成１８年度に本学部に入学する者から適用し、平成１８年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成１８年度九大規則第１３９号）

１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　改正後の九州大学工学部規則は、平成１９年度に本学部に入学する者から適用し、平成１９年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成１９年度九大規則第１９号）

１　この規則は、平成１９年７月２０日から施行する。
２　改正後の九州大学工学部規則第１１条の規定は、平成１９年度に本学部に入学する者から適用し、平成１９年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成１９年度九大規則第８７号）

１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　改正後の九州大学工学部規則別表第１の規定は、平成１８年度に本学部に入学した者から適用し、平成１８年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。
３　改正後の九州大学工学部規則別表第３の規定は、平成２０年度に本学部に入学する者から適用し、平成２０年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２０年度九大規則第８５号）

１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
２　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２１年度に本学部に入学する者から適用し、平成２１年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２１年度九大規則第８６号）

１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
２　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２２年度に本学に入学する者から適用し、平成２２年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者につい

ては、なお従前の例による。

附　則（平成２２年度九大規則第２２号）

この規則は、平成２２年１０月１日から施行する。

附　則（平成２２年度九大規則第１０２号）

1　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２３年度に本学部に入学する者から適用し、平成２３年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２３年度九大規則第５７号）

1　この規則は、平成２３年１０月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２３年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、同年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２３年度九大規則第１２１号）

1　この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２４年度に本学部に入学する者から適用し、平成２４年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２４年度九大規則第１５号）

1　この規則は、平成２４年１０月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２４年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２４年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２４年度九大規則第１０３号）

1　この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２５年度に本学部に入学する者から適用し、平成２５年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２５年度九大規則第１３１号）

1　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２６年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２６年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２６年度九大規則第４４号）

1　この規則は、平成２６年１０月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２６年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２６年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２６年度九大規則第１５５号）

1　この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則別表第２の規定は、平成２７年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２７年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２７年度九大規則第６４号）

1　この規則は、平成２８年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則（以下「新規則」という。）は、平成２８年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２８年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、新規則のうち別表第１の規定は、平成２６年４月１日に本学部に入学した者から適用し、平成２６年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続

き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２８年度九大規則第３８号）

1　この規則は、平成２８年１０月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則別表第６の規定は、平成２８年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２８年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日　以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２８年度九大規則第１２１号）

1　この規則は、平成２９年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則第１５条第１項、別表第１、別表第２及び別表第４の規定は、平成２９年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２９年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２９年度九大規則第１７号）

1 この規則は、平成２９年１０月１日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成２９年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、平成２９年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成２９年度九大規則第１１７号）

1　この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成３０年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成３０年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成３０年度九大規則第３６号）

1　この規則は、平成３０年１０月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成３０年１０月１日に本学部に入学する者から適用し、平成３０年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成３０年度九大規則第１０１号）

1　この規則は、平成３１年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則は、平成３１年４月１日に本学部に入学する者から適用し、平成３１年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（令和元年度九大規則第５０号）

1　この規則は、令和２年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則（以下「新規則」という。）は、令和２年４月１日に本学部に入学する者から適用し、令和２年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、新規則のうち別表第５の規定は、平成３０年１０月１日に本学部に入学した者から適用し、平成３０年９月３０日に本学部に在学し、同年１０月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

附　則（令和２年度九大規則第　　号）

1　この規則は、令和３年４月１日から施行する。

2　この規則による改正後の九州大学工学部規則（以下「新規則」という。）は、令和３年４月１日に本学部に入学する者から適用し、令和３年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

3　前２項の規定にかかわらず、新規則第１５条の３の規定は、令和５年４月１日に本学部融合基礎工学科に編入学する者から適用する。

別表第１（基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区 分		授 業 科 目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	1	1	1
課題協学科目		課題協学科目	2．5	2．5	2．5
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1	第１外国語 英語 6	１２
		学術英語・グローバルイシューズ	1		
		学術英語・CALL １	1		
		学術英語・プロダクション１	1		
		学術英語・プロダクション２	1		
		学術英語・CALL ２	1		
		学術英語・テーマベース	1		
		学術英語・スキルベース	1		
		学術英語・集中演習	2		
		専門英語	1		
		ドイツ語ＩＡ	1	第２外国語 4	
		ドイツ語ＩＢ	1		
		ドイツ語ⅡＡ	1		
		ドイツ語ⅡＢ	1		
		ドイツ語Ⅲ	1		
		ドイツ語Ⅳ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅡ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅢ	1		
		フランス語ＩＡ	1		
		フランス語ＩＢ	1		
		フランス語ⅡＡ	1		
		フランス語ⅡＢ	1		
		フランス語Ⅲ	1		
		フランス語Ⅳ	1		
		フランス語プラティクⅠ	1		
		フランス語プラティクⅡ	1		
		フランス語プラティクⅢ	1		
		中国語ＩＡ	1		
		中国語ＩＢ	1		
		中国語ⅡＡ	1		
		中国語ⅡＢ	1		
		中国語Ⅲ	1		
		中国語Ⅳ	1		
		中国語実践Ⅰ	1		
		中国語実践Ⅱ	1		

		中国語実践Ⅲ	1		
		中国語集中演習	2		
		ロシア語ⅠA	1		
		ロシア語ⅠB	1		
		ロシア語ⅡA	1		
		ロシア語ⅡB	1		
		ロシア語Ⅲ	1		
		ロシア語Ⅳ	1		
		韓国語ⅠA	1		
		韓国語ⅠB	1		
		韓国語ⅡA	1		
		韓国語ⅡB	1		
		韓国語Ⅲ	1		
		韓国語Ⅳ	1		
		韓国語表現演習Ⅰ	1		
		韓国語表現演習Ⅱ	1		
		スペイン語ⅠA	1		
		スペイン語ⅠB	1		
		スペイン語ⅡA	1		
		スペイン語ⅡB	1		
		スペイン語Ⅲ	1		
		スペイン語Ⅳ	1		
		スペイン語表現演習Ⅰ	1		
		スペイン語表現演習Ⅱ	1		
		日本語Ⅰ	1		
		日本語Ⅱ	1		
		日本語Ⅲ	1		
		日本語Ⅳ	1		
		日本語Ⅴ	1		
		日本語Ⅵ	1		
		日本語Ⅶ	1		
文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	2	4	4
		先史学入門	2		
		歴史学入門	2		
		文学・言語学入門	2		
		芸術学入門	2		
		地理学入門	2		
		社会学入門	2		
		心理学入門	2		
		現代教育学入門	1		
		教育基礎学入門	1		
		法学入門	2		
		政治学入門	2		
		経済学入門	2		
		経済史入門	2		
		The Law and Politics of International Society	2		

理	社会と数理科学	1	※備考２参照
系	入門微分積分Ⅰ	1	
デ	入門微分積分Ⅰ	1	
ィ	微分積分学Ⅰ	2	
シ	微分積分学Ⅱ	2	
プ	入門線形代数Ⅰ	1	
リ	入門線形代数Ⅱ	1	
ン	線形代数学Ⅰ	2	
科	線形代数学Ⅱ	2	
目	数学演習ＡⅠ	1	
	数学演習ＡⅡ	1	
	数学演習Ｂ	1	
	数理統計学	2	
	身の回りの物理学Ａ	1	
	身の回りの物理学Ｂ	1	
	力学概論	2	
	力学概論演習	1	
	電磁気学概論	1	
	電磁気学概論演習	０．５	
	熱力学概論	1	
	熱力学概論演習	０．５	
	力学基礎	2	
	力学基礎演習	1	
	電磁気学基礎	1	
	電磁気学基礎演習	０．５	
	熱力学基礎	1	
	熱力学基礎演習	０．５	
	物理学の進展Ａ	1	
	物理学の進展Ｂ	1	
	現代物理学基礎	2	
	原子核物理学	2	
	身の回りの化学	1	
	無機物質化学Ⅰ	1	
	無機物質化学Ⅱ	1	
	有機物質化学Ⅰ	1	
	有機物質化学Ⅱ	1	
	基礎化学結合論Ⅰ	1	
	基礎化学結合論Ⅱ	1	
	基礎化学熱力学Ⅰ	1	
	基礎化学熱力学Ⅱ	1	
	現代化学	2	
	基礎生物有機化学Ⅰ	1	
	基礎生物有機化学Ⅱ	1	
	基礎生化学Ⅰ	1	
	基礎生化学Ⅱ	1	
	機器分析学	2	
	生命の科学Ａ	1	
	生命の科学Ｂ	1	
	生物学概論	2	
	細胞生物学	2	

	集団生物学	2		
	分子生物学	2		
	生態系の科学	2		
	地球と宇宙の科学	1		
	地球科学	1		
	最先端地球科学	1		
	宇宙科学概論	2		
	デザイン思考	1		
	図形科学Ⅰ	1		
	図形科学Ⅱ	1		
	空間表現実習Ⅰ	2		
	空間表現実習Ⅱ	2		
	世界建築史概論	1		
	日本建築史概論	1		
	近・現代建築史	1		
	デザイン史	2		
	情報科学	2		
	プログラミング演習	1		
	コンピュータープログラミング入門	1		
	自然科学総合実験	1		
	基礎科学実習	1		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1	1	1
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1	1	1
	身体運動科学実習ＩＡ	０．５		
	身体運動科学実習ＩＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅡＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅡＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅢＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅢＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅣＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅣＢ	０．５		
	身体運動科学実習Ⅴ	1		
	健康・スポーツ科学講義Ａ	1		
	健康・スポーツ科学講義Ｂ	1		
総合科目	先端技術入門Ａ	1	2	2
	先端技術入門Ｂ	1		
	アカデミック・フロンティアⅠ	1		
	アカデミック・フロンティアⅡ	1		
	大学とは何かⅠ	1		
	大学とは何かⅡ	1		
	九州大学の歴史Ⅰ	1		
	九州大学の歴史Ⅱ	1		
	女性学・男性学Ⅰ	1		
	女性学・男性学Ⅱ	1		
	社会連携活動論：ボランティア	1		
	社会連携活動論：インターンシップ	1		

	Law in Everyday Life A	1		
	Law in Everyday Life B	1		
	バリアフリー支援入門	1		
	ユニバーサルデザイン研究	1		
	アクセシビリティ入門	1		
	アクセシビリティ支援入門	1		
	アクセシビリティ基礎	1		
	人と人をつなぐ技法	1		
	コミュニケーション入門	1		
	体験してわかる自然科学	1		
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1		
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1		
	アジア埋蔵文化財学Ａ	1		
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1		
	グローバル社会を生きるⅠ	1		
	グローバル社会を生きるⅡ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1		
	フィールドに学ぶＡ	1		
	教育テスト論	2		
	現代企業分析	1		
	現代経済事情	1		
	外国語プレゼンテーション	1		
	水の科学	2		
	医療倫理学Ⅰ	1		
	医療倫理学Ⅱ	1		
	バイオエシックス入門	1		
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1		
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1		
	命のあり方・尊さと食の連関	2		
	食肉加工の理論と実践	2		
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1		
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1		
	体験的農業生産学入門	1		
	農のための植物-環境系輸送現象論	1		
	農のための最適環境制御	1		
	食科学の新展開	1		
	作物生産とフロンティア研究	1		
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1		
	農業と微生物	1		
	企業から見たサイバーセキュリティＡ	1		
	企業から見たサイバーセキュリティＢ	1		
	サイバーセキュリティ演習	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ａ	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ｂ	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ｃ	1		
	分子の科学	2		
	「留学」考	1		

	Japan in Global Society	1		
	アイデア・ラボⅠ	2		
	アントレプレナーシップ入門	2		
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1		
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1		
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1		
	少人数セミナー	1		
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	1	2	2
	科学の歴史Ｂ	1		
	科学の基礎（哲学的考察）	1		
	脳情報科学入門	1		
	認知心理学	1		
	Brain and Mind	1		
	機械学習と人工知能	1		
	現代社会Ⅰ	2		
	現代社会Ⅱ	2		
	現代社会Ⅲ	2		
	現代社会Ⅳ	2		
	現代史Ⅰ	2		
	現代史Ⅱ	2		
	現代史Ⅲ	2		
	現代史Ⅳ	2		
	ＥＵ論基礎―制度と経済―	2		
	技術と産業・企業	2		
	グローバル化とアジア経済	2		
	金融と経済	2		
	サイバー空間デザイン	2		
	芸術学概論	1		
	音楽・音響論	2		
	デザインと観察	2		
	環境問題と自然科学	2		
	環境調和型社会の構築	2		
	グリーンケミストリー	2		
	自然災害と防災	2		
	生態系の構造と機能Ⅰ	1		
	生態系の構造と機能Ⅱ	1		
	男女共同参画	2		
	漢方医薬学	1		
	臨床イメージング	1		
	社会と健康	2		
	国際保健と医療	2		
	アクセシビリティマネジメント研究	2		
	地球の進化と環境	2		
	生物多様性と人間文化Ａ	1		
	生物多様性と人間文化Ｂ	1		
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2		

	平和と安全の構築学	1		
	文化と社会の理論	2		
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2		
	法文化学入門	2		
	法史学入門	2		
	ローマ法史	2		
	アジア共同体入門	2		
	プレゼンテーション基礎	1		
	レトリック基礎	1		
	共創発想法	2		
	データマイニングと情報可視化	1		
	技術と倫理	1		
	研究と倫理	1		
	インフォームドコンセント	1		
	臨床倫理	1		
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	1		
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1		
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	1		
	事業創造デザイン特論Ⅰ	1		
	事業創造デザイン特論Ⅱ	1		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうA	1		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうB	1		
	社会統計学A	1		
	社会統計学B	1		
	社会調査法ⅠA	1		
	社会調査法ⅠB	1		
	社会調査法ⅡA	1		
	社会調査法ⅡB	1		
	教育学特論	2		
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2		
	日本国憲法	2		
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			
上記に掲げる最低修得単位のほか、備考３に定める授業科目の単位を修得しなければならない。				

（備考）

１　「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第１外国語又は第２外国語として最低修得単位数に含めることができる。

２　各学科の学生は、理系ディシプリン科目として次の所定の単位を修得しなければならない。

学科	授　業　科　目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数

電気情報工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０．５	２０．５
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数学演習B	1		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		電磁気学基礎演習	０．５		
		熱力学基礎	1		
		現代物理学基礎	2		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
材料工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
応用化学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

化学工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
融合基礎工学科（物質材料コース）	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
融合基礎工学科（機械電気コース）	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２０
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

機械工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
航空宇宙工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
量子物理工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２０
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

船舶海洋工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		
地球資源システム工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		

土木工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		
建築学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		世界建築史概論	1		
		日本建築史概論	1		
		近・現代建築史	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

別表第２（専攻教育科目に関する授業科目及び単位数）

電気情報工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		

工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
電気情報工学入門	1	必修
電気情報数学Ⅰ	1	必修
電気情報数学Ⅱ	1	必修
回路理論Ⅰ	2	必修
回路理論Ⅱ	2	必修
論理回路	2	必修
プログラミング論	2	必修
プログラミング演習Ⅰ	1	必修
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	必修
データ構造とアルゴリズムⅠ	1	※1
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	※1
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
（学　科　共　通　科　目）		
ディジタル電子回路Ⅰ	1	※2
ディジタル電子回路Ⅱ	1	※2
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
電気情報工学基礎実験	2	必修
電気情報工学セミナーA	0．5	必修
電気情報工学セミナーB	0．5	
アナログ電子回路Ⅰ	1	※2、※3

アナログ電子回路Ⅱ	1	※２、※３
アナログ電子回路Ⅲ	1	
アナログ電子回路Ⅳ	1	
情報理論Ⅰ	1	※１、※２
情報理論Ⅱ	1	※１、※２
ディジタル信号処理Ⅰ	1	
ディジタル信号処理Ⅱ	1	
複素関数論	2	※２、※３
電気情報工学実験Ⅰ	2	必修
電気情報工学実習	1	
電気情報工学実験Ⅱ	2	必修
離散数学Ⅰ	1	※１
離散数学Ⅱ	1	※１
電気エネルギー工学通論Ⅰ	1	※１、※２
電気エネルギー工学通論Ⅱ	1	※１、※２
電磁気学Ⅰ	2	※２、※３
電磁気学Ⅱ	2	※２、※３
電磁気学Ⅲ	1	※２、※３
電磁気学Ⅳ	1	※２、※３
信号とシステムⅠ	1	※２
信号とシステムⅡ	1	※２
計測工学ＢⅠ	1	
計測工学ＢⅡ	1	
通信方式Ⅰ	1	※２

通信方式Ⅱ	1	※２
通信ネットワークⅠ	1	
通信ネットワークⅡ	1	
数理計画法Ⅰ	1	
数理計画法Ⅱ	1	
制御工学ＡⅠ	1	※３
制御工学ＡⅡ	1	※３
回路理論Ⅲ	1	※２、※３
回路理論Ⅳ	1	※２、※３
電子物性Ⅰ	1	※２、※３
電子物性Ⅱ	1	※２、※３
プログラミング演習Ⅱ	1	※２、※３
プログラミング演習Ⅲ	1	※２、※３
半導体の性質	1	※２
トランジスタ基礎論	1	※２
電磁波工学Ⅰ	1	
電磁波工学Ⅱ	1	
集積回路工学Ⅰ	1	
集積回路工学Ⅱ	1	
プラズマ工学Ⅰ	1	
プラズマ工学Ⅱ	1	
光エレクトロニクスⅠ	1	
光エレクトロニクスⅡ	1	
コンピュータシステム通論Ⅰ	1	※２、※３

コンピュータシステム通論Ⅱ	1	※２、※３
電気電子工学設計Ⅰ	1	
電気電子工学設計Ⅱ	1	
（計　算　機　工　学　科　目）		
情報論理学Ⅰ	1	※１
情報論理学Ⅱ	1	※１
基礎ＰＢＬⅠ	1	※１
データ構造とアルゴリズム演習	1	※１
形式言語とオートマトンⅠ	1	※１
オペレーティングシステムⅠ	1	※１
形式言語とオートマトンⅡ	1	※１
オペレーティングシステムⅡ	1	※１
確率統計Ⅰ	1	※１
データベースⅠ	1	※１
基礎ＰＢＬⅡ	1	※１
集積回路工学通論Ⅰ	1	※１
確率統計Ⅱ	1	※１
データベースⅡ	1	※１
集積回路工学通論Ⅱ	1	※１
コンパイラⅠ	1	※１
電気情報工学実験Ⅲ	2	※１
コンパイラⅡ	1	※１
コンピュータアーキテクチャⅡ	1	
コンピュータアーキテクチャⅢ	1	

コンピュータシステムⅠ	1	
データ構造とアルゴリズムⅢ	1	
ソフトウエア工学Ⅰ	1	
プログラミング言語論Ⅰ	1	
コンピュータシステムⅡ	1	
データ構造とアルゴリズムⅣ	1	
ソフトウエア工学Ⅱ	1	
プログラミング言語論Ⅱ	1	
アルゴリズム論Ⅰ	1	
データ解析と実験計画法Ⅰ	1	
コンピュータシステムⅢ	1	
サイバーセキュリティⅠ	1	
分散システムⅠ	1	
技術表現法Ⅰ	1	
人工知能Ⅰ	1	
パターン認識Ⅰ	1	
アルゴリズム論Ⅱ	1	
データ解析と実験計画法Ⅱ	1	
コンピュータシステムⅣ	1	
サイバーセキュリティⅡ	1	
分散システムⅡ	1	
技術表現法Ⅱ	1	
人工知能Ⅱ	1	
パターン認識Ⅱ	1	

（電　子　通　信　工　学　科　目）		
量子力学応用Ⅰ	1	
量子力学応用Ⅱ	1	
電子デバイスⅠ	1	
電子デバイスⅡ	1	
制御工学ＢⅠ	1	※2
制御工学ＢⅡ	1	※2
応用確率論	2	
（電　気　電　子　工　学　科　目）		
エネルギー基礎論Ⅰ	1	※3
エネルギー基礎論Ⅱ	1	※3
制御工学ＡⅢ	1	
制御工学ＡⅣ	1	
基礎エネルギー変換機器学Ⅰ	1	※3
基礎エネルギー変換機器学Ⅱ	1	※3
計測工学ＡⅠ	1	※3
計測工学ＡⅡ	1	※3
電力輸送工学Ⅰ	1	
電力輸送工学Ⅱ	1	
電気電子材料Ⅰ	1	
電気電子材料Ⅱ	1	
計測工学ＡⅢ	1	
計測工学ＡⅣ	1	
エネルギー変換機器工学Ⅰ	1	

エネルギー変換機器工学Ⅱ	1	
通信工学通論Ⅰ	1	※3
通信工学通論Ⅱ	1	※3
パワーエレクトロニクスⅠ	1	
パワーエレクトロニクスⅡ	1	
システム工学Ⅰ	1	
システム工学Ⅱ	1	
超伝導基礎論Ⅰ	1	
超伝導基礎論Ⅱ	1	
高電圧・パルスパワー工学Ⅰ	1	
高電圧・パルスパワー工学Ⅱ	1	
電気法規および施設管理Ⅰ	1	
電気法規および施設管理Ⅱ	1	
卒　　業　　研　　究		
電気情報工学卒業研究	8	必修

※1　計算機工学コースにおける必修科目
※2　電子通信工学コースにおける必修科目
※3　電気電子工学コースにおける必修科目

必修科目を含む、以下の要件を満たす８７．５単位以上を修得しなければならない。
（計算機工学コース）
（1）工学部共通科目から３単位
（2）学科群共通科目から１８単位
（3）学科・専攻科目から３３．５単位
　　学科共通科目から１４．５単位
　　計算機工学科目から１９単位
（4）卒業研究から８単位
（5）その他
　　（2）及び（3）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２５単位以上修得する。

（電子通信工学コース）
（1）工学部共通科目から３単位
（2）学科群共通科目から１６単位

（３）学科・専攻科目から４０．５単位
　　学科共通科目から３８．５単位
　　電子通信工学科目から２単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
　　（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２０単位以上修得する。

（電気電子工学コース）
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１６単位
（３）学科・専攻科目から３６．５単位
　　学科共通科目から２８．５単位
　　計算機工学科目から８単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
　　（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２４単位以上修得する。

材料工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修

電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
平衡組織学	2	必修
冶金物理化学Ⅰ	2	必修
冶金物理化学Ⅱ	2	必修
材料工学実験第一	2	必修
複素関数論	2	必修
材料力学入門	1	必修
材料設計製図Ⅰ	1	必修
材料設計製図Ⅱ	1	必修
移動現象論	2	必修
固体物理学	2	必修
弾性・塑性変形工学	1	必修
結晶化学	2	必修
電子物性論	2	必修
材料電気化学	2	必修
超伝導材料工学	2	
鉄鋼製錬学	2	
材料工学実験第二	2	必修
数理解析概論	2	必修

凝固及び結晶成長	2	必修
機械工作実習	1	必修
産業科学技術特別講義	2	
材料工学特別演習	1	
薄膜物理	2	
材料強度物性	2	必修
金属組織制御学	2	必修
エネルギー材料工学	2	
バイオマテリアル	2	
データサイエンス	2	必修
材料工学実験第三	2	必修
材料表面科学	2	
無機材料解析学	2	
鉄鋼材料工学	2	
高温材料強度学	1	必修
非鉄金属製錬学	2	
材料反応工学	2	必修
半導体工学	2	必修
接合・複合工学	2	
電解工学	2	
非鉄金属材料工学	1	
セラミックス材料学	2	
卒　　業　　研　　究		
材料工学卒業研究	8	必修

以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１８単位
（３）学科・専攻科目から４４単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から１３単位以上修得する。

応用化学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修

学　科・専　攻　科　目		
複素関数論	2	
応用化学実験第一	2	必修
生化学第一	2	必修
高分子化学第一	2	必修
分析化学第一	2	必修
有機化学第二	2	必修
物理化学第二	2	必修
応用物理学第一	2	
データサイエンス	2	必修
化学工学第一	2	必修
無機化学第二	2	必修
量子化学第二	2	必修
数理解析概論	2	
応用化学実験第二	2	必修
化学工学第二	2	必修
分析化学第二	2	必修
高分子化学第二	2	必修
有機化学第三	2	必修
生化学第二	2	
無機化学第三	2	必修
物理化学第三	2	
表面化学	2	
応用化学実験第三	2	必修

物理化学演習	1	必修
触媒化学	2	必修
高分子化学第三	2	
生体機能化学	2	
有機化学第四	2	
量子化学演習	1	必修
分析化学第三および演習	2	必修
無機化学第四	2	
分子組織化学	2	
応用化学特別講義第一	1	
応用化学特別講義第二	1	
応用化学特別講義第三	1	
応用化学特別演習第一	1	
応用化学特別講義第四	1	
応用化学特別講義第五	1	
応用化学特別演習第二	1	
卒　　業　　研　　究		
応用化学卒業研究	8	必修

以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。

（１）工学部共通科目から３単位

（２）学科群共通科目から１８単位

（３）学科・専攻科目から４０単位

「複素関数論」及び「数理解析概論」のいずれか１科目を選択必修とする。

（４）卒業研究から８単位

（５）その他

（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から１７単位以上修得する。このうち、学科・専攻科目の「複素関数論」及び「数理解析概論」のいずれか１科目を選択必修とする。

化学工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修
学科・専攻科目		
物理化学第二	2	必修
化学工学量論	2	必修
基礎生命工学	2	必修
化工数学	2	必修

化学工学実験第一	2	必修
応用物理学第一	2	
数理解析概論	2	必修
物質移動工学	2	必修
基礎流体工学	2	必修
エネルギー材料工学	2	
プロセス物理化学	2	必修
化工流体工学	2	必修
生物プロセス工学第一	2	必修
機械工学大意第二	2	
接合・複合工学	2	
データサイエンス	2	必修
化学工学実験第二	2	必修
化学工学特別講義	1	
応用物理学第二	2	
基礎熱工学	2	必修
プロセス制御	2	必修
反応工学第一	2	必修
プロセス計装	1	
生物プロセス工学第二	2	必修
高分子化学第三	2	
化工情報処理演習	1	必修
化学工学実験第三	2	必修
生命工学特別講義	1	

化工熱工学	2	必修
分離工学	2	必修
プロセスシステム工学	2	必修
生物化学工学	2	必修
反応工学第二	2	必修
卒　　業　　研　　究		
化学工学卒業研究	8	必修
以下の要件を満たす８５単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１８単位 （３）学科・専攻科目から４７単位 （４）卒業研究から８単位 （５）その他 （２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目の中から９単位以上修得する。		

融合基礎工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	※１、※２
データサイエンス序論	2	※１、※２
学　科　群　共　通　科　目		
無機化学第一	2	※１
有機化学第一	2	※１
金属材料大意	2	※１
物理化学第一	2	※１
量子力学第一	2	※１
機械工学大意第一	2	※１

電気工学基礎Ⅰ	1	※1
電気工学基礎Ⅱ	1	※1
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	※1
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	※1、※2
ベクトル解析と微分方程式	2	※2
工業力学	2	※2
材料力学Ⅰ	1	※2
材料力学Ⅱ	2	※2
熱力学Ⅰ	2	※2
流れ学Ⅰ	2	※2
現代物理学入門	2	※2
原子力工学概論	2	
応用量子物理学入門	2	
学　科・専　攻　科　目		
（学　科　共　通　科　目）		
複素関数論	2	※1、※2
常微分方程式とラプラス変換	2	
フーリエ解析と偏微分方程式	2	
データ解析の数学	2	
エネルギー変換工学	2	
光・量子物理計測	2	

材料強度学	2	
化学反応論Ⅰ	1	
化学反応論Ⅱ	1	
プロセス化学工学	2	
光エレクトロニクス	2	
構造材料学	1	
材料加工学	1	
先端計測科学	1	
エネルギー・環境学A	1	
エネルギー・環境学B	1	
半導体・デバイス工学A	1	
半導体・デバイス工学B	1	
プラズマ応用工学	1	
融合基礎情報学Ⅰ	2	※1、※2
融合基礎情報学Ⅱ	2	※1、※2
融合基礎情報学Ⅲ	2	※1、※2
融合応用情報学A	1	
融合応用情報学B	1	
融合応用情報学C	1	
融合応用情報学D	1	
知的財産論	1	
マネージメント論	1	
マーケティング論	1	
インターンシップⅠ（長期）	3	※3

インターンシップⅡ（短期）	1	
融合基礎工学展望	2	※1、※2
融合工学概論Ⅰ	2	必修
融合工学概論Ⅱ	2	※3
研究プロジェクト	4	※3
グローバル科目Ⅰ（論文）	1	必修
グローバル科目Ⅱ（討論）	1	必修
融合基礎工学特別講義A	1	
融合基礎工学特別講義B	1	
（物　質　材　料　コ　ー　ス　科　目）		
材料力学入門	1	※1
物理化学第二	2	※1
分析化学第一	2	※1
無機化学第二	2	※1
弾性・塑性変形工学	1	※1
相平衡論	2	
固体物理Ⅰ	2	※1
結晶学基礎	1	※1
分光学基礎	1	※1
機器分析学	2	※1
材料速度論	1	
無機化学第三	2	
固体物理Ⅱ	1	※1
電気化学Ⅰ	1	

電気化学Ⅱ	1	
触媒化学Ⅰ	1	
触媒化学Ⅱ	1	
材料組織制御学	1	
相転移論	1	
材料表面工学	1	
磁性材料学	1	
構造解析学	1	
セラミックス材料学Ⅰ	1	
セラミックス材料学Ⅱ	1	
物質材料科学実験Ⅰ	2	※1
物質材料科学実験Ⅱ	2	※1
物質材料科学実験Ⅲ	2	※1
物質材料科学実験Ⅳ	2	※1
（機　械　電　気　コ　ー　ス　科　目）		
力学	1	※2
流体力学Ⅰ	2	※2
熱エネルギー変換基礎	2	※2
振動力学	2	
熱・流体計測学	1	
自動制御	2	
統計力学	2	
量子力学	2	
電磁気学Ⅰ	2	※2

電磁気学Ⅱ	2	
電気回路Ⅰ	2	※2
電気回路Ⅱ	2	
流体力学Ⅱ	2	※2
伝熱学	2	※2
航空力学	1	
流体機械	1	
熱機関工学	1	
流体力学演習	1	
熱工学演習	1	
電気エネルギー工学	1	
高電圧・パルスパワー工学	2	
プラズマ理工学Ⅰ	1	
プラズマ理工学Ⅱ	1	
機械電気科学実験Ⅰ	1	※2
機械電気科学実験Ⅱ	1	※2
機械電気科学実験Ⅲ	1	※2
機械電気科学実験Ⅳ	1	※2
機械電気科学設計演習	1	※2
卒　業　研　究		
卒業研究	6	必修

※1　物質材料コースにおける必修科目
※2　機械電気コースにおける必修科目
※3　高専連携教育プログラムにおける必修科目

（物質材料コース）
以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。
（1）工学部共通科目から３単位

（２）学科群共通科目から１８単位
（３）学科・専攻科目から５９単位
　学科共通科目から１６単位。なお、「常微分方程式とラプラス変換」、「化学反応論Ⅰ」及び「化学反応論Ⅱ」から２単位を選択必修とする。
　物質材料コース科目から２３単位以上
（４）卒業研究から６単位
（５）その他
　（１）から（３）に基づき修得するもののほか、学科共通科目と物質材料コース科目から２０単位以上

（機械電気コース）
以下の要件を満たす８９単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１５単位
（３）学科・専攻科目から６５単位
　学科共通科目から１６単位。なお、「フーリエ解析と偏微分方程式」及び「エネルギー変換工学」から２単位を選択必修とする。
　機械電気コース科目から１８単位以上
（４）卒業研究　６単位
（５）その他
　（１）から（３）に基づき修得するもののほか、学科共通科目及び機械電気コース科目から３１単位以上

（高専連携教育プログラム）
以下の要件を満たす８９単位以上を修得しなければならない。ただし、編入学前に高等専門学校で学修した専門科目（高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）第１６条に定めるものをいう。）について、３２単位を上限に単位認定することができるものとする。
（１）学科・専攻科目の学科共通科目から２４単位
（２）卒業研究から６単位
（３）その他
　高等専門学校専攻科において開講される科目から２７単位

機械工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修

工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	
学　科・専　攻　科　目		
材料力学Ⅲ	1．5	必修
複素関数論	2	必修
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
機械工作実習Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
熱力学Ⅱ	1．5	必修
機械力学A	1．5	必修
流れ学Ⅱ	1．5	必修
機械材料Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅳ	1	必修
機械工作実習Ⅱ	1	必修
機械設計Ⅰ	1．5	必修

機械力学Ｂ	１．５	必修
流体力学Ⅰ	１．５	必修
弾性力学Ａ	１	必修
機械工学実験第一	１	必修
数値解析基礎	２	必修
システム制御Ａ	１	必修
機械製作法Ⅰ	２	必修
機械要素Ⅰ	１	
機械設計Ⅱ	１．５	必修
機械要素設計製図Ⅰ	０．５	必修
伝熱学Ⅰ	１．５	必修
機械力学Ｃ	１．５	必修
流体力学Ⅱ	１．５	必修
弾性力学Ｂ	１	必修
システム制御Ｂ	１	必修
機械製作法Ⅱ	２	必修
機械要素Ⅱ	１	
機械要素設計製図Ⅱ	０．５	必修
テクノロジー・マーケティング	２	
伝熱学Ⅱ	１．５	必修
内燃機関Ⅰ	１	
連続体の振動学	１	
応用流体工学	２	
機械材料Ⅱ	１	

機械工学実験第二	1	必修
データサイエンス応用	2	必修
ロボティックスⅠ	1	
システム制御C	1	必修
機械工学設計製図	1	必修
熱エネルギー変換Ⅰ	1	
内燃機関Ⅱ	1	
燃焼学Ⅰ	1	必修
機構学・振動制御	1	
水素工学基礎	2	
システム工学	2	
ロボティックスⅡ	1	
システム制御D	1	必修
加工機器・精密測定法	2	
生体工学基礎	2	
熱エネルギー変換Ⅱ	1	
燃焼学Ⅱ	1	必修
機械工学特別講義Ⅰ	０．５	
機械工学特別講義Ⅱ	０．５	
機械工学特別講義Ⅲ	０．５	
機械工学特別講義Ⅳ	０．５	
機械工学特別講義Ⅴ	０．５	
機械工学特別講義Ⅵ	０．５	
機械工学特別講義Ⅶ	０．５	

機械工学特別講義Ⅷ	０．５	
卒　　業　　研　　究		
機械工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１５単位 （３）学科・専攻科目から５２単位 「機械工学特別講義Ⅰ」から「機械工学特別講義Ⅷ」までの８科目から２単位を選択必修とする。 （４）卒業研究から６単位 （５）その他 （１）～（４）に基づき修得するもののほかに、１０単位以上修得する。		

航空宇宙工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修
工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	
工学概論	2	必修

学　科・専　攻　科　目		
複素関数論	2	必修
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
応用確率論	2	
情報処理概論	2	必修
材料力学Ⅲ	1．5	必修
材料力学Ⅳ	1	必修
弾性力学	2	必修
航空宇宙伝熱学	2	必修
エネルギー変換基礎論	2	必修
ジェットエンジン工学	2	
航空流体力学	2	必修
気体力学	2	必修
飛行力学Ⅰ	2	必修
飛行力学Ⅱ	2	
応用飛行制御論	2	
軌道力学	2	必修
誘導・制御基礎論Ⅰ	2	必修
誘導・制御基礎論Ⅱ	2	
航空宇宙基礎物理学	2	
宇宙利用学	2	
基礎設計製図	2	必修
航空宇宙工学設計実習	2	必修
基礎振動学	2	必修

基礎構造力学	2	
応用構造力学	2	
航空宇宙機振動学	2	
航空宇宙機材料学	2	
人工衛星工学	2	
ロケット工学	2	
航空宇宙機設計論	2	
航空宇宙工学実験	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工業マネジメント	2	
航空工学特別講義	1	
宇宙工学特別講義	1	
航空宇宙機設計生産システム	1	
ジェットエンジン構造設計	1	
航空機運用・整備	1	
宇宙環境制御システム	1	
産業活動実習Ⅰ	2	
産業活動実習Ⅱ	2	
卒　　業　　研　　究		
航空宇宙工学卒業研究	6	必修

以下の要件を満たす８６．５単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１５単位
（３）学科・専攻科目から３６．５単位
（４）卒業研究から６単位
（５）その他
（１）から（４）に基づき修得するもののほかに、２６単位以上修得する。

量子物理工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修
工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	
学科・専攻科目		
複素関数論	2	必修
力学	2	必修
振動・波動論基礎	2	必修

物理化学	2	必修
電磁気学	2	必修
情報処理概論	2	必修
量子物理工学演習Ⅰ	1	必修
量子物理工学演習Ⅱ	1	必修
量子物理工学演習Ⅲ	1	必修
創造科学工学基礎実験	1	
原子核物理学入門	2	
原子核物理学	2	
連続体力学	2	
量子線物理計測	2	
電気・電子回路	2	
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
量子力学Ⅰ	1	必修
量子力学Ⅱ	1	必修
量子力学Ⅲ	1	
統計力学Ⅰ	2	必修
統計力学Ⅱ	2	
輸送現象論	2	必修
データ解析概論	2	必修
量子物理工学実験	2	必修
固体物理学Ⅰ	2	必修
固体物理学Ⅱ	2	
放射化学	2	

ビーム工学	2	
材料科学概論	2	
応用光学	2	
応用確率論	2	
現代科学技術論	1	必修
量子物理工学概論	1	必修
原子炉物理学Ⅰ	1	
原子炉物理学Ⅱ	1	
プラズマ理工学	1	
核融合概論	1	
原子炉熱流動工学	2	
ソフトマター物理学	2	
材料分析学	2	
産業活動実習	1	
量子物理工学特別講義Ⅰ	1	
量子物理工学特別講義Ⅱ	1	
量子物理工学特別講義Ⅲ	1	
量子物理工学特別講義Ⅳ	1	
卒　　業　　研　　究		
量子物理工学卒業研究	8	必修

以下の要件を満たす８７単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１５単位
（３）学科・専攻科目から３１単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
（１）から（４）に基づき修得するもののほかに、３０単位以上修得する。

船舶海洋工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修
フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
学科・専攻科目		
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
機械工学大意第一	2	必修
空間表現実習	1	必修
流体力学第一および同演習	1．5	必修
船舶設計	2	必修
船舶算法および同演習	1．5	必修
材料力学および同演習	1．5	必修
船舶復原性および同演習	1．5	必修

流体力学第二および同演習	１．５	必修
自動制御工学	2	必修
材料加工学	2	必修
弾性力学	2	必修
船舶海洋製図第一	1	必修
船舶海洋流体力学第一	2	必修
機能設計工学	2	必修
構造力学第一および同演習	１．５	必修
計算工学演習第一	1	必修
船舶運動論	2	必修
構造力学第二および同演習	１．５	必修
船舶海洋製図第二	2	必修
情報処理概論	2	必修
船舶海洋構造力学	2	必修
船舶海洋流体力学第二	2	必修
船舶海洋振動学第一	2	必修
材料強度学	2	必修
運動制御工学	2	必修
環境設計工学	2	必修
システム設計工学	2	必修
船舶海洋工学実験	1	必修
舶用機関	2	必修
工学力学	2	
工学力学演習	1	

海洋環境情報学	2	
海洋機器工学	2	
船舶海洋振動学第二	2	
工業マネージメント	2	
計算工学演習第二	1	
構造解析演習	1	
船舶海洋工学特別講義第一	1	
船舶海洋工学特別講義第二	1	
船舶海洋工学特別講義第三	1	
卒　　業　　研　　究		
船舶海洋工学卒業研究	6	必修
以下の要件を満たす８５．５単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１２単位 （３）学科・専攻科目から６４．５単位 （４）卒業研究から６単位		

地球資源システム工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修

フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
機械工学大意第一	2	必修
情報処理概論	2	必修
地球システム学概論	2	必修
地球環境のイメージング	2	必修
地球熱学	2	必修
資源流体工学	2	必修
岩盤工学	2	必修
資源処理工学	2	必修
エネルギー資源工学	2	必修
資源環境科学	2	必修
フィールド地球科学演習	1	必修
物理探査学	2	必修
地熱工学	2	必修
地球工学実験第一	1	必修
地球工学実験第二	1	必修
石油工学	2	必修
地下空洞設計法	2	必修

水圏環境化学平衡論	2	必修
工業爆薬学	2	必修
資源システム工学実験第一	1	必修
資源システム工学実験第二	1	必修
地層内物質移動工学	2	必修
地球資源システム工学実習	０．５	必修
資源地球科学	2	
環境地球物理学	2	
地熱貯留層工学	2	
石油開発生産工学	2	
固体資源開発工学	2	
資源微生物工学	2	
新エネルギー工学	1	
地熱発電工学	1	
石灰石資源	1	
石油・天然ガス資源開発	1	
海外資源・資源経済学	1	
廃棄物資源循環工学	1	
地球資源システム工学インターンシップ	4	
地球資源システム工学国際インターンシップ	4	
機械工学大意第二	2	
無機化学第三	2	
金属材料大意	2	
テクノロジー・マーケティング	2	

卒　　業　　研　　究		
地球資源システム工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８５．５単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科群共通科目から１２単位 （3）学科・専攻科目から６４．５単位（4）卒業研究から６単位		

土木工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修
フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
学　科　・　専　攻　科　目		
構造力学Ⅰ	2	必修
構造力学Ⅱ	2	必修
地震工学	2	
構造解析学	2	
土木材料学	2	必修
コンクリート構造工学Ⅰ	1	

コンクリート構造工学Ⅱ	1	
鋼構造工学	2	
維持管理工学	2	
地盤力学Ⅰ	2	必修
地盤力学Ⅱ	2	必修
応用地盤工学	2	必修
社会基盤計画学Ⅰ	1	必修
社会基盤計画学Ⅱ	1	必修
まちづくり・地域づくり概論Ⅰ	1	
まちづくり・地域づくり概論Ⅱ	1	
計画数理	2	必修
都市計画	2	
交通計画学	2	
交通施設工学	2	
環境システム学	2	必修
環境基礎学	2	必修
環境保全と開発	2	
流体力学基礎	2	必修
水理学Ⅰ	2	必修
水理学Ⅱ	2	必修
水文学	2	
河川工学	2	
上下水道及び水資源工学	2	
海岸水理学	2	

沿岸域管理工学	2	
土木と社会セミナーA	1	必修
土木と社会セミナーB	1	必修
土木と社会セミナーC	1	必修
土木地理学	2	必修
土木エンジニア史	2	必修
環境と防災A	1	必修
環境と防災B	1	必修
データサイエンス	2	必修
景観学	2	
生態工学	2	
合意形成論	2	
土木実践教室A	2	必修
土木実践教室B	2	必修
測量学・実習	3	
基礎土木工学演習	1	必修
プロジェクト・ものづくり	2	
プロジェクト・まちづくり	2	
土木工学総合演習	2	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
機械工学大意第一	2	
電気工学基礎Ⅰ	1	
電気工学基礎Ⅱ	1	

工業爆薬学	2	
卒　　業　　研　　究		
土木工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８５単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科群共通科目から１２単位 （3）学科・専攻科目から６４単位　　「プロジェクト・ものづくり」及び「プロジェクト・まちづくり」のいずれか1科目を選択必修とする。 （5）卒業研究から６単位		

建築学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
（総　合　科　目）		
建築概論	2	必修
特別プログラム	2	
情報処理概論	2	必修
建築学研究序説	2	必修
（　法　規　科　目　）		
建築法規	2	必修
（　設　計・実　験　演　習　科　目　）		
建築設計基礎演習Ａ	3	必修
建築設計基礎演習Ｂ	3	必修
建築設計基礎演習Ｃ	3	必修

建築設計基礎演習Ｄ	3	必修
建築設計基礎演習Ｅ	3	必修
都市・建築設計演習Ａ	3	
都市・建築設計演習Ｂ	3	
都市・建築設計演習Ｃ	3	
都市・建築設計演習Ｄ	3	
建築環境設備実験演習	3	
建築環境設備設計演習	3	
建築構造材料実験演習	3	
建築構造設計演習Ａ	１．５	
建築構造設計演習Ｂ	１．５	
（　建　築　計　画　科　目　）		
建築設計計画Ａ	1	必修
建築設計計画Ｂ	1	必修
建築設計計画Ｃ	1	必修
建築設計計画Ｄ	1	必修
建築設計計画Ｅ	1	必修
住環境計画論	1	
居住文化論	1	
（　都　市　計　画　科　目　）		
都市計画概論	1	必修
都市設計概論	1	必修
ハウジング論	1	必修
まちづくり概論	1	必修

景観設計	1	
都市再生	1	
都市解析	1	
空間メディア	1	
（ 歴 史 ・ 意 匠 科 目 ）		
世界建築史詳論	1	
日本建築史詳論	1	
現代建築デザイン	1	
都市史	1	
（ 環 境 科 目 ）		
建築環境設備基礎Ａ	1	必修
建築環境設備基礎Ｂ	1	必修
建築環境設備応用Ａ	1	必修
建築環境設備応用Ｂ	1	必修
建築環境デザイン	2	必修
（ 構 造 科 目 ）		
建築構造力学基礎	2	必修
静定建築構造力学	2	必修
建築材料	2	必修
建築構法	2	必修
木質構造	1	必修
鉄骨構造	1	必修
鉄筋コンクリート構造	1	必修
建築施工	2	必修

不静定建築構造力学	2	
建築振動学	2	
建築構造設計技法Ａ	1	
建築構造設計技法Ｂ	1	
建築荷重論	2	
建築防災	2	
合成構造	1	
建築土質力学	1	
空間構造計画	2	
基礎構造	1	
建築応用力学	2	
建築耐震設計	2	
（工学一般科目）		
測量学・実習	3	
テクノロジー・マーケティング	2	
数理解析概論	2	
複素関数論	2	
卒業研究		
建築学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８２単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科・専攻科目から７３単位 （3）卒業研究から６単位		

別表第３　（国際コースの基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区　分		授　業　科　目	単位数	最低習得単位数
KIKAN Education	KIKAN Education Seminar	KIKAN Education Seminar	1	1

Courses	Interdisciplinary Collaborative Learning of Social Issues	Interdisciplinary Collaborative Learning of Social Issues	2．5	2．5
	Subjects in Humanities and Social Science	Introduction to Law	2	8
		Introduction to Economics	2	
		Introduction to Philosophy	2	
		Intercultural Encounters	2	
		Introduction to Psychology	2	
		Global Issues	2	
		Introduction to Japanese History	2	
		Language and Communication in Society	2	
	General Subjects	Engagement with Volunteer I	1	
		Engagement with Volunteer II	1	
		Engagement with Internship I	1	
		Engagement with Internship II	1	
	Subjects for Languages and Culture	Intensive English Japanese Issue I	1	4
		Intensive English Japanese Issue II	1	
		Intensive English C Theme-Based	1	
		Intensive English C Skill-Based	1	
		Integrated Courses : Beginners A	1	6
		Integrated Courses : Beginners B	1	
		Integrated Courses : Elementary 1A	1	
		Integrated Courses : Elementary 1B	1	
		Integrated Courses : Elementary 2A	1	
		Integrated Courses : Elementary 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced A	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced B	1	
		Integrated Courses : Advanced A	1	
		Integrated Courses : Advanced B	1	
		Kanji Courses : Elementary 1A	1	4
		Kanji Courses : Elementary 1B	1	
		Kanji Courses : Elementary 2A	1	
		Kanji Courses : Elementary 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced A	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced B	1	
		Kanji Courses : Advanced A	1	
		Kanji Courses : Advanced B	1	

	Cybersecurity	Primary Course of Cyber Security - How to Survive the Cyber	1	1
	Subjects on Health and Sports	Laboratory of Health and Sports Science	1	1
	Subjects in Science	Computer Programming Exercise	1	
		Calculus I	1	
		Calculus II	1	
		Calculus III	1	
		Calculus IV	1	
		Linear Algebra I	1	
		Linear Algebra II	1	
		Linear Algebra III	1	
		Linear Algebra IV	1	
		Fundamental Physics I	1	
		Fundamental Physics II	1	
		Fundamental Physics III	1	
		Fundamental Physics IV	1	
		Fundamental Physics V	1	
		Fundamental Physics VI	1	
		Fundamental Physics VII	1	
		Fundamental Physics VIII	1	
		Basic Chemistry I	1	
		Basic Chemistry II	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry I	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry II	1	
		Fundamental Organic Chemistry I	1	
		Fundamental Organic Chemistry II	1	
		Fundamental Cell Biology I	1	
		Fundamental Cell Biology II	1	
		Introductory Biology I	1	
		Introductory Biology II	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science I	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science II	1	
		Drawings on Technical Design I	1	
		Drawings on Technical Design II	1	

（備考）

各国際コースの学生は、Subjects in Science の必修科目として、次の所定の単位を修得しなければならない。

国際コース	区分	授業科目及び単位数	最低修得単位数
電気情報工学科（電気情報工学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（1） Calculus I（1） Calculus II（1） Calculus III（1） Calculus IV（1）	21

		Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	
応用化学科(応用化学コース)国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Fundamental Inorganic Chemistry I（１） Fundamental Inorganic Chemistry II（１） Fundamental Organic Chemistry I（１） Fundamental Organic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	２１
機械工学科及び航空宇宙工学科(機械航空工学コース)国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１）	２３

		Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１） Drawings on Technical Design I（１） Drawings on Technical Design II（１）	
土木工学科(土木工学コース)国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	２１

別表第４（国際コースの専攻教育科目に関する授業科目及び単位数）

電気情報工学科

（電気情報工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目　（必　修）	

Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Graduation Research	１２
計	２２
共　通　科　目（選　択）	
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1

Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（電気情報工学コース）国際コース（必修）	
Mathematics for Electrical Engineering and Computer Science	2
Linear Circuits I	2
Linear Circuits II	2
Logic Circuits	2
Programming Methodology I	2
Programming Practice I	1
Computer Architecture I	2
Fundamentals of Integrated Circuits A	1
Fundamentals of Integrated Circuits B	1
Electric Energy A	1
Electric Energy B	1
Fundamentals of Communication Engineering A	1

Fundamentals of Communication Engineering B	1
Fundamentals of Computer Systems A	1
Fundamentals of Computer Systems B	1
Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science I	2
Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science II	2
Electromagnetic Theory I	2
System Control A	1
System Control B	1
Applied Mathematical Logic	2
Analog Electronic Circuits I	2
Data Structure and Algorithms IA	1
Data Structure and Algorithms IB	1
Electronic Measurements A	1
Electronic Measurements B	1
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science-Basic	2
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science I	2
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science II	2
計	４３
（電気情報工学コース）国際コース　（選　択）	
Practice in Logic Design	2
System Programming Laboratory	2

上記を除く電気情報工学科専攻教育科目の全て
共通科目より２２単位、電気情報工学コース科目より４３単位、選択科目（共通科目又は（電気情報工学コース）国際コース科目）から７単位の計７２単位を修得しなければならない。

応用化学科

（応用化学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1

Graduation Research	１２
計	２８
共　通　科　目（選　択）	
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（応用化学コース）国際コース　（必　　修）	
Organic Chemistry I	1
Organic Chemistry II	1
Organic Chemistry III	1
Organic Chemistry Ⅳ	1
Inorganic Chemistry III	1
Inorganic Chemistry Ⅳ	1
Analytical Chemistry I	1

Analytical Chemistry II	1
Analytical Chemistry III	1
Analytical Chemistry Ⅳ	1
Physical Chemistry I	1
Physical Chemistry II	1
Physical Chemistry III	1
Physical Chemistry Ⅳ	1
Polymer Chemistry I	1
Polymer Chemistry II	1
Chemical Reaction Engineering I	1
Chemical Reaction Engineering II	1
Biochemistry I	1
Biochemistry II	1
Coordination Chemistry I	1
Coordination Chemistry II	1
Polymer Chemistry III	1
Polymer Chemistry Ⅳ	1
Task-Based Exercise in Applied Chemistry I	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry II	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry III	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅳ	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅴ	2

Task-Based Exercise in Applied Chemistry VI	2
Experiment in Applied Chemistry IA	2
Experiment in Applied Chemistry IB	2
Experiment in Applied Chemistry IIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIB	2
Experiment in Applied Chemistry IIIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIIB	2
計	４８
共通科目２８単位及び（応用化学コース）国際コース科目から４８単位の合計７６単位を修得しなければならない。	

機械工学科及び航空宇宙工学科
（機械航空工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Fundamentals of Electrical Engineering I	1

Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	1 2

計	４２
共　通　科　目　(選 択)	
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（機械航空工学コース）国際コース（必修）	
Introduction to Mechanical and Aerospace Engineering	2
Strength of Materials IA	1
Strength of Materials IB	1
Strength of Materials IIA	1
Strength of Materials IIB	1
Fluid Mechanics IIA	1
Fluid Mechanics IIB	1
Thermodynamics Ⅰ	2
Thermodynamics Ⅱ	2
Mechanics I	1
Mechanics II	1
Dynamics of Machinery I	1
Dynamics of Machinery II	1
Systems Control IA	1

Systems Control IB	1
Systems Control IIA	1
Systems Control IIB	1
Heat Transfer I	1
Heat Transfer II	1
Mechanical and Aerospace Engineering Experiments Ⅰ	1
Mechanical and Aerospace Engineering Experiments Ⅱ	1
Mechanical and Aerospace Engineering Drawing and Design	2
Aerospace Engineering IA	1
Aerospace Engineering IB	1
Aerospace Engineering IIA	1
Aerospace Engineering IIB	1
Machine Design I	1
Machine Design II	1
Manufacturing Processes I	1
Manufacturing Processes II	1
Internal Combustion Engine Ⅰ	1
Internal Combustion Engine II	1
Computational Methods Ⅰ	1
Computational Methods II	1
計	３８
共通科目４２単位及び（機械航空工学コース）国際コース科目３８単位の合計８０単位を修得しなければならない。	

土木工学科

（土木工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　　称	単　　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1

Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	１２
計	３２
共　通　科　目　（選　択）	
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamental of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1

社会基盤・構造系　（必　　修）	
Structural Mechanics IA	1
Structural Mechanics IB	1
Construction Materials I	1
Construction Materials II	1
Structural Mechanics IIA	1
Structural Mechanics IIB	1
Bridge Engineering I	1
Bridge Engineering II	1
計	8
社会基盤・構造系　（選　　択）	
Maintenance Engineering	2
防災・地盤系　（必　　修）	
Soil Mechanics IA	1
Soil Mechanics IB	1
Soil Mechanics IIA	1
Soil Mechanics IIB	1
Applied Geotechnical Engineering I	1
Applied Geotechnical Engineering II	1
計	6
環境・水工系　（必　　修）	
Hydraulics IA	1
Hydraulics IB	1
Hydraulics IIA	1

Hydraulics IIB	1
Environmental Systems Engineering Ⅰ	1
Environmental Systems Engineering II	1
Basics of Environmental Engineering Ⅰ	1
Basics of Environmental Engineering II	1
Hydrosphere Engineering Ⅰ	1
Hydrosphere Engineering II	1
計	１０
交通・都市計画系　（必　　修）	
Mathematics for Planning Ⅰ	1
Mathematics for Planning II	1
Transportation Planning Ⅰ	1
Transportation Planning II	1
計	4
交通・都市計画系　（選　　択）	
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment I	1
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment II	1
Environmental Economics I	1
Environmental Economics II	1
実　験　・　概　論　（必　　修）	
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work A	2
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work B	2

Civil and Environmental Engineering Laboratory Work C	2
Civil and Environmental Engineering Practice	2
計	8
実　習　系　（選　択）	
Surveying and Mapping	3
必修科目６８単位及び選択科目４単位以上の合計７２単位を修得しなければならない。ただし、交通・都市計画系選択科目から２単位を最低限修得するものとする。	

九州大学工学部規則の一部を改正する規則（案）

令和２年度九大規則第　　号
制　　定：令和　３年　　月　　日

工学部を改組することに伴い、九州大学工学部規則（平成１６年度九大規則第１１５号）の一部を次のように改正する。

（新）

（略）

第２条　工学部の次の表の左欄に掲げる学科に、それぞれ右欄に掲げるコースを置く。

学　科	コース
電気情報工学科	計算機工学コース 電子通信工学コース 電気電子工学コース
材料工学科	
応用化学科	機能物質化学コース 分子生命工学コース
化学工学科	
融合基礎工学科	物質材料コース 機械電気コース
機械工学科	
航空宇宙工学科	
量子物理工学科	
船舶海洋工学科	
地球資源システム工学科	
土木工学科	
建築学科	

（旧）

（略）

第２条　（同左）

学　科	コース
建築学科	
電気情報工学科	
物質科学工学科	化学プロセス・生命工学コース 応用化学コース 材料科学工学コース
地球環境工学科	建設都市工学コース 船舶海洋システム工学コース 地球システム工学コース
エネルギー科学科	
機械航空工学科	機械工学コース 航空宇宙工学コース

2　工学部の次の表の左欄に掲げる学科に、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程をいう。以下同じ。）として、それぞれ右欄に掲げる国際コースを置く。	2　（同左）
学　科 / 国際コース 電気情報工学科 / （電気情報工学コース）国際コース 応用化学科 / （応用化学コース）国際コース 機械工学科及び航空宇宙工学科 / （機械航空工学コース）国際コース 土木工学科 / （土木工学コース）国際コース	学　科 / 国際コース 電気情報工学科 / （電気情報工学コース）国際コース 物質科学工学科 / （応用化学コース）国際コース 地球環境工学科 / （建設都市工学コース）国際コース 機械航空工学科 / （機械航空工学コース）国際コース
（略）	（略）
第６条　工学部における教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。	第６条　（同左）
２　基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第１のとおりとする。	２　（同左）
３　専攻教育科目に関する授業科目及び単位数は、別表第２のとおりとする。	３　専攻教育科目に関する授業科目及び単位数は、別表第２及び別表第３のとおりとする。
４　専攻教育科目を工学部共通科目、学科群共通科目、学科・専攻科目及び卒業研究に分ける。	４　専攻教育科目を必修科目、選択科目及び参考科目に分ける。
５　単位計算の基準は、講義及び演習については１５時間又は３０時間をもって１単位、実験及び実習については３０時間又は４５時間をもって１単位とする。	５　必修科目は、その単位を修得しなければならない。
	６　選択科目は、学科において指定された単位数以上となるように選択してその単位を修得しなければならない。
	７　参考科目は、学修の参考のため、履修することを要望する科目である。
	８　学科において教育上有益と認めるときは、別表第２の授業科目のうち、選択科目については、あらかじめ指定した他学部の授業科目をもって替えることができる。
	９　別表第３の授業科目は、外国人留学生に共通の授業科目とする。
	１０　単位計算の基準は、講義及び演習につ

	いては１５時間又は３０時間をもって１単位、実験及び実習については３０時間又は４５時間をもって１単位とする。
第７条　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第３及び別表第４とおりとする。	第７条　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第４及び別表第５のとおりとする。
２　第２条第２項に掲げる国際コースの学生は、学科において教育上有益と認めるときは、別表第３及び別表第４の授業科目以外の授業科目を、自由科目（修得した単位を第１５条の２第１項に規定する卒業の要件となる単位数に算入しない科目をいう。）として履修することができる。	２　第２条第２項に掲げる国際コースの学生は、学科において教育上有益と認めるときは、別表第４及び別表第５の授業科目以外の授業科目を、自由科目（修得した単位を第１５条の２第１項に規定する卒業の要件となる単位数に算入しない科目をいう。）として履修することができる。
（略）	（略）
第９条　３年次以降に開講される専攻教育科目を履修するには、２年次終了までに、基幹教育科目のうち学科又はコースごとに定める授業科目の単位数を修得しておかなければならない。	第９条　３年次以降に開講される専攻教育科目を履修するには、２年次終了までに、基幹教育科目のうち学科ごとに定める授業科目の単位数を修得しておかなければならない。
（略）	（略）
第１１条　授業科目の成績評価は、通則第１７条の３の規定に基づき行うものとする。	第１１条　授業科目の成績評価は、学部通則第１７条の３の規定に基づき行うものとする。
（略）	（略）
第１５条　工学部の卒業の要件は、工学部に４年以上在学し、別表第１及び別表第２の授業科目について、次の各号に定める単位数以上を修得しなければならない。	第１５条　（同左）
(1)　電気情報工学科　基幹教育科目から４６単位、専攻教育科目から８７．５単位、合計１３３．５単位	(1)　建築学科　基幹教育科目から５０単位、専攻教育科目から８１単位、合計１３１単位
(2)　材料工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位	(2)　電気情報工学科　基幹教育科目から４６．５単位、専攻教育科目から８３単位、合計１２９．５単位
(3)　応用化学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位	(3)　物質科学工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位
(4)　化学工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８５単位、合計１３３．５単位	(4)　地球環境工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８５単位、合計１３３．５単位
(5)　融合基礎工学科（物質材料コース）　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位	(5)　エネルギー科学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８２単位、合計１３１．５単位
(6)　融合基礎工学科（機械電気コース）　基幹教育科目から４５．５単位、専攻教育科目から８９単位、合計１３４．５単位	(6)　機械航空工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８２単位、合計１３０．５単位

(7)　機械工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６単位、合計１３４．５単位 (8)　航空宇宙工学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８６．５単位、合計１３５単位 (9)　量子物理工学科　基幹教育科目から４５．５単位、専攻教育科目から８７単位、合計１３２．５単位 (10)　船舶海洋工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５．５単位、合計１３５単位 (11)　地球資源システム工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５．５単位、合計１３５単位 (12)　土木工学科　基幹教育科目から４９．５単位、専攻教育科目から８５単位、合計１３４．５単位 (13)　建築学科　基幹教育科目から４８．５単位、専攻教育科目から８２単位、合計１３０．５単位	
２　（略）	２　（略）
第１５条の２　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの卒業の要件は、工学部に４年以上在学し、別表第３及び別表第４の授業科目について、次の各号に定める単位数以上を修得しなければならない。	第１５条の２　前条の規定にかかわらず、第２条第２項に掲げる国際コースの卒業の要件は、工学部に４年以上在学し、別表第４及び別表第５の授業科目について、次の各号に定める単位数以上を修得しなければならない。
(1)　（略）	(1)　（略）
(2)　応用化学科（応用化学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７６単位、合計１２８．５単位	(2)　物質科学工学科（応用化学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７６単位、合計１２８．５単位
(3)　機械工学科及び航空宇宙工学科（機械航空工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から８０単位、合計１３２．５単位	
(4)　土木工学科（土木工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７２単位、合計１２４．５単位	(3)　地球環境工学科（建設都市工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から７２単位、合計１２４．５単位 (4)　機械航空工学科（機械航空工学コース）国際コース　基幹教育科目から５２．５単位、専攻教育科目から８０単位、合計１３２．５単位
２　（略）	２　（略）
第１５条の３　工学部融合基礎工学科に、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な問題に対応し、解決する能力を備え	

た工学系人材の育成を行うため、高専連携教育プログラムを置く。 ２　高専連携教育プログラムの修了要件は、工学部融合基礎工学科に２年以上在学し、別表第１及び別表第２に定める授業科目について、基幹教育科目から４５．５単位以上、専攻教育科目から８９単位以上を修得し、合計１３４．５単位以上を修得することとする。 ３　高専連携教育プログラムにかかる単位認定その他必要な事項については、別に定める。 （略） **別表第１**　（別紙のとおり） **別表第２**　（別紙のとおり） **別表第３**　（別紙のとおり） **別表第４**　（別紙のとおり）	（略） **別表第１**　（別紙のとおり） **別表第２**　（別紙のとおり） **別表第３**　（別紙のとおり） **別表第４**　（別紙のとおり） **別表第５**　（別紙のとおり）

附　則（令和２年度九大規則第　　号）

１　この規則は、令和３年４月１日から施行する。

２　この規則による改正後の九州大学工学部規則（以下「新規則」という。）は、令和３年４月１日に本学部に入学する者から適用し、令和３年３月３１日に本学部に在学し、同年４月１日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

３　前２項の規定にかかわらず、新規則第１５条の３の規定は、令和５年４月１日に本学部融合基礎工学科に編入学する者から適用する。

（別紙）

※改正部分の下線省略

新

別表第１（基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区 分		授 業 科 目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	1	1	1
課題協学科目		課題協学科目	2．5	２．５	２．５
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・アカデミックイシューズ	1	第１外国語	１２
		学術英語・グローバルイシューズ	1	英語　６	
		学術英語・CALL　1	1		
		学術英語・プロダクション１	1		
		学術英語・プロダクション２	1		
		学術英語・CALL　2	1		
		学術英語・テーマベース	1		
		学術英語・スキルベース	1		
		学術英語・集中演習	2		
		専門英語	1		
		ドイツ語ＩＡ	1	第２外国語	
		ドイツ語ＩＢ	1	4	
		ドイツ語ⅡＡ	1		
		ドイツ語ⅡＢ	1		
		ドイツ語Ⅲ	1		
		ドイツ語Ⅳ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅡ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅢ	1		
		フランス語ＩＡ	1		
		フランス語ＩＢ	1		
		フランス語ⅡＡ	1		
		フランス語ⅡＢ	1		
		フランス語Ⅲ	1		
		フランス語Ⅳ	1		
		フランス語プラティクＩ	1		
		フランス語プラティクⅡ	1		
		フランス語プラティクⅢ	1		
		中国語ＩＡ	1		
		中国語ＩＢ	1		
		中国語ⅡＡ	1		
		中国語ⅡＢ	1		
		中国語Ⅲ	1		
		中国語Ⅳ	1		
		中国語実践Ⅰ	1		
		中国語実践Ⅱ	1		

		中国語実践Ⅲ	1		
		中国語集中演習	2		
		ロシア語ＩＡ	1		
		ロシア語ＩＢ	1		
		ロシア語ⅡＡ	1		
		ロシア語ⅡＢ	1		
		ロシア語Ⅲ	1		
		ロシア語Ⅳ	1		
		韓国語ＩＡ	1		
		韓国語ＩＢ	1		
		韓国語ⅡＡ	1		
		韓国語ⅡＢ	1		
		韓国語Ⅲ	1		
		韓国語Ⅳ	1		
		韓国語表現演習Ⅰ	1		
		韓国語表現演習Ⅱ	1		
		スペイン語ＩＡ	1		
		スペイン語ＩＢ	1		
		スペイン語ⅡＡ	1		
		スペイン語ⅡＢ	1		
		スペイン語Ⅲ	1		
		スペイン語Ⅳ	1		
		スペイン語表現演習Ⅰ	1		
		スペイン語表現演習Ⅱ	1		
		日本語Ⅰ	1		
		日本語Ⅱ	1		
		日本語Ⅲ	1		
		日本語Ⅳ	1		
		日本語Ⅴ	1		
		日本語Ⅵ	1		
		日本語Ⅶ	1		
文系ディシプリン科目		哲学・思想入門	2	4	4
		先史学入門	2		
		歴史学入門	2		
		文学・言語学入門	2		
		芸術学入門	2		
		地理学入門	2		
		社会学入門	2		
		心理学入門	2		
		現代教育学入門	1		
		教育基礎学入門	1		
		法学入門	2		
		政治学入門	2		
		経済学入門	2		
		経済史入門	2		
		The Law and Politics of International Society	2		

理	社会と数理科学	1	※備考２参照
系	入門微分積分Ⅰ	1	
デ	入門微分積分Ⅰ	1	
ィ	微分積分学Ⅰ	2	
シ	微分積分学Ⅱ	2	
プ	入門線形代数Ⅰ	1	
リ	入門線形代数Ⅱ	1	
ン	線形代数学Ⅰ	2	
科	線形代数学Ⅱ	2	
目	数学演習ＡⅠ	1	
	数学演習ＡⅡ	1	
	数学演習Ｂ	1	
	数理統計学	2	
	身の回りの物理学Ａ	1	
	身の回りの物理学Ｂ	1	
	力学概論	2	
	力学概論演習	1	
	電磁気学概論	1	
	電磁気学概論演習	０．５	
	熱力学概論	1	
	熱力学概論演習	０．５	
	力学基礎	2	
	力学基礎演習	1	
	電磁気学基礎	1	
	電磁気学基礎演習	０．５	
	熱力学基礎	1	
	熱力学基礎演習	０．５	
	物理学の進展Ａ	1	
	物理学の進展Ｂ	1	
	現代物理学基礎	2	
	原子核物理学	2	
	身の回りの化学	1	
	無機物質化学Ⅰ	1	
	無機物質化学Ⅱ	1	
	有機物質化学Ⅰ	1	
	有機物質化学Ⅱ	1	
	基礎化学結合論Ⅰ	1	
	基礎化学結合論Ⅱ	1	
	基礎化学熱力学Ⅰ	1	
	基礎化学熱力学Ⅱ	1	
	現代化学	2	
	基礎生物有機化学Ⅰ	1	
	基礎生物有機化学Ⅱ	1	
	基礎生化学Ⅰ	1	
	基礎生化学Ⅱ	1	
	機器分析学	2	
	生命の科学Ａ	1	
	生命の科学Ｂ	1	
	生物学概論	2	

	細胞生物学	2		
	集団生物学	2		
	分子生物学	2		
	生態系の科学	2		
	地球と宇宙の科学	1		
	地球科学	1		
	最先端地球科学	1		
	宇宙科学概論	2		
	デザイン思考	1		
	図形科学Ⅰ	1		
	図形科学Ⅱ	1		
	空間表現実習Ⅰ	2		
	空間表現実習Ⅱ	2		
	世界建築史概論	1		
	日本建築史概論	1		
	近・現代建築史	1		
	デザイン史	2		
	情報科学	2		
	プログラミング演習	1		
	コンピュータープログラミング入門	1		
	自然科学総合実験	1		
	基礎科学実習	1		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1	1	1
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1	1	1
	身体運動科学実習ＩＡ	０．５		
	身体運動科学実習ＩＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅡＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅡＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅢＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅢＢ	０．５		
	身体運動科学実習ⅣＡ	０．５		
	身体運動科学実習ⅣＢ	０．５		
	身体運動科学実習Ⅴ	1		
	健康・スポーツ科学講義Ａ	1		
	健康・スポーツ科学講義Ｂ	1		
総合科目	先端技術入門Ａ	1	2	2
	先端技術入門Ｂ	1		
	アカデミック・フロンティアⅠ	1		
	アカデミック・フロンティアⅡ	1		
	大学とは何かⅠ	1		
	大学とは何かⅡ	1		
	九州大学の歴史Ⅰ	1		
	九州大学の歴史Ⅱ	1		
	女性学・男性学Ⅰ	1		
	女性学・男性学Ⅱ	1		
	社会連携活動論：ボランティア	1		

	社会連携活動論：インターンシップ	1		
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
	Law in Everyday Life A	1		
	Law in Everyday Life B	1		
	バリアフリー支援入門	1		
	ユニバーサルデザイン研究	1		
	アクセシビリティ入門	1		
	アクセシビリティ支援入門	1		
	アクセシビリティ基礎	1		
	人と人をつなぐ技法	1		
	コミュニケーション入門	1		
	体験してわかる自然科学	1		
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1		
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1		
	アジア埋蔵文化財学Ａ	2		
	アジア埋蔵文化財学Ｂ	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1		
	グローバル社会を生きるⅠ	2		
	グローバル社会を生きるⅡ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1		
	フィールドに学ぶＡ	1		
	教育テスト論	1		
	現代企業分析	2		
	現代経済事情	2		
	外国語プレゼンテーション	1		
	水の科学	1		
	医療倫理学Ⅰ	1		
	医療倫理学Ⅱ	1		
	バイオエシックス入門	1		
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1		
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1		
	命のあり方・尊さと食の連関	1		
	食肉加工の理論と実践	1		
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1		
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1		
	体験的農業生産学入門	1		
	農のための植物-環境系輸送現象論	1		
	農のための最適環境制御	1		
	食科学の新展開	1		

	作物生産とフロンティア研究	2		
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1		
	農業と微生物	1		
	企業から見たサイバーセキュリティＡ	2		
	企業から見たサイバーセキュリティＢ	2		
	サイバーセキュリティ演習	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ａ	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ｂ	1		
	セキュリティエンジニアリング演習Ｃ	1		
	分子の科学			
	「留学」考			
	Japan in Global Society			
	アイデア・ラボⅠ			
	アントレプレナーシップ入門			
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）			
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）			
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）			
	少人数セミナー			
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			
高年次基幹教育科目	科学の歴史Ａ	1	2	2
	科学の歴史Ｂ	1		
	科学の基礎（哲学的考察）	1		
	脳情報科学入門	1		
	認知心理学	1		
	Brain and Mind	1		
	機械学習と人工知能	1		
	現代社会Ⅰ	2		
	現代社会Ⅱ	2		
	現代社会Ⅲ	2		
	現代社会Ⅳ	2		
	現代史Ⅰ	2		
	現代史Ⅱ	2		
	現代史Ⅲ	2		
	現代史Ⅳ	2		
	ＥＵ論基礎―制度と経済―	2		
	技術と産業・企業	2		
	グローバル化とアジア経済	2		
	金融と経済	2		
	サイバー空間デザイン	2		
	芸術学概論	1		
	音楽・音響論	2		
	デザインと観察	2		
	環境問題と自然科学	2		
	環境調和型社会の構築	2		
	グリーンケミストリー	2		
	自然災害と防災	2		
	生態系の構造と機能Ⅰ	1		

	生態系の構造と機能Ⅱ	1		
	男女共同参画	2		
	漢方医薬学	1		
	臨床イメージング	1		
	社会と健康	2		
	国際保健と医療	2		
	アクセシビリティマネジメント研究	2		
	地球の進化と環境	2		
	生物多様性と人間文化Ａ	1		
	生物多様性と人間文化Ｂ	1		
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2		
	平和と安全の構築学	1		
	文化と社会の理論	2		
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2		
	法文化学入門	2		
	法史学入門	2		
	ローマ法史	2		
	アジア共同体入門	2		
	プレゼンテーション基礎	1		
	レトリック基礎	1		
	共創発想法	2		
	データマイニングと情報可視化	1		
	技術と倫理	1		
	研究と倫理	1		
	インフォームドコンセント	1		
	臨床倫理	1		
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	1		
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1		
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	1		
	事業創造デザイン特論Ⅰ	1		
	事業創造デザイン特論Ⅱ	1		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうＡ	1		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうＢ	1		
	社会統計学Ａ	1		
	社会統計学Ｂ	1		
	社会調査法ⅠＡ	1		
	社会調査法ⅠＢ	1		
	社会調査法ⅡＡ	1		
	社会調査法ⅡＢ	1		
	教育学特論	2		
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2		
	日本国憲法	2		
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			

上記に掲げる最低修得単位のほか、備考３に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(備考)

１　「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第１外国語又は第２外国語として最低修得単位数に含めることができる。

２　各学科の学生は、理系ディシプリン科目として次の所定の単位を修得しなければならない。

学科	授業科目		単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
電気情報工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０．５	２０．５
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数学演習B	1		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		電磁気学基礎演習	０．５		
		熱力学基礎	1		
		現代物理学基礎	2		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
材料工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

応用化学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
化学工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
融合基礎工学科（物質材料コース）	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅰ	1		
		基礎化学熱力学Ⅱ	1		
		細胞生物学	2		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

融合基礎工学科（機械電気コース）	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２０
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
機械工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
航空宇宙工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

量子物理工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２０
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
船舶海洋工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		

地球資源システム工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		
土木工学科	必修科目	微分積分学Ⅰ	2	２０	２４
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		数理統計学	2		
		力学基礎	2		
		力学基礎演習	1		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		
	選択必修科目	電磁気学基礎演習	０．５	4	
		熱力学基礎演習	０．５		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		基礎化学結合論Ⅰ	1		
		基礎化学結合論Ⅱ	1		
		生物学概論	2		
		地球科学	1		
		最先端地球科学	1		

建 築 学 科	必 修 科 目	微分積分学Ⅰ	2	２３	２３
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		力学基礎	2		
		電磁気学基礎	1		
		熱力学基礎	1		
		無機物質化学Ⅰ	1		
		無機物質化学Ⅱ	1		
		有機物質化学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅰ	1		
		図形科学Ⅱ	1		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		世界建築史概論	1		
		日本建築史概論	1		
		近・現代建築史	1		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験	1		

別表第２（専攻教育科目に関する授業科目及び単位数）

電気情報工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
電気情報工学入門	1	必修
電気情報数学Ⅰ	1	必修
電気情報数学Ⅱ	1	必修
回路理論Ⅰ	2	必修
回路理論Ⅱ	2	必修
論理回路	2	必修
プログラミング論	2	必修
プログラミング演習Ⅰ	1	必修

コンピュータアーキテクチャⅠ	2	必修
データ構造とアルゴリズムⅠ	1	※1
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	※1
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
（学　科　共　通　科　目）		
ディジタル電子回路Ⅰ	1	※2
ディジタル電子回路Ⅱ	1	※2
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
電気情報工学基礎実験	2	必修
電気情報工学セミナーA	0．5	必修
電気情報工学セミナーB	0．5	
アナログ電子回路Ⅰ	1	※2、※3
アナログ電子回路Ⅱ	1	※2、※3
アナログ電子回路Ⅲ	1	
アナログ電子回路Ⅳ	1	
情報理論Ⅰ	1	※1、※2
情報理論Ⅱ	1	※1、※2
ディジタル信号処理Ⅰ	1	
ディジタル信号処理Ⅱ	1	
複素関数論	2	※2、※3
電気情報工学実験Ⅰ	2	必修
電気情報工学実習	1	
電気情報工学実験Ⅱ	2	必修
離散数学Ⅰ	1	※1

離散数学Ⅱ	1	※1
電気エネルギー工学通論Ⅰ	1	※1、※2
電気エネルギー工学通論Ⅱ	1	※1、※2
電磁気学Ⅰ	2	※2、※3
電磁気学Ⅱ	2	※2、※3
電磁気学Ⅲ	1	※2、※3
電磁気学Ⅳ	1	※2、※3
信号とシステムⅠ	1	※2
信号とシステムⅡ	1	※2
計測工学ＢⅠ	1	
計測工学ＢⅡ	1	
通信方式Ⅰ	1	※2
通信方式Ⅱ	1	※2
通信ネットワークⅠ	1	
通信ネットワークⅡ	1	
数理計画法Ⅰ	1	
数理計画法Ⅱ	1	
制御工学ＡⅠ	1	※3
制御工学ＡⅡ	1	※3
回路理論Ⅲ	1	※2、※3
回路理論Ⅳ	1	※2、※3
電子物性Ⅰ	1	※2、※3
電子物性Ⅱ	1	※2、※3
プログラミング演習Ⅱ	1	※2、※3
プログラミング演習Ⅲ	1	※2、※3

半導体の性質	1	※２
トランジスタ基礎論	1	※２
電磁波工学Ⅰ	1	
電磁波工学Ⅱ	1	
集積回路工学Ⅰ	1	
集積回路工学Ⅱ	1	
プラズマ工学Ⅰ	1	
プラズマ工学Ⅱ	1	
光エレクトロニクスⅠ	1	
光エレクトロニクスⅡ	1	
コンピュータシステム通論Ⅰ	1	※２、※３
コンピュータシステム通論Ⅱ	1	※２、※３
電気電子工学設計Ⅰ	1	
電気電子工学設計Ⅱ	1	
（計　算　機　工　学　科　目）		
情報論理学Ⅰ	1	※１
情報論理学Ⅱ	1	※１
基礎ＰＢＬⅠ	1	※１
データ構造とアルゴリズム演習	1	※１
形式言語とオートマトンⅠ	1	※１
オペレーティングシステムⅠ	1	※１
形式言語とオートマトンⅡ	1	※１
オペレーティングシステムⅡ	1	※１
確率統計Ⅰ	1	※１
データベースⅠ	1	※１

基礎ＰＢＬⅡ	1	※1
集積回路工学通論Ⅰ	1	※1
確率統計Ⅱ	1	※1
データベースⅡ	1	※1
集積回路工学通論Ⅱ	1	※1
コンパイラⅠ	1	※1
電気情報工学実験Ⅲ	2	※1
コンパイラⅡ	1	※1
コンピュータアーキテクチャⅡ	1	
コンピュータアーキテクチャⅢ	1	
コンピュータシステムⅠ	1	
データ構造とアルゴリズムⅢ	1	
ソフトウエア工学Ⅰ	1	
プログラミング言語論Ⅰ	1	
コンピュータシステムⅡ	1	
データ構造とアルゴリズムⅣ	1	
ソフトウエア工学Ⅱ	1	
プログラミング言語論Ⅱ	1	
アルゴリズム論Ⅰ	1	
データ解析と実験計画法Ⅰ	1	
コンピュータシステムⅢ	1	
サイバーセキュリティⅠ	1	
分散システムⅠ	1	
技術表現法Ⅰ	1	
人工知能Ⅰ	1	

パターン認識Ⅰ	1	
アルゴリズム論Ⅱ	1	
データ解析と実験計画法Ⅱ	1	
コンピュータシステムⅣ	1	
サイバーセキュリティⅡ	1	
分散システムⅡ	1	
技術表現法Ⅱ	1	
人工知能Ⅱ	1	
パターン認識Ⅱ	1	
（電　子　通　信　工　学　科　目）		
量子力学応用Ⅰ	1	
量子力学応用Ⅱ	1	
電子デバイスⅠ	1	
電子デバイスⅡ	1	
制御工学ＢⅠ	1	※2
制御工学ＢⅡ	1	※2
応用確率論	2	
（電　気　電　子　工　学　科　目）		
エネルギー基礎論Ⅰ	1	※3
エネルギー基礎論Ⅱ	1	※3
制御工学ＡⅢ	1	
制御工学ＡⅣ	1	
基礎エネルギー変換機器学Ⅰ	1	※3
基礎エネルギー変換機器学Ⅱ	1	※3
計測工学ＡⅠ	1	※3

計測工学ＡⅡ	1	※3
電力輸送工学Ⅰ	1	
電力輸送工学Ⅱ	1	
電気電子材料Ⅰ	1	
電気電子材料Ⅱ	1	
計測工学ＡⅢ	1	
計測工学ＡⅣ	1	
エネルギー変換機器工学Ⅰ	1	
エネルギー変換機器工学Ⅱ	1	
通信工学通論Ⅰ	1	※3
通信工学通論Ⅱ	1	※3
パワーエレクトロニクスⅠ	1	
パワーエレクトロニクスⅡ	1	
システム工学Ⅰ	1	
システム工学Ⅱ	1	
超伝導基礎論Ⅰ	1	
超伝導基礎論Ⅱ	1	
高電圧・パルスパワー工学Ⅰ	1	
高電圧・パルスパワー工学Ⅱ	1	
電気法規および施設管理Ⅰ	1	
電気法規および施設管理Ⅱ	1	
卒　　業　　研　　究		
電気情報工学卒業研究	8	必修

※１　計算機工学コースにおける必修科目
※２　電子通信工学コースにおける必修科目
※３　電気電子工学コースにおける必修科目

必修科目を含む、以下の要件を満たす８７．５単位以上を修得しなければならない。
（計算機工学コース）
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１８単位
（３）学科・専攻科目から３３．５単位
　　学科共通科目から１４．５単位
　　計算機工学科目から１９単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
　　（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２５単位以上修得する。

（電子通信工学コース）
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１６単位
（３）学科・専攻科目から４０．５単位
　　学科共通科目から３８．５単位
　　電子通信工学科目から２単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
　　（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２０単位以上修得する。

（電気電子工学コース）
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１６単位
（３）学科・専攻科目から３６．５単位
　　学科共通科目から２８．５単位
　　計算機工学科目から８単位
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
　　（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から２４単位以上修得する。

材料工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修

学　科　群　共　通　科　目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修
学　科　・　専　攻　科　目		
平衡組織学	2	必修
冶金物理化学Ⅰ	2	必修
冶金物理化学Ⅱ	2	必修
材料工学実験第一	2	必修
複素関数論	2	必修
材料力学入門	1	必修
材料設計製図Ⅰ	1	必修
材料設計製図Ⅱ	1	必修
移動現象論	2	必修
固体物理学	2	必修

弾性・塑性変形工学	1	必修
結晶化学	2	必修
電子物性論	2	必修
材料電気化学	2	必修
超伝導材料工学	2	
鉄鋼製錬学	2	
材料工学実験第二	2	必修
数理解析概論	2	必修
凝固及び結晶成長	2	必修
機械工作実習	1	必修
産業科学技術特別講義	2	
材料工学特別演習	1	
薄膜物理	2	
材料強度物性	2	必修
金属組織制御学	2	必修
エネルギー材料工学	2	
バイオマテリアル	2	
データサイエンス	2	必修
材料工学実験第三	2	必修
材料表面科学	2	
無機材料解析学	2	
鉄鋼材料工学	2	
高温材料強度学	1	必修
非鉄金属製錬学	2	
材料反応工学	2	必修

半導体工学	2	必修
接合・複合工学	2	
電解工学	2	
非鉄金属材料工学	1	
セラミックス材料学	2	
卒　　業　　研　　究		
材料工学卒業研究	8	必修
以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１８単位 （３）学科・専攻科目から４４単位 （４）卒業研究から８単位 （５）その他 （２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から１３単位以上修得する。		

応用化学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修

電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
複素関数論	2	
応用化学実験第一	2	必修
生化学第一	2	必修
高分子化学第一	2	必修
分析化学第一	2	必修
有機化学第二	2	必修
物理化学第二	2	必修
応用物理学第一	2	
データサイエンス	2	必修
化学工学第一	2	必修
無機化学第二	2	必修
量子化学第二	2	必修
数理解析概論	2	
応用化学実験第二	2	必修
化学工学第二	2	必修
分析化学第二	2	必修

高分子化学第二	2	必修
有機化学第三	2	必修
生化学第二	2	
無機化学第三	2	必修
物理化学第三	2	
表面化学	2	
応用化学実験第三	2	必修
物理化学演習	1	必修
触媒化学	2	必修
高分子化学第三	2	
生体機能化学	2	
有機化学第四	2	
量子化学演習	1	必修
分析化学第三および演習	2	必修
無機化学第四	2	
分子組織化学	2	
応用化学特別講義第一	1	
応用化学特別講義第二	1	
応用化学特別講義第三	1	
応用化学特別演習第一	1	
応用化学特別講義第四	1	
応用化学特別講義第五	1	
応用化学特別演習第二	1	
卒　　業　　研　　究		
応用化学卒業研究	8	必修

以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１８単位
（３）学科・専攻科目から４０単位
「複素関数論」及び「数理解析概論」のいずれか１科目を選択必修とする。
（４）卒業研究から８単位
（５）その他
（２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目から１７単位以上修得する。このうち、学科・専攻科目の「複素関数論」及び「数理解析概論」のいずれか１科目を選択必修とする。

化学工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
物理化学第一	2	必修
量子力学第一	2	必修
無機化学第一	2	必修
有機化学第一	2	必修
金属材料大意	2	必修
機械工学大意第一	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	必修

テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
物理化学第二	2	必修
化学工学量論	2	必修
基礎生命工学	2	必修
化工数学	2	必修
化学工学実験第一	2	必修
応用物理学第一	2	
数理解析概論	2	必修
物質移動工学	2	必修
基礎流体工学	2	必修
エネルギー材料工学	2	
プロセス物理化学	2	必修
化工流体工学	2	必修
生物プロセス工学第一	2	必修
機械工学大意第二	2	
接合・複合工学	2	
データサイエンス	2	必修
化学工学実験第二	2	必修
化学工学特別講義	1	
応用物理学第二	2	
基礎熱工学	2	必修
プロセス制御	2	必修

反応工学第一	2	必修
プロセス計装	1	
生物プロセス工学第二	2	必修
高分子化学第三	2	
化工情報処理演習	1	必修
化学工学実験第三	2	必修
生命工学特別講義	1	
化工熱工学	2	必修
分離工学	2	必修
プロセスシステム工学	2	必修
生物化学工学	2	必修
反応工学第二	2	必修
卒　　業　　研　　究		
化学工学卒業研究	8	必修
以下の要件を満たす８５単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１８単位 （３）学科・専攻科目から４７単位 （４）卒業研究から８単位 （５）その他 （２）及び（３）に基づき修得するもののほかに、学科群共通科目及び学科・専攻科目の中から９単位以上修得する。		

融合基礎工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	※１、※２
データサイエンス序論	2	※１、※２

学　科　群　共　通　科　目		
無機化学第一	2	※1
有機化学第一	2	※1
金属材料大意	2	※1
物理化学第一	2	※1
量子力学第一	2	※1
機械工学大意第一	2	※1
電気工学基礎Ⅰ	1	※1
電気工学基礎Ⅱ	1	※1
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
安全学	2	※1
テクノロジー・マーケティング	2	
工学概論	2	※1、※2
ベクトル解析と微分方程式	2	※2
工業力学	2	※2
材料力学Ⅰ	1	※2
材料力学Ⅱ	2	※2
熱力学Ⅰ	2	※2
流れ学Ⅰ	2	※2
現代物理学入門	2	※2
原子力工学概論	2	
応用量子物理学入門	2	
学　科・専　攻　科　目		
（学　科　共　通　科　目）		

複素関数論	2	※1、※2
常微分方程式とラプラス変換	2	
フーリエ解析と偏微分方程式	2	
データ解析の数学	2	
エネルギー変換工学	2	
光・量子物理計測	2	
材料強度学	2	
化学反応論Ⅰ	1	
化学反応論Ⅱ	1	
プロセス化学工学	2	
光エレクトロニクス	2	
構造材料学	1	
材料加工学	1	
先端計測科学	1	
エネルギー・環境学A	1	
エネルギー・環境学B	1	
半導体・デバイス工学A	1	
半導体・デバイス工学B	1	
プラズマ応用工学	1	
融合基礎情報学Ⅰ	2	※1、※2
融合基礎情報学Ⅱ	2	※1、※2
融合基礎情報学Ⅲ	2	※1、※2
融合応用情報学A	1	
融合応用情報学B	1	
融合応用情報学C	1	

融合応用情報学D	1	
知的財産論	1	
マネージメント論	1	
マーケティング論	1	
インターンシップⅠ（長期）	3	※3
インターンシップⅡ（短期）	1	
融合基礎工学展望	2	※1、※2
融合工学概論Ⅰ	2	必修
融合工学概論Ⅱ	2	※3
研究プロジェクト	4	※3
グローバル科目Ⅰ（論文）	1	必修
グローバル科目Ⅱ（討論）	1	必修
融合基礎工学特別講義A	1	
融合基礎工学特別講義B	1	
（物　質　材　料　コ　ー　ス　科　目）		
材料力学入門	1	※1
物理化学第二	2	※1
分析化学第一	2	※1
無機化学第二	2	※1
弾性・塑性変形工学	1	※1
相平衡論	2	
固体物理Ⅰ	2	※1
結晶学基礎	1	※1
分光学基礎	1	※1
機器分析学	2	※1

材料速度論	1	
無機化学第三	2	
固体物理Ⅱ	1	※1
電気化学Ⅰ	1	
電気化学Ⅱ	1	
触媒化学Ⅰ	1	
触媒化学Ⅱ	1	
材料組織制御学	1	
相転移論	1	
材料表面工学	1	
磁性材料学	1	
構造解析学	1	
セラミックス材料学Ⅰ	1	
セラミックス材料学Ⅱ	1	
物質材料科学実験Ⅰ	2	※1
物質材料科学実験Ⅱ	2	※1
物質材料科学実験Ⅲ	2	※1
物質材料科学実験Ⅳ	2	※1
（機　械　電　気　コ　ー　ス　科　目）		
力学	1	※2
流体力学Ⅰ	2	※2
熱エネルギー変換基礎	2	※2
振動力学	2	
熱・流体計測学	1	
自動制御	2	

統計力学	2	
量子力学	2	
電磁気学Ⅰ	2	※2
電磁気学Ⅱ	2	
電気回路Ⅰ	2	※2
電気回路Ⅱ	2	
流体力学Ⅱ	2	※2
伝熱学	2	※2
航空力学	1	
流体機械	1	
熱機関工学	1	
流体力学演習	1	
熱工学演習	1	
電気エネルギー工学	1	
高電圧・パルスパワー工学	2	
プラズマ理工学Ⅰ	1	
プラズマ理工学Ⅱ	1	
機械電気科学実験Ⅰ	1	※2
機械電気科学実験Ⅱ	1	※2
機械電気科学実験Ⅲ	1	※2
機械電気科学実験Ⅳ	1	※2
機械電気科学設計演習	1	※2
卒　業　研　究		
卒業研究	6	必修
※1　物質材料コースにおける必修科目 ※2　機械電気コースにおける必修科目		

※３　高専連携教育プログラムにおける必修科目

（物質材料コース）
以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１８単位
（３）学科・専攻科目から５９単位
　学科共通科目から１６単位。なお、「常微分方程式とラプラス変換」、「化学反応論Ⅰ」及び「化学反応論Ⅱ」から２単位を選択必修とする。
　物質材料コース科目から２３単位以上
（４）卒業研究から６単位
（５）その他
　（１）から（３）に基づき修得するもののほか、学科共通科目と物質材料コース科目から２０単位以上

（機械電気コース）
以下の要件を満たす８９単位以上を修得しなければならない。
（１）工学部共通科目から３単位
（２）学科群共通科目から１５単位
（３）学科・専攻科目から６５単位
　学科共通科目から１６単位。なお、「フーリエ解析と偏微分方程式」及び「エネルギー変換工学」から２単位を選択必修とする。
　機械電気コース科目から１８単位以上
（４）卒業研究　６単位
（５）その他
　（１）から（３）に基づき修得するもののほか、学科共通科目及び機械電気コース科目から３１単位以上

（高専連携教育プログラム）
以下の要件を満たす８９単位以上を修得しなければならない。ただし、編入学前に高等専門学校で学修した専門科目（高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）第１６条に定めるものをいう。）について、３２単位を上限に単位認定することができるものとする。
（１）学科・専攻科目の学科共通科目から２４単位
（２）卒業研究から６単位
（３）その他
　高等専門学校専攻科において開講される科目から２７単位

機械工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修

学　科　群　共　通　科　目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修
工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	
学　科・専　攻　科　目		
材料力学Ⅲ	1．5	必修
複素関数論	2	必修
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
機械工作実習Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
熱力学Ⅱ	1．5	必修
機械力学Ａ	1．5	必修
流れ学Ⅱ	1．5	必修
機械材料Ⅰ	1	必修

材料力学Ⅳ	1	必修
機械工作実習Ⅱ	1	必修
機械設計Ⅰ	1．5	必修
機械力学B	1．5	必修
流体力学Ⅰ	1．5	必修
弾性力学A	1	必修
機械工学実験第一	1	必修
数値解析基礎	2	必修
システム制御A	1	必修
機械製作法Ⅰ	2	必修
機械要素Ⅰ	1	
機械設計Ⅱ	1．5	必修
機械要素設計製図Ⅰ	0．5	必修
伝熱学Ⅰ	1．5	必修
機械力学C	1．5	必修
流体力学Ⅱ	1．5	必修
弾性力学B	1	必修
システム制御B	1	必修
機械製作法Ⅱ	2	必修
機械要素Ⅱ	1	
機械要素設計製図Ⅱ	0．5	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
伝熱学Ⅱ	1．5	必修
内燃機関Ⅰ	1	
連続体の振動学	1	

応用流体工学	2	
機械材料Ⅱ	1	
機械工学実験第二	1	必修
データサイエンス応用	2	必修
ロボティックスⅠ	1	
システム制御C	1	必修
機械工学設計製図	1	必修
熱エネルギー変換Ⅰ	1	
内燃機関Ⅱ	1	
燃焼学Ⅰ	1	必修
機構学・振動制御	1	
水素工学基礎	2	
システム工学	2	
ロボティックスⅡ	1	
システム制御D	1	必修
加工機器・精密測定法	2	
生体工学基礎	2	
熱エネルギー変換Ⅱ	1	
燃焼学Ⅱ	1	必修
機械工学特別講義Ⅰ	０．５	
機械工学特別講義Ⅱ	０．５	
機械工学特別講義Ⅲ	０．５	
機械工学特別講義Ⅳ	０．５	
機械工学特別講義Ⅴ	０．５	
機械工学特別講義Ⅵ	０．５	

機械工学特別講義Ⅶ	０．５	
機械工学特別講義Ⅷ	０．５	
卒　　業　　研　　究		
機械工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８６単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１５単位 （３）学科・専攻科目から５２単位 「機械工学特別講義Ⅰ」から「機械工学特別講義Ⅷ」までの８科目から２単位を選択必修とする。 （４）卒業研究から６単位 （５）その他 （１）～（４）に基づき修得するもののほかに、１０単位以上修得する。		

航空宇宙工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修
工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	

工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
複素関数論	2	必修
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
応用確率論	2	
情報処理概論	2	必修
材料力学Ⅲ	1．5	必修
材料力学Ⅳ	1	必修
弾性力学	2	必修
航空宇宙伝熱学	2	必修
エネルギー変換基礎論	2	必修
ジェットエンジン工学	2	
航空流体力学	2	必修
気体力学	2	必修
飛行力学Ⅰ	2	必修
飛行力学Ⅱ	2	
応用飛行制御論	2	
軌道力学	2	必修
誘導・制御基礎論Ⅰ	2	必修
誘導・制御基礎論Ⅱ	2	
航空宇宙基礎物理学	2	
宇宙利用学	2	
基礎設計製図	2	必修
航空宇宙工学設計実習	2	必修

基礎振動学	2	必修
基礎構造力学	2	
応用構造力学	2	
航空宇宙機振動学	2	
航空宇宙機材料学	2	
人工衛星工学	2	
ロケット工学	2	
航空宇宙機設計論	2	
航空宇宙工学実験	2	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
テクノロジー・マーケティング	2	
工業マネジメント	2	
航空工学特別講義	1	
宇宙工学特別講義	1	
航空宇宙機設計生産システム	1	
ジェットエンジン構造設計	1	
航空機運用・整備	1	
宇宙環境制御システム	1	
産業活動実習Ⅰ	2	
産業活動実習Ⅱ	2	
卒　　業　　研　　究		
航空宇宙工学卒業研究	6	必修

以下の要件を満たす８６．５単位以上を修得しなければならない。
（1）工学部共通科目から３単位
（2）学科群共通科目から１５単位
（3）学科・専攻科目から３６．５単位
（4）卒業研究から６単位
（5）その他
（1）から（4）に基づき修得するもののほかに、２６単位以上修得する。

量子物理工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
材料力学Ⅰ	1	必修
材料力学Ⅱ	2	必修
工業力学	2	必修
熱力学Ⅰ	2	必修
流れ学Ⅰ	2	必修
現代物理学入門	2	必修
ベクトル解析と微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
応用量子物理学入門	2	
原子力工学概論	2	
学科・専攻科目		
複素関数論	2	必修
力学	2	必修
振動・波動論基礎	2	必修

物理化学	2	必修
電磁気学	2	必修
情報処理概論	2	必修
量子物理工学演習Ⅰ	1	必修
量子物理工学演習Ⅱ	1	必修
量子物理工学演習Ⅲ	1	必修
創造科学工学基礎実験	1	
原子核物理学入門	2	
原子核物理学	2	
連続体力学	2	
量子線物理計測	2	
電気・電子回路	2	
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2	必修
量子力学Ⅰ	1	必修
量子力学Ⅱ	1	必修
量子力学Ⅲ	1	
統計力学Ⅰ	2	必修
統計力学Ⅱ	2	
輸送現象論	2	必修
データ解析概論	2	必修
量子物理工学実験	2	必修
固体物理学Ⅰ	2	必修
固体物理学Ⅱ	2	
放射化学	2	
ビーム工学	2	

材料科学概論	2	
応用光学	2	
応用確率論	2	
現代科学技術論	1	必修
量子物理工学概論	1	必修
原子炉物理学Ⅰ	1	
原子炉物理学Ⅱ	1	
プラズマ理工学	1	
核融合概論	1	
原子炉熱流動工学	2	
ソフトマター物理学	2	
材料分析学	2	
産業活動実習	1	
量子物理工学特別講義Ⅰ	1	
量子物理工学特別講義Ⅱ	1	
量子物理工学特別講義Ⅲ	1	
量子物理工学特別講義Ⅳ	1	
卒　　業　　研　　究		
量子物理工学卒業研究	8	必修
以下の要件を満たす８７単位以上を修得しなければならない。 （１）工学部共通科目から３単位 （２）学科群共通科目から１５単位 （３）学科・専攻科目から３１単位 （４）卒業研究から８単位 （５）その他 （１）から（４）に基づき修得するもののほかに、３０単位以上修得する。		

船舶海洋工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修
フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
学　科・専　攻　科　目		
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
機械工学大意第一	2	必修
空間表現実習	1	必修
流体力学第一および同演習	1．5	必修
船舶設計	2	必修
船舶算法および同演習	1．5	必修
材料力学および同演習	1．5	必修
船舶復原性および同演習	1．5	必修
流体力学第二および同演習	1．5	必修

自動制御工学	2	必修
材料加工学	2	必修
弾性力学	2	必修
船舶海洋製図第一	1	必修
船舶海洋流体力学第一	2	必修
機能設計工学	2	必修
構造力学第一および同演習	1．5	必修
計算工学演習第一	1	必修
船舶運動論	2	必修
構造力学第二および同演習	1．5	必修
船舶海洋製図第二	2	必修
情報処理概論	2	必修
船舶海洋構造力学	2	必修
船舶海洋流体力学第二	2	必修
船舶海洋振動学第一	2	必修
材料強度学	2	必修
運動制御工学	2	必修
環境設計工学	2	必修
システム設計工学	2	必修
船舶海洋工学実験	1	必修
舶用機関	2	必修
工学力学	2	
工学力学演習	1	
海洋環境情報学	2	
海洋機器工学	2	

船舶海洋振動学第二	2	
工業マネージメント	2	
計算工学演習第二	1	
構造解析演習	1	
船舶海洋工学特別講義第一	1	
船舶海洋工学特別講義第二	1	
船舶海洋工学特別講義第三	1	
卒　　業　　研　　究		
船舶海洋工学卒業研究	6	必修
以下の要件を満たす８５．５単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科群共通科目から１２単位 （3）学科・専攻科目から６４．５単位 （4）卒業研究から６単位		

地球資源システム工学科

授　　業　　科　　目		
名　　称	単　　位	備　　考
工　学　部　共　通　科　目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学　科　群　共　通　科　目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修
フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修

学　科・専　攻　科　目		
電気工学基礎Ⅰ	1	必修
電気工学基礎Ⅱ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	必修
電子情報工学基礎Ⅱ	1	必修
機械工学大意第一	2	必修
情報処理概論	2	必修
地球システム学概論	2	必修
地球環境のイメージング	2	必修
地球熱学	2	必修
資源流体工学	2	必修
岩盤工学	2	必修
資源処理工学	2	必修
エネルギー資源工学	2	必修
資源環境科学	2	必修
フィールド地球科学演習	1	必修
物理探査学	2	必修
地熱工学	2	必修
地球工学実験第一	1	必修
地球工学実験第二	1	必修
石油工学	2	必修
地下空洞設計法	2	必修
水圏環境化学平衡論	2	必修
工業爆薬学	2	必修

資源システム工学実験第一	1	必修
資源システム工学実験第二	1	必修
地層内物質移動工学	2	必修
地球資源システム工学実習	０．５	必修
資源地球科学	2	
環境地球物理学	2	
地熱貯留層工学	2	
石油開発生産工学	2	
固体資源開発工学	2	
資源微生物工学	2	
新エネルギー工学	1	
地熱発電工学	1	
石灰石資源	1	
石油・天然ガス資源開発	1	
海外資源・資源経済学	1	
廃棄物資源循環工学	1	
地球資源システム工学インターンシップ	4	
地球資源システム工学国際インターンシップ	4	
機械工学大意第二	2	
無機化学第三	2	
金属材料大意	2	
テクノロジー・マーケティング	2	
卒　　業　　研　　究		
地球資源システム工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８５．５単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位		

（2）学科群共通科目から１２単位
（3）学科・専攻科目から６４．５単位（4）卒業研究から６単位

土木工学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科群共通科目		
常微分方程式とラプラス変換	2	必修
複素関数論	2	必修
固体力学	2	必修
地球環境総合工学	2	必修
フーリエ変換と偏微分方程式	2	必修
工学概論	2	必修
学科・専攻科目		
構造力学Ⅰ	2	必修
構造力学Ⅱ	2	必修
地震工学	2	
構造解析学	2	
土木材料学	2	必修
コンクリート構造工学Ⅰ	1	
コンクリート構造工学Ⅱ	1	
鋼構造工学	2	
維持管理工学	2	

地盤力学Ⅰ	2	必修
地盤力学Ⅱ	2	必修
応用地盤工学	2	必修
社会基盤計画学Ⅰ	1	必修
社会基盤計画学Ⅱ	1	必修
まちづくり・地域づくり概論Ⅰ	1	
まちづくり・地域づくり概論Ⅱ	1	
計画数理	2	必修
都市計画	2	
交通計画学	2	
交通施設工学	2	
環境システム学	2	必修
環境基礎学	2	必修
環境保全と開発	2	
流体力学基礎	2	必修
水理学Ⅰ	2	必修
水理学Ⅱ	2	必修
水文学	2	
河川工学	2	
上下水道及び水資源工学	2	
海岸水理学	2	
沿岸域管理工学	2	
土木と社会セミナーA	1	必修
土木と社会セミナーB	1	必修
土木と社会セミナーC	1	必修

土木地理学	2	必修
土木エンジニア史	2	必修
環境と防災Ａ	1	必修
環境と防災Ｂ	1	必修
データサイエンス	2	必修
景観学	2	
生態工学	2	
合意形成論	2	
土木実践教室Ａ	2	必修
土木実践教室Ｂ	2	必修
測量学・実習	3	
基礎土木工学演習	1	必修
プロジェクト・ものづくり	2	
プロジェクト・まちづくり	2	
土木工学総合演習	2	必修
電子情報工学基礎Ⅰ	1	
電子情報工学基礎Ⅱ	1	
機械工学大意第一	2	
電気工学基礎Ⅰ	1	
電気工学基礎Ⅱ	1	
工業爆薬学	2	
卒　　業　　研　　究		
土木工学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８５単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科群共通科目から１２単位		

（3）学科・専攻科目から６４単位　　「プロジェクト・ものづくり」及び「プロジェクト・まちづくり」のいずれか１科目を選択必修とする。
（5）卒業研究から６単位

建築学科

授業科目		
名称	単位	備考
工学部共通科目		
工学倫理	1	必修
データサイエンス序論	2	必修
学科・専攻科目		
（総合科目）		
建築概論	2	必修
特別プログラム	2	
情報処理概論	2	必修
建築学研究序説	2	必修
（法規科目）		
建築法規	2	必修
（設計・実験演習科目）		
建築設計基礎演習Ａ	3	必修
建築設計基礎演習Ｂ	3	必修
建築設計基礎演習Ｃ	3	必修
建築設計基礎演習Ｄ	3	必修
建築設計基礎演習Ｅ	3	必修
都市・建築設計演習Ａ	3	
都市・建築設計演習Ｂ	3	
都市・建築設計演習Ｃ	3	

都市・建築設計演習Ｄ	3	
建築環境設備実験演習	3	
建築環境設備設計演習	3	
建築構造材料実験演習	3	
建築構造設計演習Ａ	１．５	
建築構造設計演習Ｂ	１．５	
（　建　築　計　画　科　目　）		
建築設計計画Ａ	1	必修
建築設計計画Ｂ	1	必修
建築設計計画Ｃ	1	必修
建築設計計画Ｄ	1	必修
建築設計計画Ｅ	1	必修
住環境計画論	1	
居住文化論	1	
（　都　市　計　画　科　目　）		
都市計画概論	1	必修
都市設計概論	1	必修
ハウジング論	1	必修
まちづくり概論	1	必修
景観設計	1	
都市再生	1	
都市解析	1	
空間メディア	1	
（　歴　史　・　意　匠　科　目　）		
世界建築史詳論	1	

日本建築史詳論	1	
現代建築デザイン	1	
都市史	1	
（　環　　境　　科　　目　）		
建築環境設備基礎Ａ	1	必修
建築環境設備基礎Ｂ	1	必修
建築環境設備応用Ａ	1	必修
建築環境設備応用Ｂ	1	必修
建築環境デザイン	2	必修
（　構　　造　　科　　目　）		
建築構造力学基礎	2	必修
静定建築構造力学	2	必修
建築材料	2	必修
建築構法	2	必修
木質構造	1	必修
鉄骨構造	1	必修
鉄筋コンクリート構造	1	必修
建築施工	2	必修
不静定建築構造力学	2	
建築振動学	2	
建築構造設計技法Ａ	1	
建築構造設計技法Ｂ	1	
建築荷重論	2	
建築防災	2	
合成構造	1	

建築土質力学	1	
空間構造計画	2	
基礎構造	1	
建築応用力学	2	
建築耐震設計	2	
（工学一般科目）		
測量学・実習	3	
テクノロジー・マーケティング	2	
数理解析概論	2	
複素関数論	2	
卒業研究		
建築学卒業研究	6	必修
必修科目を含む、以下の要件を満たす８２単位以上を修得しなければならない。 （1）工学部共通科目から３単位 （2）学科・専攻科目から７３単位 （3）卒業研究から６単位		

別表第３　（国際コースの基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区　分		授　業　科　目	単位数	最低習得単位数
KIKAN Education Courses	KIKAN Education Seminar	KIKAN Education Seminar	1	1
	Interdisciplinary Collaborative Learning of Social Issues	Interdisciplinary Collaborative Learning of Social Issues	２．５	２．５
	Subjects in Humanities and Social Science	Introduction to Law Introduction to Economics Introduction to Philosophy Intercultural Encounters Introduction to Psychology Global Issues Introduction to Japanese History Language and Communication in Society	2 2 2 2 2 2 2 2	8

	General Subjects	Engagement with Volunteer I	1	
		Engagement with Volunteer II	1	
		Engagement with Internship I	1	
		Engagement with Internship II	1	
	Subjects for Languages and Culture	Intensive English Japanese Issue I	1	4
		Intensive English Japanese Issue II	1	
		Intensive English C Theme-Based	1	
		Intensive English C Skill-Based	1	
		Integrated Courses : Beginners A	1	6
		Integrated Courses : Beginners B	1	
		Integrated Courses : Elementary 1A	1	
		Integrated Courses : Elementary 1B	1	
		Integrated Courses : Elementary 2A	1	
		Integrated Courses : Elementary 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced A	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced B	1	
		Integrated Courses : Advanced A	1	
		Integrated Courses : Advanced B	1	
		Kanji Courses : Elementary 1A	1	4
		Kanji Courses : Elementary 1B	1	
		Kanji Courses : Elementary 2A	1	
		Kanji Courses : Elementary 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced A	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced B	1	
		Kanji Courses : Advanced A	1	
		Kanji Courses : Advanced B	1	
	Cybersecurity	Primary Course of Cyber Security - How to Survive the Cyber	1	1
	Subjects on Health and Sports	Laboratory of Health and Sports Science	1	1
	Subjects in Science	Computer Programming Exercise	1	
		Calculus I	1	
		Calculus II	1	
		Calculus III	1	
		Calculus IV	1	
		Linear Algebra I	1	

		Linear Algebra II	1	
		Linear Algebra III	1	
		Linear Algebra IV	1	
		Fundamental Physics I	1	
		Fundamental Physics II	1	
		Fundamental Physics III	1	
		Fundamental Physics IV	1	
		Fundamental Physics V	1	
		Fundamental Physics VI	1	
		Fundamental Physics VII	1	
		Fundamental Physics VIII	1	
		Basic Chemistry I	1	
		Basic Chemistry II	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry I	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry II	1	
		Fundamental Organic Chemistry I	1	
		Fundamental Organic Chemistry II	1	
		Fundamental Cell Biology I	1	
		Fundamental Cell Biology II	1	
		Introductory Biology I	1	
		Introductory Biology II	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science I	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science II	1	
		Drawings on Technical Design I	1	
		Drawings on Technical Design II	1	

（備考）

各国際コースの学生は、Subjects in Science の必修科目として、次の所定の単位を修得しなければならない。

国際コース	区分	授業科目及び単位数	最低修得単位数
電気情報工学科（電気情報工学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１）	２１

		Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	
応用化学科（応用化学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Fundamental Inorganic Chemistry I（１） Fundamental Inorganic Chemistry II（１） Fundamental Organic Chemistry I（１） Fundamental Organic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	２１
機械工学科及び航空宇宙工学科（機械航空工学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１）	２３

		Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１） Drawings on Technical Design I（１） Drawings on Technical Design II（１）	
土木工学科（土木工学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（１） Calculus I（１） Calculus II（１） Calculus III（１） Calculus IV（１） Linear Algebra I（１） Linear Algebra II（１） Linear Algebra III（１） Linear Algebra IV（１） Fundamental Physics I（１） Fundamental Physics II（１） Fundamental Physics III（１） Fundamental Physics IV（１） Fundamental Physics V（１） Fundamental Physics VI（１） Fundamental Physics VII（１） Fundamental Physics VIII（１） Basic Chemistry I（１） Basic Chemistry II（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（１） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（１）	２１

別表第４（国際コースの専攻教育科目に関する授業科目及び単位数）

電気情報工学科

（電気情報工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1

Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Graduation Research	１２
計	２２
共　通　科　目　（選　択）	
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Business Japanese A	1

Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（電気情報工学コース）国際コース（必修）	
Mathematics for Electrical Engineering and Computer Science	2
Linear Circuits I	2
Linear Circuits II	2
Logic Circuits	2
Programming Methodology I	2
Programming Practice I	1
Computer Architecture I	2
Fundamentals of Integrated Circuits A	1
Fundamentals of Integrated Circuits B	1
Electric Energy A	1
Electric Energy B	1
Fundamentals of Communication Engineering A	1
Fundamentals of Communication Engineering B	1
Fundamentals of Computer Systems A	1
Fundamentals of Computer Systems B	1
Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science I	2

Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science II	2
Electromagnetic Theory I	2
System Control A	1
System Control B	1
Applied Mathematical Logic	2
Analog Electronic Circuits I	2
Data Structure and Algorithms IA	1
Data Structure and Algorithms IB	1
Electronic Measurements A	1
Electronic Measurements B	1
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science-Basic	2
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science I	2
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science II	2
計	４３
（電気情報工学コース）国際コース　（選　択）	
Practice in Logic Design	2
System Programming Laboratory	2
上記を除く電気情報工学科専攻教育科目の全て	
共通科目より２２単位、電気情報工学コース科目より４３単位、選択科目（共通科目又は（電気情報工学コース）国際コース科目）から７単位の計７２単位を修得しなければならない。	

応用化学科

（応用化学コース）国際コース

授　業　科　目

名　　称	単　　位
共　通　科　目　(必　修)	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1
Graduation Research	１２
計	２８
共　通　科　目　(選　択)	
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1

Engineering Mathematics II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（応用化学コース）国際コース　（必　　修）	
Organic Chemistry I	1
Organic Chemistry II	1
Organic Chemistry III	1
Organic Chemistry Ⅳ	1
Inorganic Chemistry III	1
Inorganic Chemistry Ⅳ	1
Analytical Chemistry I	1
Analytical Chemistry II	1
Analytical Chemistry III	1
Analytical Chemistry Ⅳ	1
Physical Chemistry I	1
Physical Chemistry II	1
Physical Chemistry III	1
Physical Chemistry Ⅳ	1

Polymer Chemistry I	1
Polymer Chemistry II	1
Chemical Reaction Engineering I	1
Chemical Reaction Engineering II	1
Biochemistry I	1
Biochemistry II	1
Coordination Chemistry I	1
Coordination Chemistry II	1
Polymer Chemistry III	1
Polymer Chemistry Ⅳ	1
Task-Based Exercise in Applied Chemistry I	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry II	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry III	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅳ	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅴ	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅵ	2
Experiment in Applied Chemistry IA	2
Experiment in Applied Chemistry IB	2
Experiment in Applied Chemistry IIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIB	2
Experiment in Applied Chemistry IIIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIIB	2

計	４８
共通科目２８単位及び（応用化学コース）国際コース科目から４８単位の合計７６単位を修得しなければならない。	

機械工学科及び航空宇宙工学科
（機械航空工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1

Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	１２
計	４２
共　通　科　目　(選　択)	
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1

（機械航空工学コース）国際コース（必修）	
Introduction to Mechanical and Aerospace Engineering	2
Strength of Materials IA	1
Strength of Materials IB	1
Strength of Materials IIA	1
Strength of Materials IIB	1
Fluid Mechanics IIA	1
Fluid Mechanics IIB	1
Thermodynamics Ⅰ	2
Thermodynamics Ⅱ	2
Mechanics I	1
Mechanics II	1
Dynamics of Machinery I	1
Dynamics of Machinery II	1
Systems Control IA	1
Systems Control IB	1
Systems Control IIA	1
Systems Control IIB	1
Heat Transfer I	1
Heat Transfer II	1
Mechanical and Aerospace Engineering Experiments Ⅰ	1
Mechanical and Aerospace Engineering Experiments Ⅱ	1
Mechanical and Aerospace Engineering Drawing and Design	2

Aerospace Engineering IA	1
Aerospace Engineering IB	1
Aerospace Engineering IIA	1
Aerospace Engineering IIB	1
Machine Design I	1
Machine Design II	1
Manufacturing Processes I	1
Manufacturing Processes II	1
Internal Combustion Engine I	1
Internal Combustion Engine II	1
Computational Methods I	1
Computational Methods II	1
計	３８
共通科目４２単位及び（機械航空工学コース）国際コース科目３８単位の合計８０単位を修得しなければならない。	

土木工学科

（土木工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　　称	単　　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1

Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	１２
計	３２
共　通　科　目（選　択）	
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1

Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamental of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
社会基盤・構造系　（必　　修）	
Structural Mechanics IA	1
Structural Mechanics IB	1
Construction Materials I	1
Construction Materials II	1
Structural Mechanics IIA	1
Structural Mechanics IIB	1
Bridge Engineering I	1
Bridge Engineering II	1
計	8
社会基盤・構造系　（選　　択）	

Maintenance Engineering	2
防災・地盤系　（必　　修）	
Soil Mechanics IA	1
Soil Mechanics IB	1
Soil Mechanics IIA	1
Soil Mechanics IIB	1
Applied Geotechnical Engineering I	1
Applied Geotechnical Engineering II	1
計	6
環境・水工系　（必　　修）	
Hydraulics IA	1
Hydraulics IB	1
Hydraulics IIA	1
Hydraulics IIB	1
Environmental Systems Engineering I	1
Environmental Systems Engineering II	1
Basics of Environmental Engineering I	1
Basics of Environmental Engineering II	1
Hydrosphere Engineering I	1
Hydrosphere Engineering II	1
計	１０
交通・都市計画系　（必　　修）	
Mathematics for Planning I	1
Mathematics for Planning II	1
Transportation Planning I	1

Transportation Planning II	1
計	4
交通・都市計画系　（選　　択）	
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment I	1
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment II	1
Environmental Economics I	1
Environmental Economics II	1
実　験　・　概　論　（必　　修）	
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work A	2
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work B	2
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work C	2
Civil and Environmental Engineering Practice	2
計	8
実　　習　　系　（選　　択）	
Surveying and Mapping	3
必修科目６８単位及び選択科目４単位以上の合計７２単位を修得しなければならない。ただし、交通・都市計画系選択科目から２単位を最低限修得するものとする。	

旧

別表第１（基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区 分		授 業 科 目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
基幹教育セミナー		基幹教育セミナー	1	1	1
課題協学科目		課題協学科目	2．5	２．５	２．５
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語Ａ・リセプション	1	第１外国語	１２
		学術英語Ａ・プロダクション	1	英語　８	
		学術英語Ｂ・インテグレイト	1		
		学術英語ＡＢ・再履修	1		
		学術英語Ａ・CALL	1		
		学術英語Ｂ・CALL	1		
		学術英語Ｃ・テーマベース	1		
		学術英語Ｃ・スキルベース	1		
		専門英語	1		
		学術英語Ｃ・集中演習	2		
		ドイツ語Ⅰ	1	第２外国語	
		ドイツ語Ⅱ	1	4	
		ドイツ語Ⅲ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅠ	1		
		ドイツ語プラクティクムⅡ	1		
		フランス語Ⅰ	1		
		フランス語Ⅱ	1		
		フランス語Ⅲ	1		
		フランス語プラティクⅠ	1		
		フランス語プラティクⅡ	1		
		中国語Ⅰ	1		
		中国語Ⅱ	1		
		中国語Ⅲ	1		
		中国語実践Ⅰ	1		
		中国語実践Ⅱ	1		
		ロシア語Ⅰ	1		
		ロシア語Ⅱ	1		
		ロシア語Ⅲ	1		
		ロシア語フォーラム	1		
		韓国語Ⅰ	1		
		韓国語Ⅱ	1		
		韓国語Ⅲ	1		
		韓国語フォーラム	1		

	スペイン語Ⅰ	1		
	スペイン語Ⅱ	1		
	スペイン語Ⅲ	1		
	スペイン語フォーラム	1		
	日本語Ⅰ	1		
	日本語Ⅱ	1		
	日本語Ⅲ	1		
	日本語Ⅳ	1		
	日本語Ⅴ	1		
	日本語Ⅵ	1		
	日本語Ⅶ	1		
文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	2	4	4
	先史学入門	2		
	歴史学入門	2		
	文学・言語学入門	2		
	芸術学入門	2		
	文化人類学入門	2		
	地理学入門	2		
	社会学入門	2		
	心理学入門	2		
	現代教育学入門	1		
	教育基礎学入門	1		
	法学入門	2		
	政治学入門	2		
	経済学入門	2		
	経済史入門	2		
	The Law and Politics of International Society	2		
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1	※備考２参照	
	微分積分学	1．5		
	微分積分学・同演習Ａ	1．5		
	微分積分学・同演習Ｂ	1．5		
	微分積分学・同演習Ⅰ	1．5		
	微分積分学・同演習Ⅱ	1．5		
	微分積分学・同演習Ⅲ	1．5		
	線形代数	1．5		
	線形代数学・同演習Ａ	1．5		
	線形代数学・同演習Ｂ	1．5		
	数学演習ＩＡ	1		
	数学演習ＩＢ	1		
	数学演習Ⅱ	1		
	数理統計学	1．5		
	身の回りの物理学Ａ	1		
	身の回りの物理学Ｂ	1		
	物理学概論Ａ	1．5		
	物理学概論Ｂ	1．5		
	物理学概論Ａ演習	1		

	物理学概論Ｂ演習	1		
	基幹物理学ＩＡ	1．5		
	基幹物理学ＩＢ	1．5		
	基幹物理学ＩＡ演習	1		
	基幹物理学ＩＢ演習	1		
	力学演習	1		
	物理学の進展	1．5		
	基幹物理学Ⅱ	1．5		
	電気電子工学入門	2		
	原子核物理学	2		
	身の回りの化学	1		
	基礎化学	1．5		
	無機物質化学	1．5		
	有機物質化学	1．5		
	基礎化学結合論	1．5		
	基礎化学熱力学	1．5		
	現代化学	1．5		
	基礎生物有機化学	1．5		
	基礎生化学	1．5		
	機器分析学	2		
	生命の科学Ａ	1		
	生命の科学Ｂ	1		
	基礎生物学概要	1．5		
	細胞生物学	1．5		
	集団生物学	1．5		
	分子生物学	1．5		
	生態系の科学	1．5		
	地球と宇宙の科学	1		
	地球科学	1		
	最先端地球科学	1		
	宇宙科学概論	1．5		
	デザイン思考	1		
	図形科学	1．5		
	空間表現実習Ⅰ	2		
	空間表現実習Ⅱ	2		
	世界建築史	2		
	日本建築史	2		
	近・現代建築史	2		
	デザイン史	2		
	情報科学	1．5		
	プログラミング演習	1		
	コンピュータープログラミング入門	1		
	自然科学総合実験（基礎）	1		
	自然科学総合実験（発展）	1		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1	1	1

健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1	1	1
	身体運動科学実習Ⅰ	1		
	身体運動科学実習Ⅱ	1		
	身体運動科学実習Ⅲ	1		
	身体運動科学実習Ⅳ	1		
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1		
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1		
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2		
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1	建築学科	建築学科
	アカデミック・フロンティアⅡ	1	電気情報	電気情報
	大学とは何かⅠ	1	工学科	工学科
	大学とは何かⅡ	1	物質科学	物質科学
	九州大学の歴史Ⅰ	1	工学科	工学科
	九州大学の歴史Ⅱ	1	地球環境	地球環境
	女性学・男性学Ⅰ	1	工学科	工学科
	女性学・男性学Ⅱ	1	エネルギー	エネルギー
	日本事情	2	科学科	科学科
	社会連携活動論：ボランティア	1	１．５	１．５
	社会連携活動論：インターンシップ	1		
	Law in Everyday Life A	1		
	Law in Everyday Life B	1		
	バリアフリー支援入門	1		
	ユニバーサルデザイン研究	1		
	アクセシビリティ入門	1		
	アクセシビリティ支援入門	1		
	アクセシビリティ基礎	1		
	人と人をつなぐ技法	1		
	コミュニケーション入門	1		
	体験してわかる自然科学	1		
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1		
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1		
	アジア埋蔵文化財学A	1		
	アジア埋蔵文化財学B	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1		
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1		
	グローバル社会を生きるⅠ	1		
	グローバル社会を生きるⅡ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1		
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1		
	フィールドに学ぶA	1		
	フィールドに学ぶB	1		
	教育テスト論	2		
	現代企業分析	1		
	現代経済事情	1		
	外国語プレゼンテーション	1		

	水の科学	2		
	医療倫理学Ⅰ	1		
	医療倫理学Ⅱ	1		
	バイオエシックス入門	1		
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1		
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1		
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1		
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1		
	命のあり方・尊さと食の連関	2		
	食肉加工の理論と実践	2		
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1		
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1		
	体験的農業生産学入門	1		
	農のための植物-環境系輸送現象論	1		
	農のための最適環境制御	1		
	食科学の新展開	1		
	作物生産とフロンティア研究	1		
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1		
	農と微生物	1		
	企業から見たサイバーセキュリティA	1		
	企業から見たサイバーセキュリティB	1		
	サイバーセキュリティ演習	1		
	セキュリティエンジニアリング演習A	1		
	セキュリティエンジニアリング演習B	1		
	セキュリティエンジニアリング演習C	1		
	分子の科学	2		
	「留学」考	1		
	Japan in Global Society	1		
	アイデア・ラボⅠ	2		
	アントレプレナーシップ入門	2		
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1		
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1		
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1		
	少人数セミナー	1		
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	1	2	2
	科学の歴史B	1		
	科学の基礎（哲学的考察）	1		
	脳情報科学入門	1		
	認知心理学	1		
	Brain and Mind	1		
	機械学習と人工知能	1		
	現代社会Ⅰ	2		
	現代社会Ⅱ	2		
	現代社会Ⅲ	2		

	現代社会Ⅳ	2			
	現代史Ⅰ	2			
	現代史Ⅱ	2			
	現代史Ⅲ	2			
	現代史Ⅳ	2			
	ＥＵ論基礎―制度と経済―	2			
	技術と産業・企業	2			
	グローバル化とアジア経済	2			
	金融と経済	2			
	サイバー空間デザイン	2			
	芸術学概論	1			
	音楽・音響論	2			
	デザインと観察	2			
	環境問題と自然科学	2			
	環境調和型社会の構築	2			
	グリーンケミストリー	2			
	自然災害と防災	2			
	生態系の構造と機能Ⅰ	1			
	生態系の構造と機能Ⅱ	1			
	男女共同参画	2			
	ボランティア活動Ⅰ	1			
	ボランティア活動Ⅱ	1			
	インターンシップⅠ	1			
	インターンシップⅡ	1			
	漢方医薬学	1			
	チーム医療演習	1			
	バイオインフォマティックス	2			
	臨床イメージング	1			
	社会と健康	2			
	国際保健と医療	2			
	アクセシビリティマネジメント研究	2			
	地球の進化と環境	2			
	生物多様性と人間文化Ａ	1			
	生物多様性と人間文化Ｂ	1			
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2			
	バイオテクノロジー詳論	2			
	平和と安全の構築学	1			
	文化と社会の理論	2			
	東アジアと日本－その歴史と現在－	2			
	法文化学入門	2			
	法史学入門	2			
	ローマ法史	2			
	アジア共同体入門	2			
	プレゼンテーション基礎	1			
	レトリック基礎	1			
	共創発想法	2			
	動的現象の科学	2			
	誘導現象の科学	2			

	データマイニングと情報可視化	1		
	技術と倫理	1		
	医療における倫理	2		
	研究と倫理	1		
	インフォームドコンセント	1		
	薬害	1		
	臨床倫理	1		
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	1		
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1		
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	1		
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	1		
	事業創造デザイン特論Ⅰ	1		
	事業創造デザイン特論Ⅱ	1		
	リスクマネジメント	2		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうA	1		
	九大生よ，ビジネスとイノベーションを学ぼうB	1		
	社会統計学A	1		
	社会統計学B	1		
	社会調査法ⅠA	1		
	社会調査法ⅠB	1		
	社会調査法ⅡA	1		
	社会調査法ⅡB	1		
	教育学特論	2		
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2		
	日本国憲法	2		
	九州大学基幹教育科目履修規則（平成２５年度九大規則第１２０号）第３条第２項の規定により定める授業科目			
上記に掲げる最低修得単位のほか、備考３に定める授業科目の単位を修得しなければならない。				

（備考）

１　「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第１外国語又は第２外国語として最低修得単位数に含めることができる。

２　各学科の学生は､理系ディシプリン科目として次の所定の単位を修得しなければならない。

学科	授業科目		単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
建築学科	必修科目	微分積分学・同演習A	1．5	２３	２３
		微分積分学・同演習B	1．5		
		線形代数学・同演習A	1．5		
		線形代数学・同演習B	1．5		
		基幹物理学ⅠA	1．5		

		基幹物理学ＩA演習	1		
		図形科学	1．5		
		空間表現実習Ⅰ	2		
		空間表現実習Ⅱ	2		
		世界建築史	2		
		日本建築史	2		
		近・現代建築史	2		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験（基礎）	1		
		自然科学総合実験（発展）	1		
電気情報工学科	必修科目	微分積分学・同演習A	1．5	１９．５	１９．５
		微分積分学・同演習B	1．5		
		線形代数学・同演習A	1．5		
		線形代数学・同演習B	1．5		
		数学演習Ⅱ	1		
		基幹物理学ＩA	1．5		
		基幹物理学ＩB	1．5		
		基幹物理学ＩA演習	1		
		基幹物理学ＩB演習	1		
		基幹物理学Ⅱ	1．5		
		基礎化学結合論	1．5		
		基礎化学熱力学	1．5		
		プログラミング演習	1		
		自然科学総合実験（基礎）	1		
		自然科学総合実験（発展）	1		
物質科学工学科	必修科目	微分積分学・同演習A	1．5	２１．５	２１．５
		微分積分学・同演習B	1．5		
		線形代数学・同演習A	1．5		
		線形代数学・同演習B	1．5		
		基幹物理学ＩA	1．5		
		基幹物理学ＩB	1．5		
		無機物質化学	1．5		
		有機物質化学	1．5		
		基礎化学結合論	1．5		
		基礎化学熱力学	1．5		
		細胞生物学	1．5		
		分子生物学	1．5		
		情報科学	1．5		
		自然科学総合実験（基礎）	1		
		自然科学総合実験（発展）	1		
地球環境工	必修科目	微分積分学・同演習Ⅰ	1．5	１６	２１．５
		微分積分学・同演習Ⅱ	1．5		
		微分積分学・同演習Ⅲ	1．5		
		線形代数学・同演習A	1．5		
		線形代数学・同演習B	1．5		

学科		基幹物理学ＩＡ 基幹物理学ＩＢ 基幹物理学ＩＡ演習 図形科学 プログラミング演習 自然科学総合実験（基礎） 自然科学総合実験（発展）	1．5 1．5 1 1．5 1 1 1		
	選択必修科目	基幹物理学ＩＢ演習 無機物質化学 基礎生物学概要 地球と宇宙の科学 情報科学	1 1．5 1．5 1 1．5	3	
		数理統計学 基礎化学熱力学 細胞生物学 地球科学 最先端地球科学 空間表現実習Ｉ	1．5 1．5 1．5 1 1 2	2．5	
エネルギー科学科	必修科目	微分積分学・同演習Ａ 微分積分学・同演習Ｂ 線形代数学・同演習Ａ 線形代数学・同演習Ｂ 基幹物理学ＩＡ 基幹物理学ＩＢ 基幹物理学ＩＡ演習 基幹物理学ＩＢ演習 無機物質化学 基礎化学結合論 図形科学 プログラミング演習 自然科学総合実験（基礎） 自然科学総合実験（発展）	1．5 1．5 1．5 1．5 1．5 1．5 1 1 1．5 1．5 1．5 1 1 1	１８．５	１８．５
機械航空工学科	必修科目	微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ 微分積分学・同演習Ⅲ 線形代数学・同演習Ａ 線形代数学・同演習Ｂ 基幹物理学ＩＡ 基幹物理学ＩＢ 基幹物理学ＩＡ演習 力学演習 無機物質化学 図形科学 空間表現実習Ｉ	1．5 1．5 1．5 1．5 1．5 1．5 1．5 1 1 1．5 1．5 2	２０．５	２０．５

		プログラミング演習 自然科学総合実験（基礎） 自然科学総合実験（発展）	1 1 1		

3　各学科の学生は、次の所定の単位を修得しなければならない。

授　業　科　目	合計最低修得単位数
基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目又は別表第２に掲げる専攻教育科目（在籍する学科の専攻教育科目を除く。）及び他学部の専攻教育科目	建築学科　２単位 電気情報工学科　２単位 物質科学工学科　２単位 地球環境工学科　２単位 エネルギー科学科　６単位 機械航空工学科　４．５単位

別表第２

建築学科

授　業　科　目	
名　称	単　位
必　修	
建築概論	4
建築計画Ａ	1
建築計画Ｂ	1
建築設計基礎演習Ｂ	3
建築設計基礎演習Ｃ	3
建築設計基礎演習Ｄ	3
建築設計基礎演習Ｅ	3
建築学研究序説	2
建築の職能と倫理	2
建築学研究	6
居住論	2

都市計画	2
建築環境設備応用Ａ	1
建築環境設備応用Ｂ	1
建築環境設備基礎Ａ	1
建築環境設備基礎Ｂ	1
建築環境デザイン	2
建築構造力学基礎	2
静定建築構造力学	2
鉄骨構造	1
木質構造	1
鉄筋コンクリート構造	1
建築材料	2
建築施工	2
建築設計基礎演習Ａ	3
建築法規	2
情報処理概論	2
建築構法	2
建築計画Ｃ	1
建築計画Ｄ	1
建築計画Ｅ	1
計	６１
選	択
住環境計画論	2
都市設計	2

景観設計	2
空間メディア	2
不静定建築構造力学	2
建築振動学	2
建築荷重論	2
空間構造計画	2
建築耐震設計	2
建築構造設計技法Ⅰ	1
建築構造設計技法Ⅱ	1
都市・建築設計演習Ａ	3
都市・建築設計演習Ｂ	3
建築構造設計演習Ⅰ	１．５
建築構造設計演習Ⅱ	１．５
建築構造材料実験演習	3
建築環境設備実験演習	3
建築環境設備設計演習	3
都市・建築設計演習Ｃ	3
都市・建築設計演習Ｄ	3
測量学・実習	3
建築応用力学	2
建築土質力学	1
基礎構造	1
複素関数論	2
応用数理解析	2

品質管理	2
建築防災	2
合成構造	1
建築特別プログラム	2
テクノロジー・マーケティング	2
必修科目６１単位及び選択科目から２０単位以上の合計８１単位以上を修得しなければならない。	
参　　考　　科　　目	
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

電気情報工学科

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
必　　修	
電気情報数学	2
回路理論Ⅰ	2
回路理論Ⅱ	2
論理回路	2
プログラミング論Ⅰ	2
プログラミング演習Ⅰ	1
コンピュータアーキテクチャⅠ	2
常微分方程式	2
電気情報工学基礎実験	2

電気情報工学実験Ⅰ	2
電気情報工学実験Ⅱ	2
電気情報工学卒業研究	6
電気情報工学入門Ⅰ	2
電気情報工学入門Ⅱ	2
計	３１
選　　択	
電磁気学Ⅰ	2
電磁気学Ⅱ	2
電磁気学Ⅲ	2
回路理論Ⅲ	2
ディジタル電子回路	2
制御工学Ⅰ	2
制御工学ⅡＡ	1
制御工学ⅡＢ	1
離散数学	2
情報論理学	2
プログラミング論Ⅱ	2
アナログ電子回路Ⅰ	2
アナログ電子回路Ⅱ	2
電子物性	2
計算機プログラミング演習Ⅰ	1
計算機プログラミング演習Ⅱ	1
計測工学Ⅰ	2

計測工学Ⅱ	2
信号とシステム	2
データ構造とアルゴリズムＩＡ	1
データ構造とアルゴリズムＩＢ	1
データ構造とアルゴリズムⅡＡ	1
データ構造とアルゴリズムⅡＢ	1
基礎エネルギー変換機器学	2
エネルギー基礎論	2
コンピュータシステムＩＡ	1
コンピュータシステムＩＢ	1
コンピュータシステムⅡＡ	1
コンピュータシステムⅡＢ	1
形式言語とオートマトンA	1
形式言語とオートマトンB	1
オペレーティングシステム	2
データ構造とアルゴリズムＩ演習	1
計測工学A	1
計測工学B	1
応用確率論	2
情報理論	2
半導体の性質	1
トランジスタ基礎論	1
電子デバイス	2
電磁波工学Ｉ	1

電磁波工学Ⅱ	1
通信方式	2
電力輸送工学	2
制御工学A	1
制御工学B	1
確率統計	2
コンピュータアーキテクチャⅡ	2
コンパイラA	1
コンパイラB	1
データベースA	1
データベースB	1
サイバーセキュリティ	2
電気情報工学実験Ⅲ	2
エネルギー変換機器工学	2
電気電子材料A	1
電気電子材料B	1
プログラミング言語論A	1
プログラミング言語論B	1
複素関数論	2
量子力学応用Ⅰ	1
量子力学応用Ⅱ	1
電気エネルギー工学通論	2
集積回路工学通論A	1
集積回路工学通論B	1

通信工学通論Ａ	1
通信工学通論Ｂ	1
コンピュータシステム通論Ａ	1
コンピュータシステム通論Ｂ	1
ディジタル信号処理	2
集積回路工学	2
パワーエレクトロニクス	2
システム工学	2
電気電子工学設計	2
通信ネットワークＡ	1
通信ネットワークＢ	1
超伝導基礎論Ａ	1
超伝導基礎論Ｂ	1
プラズマ工学	2
データ解析と実験計画法	2
数理計画法	2
技術表現法Ａ	1
技術表現法Ｂ	1
電気情報工学実習	1
電気法規および施設管理	2
高電圧・パルスパワー工学	2
光エレクトロニクスⅠ	1
光エレクトロニクスⅡ	1
数理論理学	2

アルゴリズム論Ａ	1
アルゴリズム論Ｂ	1
分散システム	2
パターン認識Ａ	1
パターン認識Ｂ	1
人工知能	2
基礎ＰＢＬⅠ	1
基礎ＰＢＬⅡ	1
基礎ＰＢＬⅢ	2
テクノロジー・マーケティング	2
必修科目３１単位のほかに、選択科目から５２単位以上を選択し、合わせて８３単位以上を修得しなければならない。ただし、選択科目の選定にあたっては電気情報工学科で別に定めた履修課程ごとの「要求科目表」を参照し、その要件を満たすように修得しなければならない。 (注)　「電気情報工学実習」は、九州大学学部通則第６条第３項の規定に基づき、第３年度又は第４年度の休業日に２週間以上行う。	
参　　考　　科　　目	
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

物質科学工学科
　化学プロセス・生命工学コース
　応用化学コース
　材料科学工学コース

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
必　　修	
機械工学大意第一	2

電気工学基礎	2
応用数理解析	2
情報処理概論	2
物質科学工学実験第一	2
物質科学工学実験第二	3
物質科学工学実験第三	3
物質科学工学卒業研究	8
計	２４
選択	
金属材料大意	2
機械工学大意第二	2
電子情報工学基礎	2
品質管理	2
応用物理学第一	2
応用物理学第二	2
プロセス物理化学	2
反応工学第一	2
反応工学第二	2
物質移動工学	2
工業倫理・工業経営（A）	1
工業倫理・工業経営（B）	1
工業倫理・工業経営（C）	1
工業倫理・工業経営（D）	1
化学工学量論A	1

化学工学量論Ｂ	1
基礎熱工学	2
化工熱工学	2
基礎流体工学	2
化工流体工学	2
生物プロセス工学第二	2
分離工学	2
プロセス制御	2
プロセスシステム工学	2
化工数学	2
化工情報処理演習	1
工業化学基礎第一Ａ	1
工業化学基礎第一Ｂ	1
工業化学基礎第二	2
基礎生命工学	2
生物プロセス工学第一	2
プロセス計装	1
化学プロセス特別講義一	1
化学プロセス特別講義二	1
生命工学特別講義一	1
生命工学特別講義二	1
生物化学工学	2
基礎物理化学第三	2
量子化学第一	2

無機化学第一	2
無機化学第二	2
分析化学第一	2
有機化学第一	2
高分子化学第一	2
化学工学第一	2
分析化学第二	2
有機化学第二	2
高分子化学第二	2
分子組織化学	2
安全学	2
化学工学第二	2
物理化学演習	1
量子化学演習	1
無機化学第三	2
表面化学	2
量子化学第二	2
生化学第一	2
有機化学第三	2
分析化学第三および演習	2
物理化学第三	2
高分子化学第三	2
生化学第二	2
生体機能化学	2

応用化学特別講義第一	1
応用化学特別講義第二	1
応用化学特別講義第三	1
応用化学特別講義第四	1
応用化学特別講義第五	1
応用化学特別演習第一	1
応用化学特別演習第二	1
回折結晶学	2
固体物性学	2
平衡組織学	2
デバイス物理学	2
材料物理化学	2
材料電気化学	2
材料設計製図	1
機械製作法Ⅱ	2
機械工作実習	1
金属組織制御学	2
移動現象論	2
凝固及び結晶成長	2
材料強度物性	2
金属製錬学第一	2
半導体工学	2
材料表面科学	2
電解工学	2

鉄鋼材料工学	2
非鉄材料工学	2
セラミックス材料学	2
材料反応工学	2
金属製錬学第二	2
接合・複合工学	2
薄膜工学	2
エネルギー材料工学	2
無機材料解析学	2
バイオマテリアル	2
産業科学技術特別講義	2
材料工学特別演習	1
基礎物理化学第一及び演習	2
基礎物理化学第二及び演習	2
物質科学工学概論第一	1
物質科学工学概論第二	1
触媒化学	2
有機化学第四および演習	1
無機化学第四	2
物理化学第一	2
物理化学第二	2
電磁気学	2
複素関数論	2
テクノロジー・マーケティング	2

超伝導材料工学	2
熱力学・動力学演習	2
弾性・塑性変形工学	1
材料力学入門	1
必修科目２４単位及び選択科目６２単位以上の合計８６単位以上を修得しなければならない。	
参　　考　　科　　目	
課題集約演習	1
産業活動実習	1
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

地球環境工学科
　建設都市工学コース
　船舶海洋システム工学コース
　地球システム工学コース

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
必　　修	
常微分方程式	2
複素関数論	2
フーリエ解析と偏微分方程式	2
情報処理概論	2
地球環境工学卒業研究	6
地球環境工学入門Ⅰ	1

地球環境工学入門Ⅱ	1
計	１６
選	択
流体力学第一	2
固体力学	2
測量学・実習	3
確率統計	2
構造力学Ⅰ	1
構造力学Ⅱ	1
水理学Ⅰ	1
水理学Ⅱ	1
地盤力学Ⅰ	1
地盤力学Ⅱ	1
環境システム学	2
構造力学Ⅲ	1
構造力学Ⅳ	1
水理学Ⅲ	1
水理学Ⅳ	1
地盤力学Ⅲ	1
地盤力学Ⅳ	1
土木材料学Ⅰ	1
土木材料学Ⅱ	1
環境基礎学Ⅰ	1
環境基礎学Ⅱ	1

計画数理Ⅰ	1
計画数理Ⅱ	1
社会基盤計画学Ⅰ	1
社会基盤計画学Ⅱ	1
基礎土木工学演習	2
土木工学総合演習	2
土木実践教室１	2
土木実践教室２	2
土木実践教室３	2
構造解析学	2
応用地盤工学Ⅰ	1
応用地盤工学Ⅱ	1
河川工学Ⅰ	1
河川工学Ⅱ	1
上下水道および水資源工学Ⅰ	1
上下水道および水資源工学Ⅱ	1
コンクリート構造工学Ⅰ	1
コンクリート構造工学Ⅱ	1
海岸水理学Ⅰ	1
海岸水理学Ⅱ	1
環境保全と開発Ⅰ	1
環境保全と開発Ⅱ	1
交通計画学	2
鋼構造工学	2

地震工学	2
都市計画	2
水文学Ⅰ	1
水文学Ⅱ	1
景観学	2
交通施設工学	2
維持管理工学	2
沿岸域管理工学	2
生態工学	2
力学Ⅰ	2
流体力学第二	2
材料力学	4
船舶設計	2
自動制御工学	2
船舶海洋流体力学第一	2
船舶運動論	2
弾性力学第一	2
材料加工学	2
機能設計工学	2
システム設計工学	2
船舶海洋製図第一	1
運動制御工学	2
船舶海洋流体力学第二	2
船舶海洋構造力学	2

船舶海洋振動学第一	2
環境設計工学	2
材料強度学	2
船舶海洋製図第二	2
海洋機器工学	2
船舶海洋振動学第二	2
海洋環境情報学	2
舶用機関	2
技術者倫理	2
工業マネージメント	2
船舶海洋システム工学実験	1
計算工学演習第一	1
計算工学演習第二	1
構造解析演習	1
船舶海洋システム工学特別講義第一	1
船舶海洋システム工学特別講義第二	1
船舶海洋システム工学特別講義第三	1
海事統計学	2
工学基礎力学	2
地球システム学概論	2
地球環境のイメージング	2
地球熱学	2
資源流体工学	2
資源処理工学	2

エネルギー資源工学	2
環境地球科学	2
フィールド地球科学演習	1
物理探査学	2
地熱工学	2
地球工学実験第一	1
地球工学実験第二	1
岩盤工学	2
環境修復工学	2
資源システム工学実験第一	1
資源システム工学実験第二	1
地層内物質移動工学	2
資源工学倫理及びマネージメントⅠ	1
資源工学倫理及びマネージメントⅡ	1
地球環境化学	2
地球システム工学実習	1
地球システム工学インターシップ	4
資源地球科学	2
環境地球物理学	2
地熱貯留層工学	2
地圏開発システム工学	2
資源微生物工学	2
石油工学	2
工業爆薬学	2

新エネルギー工学	1
地熱発電工学	1
石灰石資源	1
石油・天然ガス資源開発	1
海外資源・資源経済学	1
廃棄物資源循環工学	1
石油開発生産工学	2
品質管理	2
機械工学大意第二	2
無機化学第三	2
金属材料大意	2
地下空洞設計法	2
スクールオンザムーブ国際インターンシップ	4
電気工学基礎	2
電子情報工学基礎	2
機械工学大意第一	2
流体力学基礎	2
土木エンジニア史	2
まちづくり・地域づくり概論Ⅰ	1
まちづくり・地域づくり概論Ⅱ	1
合意形成論	2
環境と防災１	1
環境と防災２	1
プロジェクト・ものづくり	2

プロジェクト・まちづくり	2
土木と社会セミナー１	1
土木と社会セミナー２	1
土木と社会セミナー３	1
土木地理学	2
応用複素関数論	2
船舶算法および同演習	１．５
船舶復原性および同演習	１．５
構造力学	4
テクノロジー・マーケティング	2
必修科目から１６単位及び選択科目から６９単位以上の合計８５単位以上を修得しなければならない。	
参　　考　　科　　目	
課題集約演習	1
産業活動実習	1
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

エネルギー科学科

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
必　　修	
情報処理論概論	2
基礎物理数学	2

熱力学	2
元素科学	2
力学	2
基礎確率統計学	2
原子物理学	2
物理化学	2
常微分方程式	2
電磁気学E	2
熱・統計力学Ⅰ	2
輸送現象論Ⅰ	1
輸送現象論Ⅱ	1
量子力学Ⅰ	1
量子力学Ⅱ	1
創造科学工学基礎実験	2
固体物理学Ⅰ	2
エネルギー材料科学	2
フーリエ解析と偏微分方程式	2
エネルギー科学卒業研究	4
振動・波動論基礎	2
エネルギー科学展望	1
エネルギー科学と倫理	1
エネルギー環境論	2
計	４４
選	択

電気回路Ⅰ	1
電気回路Ⅱ	1
量子化学基礎	2
化学反応論Ⅰ	1
化学反応論Ⅱ	1
量子線物理計測	2
無機材料科学Ⅰ	2
基礎熱工学	2
連続体力学	2
量子理工学演習Ⅰ	1
エネルギー物質工学演習	1
複素関数論	2
電子回路	2
熱・統計力学Ⅱ	2
量子力学Ⅲ	1
量子力学Ⅳ	1
無機材料科学Ⅱ	1
無機材料科学Ⅲ	1
応用物理化学Ⅰ	1
応用物理化学Ⅱ	1
化学反応論Ⅲ	2
応用物理学Ⅰ	1
応用物理学Ⅱ	1
原子核物理学Ⅰ	2

金属材料学Ⅰ	1
金属材料学Ⅱ	1
構造材料学Ⅰ	1
構造材料学Ⅱ	1
材料組織制御学Ⅰ	1
材料組織制御学Ⅱ	1
有機物質科学Ⅰ	1
有機物質科学Ⅱ	1
流体力学Ⅰ	2
基礎材料力学Ⅰ	1
基礎材料力学Ⅱ	1
伝熱学Ⅰ	1
伝熱学Ⅱ	1
自動制御	2
環境システム学	2
現代科学技術論	1
量子理工学演習Ⅱ	1
エネルギー工学基礎Ⅰ	1
エネルギー工学基礎Ⅱ	1
産業活動実習	1
量子理工学実験	2
エネルギー物質工学実験Ⅰ	2
エネルギー工学実験	2
応用複素関数論	2

結晶回折学	1
固体物理学Ⅱ	2
基礎分光計測学	2
原子核物理学Ⅱ	1
原子核物理学Ⅲ	1
原子炉物理学Ⅰ	1
原子炉物理学Ⅱ	1
基礎プラズマ物理Ⅰ	1
基礎プラズマ物理Ⅱ	1
プロセス化学工学Ⅰ	1
プロセス化学工学Ⅱ	1
材料強度学Ⅰ	1
材料強度学Ⅱ	1
有機材料科学Ⅰ	1
有機材料科学Ⅱ	1
材料計測学Ⅰ	1
材料計測学Ⅱ	1
材料物性学Ⅰ	1
材料物性学Ⅱ	1
流体力学Ⅱ	1
流体力学Ⅲ	1
振動力学	2
課題集約演習	1
量子理工学演習Ⅲ	1

エネルギー工学演習	1
エネルギー物質工学実験Ⅱ	2
エネルギー科学特別講義Ⅰ	1
エネルギー科学特別講義Ⅱ	1
エネルギー科学特別講義Ⅲ	1
エネルギー科学特別講義Ⅳ	1
エネルギー科学特別講義Ⅴ	1
エネルギー科学特別講義Ⅵ	1
エネルギー科学特別講義Ⅶ	1
エネルギー科学とマネージメントⅠ	1
エネルギー科学とマネージメントⅡ	1
エネルギー科学とマネージメントⅢ	1
原子力工学概論Ⅰ	1
原子力工学概論Ⅱ	1
相転移論Ⅰ	1
相転移論Ⅱ	1
固体物理学Ⅲ	1
固体物理学Ⅳ	1
応用物理学Ⅲ	1
応用物理学Ⅳ	1
有機物質科学Ⅲ	1
有機物質科学Ⅳ	1
応用確率論	2
核融合概論Ⅰ	1

核融合概論Ⅱ	1
テクノロジー・マーケティング	2
必修科目から４４単位及び選択科目から３８単位以上の合計８２単位以上を修得しなければならない。	
参　　考　　科　　目	
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

機械航空工学科
　機械工学コース
　航空宇宙工学コース

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
必　　修	
常微分方程式	2
複素関数論	2
フーリエ解析と偏微分方程式	2
機械航空工学卒業研究	6
材料力学Ⅰ	1
材料力学Ⅱ	１．５
材料力学Ⅲ	１．５
材料力学Ⅳ	1
機械工学・航空宇宙工学序論	2
計	１９
選　　択	

応用複素関数論	2
力学Ⅰ	2
日本語コミュニケーション	1
工業マネジメント	2
電気工学基礎	2
電子情報工学基礎	2
情報処理概論	2
機械要素設計製図Ⅰ	０．５
機械要素設計製図Ⅱ	０．５
創造設計	1
機械工学設計製図	1
機械工学実験第一	1
機械工学実験第二	1
機械力学Ⅰ	１．５
機械力学Ⅱ	１．５
機械力学Ⅲ	１．５
機械力学Ⅳ	１．５
機械振動学Ⅰ	1
機械振動学Ⅱ	1
機械設計Ⅰ	１．５
機械設計Ⅱ	１．５
機械要素Ⅰ	1
機械要素Ⅱ	1
流れ学Ⅰ	１．５

流れ学Ⅱ	１．５
流体力学Ⅰ	１．５
流体力学Ⅱ	１．５
応用流体工学	２
熱力学Ⅰ	１．５
熱力学Ⅱ	１．５
伝熱学Ⅰ	１．５
伝熱学Ⅱ	１．５
内燃機関Ⅰ	１
内燃機関Ⅱ	１
熱エネルギー変換Ⅰ	１
熱エネルギー変換Ⅱ	１
燃焼学Ⅰ	１
燃焼学Ⅱ	１
機械製作法Ⅰ	２
機械工作実習Ⅰ	１
機械工作実習Ⅱ	１
機械製作法Ⅱ	２
加工機器・精密測定法	２
システム工学	２
システム制御Ⅰ	２
システム制御Ⅱ	２
機械材料Ⅰ	１
機械材料Ⅱ	１

弾性力学A	1
弾性力学B	1
弾性力学Ⅰ	1
弾性力学Ⅱ	1
数値解析基礎	2
数値解析応用	1
数理統計学概論	2
機械工学特別講義第一	0・5
機械工学特別講義第二	0・5
機械工学特別講義第三	0・5
機械工学特別講義第四	0・5
機械工学特別講義第五	0・5
機械工学特別講義第六	0・5
機械工学特別講義第七	0・5
機械工学特別講義第八	0・5
基礎設計製図	1
航空宇宙機設計製図	1
航空宇宙工学実験	2
エネルギー変換基礎論ⅠA	1
エネルギー変換基礎論ⅠB	1
エネルギー変換基礎論Ⅱ	2
ジェットエンジン工学	2
航空流体力学Ⅰ	2
航空流体力学Ⅱ	2

気体力学	2
航空宇宙基礎物理学A	1
航空宇宙基礎物理学B	1
構造振動学A	1
構造振動学B	1
航空宇宙機振動学A	1
航空宇宙機振動学B	1
基礎構造力学A	1
基礎構造力学B	1
応用構造力学A	1
応用構造力学B	1
航空宇宙機材料学A	1
航空宇宙機材料学B	1
誘導・制御基礎論Ⅰ	2
誘導・制御基礎論ⅡA	1
誘導・制御基礎論ⅡB	1
飛行制御論A	1
飛行制御論B	1
飛行力学Ⅰ	2
飛行力学ⅡA	1
飛行力学ⅡB	1
軌道力学	2
航空宇宙機設計論A	1
航空宇宙機設計論B	1

ロケット工学	2
人工衛星工学	2
航空宇宙伝熱学A	1
航空宇宙伝熱学B	1
宇宙利用学A	1
宇宙利用学B	1
航空工学特別講義	1
宇宙工学特別講義	1
航空宇宙機設計生産システム	1
ジェットエンジン構造設計	1
航空機運用・整備	1
宇宙環境制御システム	1
工学倫理	1
ロボティクスⅠ	1
ロボティクスⅡ	1
生体工学基礎	2
水素工学基礎	2
テクノロジー・マーケティング	2
必修科目から１９単位及び選択科目から６３単位以上の合計８２単位以上を修得しなければならない。	
参　　考　　科　　目	
積分論の基礎	2
関数解析の基礎	2
抽象代数学の基礎	2
品質管理	2

応用確率論	2
日本産業論	2
工学解析・計測概論	2
産業活動実習Ⅰ	1
産業活動実習Ⅱ	1
国際イノベーション入門	4
国際オープンマインド入門	4
国際コラボレーション入門	4

別表第３

授　　業　　科　　目	
名　　称	単　　位
参　　考	
ＩＴ応用	1
日本産業論	2
工学解析・計測概論	2
ビジネス日本語Ａ	1
ビジネス日本語Ｂ	1
ビジネス日本語Ｃ	1

別表第４　（基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

区　分		授　業　科　目	単位数	最低習得単位数
ＫＩＫＡＮ Education Courses	KIKAN Education Seminar	KIKAN Education Seminar	1	1
	Interdisciplinary Collaborative Learning	Interdisciplinary Collaborative Learning of Social Issues	２．５	２．５

	of Social Issues			
	Subjects in Humanities and Social Science	Introduction to Law	2	8
		Introduction to Economics	2	
		Introduction to Philosophy	2	
		Intercultural Encounters	2	
		Introduction to Psychology	2	
		Global Issues	2	
		Introduction to Japanese History	2	
		Language and Communication in Society	2	
	General Subjects	Engagement with Volunteer I	1	
		Engagement with Volunteer II	1	
		Engagement with Internship I	1	
		Engagement with Internship II	1	
	Subjects for Languages and Culture	Intensive English Japanese Issue I	1	4
		Intensive English Japanese Issue II	1	
		Intensive English C Theme-Based	1	
		Intensive English C Skill-Based	1	
		Integrated Courses : Beginners A	1	6
		Integrated Courses : Beginners B	1	
		Integrated Courses : Elementary 1A	1	
		Integrated Courses : Elementary 1B	1	
		Integrated Courses : Elementary 2A	1	
		Integrated Courses : Elementary 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Integrated Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 1B	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2A	1	
		Integrated Courses : Intermediate 2B	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced A	1	
		Integrated Courses : Pre-Advanced B	1	
		Integrated Courses : Advanced A	1	
		Integrated Courses : Advanced B	1	
		Kanji Courses : Elementary 1A	1	4
		Kanji Courses : Elementary 1B	1	
		Kanji Courses : Elementary 2A	1	
		Kanji Courses : Elementary 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate A	1	
		Kanji Courses : Pre-Intermediate B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 1B	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2A	1	
		Kanji Courses : Intermediate 2B	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced A	1	
		Kanji Courses : Pre-Advanced B	1	
		Kanji Courses : Advanced A	1	

		Kanji Courses : Advanced B	1	
	Cybersecurity	Primary Course of Cyber Security - How to Survive the Cyber	1	1
	Subjects on Health and Sports	Laboratory of Health and Sports Science	1	1
	Subjects in Science	Computer Programming Exercise	1	
		Calculus I	1	
		Calculus II	1	
		Calculus III	1	
		Calculus IV	1	
		Linear Algebra I	1	
		Linear Algebra II	1	
		Linear Algebra III	1	
		Linear Algebra IV	1	
		Fundamental Physics I	1	
		Fundamental Physics II	1	
		Fundamental Physics III	1	
		Fundamental Physics IV	1	
		Fundamental Physics V	1	
		Fundamental Physics VI	1	
		Fundamental Physics VII	1	
		Fundamental Physics VIII	1	
		Basic Chemistry I	1	
		Basic Chemistry II	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry I	1	
		Fundamental Inorganic Chemistry II	1	
		Fundamental Organic Chemistry I	1	
		Fundamental Organic Chemistry II	1	
		Fundamental Cell Biology I	1	
		Fundamental Cell Biology II	1	
		Introductory Biology I	1	
		Introductory Biology II	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science I	1	
		Basic Laboratory Experiments in Natural Science II	1	
		Drawings on Technical Design I	1	
		Drawings on Technical Design II	1	

（備考）

各国際コースの学生は、Subjects in Science の必修科目として、次の所定 の単位を修得しなければならない。

国際コース	区分	授 業 科 目 及 び 単 位 数	最低修得単位数
電気情報工学科	Subjects in	Computer Programming Exercise（1）	２１

（電気情報工学コース）国際コース	Science	Calculus I（1） Calculus II（1） Calculus III（1） Calculus IV（1） Linear Algebra I（1） Linear Algebra II（1） Linear Algebra III（1） Linear Algebra IV（1） Fundamental Physics I（1） Fundamental Physics II（1） Fundamental Physics III（1） Fundamental Physics IV（1） Fundamental Physics V（1） Fundamental Physics VI（1） Fundamental Physics VII（1） Fundamental Physics VIII（1） Basic Chemistry I（1） Basic Chemistry II（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（1）	
物質科学工学科（応用化学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（1） Calculus I（1） Calculus II（1） Calculus III（1） Calculus IV（1） Linear Algebra I（1） Linear Algebra II（1） Linear Algebra III（1） Linear Algebra IV（1） Fundamental Physics I（1） Fundamental Physics II（1） Fundamental Physics VII（1） Fundamental Physics VIII（1） Basic Chemistry I（1） Basic Chemistry II（1） Fundamental Inorganic Chemistry I（1） Fundamental Inorganic Chemistry II（1） Fundamental Organic Chemistry I（1） Fundamental Organic Chemistry II（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（1）	２１
地球環境工	Subjects in	Computer Programming Exercise（1）	２１

学科（建設都市工学コース）国際コース	Science	Calculus I（1） Calculus II（1） Calculus III（1） Calculus IV（1） Linear Algebra I（1） Linear Algebra II（1） Linear Algebra III（1） Linear Algebra IV（1） Fundamental Physics I（1） Fundamental Physics II（1） Fundamental Physics III（1） Fundamental Physics IV（1） Fundamental Physics V（1） Fundamental Physics VI（1） Fundamental Physics VII（1） Fundamental Physics VIII（1） Basic Chemistry I（1） Basic Chemistry II（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（1）	
機械航空工学科（機械航空工学コース）国際コース	Subjects in Science	Computer Programming Exercise（1） Calculus I（1） Calculus II（1） Calculus III（1） Calculus IV（1） Linear Algebra I（1） Linear Algebra II（1） Linear Algebra III（1） Linear Algebra IV（1） Fundamental Physics I（1） Fundamental Physics II（1） Fundamental Physics III（1） Fundamental Physics IV（1） Fundamental Physics V（1） Fundamental Physics VI（1） Fundamental Physics VII（1） Fundamental Physics VIII（1） Basic Chemistry I（1） Basic Chemistry II（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science I（1） Basic Laboratory Experiments in Natural Science II（1） Drawings on Technical Design I（1） Drawings on Technical Design II（1）	２３

別表第５

電気情報工学科

（電気情報工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Graduation Research	１２
計	２２
共　通　科　目　（選　択）	
Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1

Engineering Mathematics II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（電気情報工学コース）国際コース（必修）	
Mathematics for Electrical Engineering and Computer Science	2
Linear Circuits I	2
Linear Circuits II	2
Logic Circuits	2
Programming Methodology I	2
Programming Practice I	1

Computer Architecture I	2
Fundamentals of Integrated Circuits A	1
Fundamentals of Integrated Circuits B	1
Electric Energy A	1
Electric Energy B	1
Fundamentals of Communication Engineering A	1
Fundamentals of Communication Engineering B	1
Fundamentals of Computer Systems A	1
Fundamentals of Computer Systems B	1
Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science I	2
Fundamentals of Electrical Engineering and Computer Science II	2
Electromagnetic Theory I	2
System Control A	1
System Control B	1
Applied Mathematical Logic	2
Analog Electronic Circuits I	2
Data Structure and Algorithms IA	1
Data Structure and Algorithms IB	1
Electronic Measurements A	1
Electronic Measurements B	1
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science-Basic	2

Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science I	2
Laboratory of Electrical Engineering and Computer Science II	2
計	４３
（電気情報工学コース）国際コース　（選　択）	
Practice in Logic Design	2
System Programming Laboratory	2
上記を除く電気情報工学科専攻教育科目の全て	
共通科目より２２単位､電気情報工学コース科目より４３単位、選択科目（共通、電気情報工学コース）より７単位の計７２単位を修得しなければならない。	

物質科学工学科

（応用化学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1
Introduction to Metallic Materials I	1

Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1
Graduation Research	１２
計	２８
共　通　科　目　(選　択)	
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
（応用化学コース）国際コース　（必　　修）	

Organic Chemistry I	1
Organic Chemistry II	1
Organic Chemistry III	1
Organic Chemistry Ⅳ	1
Inorganic Chemistry III	1
Inorganic Chemistry Ⅳ	1
Analytical Chemistry I	1
Analytical Chemistry II	1
Analytical Chemistry III	1
Analytical Chemistry Ⅳ	1
Physical Chemistry I	1
Physical Chemistry II	1
Physical Chemistry III	1
Physical Chemistry Ⅳ	1
Polymer Chemistry I	1
Polymer Chemistry II	1
Chemical Reaction Engineering I	1
Chemical Reaction Engineering II	1
Biochemistry I	1
Biochemistry II	1
Coordination Chemistry I	1
Coordination Chemistry II	1
Polymer Chemistry III	1
Polymer Chemistry Ⅳ	1

Task-Based Exercise in Applied Chemistry I	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry II	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry III	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅳ	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅴ	2
Task-Based Exercise in Applied Chemistry Ⅵ	2
Experiment in Applied Chemistry IA	2
Experiment in Applied Chemistry IB	2
Experiment in Applied Chemistry IIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIB	2
Experiment in Applied Chemistry IIIA	2
Experiment in Applied Chemistry IIIB	2
計	４８
共通科目（必修）２８単位及び応用化学コース（国際コース）科目より４８単位の合計７６単位を修得しなければならない。	

地球環境工学科

（建設都市工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　　称	単　　位
共　通　科　目　（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1

Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	１２
計	３２
共　通　科　目（選　択）	
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1

Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Inorganic Chemistry I	1
Inorganic Chemistry II	1
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamental of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1
Progresseive Japanese II	1
社会基盤・構造系　（必　　修）	
Structural Mechanics IA	1
Structural Mechanics IB	1
Construction Materials I	1
Construction Materials II	1
Structural Mechanics IIA	1

Structural Mechanics IIB	1
Bridge Engineering I	1
Bridge Engineering II	1
計	8
社会基盤・構造系　（選　　択）	
Maintenance Engineering	2
防災・地盤系　（必　　修）	
Soil Mechanics IA	1
Soil Mechanics IB	1
Soil Mechanics IIA	1
Soil Mechanics IIB	1
Applied Geotechnical Engineering I	1
Applied Geotechnical Engineering II	1
計	6
環境・水工系　（必　　修）	
Hydraulics IA	1
Hydraulics IB	1
Hydraulics IIA	1
Hydraulics IIB	1
Environmental Systems Engineering I	1
Environmental Systems Engineering II	1
Basics of Environmental Engineering I	1
Basics of Environmental Engineering II	1
Hydrosphere Engineering I	1

Hydrosphere Engineering II	1
計	１０
交通・都市計画系　（必　　修）	
Mathematics for Planning I	1
Mathematics for Planning II	1
Transportation Planning I	1
Transportation Planning II	1
計	4
交通・都市計画系　（選　　択）	
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment I	1
Introduction to Architecture of Infrastructure and Environment II	1
Environmental Economics I	1
Environmental Economics II	1
実　験　・　概　論　（必　　修）	
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work A	2
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work B	2
Civil and Environmental Engineering Laboratory Work C	2
Civil and Environmental Engineering Practice	2
計	8
実　　習　　系　（選　　択）	
Surveying and Mapping	3

必修科目６８単位及び選択科目４単位以上の合計７２単位を修得しなければならない。ただし、交通・都市計画系選択科目から２単位を最低限修得するものとする。

機械航空工学科

（機械航空工学コース）国際コース

授　業　科　目	
名　称	単　位
共　通　科　目（必　修）	
Technical Communication I	1
Technical Communication II	1
Ordinary Differential Equation I	1
Ordinary Differential Equation II	1
Complex Function Theory I	1
Complex Function Theory II	1
Fourier Analysis I	1
Fourier Analysis II	1
Fundamentals of Electrical Engineering I	1
Fundamentals of Electrical Engineering II	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering I	1
Fundamentals of Electronics and Information Engineering II	1
Introduction to Information Processing I	1
Introduction to Information Processing II	1
Japanese Industries I	1
Japanese Industries II	1

Introduction to Metallic Materials I	1
Introduction to Metallic Materials II	1
Advanced Engineering I	1
Advanced Engineering II	1
Solid Mechanics I	1
Solid Mechanics II	1
Fluid Mechanics IA	1
Fluid Mechanics IB	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement I	1
Introduction to Engineering Analysis and Measurement II	1
Engineering Ethics I	1
Engineering Ethics II	1
Engineering Mathematics I	1
Engineering Mathematics II	1
Graduation Research	１２
計	４２
共　通　科　目　(選 択)	
Business Japanese A	1
Business Japanese B	1
Business Japanese C	1
Active Japansese I	1
Active Japanese II	1
Progresseive Japanese I	1

Progresseive Japanese II	1
（機械航空工学コース）国際コース（必修）	
Introduction to Mechanical and Aerospace Engineering	2
Strength of Materials IA	1
Strength of Materials IB	1
Strength of Materials IIA	1
Strength of Materials IIB	1
Fluid Mechanics IIA	1
Fluid Mechanics IIB	1
Thermodynamics Ⅰ	2
Thermodynamics Ⅱ	2
Mechanics I	1
Mechanics II	1
Dynamics of Machinery I	1
Dynamics of Machinery II	1
Systems Control IA	1
Systems Control IB	1
Systems Control IIA	1
Systems Control IIB	1
Heat Transfer I	1
Heat Transfer II	1
Mechanical and Aerospace Engineering Experiments Ⅰ	1
Mechanical and Aerospace Engineering	1

Experiments Ⅱ	
Mechanical and Aerospace Engineering Drawing and Design	2
Aerospace Engineering IA	1
Aerospace Engineering IB	1
Aerospace Engineering IIA	1
Aerospace Engineering IIB	1
Machine Design I	1
Machine Design II	1
Manufacturing Processes I	1
Manufacturing Processes II	1
Internal Combustion Engine I	1
Internal Combustion Engine II	1
Computational Methods I	1
Computational Methods II	1
計	３８
共通科目（必修）４２単位及び機械航空工学コース（国際コース）科目３８単位の合計８０単位を修得しなければならない。	

九州大学教授会通則

平成１６年度九大規則第８号
制　　定：平成１６年　４月　１日
最終改正：平成２７年　２月２４日
（平成２６年度九大規則第８３号）

（趣旨）

第１条　この規則は、九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号）第３８条第２項の規定に基づき、教授会の組織、審議事項、議事の手続その他必要な事項を定めるものとする。

（構成員）

第２条　各学部の教授会の構成員は、次に掲げる者とする。

(1)　研究院の所属で当該学部の教育研究又は附属教育研究施設を担当する教授

(2)　病院の所属で学部の教育研究を担当する教授

２　各学府の教授会の構成員は、当該学府の教育研究を担当する教授とする。

３　各研究院の教授会の構成員は、当該研究院所属の教授とする。

４　基幹教育院の教授会の構成員は、基幹教育院所属の教授とする。

５　各附置研究所の教授会の構成員は、当該附置研究所所属の教授とする。

６　カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（以下「国際研究所」という。）の教授会の構成員は、国際研究所所属の教授とする。

７　情報基盤研究開発センター（以下「センター」という。）の教授会の構成員は、センター所属の教授とする。

８　教授会には、准教授その他の職員を加えることができる。

（教授会の審議事項等）

第３条　教授会は､総長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして総長が定めるもの

２　教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び教授会が置かれる部局の長（以下この項において「総長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び総長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（議長）

第４条　教授会に議長を置き、当該部局の長をもって充てる。

２　議長は、教授会を主宰する。

（議事）

第５条　教授会は、構成員の２分の１以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

２　教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

３　前２項の規定にかかわらず、特に重要な事項の審議については、別段の定めをすることができる。

（構成員以外の者の出席）

第６条　教授会が必要であると認めた場合は、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（代議員会等）

第７条　教授会は、その定めるところにより、教授会の構成員のうちの一部の者をもって構成される代議員会、専門委員会等（次項において「代議員会等」という。）を置くことができる。

２　教授会は、その定めるところにより、代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

（補則）

第８条　この規則に定めるもののほか、教授会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、各教授会の議を経て当該部局長が定める。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平成１６年度九大規則第２４６号）

この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則（平成１８年度九大規則第４０号）

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平成２３年度九大規則第１４号）

この規則は、平成２３年１０月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第３２号）

この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則（平成２４年度九大規則第５０号）

この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則（平成２５年度九大規則第４１号）

この規則は、平成２５年１１月１日から施行する。

附　則（平成２６年度九大規則第１４号）

この規則は、平成２６年１０月１日から施行する。

附　則（平成２６年度九大規則第８３号）

この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

九州大学工学部

目　次

１．設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・　１

２．学部・学科等の特色　・・・・・・・・　１５

３．学部・学科等の名称及び学位の名称　・・・・・・・・　１８

４．教育課程の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・　１９

５．教員組織の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・　２６

６．入学者選抜の概要　・・・・・・・・　２７

７．教育方法、履修指導方法及び卒業要件　・・・・・・・・　３４

８．施設、設備等の整備計画　・・・・・・・・　１５１

９．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画　・・・・・・・・　１５２

１０．管理運営　・・・・・・・・　１５３

１１．自己点検・評価　・・・・・・・・　１５４

１２．情報の公開　・・・・・・・・　１５５

１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　・・・・・・・・　１５６

１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　・・・・・・・・　１５７

１．設置の趣旨及び必要性

（１）社会的背景

工学は、体系化された専門分野（機械工学、電気電子工学、土木工学、材料工学、化学工学、応用化学、資源工学、航空宇宙工学、船舶海洋工学、原子力工学、建築学などのディシプリン）を確固とした基盤としながら、総合科学として、工学諸分野はもとより、理学及び人文社会科学の境界を越え、人類社会が直面する諸課題に向き合い、複合的な境界条件の下での最適解を先見性をもって見出し、人類の暮らしをより豊かにすることに不断に挑んできた。

しかし、地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題、エネルギー問題、食糧問題、少子高齢化問題など、我々はこれまでに経験したことのない深刻な危機に直面している。また、科学技術の急速な進展によって、既存の職種の多くがロボットや AI に取って代わられ、産業構造が激変する予測困難な時代が到来しようとしている。これらの危機を直視し、科学技術のさらなる進展を通して課題解決を目指していくためには、従来型の「帰納的プロセスに基づく真理の探究」に重点を置く科学技術・知的生産の基本構造から脱却し、「構成的仮説演繹プロセスに基づく価値の創造に対する研究・開発の推進」が不可欠とされている。そして、こうした人文社会科学・自然科学・技術の世界的なパラダイムシフトを我が国が早急かつ円滑に達成するための重要な鍵の一つが、優れた工学系人材の育成である（大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会、2017 年）。

九州大学工学部・大学院工学系学府は、日本の発展を牽引してきた「ものづくり」の中核を担う、専門性・学際性・国際性・先導性を合わせ持つ人材の育成を目指してきた。学部教育では、専門性の基盤となる基礎教育に注力するとともに、大括り学科の共通授業科目を開設することで、異なる専門分野を学ぶコース間の垣根を低くすることに努めてきた。また、学士課程国際コースを設置して留学生を積極的に受け入れながら、本学海外拠点をベースに日本人学生の海外派遣・研修事業も継続的に展開してきた。大学院教育では、専門分野の最先端技術を開発する人材の育成を目指す学府（工学府、システム情報科学府）を堅持する一方で、地球規模の環境・エネルギー問題の解決に向けた学際的研究教育を行う学府（総合理工学府）も設置することで、専門性と学際性の両方を極めることに挑んできた。さらに、学部・大学院教育を通して、丁寧かつ厳格な研究指導を重視することで、日本の基幹大学の卒業生に期待される、自ら課題を発見して仮説を構築・検証する構想力、自らの力で新しい領域を切り開くチャレンジ精神、社会に対する責任感、先導力（リーダーシップ）を育むことにも注力してきた。こうした教育努力の成果は、本学に対する企業関係者の高い評価によって挙証されている（日経 HR、2019 年）。

しかし、近年の人類社会が直面する諸課題の深刻さ、それを打開する工学系人材への社会からの期待の大きさに鑑み、本学の工学教育も、専門性・学際性・国際性・先導性をより先鋭かつ体系的に追求する方向で改革に取り組むことが急務と言える。一つの技術にも様々な専門分野の考え方や技術を要するため専門分野の枠の拡大が求められる一方、より高度な専門的知識の獲得も必要である。こうした認識から、2021 年４月に学部・学科及び学府・専攻の再編を断行し、学部から大学院修士課程まで、連続性に配慮した学士・修士６年一貫

型教育を実現する。

この決断の妥当性は、本学に対する企業からの技術系人材の求人の大部分が大学院生を対象としており、修士課程修了相当以上の力量を備えた人材の養成が期待されていることに裏打ちされている。さらに、約 85%が大学院に進学する本学工学部卒業生のニーズとも矛盾していない。

（２）改組の概要

改組の目的は、本学工学部・工学系学府が不断に追求してきた、専門性・学際性・国際性・先導性を、６年間のシームレスな教育課程の枠組みの中で、より先鋭的かつ体系的に追求することにある。この６年一貫型教育の修了生の人材像を起点として「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受入れの方針」を定め、学修目標の達成に向けて一貫性・整合性のある教育研究環境を整備するためには、その前提として、大学院と学部教育の連続性を確保する必要があることから、「大学院における専攻の再編」とそれに連続的に接続する「学部における学科の再編」が求められる。

【工学系学府における専攻の再編】

九州大学工学系学府は、工学府 13 専攻、システム情報科学府３専攻、総合理工学府５専攻、及び人間環境学府建築系２専攻から構成される。このうち人間環境学府の建築系専攻については、同学府において、芸術や心理などの学問分野との融合的な教育研究に取り組んでいることから、今回の改組の対象としない。

前述したとおり、本学では専門性を極めて最先端の技術開発に貢献する人材は、工学府及びシステム情報科学府において育成し、学際性を極めて地球規模の環境・エネルギー問題の解決に貢献する人材は総合理工学府において育成してきた。この基本構造は、企業関係者から高く評価されていることから今後も維持するが、次の方針に基づいて専攻の編成を改める。すなわち、専門性を追求する学府においては、企業が技術系人材を求める技術分野の編成に合わせて専攻を集約し、学際性を追求する学府においては、自由度を一層高めるために専攻を大括り化する（工学府 11 専攻、システム情報科学府２専攻、総合理工学府１専攻）。再編や名称変更の対象となる専攻は、図 1-1 の太線の矢印の起点と終点に示している。

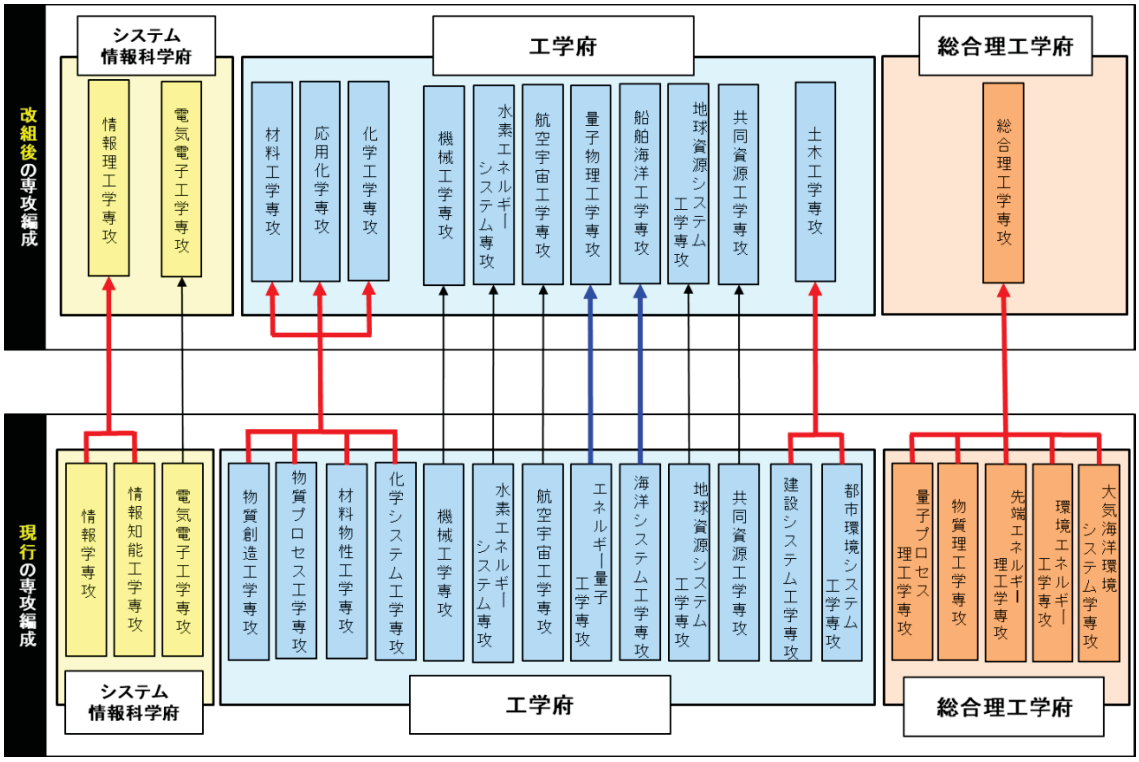


図 1-1　工学系学府の現行及び改組後の専攻編成

（↑：改組する専攻、↑：名称変更する専攻、↑：改組も名称変更もしない専攻）

【工学部における学科の再編】

九州大学工学部は、現在 6 学科 11 コースで構成しているが、大学院の専攻に連続的に接続させる形で、各コースを 12 の学科に再編する。総合理工学府に接続する学科は、エネルギー科学科の 2 コースを再編して新たに設置する（図 1-2 参照）。

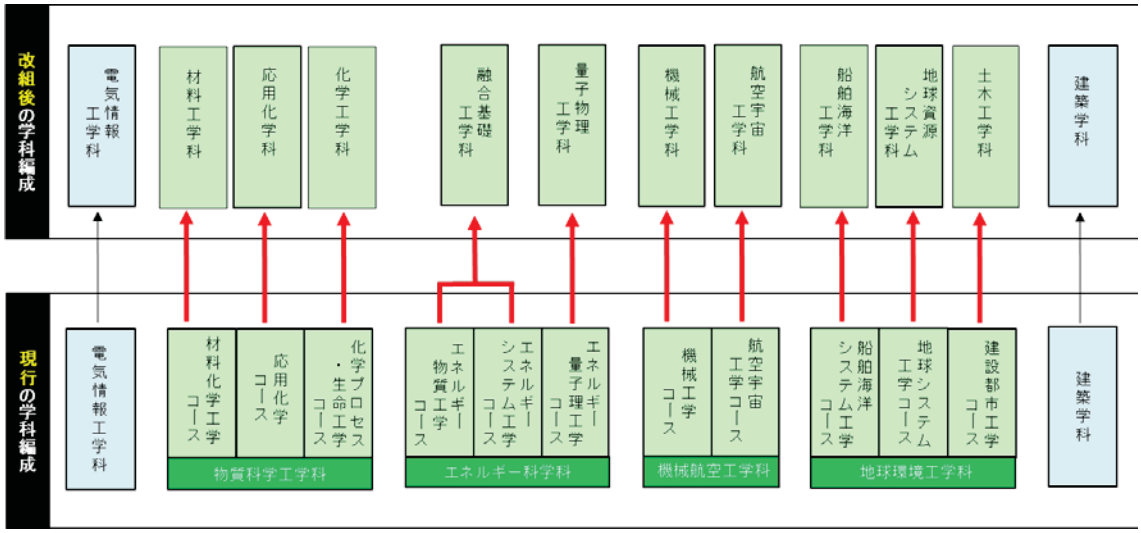


図 1-2　工学部の現行及び改組後の学科編成

（↑：改組する学科、↑：改組しない学科）

また、専門分野の基礎が共通である学科を５つの学科群に分け、低年次においては、共通の専門基礎を教授するカリキュラムを編成する（表 1-1 参照）。

表 1-1　学科群の構成

学科群	学科
Ⅰ群	電気情報工学科
Ⅱ群	材料工学科・応用化学科・化学工学科・ 融合基礎工学科（物質材料コース）
Ⅲ群	融合基礎工学科（機械電気コース）・機械工学科・ 航空宇宙工学科・量子物理工学科
Ⅳ群	船舶海洋工学科・地球資源システム工学科・土木工学科
Ⅴ群	建築学科

※上記に加え、１年次に学科群が未定の群をⅥ群とする。

【専攻と学科の関係性】

大学院における専攻の再編と学部における学科の再編により、図 1-3 に示すように専攻と学科の明快な対応関係を確保して、連続性を重視した教育を行う。ただし、専攻と学科のつながりを強めても、専門分野の細分化や閉鎖性を招くことなく、本学で従来から重視してきた学際性を保持するために、後述の通り、学部・学科群共通教育を導入するとともに、学部・大学院教育を通して展開する研究指導において学際的視点の重要性を強調する。

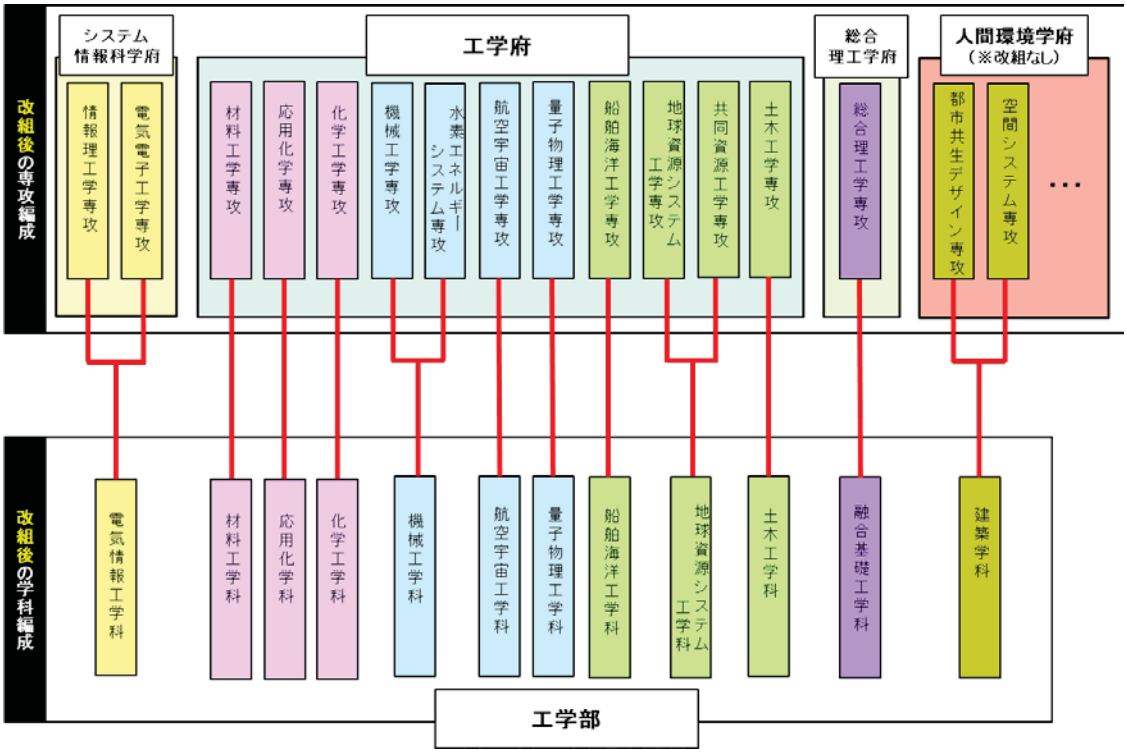


図 1-3　改組後における工学部と工学系学府との接続

（３）教育課程の概要

【養成する人材像】

専攻・学科の再編によって実現されるシームレスな６年一貫型教育課程を通して、専門性・学際性・国際性・先導性をより先鋭的かつ体系的に追求し、「工学のプロフェッショナルとして人類社会の課題解決に貢献できる」人材を養成する。工学のプロフェッショナルには、社会における工学の価値について理解し、異分野の他者と協働しながら、工学分野共通の知識・能力・ものの考え方、及び専攻する専門分野の知識・能力・ものの考え方を基礎に、自ら考え行動し、新しい価値を創造していくことが求められる。

そのために、工学府及びシステム情報科学府の各専攻とそこに接続する各学科では、専門性の深化に重点をおく一方で、異分野との協働の基盤形成にも注力する。総合理工学府の専攻とそれに接続する学科では、学際性を重視する一方で、軸足となる専門性の確立にも注力する。このように養成された専門分野を中心とした幅広い知識・能力基盤は、予測困難な時代に人類社会を牽引していく工学のプロフェッショナルにとって不可欠な素養と言える。

【卒業認定・学位授与の方針】

「工学のプロフェッショナルとして人類社会の課題解決に貢献できる」人材を養成するために、次の通り「卒業認定・学位授与の方針」を策定する（図 1-4 参照）。

本学工学部・工学系学府の連続性を考慮した学士・修士６年一貫型教育の修了生には、専門性（b. 工学分野共通の知識・能力・ものの考え方を身に付けている、c. 専門分野の知識・能力・ものの考え方を身に付けている）、先導性（d. 自らの考えで行動し独創性を発揮できる、e. 新しい価値を創造することができる）、学際性・国際性（f. .社会における工学の価値を理解している、g. 異分野の他者と協働することができる）のいずれの観点からも、「工学のプロフェッショナル」に相当する水準の力量を身に付けていることが期待される。さらに、博士プログラムに進学して修了する学生には、「最先端の技術開発を担う研究者・技術者」に相当する水準の力量を身に付けていることが期待される。一方で、学士課程で卒業した学生には、「工学の専門性を活かしたジェネラリスト」に相当する水準の力量を身に付けることが期待される。

観点ごとの各水準が具体的にどのような力量を意味するのかについては、プログラムを担当する教員間でルーブリックやアンカー事例を共有することを通して、共通理解を確実に醸成していく。

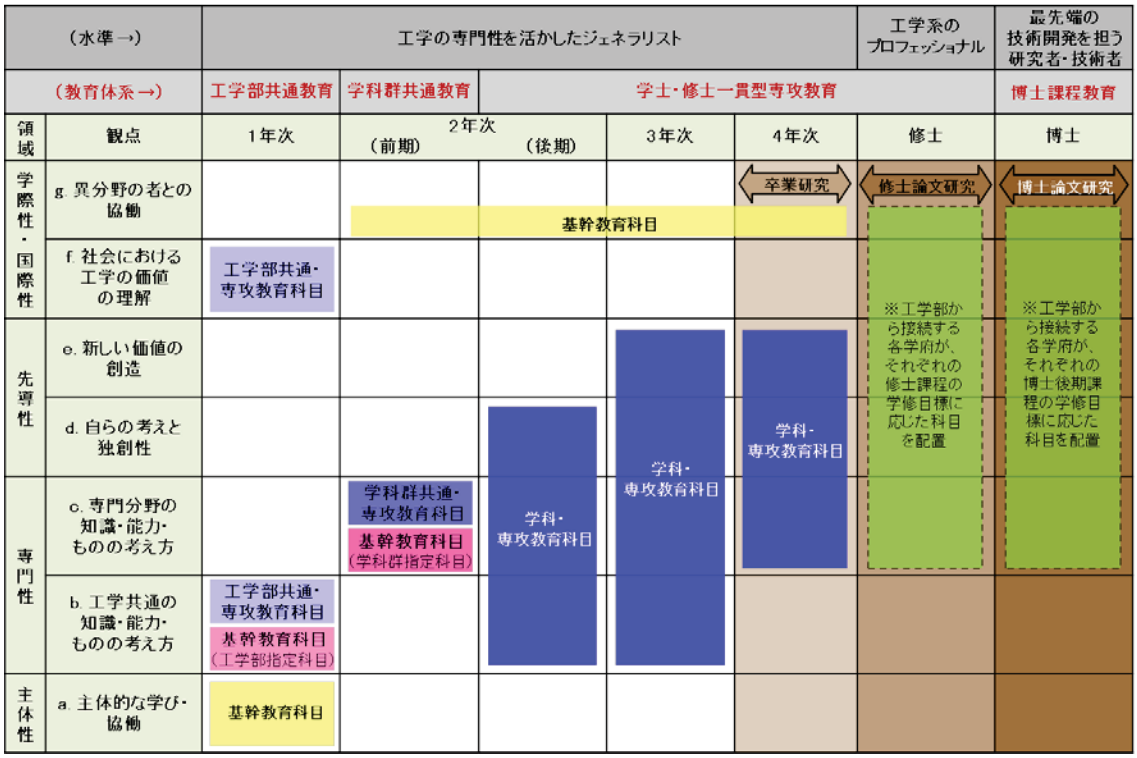


図 1-4　教育課程の基本構造および学修目標の観点と水準

【教育課程編成・実施の方針】

「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、専門性・先導性・学際性・国際性をより先鋭的かつ体系的に追求するため、学士・修士６年一貫型教育を基本とし、これに博士課程を積み上げる教育課程を編成する（図 1-4 参照）。九州大学の学士課程教育は、全学部共通の全学教育である基幹教育と各学部の専攻教育からなるが、特に改組を行う工学部においては、いずれも工学部共通科目および学科群共通科目を設け（表 1-2 参照）、工学系に共通する専門基礎教育、およびリテラシーとしての情報系教育を強化する。専門分野の教育は、学士・修士６年一貫型教育を基本として行い、重要性が増しつつある専門分野外の学びは主として修士課程で行うこととする。また、学部４年次では卒業研究を実施する。

表 1-2　必修科目の分類

	工学部共通	学科群共通	学科独自
基幹教育科目	工学部共通・基幹教育科目	学科群共通・基幹教育科目	学科指定・基幹教育科目
専攻教育科目	工学部共通・専攻教育科目	学科群共通・専攻教育科目	学科・専攻科目

以下に、特徴的な教育の考え方を示す

① 工学部共通教育（学部１年次）

新技術の多くが異分野融合の産物として創出されている現状において、「f.社会における工学の価値」を自覚的に理解した上で、理学及び人文社会科学をはじめとする「g.異分野の他者と協働」することが重要になってきている。その際、「b.工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付けていることが、工学系人材としての貢献を最大化する前提である。これらの学修目標を達成するため、基幹教育科目及び専攻教育科目に工学部共通の必修科目を開設し、学科を問わず工学部生全員の履修を求める。

② 学科群共通教育（学部２年次前期）

工学のプロフェッショナルとして人類社会の課題解決に貢献するためには、工学分野間の融合も極めて重要である。その際に、自ら専攻する専門分野の「c.専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・統合的に身に付けていることも重要である。これらの学修目標を達成するために、基幹教育科目及び専攻教育科目に学科群共通の必修科目を開設する。

③ 学士・修士一貫型専攻教育

全学・学部・学科群の共通教育を通して工学系人材としての共通基盤を形成した上で、連続的に接続した学科・専攻における体系的な専攻教育により、専門性を高度な水準で極める。学部３年次後期までに専攻教育の必修科目の履修を概ね完了し、４年次からは自らの興味・関心を絞り込み、選択科目の履修を通して専門性を一層高めていく。

④ 情報系教育

ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い、これらに関連した情報教育の重要性が高まっている。そこで、工学系人材に必要とされる最低限のリテラシーを身に付けさせるため、「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」の３科目を工学部情報系基礎科目として位置づけ、工学部生全員に１年次必修科目として課す。

さらに、専門分野におけるデータや情報の使い方に焦点を当てた独自の情報系科目を２年次後期以降に各学科で少なくとも１科目開設し、１年次に学修した情報リテラシーの応用力を鍛える。なお、情報科学をマイナー分野と位置づけた教育を行う新設の融合基礎工学科では複数の情報系科目を開設する一方、電気情報工学科においては情報・数理・データサイエンスの分野を牽引するプロフェッショナルを養成するための情報系科目を多く開設する。

⑤ 卒業研究

卒業研究は、教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型学習に取り組む集大成的な学習経験として、極めて重要な意味を持つ。日本の工学教育の誇るべき強みと考え、学部・修士６年一貫型教育においても維持する。全学・学部・学科群の共通教育と専攻教育の必修科目の履修がほぼ完了す

る学部３年次までの学修の集大成として、学部４年次に卒業研究を実施することで、学生が前半期にあたる学士課程の学びを振り返り、後半期の修士課程に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための契機とする。そうした卒業研究の位置付けに鑑み、伝統的な仮説・検証型の研究に限定せず、製品開発などを手掛ける課題解決型学習 PBL（Problem-Based Learning）も卒業研究として認める。

とりわけ、学士課程で卒業する学生にとっては、この卒業研究が仮説検証型・課題解決型学習の極めて貴重な経験になる。

⑥　専門外科目

自分の専門分野とは異なる分野についても、自ら積極的に学ぶ姿勢とマインドを身に付けることは非常に重要であるため、６年間を通じて複数の専門外科目の履修を求める。

【入学者受入れ方針】

九州大学工学部では、従来、学科単位の一般選抜を実施してきたが、より多様な学生を受け入れる試みとして、２種類の入試改革を行う。これにより専門性・学際性・国際性・先導性をより先鋭かつ体系的に追求する教育課程を成功裏に終え、「工学のプロフェッショナルとして人類社会の課題解決に貢献できる」人材に成長することが期待できる、柔軟性と強靭さを合わせ持った人材の受入れを目指す。

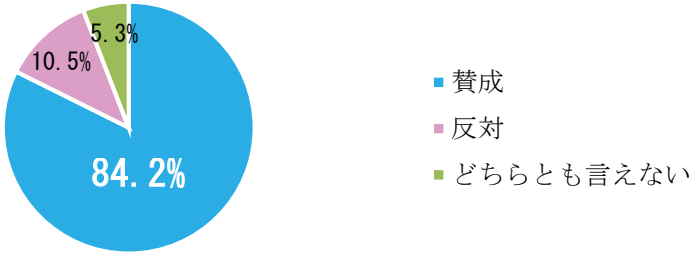
第一に、学力に加えて、志望動機や学習の目標、学習以外の活動状況なども総合的に判断して選抜を行う総合型選抜（従来の AO 入試）を、航空宇宙工学科を除く全学科で導入する（募集人員は入学定員の約５%）。

第二に、学力に基づいて選抜を行う一般選抜（募集人員は入学定員の約 95%）において、学科単位ではなく、５つの学科群単位で入学志願を受け付けるとともに（表 1-1）、専攻する学科を入学後に決定できるレイトスペシャライゼーションに対応した入試区分（VI群）を設ける（一般選抜の約 20%）。

レイトスペシャライゼーションは、中等教育関係者からの要望に応えて導入するものである。本学部では、高校から工学部への円滑な接続の実現を目指し、高校教員との定例的な意見交換会を 10 年以上にわたり開催してきた。様々な情報交換を行う中で高校側から「工学部出身の教員がいない高校がほとんどであり、工学という学問分野や、工学部を卒業した後のキャリアについて高校生に適切に指導できる教員がいない」、「高校生にとっても工学分野は他の分野に比べて馴染みが薄く、工学部進学にあたって志望学科を迷う高校生が一定数存在する」などの声が寄せられていた。このような背景のもと、専攻する学科を入学後に決定するレイトスペシャライゼーションの導入が期待される中、志望学科が明確な高校生にも配慮するため、学科群（Ⅰ～Ⅴ群）ごとの入学者選抜と学科群未定群（VI群）での入学者選抜を併用することとした。なお、先の意見交換会において、工学部への進学志望は明確であるが志望学科までを絞りきれていない高校生が数名に１名程度はいるとのことであったので、１年次のクラス編成と時間割などのカリキュラム編成および受験生の志願の動向に及ぼす影響など多様な観点から総合的に判断してVI群の募集人員を一般選抜の２割とした。この学科群未定群の導入と規模について、本学工学部への入学者数の実績が上位の高

校（31 校）へアンケートを行った結果、その大部分から支持を得ている（図 1-5）。

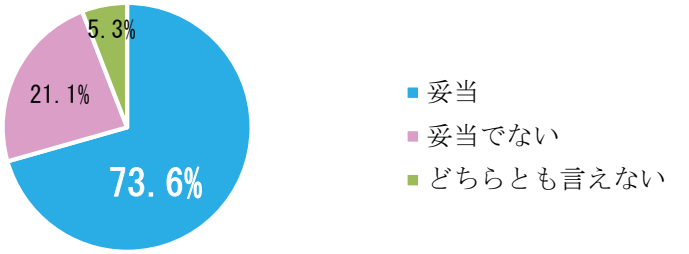
【質問１】学科群未定群としての入学者選抜の導入について



➢ 主なコメント

賛成	・学科を受験時点で十分に決めている生徒ばかりではなく、明確な進路先（目標）を持っていない者がいる。 ・HP や大学の資料で学科について研究して入学しても、入ってみると自分の思っていたことと違っていたという生徒もいる。
反対	・九州大学を志望する高い学力を有した学生のレベルで専門を絞り切れていない学生を想定するのであれば、芸術工や経済工も含めての学科未定枠になることが望ましい。

【質問２】学科群未定群の募集人員を 20%とすることについて



➢ 主なコメント

妥当	・目標を持って入学する生徒の方が多数だと考えるので、一部の生徒に配慮する形が良い。少なすぎると逆に敬遠されるので、20%は妥当。 ・５人に１人程度の割合で、生徒が学科のイメージをつかめていない。 ・20%程度からはじめて将来的に拡大するのが良い。
妥当でない	・現状維持（０%）が良い。 ・最大限 15%程度で良い。 ・導入するなら大規模（50%以上）が良い。

図 1-5　新たな募集区分（学科群未定群）の導入に関するアンケート結果

＜回答率：61%＞

【学科配属の方針】

一般選抜を経て工学部に入学した学生の配属学科は次のプロセスで決定する。

まず、学科群が決定していないVI群の入学者は、１年次終了時に志望調査を行い、大学入学後の１年間の成績も踏まえたうえで、Ⅰ～Ⅴの学科群に配属する。

次に、学科群から学科（表 1-2）への配属は、２年次夏学期終了後に行う。その際、各学科群の学生とVI群からの学生を区別することなく、志望調査の上、大学入学後１年半の成績により配属学科を決定する（図 1-6）。

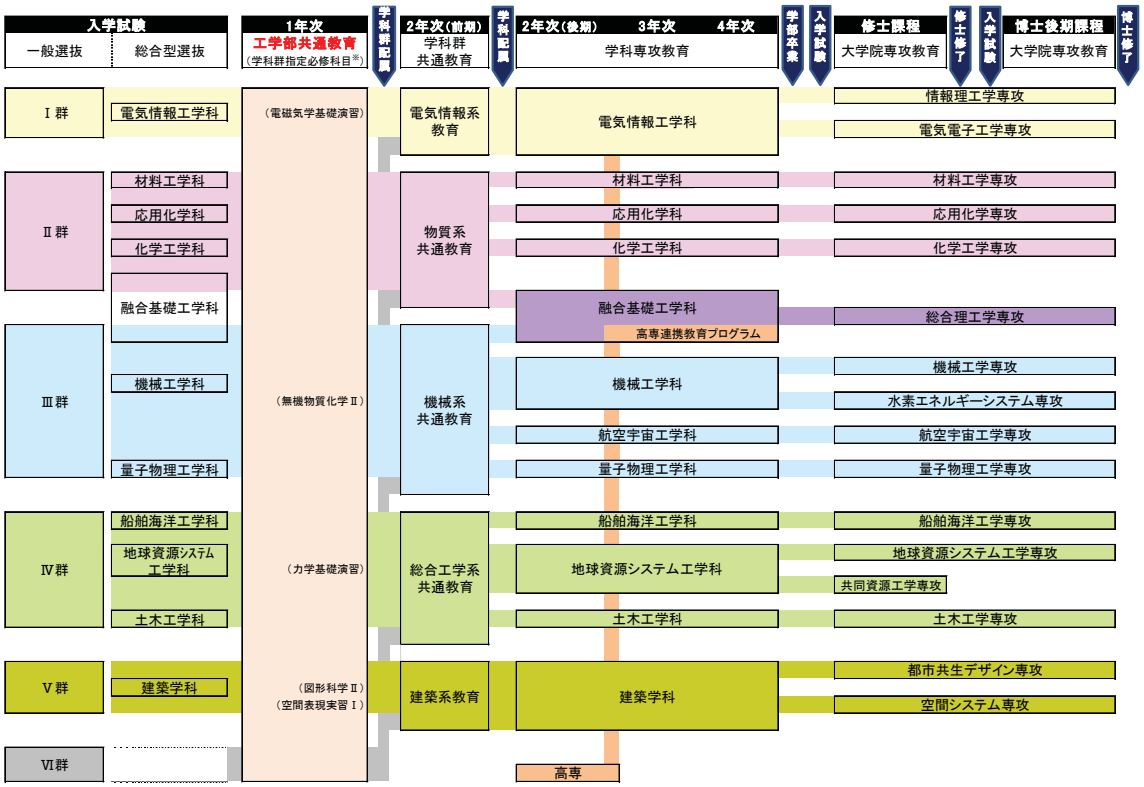


図 1-6　工学部（入学者選抜→学科配属）から大学院進学の流れ

※１年次の工学部共通教育の欄に（ ）で記載の科目名は、
１年次に配置される各学科群指定の基幹教育必修科目。

【文部科学省の提言との比較】

本学での改組の検討開始とほぼ同時期に、文部科学省では「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」を設置し、工学教育の在り方について議論を進め、次の審議結果を公表している。本学工学部・工学系学府の改組構想は、そこで審議された重要項目について示された考え方と概ね一致している（表 1-3）。

- 工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」（2017 年６月）
- 工学系教育改革制度設計等に関する懇談会「工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめ」（2018 年３月）

また、中央教育審議会における高等教育に関する審議について、次の審議結果として公表されている事項の趣旨を踏まえて検討したものでもある。

- 中央教育審議会『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』（2018 年 11 月）
- 中央教育審議会大学分科会『2040 年を見据えた大学院教育の在るべき姿～社会を扇動する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）』（2019 年 1 月）
- 中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会『教学マネジメント指針（案）』（2019 年 11 月）

表 1-3　「大学における工学系教育改革の在り方について（中間まとめ)」

に対する九州大学工学部・工学系学府の対応

大学における工学計教育の在り方について(中間まとめ)～具体的施策～	施策に対する認識	現状分析	課題	対応方針
① 学科ごとの縦割り構造の抜本的見直し	時代とともに変わる教育ニーズに柔軟に対応できるシステムづくりが目的。最終とりまとめ(2018 年 3 月)において、学科・専攻定員設定の柔軟化と学位プログラムの積極的導入と記載。	工学では、各分野の基礎知識のみならず、専門分野の礎となる物事の捉え方、考え方を身に付けることが学部レベルでは最も重要である。長年、企業が工学系の採用を専門分野ごとに行っており、今後も変更される予定がない点からも重要であると言える。		学生が自身の専門分野の基礎を築きアイデンティティを確立するとともに、社会からも可視化できるような学科構成を基本とする一方、専門分野に加えて、学際的な要素を導入した学科も設置する。また、レイトスペシャライゼーションの導入、学科群制の導入、全学科共通必修科目の導入などを行い、学生の視野をできるだけ拡げるシステムを構築する。
② 学士・修士の6年一貫制など教育年限の柔軟化	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。	本学をはじめ我が国の基幹大学工学部卒業生の約 85%が大学院修士課程に進学しており、企業から本学への技術系人材の求人も大学院生が大部分である。	既に 6 年間の工学教育が一般的になっていることを考慮すると、工学教育を最初から 6 年間で設計した方が、今後、さらに必要となってくる多様な知識と能力を身につけた人材の育成が行いやすい。	6 年間の工学教育を実現するため、現在の学科・専攻の構成やカリキュラムの見直しを行う。なお、学部卒業後に企業へ就職する者、あるいは 5 年一貫の大学院へ進学する者など、多様なキャリアパスそれぞれの人材像を考慮したカリキュラムとする。
③ 主たる専門に加えた副専門分野の修得	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。自分と専門を異にする者との協働がますます重要になってくる中で、自分の狭い専門分野の枠を超えて視野を拡げ、他分野の者と意思の疎通ができるようになることを目的としたもの。	工学部では、学科配属後の専攻教育において、専門外の科目を履修するカリキュラムにはなっていない。大学院においては、システム情報科学府及び総合理工学府の修士課程では専門外科目の履修が求められているが、工学府では求められていない。	自身の専門とは異なる分野の物事の捉え方や考え方を知ること、そして、自分の分野との違いを感じることは極めて重要である。ただし、限られた時間の中で専門分野の確立と分野外の学びの両方を行うためには、分野外の学びの割合と時期を慎重に考えてカリキュラムを設計する必要がある。	学部教育では、専門分野を越えて、工学系人材として必要な広い知識をすべての工学部生が学ぶとともに、専門分野に近い科目も幅広く学ぶカリキュラムを導入する。また、学部から大学院修士課程の 6 年間のうちに専門外の学びも必ず行うカリキュラムとする。
④ 工学基礎教育の強化	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。	学科ごとに必修科目を設定しているので、工学部全体の共通基礎教育を行っているわけではない。	専門分野だけに特化するのではなく、工学系人材に求められる基礎的な知識や考え方を学ぶ科目を精査し、すべての学科で共通化する必要がある。	工学系エンジニアあるいは研究者として備えておくべき知識や考え方を学ぶ科目を、工学部共通科目として全学科必修とするカリキュラムを構築する。
⑤ 情報科学技術の工学共通基礎教育化と先端情報人材教育強化	ビッグデータ解析、IoT、AI などの急速な進歩によって情報科学と様々な工学分野の融合技術の創出が重要となっているにもかかわらず、我が国ではそれを担う人材が質的にも量的にも全く不足しているという産業界の大きな危惧から発せられたもの。	工学部全体では、現在はプログラミングを中心とした情報教育のみを行っている。	工学系のどの分野でも、将来、データを活用した研究開発ができるようになるため、最低限のデータサイエンスの基礎教育を行うとともに、実際の経験を積める環境を整える必要がある。	情報科学技術の基礎教育科目をすべての学科で工学部必修科目として導入するとともに、専攻教育でも、各学科に特化したデータサイエンス科目を取り入れる。 また、現在の学問分野の枠組みの中で、従来よりデータを活用できる人材を育成するため融合基礎工学科を新設する。 さらに、電気情報工学科および情報理工学専攻で AI、数理データサイエンス分野の専門家(エキスパート人材)の養成を強化する。
⑥ 産学共同教育体制の構築	既に大学院リーディングプログラムや卓越大学院プログラムでも重視されているとおり、大学・産業界の人材交流、産学連携協働プログラムの開発・提供、教育的効果の高いインターンシップ等の促進の重要性を指摘したもの。	工学部および工学系学府では、ものづくりの現場の情報が極めて重要であるため、各学科、専攻で、従来から多数の非常勤講師を企業から招いてきた。また、リーディング大学院では PBL や少人数教育にも企業から多くの教員の協力をいただいている。さらに、工学部でも民間企業の協力のもと、既に「実践データ分析入門」を開講するなど産学共同教育体制を築いてきた。		今後も企業との協力体制を維持するとともに、段階的に協力を強化していく。

（４）従来からの大きな変更点

①工学部

現在のエネルギー科学科を構成する３つのコース（エネルギー量子理工学、エネルギー物質工学、エネルギーシステム工学）を再編して、２つの学科（融合基礎工学科と量子物理工学科）を新設する。さらに、融合基礎工学科においては、高等専門学校との連携教育プログラムを実施する。

【融合基礎工学科の新設】

エネルギー科学科のエネルギー物質工学コースとエネルギーシステム工学コースに替えて、融合基礎工学科を新設する。同学科では、物質・材料工学及び機械・電気電子工学に軸足をおきながら、課題提示・課題解決型の教育方法を取り入れるとともに、情報系教育にも重点的に取り組む。同学科は大学院総合理工学府に接続して、実践的な問題解決能力と、専門分野の情報活用力（ICT for Discipline）の育成を目指す教育を行う。

【高専との連携教育プログラム】

高等専門学校では、実習を通して「自分で手を動かす」教育を重視する実践的な人材育成を行っている。そこで、同じく実践的な問題解決能力の養成を重視する融合基礎工学科において、高専･大学連携教育プログラムを全国に先駆けて展開する。

この高専･大学連携教育プログラムでは、新たに編入学定員 20 名（新規概算要求事項）を設け、高専専攻科に入学した学生を編入学生として選抜し、高専専攻科の修了証と本学学士課程の学位を授与する。九州沖縄地区における本学の使命に鑑み、同地区の九つの高等専門学校全てを連携先として、学校推薦を得た高専専攻科学生の中から本学編入生を選抜する。

【量子物理工学科の新設】

エネルギー科学科のエネルギー量子理工学コースでは、主として量子エネルギーや原子力をエネルギー源として利用するための教育を行ってきた。電子、原子核、原子といった量子レベルの現象は、原子炉での原子核反応の利用だけでなく、医療診断や新素材の開発など,応用分野が拡大しているため、これらの分野を含む量子物理工学科に刷新し、量子物理工学専攻にシームレスに接続する教育を行う。

【エネルギー科学科の廃止】

エネルギー科学科は、1998 年に設置され、エネルギー技術の基礎教育を担ってきた。深刻化するエネルギー問題に対して、持続的な社会構築を目指すグローバルな解決策が求められている現状において、工学的視点に基づく技術力の育成だけでなく、環境や経済を含む社会全体を俯瞰する能力の育成も不可欠である。こうした観点から、本学ではエネルギーに関する研究教育を包括的に推進する組織として、エネルギー研究教育機構を 2016 年に設置した。エネルギー科学科が果たしてきた機能は、融合基礎工学科と量子物理工学科で引き継ぐとともに、今後は同機構においても発展的に展開する。

②工学府

工学部改組と連動して、現在の物質系の４専攻と土木系の２専攻を専門分野ごとの教育課程として改組するとともに、教育研究内容を明確化するために２専攻の名称を変更する。これらの改組および名称変更により、学部４年間と大学院修士課程２年間での６年一貫型教育を効果的に実施でき、世界共通のディシプリンに沿った教育研究体制となることで国内外の機関との連携教育・研究の促進も期待できる。

【物質系専攻の改編】

物質系専攻においては、「伝統的な工学の継承・深化」及び「高度科学技術社会を支えるための新たな工学領域の創造と人材育成」を実現するため、応用化学分野と合成化学分野を融合させた物質創造工学専攻、材料工学分野と化学工学分野を融合させた物質プロセス工学専攻、材料工学分野と応用化学分野を融合させた材料物性工学専攻、応用化学分野と化学工学分野を融合させた化学システム工学専攻の４専攻で学府教育を行ってきた。今回、シームレスな学部・修士６年一貫型教育を実現すべくディシプリンベースの教育課程に再編することに伴い、材料工学専攻、応用化学専攻、化学工学専攻の３専攻で学府教育を行うよう変更する（合成化学分野は応用化学分野に統合）。これにより、工学部材料工学科から工学府材料工学専攻、応用化学科から応用化学専攻、化学工学科から化学工学専攻への円滑な接続が可能となる。

【土木系専攻改編】

土木系専攻においては従来、建設システム工学専攻と都市環境システム工学専攻として学府教育を行ってきた。今回、シームレスな学部・修士６年一貫型教育を実現すべくディシプリンベースの教育課程に再編するため、この２専攻を統合し土木工学専攻として一体的に教育を行うよう変更する。これにより、工学部土木工学科から工学府土木工学専攻への円滑な接続が可能となる。

【専攻名称の変更】

現在の海洋システム工学専攻を船舶海洋工学専攻に名称変更する。海洋システム工学専攻では、造船技術の継承・発展を図る能力および持続的な海洋開発を担う総合工学的な広い視野を持った人材の育成を行ってきており、これまで造船業や海洋開発関連企業に対して多数の修了生を輩出してきた。今回、大学院への進学希望者に対して専門分野の教育研究内容をより分かり易く伝えること、そして主たる人材供給先となる業界との関連を、より明確に示すことを目的として、専攻名称を「船舶海洋工学専攻」へと変更する。

また、エネルギー量子工学専攻を量子物理工学専攻に名称変更する。エネルギー量子工学専攻では、量子力学を基礎として、原子核レベルから材料・機器レベルまでの幅広い領域において物理学の視点から工学に取り組むことのできる人材の育成を行ってきており、これまで原子力産業分野、エレクトロニクス分野、材料開発分野等へ多数の修了生を輩出してきた。今回、大学院への進学希望者に対して専門分野の教育研究内容をより分かりやすく伝えること、そして主たる人材供給先となる業界との関連を、より明確に示すことを目的として、

専攻名称を「量子物理工学専攻」へと変更する。

なお、今回の名称変更は工学部の改組とも連動しており、工学部に新たに設置予定の船舶海洋工学科、量子物理工学科ともそれぞれ同じ名称となり、学科と専攻の接続の関係がより明確になり学部から大学院の教育の継続性を明示することにもつながる。

③システム情報科学府

【情報理工学専攻の新設】

本学府では AI・数理・データサイエンス分野の上位エキスパート人材を養成する。この人材は、情報分野の理論を理解し，かつそれを社会で実現する能力を備えている必要がある。これら双方の教育を今まで以上に効果的に実施するために、情報分野の普遍的理論を中心に教育を行ってきた情報学専攻と、情報分野の社会での実現を中心とする教育を行ってきた情報知能工学専攻を統合して、情報理工学専攻を新設する。

【社会での実現・応用に対応したコースの新設・改編】

社会での応用・実現に対応した教育を行うために、情報理工学専攻に情報アーキテクチャ・セキュリティ、データサイエンス、AI・ロボティクスの３コースを置く。同様に、電気電子工学専攻修士課程のコースを情報デバイス・システムコースとエネルギーデバイス・システムコースに改編する。

④総合理工学府

【５専攻を１専攻に統合】

総合理工学府の前身の総合理工学研究科は、大学院独立研究科として 1979 年に設置された。1998 年の改組で５専攻体制とし、他大学等からの進学者が６割を超えるキャリアの多様性を実現しつつ、理工学分野での教育研究を実施してきた。学際的な先端研究を活用して持続型社会構築を先導する理工系人材の育成に向けて、これまで以上に学生の選択肢を拡げそれぞれの学生ごとにカスタマイズされた学修ができるよう５専攻を１専攻に統合する。そして、工学部融合基礎工学科との学部・修士６年一貫型教育と高等専門学校との連携教育に続く実践教育を担うとともに、海外大学との連携教育も積極的に行って、キャリアの多様性を維持しながら、環境・エネルギー問題にみられる複雑多様な因子に由来する課題の解決を先導する核となる人材の育成を図る。

２．学部・学科等の特色

（１）学科の概要

これまで、本学部では６つの学科を置き、電気情報工学科と建築学科以外は専門分野が近い大学科として複数のコースを設けてきた。これに対し、改組後は、大学院の各専攻での教育の基礎という位置づけを明確にし、かつ修士課程も含めた６年一貫型教育を実現するための学科編成にすることとした。その結果、専門分野が明らかな 11 の学科と、専門分野に学際的要素を導入した融合基礎工学科の計 12 学科を設置する（表 2-1)。具体的には、新設

の融合基礎工学科以外は、従来の物質科学工学科、地球環境工学科、機械航空工学科およびエネルギー科学科の各コースを基本とした学科に加え、電気情報工学科及び建築学科を設置する。一方、融合基礎工学科では、物質・材料工学または機械・電気電子工学を専門としながら情報教育を強化して研究開発に情報科学の最新知見を有効に取り入れることができる新しい人材を育成する。

表 2-1　学科の概要

学科名	概要
電気情報工学科	数学、物理学、情報学の基礎理論を理解し、電気情報工学分野において、新しい技術開発と、それを通して安全・安心、持続可能で豊かな社会に貢献する人材を、計算機工学コース、電子通信工学コース、電気電子工学コースの３つのコースを設けて育成する。
材料工学科	物質を構成する原子や電子の微視的な振る舞いの理解から、材料の創生プロセス制御および材料の特性発現に関する巨視的な概念・原理までを教育し、持続可能な社会の発展を念頭に置いた創造性豊かな人材を育成する。
応用化学科	物質の構造・性質・反応を原子・分子レベルで理解し、原子・分子を設計・操作して新物質の合成や物質の変換およびプロセスの開発などを行うための基盤的知識を有し、持続可能な社会構築のために活用できる人材を育成する。
化学工学科	環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスに関する専門知識を有し、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる化学工学を専門とした人材を育成する。
融合基礎工学科	物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学分野、または機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学分野を主専門とし、情報科学を副専門に設定して、問題解決型学習を通じて両者を実践的に結び付ける教育により、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な課題に対応し、解決することができる工学系π型人材を育成する。
機械工学科	主として物理法則の基礎理論を理解し、社会のニーズに応えるため、制約された条件下で社会や自然への影響を考慮しながら機器やシステムを発想、設計、製作できる機械工学を専門とした人材を育成する。
航空宇宙工学科	力学を基礎とした工学理論や、航空宇宙機開発特有のシステム工学に関連する基礎知識を有し、航空宇宙機の運用環境拡大によって生ずる課題を発見・解決する能力および幅広い教養と総合性、国際性を身に付けた人材を育成する。
量子物理工学科	物理学の深い理解とともに、新しい量子現象の観察やその応用、量子ビームの開発と医療・生命分野等多方面への応用、新規材料開発、エネルギー開発、環境保全等への貢献を目指して、応用物理、量子科学、原子核工学を専門として、我が国および世界の新しい工学分野を開拓し活躍できる人材

	を育成する。
船舶海洋工学科	自然法則の基礎理論を理解し、グローバルな価値観に基づき海洋と人類の共生への貢献を目的として、造船技術の継承・発展を図る能力ならびに持続的な海洋開発を担い得る総合工学的な広い視野を持った人材を育成する。
地球資源システム工学科	国際的に展開される地下資源の開発と供給、国内外における自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する様々な技術の開発などを担う人材を育成する。
土木工学科	安全・安心な国土を整備するための社会基盤構造物の設計・施工に関する基礎知識から、環境の保全、災害の防止、豊かで持続的な都市の創造を実現するための応用知識まで幅広い分野について学び、グローバルな視点に立って自然や文化に配慮しながら、国土の諸問題を解決できる倫理観・責任感を持った人材を育成する。
建築学科	都市・建築に関わる課題に対して、自身の知識と思考力でその課題の本質を読み解き、 変化する社会情勢に応じた物的環境のデザインと確固たる理論に裏打ちされた技術・技能の双方を駆使して解決策を導き出せる人材を育成する。

（２）入学者選抜の概略と学科配属の方法

入学者選抜は、総合型選抜及び一般選抜により行う。総合型選抜は航空宇宙工学科を除く全ての学科で行い、一般選抜は学科単位ではなく専門分野の基礎が共通である学科群（Ⅰ群～Ⅴ群）ごとに実施する。さらに、一般選抜の募集人員の 20%は入学１年後に学科群を決定する学科群未定群（Ⅵ群）として選抜する（表 2-2)。

一般選抜により本学部に入学した学生の学科への配属は二段階で行う。まず、１年終了時に行う志望調査及び１年次の成績を踏まえ、Ⅵ群入学者をⅠ～Ⅴの学科群に配属する。次に、２年次夏学期終了後に行う志望調査及び大学入学後１年半の成績を踏まえ、Ⅱ群～Ⅳ群に所属する学生全員（入学時に学科が決定している総合型選抜による入学者を除く）を学科群から各学科へ配属する。その際は、各学科群の学生とⅥ群の学生を区別することなく配属学科を決定する。

なお、転学科は、理由を十分精査した上で特例としてのみ認めることとする。

表 2-2　入学者選抜の枠組み（学科群）と進学できる学科の関係

学科群	進学できる学科
Ⅰ群	電気情報工学科
Ⅱ群	材料工学科・応用化学科・化学工学科・ 融合基礎工学科（物質材料コース）
Ⅲ群	融合基礎工学科（機械電気コース）・機械工学科・航空宇宙工学科・量子物理工学科
Ⅳ群	船舶海洋工学科・地球資源システム工学科・土木工学科
Ⅴ群	建築学科
Ⅵ群	全ての学科

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

（１）学部及び学科の名称

工学部

電気情報工学科
材料工学科
応用化学科
化学工学科
融合基礎工学科
機械工学科
航空宇宙工学科
量子物理工学科
船舶海洋工学科
地球資源システム工学科
土木工学科
建築学科

（２）学位の名称

学士（工学）／ Bachelor of Engineering

（３）英語名称

School of Engineering

Department of Electrical Engineering and Computer Science
Department of Materials
Department of Applied Chemistry
Department of Chemical Engineering
Department of Interdisciplinary Engineering

Department of Mechanical Engineering
Department of Aeronautics and Astronautics
Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering
Department of Naval Architecture and Ocean Engineering
Department of Earth Resources Engineering
Department of Civil Engineering
Department of Architecture

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）全体のカリキュラムの特色

工学部全体のカリキュラムの方針は以下のとおりとする。

① 全学共通の基幹教育と工学部の専攻教育を「工学部共通教育」「学科群共通教育」「学科独自の教育」の３区分に分ける。
② １年次に行う基幹教育及び専攻教育は、ともに「工学部共通教育」とし、工学部生全員に必修科目として課す共通のカリキュラムとする。
③ ２年次の前半（春学期・夏学期）に行う基幹教育及び専攻教育は、基礎とする専門分野が同じ学科群で共通とする「学科群共通教育」として行い、各学科群に所属する学生の共通カリキュラムとする。
④ ２年次の後半（秋学期）から学科独自の専攻教育を行う。
⑤ ４年次には卒業研究を実施する。

本学の学士課程教育は全学共通の基幹教育と工学部の専攻教育からなる。基幹教育では、未知の問題を解決していく上で幹となるものの見方、考え方、学び方を修得するとともに、生涯にわたって自律的に学び続ける人材の育成を目指す。１年次は、１週間で１コマを除いて基幹教育を実施するが、学科に依らず備えておくべき知識や考え方を学ぶ科目を工学部共通基礎科目として選定し、工学部生全員の必修科目とする。２年次から専攻教育を開始するが、２年次の前半（春学期、夏学期）では、基盤となる学問分野が同じ学科を一つのグループ（学科群）にまとめ、学科群共通の基礎科目を選定し共通カリキュラムとして教育を行う。そして、２年次の後期から学科ごとの専攻教育を行い、各学科の学問分野の基礎知識、ものの見方、考え方を順次身に付けさせるようカリキュラムを構築する。４年間のカリキュラムの概要を図 2-1 に示す。

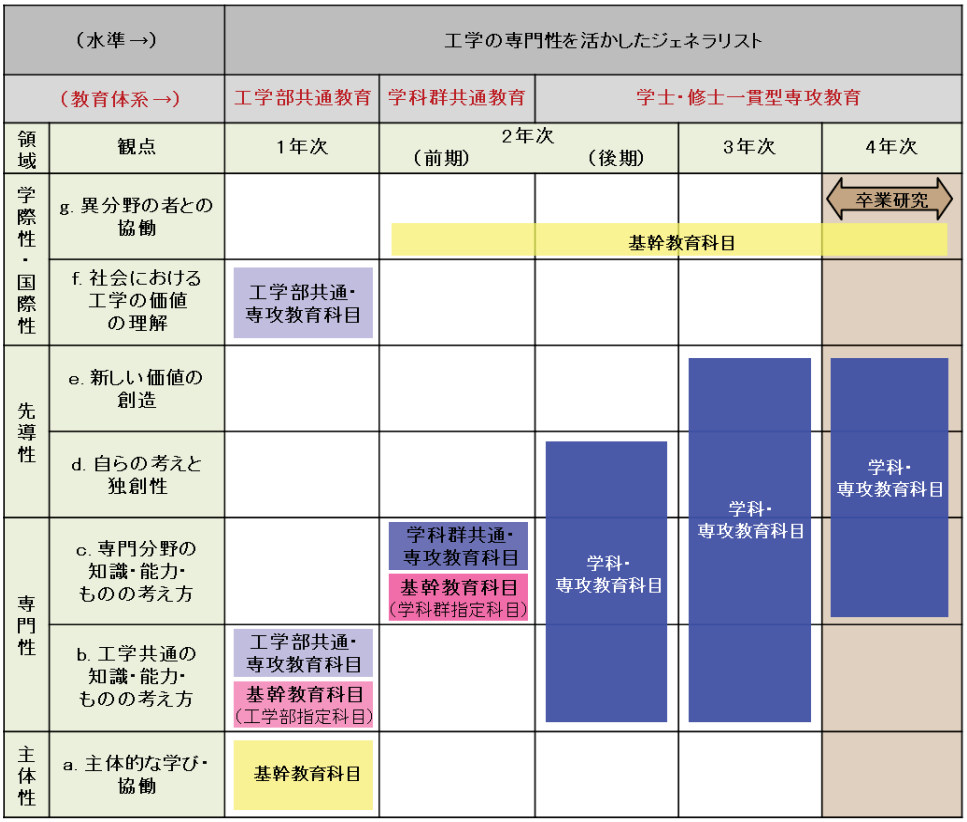


図 2-1　カリキュラム編成の考え方（図 1-4 抜粋）

（２）基幹教育

九州大学の学部生の全員が履修する基幹教育科目は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目及び高年次基幹教育科目で構成される。

①　基幹教育セミナー

基幹教育セミナーは、異なる専門分野を目指す学生及び教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、生涯にわたる自立的な成長を支える「学びの基幹」を育むことを目標とする科目である。

②　課題協学科目

課題協学科目は、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から授業テーマを設定し、そのテーマに対する文系・理系にまたがる複数の学問的なアプローチを提示して、文系・理系学部混成のグループで議論しあう協働学習により、幅広い視野と考え方を修得させるとともに、思考力を高め、他者と協働しながら自律的に学習を進めることのできる姿勢を身に付けることを目標とする科目である。

③　言語文化科目

言語文化科目は、外国語で目標の課題を達成することができる言語運用能力の修得を目標とする科目である。

④ 文系ディシプリン科目

文系ディシプリン科目は、文系の主要な学問分野のディシプリンの基礎を体得できるように設けられた科目である。

⑤ 理系ディシプリン科目

理系ディシプリン科目は、工学部の学生にとっては専門基礎としての自然科学系科目と位置づけられる。そこで、狭義の専門ではなく工学系人材として修得しておくべき科目を選別し、12 科目を全学科共通の必修科目と定める（表 2-3 参照）。

⑥ サイバーセキュリティ科目

サイバーセキュリティ科目は、コンピュータのインターネット接続時、パソコン携帯時、あるいは銀行オンラインシステムの利用時など、様々な状況におけるサイバーセキュリティに対する基礎的な知識を学び、学生が今後 IT 社会を生き抜くために必要となるサイバーセキュリティ力を向上させることを目的とする授業科目である。

⑦ 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、主に身体運動やスポーツを媒介として、生活の基本となる健康・体力及びそれらを高めるための方法に関する正しい知識を学び、様々な社会的要求に応えるために必要とされる心理社会的能力、いわゆるライフスキルを習得・向上させることを目標とする授業科目である。

⑧ 総合科目

総合科目は、文系から理系、純粋な学問的興味からニーズに基づいた応用まで幅広いテーマについて、多種多様な授業形態（講義形式、演習形式、セミナー形式、集中講義形式、フィールド形式など）によって開講し、授業科目の履修を通じて得られる多様な知識の修得、および自身の思考の繰り返しと他者との交流によって得られる創造的・批判的な思考方法の涵養を目標とする科目である。

工学部では、工学の様々な分野の先端技術を知り、モチベーションを上げるとともに自分の目標を定める契機となるよう「先端技術入門」を必修科目とする。

⑨ 高年次基幹教育科目

高年次基幹教育科目は、２年次以上の学生を対象に、専攻教育の学修による知識の深化を背景として生まれてくる、より多様で幅広い教養への興味、専門性の一歩先にある有用な知識やスキルに対するニーズを満たす科目で構成し、専門性を契機として生まれる主体的な学びの広がりと深まりを促すことを目標とする科目である。

（３）専攻教育

専攻教育は、基幹教育で行う工学部共通教育をベースに、各学科の基盤となる学問の基礎知識と基本的な考え方、ものの見方を修得するとともに、社会的役割に対する意識を醸成す

る科目でカリキュラムを構成する。専攻教育科目は、工学部共通科目、学科群共通科目、学科・専攻科目の各科目区分で開設する科目および卒業研究から成る。

① 工学部共通科目

「工学倫理」と「データサイエンス序論」を学部共通の必修科目とする。

② 学科群共通科目

２年次の春学期と夏学期は学科群ごとにカリキュラムを作成し、共通教育を行う。

なお、学生の２年次秋学期からの学科選択に資するよう、各学科の教育研究内容が概観できる「工学概論」を各学科群共通の必修科目として配置する。

- **Ⅰ群：電気情報系（電気情報工学科）**

  Ⅰ群の電気情報系は１学科であるが、計算機工学、電子通信工学、電気電子工学の３コース制を導入するため、電気、電子、通信、情報工学分野の技術者・研究者が共通に学んでおくべき基礎的な専攻教育科目として、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの基礎、電気電子機器の根幹をなす電気回路、および電気情報工学分野に必須の数学に関する科目を学科群共通科目とする。

- **Ⅱ群：物質系（材料工学科・応用化学科・化学工学科・融合基礎工学科（物質材料コース））**

  物質系では、新物質・新素材の創造・変換技術、その生産プロセスの開発・設計を担う研究者・技術者として必要な物質・材料の特性・現象の科学的基礎に関する科目を学科群共通科目とする。

- **Ⅲ群：機械系（融合基礎工学科（機械電気コース）・機械工学科・航空宇宙工学科・量子物理工学科）**

  機械系では、機械工学の中で最も重要な四力学の基礎科目に加え、確率統計、物理学といった工学の素養に関する科目を学科群共通の必修専攻教育科目とする。また、「無機物質化学Ⅱ」を学科群共通の基幹教育科目とするほか、現象の理解の視点および視野を拡げるために、原子力工学および量子物理学の基礎を学科群共通の選択科目とする。

- **Ⅳ群：総合工学系（船舶海洋工学科・地球資源システム工学科・土木工学科）**

  総合工学は、異なる専門分野の間に共通する概念・手法・構造を抽出することで分野間の知の互換性を確立し、普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す学問分野であることを考慮し、理科４分野（物理、化学、生物、地球科学）をバランスよく学ぶための科目を基幹教育の学科群共通科目とするとともに、総合工学として取り扱う自然現象や工学的事象を表現するために必要な数学科目を主として学科群共通の専攻教育科目とする。

➢ **Ｖ群：建築系（建築学科）**

Ｖ群の建築系は１学科のため、学科群共通科目の設定はない。ただし、各学科群の必修科目である「工学概論」に相当する科目として「建築概論」を開講する。

③ 学科・専攻教育科目

学科の専攻教育科目は、必修科目と選択科目からなる。

④ 卒業研究

３年次終了の時点において、各学科で設定する卒業研究の着手条件を満たした学生は、４年次より必修の卒業研究を履修する。卒業研究は、特定のテーマについて研究し、その結果を卒業論文としてまとめたうえで、成果発表を試問により判定するものであるが、学科によってはPBL（Problem-Based Learning）として行う製品開発なども卒業研究として認める。

（４）工学部共通教育

基幹教育及び専攻教育において、全学科で必修とする工学部共通の科目を表 2-3 に示す。

表 2-3　工学部共通の必修科目

科目区分		科目名（必修指定科目のみ掲載）	単位数
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	1
	課題協学科目	課題協学科目	2.5
	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	2
		微分積分学Ⅱ	2
		線形代数学Ⅰ	2
		線形代数学Ⅱ	2
		力学基礎	2
		電磁気学基礎	1
		熱力学基礎	1
		無機物質化学Ⅰ	1
		有機物質化学Ⅰ	1
		図形科学Ⅰ	1
		プログラミング演習	1
		自然科学総合実験Ⅰ	1
	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1
	総合科目	先端技術入門 A	1
		先端技術入門 B	1
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	1
		データサイエンス序論	2
合計			27.5

（５）卒業要件

各学科の卒業要件は、基幹教育科目および専攻教育科目として開講する科目の履修によるものとし、各区分で設ける必要単位数は表 2-4 のとおりである。

表 2-4　各学科の卒業要件（科目区分毎の最低修得単位数）

	電気情報工学科	材料工学科	応用化学科	化学工学科
基幹教育科目	46 単位	48.5 単位	48.5 単位	48.5 単位
専攻教育科目	87.5 単位	86 単位	86 単位	85 単位
合計	133.5 単位	134.5 単位	134.5 単位	133.5 単位

	融合基礎工学科（物質材料ｺｰｽ）	融合基礎工学科（機械電気ｺｰｽ）	融合基礎工学科（高専連携教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）	機械工学科
基幹教育科目	48.5 単位	45.5 単位	45.5 単位	48.5 単位
専攻教育科目	86 単位	89 単位	89 単位	86 単位
合計	134.5 単位	134.5 単位	134.5 単位	134.5 単位

	航空宇宙工学科	量子物理工学科	船舶海洋工学科	地球資源ｼｽﾃﾑ工学科
基幹教育科目	48.5 単位	45.5 単位	49.5 単位	49.5 単位
専攻教育科目	86.5 単位	87 単位	85.5 単位	85.5 単位
合計	135.0 単位	132.5 単位	135.0 単位	135.0 単位

	土木工学科	建築学科
基幹教育科目	49.5 単位	48.5 単位
専攻教育科目	85 単位	82 単位
合計	134.5 単位	130.5 単位

５．教員組織の考え方及び特色

（１）教員組織の編成の考え方

教員の組織編成においては、九州大学の学府・研究院制度を前提として、主に工学研究院、システム情報科学研究院、総合理工学研究院、人間環境学研究院に所属する教員が工学部の教育を担当するという方針の下、研究院におけるそれぞれの専門分野における専門性と、これまでの教育実績を十分に考慮した上で編成した。

なお、初年次から学生が学ぶこととなる基幹教育については、平成 26 年度以降、すべての研究院、附置研究所、学内共同教育研究センター等に所属する教員が、全学的に協力し一体となって実施する体制が既に構築されている。２年次以降に教育課程の中心となる専攻教育の主要な科目には、本学部の専任の教授及び准教授を中心に配置し、専任の助教も協力して学部教育を実施する体制を構築する。

（２）教員の年齢構成

本学部の開設年度（2021年４月１日）における専任教員は316名であり、うち教授127名、准教授117名、助教72名となっている。完成年度（2024年４月１日）には、専任教員は301名となり、うち教授114名、准教授116名、助教71名となる。

専任教員の年齢構成については、完成年度（2024年４月１日）時点で、30代が29名、40代が95名、50代が107名、60代が70名となっている。このように、教育研究水準の維持と活性化に十分な年齢構成となっている。なお、完成年度までに15名の教員が定年により退職となる予定であるが、他の専任教員で十分に対応可能であるため、教育研究上の支障はない。

（３）教員組織編成の特色

本学部の中心となる学問分野となる「工学」は、機械工学、電気電子工学、土木工学、材料工学、化学工学、応用化学、資源工学、航空宇宙工学、船舶海洋工学、原子力工学、建築学などのディシプリンをベースとしている。一方、総合科学として、工学諸分野はもとより、理学分野及び人文社会科学分野にもまたがる幅広い分野を包括しながら、専門性・学際性・国際性・先導性を有する人材を育成するため、教員組織は様々な専門分野の教員から構成されている。

６．入学者選抜の概要

（１）工学部が求める学生

本学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の幅広い履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受けて自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら立てた問いを創造的・批判的に吟味・検討するとともに、他者と協働しながら幅広い視野で問題解決にあたる力を持つ人間へと成長する学生を求めている。

加えて、工学部では、高等学校等までに学習した国語、英語、数学、理科、社会の学力を有したうえで、物理学や化学など自然科学の原理と法則を理解し、幅広い教養と倫理観および国際的視野を併せ持って文明の持続的発展を支える「ものづくり」を先導する技術者、研究者として成長したいという強い意欲と適性を持った学生を求めている。したがって、以下の観点が重要である。

1) 知識・技能：
   - 高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能

2) 思考力・判断力・表現力等の能力：
   - 多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質
   - 広く応用力・創造力・国際性を獲得するために努力を惜しまない姿勢

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：
   - 多様性を尊重する態度と異なる考えに共感する寛容性
   - 常に自らを向上させようとする意欲

（２）入学者選抜方法

工学部では、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する九州大学の全学的な入試改革案「入学者選抜改革の実施に向けた提言」（平成 27 年 11 月）に掲げられた「九州大学新入試 QUBE」の４類型入試（「大学適応力重視型入試」「加速学習型入試（高大連携型推薦入試）」「国際経験・英語力重視型入試（国際型入試）」「記述学力重視型入試（バランス型）」）のうち、記述学力重視型入試に相当する一般選抜と大学適応力重視型入試に相当する総合型選抜のほか、帰国子女入試、私費外国人留学生入試及び学士課程国際コース入試により入学者を選抜する（各学科の入学定員は表 2-5、募集人員は表 2-6、入学者選抜の概要は図 2-2、選抜区分ごとの募集人員は図 2-3）。

表 2-5　各学科の入学定員

学科	入学定員	編入学定員
電気情報工学科	153	－
材料工学科	53	－
応用化学科	72	－
化学工学科	38	－
融合基礎工学科	57	20
機械工学科	135	－
航空宇宙工学科	29	－
量子物理工学科	38	－
船舶海洋工学科	34	－
地球資源システム工学科	34	－
土木工学科	77	－
建築学科	58	－
合計	778	20

表 2-6　入試区分毎の募集人員

学科群	学科	一般選抜			総合型選抜	帰国子女入試(内数)	私費外国人留学生入試(内数)	国際コース入試(内数)
		前期日程	後期日程	計				
Ⅰ	電気情報工学科	98	17	115	8	若干名	若干名	若干名
Ⅱ	材料工学科	123	21	144	3	若干名	若干名	-
	応用化学科				4	若干名	若干名	若干名
	化学工学科				2	若干名	若干名	-
	融合基礎工学科				2	若干名	若干名	-
Ⅲ		146	25	171	2	若干名	若干名	
	機械工学科				7	若干名	若干名	若干名
	航空宇宙工学科				0	若干名	若干名	若干名
	量子物理工学科				2	若干名	若干名	-
Ⅳ	船舶海洋工学科	92	16	108	5	若干名	若干名	-
	地球資源システム工学科				2	若干名	若干名	-
	土木工学科				4	若干名	若干名	若干名
Ⅴ	建築学科	46	0	46	6	若干名	若干名	-
Ⅵ	-	124	23	147	-	-	-	-
合計		629	102	731	47	若干名	若干名	若干名
総計				778				

※上記のほか、融合基礎工学科では定員を 20 名とする編入学試験を新たに実施する。
（令和５年４月編入学者から実施）

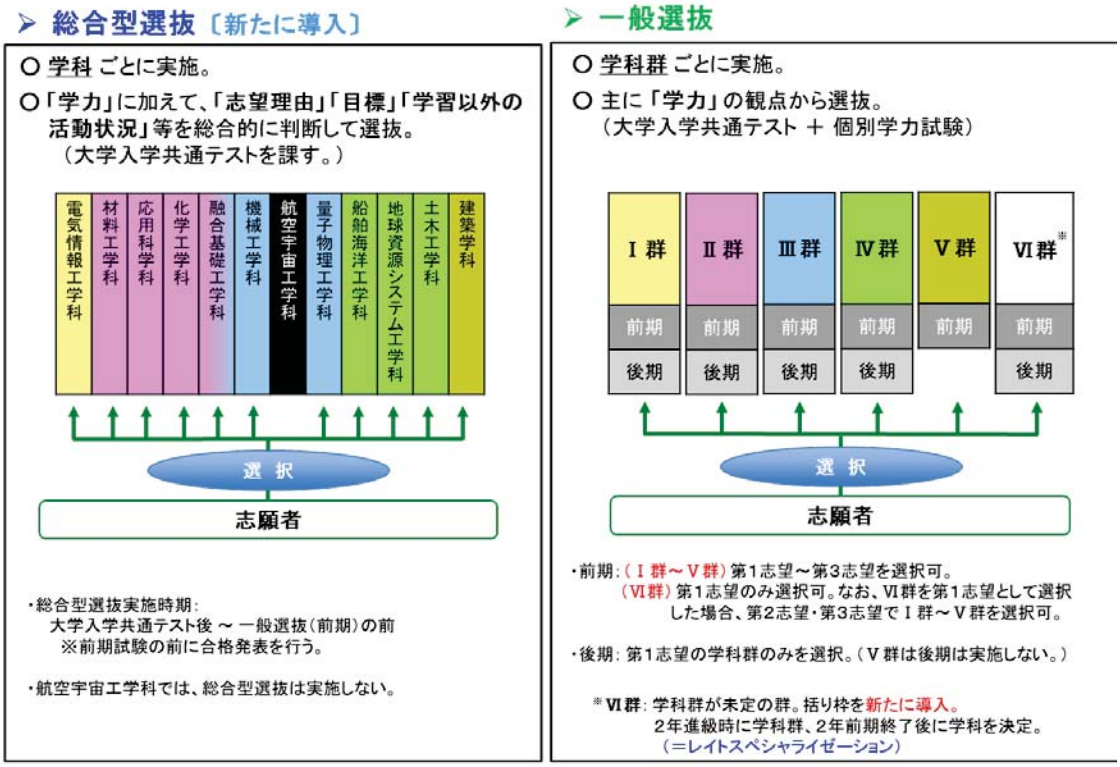


図 2-2　入学者選抜の概要

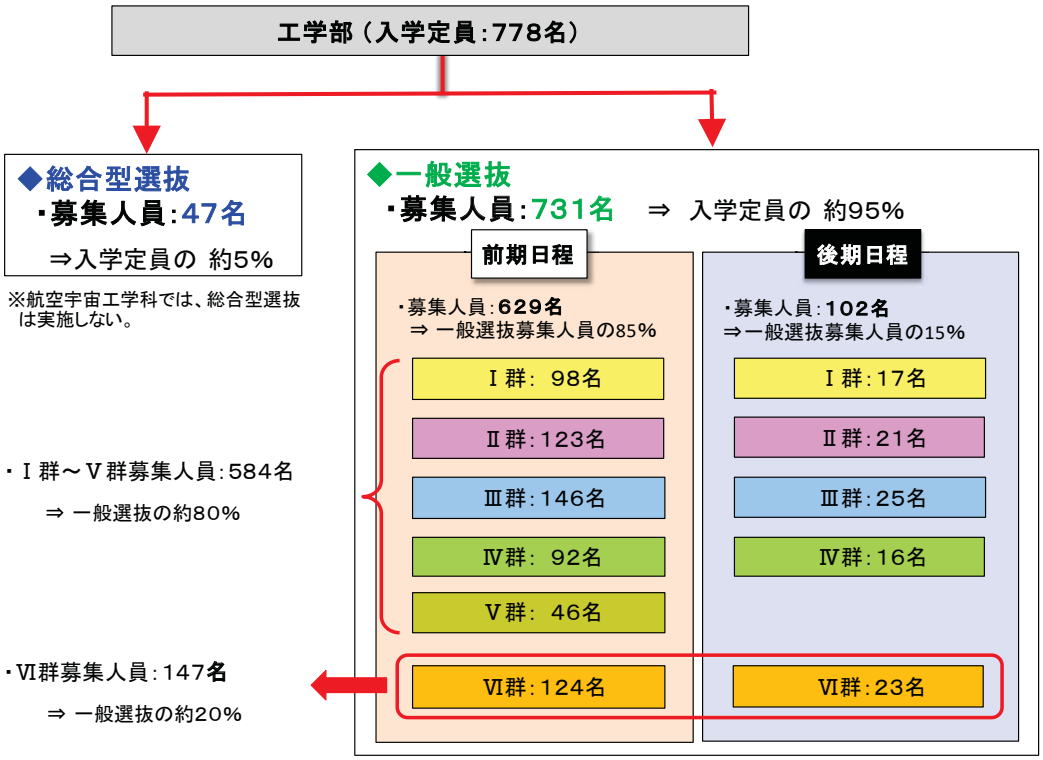


図 2-3　選抜区分ごとの募集人員

①一般選抜（前期）

一般選抜（前期）では、高等学校までの学習内容について幅広い基礎的知識と応用力を修得し、知識を活用しながら問題の解に近づくことのできる発想力と、試験問題の解答を導きだすだけでなく、問題そのものの意味を問うことのできる、批判的な思考力を持つ学生を選抜するため、大学入学共通テストと個別学力検査を課す。

入学者は、前述のとおり専攻教育において学科で必要とされる基礎科目が共通の５つの学科群ごとに選抜する（表 2-2）。ただし、電気情報工学科および建築学科はそれぞれ単独で１つの学科群とする。一方、融合基礎工学科はⅡ群とⅢ群の２つの群で選抜した入学者から進学させることとする。これらの学科群に加えて、一般選抜の募集人員の約 20%を入学時の所属学科群が未定のⅥ群として一括募集・選抜する。

なお、入学志願者は一般選抜（前期）の出願時に第三志望まで学科群を選択可能とする。ただし、Ⅵ群は第一志望としてのみ選択可能であり、第二志望、第三志望としての選択は認めない。（Ⅵ群を第一志望として選択した志願者は、第二、第三志望としてⅠ～Ⅴ群のいずれかを選択することができる。）

② 一般選抜（後期）

一般選抜（後期）では、高等学校までの学習内容について幅広い基礎的知識と応用力を修得し、知識を活用しながら、問題の解に近づくことのできる発想力と、試験問題の解答を導きだすだけでなく、問題そのものの意味を問うことのできる、批判的な思考力を持つ学生を選抜するため、大学入学共通テストと個別学力検査を課す。この一般選抜（後期）では、Ⅴ群を除くⅠ群～Ⅵ群の学科群ごとに入学者を選抜する。

③総合型選抜

総合型選抜は、従来の教科・科目の筆記による学力試験だけでは測れない学生の個性や能力、工学系研究者・技術者になろうとする動機や夢などを総合的に評価する選抜試験として新たに実施する。ただし、工学には高等学校までの学習内容についての幅広い基礎的知識、および物理学や化学など自然科学の原理と法則に関する理解と数学の素養が不可欠であるため、大学入学共通テストを課す。第１次選抜では、提出書類（調査書（又は調査書にかわる書類）、志望理由書、各学科が提出を求める資料）を総合的に評価し、選抜する。第２次選抜では、面接（全学科）と課題探求試験（量子物理工学科、船舶海洋工学科、地球資源システム工学科、建築学科）又は実技試験（電気情報工学科）を行い、大学入学共通テストの成績及び提出書類の内容とあわせて総合的に評価し、選抜する（表 2-7）。

総合型選抜では、学生の動機や将来への抱負、目的意識などが重要な観点の一つとなるため、学科群ではなく学科ごとに実施する。航空宇宙工学科では、過去の入学志望者の実績数に対して入学定員が少ないため、総合型選抜は行わない。

表 2-7　各学科における総合型選抜の実施概要

学科	電気情報工学科	材料工学科	応用化学科
求める学生	工学における課題発掘と解決および研究開発における指導的立場に強い意欲と適性を持ち、電気情報工学への突出した興味、理論・原理への好奇心、および協働において他者を巻き込む力を有する学生。	自然科学と材料工学に関する学問を深く学ぶために必要な基礎的能力を身に付ける努力をいとわず、それらに関連する仕事に携わりたいという希望や意欲を持つ、一定の教養と倫理観を身につけている学生。	生活の基盤をなす材料の物性を原子・分子のレベルで理解し、社会生活の持続的発展を可能とする優れた物質・材料の創出とプロセスの革新のための正しい教養と倫理観を持って活用する意欲のある学生。
第１次選抜	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・自分が過去に作製したｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽとｿﾌﾄｳｪｱの両要素を併せ持つ作品の説明文書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び作品説明文書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。
第２次選抜	【選抜方法】 実技とその結果を踏まえた面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。

学科	化学工学科	融合基礎工学科	機械工学科
求める学生	環境・エネルギー、材料、バイオテクノロジー・先進医療などに関連する工学に興味をもち、学習する強い意欲と正しい倫理観をもって，将来的に地球環境との調和や人類の福祉に貢献したいと考える学生。	基礎学力を十分に備え、自分の考えを論理的かつ明快に説明できる能力を有し、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑なグローバルな課題の解決に強い関心を持ち、関連する学問を積極的に学ぶ意欲と自主性を有する学生。	機械要素、機械システムなどの人類の文明生活を支える“ものづくり”の技術が様々な学問の上に作り上げられてきたことを理解し、社会のニーズに応えて広い視野と豊かな人間性を持って活躍する技術者・研究者として成長しうる学生。
第１次選抜	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。
第２次選抜	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。

学科	量子物理工学科	船舶海洋工学科	地球資源システム工学科
求める学生	真理の追求と最先端の物理学の工学への応用を目指すため、高等学校の基本科目（数学、物理、化学）を熱心に学んできたと自負し、「人間の奥行き」を重視して、国語、外国語、社会科学など文化諸科目の修得にも等しく情熱を有する学生。	自然科学の基礎的な理論や概念を理解し、船舶海洋工学分野の知識と技能を身につけたうえで、グローバルな価値観で造船技術の継承・発展を図る意欲を持って、持続的な海洋開発を担える広い視野を有する技術者・研究者として成長することに積極的な学生。	国際的に展開される地下資源の開発と供給、国内外における自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する諸技術の開発を担い、グローバルな視点から社会に貢献する問題発見と問題解決に取り組むことに意欲を有する学生。
第１次選抜	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。
第２次選抜	【選抜方法】 課題探求試験、面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 課題探求試験、面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 課題探求試験、面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。

学科	土木工学科	建築学科
求める学生	安全で信頼性のある社会基盤の設計や建設、快適で持続可能な都市の創造、環境問題の解決方法、防災技術について幅広く探求する意欲があり、積極的に学習を進めることができる自主性を有する学生。	工学技術から社会・文化まで文理を問わず幅広い分野への関心と基礎的学力があり、洞察力と批判的な視点をもって課題を発見する力や論理的な思考に基づいた自らの考えを的確に他者に伝える力などの資質に優れ、建築学分野の専門家を目指して想像力と探求心をもって主体的に学習する意欲がある学生。
第１次選抜	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。	【提出書類】 ・調査書又は調査書に代わる書類 ・志望理由書 【選抜方法】 提出された調査書又は調査書に代わる書類及び志望理由書の総合評価により選抜を行う。
第２次選抜	【選抜方法】 面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。	【選抜方法】 課題探求試験（実技を含む）、面接（試問を含む）及び大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行う。

④帰国子女入試

帰国子女入試では、外国において我が国の高等学校の教育内容と同等以上の学校教育を受け、外国における生活を通した多様な経験を有するとともに、日本語による教育カリキュラムに基づいた学習に対する強い意欲を持つ帰国子女を選抜するために、大学入学共通テストを免除し、学力試験、面接及び出願書類の内容を総合的に評価して学科ごとに選抜を行う。募集人員は若干名であり、工学部の入学定員の内数として含まれる。

⑤私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、外国において我が国の高等学校の教育内容と同等以上の学校教育を受け、日本語による教育カリキュラムに基づいた学習に対する強い意欲を持つとともに、その意欲を実現するための高い語学力（特に日本語で学び・考え・行動するための語学力）を備える外国人留学生を選抜するために、面接及び出願書類の内容を総合的に評価して学科ごとに選抜を行う。募集人員は若干名であり、工学部の入学定員の内数として含まれる。

⑥学士課程国際コース入試

学士課程国際コース入試では、現代の国際社会に対する強い関心と多様な経験を有し、世界を舞台にした活動に対する強い意欲を持つとともに、その意欲を実現するための高い語学力（特に英語で学び・考え・行動するための語学力）を備える学生を選抜するために、学力試験、面接及び出願書類の内容を総合的に評価して選抜する。募集人員は若干名であり、工学部の入学定員の内数として含まれる。

（３）編入学者選抜方法

【融合基礎工学科以外の学科】

高等専門学校や短期大学から３年次への編入学生を受け入れるため、３年次編入学試験を実施する。編入学試験は一般選抜と学校推薦型選抜により行い、一般選抜では、高等専門学校及び短期大学の出身者を対象に、学力試験、口頭試問及び出願書類の内容を総合的に評価して学科ごとに選抜を行う。学校推薦型選抜では、高等専門学校の学校長が推薦する者を対象に、口頭試問及び出願書類の内容を総合的に評価して学科ごとに選抜を行う。

【融合基礎工学科】

融合基礎工学科では、高等専門学校との間で新たに実施する連携教育プログラムのみに編入学生を受け入れ、他学科とは別に編入学者選抜を行う。（詳細は、7-5「融合基礎工学科」（７）高専連携教育プログラム・編入学者選抜の概要に記載。）

７．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本学では、全学共通の考え方に基づいて学部･学科ごとのディプロマ・ポリシーを定めるとともに、その目標に到達すべくカリキュラム･ポリシーを定め、公開することにしている。

７－１．電気情報工学科／Ｉ群

（１）電気情報工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	工学部電気情報工学科では、電気情報工学の数理・物理・情報学的側面からシステムまでの知識を体系的に獲得させ、半導体デバイス、装置・機器、システム、情報システムの動作原理を理解し、これらに関する新しい技術開発を行う能力と、それを通して安全･安心、持続可能で豊かな社会に貢献する人材を育成することを目的とし、以下を教育目標としている。 **（計算機工学コース）** 計算機科学を中心とした情報工学に関連する学術分野の知識、計算機のハードウェアとソフトウェアに関する基礎から応用までの知識を幅広く身に付けさせ、情報システムの設計と構築を行うための基礎能力を修得 させる。また、電気工学や電子工学に関する基礎的な知識も身に付けることで，情報化社会を支えるシステム構築に対応できる幅の広い技術者を育成する。 **（電子通信工学コース）** 情報・通信技術（ICT）の数理・物理的側面からシステムまでの教育を行う。エレクトロニクスの知識をもとにして、情報処理や情報通信のための機能集積化技術およびシステム化技術を修得させるとともに、システムを構成する要素技術に関する幅広い知識を身に付けさせる。これにより、情報・通信システムの全体を俯瞰でき、人々の生活を豊かにする新しい技術に挑戦する気概をもつ人材を育成する。 **（電気電子工学コース）** 電気電子工学の数理・物理的側面からシステムまでの知識を体系的に獲得させ、電気電子工学の知識をもとにして，各種電気機器やエネルギー変換機器の最適設計技術及び電気電子システム化技術を修得させる。また、電気電子システムを構成する要素技術に関する幅広い知識を身に付けさせるとともに、将来の社会基盤と科学技術の発展に対する適応力と広い視野、総合力ならびに独創

	性を持つ人材を育成する。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. (https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en) ・日本技術者教育認定機構（2019）、「日本技術者教育認定基準 共通基準（2019年度～）」（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構（2019）、「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019年度～）」（https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf） ・European Network for Accreditation of Engineering Education (ENAEE) (2015), “EUR-ACE Framework Standards and Guidelines” (https://www.enaee.eu/eur-ace-system/standards-and-guidelines/) ・日本学術会議 情報学委員会 情報科学技術教育分科会（2016）、「報告 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 情報学分野」（http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h160323-2.pdf） ・日本学術会議 電気電子工学委員会 電気電子工学分野の参照基準検討分科会（2015）、「報告 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 電気電子工学分野」（http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h150729.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 数学、物理、回路理論、コンピュータアーキテクチャ、プログラミングなどの基礎知識により、電気電子通信情報分野の基礎的なハードウェアとソフトウェアの原理説明が行える。 **（計算機工学コース）** B-4-1. 計測・制御理論、計算機科学・情報工学の基礎知識により、計算機および

	プログラムの原理説明と基本動作の設計が行える。 **（電子通信工学コース）** B-4-2. 電磁気学、電子物性、計測制御・理論、情報処理・通信工学などの基礎知識により、電子素子と電子・情報通信機器の原理説明と基本動作の設計が行える。 **（電気電子工学コース）** B-4-3. 電磁気学、電子回路、計測制御・理論、情報処理などの基礎知識により、電気機器、電力応用機器の原理説明と基本動作の設計が行える。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 電気情報工学分野の装置やソフトウェアを解析し、その動作や原理を説明することができる。 C-1-2. 電気情報工学分野における理論的、実験的、数値的な解析とモデリングの方法を理解し実行することができる。 C-1-3. 実験あるいは数値実験を適切に設計して実施し、得られたデータを解釈して結論を導くことができる。 C-2. 創造・評価 C-2-1. 電気情報工学分野の装置やソフトウェアについて、指定された要求を満たす設計に自身の知識と理解を活用することができる。 C-2-2. 社会の課題解決に有用な電気情報工学分野技術の方向性を示唆することができる。 **D.実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 工学上の問題を、解決に有用な理論や実践とそれらの限界を理解した上で解決することができる。 D-3. 必要なデータの収集と解釈を行い、適切な意思決定を行うことができる。 D-4 技術的な事項に関する意見交換を技術者および非技術者と行うことができる。

（２）電気情報工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

学科群指定の共通教育科目に触れることを通して、電気・電子・通信・情報の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築くとともに、本学科の学生に求められる能動的学修能力を養成する。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、１年次に履修する「電磁気学基礎演習」を基盤に、「数学演習 B」、「現代物理学基礎」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、１年次に履修する「電気情報工学入門」を基盤に、「電気情報数学Ⅰ・Ⅱ」、「回路理論Ⅰ・Ⅱ」、「論理回路」、「プログラミング論」、「プログラミング演習Ⅰ」、「コンピュータアーキテクチャ I」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、学修目標「電気電子通信情報分野の基礎的なハードウェアとソフトウェアの原理の理解（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

本学科で実施する学士・修士一貫型専攻教育では、計算機工学、電子通信工学、電気電子工学の３コースにおいて、専門分野の知識を基礎から発展へと順を追って学習する積み上げ型教育（主として本学科学修目標「知識・理解（B-3、B-4）」、「適用・分析（C-2）」、「創造・評価（C-2-1）」に対応）と、社会での実現・応用の目的から遡って何を学ぶかを考えながら学修する目的指向型教育（主として本学科学修目標「主体的学び（A-1）」、「創造・評価（C-2-2）」、「実践（D）」に対応）とを学年進行に応じて組み合わせたくさび型で実施する。

（計算機工学コース）

２年次秋学期・冬学期において、全コース共通の学科共通科目「常微分方程式とラプラス変換」によって電気情報分野を学ぶ学生として共通に持つべき「知識・理解（B-3）」を強化する。加えて本コースでは、計算機工学の根幹をなす「形式言語とオートマトンⅠ・Ⅱ」、「オペレーティングシステムⅠ・Ⅱ」を必修科目として設け、本分野の「知識・理解（B-4-1）」の基盤的部分を確立する。３年次以降は、「離散数学Ⅰ・Ⅱ」、「確率統計Ⅰ・Ⅱ」、「データベースⅠ・Ⅱ」、「コンパイラⅠ・Ⅱ」等を必修科目として配置してデータ解析やコンピュータソフトウェアに関する「知識・理解（B-4-1）」を発展・強化させる。

また、２年次秋学期・冬学期に、実験科目「電気情報工学基礎実験」で全コースに共通する「適用・分析（C-1）」の能力を養う。３年次以降は「電気情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」によってハードウェアおよびソフトウェアに関する実践的能力をさらに高め、「適用・分析（C-1）」、「創造・評価（C-2）」を身に付けさせる。加えて、学生の興味・関心・将来展望に応じて「適用・分析（C-1）」を強化するために、「プログラミング言語論Ⅰ・Ⅱ」、「アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ」等の選択科目を配置する。

目的指向型教育の端緒として、研究室を訪問して研究活動の一端に触れる必修科目（「電気情報工学セミナーA」）を２年次秋学期・冬学期に配置し、「主体的学び（A-1）」と「創造・評価（C-2-2）」へと導く。また、課題解決型科目（基礎 PBLⅠ、基礎 PBLⅡ）を必修とし、「創造・評価（C-2-2)」の課題解決能力を強化する。これらを次に記述する４年次の卒業研究につなげる。

（電子通信工学コース）

２年次秋学期・冬学期において、全コース共通の学科共通科目「常微分方程式とラプラス変換」によって電気情報分野を学ぶ学生として共通に持つべき「知識・理解（B-3）」を強化する。加えて本コースでは、電子通信工学の根幹をなす「電磁気学Ⅰ・Ⅱ」、「回路理論Ⅲ・Ⅳ」、「電子物性Ⅰ・Ⅱ」、「ディジタル電子回路Ⅰ・Ⅱ、「信号とシステムⅠ・Ⅱ」、「プログラミング演習Ⅱ・Ⅲ」を必修科目として設け、本分野の「知識・理解（B-4-2）」の基盤的部分を確立する。３年次以降は、「アナログ電子回路Ⅰ・Ⅱ」、「半導体の性質」、「トランジスタ基礎論」、「通信方式Ⅰ・Ⅱ」、「情報理論Ⅰ・Ⅱ」等を必修科目として配置して電子デバイスや通信工学に関する「知識・理解（B-4-2）」を発展・強化させる。

また、２年次秋学期・冬学期に、実験科目「電気情報工学基礎実験」で全コースに共通する「適用・分析（C-1）」の能力を養う。３年次以降は必修科目「電気情報工学実験Ⅰ・Ⅱ」に

よって「適用・分析（C-1）」、「創造・評価（C-2）」を身に付けさせる。加えて、学生の興味・関心・将来展望に応じて「適用・分析（C-1）」を強化するために、「光エレクトロニクスⅠ・Ⅱ」、「通信ネットワークⅠ・Ⅱ」等の選択科目を配置する。

目的指向型教育の端緒として、研究室を訪問して研究活動の一端に触れる必修科目「電気情報工学セミナーA」を２年次３・４Ｑに配置し、「主体的学び（A-1）」と「創造・評価（C-2-2）」へと導く。また、学生の興味・関心・将来展望に応じて、「適用・分析（C-1）」、「創造・評価（C-2）」を強化するために、電気電子工学分野における設計を実践する「電気電子工学設計Ⅰ・Ⅱ」を４年次に選択科目として設ける。これらを次に記述する４年次の卒業研究につなげる。

（電気電子工学コース）

２年次秋学期・冬学期において、全コース共通の学科共通科目「常微分方程式とラプラス変換」によって電気情報分野を学ぶ学生として共通に持つべき「知識・理解（B-3）」を強化する。加えて本コースでは、電気工学・電子工学の根幹をなす「電磁気学Ⅰ・Ⅱ」、「回路理論Ⅲ・Ⅳ」、「制御工学ＡⅠ・Ⅱ」、「エネルギー基礎論Ⅰ・Ⅱ」、「電子物性Ⅰ・Ⅱ」、「プログラミング演習Ⅱ・Ⅲ」を必修科目として設け、本分野の「知識・理解（B-4-3）」の基盤的部分を確立する。３年次以降は、「アナログ電子回路Ⅰ・Ⅱ」、「基礎エネルギー変換機器学Ⅰ・Ⅱ」、「計測工学ＡⅠ・Ⅱ」等を必修科目として配置して電気エネルギーや計測制御に関する「知識・理解（B-4-2）」を強化する。

また、２年次秋学期・冬学期に、実験科目「電気情報工学基礎実験」で全コースに共通する「適用・分析（C-1）」の能力を養う。３年次以降は必修科目「電気情報工学実験Ⅰ・Ⅱ」によって「適用・分析（C-1）」、「創造・評価（C-2）」を身に付けさせる。加えて、学生の興味・関心・将来展望に応じて「適用・分析（C-1）」を強化するために、「電力輸送工学Ⅰ・Ⅱ」、「パワーエレクトロニクスⅠ・Ⅱ」等の選択科目を配置する。

目的指向型教育の端緒として、研究室を訪問して研究活動の一端に触れる必修科目「電気情報工学セミナーA」を２年次秋学期・冬学期に配置し、「主体的学び（A-1）」と「創造・評価（C-2-2）」へと導く。また、学生の興味・関心・将来展望に応じて、「適用・分析（C-1）」、「創造・評価（C-2）」を強化するために、電気電子工学分野における設計を実践する「電気電子工学設計Ⅰ・Ⅱ」を４年次に選択科目として設ける。これらを次に記述する４年次の卒業研究につなげる。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかをカリキュラムを検討する委員会において精査することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

電気情報工学分野は多岐にわたるため全てを学ぶことは困難であり、一定程度焦点を絞って教育を行う必要がある。一方で、これらの多岐にわたる内容は相互に関連しているため、電気情報工学分野を独立性の高い複数学科に分けて教育することは、教育効果を著しく阻害し、学生が将来、学修内容を活用するために望ましくない。そこで、電気情報工学分野を教育する学科は電気情報工学科１学科とし、学科内に計算機工学コース、電子通信工学コース、電気電子工学コースの３つのコースを設け、学生が学ぶ分野を一定程度限定する。このような緩い境界を持つコースに分けて教育を行うことによって、広い分野の知識も持つ人材の育成を行う。

学生は上記の３つのコースのいずれか一つを選び、そこで規定された必修科目と推奨された選択科目を学習する。２年次春・夏学期には全コースに共通する電気情報工学の基礎的な科目を学科群共通科目として学ぶ。２年次秋学期以降は、コースによって履修する科目を次第に分化する。各コースでは、必修科目と選択を推奨する科目を定める。この中には複数コースで共通の必修科目や推奨選択科目も存在する。また必修科目と推奨選択科目以外の電気情報工学科で開講される科目はすべて選択科目とする。時間割上の時間的・空間的な制約はあるものの、学生はコースごとに設計された推奨カリキュラムに従って学修するだけでなく、本人の興味や将来展望に応じて学習内容を自身で設計する余地がある。

いずれのコースにおいてもデータサイエンスに関する教育を強化する。データサイエンスの内容は、データ構造、統計、多変量解析、データマイニング、関連するプログラミングなど多様である。電気情報工学科では、データサイエンスを道具として扱うだけでなく、そ

の理論を理解して新しい手法を開発しデータサイエンスの発展をリードするエキスパートとしての人材を育成するため、データサイエンスという名称の科目を設けることはせず、複数の科目でデータサイエンスに関する教育を実施する。

電気情報工学科は、学科全体で大学院システム情報科学府修士課程に接続した６年一貫型教育を行う。学士課程である電気情報工学科では、基幹教育で主体性・協働力および広い視野を持つための科目と自然科学系の基礎を学んだ後、その上に専門科目を順次学ぶ積み上げ型教育が中心となる。一方で，修士課程では、目的から遡って何を学ぶかを考えながら学ぶアクティブ・ラーニング要素を持つ目的指向型教育を中心に据える。６年一貫型教育としてこれらの２つのタイプの教育をくさび型に配置する。学士課程では、１年次に研究室を訪問して研究内容の見学あるいは簡単な体験を含む講義を受ける科目、２年次に研究室に定期的に通って研究の基礎的部分を実際に体験する科目を配置し、学生の勉学への動機づけを行い、各自の目的・目標設定を促す。また、３年次以降では、PBL 科目や、設計を行う科目などの目的指向型科目を配置し、さらに４年次の卒業研究で修士課程での学習に接続する。このように目的指向型科目をくさび型に配置することによって、４年で卒業し修士課程には進まない学生にも、目的指向型教育を提供することができる。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ｉ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、電気情報工学科では、１年次前半に、学生への動機付けと主体的に学ぶ態度促進を目的として、学生が複数研究室を順次訪問しその研究についての講義を受ける科目「電気情報工学入門」を専攻教育の必修科目として開講する。また、電気情報工学の基盤の一つである電磁気学の基礎を学ぶ基幹教育科目「電磁気学基礎」の理解を促すため、同学期に「電磁気学基礎演習」を基幹教育の必修科目として設ける。

２年次（前期）：　学科群共通教育

電気、電子、通信、情報工学分野の技術者・研究者が共通に学んでおくべき基礎的な専攻教育科目として、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの基礎、電気電子機器の根幹をなす電気回路、および電気情報工学分野に必須の数学に関する科目を学科群共通科目とする。また、計算機工学コースでは、その後の学年・学期で学習する積み上げ型科目の履修が円滑に行えるように、情報分野の基礎となる科目をコース必修科目として指定する。

２年次（後期）： 以降、学科・専攻教育

専門分野の基礎学力の涵養を目的とし、全コース共通の学科共通科目を履修させ、これに加えて各コースにおいてそれぞれの基礎的知識を身に付けさせる科目を設ける。この他に、目的指向型の教育の一環として、学生が各研究室においてグループで研究の一端を体験する「電気情報工学セミナーA」および「電気情報工学セミナーB」をそれぞれ学科共通の必修科目、選択科目として実施する。

（計算機工学コース）

課題解決型の PBL を必修として実施するとととともに、計算機工学の基盤的な科目群（オペレーティングシステムや形式言語）を履修する。

（電子通信工学コース）

電子通信工学の根幹をなす数学、電磁気学、回路理論、電子物性、電子回路、およびこれらに関する実験や演習などに関する科目を必修科目として設け、３年次以降のより高度な科目の履修に向けた基礎学力を涵養する。

（電気電子工学コース）

電気電子工学の根幹をなす数学、電磁気学、回路理論、制御理論、情報処理およびこれらに関する実験や演習などに関する科目を必修科目として設け、３年次以降のより高度な科目の履修に向けた基礎学力を涵養する。

３年次：

３年次では、各コースにおいてコースの発展的な内容に関する知的基盤を学生が構築できることを目的とした教育を行う。

（計算機工学コース）

ハードウェアおよびソフトウェアに関する実践的能力をさらに高めるための実験科目を充実させるとともに、計算機工学に関わる様々な科学技術（アルゴリズム、確率統計、コンピュータシステム、データベース、コンパイラ、人工知能、サイバーセキュリティなど）を網羅的に学ぶ。

（電子通信工学コース）

数学、電磁気学、電子素子などに関する発展的な科目を必修科目と設けるとともに、高度な通信、計測、データ処理に関する科目を選択科目として設ける。これによって、電子通信工学の現状を理解するとともに、将来動向を見据えた新手法の提案などを行うための知的基盤を構築する。

（電気電子工学コース）

数学、電磁気学、計測理論、情報処理・通信工学などに関する発展的な科目を必修科目と設けるとともに、高度な電子工学、電気機器、電力システムに関する科目を選択科目として設ける。これによって、電気電子工学の現状を理解するとともに、将来動向を見据えた新手法の提案などを行うための知的基盤を構築する。

４年次：

卒業研究を実施することで、実践的な問題解決能力を身に付けるとともに、表現力、プレゼンテーション能力など、コミュニケーション能力を涵養する。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 46 単位以上、専攻教育科目から 87.5 単位以上を修得し、合計で 133.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　46 単位以上（全コース共通）

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（20.5 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目 87.5 単位以上

(計算機工学コース)

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（18 単位）
(c)学科・専攻科目（33.5 単位）
（内訳）学科共通科目から 14.5 単位
計算機工学科目から 19 単位
(d)卒業研究（８単位）
(e)その他
学科群共通科目及び学科・専攻科目中の選択科目から 25 単位以上修得する。

(電子通信工学コース)

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（16 単位）
(c)学科・専攻科目（40.5 単位）
（内訳）学科共通科目から 38.5 単位
電子通信工学科目から２単位
(d)卒業研究（８単位）
(e)その他
学科群共通科目及び学科・専攻科目中の選択科目から 20 単位以上修得する。

（電気電子工学コース）

(a)工学部共通科目（３単位）

(b)学科群共通科目（16 単位）

(c)学科・専攻科目（36.5 単位）

（内訳）学科共通科目から 28.5 単位

電気電子工学科目から８単位

(d)卒業研究（８単位）

(e)その他

学科群共通科目及び学科・専攻科目中の選択科目から 24 単位以上修得する。

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院システム情報科学府・情報理工学専攻、電気電子工学専攻

②教育の特色

電気情報工学科とこれに接続する大学院システム情報科学府修士課程では、専門分野の知識・理解を身に付け、かつそれを社会において活用することができる人材を育成する。このために、専門分野の知識・理論について基礎の理解の上により高度な知識を修得する積み上げ型の教育と、社会での実現・応用の目的から遡って何を学ぶかを考えながら学修するアクティブ・ラーニング要素を持つ目的指向型教育とを、６年間の中にくさび型に配置する６年一貫型教育を実施する。積み上げ型教育を中心とする電気情報工学科では、専門分野に応じた計算機工学、電子通信工学、電気電子工学の３コースを設ける。一方、目的指向型教育を中心とするシステム情報科学府修士課程では、社会での実現・応用に対応した情報アーキテクチャ・セキュリティ、データサイエンス、AI・ロボティクスの３コースを情報理工学専攻に、情報デバイス・システム、エネルギーデバイス・システムの２コースを電気電子工学専攻に置く。標準的には、電気情報工学科計算機工学コースから情報理工学専攻の３コースのいずれかに、同学科電子通信工学コースから情報理工学専攻情報アーキテクチャ・セキュリティコースまたは電気電子工学専攻情報デバイス・システムコースに、同学科電気電子工学コースから電気電子工学専攻エネルギーデバイス・システムコースに接続するものとして、各コースの教育内容を設計している。これらのコースの接続とくさび型教育を図 7-1-1 に示す。

電気情報工学科では積み上げ型教育に加えてくさび型教育を実施するために、研究室を訪問して研究内容の見学あるいは簡単な体験を含む講義を受ける科目、研究室に定期的に通って研究の基礎的部分を実際に体験する科目、PBL 科目、設計を行う科目など目的指向型教育科目を配置し、さらに４年次の卒業研究で修士課程での学修に接続する。

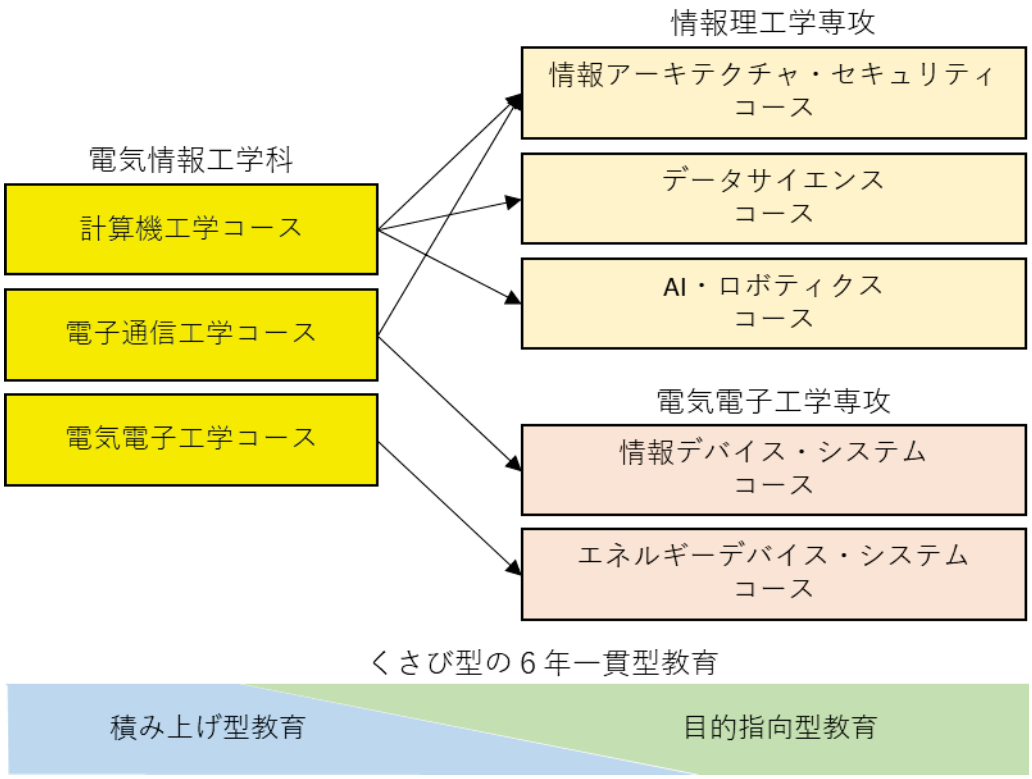


図 7-1-1　電気情報工学科とシステム情報科学府の６年一貫型教育

７－２．材料工学科／Ⅱ群

（１）材料工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	材料工学は、あらゆる構造物やデバイスを構成する材料を創製し、またその物性を制御することを追求する学問である。本学科では、物質におけるナノレベルでの原子や電子の振る舞いから、マクロレベルでの材料の製造プロセス制御および材料の特性発現に関する原理や概念に関して教育を行う。同時に、地球規模の省資源や環境保全を常に念頭に置き、世界的な価値観を有する創造性豊かな技術者・研究者の育成を目指す。 そのため、以下の教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。 ・自然科学の基礎的な理論や概念を十分に理解した上で、専門となる材料工学分野の知識と技能を身に付けること。 ・社会における課題を見出し、かつそれを材料工学の知識と技能を用いて解決する能力を身に付けること。 ・世界的価値観を有し、国際的に通用する創造性豊かな技術者や研究者になり得ること。
参照基準	日本学術会議『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 材料工学分野』2014 年を参照。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140901-1.pdf
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1. （主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2. （協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。

	B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 物質・材料に関する基礎的な特性・現象を説明できる。 B-4. 物理化学を基礎とした物質・熱・運動量の移動現象についての様々な理論や概念を説明できる。 B-5. 応力およびひずみの概念を理解し、力学特性発現の原理や機構について説明できる。 B-6. 物質の原子配列、電子状態やバンド構造が及ぼす電気および磁気特性などへの影響を説明できる。 B-7. 金属材料における組織形成の原理を理解し、組織制御のために有効な加工や熱処理技術を提案できる。 **C. 能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 各種分析装置の原理を理解し、材料の組成や構造の解析手法について説明できる。 C-1-2. 材料に関わる現象を理論に基づいてモデリングし、解析できる。 C-1-3. 実験結果を分析し、論理立てて自分の考えを表現できる。 C-2 創造・評価 C-2-1. 無機材料など各種工業材料の物性と用途を理解し、構造物の設計ができる。 **D. 実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 科学技術社会に潜む諸問題を理解し、用途に応じた適切な構造・機能材料の設計指針を提案できる。 D-3. ものづくりの基礎となる実験・解析手法の習得を通して，工学的問題を解決できる。 D-4. 論理的思考を駆使して新たな科学技術を体系的に把握できる。 D-5. 無機物質の熱処理や製造プロセスについて，背景に存在する熱化学および速度論を含めて製造プロセスを最適化ができる。 D-6. 金属を中心にセラミックス、半導体等を取り扱う無機物質科学の物性と用途を理解し、社会に還元できる。

（２）材料工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅱ群：物質系」では、この学科群共通教育を通して、物質系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、「細胞生物学」と「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「無機化学第一」、「有機

化学第一」、「金属材料大意」、「物理化学第一」、「量子力学第一」、「機械工学大意第一」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「専門分野の知識・能力・ものの考え方（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年）

基幹教育、工学部共通・専攻教育、学科群共通教育を通して工学系人材としての共通基盤を形成した上で、学士・修士一貫型専攻教育科目を通して、専門性を高度な水準で極めることを目指す。

すなわち、材料工学科独自のカリキュラムとして、学科必修科目及び学科選択科目を開設し、以下のように学修目標の達成に向けた学修を進める。

まず、２年次後期には、物質プロセスの基礎学問となる物理化学や反応工学、材料物性の基礎学問となる構造材料の創製や加工に関わる組織学や材料力学、機能性材料の理解に必要な固体物理学や電子物性論に関する固体学や電子論などにより材料工学の基盤を固める。また、上記の学修内容を「材料工学実験第一」として、実際に機器を用いた実習形式の基礎的な実技科目も開始する。３年次以降の専攻科目に共通して必要となる「複素関数論」といった基礎数学も学ぶ（D-3）。これらの科目の履修を通して、「知識・理解（B-3～B-7）」を育成するとともに、「材料設計製図」を通して「評価・創造」に関する技能を修得する（C-2-1）。

つぎに、３年次には、２年次に身に付けた材料工学に関する基礎知識を基に、専攻教育科目の中でも、「材料電気化学」や「凝固及び結晶成長」など材料工学に必要な専門的な知識を身に付ける科目を中心に履修し、徐々に自分の取り組む課題を明確化し、課題の解決方法を模索する能力を培う。３年次前期は、「超伝導材料工学」や「材料強度物性」といった各種材料におけるプロセスや物性に関する各論を通して、高度な専門知識の融合を図り、材料工学技術者として必要な知識を修得する。また、熱力学や反応速度論に関する「冶金物理化学Ⅰ・Ⅱ」および「材料工学実験第二」などにより「適用・分析（C-1-1～C-1-3）」の能力を培い、「材料工学実験第二」により実践することで、より確実な「知識・理解（B-3～B-7）」として体得する。そして「機械工作実習」を通して「評価・創造」に関する技能を修得する（C-2-1）。さらに、企業から招いた外部講師による「産業科学技術特別講義」を通して産業界における材料工学の役割について理解し、社会において材料工学的知識と技能を「実践（D-2）」に繋いでいく能力を培う。３年次後期は、「鉄鋼材料工学」、「材料表面科学」や「半導体工学」など、材料工学に特化した専門性の高い講義を開講する。また、「無機材料解析学」といった電子顕微鏡や X 線回折などの材料解析手法やそれらの原理に関する授業科目、ならびに「高温材料強度学」や「エネルギー材料工学」といった物質プロセスや材料物性に関する専門性の高い講義を開講も開設する（D-5, D-6）。その多くは選択科目に分類され、学生がこれから進む道を自ら選ぶ形となっている。また、３年次前期と同様に、「材料工学実験」により「適用・分析（C-1-1～C-1-3）」の能力を培い実践することにより、より確実な「知識・理解（B-3～B-7）」として体得する。

材料工学科独自の情報系科目としては「データサイエンス」を開設し、近年重要となりつつある情報科学と材料工学との融合について学習する（B-2、D-3）。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- 「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
- 「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

材料工学科では、持続可能な社会の発展を常に考える創造性豊かな技術者・研究者を育成することを目的として、物質を構成する原子や電子の振る舞いから、材料の製造プロセスの制御および材料の特性発現に関する原理やその概念を身につけさせることを教育方法の最重要方針として掲げ、物質プロセス工学と材料物性工学に大別される各科目をバランス良く配置し、基礎から応用に至る材料工学の全体像を把握できるカリキュラムとしている。

加えて、近年急速に発展しつつあるマテリアルインフォマティクスによる材料創製・解析技術を理解し、材料工学と情報科学の融合を体現できる人材を育成するため、３年次秋期に「データサイエンス」を開講する。周期表上の物質・材料分野で取り扱う元素の種類は 80 程度であるが、その組み合わせは２元系で約３千、３元系になると約８万になる。既往の論文から得られる膨大なデータの収集解析方法から機械学習によるモデルの構築、解の導出

に至る一連の流れの実践的内容を学修させ、新材料創製のためのプロセス条件設定や元素の選択などを効率的に行って新しい材料の創成ができる能力を涵養する。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次： 工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群共通教育

学科群指定の共通教育科目での学びを通して、物質・材料の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科・専攻教育科目のための土台を築き、本学科の学生に求められる能動的学修能力を養成する。

１年次の工学部共通・基幹教育科目には、生物・生体関連物質に関する科目が含まれておらず、また物質・材料の基礎となる熱力学科目もⅡ群にとっては充分でない。そこで生物・生体の入門科目に相当する「細胞生物学」、ならびに１年次の「熱力学基礎」の発展科目である「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を学科群共通・基幹教育の必修科目とする。

学科群共通・専攻教育科目としては、物質・材料に関連する「無機化学第一」「有機化学第一」「金属材料大意」「物理化学第一」「量子力学第一」「機械工学大意第一」を必修科目とする。また、物質の取り扱いや危険性を「安全学」の講義を通して学ぶ。

２年次（後期）： 以降、学科・専攻教育

専攻教育科目を中心に履修し、材料工学に関する課題を探索し解決するために必要な基礎的な知識・技能を身に付けるための学びを開始する。

物質プロセスの基礎学問となる物理化学や反応工学、構造材料の創製や加工に関わる組織学、結晶学や材料力学、機能材料の理解に必要な固体物理学や電子物性論に関する授業科目などにより材料工学の基盤を固める。また、上記の学習内容を「材料工学実験」として、実際に機器を用いた実習形式の基礎的な実技科目も開始する。また、材料工学の専門科目以外にも「機械工学大意」や「電気工学基礎Ⅰ・Ⅱ」、各種数学系科目など、工学者として不可欠な基礎的知識も幅広く修得する他、３年次以降の専攻科目に共通して必要となってくる「複素関数論」や「数理統計学」などの基礎数学も学ぶ。

３年次：

３年次前期は、専攻教育科目の中でも、「材料電気化学」や「凝固及び結晶成長」など、材料工学に必要な基礎的な知識を身に付ける科目中心に履修し、徐々に自分の取り組む課題を明確化し、課題の解決方法を模索する能力を培う。各種材料における物質プロセスや材料物性に関する各論を通して、高度な専門知識の融合を図り、材料工学技術者として必要な知識を修得する。また、材料解析手法の原理に関する授業科目、ならびに熱力学や反応速度論に関する各種演習科目により「適用・分析」の能力を培い、「材料工学実験」により実践することで、より確実な「知識・理解」として体得する。さらに、企業から招いた外部講師による「産業科学技術特別講義」を通して産業界における材料工学の役割について理解し、社会において材料工学的知識と技能を「実践」に繋いでいく能力を培う。

３年次後期は、「鉄鋼材料工学」、「材料表面科学」や「半導体工学」など、材料工学に特化した専門性の高い講義を開講する。その多くは選択科目に分類され、学生がこれから進む道を自ら選ぶ形となっている。また、３年次前期と同様に、「材料工学実験」により「適用・分析」の能力を培い実践することにより、より確実な「知識・理解」として体得する。

４年次：

各授業科目を通して修得した知識や技能の体系化を「材料工学卒業研究」で図り、研究者・技術者としての実践力を身に付け、問題発見能力や問題解決能力を高める。「材料工学卒業研究」を実施することで、これまで学んだ知識や技法を通して、実践的な研究課題解決能力を身に付けるとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 86 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　86 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（18 単位）

(c)学科・専攻科目（44 単位）

(d)卒業研究（８単位）

(e)その他

学科群共通科目と学科・専攻科目の中から 13 単位以上修得する。

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・材料工学専攻

②教育の特色

社会から求められる専門性と多様性に対応し、材料工学の分野の広がりと専門教育の深化の両方に対応するため、学士課程と修士課程のシームレスな６年一貫型教育を行う。そして、学士課程においても各授業科目で修得した基礎知識や技能の体系化を図ったうえで先端教育も行い、問題発見能力や問題解決能力を高める。修士課程では、材料工学における物質プロセスや材料物性、機能性材料、エネルギー材料に関する先端技術と研究に触れながら、細分化・高度化した材料工学に関する専門的な知識を修得させ、材料工学分野の研究開発者としてより高い水準の実践的な技能を身に付けさせる一方で、学士課程で行っていない基礎教育の部分も補って、工学全体に関わる技術の現状を幅広く理解し、材料工学的観点から新たな視点で課題を解決し、より細分化・高度化した専門知識とより実践的な実験技術を習得するとともに、最先端の技術開発を行うことができる幅広い知識を自らの力で身に付け、社会のニーズに適応しうる創造性豊かな研究者・技術者を育成する。

７－３．応用化学科／Ⅱ群

（１）応用化学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	応用化学は、人類が豊かで持続的に発展できる社会を実現するための優れた材料の創出と活用を目指す学問である。 本学科では、生活の基盤をなす材料の物性を原子・分子のレベルで理解・制御し、物質に関する科学技術の新領域を創出し、地球環境との調和ならびに豊かな物質社会と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者を養成することを目指す。そのため、以下の教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。 ・自然界に潜む化学現象の知識を獲得し、かつ理解すること。 ・化学反応に特徴的な現象を通して、論理的な思考、機器操作における専門的な技能を身に付けること。 ・化学現象に関する問題への感受性を発達させること。 ・多様な職業背景や実生活に適用可能である、化学反応の考え方を理解し、専門職にふさわしい能力を有する人材に成長すること。
参照基準	日本学術会議『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 化学分野』2019 年を参照。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-h190221.pdf
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1. （主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2. （協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。

	B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 物質・材料に関する基礎的な特性・現象を説明できる。 B-4. 物理学や数学などの自然科学分野において基礎的な理論や概念を説明できる。 B-5. 物理化学の基礎法則より、自然界の化学現象を説明できる。 B-6. 有機化学の基礎法則より、様々な有機物質の性質や反応を説明できる。 B-7. 無機化学の基礎法則より、様々な無機物質の構造と性質を説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 情報科学の基礎を理解し、活用できる。 C-1-2. 種々の分析装置の基本原理を理解し、定性・定量分析を正しく実施できる。 C-1-3. 化学をベースとした様々な材料設計が説明できる。 C-1-4. 化学と社会の関わりを専門分野の学習を通して理解できる。 C-2 創造・評価 C-2-1 適切に情報を収集し、知識を統合的に把握できる。 C-2-2 化学を含む自然科学の方法論を論理的に思考できる。 C-2-3 科学学技術社会に潜む諸問題を発見できる。 **D.実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 問題を本質的に理解し、それを解決するための方法を提示し、実行できる。 D-3. 周りと協力しながら問題解決できる。 D-4. 化学の発展へ自ら積極的に寄与できる。

（２）応用化学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（1 年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学

科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅱ群：物質系」では、この学科群共通教育を通して、物質系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、「細胞生物学」と「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「無機化学第一」、「有機化学第一」、「金属材料大意」、「物理化学第一」、「量子力学第一」、「機械工学大意第一」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「専門分野の知識・能力・ものの考え方（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

全学共通教育科目、工学部共通教育科目、学科群共通教育科目を通して工学系人材としての共通基盤を形成した上で、体系的に接続した学科・専攻における学士・修士一貫専門教育科目を通して、専門性を高度な水準で極めることを目指す。

すなわち、応用化学科独自のカリキュラムとして、学科必修科目および学科選択科目を開設し、以下のように学修目標の達成に向けた学修を進める。

まず、化学の基礎となる「有機化学」「無機化学」「物理化学」「量子化学」を網羅的（第一～第三または第四まで）に学修し、原子・分子レベルの視点に立った物質の性質および現象理解の手法を学習する。これらの基礎化学をベースとして「高分子化学」「分析化学」「生化学」「化学工学」を学ぶことで「知識・理解（B-4,5,6,7,8）」を育成する。さらに、分子・物質が機能性を発揮するメカニズムや発揮する機能性についてより専門性の高い「生化学」「分子組織化学」「生体機能化学」「触媒化学」「表面化学」「応用化学実験」を通して学習し、「複素関数論」や「数理統計学」などの基礎数学も学びながら、「物理化学演習」「量子化学演習」の中でその活用力も保証し、「適用・分析（C-1-1,2,3,4,5）」を育成する。一方、最先端の学術論文の精読を行う授業科目（専門英語）を通して英語によるプレゼンテーション方法を訓練し、国際性とプレゼンテーション能力を身に付け、「創造・評価（C-2-1）」に繋げる。さらに、工学技術者・研究者として必要な自然科学への知識や日常の化学における問題点を捉える能力の向上を「応用化学実験第一・第二」で図りながら、化学者としての総合的な素養を高め、「創造・評価（C-2-2, C-2-3）」を醸成する。特に本学科では、化学者として重要な化学物質の取り扱いや危険性を「安全学」の講義を通して学ぶ。

応用化学科独自の情報系科目としては「データサイエンス」を開設し、近年重要となりつつある情報科学と応用化学との融合について学習する。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す（実践（D-2,3,4））。学士・修士６年一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》
・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

応用化学科では、物質の構造・性質・反応を原子・分子レベルで理解し、原子・分子を設計・操作して新物質の合成や物質の変換およびプロセスの開発などを行うための基礎となる知識を、持続可能な社会構築のために活用できる人材の育成を目的として学修内容を定めている。

応用化学分野の範囲は多岐にわたり、細分化された様々な領域に分かれている。物質・材料に関する基礎的な特性・現象を理解した上でさらに専門分野の学修の効果を高めるためには、ある定程度焦点を絞って教育を行う必要がある。しかし、それぞれの分野が相互に関連しており、多様な専門家が連携しながら研究開発を行っていることも事実である。そのため、応用化学分野を独立性の高い複数学科に分けて教育することは、学生の将来の研究開発には望ましくない。そこで、本学では、幅広い基礎知識を修得した上で、大学院の専門教育にスムーズに接続できるよう本学科の中に、主に機能材料の創成を学ぶ機能物質化学コースと主に分子集積化学を学ぶ分子生命工学コースの２つのコースを設ける。

また、本学科では情報教育を強化し、２年次後期科目「データサイエンス」において膨大な論文データの収集解析から機械学習によるモデルの構築、解の導出までの一連の流れを習得させ、データサイエンスを応用化学の実践の場に活用できる人材の育成を行う。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群共通教育

学科群指定の共通教育科目での学びを通して、物質・材料の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科・専攻教育科目のための土台を築き、本学科の学生に求められる能動的学修能力を養成する。

１年次の工学部共通・基幹教育科目には、生物・生体関連物質に関する科目が含まれておらず、また物質・材料の基礎となる熱力学科目もⅡ群にとっては充分でない。そこで生物・生体の入門科目に相当する「細胞生物学」、ならびに１年次の「熱力学基礎」の発展科目である「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を学科群共通・基幹教育の必修科目とする。

学科群共通・専攻教育科目としては、物質・材料に関連する「無機化学第一」「有機化学第一」「金属材料大意」「物理化学第一」「量子力学第一」「機械工学大意第一」を必修科目とする。また、物質の取り扱いや危険性を「安全学」の講義を通して学ぶ。

２年次（後期）： 以降、学科・専攻教育

専攻教育科目を中心に履修し、応用化学に関する課題を探索し解決するために必要な基礎的な知識・技能を身に付けるための学びを開始する。化学の基礎学問となる有機化学、無機化学、物理化学、量子化学については２年次前期からの接続授業である「有機化学第二」「無機化学第二」「物理化学第二」「量子化学第二」で学習の範囲をさらに拡大していく。また、上記の基幹科目をベースとして修得できる高分子化学、分析化学、生化学、化学工学に関しても「高分子化学第一」「分析化学第一」「生化学第一」「化学工学第一」を必修科目として開始する。また、上記の学習内容を、実際に機器を用いた実習形式に学ぶ基礎的な実技必修科目「応用化学実験第一」も開始するほか、３年次以降の専攻科目に共通して必要となってくる「複素関数論」や「数理統計学」などの基礎数学も学ぶ。「データサイエンス」では、近年重要となりつつある情報科学と応用化学との融合について学習する。

３年次：

２年次後期に引き続き、有機化学、無機化学、物理化学、量子化学、高分子化学、分析化学、生化学、化学工学の学習を進め、より広範な応用化学領域の網羅を進める。３年次前期においては、それまでの学修内容を複合的に含み、より最先端の内容を含む「分子組織化学」を履修することで実践的研究の内容に触れる。分子・物質が機能性を発揮するメカニズムや発揮する機能性について学ぶことで、高度な専門知識の融合を図り、応用化学における研究者として必要な知識を修得する。これらの学修において得られる「知識・理解」は、「応用化学実験第二」により実践することで、より確実な「知識・理解」として体得できる。

３年次後期は、選択科目として配置する「有機化学第四」「無機化学第四」「高分子化学第三」「分析化学第三および演習」で、それぞれの学修領域の内容理解を深める。物理化学と量子化学に関しては「物理化学演習」「量子化学演習」として知識を使いこなせる訓練をすることで、「知識・理解」を完結させる。より専門性の高い「表面化学」「触媒化学」「生体機能化学」を開講し、学生がこれから進む道を自ら選んで学修内容を高度化できる設計になっている。また、３年次前期に引き続き「応用化学実験第三」を履修することで、実技を通じて学修内容を体得する。

さらに、必修科目として「専門英語」を開講し、最先端英語論文の精読法を学び４年次から行う卒業研究の事前準備を進めると同時に、英語プレゼンテーションを訓練し国際性とプレゼンテーション能力を身に付けさせる。

４年次：

各授業科目を通して修得した知識や技能の体系化を「応用化学卒業研究」で図り、研究者・技術者としての実践力を身につけ、問題発見能力や問題解決能力を高める。「応用化学卒業研究」を実施することで、実践的な研究課題解決能力を身に付けるとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機となる。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 86 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　86 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（18 単位）
(c)学科・専攻科目（40 単位）
(d)卒業研究（８単位）
(e)その他

学科群共通科目と学科・専攻科目の中から 17 単位以上修得する。
（ただし、複素関数論及び数理解析概論のうち１科目の修得を要する。）

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・応用科学専攻

機能物質化学コース

分子生命工学コース

②教育の特色

応用化学科では、大学院応用化学専攻の２コース（機能物質化学コースと分子生命工学コース）にシームレスに接続し、６年一貫型の教育が行えるよう２コース（機能物質化学コースと分子生命工学コース）が修士課程２コース体制（機能物質化学コースと分子生命工学コース）で教育を行う。

機能物質化学コースにおいては主に高分子材料・無機材料を用いる触媒材料、複合素材、エレクトロニクス、ナノデバイス、オプティクスおよびそれらを支える理論解析を行い、分子生命工学コースにおいては有機材料、分子集積材料、ソフトマテリアルを用いるバイオテクノロジー、ヘルスケア、エネルギー材料、物質変換材料を研究する明確に異なる領域を形成する。

２つのコースではこれらの専門領域にスムーズに接続する学修カリキュラムをデザインできるように６年一貫型カリキュラムが組まれている。従って、学士課程においては多くの学修内容を共有するが、修士課程においては目的から遡って何を学ぶ必要があるかを思考しながら履修するアクティブ・ラーニング要素を持つ目的指向型の学修デザインが必要となる。

応用化学科においてはこのようなコース体制により、応用化学に関する幅広い俯瞰力を持ちつつ細分化された専門的な領域に対応できる人材の育成を目指す。

７－４．化学工学科／Ⅱ群

（１）化学工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	化学工学科では、物理化学、反応工学、流体工学、伝熱工学、物質移動工学、プロセスシステム工学、生物化学工学で構成される化学工学の基礎を学び、環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスに関する専門基礎を教育し、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者などの人材を育成する。そのため、以下の教育目標を達成した者に学士（工学）の学位を授与する。 ・工業的な化学プロセスやバイオプロセスが学問的基盤としている化学工学分野の知識を獲得し、かつ理解すること。 ・物質に関わる物理・化学・生命現象のメカニズムの解明を通して、実際の材料開発から製品設計・製造まで応用するという総合的観点からの独創的な思考や専門的な技能を身に付けること。 ・技術者・研究者に必要な一定の教養と倫理観を身につけていること。 ・化学工学分野の知識や技能を環境・エネルギー分野や生物・生命分野へ展開できる能力を身に付けること。
参照基準	日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）
学修目標	**A. 主体的な学び・協働** A-1. （主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2. （協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B. 知識・理解**

	B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3.物質・材料に関する基礎的な特性・現象を説明できる。 B-4.化学プロセス・バイオプロセスに関連する物質および現象を説明できる。 B-5.基礎学問に基づいて化学プロセスの原理を説明できる。 B-6.化学工学の観点から、物質・熱の移動、化学反応、生物、システム制御の基礎を理解し、その原理と技術を説明できる。 **C. 能力** C-1. 適用・分析 C-1-1.化学プロセス・バイオプロセス全体の動作を説明できる。 C-1-2.化学プロセス･バイオプロセスに関わる現象を理論に基づいてモデリングし、解析できる。 C-2 創造・評価 C-2-1.化学工学の体系的な理解の上に、化学プロセス･バイオプロセスを設計できる。 C-2-2.実験結果を分析し、論理立てて自分の考えを表現できる。 C-2-3.論理的思考を駆使して新たな科学技術を体系的に把握できる。 C-2-4.科学技術社会に潜む諸問題を発見し、合理的に解決できる。 C-2-5.「ものづくり」を通して積極的に自分の能力を社会還元できる。 **D. 実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。

（２）化学工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていること

を受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（サイバーセキュリティ基礎論、プログラミング演習）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（サイバーセキュリティ基礎論、プログラミング演習、データサイエンス序論）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅱ群：物質系」では、この学科群共通教育を通して、物質系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、「細胞生物学」と「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「無機化学第一」、「有機化学第一」、「金属材料大意」、「物理化学第一」、「量子力学第一」、「機械工学大意第一」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「専門分野の知識・能力・ものの考え方（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」および「新しい価値の創造」において、より専門分野に特化した内容を学ぶため、専攻教育科目を開設する。

化学工学科では、この学士・修士一貫型専攻教育科目を通して、化学プロセス・バイオプロセスの基盤をなす科目を学び、化学工学技術者として最低限必要な知識を修得し、簡単なプロセスを設計できる能力を身に付ける。具体的には、化学プロセス・バイオプロセスの基本要素

である物質・熱の移動、化学反応、バイオ、システム制御に関する科目（「化学工学量論」、「物質移動工学」、「基礎流体工学」、「基礎熱工学」、「反応工学第一」、「生物プロセス工学第一」、「プロセス制御」など）を必修科目とする。これら化学工学の基盤となる部分については、修士課程でさらに深く学ぶ。また、データの分析力を高めるために、「化工数学」、「化工情報処理演習」などを必修科目とする。一方、プロセスに関連する様々な物質および現象に関する科目（「エネルギー材料工学」、「機械工学大意第二」、「応用物理学第一・第二」など）を選択科目とする。これらの授業科目を通して、「専門分野の知識・能力・ものの考え方（B-4、5、6、C-1-1、1-2）」を育成する。

さらに化学プロセス・バイオプロセスを自ら設計できるように、化工流体工学、化工熱工学、反応工学第二、プロセス計装、生物化学工学などを必修科目とする。また、化学工学を通して論理的な思考力、問題解決能力を高めるために、化学工学実験第一～第三などを必修科目とする。これらの授業科目を通して、「新しい価値を創造する（C-2-1、2-2、2-3、2-4）」能力を培う。

化学工学科独自の情報系科目としては「データサイエンス」を開設し、近年重要となりつつある情報科目と化学工学との融合について学修する。

【卒業研究】（４年）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

化学工学科では、物理化学、反応工学、生物化学工学、物質移動工学、伝熱工学、流体工学、プロセスシステム工学などの学問から構成される化学工学をもとに、「生物・生命」、「環境・エネルギー」、「マテリアル」の３領域へ応用するための教育を行うことによって、化学工学分野の知識や技能を環境・エネルギー分野や生物・生命分野へ展開できる能力を身に付ける。

さらに社会が求める優れた人材の養成をめざすために、研究を通した教育によって学部４年と修士２年を連結した６年一貫型教育を行う。従来は学部で化学工学に関する基礎的な知識基盤の教育を行い、修士課程でこれらを発展させた高等専門科目の教育を行っていたが、社会が望む多様性と専門性に対応できるようにするために、化学工学における環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスに関する先進技術と研究に早くから触れながら学修に臨み６年一貫型教育を行う。化学工学の分野の広がりと専門教育の深化に対応するには、学部の基礎的な教育、修士課程の専門教育と分けるのではなく、学部でも実践的な先端教育、修士課程でも基礎的な工学教育を行うことが必要となる。化学工学科と化学工学専攻は、６年一貫型教育における授業科目による多様な知識の獲得と実践、学びの深化を行うことで実践力を持った研究開発者の育成をめざす。

情報系教育科目として「データサイエンス」を３年次に必修科目として配しており、化学工学で重要となる各種実験データや数値データの取り扱い方法の基礎に加えて最先端の情報技術（ニューラルネット、統計的手法、機械学習等）、および活用事例（プラントの設計、運転、制御、ソフトセンサー、実験計画等）に重点を置いた知識や技術を学習する。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

<u>１年次</u>： 工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群共通教育

学科群指定の共通教育科目での学びを通して、物質・材料の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科・専攻教育科目のための土台を築き、本学科の学生に求められる能動的学修能力を養成する。

１年次の工学部共通・基幹教育科目には、生物・生体関連物質に関する科目が含まれておらず、また物質・材料の基礎となる熱力学科目もⅡ群にとっては充分でない。そこで生物・生体の入門科目に相当する「細胞生物学」、ならびに１年次の「熱力学基礎」の発展科目である「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を学科群共通・基幹教育の必修科目とする。

学科群共通・専攻教育科目としては、物質・材料に関連する「無機化学第一」「有機化学第一」「金属材料大意」「物理化学第一」「量子力学第一」「機械工学大意第一」を必修科目とする。また、物質の取り扱いや危険性を「安全学」の講義を通して学ぶ。

２年次（後期）： 以降、学科・専攻教育

専攻教育科目を中心に履修し、自分の取り組む課題を明確化し、自分で課題を選べるようにする。工業的な化学プロセスやバイオプロセスが学問的基盤としている化学工学分野の知識を獲得し、かつ理解できるようにするために必修科目と選択科目の授業を配置する。「化学工学実験第一」を必修科目とし、物理・化学・生命現象を実験や数値計算により解析できるようにする。

３年次：

専攻教育科目を中心に履修し、自らの力で課題を設定して、課題の解決方法を模索する能力を培う。物理化学、反応工学、生物化学工学、物質移動工学、伝熱工学、流体工学、装置設計学、プロセスシステム工学で構成される化学工学を基礎として、環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスに関する専門知識を学べるように必修科目と選択科目を配置する。「化学工学実験第二・第三」を必修科目とし、化学プロセスやバイオプロセスにおいて用いられる各種装置を正しく操作し、実験や計算の結果を分析して、正しく自分の考えを表現することができるようにする。

４年次：

１年次から３年次までの教育課程の履修を通じて修得した化学工学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学修経験として卒業研究を実施する。これにより、実践的な課題設定・仮説検証・問題解決能力を養成するとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機となる。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 85 単位以上を修得し、133.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）

(b)課題協学科目（2.5 単位）

(c)言語文化科目（12 単位）

(d)文系ディシプリン科目（４単位）

(e)理系ディシプリン科目（23 単位）

(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）

(g)健康・スポーツ科目（１単位）

(h)総合科目（２単位）

(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　85 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）

(b)学科群共通科目（18 単位）

(c)学科・専攻科目（47 単位）

(d)卒業研究（８単位）

(e)その他

学科群共通科目と学科・専攻科目の選択科目の中から９単位以上修得する。

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・化学工学専攻

②教育の特色

社会が求める優れた人材の養成をめざすために、研究を通した教育によって学部４年と修士２年を連結した６年一貫型教育を行うことで、化学工学を中心とする幅広い基礎学問を修得し、そこで学んだ基礎知識をもとに、卒業後に自ら学習（アクティブ・ラーニング）することによって、将来的により高度な専門性を有することを可能とする。

化学工学の分野の広がりと社会からのニーズの多様性、専門性の深化に対応するためには、従来の学士課程での基礎的な知識基盤の教育、修士課程での専門教育とを分けるのではなく、学士課程でも幅広い基礎教育に基づく実践的な先端教育、修士課程でも基礎的な工学教育を行うことが必要となるため、化学工学科と化学工学専攻は、６年一貫型カリキュラム幅広い基礎学問の修得に基づいた実践力を持った研究者・技術者を育成する。

７－５．融合基礎工学科／Ⅱ群：物質材料コース、Ⅲ群：機械電気コース

（１）学科の特色

融合基礎工学科の教育上の目的は、エネルギー問題や環境問題などの現代社会の最重要課題の解決に携わる、主体的かつ創造的な視野と能力を備えた工学系“π 型人材”（図 7-5-1 参照）の育成である。この“π 型人材”とは、物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学分野、または機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学分野を主専門分野（メジャー）とする学修を通じて身に付けた専門知識と技能（以下、専門力（①））に加え、情報科学分野を副専門分野（マイナー）とする学修を通じて身に付けた情報応用力（②）、さらに、PBL・実践教育を通じて①と②をつなぐ俯瞰力・実践力（③）を身に付け、それらを組み合わせて新たな価値観、他分野への展開を創造できる人材である。このため、融合基礎工学科は、複雑で多様な課題を抱えた現代社会において活躍できる“π 型人材”を養成可能なカリキュラムを特色として、次の２コース、１プログラムを編成する。

図 7-5-1　本学科で育成する“π型人材”像

Ⅰ）物質材料コース

金属の様々な物理的特性や、物質間の電子のやり取りに伴う化学反応、材料特性の発現に必要な材料組織の制御など、物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学に関連する学際領域の専門知識と技能、専門分野に活用できる情報科学の知識と技能を身に付けさせる。

Ⅱ）機械電気コース

電気エネルギーの発生とその利用や、熱力学的理論サイクルと動作原理、工学分野の流体力学的現象に関する解析手法など、機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学に関連する学際領域の専門知識と技能、専門分野に活用できる情報科学の知識と技能を身に付けさせる。

Ⅲ）高専連携教育プログラム

九州・沖縄地区の９高等専門学校（久留米、有明、北九州、佐世保、熊本、大分、都城、鹿児島、沖縄）の専攻科からの編入学生を対象に、本学科と高専専攻科の双方の強み、教育資源の有効活用により教育内容の高度化を図る連携教育プログラムを実施する。

高等専門学校の本科では、機械工学、電気・電子工学、材料工学といった専門分野の早期専門教育を実施しており、優れた専門知識を持つ学生を輩出している。そうした学生を、本学科物質材料コース、又は機械電気コースに受入れることで、①専門力を高めるとともに、

情報科学教育を通した②情報応用力、PBL を通じた③俯瞰力・実践力も身に付けさせ、本学科が目指す工学系“π型人材”へと育成する。

高等専門学校の学生の編入は、本学科が目指す“π型人材”育成を実質化するうえで極めて重要な意味を持つ。「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」（学校教育法第百十五条）を目指し、座学だけでなく実験・実習にも重点を置く高等専門学校の教育を経験してきた編入生の「実際に手を動かして試行する」能力が傑出していることには定評がある。彼らが、「理論的基盤の上に思考する」ことを強みとする傾向が強い１年次から本学科で学ぶ学生と切磋琢磨し、感性を共鳴させ、相互に学び合う環境を PBL 教育を中心とする実践科目の中で整えることで、他に類を見みない高度な水準の③俯瞰力・実践力を育成する「心と手(Mens et Manus)」の教育を実現することが可能になる。

（２）学科名称

融合基礎工学科　(Department of Interdisciplinary Engineering)

文部科学省と経済産業省主催の「理工系人材育成に関する産学官円卓会議」の資料によると、企業にとって最も関連深い分野は、機械（システム工学含む)、電気電子、物質材料（応用化学、冶金、化学工学等関連分野含む)、及びそれらを組み合わせた分野であるとの調査結果が示されており、本学科が主専門分野とする物質・材料工学と機械・電気電子工学という融合分野は、産業界からのニーズに合致する分野であると言える。また、これらの分野は、工学教育の基幹となる主要分野で構成していることから総称して「基礎工学」と呼べる。本学科では、この基礎工学を中心とする分野融合の教育を通じて、専門力、情報応用力、俯瞰力・実践力を身に付けた人材の育成を目指すことから、このことを標榜する学科名称として、「融合基礎工学科」とした。

なお、融合基礎工学科という名称は、本学科に設置する高専連携教育プログラムにも相応しい。高等専門学校の本科では、一つの専門分野に特化した教育が早い段階から行われているため、専攻科では複数の専門分野を学ぶことによる融合型教育が推奨されており、JABEE の認証分野の１つにも、従来型のディシプリン名ではない「工学（融合複合・新領域)」が設けられている。したがって、高専専攻科と本学工学部が共同で行う新しいプログラムで１つのディシプリンを越え、基礎工学を融合させた教育を行う。

（３）融合基礎工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

学科の教育の目的	融合基礎工学科では、物質科学、材料工学、機械工学、電気電子工学の従来型工学系ディシプリンに学際領域を包含した専門分野（物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学、または機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学）をメジャー分野に、情報科学をマイナー分野に設定し、PBL教育で両者を実践的に結び付けることにより、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な問題に対応し、解決することができる工学系π型人材を育成することを教育目標としている。 **【融合基礎工学科の教育目標】** ・数学および物理、化学等の自然科学の基礎的な理論や概念を十分に理解した上で、物質・材料工学（物質材料コース、高専連携教育プログラム）または機械・電気電子工学（機械電気コース・高専連携教育プログラム）、および関連する学際領域の専門知識と技能を習得すること（専門力）。 ・数理・データサイエンス・AI を上記専門分野に活用できる情報科学の知識と技能を習得すること（情報応用力）。 ・PBL 科目や実践科目を通じて、実践的課題に論理的思考を駆使し、ものごとを俯瞰的に眺め、問題の本質を捉えるとともに、自ら手を動かして問題を解決する方法を発想し、実行することができる（俯瞰力）。 ・世界的かつ多様な価値観と高度な情報リテラシー、および技術者倫理を基盤に、責任感ある技術者・研究者として、現代社会の多様なニーズに応えようとすることができる（実践力）。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. （https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） ・International Engineering Alliance (2013), “Graduate Attributes and Professional Competencies.” (https://www.ieagreements.org/assets/Uploads/Documents/Policy/Graduate-Attributes-and-Professional-Competencies.pdf) ・European Network for Accreditation of Engineering Education (ENAEE) (2015), “EUR-ACE Framework Standards and Guidelines.” (https://www.enaee.eu/wp-content/uploads/2018/11/EUR-ACE-Framework-Standards-and-Guidelines-Mar-2015.pdf) ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）

学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 **（物質材料コース・高専連携教育プログラム）** B-3. 物質・材料に関する基礎的な特性・現象を説明できる。 **（機械電気コース・高専連携教育プログラム）** B-3. 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、現代物理学の基礎を理解し、それを用いて種々の物理現象を説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 自然科学・工学分野の諸現象をモデリングし、解析できる。 C-1-2. プログラミングやデータ処理技術を自らの専門分野に活用できる。 （物質材料コース・高専連携プログラム） C-1-3. 各種分析装置の基本原理を理解し、定性・定量分析を正しく実施でき、その分析結果について自らの考えを論理的に表現できる。 （機械電気コース・高専連携プログラム） C-1-3. 機械・電気電子工学分野の実験装置や解析ソフトウェアの基本原理を理解し、実験や数値シミュレーションの結果を分析し、自らの考えを論理的に表現できる。 C-2. 創造・評価 C-2-1. 専門分野で必要となる装置やソフトウェアの設計において、自らの知識と理解を有効に活用できる。 C-2-2. 専門分野を含む自然科学の方法論を論理的に思考できる。 **D.実践** D-1.技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。

	D-2. 問題の本質を理解し、それを解決するための方法を発想し、主体的に実行できる。 D-3. 科学技術社会に潜む諸問題を自ら発見し、合理的な手法で解決できる。 D-4. 論理的思考を駆使して、新たな科学技術を体系的に把握できる。 D-5. 専門分野と情報科学（数理・データサイエンス・AI）の知見を融合させて、新しい価値の創出に貢献し社会に還元できる。

（４）融合基礎工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

（物質材料コース）

「Ⅱ群：物質系」では、この学科群共通教育を通して、物質系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、「細胞生物学」と「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「無機化学第一」、「有機化学第一」、「金属材料大意」、「物理化学第一」、「量子力学第一」、「機械工学大意第一」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「専門分野の知識・能力・ものの考え方（B-3）」を保証する。

（機械電気コース）

「Ⅲ群：機械系」では、学科群共通教育を通して、機械系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、１年次に配置する「無機物質化学Ⅱ」に加え「数理統計学」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「材料力学Ⅰ」、「材料力学Ⅱ」、「工業力学」、「熱力学Ⅰ」、「流れ学Ⅰ」、「現代物理学入門」、「工学概論」、「ベクトル解析と微分方程式」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「知識・理解（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

物質材料コース・機械電気コースとも、それぞれの基礎となる学科群共通教育を経て、２年次後期から開設される学科共通・専攻教育科目、物質材料コース・専攻教育科目、機械電気コース・専攻教育科目を通じて、「専門分野の知識・能力・ものの考え方(B-3）」を強化し、「情報科学を専門分野に有効に活用できる情報応用力(B-2,C-1-2,C-2-1)」や「物事を俯瞰的に眺め、自ら問題を発見し解決していく俯瞰力・実践力(D-2,3,4,5)」を育成する。

（学科共通）

学科共通科目の情報系科目である「融合基礎情報学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」（必修）や「融合応用情報学A,B,C,D」（選択）を通じて、「情報科学を専門分野に有効に活用できる情報応用力(B-2,C-1-2,C-2-1,D-5)」を育成する。さらに、学科共通科目である「グローバル科目Ⅰ,Ⅱ」を必修として、「自らの研究内容を英語で正確に説明できる情報発信能力（A-3)」を育成する。学科共通科目の「融合基礎工学展望」、「融合工学概論Ⅰ,Ⅱ」等を通じて、「物事を俯瞰的に眺め、自ら問題を発見し解決していく俯瞰力・実践力(D-2,3,4,5)」を身に付ける。また、学科共通科目として開設される産学連携関連科目（「知的財産論」、「インターンシップⅠ,Ⅱ」等）を履修することで、「社会における工学の価値の理解（D-1)」を深める。

（物質材料コース）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方(B-3）」を固めるための学科共通科目として、「複素関数論」を必修として、「常微分方程式とラプラス変換」、「化学反応論Ⅰ,Ⅱ」を選択必修とする。さらに、物質材料コース科目として、「材料力学入門」、「物理化学第二」、「無機化学第二」、「分析化学第一」、「弾性・塑性変形工学」、「固体物理Ⅰ」、「結晶学基礎」、「分光学基礎」、「機器分析」学等を必修科目とする。これらの科目を通じて、物質・材料工学分野の専門基礎力を固め、「相平衡論」、「電気化学Ⅰ,Ⅱ」、「触媒化学Ⅰ,Ⅱ」等の選択科目と「物質材料科学実験Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ」の必修科目を通じて、専門知識・技能（専門力）をさらに強化する。(B-3, C-1-1, C-1-3, C-2-1, C-2-2)

（機械電気コース）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方(B-3）」を固めるための学科共通科目として、「複素関数論」を必修として、「フーリエ解析と偏微分方程式」、「エネルギー変換工学」を選択必修とする。さらに、機械電気コース科目として、「力学」、「流体力学Ⅰ」、「熱エネルギー変換基礎」、「電磁気学Ⅰ」、「電気回路Ⅰ」等を必修科目とする。これらの科目を通じて、機械・電気電子工学分野の専門基礎力を固め、「自動制御」、「量子力学」、「電磁気学Ⅱ」、「電気回路Ⅱ」などの選択科目と「機械電気科学実験Ⅰ～Ⅳ」、「機械電気科学設計演習」等の必修科目を通じて、専門知識・技能（専門力）をさらに強化する。(B-3, C-1-1, C-1-3, C-2-1, C-2-2)

（高専連携教育プログラム）（３年次～４年次）

学科共通科目の「融合工学概論Ⅰ,Ⅱ」（必修）を通じて、「物事を俯瞰的に眺め、自ら問題を発見し解決していく俯瞰力・実践力(D-2,3,4,5)」を育成する。PBL 科目である「研究プロジェクト」を必修とし、産学連携の共同研究等を通じて実践的な研究力を高め、最先端研究を行うための能力（D-2,3,4）を育成する。各高専で情報系科目（必修）を履修した後、学科共通科目の情報系科目である「融合応用情報学 A,B,C,D」（選択）を通じて、「情報科学を専門分野に有効に活用できる情報応用力(C-1-2,C-2-1,D-5)」を強化する。学科共通科目である「グローバル科目Ⅰ,Ⅱ」を必修として、「自らの研究内容を英語で正確に説明できる情報発信能力（A-3）」を育成する。また、学科共通科目として開設される産学連携関連科目（知的財産論、インターンシップⅠ等）を履修することで、「社会における工学の価値の理解（D-1）」を深める。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す（D-2、3、4、5）。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要

な契機とする。

本学科の強みの一つは、１年次から学ぶ２つのコース学生と、本学科と高専専攻科の双方で教育を受ける編入学生が同じ教育の場に身を置いて学ぶことで、“π 型人材”を実現する上で不可欠な、高度な水準の俯瞰力・実践力の達成を期待できる点にある。多様な感性、特性を持つ学生が切磋琢磨し、学び合うことによる相乗効果が、卒業研究に具現化することが期待される。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士６年一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- 「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
- 「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（５）教育方法の考え方と授業科目

図7-5-2に２コース（物質材料コース及び機械電気コース）と高専連携教育プログラムの教育課程編成の概略を示す。

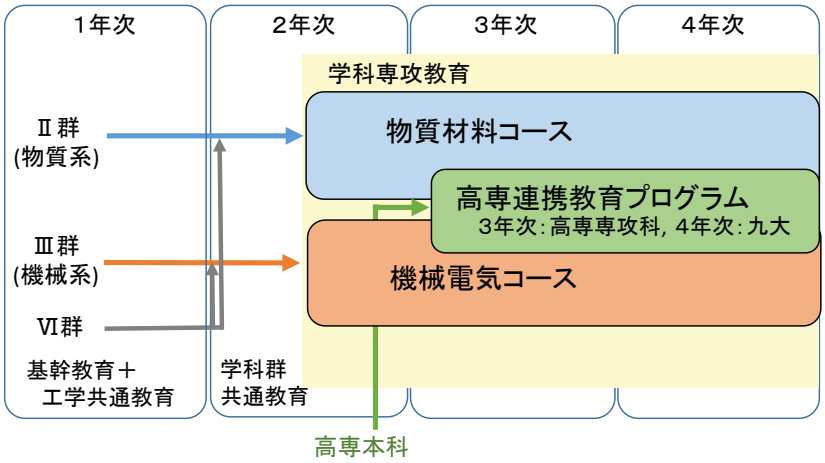


図7-5-2　融合基礎工学科の教育課程の編成

①物質材料コース及び機械電気コース

物質材料コースの学生はⅡ群（物質系）、機械電気コースの学生はⅢ群（機械系）の学科群共通科目を２年次春・夏学期に履修した後、秋学期以降に物質材料コース又は機械電気コースのいずれかに所属する。これ以降の学科専攻教育では、メジャーとなる物質・材料工学分野又は機械・電気電子工学分野に関するコース専門科目（物質材料コース科目又は機械電気コース科目）の学修を通して、各々の分野の専門力を強化し、さらにマイナーとなる情報科学に関連する科目を履修することで各々の専門分野において情報科学を有効に応用できる情報応用力を養成する。加えて、学科共通科目として設置した PBL 科目や産学連携関連科目を履修することにより、環境・エネルギー問題に代表されるグローバルな課題の解決に不可欠な俯瞰力・実践力を涵養する。

各コース専門科目では、物質・材料工学分野又は機械・電気電子工学分野における基礎および共通基盤となる科目、応用・展開型の科目、および実践力を養成するための実験・演習科目を配置し、段階的に専門力を強化する。

学科共通科目の履修を通じて、両分野を融合した専門知識を習得し、事象を俯瞰的に眺める視点と自ら課題を発見し解決する能力の基盤形成を図り、分野融合マインドを醸成する。まず、２年次秋学期に学科共通の動機づけ必修科目である「融合基礎工学展望」を履修し、両コースの工学専門分野の概要と情報科学の基礎及び応用事例を学ぶ。また、３年次に開講する PBL 科目である「融合工学概論Ⅰ、Ⅱ」を履修し、環境・エネルギー分野における分野融合の必要性や関連産業分野における製品・システム開発の最新動向を実感させる。さらに、４年春学期に物質・材料工学と機械・電気電子工学を融合させた学際領域の先端トピックスを扱う科目を配置する。学際性を追求する大学院総合理工学府の修士課程に接続した６年一貫型教育（後述（９）参照）において、これらの科目群は大学院専門科目の導入科目として位置付けられる。

物質・材料工学および機械・電気電子工学分野に活用できる情報応用力を養成するために、プログラミング演習を通じて、データ構造やアルゴリズム、多変数量解析や可視化、機械学習の基礎などを学ぶための数理・データサイエンスの必修科目と機械学習やビックデータ解析を現実的な課題に応用するための応用情報科目（選択）を学科共通科目として開設する。

②高専連携教育プログラム

本プログラムは、九州大学工学部融合基礎工学科３～４年次に在籍し、57 単位を修得するとともに、九州・沖縄地区の９高専いずれかの専攻科に在籍し、62 単位を取得することにより、九州大学から学士（工学）の学位と高専から専攻修了証を授与する。（両方を満たさなければならない。）

編入後の九大と高専間の相互単位互換関係を図 7-5-3 に示す。３～４年次に履修する科目は、本学科２コースに設置される専門科目（30 単位）と、高専専攻科で設置し開講する科目（27 単位）からなる。高専専攻科設置科目（３年次）は、九大教員と高専専攻科教員双方が参画して教育にあたる「共同設置科目」８単位と高専教員が実施する科目 24 単位で構成する。「共同設置科目」として、実験等の計画・実施を自主的に行うために必要となる研究基礎力を身に付けるための実験・実習系科目（高専専攻科指導教員（主）と九大指導教員（副）で指導）、及びプログラミングやデータ科学の基礎を習得するための情報系科目を配置する。高専教員が実施する科目は、平成 30 年度高専本科で発足し、年次進行で実施中の「高専モデルコアカリキュラム」に準じた、大学学部専門教育において普遍性のある専門科目として、①本科で学んだ専門科目をさらに深化させる科目群、②本科で学んだ専門科目以外を学び専門性を広げる科目群、及び③国際実践（グローバル）科目群、で編成する。九大教員、高専教員からなる「連携教育プログラム教務委員会」（仮称）で、科目内容の精査と質保証の検証を実施する。

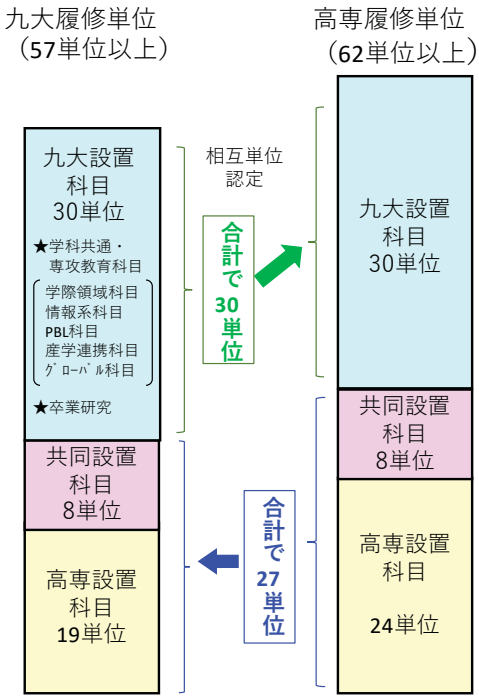


図 7-5-3　高専連携教育プログラムにおける九大と高専間の単位互換関係

（６）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育（物質材料コース／Ⅱ群、機械電気コース／Ⅲ群ともに共通）

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

なお、機械電気コースでは、Ⅲ群必修の基幹教育科目として「無機物質化学Ⅱ」を履修する。

２年次（前期）：　学科群共通教育

○物質材料コース（Ⅱ群）

学科群指定の共通教育科目での学びを通して、物質・材料の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科・専攻教育科目のための土台を築き、本学科の学生に求められる能動的学修能力を養成する。

１年次の工学部共通・基幹教育科目には、生物・生体関連物質に関する科目が含まれておらず、また物質・材料の基礎となる熱力学科目もⅡ群にとっては充分でない。そこで生物・生体の入門科目に相当する「細胞生物学」、ならびに１年次の「熱力学基礎」の発展科目である「基礎化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」を学科群共通・基幹教育の必修科目とする。

学科群共通・専攻教育科目としては、物質・材料に関連する「無機化学第一」「有機化学第一」「金属材料大意」「物理化学第一」「量子力学第一」「機械工学大意第一」を必修科目とする。また、物質の取り扱いや危険性を「安全学」の講義を通して学ぶ。

○機械電気コース（Ⅲ群）

Ⅲ群（機械系）として以下の必修科目を配置している。

材料力学Ⅰおよび材料力学Ⅱ
工業力学
熱力学Ⅰ
流れ学Ⅰ
現代物理学入門

その他、数学科目については、Ⅲ群（機械系）の全学科に共通して重要な科目である「数理統計学」や「ベクトル分析と微分方程式」を配置している。さらに、「工学概論」をⅢ群（機械系）の各学科の教育研究内容が概観できるような科目として配置し、学生の２年次秋学期での学科選択に資するよう配慮している。これら以外に、Ⅲ群学生の視野を広げ幅広い興味に応えることを目的として「原子力工学概論」、「応用量子物理学入門」をⅢ群（機械系）選択科目として配置している。

以下、２年次（後期）以降について、コース及びプログラム別に記載する。

〇物質材料コース

２年次（後期）：以降、学科・専攻教育

本学科および関連学科の学科・専攻教育科目を履修し、物理、化学、数学を基礎とした知識や技能を身に付けるための教育を開始する。まず、学科共通の動機付け科目である「融合基礎工学展望」（必修）を履修して、学科の目指す工学系 π 型人材に必要な学びの基本を理解する。物質材料コース・専攻教育科目の中から、力学、物理化学、量子論、材料学の各学問分野の基礎科目として、「材料力学入門」、「弾・塑性変形工学」、「物理化学第二」、「無機化学第二」、「分析化学第一」などを必修科目として学び、化学・材料に関する知識の基盤を作るとともに、関連学科から共通性が高い専攻教育科目も履修し、学問の基礎を広げる。さらに、３年次以降の専攻教育科目の理解を深めるために、「常微分方程式とラプラス変換」、「複素関数論」などの基礎数学科目を履修する。また、学科共通の情報系科目として「融合基礎情報学Ⅰ」を必修科目として履修することで、情報科学に関する基礎知識とプログラミング技法を習得する。

３年次

３年次からは筑紫キャンパスにおいて専攻教育を実施する。３年次の専攻教育では、学科共通の基礎科目に加え、各分野の基礎と専門の両立を目指した物質材料コース科目と工学的俯瞰力を養成する学科共通科目である「融合工学概論Ⅰ、Ⅱ」（「Ⅰ」は必修）を開講する。

３年次前期では、２年次後期の科目内容をより深化させた科目が設定され、力学分野では「材料強度学」、物理化学分野では「化学反応論Ⅰ、Ⅱ」、「相平衡論」、固体物性分野では「固体物理Ⅰ」、「結晶学基礎」、分析学分野では「分光学基礎」、「機器分析学」などを学ぶ。さらに、知識を経験として学ぶための化学・材料系の科学実験（「物質材料科学実験Ⅰ、Ⅱ」）（必修）により技能を養うとともに、講義と実験との関連性を理解する。３年次後期では、３年次前期の科目内容を深化させた化学系および材料系の専門科目である「電気化学Ⅰ、Ⅱ」、「触媒化学Ⅰ、Ⅱ」などを学ぶ。いくつかの専門科目においては専門性の高い講義が含まれるが、基本的には物質科学と材料工学を融合した講義科目を受講する。「物質材料科学実験Ⅲ、Ⅳ」（必修）では、ラボローテーション形式により高い専門性と広範囲の経験と技能を体得する。また、データ科学や機械学習に関連した学科共通科目の情報系科目（「融合基礎情報学Ⅱ、Ⅲ」（必修））を履修する。

４年次：

卒業研究を実施することで、各々の専門分野において情報科学を有効に活用して実践的な問題解決能力を養うとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

それぞれの学問分野で学部・修士一貫型教育を意識し、専門性をさらに高めた学際領域の先端トピックスを扱う学科共通科目として、「先端計測学」や「エネルギー・環境学 A,B」等を選択履修する。また、情報科学の応用実践科目（「融合応用情報学 A、B、C、D」）を選択履修することで、情報活用力を強化する。３年次後期から４年次前期におけるインターン

シップを通して産業界の最先端や諸課題を身近に体得するとともに、企業や公的研究機関から招いた外部講師による集中講義を通して産学界の物質・材料工学と基礎工学の融合の重要性を理解し、実践力に結び付ける能力を培う。さらに、英語による演習科目（「グローバル科目Ⅰ（論文)、Ⅱ（討論)」（必修）により自らの研究内容を英語で正確に説明できる能力を身に付ける。

〇機械電気コース

２年次（後期）：以降、学科・専攻教育

後期からは、基幹教育科目および工学共通・学科群共通の専攻教育科目を通して培った、数学、情報科学、物理学、化学および機械工学分野の基礎知識を基盤として、本学科・コースの専攻教育科目を履修し、知識と技能を深めるための教育を開始する。まず、学科共通の動機付け科目である「融合基礎工学展望」（必修）を履修し、学科の目指す「π 型」人材育成に必要な学びの基本を理解する。機械電気コース科目の中から、機械、電気、応用物理の各学問分野の基礎科目として、「力学」、「流体力学Ⅰ」、「熱エネルギー変換基礎」、「電磁気学Ⅰ」などを必修科目として履修し、機械・電気電子工学分野の基盤を作る。さらに、３年次以降の専攻教育科目の理解を深めるために、「複素関数論」（必修）などの基礎数学を履修する。また、情報科学に関する基礎知識とプログラミング技法を習得するための学科共通の情報系科目「融合基礎情報学Ⅰ」（必修）を履修する。

３年次：

３年からは筑紫キャンパスにおいて専攻教育を実施する。３年次の専攻教育では、学科共通の基礎科目に加え、各分野の基礎と専門の両立を目指した機械電気コース科目と工学的俯瞰力を養成する学科共通科目である「融合工学概論Ⅰ、Ⅱ」（必修）を開講する。

コース必修科目である「フーリエ解析と偏微分方程式」を履修し、工学分野への応用性の高い数学の知識習得を進める。機械工学分野の発展科目、電気電子工学・応用物理学分野の基礎・発展科目として、「エネルギー変換工学」、「自動制御」、「量子力学」、「電磁気学Ⅱ」、「電気回路Ⅱ」などを学ぶ。これまでに学修してきた専門科目の理解を深め、工学分野における実践的能力を涵養するために、機械・電気電子工学分野の実験・実習から構成される「機械電気科学実験Ⅰ～Ⅳ」（必修）を履修する。また、専門知識を融合して新たな技術革新を生み出すための技能とマインドを養うために「機械電気科学設計演習」(必修) を受講する。さらに、各専門分野に情報科学を有効に応用・活用できる能力を身につけるために、データ科学や機械学習に関連した学科共通の情報系科目「融合基礎情報学Ⅱ、Ⅲ」（必修）を履修する。

４年次：

卒業研究を実施することで、各々の専門分野において情報科学を有効に活用し実践的な問題解決能力を養うとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。機械工学と電気電子工学の専門分野が融合した学問分野で学部・修士一貫型教育を意識し、専門性をさらに高めた学際領域の先端トピックスを扱う学科共通科目として、「先端計測科学」や「エ

ネルギー・環境学 A、B」等を選択履修し、専門知識が実際にどのように工学分野で活用されているのかについて知識・技能を深める。また、情報科学の応用実践科目（「融合応用情報学 A、B、C、D」）を選択履修することで、これまでに学んできた多様な専門科目に情報科学の知見を融合して新たなイノベーションを創成するための実践的能力を身に付ける。企業や公的研究機関へのインターンシップを通して産業界における最先端の事例や課題を理解し、さらに、(「グローバル科目Ⅰ（論文)、Ⅱ（討論)」（必修）により自らの研究内容を英語で正確に説明できる能力を身に付ける。

〇高専連携教育プログラム

３年次：

３年次の本プログラム生は、各高専専攻科における学修期間と重なり、各高専専攻科で開講される科目（図 7-5-3 参照 : 24 単位以上）と、融合基礎工学科で開講される科目（後述）を履修する。後者の科目に対しては、TV 会議方式の同時双方向型遠隔授業を積極的に取り入れる。

本プログラムでは、高専本科までに修得した専門知識の実社会への活用例を理解し、物質科学・材料工学や機械工学・電気電子工学およびその学際領域の先端的な知識を学ぶための学科共通科目である「融合工学概論Ⅰ、Ⅱ」を必修科目として履修する。さらに、企業や公的研究機関へのインターンシップ（産学連携科目「インターンシップⅠ（長期）」）を通して、産業界や先端科学技術の諸分野における課題を理解し、課題解決能力や実践力を身に付ける。

４年次：

４年次の本プログラム生は、九州大学筑紫キャンパスにおいて学科共通の科目を履修する。専門知識をさらに深めるために、物質科学・材料工学や機械工学・電気電子工学およびその学際領域に関する学科共通科目として、「先端計測科学」や「エネルギー・環境学 A,B」等を選択履修し、専門知識が実際にどのように工学分野で活用されているのかについて知識・技能を深める。「融合応用情報学 A～D」を選択履修することで応用情報分野のより高度な知識を習得し、各専門分野における実践的応用力を磨く。専門分野の深い知識に根差した PBL 学習としての産学連携による共同研究をベースにした「研究プロジェクト」や「卒業研究」を必修科目として履修し、実践的な研究力を高めるとともに、高専専攻科教育のみでは習得が難しい最先端研究を行うための能力とプレゼンテーションの能力を習得する。さらに、学科共通科目である「グローバル科目Ⅰ（論文)、Ⅱ（討論)」を必修科目として履修し、論文執筆およびディベートを通じ実践的な英語力を養い、英語による表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

（７）高専連携教育プログラム・編入学者選抜の概要

本学科では高専連携教育プログラムへのみ高等専門学校からの編入学生を受け入れる。

なお、３年次編入学学生を受け入れるための入学定員として 20 名の入学定員を新たに増員し本プログラムを実施する。

1)　募集対象

高等専門学校本科を卒業、または、卒業見込みの者。

2)　出願資格

連携高等専門学校（九州・沖縄地区の９高等専門学校：久留米工業高等専門学校、有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校）の専攻科が実施する所定の選抜試験に合格し、同専攻科への入学を確約した者のうち、連携高等専門学校長の推薦を受けた者を当該教育プログラム編入学選抜の出願資格者とする。

3)　指導予定教員の事前マッチング

願書出願前に指導予定教員（九大教員１名、９高専に所属する高専教員１名）を決定している者を選抜試験対象とする。希望研究室の訪問および課題学習等を通じて、九大側指導教員候補者とのマッチングを図るため、当該教育プログラム入学希望者（主として連携高専本科第４学年次在学者が対象であるが、連携高専本科以外の希望者や既卒者も含む）に対して、短期間（１週間程度）のインターンシップを実施する。高専本科既卒者等で、高専本科第４学年次の上記インターンシップに参加できないが、高専連携教育プログラムの受験を希望する者への九大側指導教員候補者とのマッチングを図る会合は、問い合わせに基づき随時対応する。なお、連携高専本科以外の希望者や既卒者の場合は、インターシップ等を通じて、九大側と高専側双方の指導教員候補者を決めることになる。

4)　編入学選抜方法

選抜試験として口頭試問を課す。試問の審査結果、上記 3)の指導予定教員２名の所見、提出書類（学校長の推薦書、調査書、志望理由書および学修計画書）の内容に基づき、求める能力や資質を総合評価し、合否を判定する。

（８）卒業要件

卒業要件は、基幹教育科目および専攻教育科目として開講する科目の履修によるものとし 、２コース及び高専連携教育プログラムで設ける必要単位数は次のとおりとし、単位取得の流れを図7-5-4に示す。

物質材料コース

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 86 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得すること。

①基幹教育科目　48.5 単位以上（全コース共通）

(a)基幹教育セミナー（１単位修得）

(b)課題協学科目（2.5 単位修得）

(c)言語文化科目（12 単位修得）

(d)文系ディシプリン科目（４単位修得）

(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位修得）
(g)健康・スポーツ科目（１単位修得）
(h)総合科目（２単位修得）
(i)高年次基幹教育科目（２単位修得）

②専攻教育科目　86 単位以上
(a)工学部共通科目（３単位修得）
(b)学科群共通科目（18 単位以上修得）
(c)学科・専攻科目（59 単位以上修得）
ⅰ）学科共通科目（16 単位以上）
ⅱ）物質材料コース科目（23 単位以上）
その他、学科共通科目と物質材料コース科目の選択科目から、20 単位以上修得する。
(d)卒業研究（６単位修得）

機械電気コース

基幹教育科目から 45.5 単位以上、専攻教育科目から 89 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得すること。

①基幹教育科目　45.5 単位以上
(a)基幹教育セミナー（１単位修得）
(b)課題協学科目（2.5 単位修得）
(c)言語文化科目（12 単位修得）
(d)文系ディシプリン科目（４単位修得）
(e)理系ディシプリン科目（20 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位修得）
(g)健康・スポーツ科目（１単位修得）
(h)総合科目（２単位修得）
(i)高年次基幹教育科目（２単位修得）

②専攻教育科目　89単位以上
(a)工学部共通科目（３単位修得）
(b)学科群共通科目（15単位以上修得）
(c)学科・専攻科目（65単位以上修得）
ⅰ）学科共通科目（16単位以上）
ⅱ）機械電気コース専門科目（18単位以上）
その他、学科共通科目と機械電気コース科目の選択科目から、31単位以上修得する。
(d)卒業研究（６単位修得）

高専連携教育プログラム

基幹教育科目から45.5単位以上、専攻教育科目から89単位以上を修得し、134.5単位以上修得すること。

①基幹教育科目　45.5単位以上（編入時に単位認定）
②専攻教育科目　89単位以上
(a)編入時の単位認定（32単位修得）
(b)学科共通科目（必修）（13単位修得）
(c)学科共通科目（選択）（11単位以上修得）
(d)高専専攻科１年次修得単位（27単位修得）※読替等で単位認定
(e)卒業研究（６単位修得）

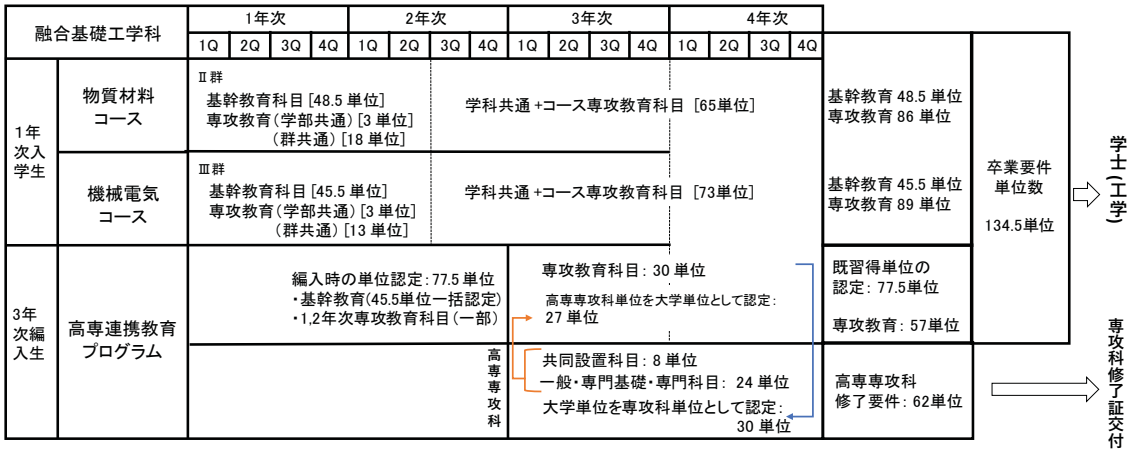


図7-5-4　融合基礎工学科２コースと高専連携教育プログラムの単位取得の流れ

（９）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻
大学院総合理工学府・総合理工学専攻

②教育の特色

大学院総合理工学府では、環境・エネルギー問題を解決するために、環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築に向けグローバルに活躍できる技術者や研究者を育成することを教育上の目的としている。

図 7-5-5 に工学部融合基礎工学科、大学院総合理工学府総合理工学専攻の修士課程および博士後期課程が連携した人材育成戦略の概要を示している。学部、修士課程、博士後期課程すべてにおいて、専門分野をメジャー、情報科学をマイナーとし、かつ、学年進行にしたがって、専門分野を深化させるとともに、他分野や学際分野へと幅を広げる分野融合型の教育を実施する。また、PBL 教育を効果的に活用し、修得した専門知識、技術、および情報科

学の知識・技能を用いて、環境・エネルギーに関わる課題を解決することを繰り返すことにより、実践力に富む理工系人材を育成する。融合基礎工学科の教育で育てられた 工学系“π型人材”は、大学院総合理工学府における学修を通して π 型の上に複数方向（象徴的には光の文字の上側の３つの点（専門分野、情報科学、学際分野）に対応する３つの方向）に尖る、“準光型人材”から最終段階の”光型人材“へとステップアップしながら進化していく。

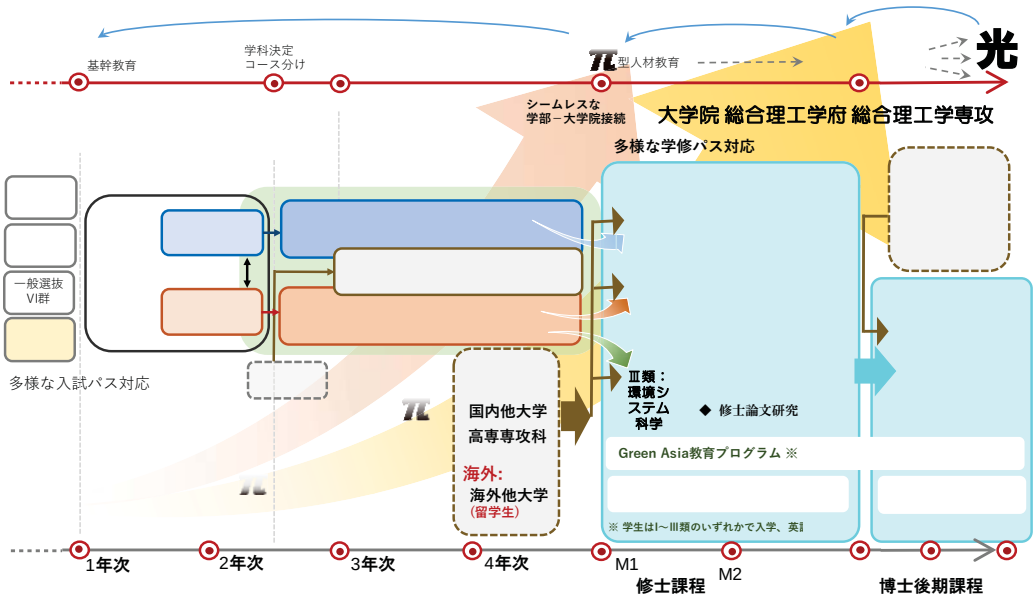


図7-5-5　工学部融合基礎工学科、大学院総合理工学府総合理工学専攻修士課程、博士後期課程が連携した人材育成戦略の概要

（１０）編入学定員を設定する場合の具体的計画（高専連携教育プログラム）

高専連携教育プログラムに編入学定員 20 名を設定する。前節の「（９）６年一貫型的教育の実現」で言及したように、本学科では、学際性を究めて地球規模の環境・エネルギー問題の解決に貢献する人材育成を目的とした総合理工学府と接続した６年一貫型教育を実施する。６年一貫型教育を通じて学際性を追求する学科は他になく、エネルギー科学科の過去 20 年の実績から、学際型による学修を希望する学生数は九州大学の工学部定員の１割程度存在するため、定員 57 名（工学部全定員の 7.3%）は確保する必要がある。また、従来工学部が実施してきた収容定員内での編入学では、外国人留年生の確保・拡大といった要因を考慮すると、収容定員の範囲内で本プログラムによる一定数の学生を安定的に受け入れることが困難である。本プログラムは、従来の学部３年次編入と異なり、高専専攻科と九州大学が連携して設置する新しい教育プログラムであり、その目的を達成するためには編入学定員の設定が必須である。

① 既修得単位の認定方法

３年次編入時に、基幹教育科目（本学科の必要単位数 45.5 単位）に相当する高専本科において履修した一般科目、専門基礎科目の単位を本学で履修したものとみなして単位認定する。高専本科において、高専モデルコアカリキュラムによる早期専門教育で履修した専

門科目を、工学部１、２年次に履修する専攻教育科目に相当するものとして、32 単位を認定する。

② 履修指導方法

本学科の教員と高専専攻科の教員が連携して、本教育プログラムの実施にあたる。両者の関連教員で構成する「連携教育プログラム教務委員会（仮称)」を組織し、学生の履修及び修学、教務に係る諸事項を審議する。編入学時にガイダンスを実施し、連携教育プログラムの内容や授業の履修方法について指導する。３年次は主に各高専において学修するため、Office Teams 等の ICT コミュニケーションツールを活用して、本学科の教員と高専専攻科の教員が連携して個別の履修指導を適宜行う。

③ 教育上での配慮等

３年次は、主に各高専専攻科で開講される授業を履修するため、本学科共通で開講する授業科目等は、TV 会議方式による同時双方向型遠隔授業として開講する（次節参照)。質疑応答のほか、課題提出及びこれに対する助言を電子メール等の適切な方法を利用して行う。

（１１）多様なメディアを高度に活用した授業方法の具体的計画

高専連携教育プログラムでは、下記のとおり、TV 会議方式による同時双方向型遠隔授業およびメディアを活用した授業を最大限に取り入れる。

① 同時双方向型遠隔授業

本学のアジア遠隔医療開発センターが保有している多点接続型遠隔講義システムを、３年次に開講する学科共通科目「融合工学概論Ⅰ、Ⅱ」の授業に活用する。同授業は年間を通じて 30 回開講される予定であり、本学教員が授業を担当する。本学筑紫キャンパスと九州・沖縄地区９高専 10 キャンパスを結び、同時双方向型授業（授業中、教員と学生が、互いに映像・音声等によるやりとりを行い、学生の教員に対する質問の機会を確保する）で開講し、学生は各高専キャンパスにおいて履修する。本システムのマルチ画面機能を用いることで、10 キャンパス同時接続した場合でも双方向での質疑応答等のやり取りが可能である。各高専のキャンパスにおいて受講する学生は、１～３名程度であり、教員あるいは学生同士の意見交換を行う場合においても映像や音声による支障は生じない。

また、本学附属図書館付設教材開発センターの協力を得て、開講する授業を全て録画してアーカイブ化したビデオ教材を作成し、授業内容の理解を深めるための自学修に活用する。さらに、本学および全国の高専では Office365 が導入されており、上記の多点接続型遠隔講義システム以外に、Microsoft　Teams 等の ICT コミュニケーションツールの活用が可能であり、高専側指導教員（主）と九大側指導教員（副）で行う共同設置科目（各高専で開講）の授業や学生指導などを行う。

メディアを活用した授業

共同設置科目の１つである情報系科目（各高専で開講）については、Web システムやメディア教材を活用する。本学および高専の情報系教員で教材開発作業部会（仮称）を発足し、ICT を活用した実践的な情報系科目教材を開発する。開発した教材をオンデマンド形

式の授業に活用する場合は、毎回の授業後すみやかにインターネット等の方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行う。また、Web 上の ICT コミュニケーションツール（例：Slack や Microsoft Teams）を活用し、学生間の意見交換の機会を確保する。

７－６．機械工学科／Ⅲ群

（１）機械工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	機械工学は、機械要素や機械システムなどの「ものづくり」の技術を追究する学問である。本学科では、自然法則の基礎理論を理解し、社会のニーズに応え、制約された条件下で社会や自然への影響を常に考慮しつつもの作りを行う能力と、文化の枠を越えた世界的な価値観を有する創造性豊かな技術者･研究者を組織的に養成するために、以下を教育目標としている。 ・自然科学の基礎的な理論や概念を十分に理解したうえで、専門となる機械工学分野の知識と技能を身に付けること。 ・制約された条件の下で社会や自然への影響を考慮し、人類の文明生活を支える機械装置やシステムをデザインするための技術を修得すること。 ・世界的価値観を有し、様々な社会のニーズに応える技術者、研究者になり得ること。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. （https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。

	B.知識・理解 B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、現代物理学の基礎を理解し、それを用いて種々の物理現象を説明できる。 B-4. 物理学，数学などの自然科学分野の種々の理論や概念を説明できる。 B-5. 力学解析によって機械のメカニズムや振動・音響現象を説明できる。 B-6. 力のバランスなどを使って機械構造物や素材の変形量や破壊現象を説明できる。 B-7. 気体、液体などの流動現象や，流体エネルギーの有効利用を説明できる。 B-8. 物質の状態変化、熱と仕事の関係及び熱移動現象の理論を理解し，エネルギー変換の仕組みを説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1.機械要素を組み合わせたシステムを解析し、システム全体の動作を説明できる。 C-1-2.機械に関わる現象を理論に基づいてモデリングし、解析できる。 C-1-3.コンピュータを駆使して現象解析や機械加工を効率化できる。 C-1-4.実験や数値シミュレーションの結果を分析し、論理立てて自分の考えを表現できる。 C-2. 創造・評価 C-2-1.機械工学の体系的な理解の上に、実際に機械を設計し、製作できる。 **D.実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2.科学技術社会に潜む諸問題を発見し、合理的に解決できる。 D-3.機械工学を含めた自然科学の方法をベースにして論理的思考ができる。 D-4.論理的思考を駆使して新たな科学技術を体系的に把握できる。 D-5.「ものづくり」を通して積極的に自分の能力を社会還元する。

（２）機械工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅲ群：機械系」では、この学科群共通教育を通して、機械系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、１年次に配置する「無機物質化学Ⅱ」に加え「数理統計学」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「材料力

学Ⅰ」、「材料力学Ⅱ」、「工業力学」、「熱力学Ⅰ」、「流れ学Ⅰ」、「現代物理学入門」、「工学概論」、「ベクトル解析と微分方程式」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「知識・理解（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

機械のメカニズムや振動・音響などの動力学的解析に関わる機械力学や振動学、機械構造物や素材の変形、強度および破壊に関わる材料力学や弾性力学、気体や液体などの流動現象や流体エネルギーの有効利用に関わる流体工学、および資源エネルギーからの動力発生・変換と利用に関わる熱力学や伝熱学・燃焼学に関する授業科目を通して「知識・理解（B-4～B-8）」「適用・分析（C-1-2）」「実践（D-3）」を育成する。

さらに、機械システムの制御・数理化技術、コンピュータを用いた計算法やシミュレーション、切削・研削・研磨加工や塑性加工などの機械製作技術などに関する授業科目（「システム制御」、「数値解析基礎」、「機械製作法」、「機械要素設計製図」等）および実験・実習を通して「適用・分析（C-1-1～C-1-4）」を、また実際に機械装置・機器を創造するための設計工学および製作や加工に関する授業科目（「機械設計」、「機械製作法」、「機械工学設計製図」、「加工機器・精密測定法」等）を通して「評価・創造（C-2-1）」を育成する。統合的な授業科目である「機械航空工学卒業研究」では、各授業科目を通して修得された知識・能力の体系化を図るとともに、問題解決能力及び問題発見能力を鍛える。

産業界から招いた講師による「機械工学特別講義第Ⅰ～第Ⅷ」及び「テクノロジー・マーケティング」「生体工学基礎」「水素工学基礎」では、工学と社会とのつながりについて考える教育を行い「実践（D-1,2,4,5）」に繋ぐとともに四力学に関しての高度な内容の科目群を選択科目として配置し履修機会を与えることで大学院教育へ接続する。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（ア

セスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》
・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

機械工学科では、機械工学の基盤となる四力学および数学に代表される工学の素養に関する科目に対する確実な修得に基づいて、数式を通した実現象の理解およびその現象と具体的な「もの」との関係を把握することを重視し、そのうえで、いかに合理的な「ものづくり」を実現するかを念頭においている。

低年次から学ぶ数学に加え物理学・化学といった理学系分野の知識に支えられた四力学（材料力学、流体力学、熱力学、機械力学）および関連する制御、機械要素、設計、加工・製作、生体工学関連の工学系教育を体系的に行う。さらに、機械系では 80%を超える学生が修士課程へ進学する現状に鑑み、機械系専攻（機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻）への接続についても念頭において、個別の技術にとどまらず、機械システム、医療、エネルギー問題、環境問題等に興味の幅を広げて学ぼうとする学生を輩出できるカリキュラム編成とする。

加えて、３年次終了の時点において卒業研究の着手条件を満たした学生は、４年次より必修の卒業研究を行う。卒業研究は、指導教員と相談のうえ決定される特定のテーマについて研究を実施し、その成果の発表を試問により判定する。ただし、卒業研究は必ずしも研究に特化したものではなく、PBL として行う製品開発なども含めることとする。

なお、今後の情報系教育の重要性に鑑み、学部共通科目として複数の情報系科目を導入し、１年次には共通科目として、２年次以降には専門性により重点を置いた情報系の科目を実施する。そして、それぞれの分野でデータを使うことに対するイメージを学生に持たせる。また、機械分野を専門とする人材に必要となる電気電子情報関連知識を習得させるため、電気工学基礎および電子情報工学基礎を必修科目として配置する。さらに機械工学における情報工学科目としてデータサイエンス応用を３年次に必修科目として配し、機械工学で重要となる各種実験データ、数値データの取り扱い方法（データ解析技術）の基礎を講術する。また、学科必修科目として、３年次に数値解析基礎を配しており、機械工学に必要なシミュレーション技術に関する素養を涵養する。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次： 工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「無機物質化学Ⅱ」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群共通教育

Ⅲ群（機械系）として以下の必修科目を配置している。

材料力学Ⅰおよび材料力学Ⅱ
工業力学
熱力学Ⅰ
流れ学Ⅰ
現代物理学入門

その他、数学科目については、Ⅲ群（機械系）の全学科に共通して重要な科目である「数理統計学」や「ベクトル分析と微分方程式」を配置している。さらに、「工学概論」をⅢ群（機械系）の各学科の教育研究内容が概観できるような科目として配置し、学生の２年次秋学期での学科選択に資するよう配慮している。これら以外に、Ⅲ群学生の視野を広げ幅広い興味に応えることを目的として「原子力工学概論」、「応用量子物理学入門」をⅢ群（機械系）選択科目として配置している。

２年次（後期）：以降、学科・専攻教育

機械工学科として重要な四力学関連科目（具体的には、材料力学Ⅲ、材料力学Ⅳ、機械材料Ⅰ、機械力学Ａ、機械力学Ｂ、熱力学Ⅱ、流れ学Ⅱ、流体力学Ⅰ）を２年次前期に引き続き学ぶことでより深い理解が得られるようにするとともに、実学である「ものづくり」にとって重要な機械工学の素養を身に付けることを目的として、実習、設計、製図の科目群（具体的には、「機械工作実習Ⅰ」、「機械工作実習Ⅱ」、「機械設計Ⅰ」、「図形科学Ⅱ」、「空間表現実習Ⅰ」）を履修する。

数学科目（「複素関数論」、「フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式」）は学科必修科目を学び理解する上で最低限必要の内容を厳選している。

また、機械分野を専門とする人材に必要となる電気電子情報関連知識を習得させるため、電気工学基礎および電子情報工学基礎を必修科目として配置する。

３年次：

機械工学科としての専攻教育科目を中心に履修を進める。制御、データサイエンス科目など応用的な科目を配置しつつも、実験、製図、設計、製作関連の機械技術者として必須の科目群を同時に履修する。これらの科目としては、「弾性力学 A」、「弾性力学 B」、「機械力学 C」、「流体力学Ⅱ」、「伝熱学Ⅰ」、「伝熱学Ⅱ」、「燃焼学Ⅰ」、「燃焼学Ⅱ」、「システム制御 A」、「システム制御 B」、「数値解析基礎」、「機械製作法Ⅰ」、「機械製作法Ⅱ」、「機械設計Ⅱ」、「機械要素設計製図Ⅰ」、「機械要素設計製図Ⅱ」、「機械工学実験Ⅰ」、「機械工学実験Ⅱ」、「データサイエンス応用」などが挙げられる。「データサイエンス応用」では、１年次に学んだ情報系基礎科目の履修で修得した知識や能力を、機械工学で重要となる各種実験データ、数値データの取り扱い方法（データ解析技術）に応用するための基礎を学ぶ。

さらに、大学院への連携を念頭に置き、水素工学、生体工学、テクノロジー・マーケティング、ロボティクス、精密加工・計測等に関連する応用的な科目および四力学に関しての高度な内容の科目群を選択科目として配置し履修機会を与えることで、主体的に学ぶ姿勢と実践的な問題解決能力を身に付けると同時に大学院への進学を促す。これらの科目としては、「水素工学基礎」、「生体工学基礎」、「テクノロジー・マーケティング」、「ロボティクスⅠ」、「ロボティクスⅡ」、「加工機器・精密測定法」、「機械要素Ⅰ」、「機械要素Ⅱ」、「連続体の振動」、「機構学・振動制御」、「機械材料Ⅱ」、「熱エネルギー変換Ⅰ」、「内燃機関Ⅰ」、「内燃機関Ⅱ」、「応用流体工学」などが挙げられる。

４年次：

１年次から３年次までの教育課程の履修を通じて修得した機械工学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学習経験として卒業研究を実施する。これにより、実践的な課題設定・仮説検証・問題解決能力を養成するとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

なお、機械工学科の卒業生のうち 80%を超える学生が修士課程へ進学する現状を鑑みると、学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機となる。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 86 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）

(b)課題協学科目（2.5 単位）

(c)言語文化科目（12 単位）

(d)文系ディシプリン科目（４単位）

(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　86 単位以上
(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（15 単位）
(c)学科・専攻科目（52 単位）
(d)卒業研究（６単位）
(e)その他
専攻教育科目中の選択科目から 10 単位以上修得する。

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻
大学院工学府・機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻

②教育の特色
水素工学、生体工学、テクノロジー・マーケティング、ロボティクス、精密加工・計測等に関連する応用的な科目および四力学に関しての高度な内容の科目群を選択科目として配置し履修機会を与えることで、主体的に学ぶ姿勢と実践的な問題解決能力を身に付けると同時に修士課程への接続を容易にしている。このように特徴のある選択科目を配置することによって機械工学専攻・水素エネルギーシステム専攻という異なる２専攻への接続を可能としており、機械工学科から水素エネルギーシステム専攻への接続に際して教育上のギャップが生じないよう注意している。
機械工学専攻修士課程では、学士課程で履修した必修科目を基盤とし、より高度な機械工学の学術や、周辺の応用分野での機械工学の発展を系統的に学べるように配慮している。機械工学は、もっとも古い工学分野の一つであり、かつ現在もダイナミックに発展を続けている。その機械工学の基礎から応用までを６年間かけて身に付け、社会に出て即戦力の指導的な技術者として活躍できる素地を涵養する。
水素エネルギーシステム専攻修士課程では、機械工学の基盤の上に、電気化学、機能材料学、化学プロセス、安全工学などの基礎学理を修得し、水素エネルギーシステムの要素技術とシステム全体について幅広い知識と研究開発力を身に付けた上で、エネルギー関連のイノベーション牽引に必要な政策論やマネジメント論などの履修・理解によって、新たな基盤技術を創出するとともに技術革新や社会変革を先導できる技術者として活躍できる素地を涵養する。

７－７．航空宇宙工学科／Ⅲ群

（１）航空工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	航空宇宙工学は、人類の活動領域拡大に必要な先進工学分野を開拓する学問である。本学科では、力学を基礎とした工学理論や、航空宇宙機開発特有のシステム工学に関連する基礎学問を修得し、航空宇宙機の運用環境拡大によって生ずる課題を発見・解決する能力および幅広い教養と総合性、国際性を身に付けた技術者・研究者を組織的に養成するために、以下を教育目標としている。 ・航空宇宙工学の基本的学識を学修すること。 ・航空宇宙工学の基本的学識を総合して、統一的に機能するものにまとめ上げるために必要なシステム・インテグレーション能力を体得すること。 ・航空宇宙工学に特徴的な論理的思考を通して，問題発見・問題解決能力を会得すること。 ・プロジェクト遂行に必要な能力を体得すること。 ・工学が社会の役に立つために能動的に行動できる能力を修得すること。 ・専門職にふさわしい，多様な職業背景に適用可能な能力を修得すること。 ・技術者・研究者に必要な一定の教養と倫理観および世界的視野を会得すること。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. （https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） ・International Engineering Alliance (2013), “Graduate Attributes and Professional Competencies.” (https://www.ieagreements.org/assets/Uploads/Documents/Policy/Graduate-Attributes-and-Professional-Competencies.pdf) ・European Network for Accreditation of Engineering Education (ENAEE) (2015), “EUR-ACE Framework Standards and Guidelines.” (https://www.enaee.eu/wp-content/uploads/2018/11/EUR-ACE-Framework-Standards-and-Guidelines-Mar-2015.pdf) ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』

	（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、現代物理学の基礎を理解し、それを用いて種々の物理現象を説明できる。 B-4. 航空宇宙工学に関わる種々の物理機構を系統的に説明できる。 B-5. 制御工学、航空宇宙機運動学の基礎を理解し、航空宇宙機固有のダイナミクスを説明できる。 B-6. 設計製図や工業材料の基礎的学識を修得し、航空宇宙機の設計開発の基本を説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 航空宇宙工学に関わる種々の問題を適切にモデル化し、解析的または数値的に処理できる。 C-1-2. 実験装置と計測法を理解し、航空宇宙工学に関わる実験に適用できる。 C-1-3. 航空宇宙工学の知識と論理的思考能力を航空宇宙機に関わる研究・開発へ活用できる。 C-2. 創造・評価 C-2-1. 要素を統合したシステムの総合的評価により、システムを適正に機能させられる。 C-2-2. 航空宇宙工学に関わる実験や計算の結果を自分の考察に基づいて評価できる。

	D.実践 D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 航空宇宙工学の発展へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。

（２）航空工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅲ群：機械系」では、この学科群共通教育を通して、機械系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、１年次に配置する「無機物質化学Ⅱ」に加え「数理統計学」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「材料力学Ⅰ」、「材料力学Ⅱ」、「工業力学」、「熱力学Ⅰ」、「流れ学Ⅰ」、「現代物理学入門」、「工学概論」、「ベクトル解析と微分方程式」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「知識・理解（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

航空宇宙工学は、最先端かつ極限的な技術を取り扱い、あらゆる基礎工学の粋を集めた総合学問として、人類の可能性と夢を限りなく追求する学問であり、航空宇宙分野にとどまらない広い応用範囲を持つという特色がある。そのため、航空宇宙工学科では、数学や力学といった基礎科目の修得と並行して、航空宇宙機の運用環境拡大によって生ずる課題を見据えて設定された「航空宇宙工学設計実習」等の授業科目を通して自ら発見し、様々な人々との協議と協力によって課題を解決する「主体的な学び・協働（A-1,2,3)」の能力を培うこととしている。

航空宇宙機開発においては、幅広い自然科学分野の基礎知識が必要とされるのはもちろん、それらを実際のシステムへ結びつける各種応用力学とそれらを合理的に集積させるシステム工学および情報科学も不可欠である。そこで、「航空流体力学」、「エネルギー変換基礎論」、「弾性力学」などの基盤的授業科目に加えて「飛行力学」や「軌道力学」など航空宇宙工学独自の実践的授業科目と情報処理系科目および設計製図科目を通して「知識・理解（B-1,2,3,4,5,6）」の能力を深める。さらに、学年進行とともに深化する学科目の履修を通してより精緻な数理モデルを構築して現象を演繹する能力を開発するとともに、人類の夢を追求する人材の育成を目指し、「航空宇宙工学実験」等において「適用・分析（C-1-1,2,3）」、卒業研究等において「評価・創造（C-2-1,2）」の能力を養う。

また、大学院への接続も踏まえて、「工業マネジメント」、「航空工学特別講義」、「宇宙工学特別講義」などの集中講義を産業界から招いた講師によって実施し、工学倫理科目等と併せて社会に誇れる人材の「実践（D-1,2）」へと帰結させる。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

航空宇宙工学科は、航空宇宙機の開発や運用の基礎となる自然科学分野の諸学理の理解とシステム・インテグレーション能力の養成のための教育を行う。また、４年次に「応用飛行制御論」を情報系科目として設定し、航空宇宙機に搭載された各種センサから得られる計測データを用いた飛行状態の推定、コンピュータ制御の基礎となるディジタル制御など、一般的抽象的な手法ではなく航空宇宙分野特有のデータ解析手法を学ぶことを通してデータサイエンスの基礎を修得させる。さらに 90%を超える学生が修士課程へ進学する現状に鑑み、航空宇宙工学専攻との学部・修士一貫型教育を念頭において幅広い知識を融合させて人類の未来に貢献する学生を輩出するカリキュラム編成とする。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次： 工学部・共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ｉ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「無機物質化学Ⅱ」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群共通教育

Ⅲ群（機械系）として以下の必修科目を配置している。

材料力学Ⅰおよび材料力学Ⅱ
工業力学
熱力学Ⅰ
流れ学Ⅰ
現代物理学入門

その他、数学科目については、Ⅲ群（機械系）の全学科に共通して重要な科目である「数理統計学」や「ベクトル分析と微分方程式」を配置している。さらに、「工学概論」をⅢ群（機械系）の各学科の教育研究内容が概観できるような科目として配置し、学生の２年次秋学期での学科選択に資するよう配慮している。これら以外に、Ⅲ群学生の視野を広げ幅広い興味に応えることを目的として「原子力工学概論」、「応用量子物理学入門」をⅢ群（機械系）選択科目として配置している。

２年次（後期）：以降、学科・専攻教育

数学・流体力学・材料力学・飛行力学などの科目を履修して課題解決を構想するために必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。また、機械系エンジニアとして重要となる電気電子情報関連知識を修得することを目的として、「電気工学基礎」および「電子情報工学基礎」を配置する。さらに図学および製図に関する科目（「図形科学Ⅱ」、「空間表現実習Ⅰ」）を履修することで、ものづくりに関する実践的な学びを開始する。

３年次：

航空宇宙工学の専攻教育科目を中心に履修し、徐々に自分の取り組む課題を明確にしていき、自らの力で課題を設定して、課題の解決方法を模索する能力を培う。人工衛星工学・ロケット工学・ジェットエンジン工学など具体的対象を設定した科目を履修するのはそのためである。春・夏学期には設計製図の基礎に関する科目（「基礎設計製図」）を必修科目として設定し、引き続いて秋・冬学期には実践的な設計実習（「航空宇宙工学設計実習」）を履修することで航空宇宙に関わるエンジニアとしての基礎力を身に付ける。

４年次：

３年次までの専攻教育科目で修得した知識を現実と結びつけるために春・夏学期に「航空宇宙工学実験」および「航空宇宙機設計論」を実施する。また、データサイエンスを航空宇宙工学へ応用する科目として「応用飛行制御論」を開講する。

１年次から３年次までの教育課程の履修を通じて修得した航空宇宙工学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学習経験として卒業研究を通年で実施する。これにより、実践的な問題解決能力とともに表現能力やプレゼンテーション能力を身に付ける。なお、

本学科の卒業生のうち 90%を超える学生が修士課程へ進学する現状を鑑みると、学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機となる

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 86.5 単位以上を修得し、135 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　86.5 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（15 単位）
(c)学科・専攻科目（36.5 単位）
(d)卒業研究（６単位）
(e)その他

専攻教育科目中の選択科目から 26 単位以上修得する。

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・航空宇宙工学専攻

②学科（学士課程）→専攻（修士課程）の接続の特長

研究を通した教育によって学部４年と修士２年を連結した６年一貫型教育を行うことで、航空宇宙工学に必要な幅広い基礎学問の知識をもとに、卒業後に自ら学習（アクティブ・ラーニング）して、専門性を継続的に高められる人材の養成を目指す。従来は学部で力学を基礎とした工学的知識基盤の教育を行い、修士課程でこれらを発展させた高等専門科目の教育を行っていたが、急速な社会の変化や進展著しい科学技術に対応するためには、そのような旧来の教育では対応できない自主性と専門性の涵養が求められている。特に航空宇宙工学は航空機および宇宙機という特定の対象を有していることから、それら具体的対象に関

連して実効的かつ実践的に人材を育成するために、基礎的な工学教育と応用的な先端研究を融合的に実施すべく、航空宇宙工学科と航空宇宙工学専攻における６年一貫型教育を行う。

７－８．量子物理工学科／Ⅲ群

（１）量子物理工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	量子物理工学は、真理の追求と最先端の物理学の工学への応用という観点のもとに、ミクロからマクロにわたる視野で物理現象を理解し、現代社会の問題解決と持続可能な社会の構築を探求する学問である。本学科では、応用物理学、量子科学、原子核工学等に係る基礎的学問の深い理解をもとに、新しい量子現象の観察やその応用、量子ビームに関わる技術の深化や医療・生命分野等多方面への応用、新規な材料の開発、エネルギー開発、環境保全等の分野において、世界的に活躍できる研究者・技術者の育成を組織的に養成するために、以下を教育目標としている。 ・真理の追求と最先端の物理科学の工学への応用を目指し，主体的かつ創造的な視野と能力を身に付けること。 ・個々の専門分野で高度の専門性を持ち，同時に理工系全般にわたる学問的素養を幅広く身につけた，総合的・複眼的観点から大胆かつ柔軟に発想する想像力を身に付けること。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris.（https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） ・International Engineering Alliance (2013), “Graduate Attributes and Professional Competencies.” (https://www.ieagreements.org/assets/Uploads/Documents/Policy/Graduate-Attributes-and-Professional-Competencies.pdf) ・European Network for Accreditation of Engineering Education (ENAEE) (2015), “EUR-ACE Framework Standards and Guidelines.” (https://www.enaee.eu/wp-content/uploads/2018/11/EUR-ACE-Framework-Standards-and-Guidelines-Mar-2015.pdf) ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度

	～）』（https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、現代物理学の基礎を理解し、それを用いて種々の物理現象を説明できる。 B-4. 古典力学，電磁気学の基礎法則より、多様な力学的現象および電磁現象を説明できる。 B-5. 物質のマクロな状態変化を熱力学、輸送論により説明できる。 B-6. ミクロの世界の物理的および化学的現象を量子力学に基づいて説明できる。 B-7. 統計力学的手法を用いて、微視的描像から巨視的な体系の性質・挙動を説明できる。 B-8. 理工学分野の多様で複雑な現象を複数の基礎学問的見地から分析できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1　数式を解析的または数値的に処理できる。 C-1-2　物理現象を数学的にモデル化し、適切に記述できる。 C-1-3　物理、化学分野の実験装置を正しく安全に操作することができる。 C-1-4　実験や計算の結果を客観的に分析し、自分の考えを正確に表現できる。 C-1-5　広い基礎知識と総合的洞察力を技術開発、研究へ活用できる。 C-2. 創造・評価 C-2-1　広い知識を統合的に把握する能力を身に付ける。 C-2-2　自然科学の方法と論理的思考力を身に付ける。

	C-2-3　表現能力（自分の意見を明瞭に述べる能力）とコミュニケーション能力（討論能力，他分野を理解する能力，語学）を鍛え、広く世界と交流する視点を養う。 C-2-4　科学技術と社会のかかわりの問題を専門分野の学修を通して理解する能力を身に付ける。 C-2-5　問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行できる能力を身に付ける。 **D.実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2　自ら進んで問題に取り組む積極性を持つ。 D-3　周りとの協力を進めながら問題解決へ努力する協調性を備える。 D-4　問題解決にあたり様々なアプローチの可能性を考える。 D-5　エネルギー問題や環境問題など、地球規模の問題の解決へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。

（２）量子物理工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・

ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉
工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉
工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）
「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。
「Ⅲ群：機械系」では、この学科群共通教育を通して、機械系工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。具体的には、基幹教育科目（学科群指定科目）として、１年次に配置する「無機物質化学Ⅱ」に加え「数理統計学」を必修科目とする。また、学科群共通・専攻教育科目として、「材料力学Ⅰ」、「材料力学Ⅱ」、「工業力学」、「熱力学Ⅰ」、「流れ学Ⅰ」、「現代物理学入門」、「工学概論」、「ベクトル解析と微分方程式」を必修科目とする。これらの授業科目を通して、「知識・理解（B-3）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）
１年次から２年次夏学期までの学修を踏まえて、２年次秋学期からは講義、演習、実験、実習・実技型の教育形態を効率的に利用した専門基礎科目及び専門科目の履修を通して、「知識・理解、能力、実践（B，C，D）」を育成する。
そのうえで、学科の必修科目、選択科目、大学院連携科目を通して以下の通り、学修目標の達成に向けた学修を進める。
まず物理現象を理解するための基礎となる力学、電磁気学を履修した後、ミクロな現象を理解するうえで基軸的な学問となる量子力学、統計力学、原子核物理学等の科目、物理現象の数学的な記述・理解に必要な微分方程式や複素関数等に関する科目の履修を通じて「知識・理解（B-1,2,3,4,5,6,7,8）」を育成する。
さらに、いずれもミクロな現象を扱う物理学の工学的応用に関わる固体物理学やそれに関連する科目、原子力・核融合システムに関する科目、量子線の学理や計測技術、さらにはデータ解析に関する科目を履修することにより「適用・分析能力（C-1）」、「創造・評価能力（C-2）」を育成する。
また、大学院への接続も踏まえて、量子科学に関する最先端の技術開発の理解を深めるために、学外・産業界から招聘した講師による特別講義により、「実践（D-1、2、3、4、5）」を育成

する。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- 「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
- 「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

量子物理工学科では、量子物理工学専攻修士課程を含めた６年一貫型カリキュラムの構築を意図して、学部では基礎的な知識の修得を重点とし、修士課程での高度・専門的な科目の履修となるようにカリキュラムを構成している。

１年及び２年夏学期までは、機械工学科、宇宙航行工学科及び融合基礎工学科の機械系学生とともに第Ⅲ群（機械系）に所属し教育を行う。第Ⅲ群（機械系）の全学科に共通する教育の考え方として、数式を通した実現象の理解およびその現象と具体的な「もの」との関係の把握があげられる。２年次第春学期および夏学期に配置している学科群共通の必修および選択科目はそのような視点から厳選されたものである。

２年夏学期終了後に量子物理工学科に進学した学生は、まず基礎的な科目として力学、電磁気学、量子力学、統計力学についての講義・演習等を履修し、量子物理工学及び応用量子

科学に必要な知識の修得を図る。その後、これらのミクロな物理現象の工学応用に関わる学問として、固体物理学やそれに関連する科目、原子力・核融合システムに関する科目、量子線の学理や計測技術に関する科目を履修し、自らの専門とする分野を選択する。

また、これからの研究に必要な知識として、データ解析についての科目を設けている。測定値から真値と誤差を推測するための誤差論、統計解析（分散、相関、分布関数、高次モーメントなど)、フーリエ・ラプラス変換と高速フーリエ変換、カーブフィッティング、画像解析等を、数値データから得る手法について履修し、また、それらの解析結果からどのような知見を得ることができるかについても学び、データサイエンスについての知見を得る。

４年次には卒業研究を行うことにより、選択した分野のより深い理解を図るとともに、修士課程でより高度・専門的な知識の取得や研究に取り組めるようにしている。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「無機物質化学Ⅱ」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）：　学科群共通教育

Ⅲ群（機械系）として以下の必修科目を配置している。

材料力学Ⅰおよび材料力学Ⅱ
工業力学
熱力学Ⅰ
流れ学Ⅰ
現代物理学入門

その他、数学科目については、Ⅲ群（機械系）の全学科に共通して重要な科目である「数理統計学」や「ベクトル分析と微分方程式」を配置している。さらに、「工学概論」をⅢ群（機械系）の各学科の教育研究内容が概観できるような科目として配置し、学生の２年次秋学期での学科選択に資するよう配慮している。これら以外に、Ⅲ群学生の視野を広げ幅広い興味に応えることを目的として「原子力工学概論」、「応用量子物理学入門」をⅢ群（機械系）選択科目として配置している。

２年次（後期）：以降、学科・専攻教育

科学技術一般の基礎となる知識を踏まえて、量子物理工学を学ぶ上で必要となる専攻教育科目を履修し、深い専門分野の学びを開始する。本学科で対象とするミクロな現象の理解の基礎となる科目を履修し、量子物理工学の基礎となる分野について学ぶ。

まずは、力学、電磁気学等の履修を通して、古典的学問の深い理解とそれらを使いこなす能力を醸成・強化し、高年次に展開する専門教育に備える。また、「原子核物理学入門」、「量子線物理計測」、「電気・電子回路」の科目を選択科目として履修することにより、原子核の構造や放射線計測に関する知識を修得し、３年以降に履修する科目の基礎となる知識を修得する。さらに、「連続体力学」を履修することにより、ベクトル、テンソルといった、物理現象を理解するうえで欠かせない数学上の概念の理解を深める。

このほか、「量子物理工学演習Ⅰ」（必修）では、力学、電磁気学に関する演習を履修し、講義と併せてこれらの科目のより深い理解を目指す。「情報処理概論」（必修）では、プログラミングについて履修することにより数値計算についての技術を学び、将来の研究に必要な基礎知識を学ぶ。併せて、量子物理工学に関する基礎的な理解や実験手法の修得、講義で学んだ内容の実践を目指して、「創造科学工学基礎実験」を履修する。

３年次：

専攻教育科目を幅広く履修することにより、それぞれの分野についてより深い知識を修得するとともに自らの専門とすべき分野を明らかにしていく。

量子物理工学科において基礎となる量子力学、統計力学、固体物理学、原子核物理学、物理化学、輸送現象論について履修し、量子力学や応用物理学及びそれらに関連する分野の専門知識を身に付ける。特に量子力学と統計力学については「量子物理工学演習Ⅱ」においてこれらに関する演習を行い、深い知識を修得する。

さらに、「原子炉物理学」、「プラズマ理工学」、「原子炉熱流動工学」、「放射化学」、「応用光学」、「ビーム工学」、「ソフトマター物理学」、「材料科学概論」等の専攻科目を選択・履修し、ミクロな物理学の応用の分野についての知識を修得するとともに、自らの進むべき分野を明確にする。また、これらの分野に関する実験科目として「量子物理工学実験」を履修し、量子物理工学科がカバーする分野についてより深く理解する。

４年次：

卒業研究により修得した知識の統合と課題解決、コミュニケーション、プレゼンテーションについての能力の取得を目指す。卒業研究を実施することにより、ある分野での課題の明確化とその意義、課題解決のための方法の探求と実践を行うことにより課題解決のための能力を涵養する。

卒業研究では与えられた課題について、これまで学んだ内容や課題についての調査研究により内容を理解し解決のための方法を明らかにしていく。この結果に基づき課題解決のための調査研究を行いその成果を卒業論文としてまとめる。卒業研究の実施においては指導教員による個別指導と議論を通じて内容の理解を図るとともにコミュニケーション能力

の向上を目指す。また、中間発表を学科全体で行うことにより、研究の取りまとめやプレゼンテーション能力の向上を図ることにより、技術者・研究者として必要な資質を育んでいく。

このほか、専攻科目としての講義を履修することでより高度な知識を修得する。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 45.5 単位以上、専攻教育科目から 87 単位以上を修得し、132.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　45.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）

(b)課題協学科目（2.5 単位）

(c)言語文化科目（12 単位）

(d)文系ディシプリン科目（４単位）

(e)理系ディシプリン科目（20 単位）

(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）

(g)健康・スポーツ科目（１単位）

(h)総合科目（２単位）

(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　87 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）

(b)学科群共通科目（15 単位）

(c)学科・専攻科目（31 単位）

(d)卒業研究（８単位）

(e)その他

専攻教育科目中の選択科目から 30 単位以上修得

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・量子物理工学専攻

②教育の特色

量子物理工学科では、工学に関する基礎知識・応用力の修得と、専門領域である「原子力・放射線分野」及び「応用物理学分野」に関する学問の基礎を身に付けることを目指している。そのため、学士課程での科目は数学、物理学の基礎的分野を中心としている。必修科目には、量子力学や統計力学など、現代物理学の基軸となる学問が含まれる。

原子力・放射線分野については「原子炉物理学」、「原子炉熱流動工学」、「核融合概論」等の導入的な科目を開講している。

応用物理学分野においては、「固体物理学」、「材料科学概論」、「応用光学」、「ソフトマター物理学」等の科目を開講している。

量子物理工学専攻では、学士課程で学んだ基礎的な内容を基により専門的な内容を深く学べるよう、原子力・放射線分野や応用物理学分野にわたる幅広い科目を開講している。これらはすべて選択科目として開講している。

それぞれの専門に応じて「原子力システム工学」、「核燃料サイクル工学」、「原子力安全工学」、「不定比材料工学」、「素粒子原子核概論」、「量子ビーム科学」、「固体電子論」、「有機物理工学」、「物性実験物理学」等幅広い科目を開講している。学生は、自らの専門性を深めるためこれらの科目から自らの興味と専門とする分野を考慮して履修する。併せて、他専攻で開講されている異分野科目を履修し、自らの知見の幅を広げることができるようにしている。

７－９．船舶海洋工学科／Ⅳ群

（１）船舶海洋工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	船舶海洋工学は、船舶による海上交通や海洋輸送の活用、海洋に存在する再生可能エネルギーや鉱物資源の開発等、海洋環境の保全を図りつつ海洋の持続的な開発および利用を可能とする技術の発展を追求する学問であると同時に、異なる研究分野の間に共通する概念・手法・構造を抽出することで分野間の知の互換性を確立し、普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す総合工学の一つの分野でもある。 船舶海洋工学科では、自然法則の基礎理論を理解し、グローバルな価値観に基づき海洋と人類の共生に貢献することを目的として、造船技術の継承・発展を図る能力、ならびに持続的な海洋開発を担い得る総合工学的な広い視野を持った技術者・研究者を育成することを教育目標とする。 ・ 自然科学の基礎的な理論や概念を理解したうえで、専門となる船舶海洋工学分野の知識と技能を身に付けること。 ・ グローバルな価値観を持って造船技術の継承・発展を図る能力を修得すること。 ・ 持続的な海洋開発を担い得る広い視野を持った技術者、研究者になり得ること。 ・ 普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を成し遂げるための基礎的素養を有する人材になり得ること。 本プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。 ・ 船舶海洋工学に関する専門知識と総合能力を身に付けること。 ・ 国内外において、船舶建造および海洋開発に関する事業を展開する民間企業、船級協会、官公庁や公的研究機関等の技術者および研究者として責任ある役割を担うこと。
参照基準	・ OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. ・ International Engineering Alliance (2013), “Graduate Attributes and Professional Competencies.”

	・ European Network for Accreditation of Engineering Education (ENAEE) (2015), “EUR-ACE Framework Standards and Guidelines.” ・ 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・ 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf） ・ The Royal Institution of Naval Architects (RINA) (2015), “Guidance on the Accreditation of Graduate Training Programmes Leading to Corporate Membership (MRINA) and Registration (CEng).”
到達目標	**A. 主体的な学び・協働** A-1. （主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2. （協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。 **B. 知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 総合工学の基礎となる数学を理解し、自然科学分野の理論や概念を説明できる。 B-4. 総合工学の基礎となる物理・化学・地学・生物学の概念を理解し、基本となる理論に基づき、自然科学における現象を説明できる。 B-5. 総合工学で必要とする力学の基礎について理解し、説明できる。 B-6. 船舶海洋工学を理解する上で必要な電気・電子工学、機械工学の基礎知識について説明できる。 B-7. 船舶海洋工学に関する諸定義、諸計算法を説明できる。 B-8. 船舶計算法、流体力学、力学の知識に基づいて、船舶や海洋構造物の復原性能、運動性能、推進性能について説明できる。 B-9. 材料力学、弾性力学、塑性力学、構造力学、力学の知識に基づいて、船舶や海洋構造物の強度、構造設計および振動について説明できる。 B-10. 船舶海洋工学に関する基本的な知識に基づいて、船舶や海洋構造物の基本計画・設計について説明できる。 B-11. 船舶や海洋構造物の運動制御、最適設計について説明できる。

	C. 能力 C-1. 適用・分析 C-1-1. 力学的な現象（物体の運動・変形・破壊）のメカニズムを論理的に把握し、解析できる。 C-1-2. 地球環境に関わる様々な事象･問題を科学的原理に基づいて解析できる。 C-1-3. 数学、力学（材料、構造および流体力学等の応用力学を含む）を実問題に応用することができる。 C-1-4. 船舶海洋工学に関する分野固有の理論や技術を実問題に応用することができる。 C-1-5. 情報処理技術を用いてデータ解析や数値解析を行うことができる。 C-2. 創造・評価 C-2-1. 実験等を計画・遂行し、結果の解析を通じて物理現象を工学的に考察することができる。 C-2-2. 総合工学的な視点から海洋利用技術の計画・設計に必要な技術や考慮すべき環境条件等について考察することができる。 **D. 実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 与えられた課題に対して自ら解決の方法を考えて遂行する能力を身に付ける。 D-3. 自発的に未知の課題を発掘する能力を身に付ける。 D-4. 未解決問題に対するアプローチの方法を理解したうえで、他人に対して結果を説明し、議論を行う素養を身に付ける。

（２）船舶海洋工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅳ群：総合工学系」では、この学科群共通教育を通して、地球環境に係る総合工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。

学科群共通教育科目としては、以下の２つのカテゴリーの必修科目を設けている。

１）基幹教育科目（学科群指定科目）（理系ディシプリン科目）：「数理統計学」、「力学基礎演習」

２）学科群共通・専攻教育科目：「地球環境総合工学」、「固体力学」、「常微分方程式とラプラス変換」、「フーリエ変換と偏微分方程式」、「複素関数論」

これらの科目を通して、Ⅳ群共通の学修目標「知識・理解（B-3～B-5）」及び「適用・分析（C-1-1～C-1-2）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

船舶海洋工学科では、自然法則の基礎理論を理解し、グローバルな価値観に基づき海洋と人類の共生に貢献することを目的として、造船技術の継承・発展を図る能力、ならびに持続的な海洋開発を担い得る総合工学的な広い視野を持った研究者や技術者の人材育成を目的として、

「数学」、「力学（材料力学、流体力学などの応用力学を含む）」、PBL（Problem-Based Learning）的な性質を有する「製図」を三本柱としつつ、船舶海洋工学は普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す学問分野である総合工学の一つであることを考慮し、幅広い自然科学系科目を中心に構成されたカリキュラムを用意する。

船舶海洋工学に関する基礎的な諸定義、諸計算法に関する知識を養う「船舶設計」、「海洋環境情報学」、「海洋機器工学」、「舶用機関」、力学、船舶算法、流体力学の知識に基づいて船舶や海洋構造物の復原性能、運動性能、推進性能についての説明・諸計算ができる知識を養う「船舶算法および同演習」、「船舶復原性および同演習」、「流体力学第一および同演習」、「流体力学第二および同演習」、「船舶海洋流体力学第一」、「船舶海洋流体力学第二」、力学、材料力学、弾性力学、塑性力学、構造力学、材料学の知識に基づいて船舶や海洋構造物の構造設計についての説明・諸計算ができる知識を養う「材料力学および同演習」、「構造力学第一および同演習」、「構造力学第二および同演習」、「弾性力学」、「船舶海洋構造力学」、「材料加工学」、「材料強度学」、「船舶海洋振動学第一」、「船舶海洋振動学第二」、上記の科目によって養われた知識に基づき船舶や海洋構造物の基本計画・設計ができる知識を養う「空間表現実習」、「船舶設計」、「機能設計工学」、「環境設計工学」、「船舶海洋製図第一」、「船舶海洋製図第二」、船舶や海洋構造物の運動制御、性能や構造の最適化を可能にする知識を養う「船舶運動論」、「自動制御工学」、「システム設計工学」、「運動制御工学」、さらには、船舶海洋工学を理解する上で必要な電気・電子工学、機械工学の基礎知識を養う「電子情報工学基礎Ⅰ」、「電子情報工学基礎Ⅱ」、「電気工学基礎Ⅰ」、「電気工学基礎Ⅱ」、「機械工学大意第一」等により「知識・理解（B-6～11）」を育成する。

「材料力学」、「構造力学」、「船舶算法」、「船舶復原性」、「流体力学」、さらにはその演習科目を通して、数学や基礎力学、応用力学（材料力学、構造力学、流体力学など）を船舶海洋工学分野の実問題に応用する能力を養う。また、「船舶海洋構造力学」、「船舶海洋流体力学第一・第二」、「船舶海洋振動学第一・第二」ならびに「船舶海洋工学特別講義第一～第三」を通して、船舶海洋工学分野における固有の理論や技術を実問題に応用する能力も養う。加えて、情報処理技術を用いたデータ解析や数値解析を行うための科目も用意し、これらを通して「適用・分析（C-1-3～5）」の能力を養う。

船舶や海洋構造物の性能や強度に関しては、小型あるいは簡易的な模型に基づく実験を通して現象を把握する場合も多いため、前の段落までに示した全ての科目の履修と実験科目である「船舶海洋工学実験」を通して、実験等を計画・遂行するとともに結果を工学的に考察する能力を養う。また、PBL（Problem-Based Learning）的な性質を有する「船舶海洋製図第一・第二」や約１年をかけて研究課題に取り組む「船舶海洋工学卒業研究」では、各科目の履修により修得した知識・能力を体系化するとともに、海洋利用技術の計画・設計に必要な技術や考慮すべき条件等について考察する能力を育成する。これら科目により「創造・評価（C-2-1, 2）」ができる能力を身に付ける。

一方で、「機能設計工学」、「システム設計工学」、「工業マネージメント」といった科目では、社会的・工学的な課題を探し出し、これを解決する方法を見つけ出す能力を養う。また、「船舶海洋製図第一・第二」や「船舶海洋工学卒業研究」を通して、正しく説明を行って他の

技術者と議論する能力を育成し、得られた知識や能力を社会で「実践（D-2～4）」できる人物を育てる。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士６年一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士６年一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

船舶海洋工学科では、異なる研究分野の間に共通する概念・手法・構造を抽出することで分野間の知の互換性を確立し、普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す「総合工学」の一つである船舶海洋工学を学ぶことで、海上輸送や海洋開発に対する考え方や技術を身につける身に付ける。そのために、数学、力学（材料力学、流体力学などの応用力学を含む）科目等を通して知識の修得を行うとともに、実現象における知識の位置付けやそれらを応用する方法、さらにはこれらを統合していく方法を学ぶ。中でも特徴的な科目は「船舶海洋製図第一・第二」であり、それまでに実施された科目で得られた知識に基づいて、性能・構造の両面から船舶の計

画・設計・評価を行うことで、問題設定・解決・評価能力を養うとともに、普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す総合工学の考え方を身に付ける。

また近年では、船舶海洋工学の分野でも、波や風などの海象状態や船舶の速度や運動、燃料消費量などの運航状態を記録した莫大なビックデータを活用して、船舶や海洋構造物のより高度な設計やオペレーションを行う試みが始まっている。さらには、数値シミュレーションに基づいて、船舶や海洋構造物を周囲の環境も含めてサイバー空間内に再現するデジタルツイン技術も、船舶海洋工学分野の新たなトピックスのひとつとなっている。このような情報を基盤とした新しい工学の流れに対応出来るように、「データサイエンス序論」で情報処理の基礎知識を修得するとともに、「情報処理概論」や「計算工学演習第一・第二」でのプログラミング技術の修得、「システム設計工学」での情報技術を基盤にしたより高度な設計手法の知識修得、さらには、「構造解析演習」でのシミュレーション技術の知識の修得など、幅広い情報科学の知識の修得を目指す。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「力学基礎演習」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）：　学科群共通教育

Ⅳ群共通の基幹教育ならびに専攻教育科目を中心に履修する。物理、化学、生物、地学系の基幹教育科目をバランスよく履修し、総合工学として幅広い自然科学基礎知識を養う。総合工学として取り扱う物理現象を表現するために必要な数学科目である「常微分方程式とラプラス変換」「複素関数論」を専攻教育科目として履修し、後の専攻教育科目を理解するための基礎を培う。また、統計に関する数学については、基幹教育科目として「数理統計学」を履修する。さらに地球環境工学に関する「工学概論」と、物体の変形挙動を把握する「固体力学」についても専攻教育科目として履修し、Ⅳ群に共通する必要知識を修得する。

２年次（後期）：　以降、学科・専攻教育

専攻教育科目を中心に船舶海洋工学で必要な基礎科目である「船舶算法および同演習」を履修する。春夏学期に引き続き、数学科目については学科群共通の専攻基礎科目として「フーリエ変換と偏微分方程式」を履修し、物理現象の表現に必要な数学知識を培う。また、船舶海洋工学の基礎となる復原性計算、材料力学、流体力学について、演習を含めた科目であ

る「船舶復原性および同演習」「流体力学第一および同演習」、「材料力学および同演習」で学ぶ。さらに、船舶設計に必要な基礎知識、大型構造物に使用される鉄鋼材料とその加工に関する基礎知識、数学に基づく制御手法に関する基礎知識等を「船舶設計」、「自動制御工学」、「材料加工学」の履修により修得する。

３年次：

専攻教育科目を中心に、２年次までに履修した科目の応用科目、総合工学として必要なシステム系科目、さらには船舶海洋工学科の特徴科目である製図等を履修する。２年次までに履修した材料力学を発展させた科目として「弾性力学」、「構造力学第一・第二および同演習」や「船舶海洋振動学第一・第二」を学ぶ。また、流体力学を基礎とする科目として「船舶海洋流体力学第一・第二」や「船舶運動論」、「運動制御工学」を履修する。材料科学もより構造強度健全性評価に重きをおいた科目である「船舶海洋構造力学」、「材料強度学」へと発展する。さらに、プログラミング技術の修得を目的とした「計算工学演習第一」、「情報処理概論」や情報技術を基盤にしたより高度な設計手法の知識の修得を目的とした「システム設計工学」、海洋工学・海洋環境に関する基礎的な知識の修得を図る「海洋機器工学」や「海洋環境情報学」も３年次から履修する。

船舶海洋工学科ではPBL教育に相当する「船舶海洋製図第一・第二」を最も特徴的な科目として位置付けている。２年次後期から３年次にかけて履修する専攻教育科目から得た知識に基づいて学生各自が船舶の使用目的や要求仕様を自身で設定し、船舶の基本設計（船種、主要寸法、船型等の決定）を行う。さらに船型設計の基礎となる線図の描画や、排水量等曲線図と復原力曲線の作成に必要な各種計算の実施、また一般配置図と船体中央横断面図の描画後に行う強度計算の実行を通じて、性能・構造の両面から船舶の計画・設計・評価を行い、問題設定・解決・評価能力を養う。

４年次：

応用的あるいは概論的な専攻教育科目を中心に履修するとともに、実験科目と卒業研究を実施する。具体的な工学的問題を解くための「計算工学演習第二」と「構造解析演習」を履修する。また、実験科目である「船舶海洋工学実験」を履修して、これまでに得た知識を実現象の中で確認・使用することを学ぶ。さらに、学科を構成する教員ではカバーできない船舶海洋工学に関連する内容について、学外の専門家を講師として招聘した集中講義「船舶海洋工学特別講義第一・第二・第三」を開講し、知識を補てんする。最後に、４年間の総括として「船舶海洋工学卒業研究」を実施して、製図科目より高度な問題設定・解決・評価能力を培うとともに、表現能力やプレゼンテーション能力も身に付ける。

（５）卒業要件

基幹教育科目から49.5単位以上、専攻教育科目から85.5単位以上を修得し、135単位以上修得する。

①基幹教育科目　49.5単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）

(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（24 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　85.5 単位以上
(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（12 単位）
(c)学科・専攻科目（必修）（54.5 単位）
(d)学科専攻科目（選択）（10 単位以上）
(e)卒業研究（６単位）

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻
大学院工学府・船舶海洋工学専攻

②教育の特色

船舶海洋工学科（学士課程）と船舶海洋工学専攻（修士課程）は、異なる研究分野の間に共通する概念・手法・構造を抽出することで分野間の知の互換性を確立し、普遍的な知の体系を作り上げる「知の統合」を生み出す「総合工学」の一つである船舶海洋工学を主体的に学ぶために６年一貫型カリキュラムによる教育を行う。

船舶海洋工学科（学士課程）では、海上輸送や海洋開発に対する考え方や技術を身に付けることを目的として、修得した知識の実現象における位置付けやそれらを応用する方法、またこれらを統合していく方法を学ぶ。さらに、３年次の授業科目「船舶海洋製図第一・第二」では、他の科目で修得した知識に基づいて性能・構造の両面から船舶の計画・設計・評価を行うことで、問題設定・解決・評価能力を養うとともに、総合工学の考え方を身に付ける。

６年一貫型教育により、船舶海洋工学専攻（修士課程）では、船舶海洋工学に関連する国内外の企業等で重要な役割を担う技術者・研究者としての素養を身に付けるべく、学部４年間で学んだ船舶海洋工学の内容をさらに発展させた高度な技術に対する知識や、より先端的な知識を修得する。さらに、修士論文研究や演習・講究科目を通して、現実の船舶海洋工学における複雑な問題を解決できるより高度な総合工学の考え方を学ぶ。

以上述べたように、船舶海洋工学科（学士課程）と船舶海洋工学専攻（修士課程）では、「総合工学」の一つである船舶海洋工学の教育を通じて、周囲を海洋で囲まれた我が国において、造船技術の継承・発展を図る能力と持続的な海洋開発を担い得る総合工学的な広い視野を持った技術者・研究者の育成を目的としている。

７－１０．地球資源システム工学科／Ⅳ群

（１）地球資源システム工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	地球資源システム工学は、あらゆる産業活動の基盤と社会生活を支えるエネルギー資源と鉱物資源の持続可能な環境適応型の探査・開発・生産技術、さらに資源循環・防災に関する独創的な技術の創生を目指す学問である。本学科では、国際的に展開される地下資源の探査・開発・供給、国内外における自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する諸技術の開発を担う 21 世紀の地球資源システム工学に関する、地球規模での発想能力と創造力を兼ね備えた研究者・技術者を育成することを教育目標とする。 ・ エネルギー資源・鉱物資源の探査から開発・利用までの地下資源に関わる専門基礎知識を獲得し、かつ理解すること。 ・ エネルギー資源と鉱物資源の探査・開発生産・利用・循環、さらに環境修復・地殻防災・地球環境保全技術など新たな観点に立脚した価値観と技術力を身に付けること。 ・ 国際的に展開される地下資源の開発と供給、自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する諸技術の開発を担う 21 世紀の地球システム工学エンジニアとしての感受性を発達させること。 ・ 地球システムに関する専門基礎知識と、様々な事象に対する理解力と説明能力を備えるとともに、地球規模での発想力と行動力を備えた人材を育成すること。
参照基準	OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. （https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）

学修目標	**A．主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B．知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 総合工学の基礎となる数学を理解し、自然科学分野の理論や概念を説明できる。 B-4. 総合工学の基礎となる物理・化学・地学・生物学の概念を理解し、基本となる理論に基づき、自然科学における現象を説明できる。 B-5. 総合工学で必要とする力学の基礎について理解し、説明できる。 **C-1　適用・分析** C-1-1. 力学的な現象（物体の運動・変形・破壊）のメカニズムを論理的に把握し、解析できる。 C-1-2. 地球環境に関わる様々な事象･問題を科学的原理に基づいて解析できる。 C-1-3　地球工学およびエネルギー資源工学に関わる専門的内容を説明することができる。 C-1-4　資源システム工学に関わる専門的内容を説明ですることができる。 C-1-5　地球資源システム工学に関する演習や実験の結果を分析し、論理立てて自分の考えを表現することができる。 C-1-6　地球資源システム工学に関する専門基礎知識と、様々な事象に対する現象を理解し、説明することができる。 **C-2　創造・評価** C-2-1　地球工学およびエネルギー資源工学に関わる現象を理論に基づいて分析し、実問題に応用することができる。 C-2-2　資源システム工学に関わる現象を理論に基づいて分析し、実問題に応用することができる。 C-2-3　地球資源システム工学に関する諸現象のメカニズムを総合的理解し、科学的に分析することができる。

	D．実践 D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2　科学的技術社会に潜む諸問題を発見し、合理的に解決できる。 D-3　地球資源システム工学を含めた自然科学の方法をベースにして論理的思考ができる。 D-4　論理的思考を駆使して新たな科学技術を体系的に把握できる。 D-5　地球資源システム工学に関連して、論理的思考能力を基礎に技術開発および研究分野へ活用し、自分の能力を社会還元できる。

（２）地球資源システム工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅳ群：総合工学系」では、この学科群共通教育を通して、地球環境に係る総合工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士一貫型専攻教育のための土台を築く。

学科群共通教育科目としては、以下の２つのカテゴリーの必修科目を設けている。

１）基幹教育科目（学科群指定科目）（理系ディシプリン科目）：「数理統計学」、「力学基礎演習」

２）学科群共通・専攻教育科目：「地球環境総合工学」、「固体力学」、「常微分方程式とラプラス変換」、「フーリエ変換と偏微分方程式」、「複素関数論」

これらの科目を通して、Ⅳ群共通の学修目標「知識・理解（B-3～B-5）」及び「適用・分析（C-1-1～C-1-2）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

地球資源システム工学科では、地球資源システム工学の根幹をなす地球工学、資源システム工学、エネルギー資源工学の幅広い領域の専門科目を設けている。具体的には、「地球システム学概論」「地球環境のイメージング」「地球熱学」「資源流体工学」「岩盤工学」「資源処理工学」「エネルギー資源工学」などの必修科目を履修することで専門知識（C-1-3～C-1-6）を身に付ける。また、「資源環境科学」「物理探査学」「地熱工学」「石油工学」「地下空洞設計法」「水圏環境化学平衡論」「地層内物質移動工学」などの必修科目を履修することで実問題に応用し、科学的に分析できる能力（C-2-1～C-2-3）を身に付ける。

また、地球資源システム工学に関連する諸現象のメカニズムを理解し、科学的に分析する能力を養うと共に、課題を探求し、その問題点を整理し解決する思考能力や創造性を身に付ける実験・演習科目である「地球資源システム工学実習」、「フィールド地球科学演習」、「地球工学実験第一・第二」「資源システム工学実験第一・第二」などの必修科目を履修することで地球球資源システム工学の専門知識・技術を自主的、継続的に遂行できる能力（C-1-5、C-1-6、 D-2～D-5）を育成する。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り

返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかをカリキュラムを検討する委員会において精査することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士６年一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
・「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

地球資源システム工学科では、地球上に広く分布する地下資源の開発に関する幅広い理論と技術を、座学で学ぶだけでなくフィールドワークを通して体験できるように、実験、野外実習およびフィールド調査を重視している。さらに、学部３年生の夏季休業中に、国内外の資源開発現場や資源加工関連会社あるいは環境関連の会社や研究所において「地球資源システム工学インターンシップ」を実施し、エネルギー資源や鉱物資源の開発・利用及び環境保全に関する現場の実務について理解を深めている。さらに、情報処理教育にも力を入れており、プログラム演習をはじめとして、様々な実験や演習科目でコンピュータを用いたシミュレーションや数値実験を修得する機会を用意している。

なお、今後の情報系教育の重要性に鑑み、１年次に履修する情報系基礎科目の応用を企図し、２年次後期には「情報処理概論」を配置して、地球資源システム工学分野でデータを使うことに対するイメージを学生に持たせるとともに地球資源システム工学に必要なシミュレーション技術や ICT 技術を用いた高度情報化資源採掘（スマートマイニング）に関する素養を涵養する。また、電気電子情報関連知識を修得することを目的として、２年次に「電気工学基礎」および「電子情報工学基礎」を配置する。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次： 工学部・共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「力学基礎演習」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）： 学科群・共通教育

Ⅳ群共通の基幹教育ならびに専攻教育科目を中心に履修する。物理、化学、生物、地学系の基幹教育科目をバランスよく履修し、総合工学として幅広い自然科学基礎知識を養う。総合工学として取り扱う物理現象を表現するために必要な数学科目である「常微分方程式とラプラス変換」「複素関数論」を専攻教育科目として履修し、後の専攻教育科目を理解するための基礎を培う。また、統計に関する数学については、基幹教育科目として「数理統計学」を履修する。さらに地球環境工学に関する「工学概論」と、物体の変形挙動を把握する「固体力学」についても専攻教育科目として履修し、Ⅳ群に共通する必要知識を修得する。

２年次（後期）： 以降、学科・専攻教育

専攻教育科目を中心に、地球資源システム工学で必要な基礎科目である「地球システム学概論」「地球環境のイメージング」「地球熱学」「資源流体工学」「岩盤工学」「資源処理工学」「エネルギー資源工学」を履修する。前期に引き続き、数学科目については学科群共通の専攻基礎科目として「フーリエ変換と偏微分方程式」履修し、物理現象の理解に必要な数学の知識を養う。また、講義で得た知識および技術が資源関連の現場および地質調査にどのように応用されているか体験を通して理解するため、「地球資源システム工学実習」および「フィールド地球科学演習」を履修する。

３年次：

専攻教育科目として「資源環境科学」「物理探査学」「地熱工学」「石油工学」「地下空洞設計法」「水圏環境化学平衡論」「地層内物質移動工学」を履修し、２年次までに講義で学んだ基礎知識を基に、専門性の高い知識を養う。また、実験科目として「地球工学実験第一」「地球工学実験第二」「資源システム工学実験第一」「資源システム工学実験第二」を履修することで、資源開発に必要な実験手法、測定手法および解析手法の基礎を修得する。

また、地球資源システム工学に関連した実践的な講義を外部教員が実施する集中講義として「工業爆薬学」「石油･天然ガス資源開発」「海外資源・資源経済学」「地熱発電工学」

「廃棄物資源循環工学」「石灰石資源」を開講し、さらなる知識の補てんを行う。

４年次：

これまでの教育課程の履修を通じて修得した地球資源システム工学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、指導教員のもとで自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学習経験として卒業研究に取り組む。これにより、実践的な課題設定・仮説検証・問題解決能力を養成するとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 49.5 単位以上、専攻教育科目から 85.5 単位以上を修得し、135 単位以上修得する。

①基幹教育科目　49.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（24 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　85.5 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科群共通科目（12 単位）
(c)学科・専攻科目（必修）（43.5 単位）
(d)学科・専攻科目（選択）（21 単位以上）
(e)卒業研究（６単位）

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・地球資源システム工学専攻

②学科（学士課程）→専攻（修士課程）の接続の特長

社会が求める優れた人材の養成をめざすために、研究を通した教育によって学部４年と修士２年を連結した６年一貫型教育を行うことで、地球資源システム工学を中心とする幅

広い基礎学問を修得し、そこで学んだ基礎知識をもとに、卒業後に自ら学習（アクティブ・ラーニング）することによって、将来的により高度な専門性を有する事を可能とする。

従来は、学部で地球資源システム工学に関する基礎的な知識基盤の教育を行い、修士課程でこれらを発展させた高等専門科目の教育を行ってきたが、社会が望む多様性と専門性に対応できるために、地球資源システム工学専攻では、地球資源システム工学のメカニズムを理解するための科学的観点に基づく分析能力を養うとともに、課題探求力ならびに解決能力や創造力を身に付けることにも重点を置き、地球資源システム工学に関する先進技術と研究に早くから触れながら学修に望む６年一貫型教育を行う。地球資源システム工学科と地球資源システム工学専攻は６年一貫型教育における授業による幅広い基礎知識の修得に基づいた実践力を持った研究開発者の育成を目指す。

７－１１．土木工学科／Ⅳ群

（１）土木工学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	土木工学は、構造物の設計･施工に関する技術展開と都市問題から環境問題に至る社会基盤システムの構築を体系的に探究する学問である。本学科では、社会基盤や社会環境システムの創造や構築に対応できる専門的基礎知識と技術を備え、かつ柔軟な応用力や実行力を身につけた人間性、国際性豊かな技術者･研究者を組織的に養成するために、以下を教育目標としている。 ・地球環境および人間社会に対する広い教養を身につけ、倫理観に裏づけられた優れた人格を有する人材になり得ること。 ・グローバル化した社会に対応できる自立した技術者に必要な素養およびコミュニケーション能力を身に付けること。 ・インフラ整備における指導的立場に立つ土木技術者として、幅広い職種に対応できる専門基礎学力および高度な専門応用学力を修得すること。 ・与えられた制約の下で計画的かつ効率的に実務を遂行できるマネジメント能力を身に付けること。 ・専門知識と知性を総合し、より良い社会を創造するデザイン能力を身に付けること。 ・社会においてリーダーシップをとれる人材になり得ること。
参照基準	OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. （https://doi.org/10.1787/5kghtchn8mbn-en.） 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） 日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』 （https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。

	A-2. （協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 総合工学の基礎となる数学を理解し、自然科学分野の理論や概念を説明できる。 B-4. 総合工学の基礎となる物理・化学・地学・生物学の概念を理解し、基本となる理論に基づき、自然科学における現象を説明できる。 B-5. 総合工学で必要とする力学の基礎について理解し、説明できる。 B-6. 主要三力学（構造力学・水理学・地盤力学）の知識に基づいて、自然界の現象、構造物の挙動や設計法について説明できる。 B-7. 環境学の知識に基づいて、自然環境と人間の社会経済的活動の関わり、環境汚染の未然防止、環境浄化技術、生態系について説明できる。 B-8. 建設材料学、維持管理工学の知識に基づいて、各種建設材料の基本的性質や既存構造物の維持管理手法について説明できる。 B-9. 計画学の知識に基づいて、社会資本整備の役割および仕組み、交通システムの特性と利用、まちづくり、都市・地域計画の理論について説明できる。 B-10. 河川，海岸および水資源工学の知識に基づいて、河川および港湾の役割、流れや波の特性、水処理技術について説明できる。 B-11. B-6 から B-10 の分野を横断するグローバルな環境問題や防災など、持続可能な発展に向けた基礎的な課題について説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 C-1-1. 力学的な現象（物体の運動・変形・破壊）のメカニズムを論理的に把握し、解析できる。 C-1-2. 地球環境に関わる様々な事象･問題を科学的原理に基づいて解析できる。 C-1-3. 土木工学分野の実験や数値シミュレーションの基本原理を理解し、結果を分析し、自らの考えを論理的に表現できる。 C-2. 創造・評価 C-2-1. 問題を解決するための様々なアプローチの可能性を考えることができ

	る。 C-2-2. 論理的思考を駆使して科学技術を体系的に把握できる。 C-2-3. 「ものづくり」を通して、課題を発見し、それを解決するための方法を提示できる。 **D.実践** D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を持つ。 D-2. 土木技術者の倫理綱領について理解し、土木技術者の社会的役割と責任について説明できる。 D-3. 異なる文化や風習,価値観等の多様性を認識し，違いを比較・考察できる。

（２）土木工学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2）」「表現・発表力（A-3)」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学科群共通教育】（２年次春学期・夏学期）

「専門分野の知識・能力・ものの考え方」を包括的・総合的に身に付け、工学分野間の融合を担う人材を育成する基盤として、当該学科が位置づく学科群共通の必修科目を開設する。

「Ⅳ群：総合工学系」では、この学科群共通教育を通して、地球環境に係る総合工学の諸問題に関する関心の裾野を拡げ、２年次後期からの学科における学士・修士６年一貫型専攻教育のための土台を築く。

学科群共通教育科目としては、以下の２つのカテゴリーの必修科目を設けている。

１）基幹教育科目（学科群指定科目）（理系ディシプリン科目）：「数理統計学」、「力学基礎演習」

２）学科群共通・専攻教育科目：「地球環境総合工学」、「固体力学」、「常微分方程式とラプラス変換」、「フーリエ変換と偏微分方程式」、「複素関数論」

これらの科目を通して、Ⅳ群共通の学修目標「知識・理解（B-3～B-5）」及び「適用・分析（C-1-1～C-1-2）」を保証する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次秋学期～４年次）

土木工学科では、土木工学の幅広い領域の専門科目を基礎から応用まで積み上げる縦糸的な科目群と、これからの時代の変化を見据え、学んでおくべき横糸的な科目群から構成されている。縦糸の学科・専攻科目には、大きく分けて構造・材料系、地盤系、計画系、環境系、水系の五つの専門領域がある。各系の中で、基礎から応用までの専門科目（「構造力学Ⅰ・Ⅱ」、「土木材料学」、「地盤力学Ⅰ・Ⅱ」、「社会基盤計画学Ⅰ・Ⅱ」、「環境システム学」、「水理学Ⅰ・Ⅱ」、「環境と防災A・B」など）が用意されており、これらを段階的に履修していくことで、体系的な専門知識（B-6～B-11）を身に付ける。

横糸の学科・専攻科目において、実験・実習系科目（「土木実践教室A・B」、「測量学・実習」）や情報系科目である「データサイエンス」を通して、「適用・分析（C-1-3）」を育成する。

社会における土木の位置づけや幅広い役割について理解することを目的とした科目（「環境と防災A・B」、「土木地理学」）では、「評価・創造（C-2-1）」を培う。

自ら実際に体験することで様々な専門知識を活用する選択必修科目（「プロジェクト・ものづくり」、「プロジェクト・まちづくり」）を通して、「評価・創造（C-2-3）」を保証する。

土木技術者の社会的役割を認識するための科目（「土木エンジニア史」）を通して、「社会における工学の価値の理解（D-2）」を育成する。

さらに、異分野の者との協働を意識させる科目（「合意形成論」、「土木と社会セミナー」）によって、「実践（D-3）」を培う。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す（C-2-1～C-2-3）。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- 「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、八大学工学系連合会「達成度調査（専門力）」に基づいて検証する。
- 「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、八大学工学系連合会「達成度調査（専門力）」に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

土木工学科では、土木工学の幅広い領域の専門科目を基礎から応用まで積み上げる縦糸的な科目群と、これからの時代の変化を見据え、学んでおくべき横糸的な科目群からカリキュラムを構成する。

縦糸の学科・専攻科目には、大きく分けて構造・材料系、地盤系、計画系、環境系、水系の五つの専門領域がある。各系の中で、基礎から応用までを教授する科目を配置しており、これらを段階的に履修させることで、体系的な専門知識を身につけさせる。

横糸の学科・専攻科目には、社会における土木工学の位置づけや幅広い役割について理解することを目的とした必修科目や、土木技術者の社会的役割を認識するための科目、広い見識を具えるのに役立つ科目を配置する。また、「プロジェクト・ものづくり」や「プロジェクト・まちづくり」といった実践的な選択必修科目や実験系の科目を配置し、自ら実際に体験することで様々な専門知識についての理解を深めさせる。

なお、今後の情報系教育の重要性に鑑み、必修科目として専攻教育科目に情報系教育科目を導入する。１年次に配置する「データサイエンス序論」で、データを扱うことに対するイメージを学生に持たせ、情報処理の基礎知識を修得させた後、３年次に「データサイエンス」を配置し、近年、土木分野でも重要となるビッグデータや情報の使い方など、専門性に重点を置いた知識や技術を修得させるとともに、必要なシミュレーション技術に関する素養を身につけさせる。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ｉ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、「力学基礎演習」を学科群必修の基幹教育科目として履修する。

２年次（前期）：　学科群共通教育

Ⅳ群共通の基幹教育ならびに専攻教育科目を中心に履修する。物理、化学、生物、地学系の基幹教育科目をバランスよく履修し、総合工学として幅広い自然科学基礎知識を養う。総合工学として取り扱う物理現象を表現するために必要な数学科目である「常微分方程式とラプラス変換」「複素関数論」を専攻教育科目として履修し、後の専攻教育科目を理解するための基礎を培う。また、統計に関する数学については、基幹教育科目として「数理統計学」を履修する。さらに地球環境工学に関する「工学概論」と、物体の変形挙動を把握する「固体力学」についても専攻教育科目として履修し、Ⅳ群に共通する必要知識を修得する。

２年次（後期）：　以降、学科・専攻教育

専門的な知識を修得するため、構造・材料系、地盤系、計画系、環境系、水系といった５つの分野に対する専攻教育科目（縦糸科目）、および土木工学への興味を深めるための総合的な科目として「土木エンジニア史」、「土木地理学」、「環境と防災」などの専攻教育科目（横糸となる科目）を開講する。また、講義で学んだ知識をもとに、実験等を通じて理解度を更に深めるため、「土木実践教室」を開講する。さらに、「土木と社会セミナーA・B」では、

将来専門家としての活躍が期待される学生が自ら土木技術者等として必要な問題意識を認識し、その解決方法を学ぶことができるよう、実務家や専門家によるセミナーや、フィールドトリップ等を実施する。

３年次：

２年後期から引き続き専攻教育科目を履修するとともに、「測量学・実習」など、土木に必要な広い見識を具えるのに役立つ科目を開講する。

３年次前期は基礎科目をベースに学修を進め、後期は専門的な知識を学修する専門選択科目を開講する。専門的な知識を学ぶための講義だけではなく、実際の社会や技術の状況に則した実践的なプロジェクトに取り組む機会として、「プロジェクト・ものづくり」および「プロジェクト・まちづくり」を履修する。基礎科目および応用科目で学んだ知識を活用し、ものづくり、まちづくりのプロセスの実際をグループワークの中で体験する（選択必修科目）。「土木工学総合演習」では、これまでに実施した海外体験や異文化交流、インターンシップなど、学生自らが土木技術者としての視野を広げるために行った活動について、報告会を行うとともに、卒業生の協力のもと、実際の仕事や技術に触れる機会を設ける。

４年次：

１年次から３年次までの教育課程の履修を通じて修得した土木工学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、指導教員のもとで自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学習経験として卒業研究に取り組む。１年間研究した成果は卒業論文にまとめ、卒業論文発表会で発表する。これにより、実践的な課題設定・仮説検証・問題解決能力を養成するとともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 49.5 単位以上、専攻教育科目から 85 単位以上を修得し、134.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　49.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（１単位）
(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（24 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　85 単位以上

(a)工学部共通科目（３単位）

(b)学科群共通科目（12 単位）

(c)学科・専攻科目（必修）（44 単位）

(d)学科・専攻科目（選択）（20 単位以上）

(e)卒業研究（６単位）

（６）６年一貫型教育の実現

①接続する学府・専攻

大学院工学府・土木工学専攻

社会基盤工学コース

都市環境工学コース

②教育の特色

社会が求める優れた人材の養成をめざすために、研究を通した教育によって学部４年と修士２年を連結した６年一貫型教育を行うことで、土木工学を中心とする幅広い基礎学問を修得し、そこで学んだ基礎知識をもとに、卒業後に自ら学習（アクティブ・ラーニング）することによって、将来的により高度な専門性を有することを可能とする。

従来は学部で土木工学に関する基礎的な知識基盤の教育を行い、修士課程でこれらを発展させた高等専門科目の教育を行っていたが、社会が望む多様性と専門性に対応できるようにするために、土木工学における社会基盤の設計・施工、維持管理、国土整備や環境問題、防災分野等に関する先進技術と研究に早くから触れながら学修に臨む６年一貫型教育を行う。学部４年次には専攻教育科目の一部を履修することが出来るため、より効率的に高度な専攻教育が可能になっている。土木工学の分野の広がりと専門教育の深化に対応するには、学部の基礎的な教育、修士課程の専門教育と分けるのではなく、学部でも幅広い基礎教育の基づく実践的な先端教育、修士課程でも基礎的な工学教育を行うことが必要となる。

土木工学科と土木工学専攻は、６年一貫型教育における授業科目による幅広い基礎学問の修得に基づいた実践力を持った技術者または研究者の育成をめざす。

７－１２．建築学科／Ｖ群

（１）建築学科のディプロマ・ポリシー

工学部の教育の目的	本学部は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先導性、学際性、国際性の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士課程の教育を通して工学の専門性を活かしたジェネラリスト、及び高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナルの基盤を培うことを目的としている。 この工学部共通の目的の下に展開する各学科における教育目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。
学科の教育の目的	建築学は、未来の建築と都市を構想し、歴史・文化を継承し、人々を取り巻く物的環境の形成を担う学問である。本学科では、時代と共に変化する人々の多様な生活に密着した空間をつくり出し、それを活用し続けるために、建築の計画理論と設計方法、環境技術、構造技術、さらに材料に関する知識と施工技術など、多様な要素を総合する能力を持つ人材を、組織的に育成することを教育目標とする。 ・建築と都市に関わる広範な知識・技術・技能を身につけている。 ・時代の変化を複数の視点で読み取る思考力を備えている。 ・建築と都市に関わる課題の全体像とその時間軸を把握し、技術とデザインの両面から、その課題に取り組むことができる。
参照基準	・OECD (2011), “A Tuning-AHELO Conceptual Framework of Expected Desired/Learning Outcomes in Engineering”, OECD Education Working Papers, No. 60, OECD Publishing, Paris. ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-共通基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/2019kijun.pdf） ・日本技術者教育認定機構『日本技術者教育認定基準-個別基準（2019 年度～）』（https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf） ・日本技術者教育認定機構「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019 年度～）（https://jabee.org/doc/2020kaisetu(Arch6).pdf） ・日本学術会議『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野』（http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140319.pdf）
学修目標	**A.主体的な学び・協働** A-1.（主体的な学び）専門的知識と教養を元に、自ら問題を見出して批判的に吟味・検討するとともに、それを解決すべく自主的に学修を進めことができる。 A-2.（協働）様々な人々と議論を行って多方面から問題を検討し、協働して問題解決にあたることができる。

	A-3. 文章表現能力、口頭発表能力および討論能力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を吸収・発信できる。 **B.知識・理解** B-1. 物理学、化学、数学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学における現象を説明できる。 B-2. 情報科学の基礎を理解し、様々なデータから有用な情報を導き出すことができる。 B-3. 建築と都市の歴史・理論、および関連する工学、芸術学、人文・社会科学自然科学に関する幅広い知識を身につけている。 B-4. 使いやすく魅力的で長く人々に愛される多様な空間を計画・設計するための基礎的な理論と方法を理解し、論理的に説明できる。 B-5. 安全・快適・健康で省エネルギー・低炭素の建築と都市を計画・設計・運用するための理論と方法を理解し、論理的に説明できる。 B-6. 災害に対して安全・安心かつ力学的合理性を有する建築と都市を設計するための理論、および適切な材料選定の方法と施工技術を理解し、論理的に説明できる。 **C.能力** C-1. 適用・分析 建築物単体から都市のレベルまでの多様な空間を計画・設計するための専門的な理論と方法、および人間と科学・社会・地球との関わりを理解することによって、建築と都市が抱える問題を自ら発見・整理することができる。 C-2. 創造・評価 C-2-1.　建築と都市の物理環境を構成する多様な要素を定量的に理解・評価・制御する方法論とメカニズムを学び、持続可能な建築と都市を創造・保全・管理するためのシステム構築とマネジメントをすることができる。 C-2-2. 建築物に作用する力学的現象に基づいて、安全性の評価と構造計画を行うことができる。 C-2-3. 建築と都市、およびそれを包括する多様な分野の知識に基づいた客観的な情報分析を通じて、建築と都市を総合的に把握する論理的思考力を身につけ、自らが構想する建築と都市について、企画から計画・設計までをまとめ上げること、自ら発見した課題に対する独自の解決策を提案できること、および具体的な文書・模型・図面等を用いて、自身のアイディアを論理的かつ明確に説明することができる。 **D.実践**

	D-1. 技術が社会に及ぼす影響を常に考慮し、社会に対する責任と倫理観を身につけている。 D-2. 問題の中身をよく吟味し、それを解決するための方法を提示・実行すること、関連する予算と法的制約を調整し、プロジェクトの企画・分析、統合的な設計、施工管理、工事費管理を行うこと、および高い教養と見識に基づいて、地域社会、国際社会が要請する新たな建築と都市を自ら構想・創造することができる。

（２）建築学科のカリキュラム・ポリシー

工学部では、「基幹教育」と「専攻教育」を通して、工学分野における専門性、先導性、学際性、国際性を有する人材を育成する。本学科では、九州大学工学部及び工学系学府の学士・修士一貫型教育の方針に則り、次のとおりカリキュラムを編成する。

【工学部共通教育】（１年次）

「主体的な学び・協働」と「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方」を身に付け、「社会における工学の価値の理解」を涵養する基盤として、基幹教育科目及び専攻教育科目に、学科を問わず工学部生全員が履修する学部共通教育として必修科目を設ける。

なお、ビッグデータ解析、IoT、AI などの発展に伴い情報教育の重要性が高まっていることを受け、基幹教育及び専攻教育に、工学部生の必修科目として情報系基礎科目を設定する。

〈工学部共通・基幹教育科目〉

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学科目）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」）、教養としての言語運用能力修得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、工学の専攻教育に繋がる基礎的知識を学ぶ科目（理系ディシプリン科目）、様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン科目）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ科目）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合科目）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1、2）」「表現・発表力（A-3）」「工学分野共通の知識・能力・ものの考え方（B-1）」を培う。

〈工学部共通・専攻教育科目〉

工学の社会的役割に対する意識を醸成する科目「工学倫理」を通して「社会における工学の価値の理解（D-1）」を育成する。

〈情報系基礎科目〉

工学系人材の必要最低限の情報リテラシー科目（「サイバーセキュリティ基礎論」、「プログラミング演習」、「データサイエンス序論」）を通して「工学分野共通の知識・能力・

ものの考え方（B-2）」を育成する。

【学士・修士一貫型専攻教育】（２年次～４年次）

建築学科での専攻教育は、（ｉ）建築と都市に関連した幅広い専門知識を身に付けるための科目、（ii）自ら課題を発見・整理し、創造的に課題に向き合う能力を養うための科目、（iii）自らの独創的なコンセプトやイメージを論理的に構築し、それを実際の建築・都市として構想し、視覚的に表現する能力を養うための設計演習系科目で構成される。３年次春学期までは、専攻教育必修科目を中心として幅広い基礎的な学修を進めながら、学生各自が将来の方向性を定める。３年次夏学期以降は、学生が自らの目標に合わせて専攻教育選択科目の中から科目を選択して学修を進める。

（ｉ）の専門知識を身に付けるための科目として、大きく以下の４つのカテゴリーがある。

1. 建築と都市の歴史・理論、および関連する工学、自然科学、芸術学、人文・社会科学に関する幅広い知識（B-3）については、学科必修の基幹教育科目「世界建築史概論、日本建築史概論、近・現代建築史」で学ぶことができる。
2. 使いやすく魅力的で長く人々に愛される多様な空間を計画・設計するための理論と方法（B-4）については、専攻教育必修科目「建築設計計画 A～E、都市計画概論、まちづくり概論、建築法規」で学ぶことができる。
3. 安全・快適・健康で省エネルギー・低炭素の建築と都市を計画・設計・運用するための理論と方法（B-5）については、専攻教育必修科目「建築環境設備基礎 A・B」学ぶことができる。
4. 災害に対して安全・安心かつ力学的合理性を有する建築と都市を設計するための理論、および適切な材料選定の方法と施工技術（B-6）については、専攻教育必修科目「建築構造力学基礎、静定建築構造力学、建築材料、建築構法、建築施工」で学ぶことができる。

（ii）の自ら課題を発見・整理し、向き合う能力を養うための科目として、大きく以下の３つのカテゴリーがある。

1. 建築物単体から都市のレベルまでの多様な空間を計画・設計するための専門的な理論と方法、および人間と科学・社会・地球との関わりを理解することによって、建築と都市が抱える問題を自ら発見・整理する能力（C-1）については、専攻教育必修科目「都市設計概論、ハウジング論、建築学研究序説」で身に付ける。
2. 持続可能な建築と都市を創造・保全・管理するためのシステム構築とマネジメント能力（C-2-1）については、専攻教育必修科目「建築環境設備応用 A・B、建築環境デザイン」で身に付ける。
3. 建築物に作用する力学的現象に基づいて、安全性の評価と構造計画を行う能力（C-2-2）については、専攻教育必修科目「木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造」で身に付ける。

（iii）の設計演習系科目は、自らが構想する建築と都市について、企画から計画・設計までを

まとめ上げる能力、自ら発見した課題に対する独自の解決策を提案できる能力、および具体的な文書・模型・図面等を用いて、自身のアイディアを論理的かつ明確に説明する能力を身に付ける（C-2-3）ことを主な目的としている。学生は、専攻教育必修科目「建築設計基礎演習A～E」で学ぶことができる。

【卒業研究】（４年次）

教育課程の履修を通じて修得した知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、仮説検証型・課題解決型の学修に実践的に取り組み、問題発見能力や問題解決能力を高めるための一つの極めて重要な学修経験として、卒業研究を課す。学士・修士一貫型教育の学士課程最終年度に取り組む本課題は、学生の一人一人が教育課程の前半期における自己の学びを振り返り、後半期に向けて専門性をより高度な水準に鍛え上げていくための重要な契機とする。

この経験を通じて学生は、問題の中身をよく吟味し、それを解決するための方法を提示・実行する能力、関連する予算と法的制約を調整し、プロジェクトの企画・分析、統合的な設計、施工管理、工事費管理を行う能力、および地域社会、高い教養と見識に基づいて、国際社会が要請する新たな建築と都市を自ら構想し創造する能力（D-2）を身に付ける。

本学科の卒業研究「建築学研究」には、建築学分野の研究成果の集大成を論文にする卒業論文と自らの提案を形として表現する卒業設計がある。学生は各自の目標に従って、卒業論文のみに集中して取り組むか、卒業論文と卒業設計の両方に取り組むことを選択できる。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

カリキュラムは、二つの分節に区分して運用する。第１分節の「基盤」期（１年次～３年次）には、工学部共通教育と学科群共通教育を通して基盤的な学びの姿勢と知識・理解（主体性・専門性）を修得した上で、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びに取り組み、発展的な知識・理解およびその活用力（専門性・先導性）を修得することが期待される。第２分節の「統合」期（４年次）には、学士・修士一貫型専攻教育の前半期の学びを振り返り、知識・能力の統合と新しい知識を創出する能力（先導性・国際性・学際性）を修得することが期待される。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- 「基盤」期の評価：３年次までの工学部共通教育、学科群共通教育、学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。
- 「統合」期の評価：４年次の学士・修士一貫型専攻教育の学修成果について、学修目標達成度調査に基づいて検証する。

（３）教育方法の考え方と授業科目

建築学科は、建築の計画理論と設計方法、環境技術、構造技術そして材料と施工技術など、多様な要素を総合する能力を有する人材の育成を基本方針として掲げており、教育科目の編成に当たっても、この考え方を継承・拡大している。工学的技術や建築文化についての幅広い知識と技術を修得し、卒業後に建築士などの資格取得や、国際社会の第一線で活躍する建築家、建築技術者および研究者を養成するために、再編成後の教育課程においては、建築学に関わる諸知識を体系的・理論的に学ぶための講義科目、具体的なデザイン手法と専門的技術を体得するための演習科目をバランス良く配置している。

講義科目は、専門的知識を修得するために教員が主にひとりで解説する講義と、多角的な理解を深めることを目的に複数の教員によるオムニバス講義で構成している。演習科目は、複数の教員によるスタジオ形式の演習指導を通してデザイン能力と共にコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を養うための設計演習科目と、実験実習やフィールドワークを通して知識や技術の応用能力を養う実験演習を用意している。

情報処理概論においては、実務的な素養のある教員が担当し、特殊な技術と誤解され易いプログラム開発やシミュレーションに対する抵抗を減らすことを念頭に授業を構成する。身近なツールである Excel を用いて、建築物の構造解析の基礎となる固有値計算等を行う、シミュレーションソフトを用いて、温度・風・光環境などを可視化する、3D モデリングツールを用いてアルゴリズミックデザインを行うといった、建築設計実務へとつながる基礎的なトレーニングを行い、その理論的背景を学ぶ。

（４）主要な授業科目の実施方法と配当年次

<u>１年次</u>： 工学部・共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「図形科学Ⅰ」、「プログラミング演習」、「先端技術入門」、「自然科学総合実験」等を全学科必修の工学部共通・基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を工学部共通・専攻教育科目として履修する。

このほか、専攻教育科目である「建築概論」を 1 年次に履修することで、2 年次以降に学ぶ建築学の広い学問領域を概観させ、大きく分けて計画系・環境系・構造系という 3 分野の関係性や、実際の建築物の設計・施工に必要な職能などを理解する機会を設けている。

<u>２年次</u>： 以降、学科・専攻教育

専攻教育科目が中心となり、エンジニアリング分野である環境系・構造系では今後の学びの基礎学力となる「建築環境設備基礎 A・B」および「建築構造力学基礎」、「静定建築構造力学」などの科目から始まり、それらを実際の建築物に応用する建築設備に関する講義や各種構造に関する科目に繋がるカリキュラムとしている。これと併行し、 様々な与条件を設

定した設計課題に取り組む「建築設計基礎演習 A ～ D」を 1 年間に渡り配置しており、その具体的なデザインの方法等を学ぶ「建築設計計画 A ～ D」と都市の計画・設計・居住に関する概論の講義を組み合わせている。2 年次の履修科目の多くは必修科目で、建築に関わる人材として広く知るべき知識を修得できるように、講義・演習科目の内容を精査している。

<u>３年次</u>：

2 年次より中心となっている専攻教育科目が高度化し、広く知識を修得する必修科目が減り、その一方で各学生の興味にあわせた選択科目として、計画系・環境系・構造系の各分野をより深く学べる内容を用意している。計画系では、建築、都市に関する専門分野へと拡がり、環境系ではより具体的な設備に、構造系では対象とする構造形式を拡げるなど、各分野で必要な知識の方向を検討し、科目群を配置している。また、夏学期には留学する機会として、必修科目を配置しないこととし、一方で留学しない学生を対象とした「特別プログラム」も配置し、より自主性を持って学ぶ機会を増やしている。

また、建築学科独自の情報系科目「情報処理概論」では、実務的な素養のある教員が担当し、特殊な技術と誤解され易いプログラム開発やシミュレーションに対する抵抗を減らすことを念頭に授業を構成する。身近なツールである Excel を用いて、建築物の構造解析の基礎となる固有値計算等を行う、シミュレーションソフトを用いて、温度・風・光環境などを可視化する、3D モデリングツールを用いてアルゴリズミックデザインを行うといった、建築設計実務へとつながる基礎的なトレーニングを行い、その理論的背景を学ぶ。

<u>４年次</u>：

1 年次から 3 年次までの教育課程の履修を通じて修得した建築学分野及び他の関連分野の知識・能力・ものの考え方を総合的・統合的に発揮して、指導教員のもとで自ら課題を設定し仮説をもってその解決を図る極めて重要な学習経験として卒業研究に取り組む。

この経験を通じて学生は、問題の中身をよく吟味し、それを解決するための方法を提示・実行する能力、関連する予算と法的制約を調整し、プロジェクトの企画・分析、統合的な設計、施工管理、工事費管理を行う能力、および地域社会、高い教養と見識に基づいて、国際社会が要請する新たな建築と都市を自ら構想し創造する能力を身に付ける。

本学科の卒業研究「建築学研究」には、建築学分野の研究成果の集大成を論文にする卒業論文と自らの提案を形として表現する卒業設計がある。学生は各自の目標に従って、卒業論文のみに集中して取り組むか、卒業論文と卒業設計の両方に取り組むことを選択できる。

（５）卒業要件

基幹教育科目から 48.5 単位以上、専攻教育科目から 82 単位以上を修得し、130.5 単位以上修得する。

①基幹教育科目　48.5 単位以上

(a)基幹教育セミナー（1 単位）

(b)課題協学科目（2.5 単位）
(c)言語文化科目（12 単位）
(d)文系ディシプリン科目（４単位）
(e)理系ディシプリン科目（23 単位）
(f)サイバーセキュリティ科目（１単位）
(g)健康・スポーツ科目（１単位）
(h)総合科目（２単位）
(i)高年次基幹教育科目（２単位）

②専攻教育科目　82 単位以上
(a)工学部共通科目（３単位）
(b)学科・専攻科目（必修）（49 単位）
(c)学科・専攻科目（選択）（24 単位以上）
(d)卒業研究（６単位）

（６）取得可能な資格

種別	資格名	取得できる資格	要件等
国家資格	１級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、受験資格が得られる。ただし、一級建築士登録をするためには、試験の合格に加えて、卒業後２年間の実務経験が必要となる。
	２級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、受験資格が得られる。試験に合格すれば、直ちに２級建築士登録ができる。
	木造建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、受験資格が得られる。試験に合格すれば、直ちに木造建築士登録ができる。

（７）大学院との接続
①接続する学府・専攻
大学院人間環境学府・都市共生デザイン専攻、空間システム専攻

②教育の特色
大学院人間環境学府は「地球規模でますます複雑に多様化する傾向にある人間環境を取りまく諸問題を多面的視点から科学的に解明し、人間にとって最適な環境のあり方とその創造の方向を探り、新時代の共生社会をリードする役割を果たす人材を育成する。」ことを

目標に掲げ、心理学、臨床心理学、健康科学、社会学、人類学、教育学、建築学といった従来の学問分野を横断的に再編、統合した文理横断型の６専攻で構成された教育組織を作っている。

工学部建築学科の卒業生の多くは、この６専攻のなかで主に都市や地域レベルでの諸問題を扱う都市共生デザイン専攻と、建築単体についての諸問題を扱う空間システム専攻に入学している。修士課程においては、学部時代に学んだ都市・建築に関する知識や能力をベースとして、各人の関心や目標に応じてより専門性を深めるとともに、学府内の他分野の学生との共同作業や実社会の課題に向き合うプロジェクトを通じて、より幅広い知見と多様な経験を身に付けるカリキュラムが準備されている。

都市共生デザイン専攻には、心理学的視点も含めて快適で安全な都市環境をデザインし、都市文化の継承と未来の都市環境・都市社会の創造を目指すアーバンデザイン学コースと、都市災害に対する管理的手法の開発と実用化についての総合的把握をめざす都市災害管理学コースがある。本専攻では、主に都市や地域レベルでの企画・設計・開発、まちづくり、防災に関わる専門家を育成している。

空間システム専攻には、建築への人々のニーズと、建築から人間社会への働きかけの両面について研究する建築計画学コース、室内外の人間環境をパッシブにデザインし、建築空間をアクティブにコントロールするシステムを構築する建築環境学コース、重力・地震・台風・豪雪などの外乱に対して、人々の安全を守るとともに、力学的な合理性が生み出す美しい空間を創造することをめざす建築構造学コースがある。本専攻では、主に建築家・デザイナー、建築計画コンサルタント、建築構造・施工、建築環境設備に関するエンジニアといった専門家を育てている。

また上記のコース以外に、両専攻合同で国際的視点から建築・都市の持続化に関わる諸問題を研究する持続都市建築システム国際コースも運営している。これは英語のみで卒業可能なコースであり、多くの留学生が学んでいる。

７－１３．Ⅵ群

一般選抜によりⅥ群に入学した学生は、１年次に工学部共通科目を履修し、１年次修了時に行う志望調査及び１年次の成績を踏まえ、２年次進級時にⅠ～Ⅴの学科群に配属される。

（１）主要な授業科目の実施方法と配当年次

１年次：　工学部共通教育

全学共通の基幹教育を中心に履修し、様々な学問に触れて視野を拡げ社会的課題に関心を持つ姿勢を養うとともに、本学で重要視している能動的学習能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」では自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて協働学習の基礎を身に付ける。さらに、専門教育のための基礎ならびに工学の基礎として備えておくべき知識や考え方を学ぶ数学系４科目、物理系３科目、化学系２科目、「先端技術入門」、「プログラミング演習」、「図形科学Ⅰ」、「自然科学総合実験」を全学科必修の共通基幹教育科目として履修する。さらに、「工学倫理」および「データサイエンス序論」を専攻教育科目として履修する。

２年次（前期）：　学科群共通教育

※配属された学科群における共通科目を履修し、２年次前期終了時に行う志望調査及び大学入学後１年半の成績を踏まえ、学科群から学科へ配属される。

２年次（後期）以降

※配属された学科において学びを深める。

（２）Ⅵ群の学生への配慮

１年次は、所属学科群（一般選抜入学者）及び所属学科（総合型選抜入学者）を問わず、工学部生全員が表 7-13-1 に示す共通科目を履修する。

しかし、Ⅱ群を除くⅠ群、Ⅲ群～Ⅴ群は、表 7-13-2 のとおり１年次に学科群共通の必修科目を数科目配置している。Ⅵ群の学生には各学科群が指定する１年次必修科目の履修は求めないため、Ⅵ群の学生が２年次に学科群に進級した際に、１年次の学科群必修科目を履修していない場合は、２年次に履修できるよう、同時限の２年次の時間割を空けておく。

図 7-13-1　VI群入学者の進級の流れ（学科群→学科配属）

※１年次の工学部共通教育の欄に（ ）で記載の科目名は、

１年次に配置される各学科群指定の基幹教育必修科目。

表 7-13-1　工学部 1 年次共通の必修科目（合計 39.5 単位）

➢基幹教育科目（計 36.5 単位）

科目	単位
基幹教育セミナー	1
課題協学科目	2.5
言語文化科目（英語）	4
言語文化科目（第二外国語）	4
文系ディシプリン科目	4
微分積分学Ⅰ	2
微分積分学Ⅱ	2
線形代数学Ⅰ	2
線形代数学Ⅱ	2
力学基礎	2
電磁気学基礎	1
熱力学基礎	1
無機物質化学Ⅰ	1
有機物質化学Ⅰ	1
図形科学Ⅰ	1
プログラミング演習	1
自然科学総合実験	1
サイバーセキュリティ基礎論	1
健康・スポーツ科学演習	1
先端技術入門 A	1
先端技術入門 B	1

➢専攻教育科目（計 3 単位）

科目	単位
工学倫理	1
データサイエンス序論	2

表 7-13-2　 1 年次に配置する各学科群の必修科目

学科群	基幹教育		専攻教育	
	科目	単位	科目	単位
Ⅰ群	電磁気学基礎演習	0.5	電気情報工学入門	1
Ⅱ群	－	－	－	－
Ⅲ群	無機物質化学Ⅱ	1	－	－
Ⅳ群	力学基礎演習	1	－	－
Ⅴ群	図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1 2	建築概論	2

８．施設、設備等の整備計画

（１）校地、運動場の整備状況

工学部がある伊都キャンパス及び筑紫キャンパス内には、図書館、キャンパスライフ・健康支援センター（健康相談室、学生相談室）、外国人留学生・研究者サポートセンター、食堂・売店等の福利厚生施設が充実している。

また、伊都キャンパス近くには学生寮が設けられている（ドミトリー１、ドミトリー２、ドミトリー３、伊都協奏館）。

学生向けの施設については、伊都キャンパスに多目的グラウンド、総合体育館、屋内プール、テニスコートが、筑紫キャンパスに運動場及びテニスコースが整備されている。このほか伊都キャンパスには課外活動施設（サークル棟）が整備されている。

学生が休息するスペースとしては、課外活動施設（サークル棟）、食堂、建物によっては休憩スペース（リフレッシュルーム）が整備されている。

（２）校舎等施設の整備状況

教室については、本学部の特色ある教育を展開できるよう、伊都キャンパスを中心として次のような形で工学部共通の講義室が整備されているほか、各学科においても講義室や演習室が整備されている。

①工学部共通講義室・演習室（伊都キャンパスウエストゾーン）

西講義棟	工学部第１講義室（245 人規模）
	工学部第２講義室（133 人規模）
	工学部第３講義室（184 人規模）
	工学部第４講義室（111 人規模）
総合学習プラザ	工学部第５講義室（88 人規模）
	工学部第６講義室（88 人規模）
	工学部第７講義室（88 人規模）
	工学部第８講義室（88 人規模）
	工学部第９講義室（88 人規模）
	工学部第 10 講義室（50 人規模）
	工学部第 11 講義室（50 人規模）
	工学部第 12 講義室（88 人規模）
	工学部第 13 講義室（88 人規模）
	工学部第 14 講義室（88 人規模）
	工学部第 15 講義室（88 人規模）
	工学部第 16 講義室（88 人規模）
	工学部大講義室（222 人規模）
ウエスト４号館	工学部中講義室（130 人規模）

②実験・研究室

問題や課題の解決に向けた研究に取組むための活動スペースとして、実験・研究室が整備されている。

また、教員と学生の日常的なコミュニケーションがスムーズに図られるよう、実験室や演習室と教員の研究室を近距離に整備している。

（３）図書等の資料及び図書館の整備

①図書館の整備状況

九州大学附属図書館の全蔵書は、図書約 4,200,000 万冊、学術雑誌約 77,000 冊、アクセス可能な電子ブック約 63,000 タイトル、アクセス可能な電子ジャーナル約 63,000 タイトルを所蔵し、各種データベースサービスを提供している。データベースや電子ジャーナルは、学外からもアクセス可能となっている。そのうち、理系図書館には、図書約 1,017,000 冊、学術雑誌約 23,000 冊が収蔵されている。長年にわたる計画的な図書資料の収集・整備により、工学部の教育研究領域に関する図書・学術雑誌類は充実している状況にあり、現在も年間で図書が約 500 冊、学術雑誌約 300 冊を受け入れる等、更なる充実を図っている。

９．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

（１）概要

工学部の学生は、融合基礎工学科の学生を除き、４年間をとおして伊都キャンパス（福岡市西区元岡 744）で授業を受ける。

一方、融合基礎工学科の学生は、２年次までは伊都キャンパス、そして３年次からは筑紫キャンパス（春日市春日公園 6-1）で授業を受けることになり、２つのキャンパスで修学することになるが、学生が同一学期の中で両キャンパスを往復しながら授業を履修しなければならない時間割にはならない。なお、２年次の科目で再履修が必要なものがある場合、当該科目を伊都キャンパスで履修せざるを得ないが、両キャンパス間の交通の便を考えても、履修登録を工夫すればある程度は対応可能であると考えている。また、そもそもそのような事態を極力避けるため、履修指導を徹底する。

なお、融合基礎工学科で新たに実施する高専連携教育プログラムにおいて受け入れる学生は、３年次は各高等専門学校において授業を履修し、４年次は九州大学筑紫キャンパスにおいて授業を履修する。３年次には、融合基礎工学科の授業を一部開講するが、学生の移動を伴わないよう、遠隔講義システムを活用する。

（２）専任教員の配置

伊都キャンパスで開講する全学部の１年次を対象とする基幹教育は、全学出動体制により全学部共通の授業として開講され、担当教員のほとんどは伊都キャンパスに配置されている。

ただし、工学部の１年次に開講する一部の専攻教育科目は、原則として、工学部の専任

教員が担当するため、筑紫キャンパスに置かれる融合基礎工学科の教員も同科目を担当することになる。また、融合基礎工学科の学生は２年次まで伊都キャンパスで授業を履修することから、この間は、同学科の担当教員も伊都キャンパスに移動して授業を行う必要がある。しかし、教員の移動時間等も考慮した時間割を組んでいることから、教員の移動等に関しての問題は生じない。

なお、工学部では１年次からクラス担任制を導入しており、随時修学指導を行っている。さらに、学務部基幹教育課（１年次）及び工学部等事務部教務課（２年次以降）が連携しながら、工学部生に対して学修面でのサポートを行っている。

また、融合基礎工学科で新たに実施する高専連携教育プログラムにおいては、３年次に融合基礎工学科が開講する授業は、遠隔講義システムを活用することから、教員の移動は伴わない。

（３）施設設備

伊都キャンパスでは、全学部の１年次を対象とした基幹教育及び工学部の授業を行っている。教室や基礎的な実験授業を行う実験室、体育館等の設備は十分に整っている。

１０．管理運営

（１）学部ガバナンスの基本方針

九州大学は、世界的研究・教育拠点（グローバル・ハブ・キャンパス）となることを目標に、基幹教育を基盤として学部専攻教育から大学院教育に至るまでの体系的なカリキュラムによりアクティブラーナーを育成すると共に、大学や部局の IR （Institutional Research）情報等に基づき、教育研究の理念や社会的課題への対応の観点から様々な活動を自己点検評価しながら自律的改革に取り組んでいる。

工学部は、このようなグローバル・ハブ・キャンパスを形成していくための大学全体の取組に加え、我が国の産業界を支える工学系人材の育成に貢献しており、総長が任命する学部長がイニシアチブを十分に発揮しながら、九州大学のミッションを踏まえた学部としてのミッションを、迅速かつ効果的に学部運営に反映できる管理運営体制の構築、運営に努めている。

また、学部長は、大学運営上、極めて重要な職であることから、教授会が候補者を総長に推薦したうえで、役員会において当該候補者から部局の運営方針等についてヒアリングを行い、役員会の議を経て、総長が学部長を任命することとなっている。

（２）教授会及び運営会議

教授会の審議事項は、工学部の組織運営及び教育課程に関わる重要事項並びに学生の懲戒等に関わる事項とし、その他を学科長会議（教授会の構成員のうちの一部の者をもって構成される代議員会）に委任している。教授会は、専任の教授で構成し、原則４月に開催し、その他必要に応じて随時開催する。

学科長会議の審議事項は、教授会から委任された事項、その他部局の管理運営に関する必要な事項としている。学科長会議は、工学部長、各学科長、その他工学部長が必要と認めた者で構成し、原則毎月１回定例で開催する。

（３）常設委員会

工学部の恒常的な業務を円滑に処理するため、常設委員会として、大学評価委員会、教育企画委員会、学務委員会、入学試験委員会を置く。

（４）教学マネジメント

本学部で養成する人材像を踏まえた、体系的な教育課程の編成、組織的な教育の実施、厳格な成績評価等、教学マネジメント体制を実現するため、本学部に教育企画委員会副委員長、各学科の教員（コースごとに各１人）、その他委員会が必要と認めた教員で構成される学務委員会を組織する。

また、融合基礎工学科で新たに実施する高専連携教育プログラムについては、プログラムで提供される教育内容や質保証に関して継続的な検証及び改善を行う必要があることから、工学部教員と高専専攻科教員から構成される「連携教育プログラム教務委員会」（仮称）を組織する。

（５）人事給与システム

九州大学では、魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、組織の活性化及び多様な人材を確保することを目的に、平成 26 年 10 月１日から教員の年俸制を導入している。今後も年俸制の導入促進に取り組むとともに、本学独自の取組である「大学改革活性化制度」を活用した多様な人事を促進し、教員の流動性の向上と教育研究の活性化を図っている。

１１．自己点検・評価

（１）全学の自己点検・評価

全学的な自己点検・評価について、九州大学学則第２条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」こと、及び「自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努める」ことを定め、学則第 33 条で大学評価に関する重要事項を審議する組織として、大学評価委員会を置くことを定めている。

大学評価委員会は、①本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の評価、②国立大学法人評価、③認証評価、④教員の教育・研究等活動の評価、⑤各部局の評価活動の総括、⑥大学評価に係る報告書の作成及び公表、⑦教員活動進捗・報告システム（Q-RADeRS）の運用等に関することを任務とし、総長を委員長とし、理事、副学長、各部局の長、事務局長で構成している。

全教員を対象とする教員活動評価も実施しており、教員活動評価では、①教員自身の教育研究活動の把握と改善向上と、②部局の将来構想における諸施策への活用を目的に、全学での基本的枠組みを設定し、部局の特性に配慮した実施体制や実施方法を定め、部局ごとに実施している。

また、教育・研究活動の継続的な改善を行っていくためには、改善に役立つための評価活動の質の向上を進めると同時に、効率的・効果的な評価体制の構築も必要であるため、九州大学では、多様かつ大量の必要データを処理・管理する情報処理システムの開発・運用を行っている。①大学経営や将来計画に関する基礎資料を収集、②自己点検・評価及び第三者評価への基礎資料、③教員が教員活動評価のために毎年度提出する報告書への活用、④国際交流や社会貢献推進のための情報公開への活用、⑤学内外からの教育研究活動に関する調査への対応の５つを目的に掲げ運用している「大学評価情報システム」をはじめ、中期目標・計画の達成を念頭に置きながら、年度計画の自己点検・評価や根拠資料の収集・保管、さらには次年度計画の立案までの一連の業務をサポートする「中期目標・中期計画進捗管理システム」等を運用し、全学的な評価活動の質の向上と、効率的・効果的な評価体制の構築を図っている。

さらに、平成 28 年４月には、学内の様々なデータを一元的に収集、管理し、組織としての管理・運営機能の強化を図ることを目的に、これまで本学における点検・評価活動に対する支援や、学内外への情報の提供等の業務を担っていた大学評価情報室を、インスティテューショナル･リサーチ（IR）室として発展的に改組し、現状把握や改善事項への対応を迅速に行える体制の強化を図っている。

九州大学では、国立大学法人評価、大学機関別認証評価等の評価において、上記の組織体制のもと点検・評価を行うとともに、評価結果の分析を行い、課題や改善点を整理した上で学内に対応を促す等、評価を適切に改善につなげる取組を推進している。

（２）工学部の自己点検・評価

工学部では、中期目標期間における全学的な方針である「自己点検・評価体制に関する基本方針」と、「年度計画の自己点検・評価に係る実施要領」に基づく本学部内の自己点検・評価を行う組織として、常設委員会として大学評価委員会を設置している。

当該委員会を中心に、大学の中期目標・中期計画を踏まえた上で、 教育面においても研究面においても、グローバル化の推進に関する目標計画を多く立てており、世界的な教育研究拠点となるために、教育の国際化、工学系人材育成、学際・異分野融合の推進に向けた取り組みを含んだ中期目標・中期計画を策定するとともに、学生の受入れに関する事項、教育内容及び方法に関する事項、学修成果に関する事項について、点検・評価を行っている。

１２．情報の公開

（１）大学としての情報の公開

九州大学では、インターネット上に大学のホームページを開設し、大学としての基本方

針である「教育憲章」や「学術憲章」をはじめ、中期目標・中期計画等、大学の取組に関する様々な情報を発信するとともに、カリキュラム、カリキュラムマップ、シラバス、授業科目のナンバリング、定員、学生数、教員数や学内規則等、大学の基本情報を公開している。具体的な公表項目の内容と公開しているホームページのアドレスは次のとおりである。

①大学の教育研究上の目的に関すること
②教育研究上の基本組織に関すること
③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

上記①～⑨　http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education

⑩その他
a. 中期目標・中期計画、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等
https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/university-evaluation
b. 学内規則
http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/information/rule/rulebook/
c. 学部・学府等の設置関係の書類
http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/establish

１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）全学的な取組

九州大学では、教育データに基づく教育改革の PDCA サイクルを確立させ、各学部等との連携により、全学的な教育改革を推進し、教育の国際的な通用性を高めることを目的とする全学組織として「教育改革推進本部」を設置している。同本部では、全学的な FD 活動を実施するとともに、各部局と連携して、各部局の FD 活動の支援を恒常的に行っている。

全学的な FD 活動では、全学的な教育課題等に関する内容を中心に、部局の FD 活動では、部局ごとの特性に応じた教育課題を取り上げて実施しており、FD を企画する際には、

教職員を対象としたアンケートや、学生を対象とした授業評価アンケートの結果を活用している。

全学的な FD 活動として、新採用となった教員等を対象に本学の将来の展望等について理解を深め、教育者・研究者としての資質と大学の構成員としての自覚を高める初任教員研修をはじめ、学習支援システム講習会、メンタルヘルス講習会、電子教材開発・著作権講習会、バリアフリー講習会等、教育活動の全般にわたる FD 活動を実施している。これらの活動を通じて全学的な教育課題等に関する啓発や、課題の共有が図られ、カリキュラム、シラバス、教育手法、成績評価方法等の改善につながっている。

また、FD 活動以外にも、全学的な職務関連研修を実施するほか、大学職員に必要な知識・技能を習得させ、必要な能力及び資質を向上させるために、以下の取組を実施している。

- コンプライアンスを確保するため、本学の体制・取組、非違行為の概要等を学び、コンプライアンスの重要性の認識と理解を深める「職員コンプライアンス研修」
- 研究費不正を防止するための「研究費の運営・管理に係るコンプライアンス教育」（e-ラーニング）
- 近年の不正競争防止法の諸改正等を受け、秘密情報の漏えい等を事前に防止し、適正な秘密管理を図る「大学における営業秘密管理 e-ラーニング研修」
- 国の方針や大学への要請等について理解を深め、職員個人の資質向上はもとより、組織として業務を円滑に遂行するための職員間における連帯意識の醸成を図る「学務事務研修」
- ビジネスライティングの基本的なルールと相手や状況に合わせた表現方法を学修し、留学生及び外国人研究者への対応能力及び海外の大学等とのＥメールや文書による調整能力を涵養する「職員英語ビジネスライティング研修」等

（２）工学部の取組

工学部では、全学的な FD 活動を踏まえ、学務委員会が学部内の FD に関する企画・実施を担当している。

学務委員会は、年度毎にテーマを定め教育関連の FD 企画を立案している。近年は、「留学生の教育指導」、「e-learning システムや e ポートフォリオシステムの活用」、「成績不振学生への指導」、「英語による革新的な授業方法」、「ハラスメント防止」、「アンガーマネジメント」をテーマとして FD を実施しており、改組後も引き続き教育の質の向上及び学生支援の充実に資する企画を実施する。

１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

九州大学では、学生が「学び」を主体とした学生生活を送るための修学・生活支援、進路・就職支援を全学的な立場から統括・支援する組織として学務部にキャリア・奨学支援課を設置し、修学支援、進路・就職支援、正課外活動支援、経済支援を柱とした取組を実施し、教育と支援のシームレスな関係構築に取組んでいる。

具体的な就職支援企画としては、主体的に進路を選択する能力の育成や、就業意識の形成を目的に、学部の低年次から「キャリアガイダンス」と、「業界・企業研究セミナー」を実施しているほか、３年次には「就活キックオフ&インターンシップガイダンス」、「インターンシップ企業合同セミナー」、「インターンシップ事前講習」、「インターンシップ対策講座」、「ビジネスマナー講座」、「内定者との座談会」等に加え、自己分析・自己 PR 講座、業界研究・志望動機講座、SPI 対策講座、面接マナー講座、集団面接対策講座、個別面接対策講座、グループディスカッション講座等の就職支援に関する講座で構成する「就活対策講座（ES・面接対策）」を実施している。最終学年では、面接対策セミナーのほか、学内合同企業説明会（就職フェア）や、学内個別企業説明会等を実施している。

日本での就職を希望する外国人留学生に対しては、就職支援企画として「外国人留学生のための就職活動講座（全 10 回）」や、外国人留学生向けの「ビジネス日本語講座」、「ビジネスマナー講座」、「ビジネスコミュニケーション講座」、「内定者セミナー」、「企業研究セミナー」の他、「留学生のための JOB FAIR」等を実施している。

さらに、キャリア・奨学支援課とキャンパスライフ健康支援センターとが合同で、障害のある学生向けの支援企画「就活サキドリ講座」、「インターンシップ」及び「キャリアガイダンス」を実施している。

また、就職後、あるいは大学院進学後に求められる実践的な英語能力を在学中に身に付けさせることを目的に、６週間の TOEIC 対策プログラムを実施している。

具体的な就職支援制度としては、就職情報室を３か所に設置し、就職支援に関するイベントの情報提供をはじめ、就職活動に役立つ書籍の配架や、求人情報の提供な等を行うほか、各キャンパスに就職相談室を設け、進路・就職アドバイザー６名を配置し、学生の就職に関する相談に対応している。また、学生は就職活動中に、九州大学東京オフィス・大阪オフィス・博多オフィスのパソコンやネット回線、ラウンジを利用することが可能である。

その他の取組として、就職活動を行う学生を対象とする「就活手帳」や、「九大生の就活体験記」の作成・配布、志望業界・企業の OB・OG 訪問支援、求人情報 Web システムでの会社概要や求人情報の公開、九州大学の進路・就職コーディネーターが企業を訪問し、採用に関する情報をまとめた企業訪問情報シートの公開を行っている。

これらの就職支援に関する企画等は、九州大学の Web サイトや九州大学学生支援サイトにまとめて掲載し、学生が必要な情報に容易にアクセスできるようにしている。

（　別　添　資　料　目　次　）

【資料１】　国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程

【資料２】　履修モデル

資　料　1

国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程

平成１６年度九大就規第１２号
施　　行：平成１６年　４月　１日
最終改正：平成２７年　３月３０日
（平成２６年度九大就規第１３号）

第１条　この規程は、国立大学法人九州大学就業通則（平成１６年度九大就規第１号）第１５条第１項の規定に基づき、国立大学法人九州大学に勤務する教員の定年について定めるものとする。

第２条　教員の定年は、６５歳とする。

２　定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の３月３１日とする。

第３条　前条第１項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者の定年は、７０歳とする。

(1)　文化勲章又はノーベル賞を授与された者

(2)　総長が前号に掲げる賞に相当すると認める賞を授与された者

附　則

１　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

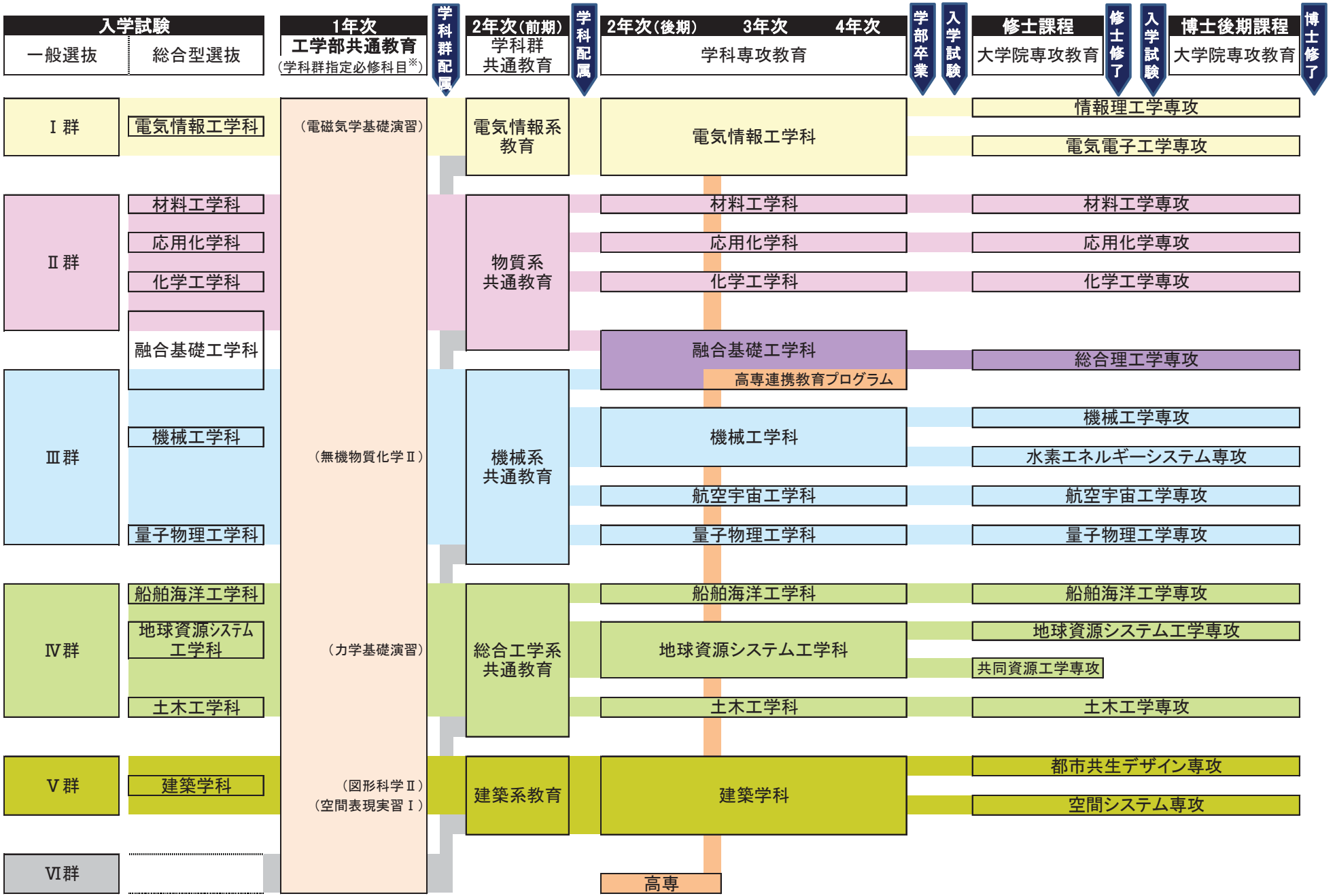
２　第２条第１項の規定にかかわらず、生年月日が次表の左欄に掲げる年月日に該当する教員の定年は、同表右欄に掲げる年齢とする。

生年月日	定年年齢
昭和１６年４月２日～昭和２２年４月１日	６３歳
昭和２２年４月２日～昭和２４年４月１日	６４歳

附　則（平成２６年度九大就規第１３号）

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

工学部（入学者選抜→学科配属）から大学院進学の流れ



※ 1年次の工学部共通教育の欄に（ ）で記載の科目名は、各学科群が指定する基幹教育必修科目。Ⅵ群の学生は2年次に履修。

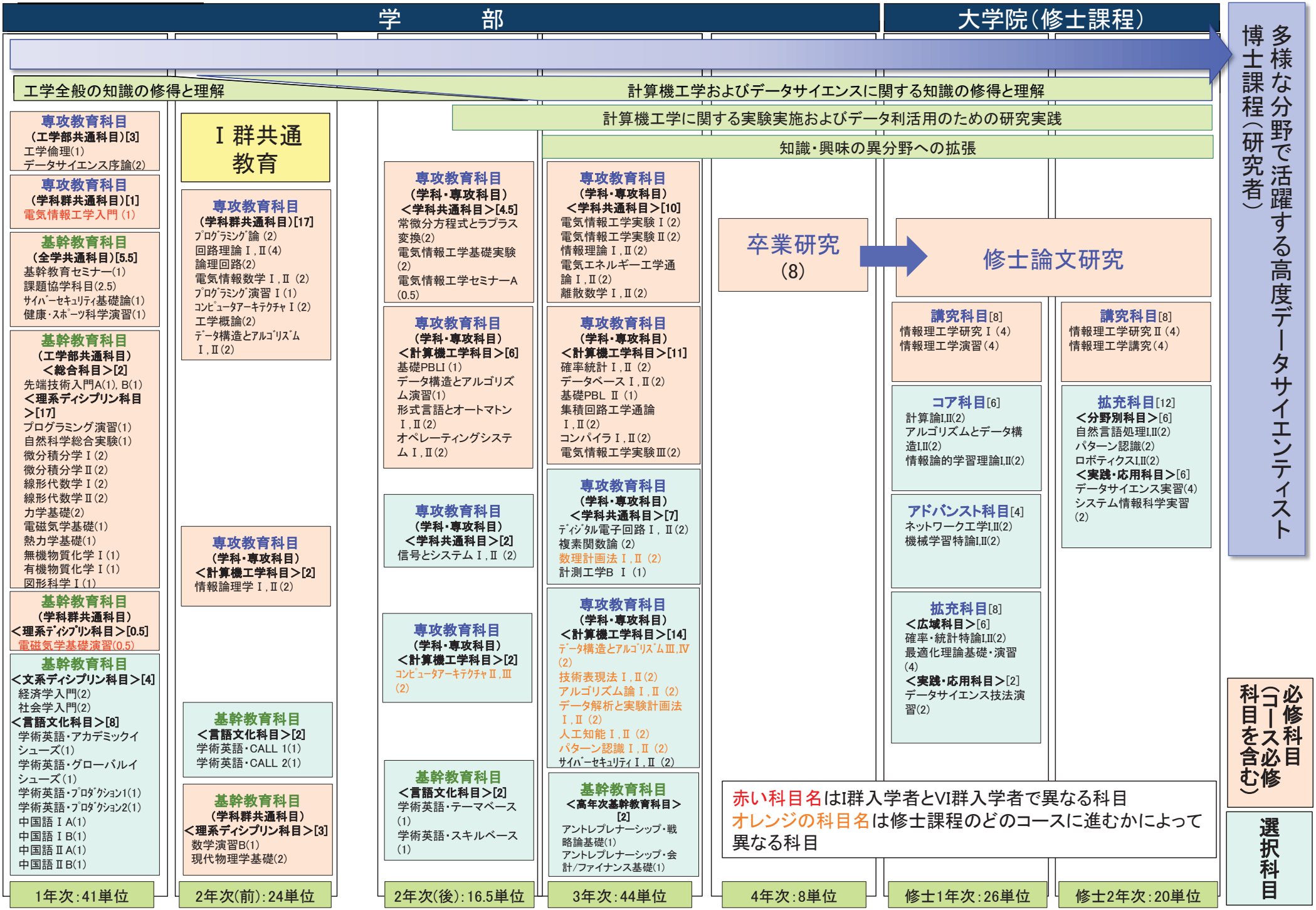
資料２

履修モデル

Ⅰ群 → 電気情報工学科（計算機工学コース） → 情報理工学専攻（情報アーキテクチャ・セキュリティコース）

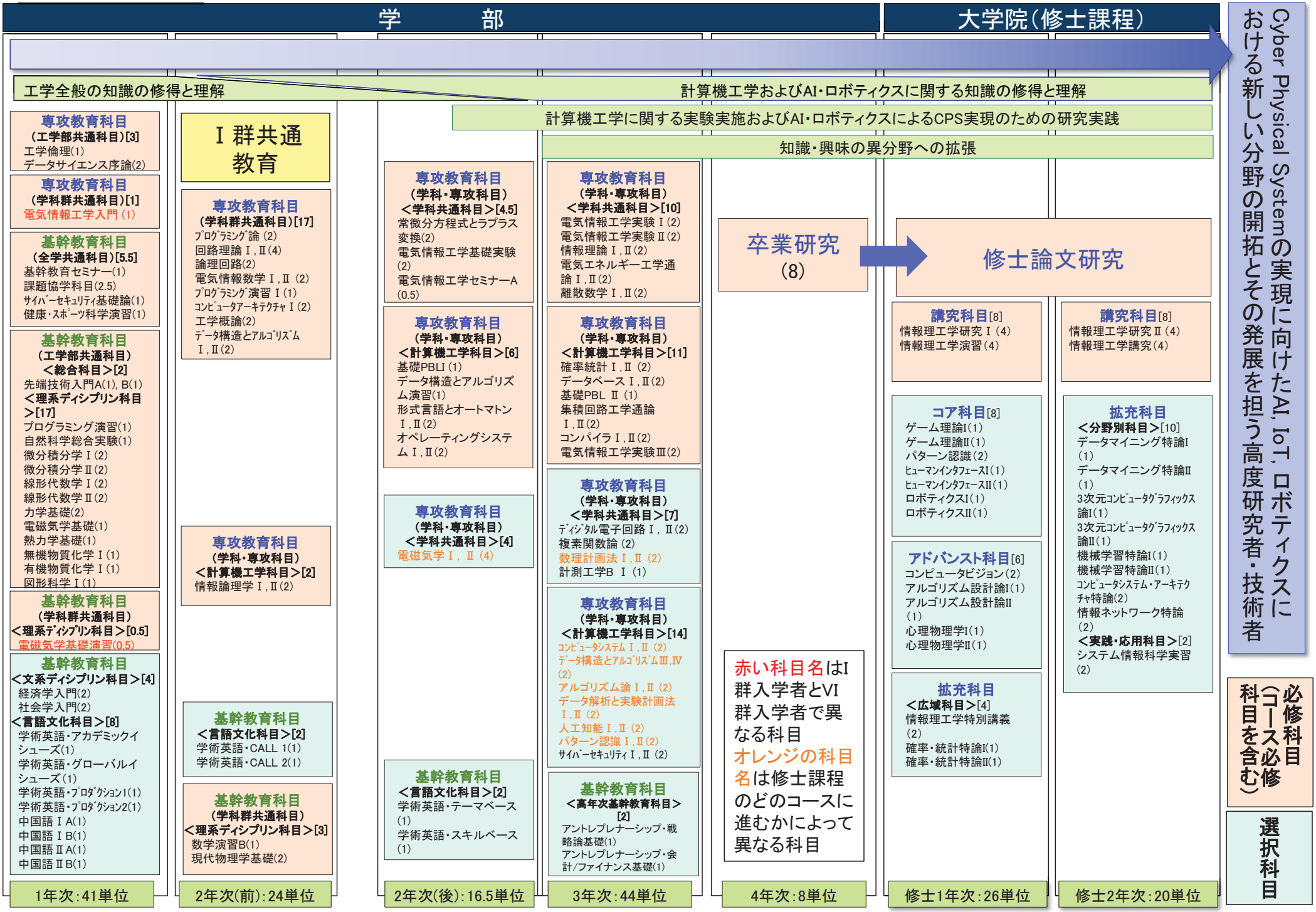
履修モデル

Ⅰ群 → 電気情報工学科（計算機工学コース） → 情報理工学専攻（データサイエンスコース）



履修モデル

Ⅰ群 → 電気情報工学科（計算機工学コース） → 情報理工学専攻（AI・ロボティクスコース）



履修モデル

VI群 → Ⅰ群 → 電気情報工学科（計算機工学コース）→ 情報理工学専攻（情報アーキテクチャ・セキュリティコース）

学部 / 大学院（修士課程）

工学全般の知識の修得と理解

計算機工学および情報アーキテクチャ・セキュリティに関する知識の修得と理解

計算機工学に関する実験実施および情報アーキテクチャ・セキュリティ実現のための研究実践

知識・興味の異分野への拡張

社会基盤を担う情報アーキテクチャ・セキュリティに関する技術者
博士課程（研究者）

1年次：39.5単位

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）[5.5]
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨ基礎論(1)
健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
＜総合科目＞[2]
先端技術入門A(1), B(1)
＜理系ディシプリン科目＞[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
＜文系ディシプリン科目＞[4]
経済学入門(2)
社会学入門(2)
＜言語文化科目＞[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・ﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ1(1)
学術英語・ﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ2(1)
中国語ⅠA(1)
中国語ⅠB(1)
中国語ⅡA(1)
中国語ⅡB(1)

2年次(前)：25単位

Ⅰ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[18]
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 (2)
回路理論Ⅰ,Ⅱ(4)
論理回路(2)
電気情報数学Ⅰ,Ⅱ (2)
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習Ⅰ(1)
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬⅠ(2)
工学概論(2)
ﾃﾞｰﾀ構造とｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑⅠ,Ⅱ(2)
電気情報工学入門 (1)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜計算機工学科目＞[2]
情報論理学Ⅰ,Ⅱ(2)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[2]
学術英語・CALL 1(1)
学術英語・CALL 2(1)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[3]
数学演習B(1)
現代物理学基礎(2)

2年次(後)：17単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜学科共通科目＞[4.5]
常微分方程式とラプラス変換(2)
電気情報工学基礎実験(2)
電気情報工学セミナーA(0.5)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜計算機工学科目＞[6]
基礎PBLⅠ(1)
データ構造とアルゴリズム演習(1)
形式言語とオートマトンⅠ,Ⅱ(2)
オペレーティングシステムⅠ,Ⅱ(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜学科共通科目＞[2]
信号とシステムⅠ,Ⅱ (2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜計算機工学科目＞[2]
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬⅡ,Ⅲ (2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[0.5]
電磁気学基礎演習(0.5)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[2]
学術英語・テーマベース(1)
学術英語・スキルベース(1)

3年次：44単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜学科共通科目＞[10]
電気情報工学実験Ⅰ(2)
電気情報工学実験Ⅱ(2)
情報理論Ⅰ,Ⅱ(2)
離散数学Ⅰ,Ⅱ(2)
電気エネルギー工学通論Ⅰ,Ⅱ(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜計算機工学科目＞[11]
確率統計Ⅰ,Ⅱ (2)
データベースⅠ,Ⅱ(2)
基礎PBL Ⅱ (1)
集積回路工学通論Ⅰ,Ⅱ(2)
コンパイラⅠ,Ⅱ(2)
電気情報工学実験Ⅲ(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜学科共通科目＞[9]
ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ電子回路Ⅰ,Ⅱ(2)
複素関数論 (2)
通信ネットワークⅠ,Ⅱ (2)
通信方式Ⅰ,Ⅱ (2)
計測工学B Ⅰ (1)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）
＜計算機工学科目＞[12]
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑⅠ,Ⅱ (2)
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑⅢⅣ (2)
ソフトウエア工学Ⅰ,Ⅱ(2)
分散システムⅠ,Ⅱ (2)
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語論Ⅰ,Ⅱ (2)
ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨⅠ,Ⅱ (2)

基幹教育科目
＜高年次基幹教育科目＞[2]
アントレプレナーシップ・戦略論基礎(1)
アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎(1)

4年次：8単位

卒業研究
(8)

修士1年次：30単位

修士論文研究

講究科目[8]
情報理工学研究Ⅰ(4)
情報理工学演習(4)

コア科目[8]
暗号と情報セキュリティ特論(2)
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑ・ｱｰｷﾃｸﾁｬ特論(2)
情報ネットワーク特論(2)
機械学習工学特論(2)

アドバンスト科目[6]
情報システムセキュリティ演習Ⅰ(1)
情報システムセキュリティ演習Ⅱ(1)
組込みシステム特論(2)
プロジェクトマネジメント特論(2)

拡充科目
＜分野別科目＞[6]
グラフ理論・組み合わせ論Ⅰ(1)
グラフ理論・組み合わせ論Ⅱ(1)
ヒューマンインタフェースⅠ(1)
ヒューマンインタフェースⅡ(1)
ロボティクスⅠ(1)
ロボティクスⅡ(1)
＜広域科目＞[2]
ICT社会基盤デザイン特論 (2)

修士2年次：16単位

講究科目[8]
情報理工学研究Ⅱ(4)
情報理工学講究(4)

拡充科目
＜広域科目＞[2]
情報理工学特別講義(2)
＜実践・応用科目＞[2]
システム情報科学実習(2)

拡充科目
＜分野別科目＞[4]
情報論的学習理論Ⅰ(1)
データマイニング特論Ⅰ(1)
情報論的学習理論 Ⅱ(1)
データマイニング特論 Ⅱ(1)

赤い科目名はI群入学者とVI群入学者で異なる科目
オレンジの科目名は修士課程のどのコースに進むかによって異なる科目

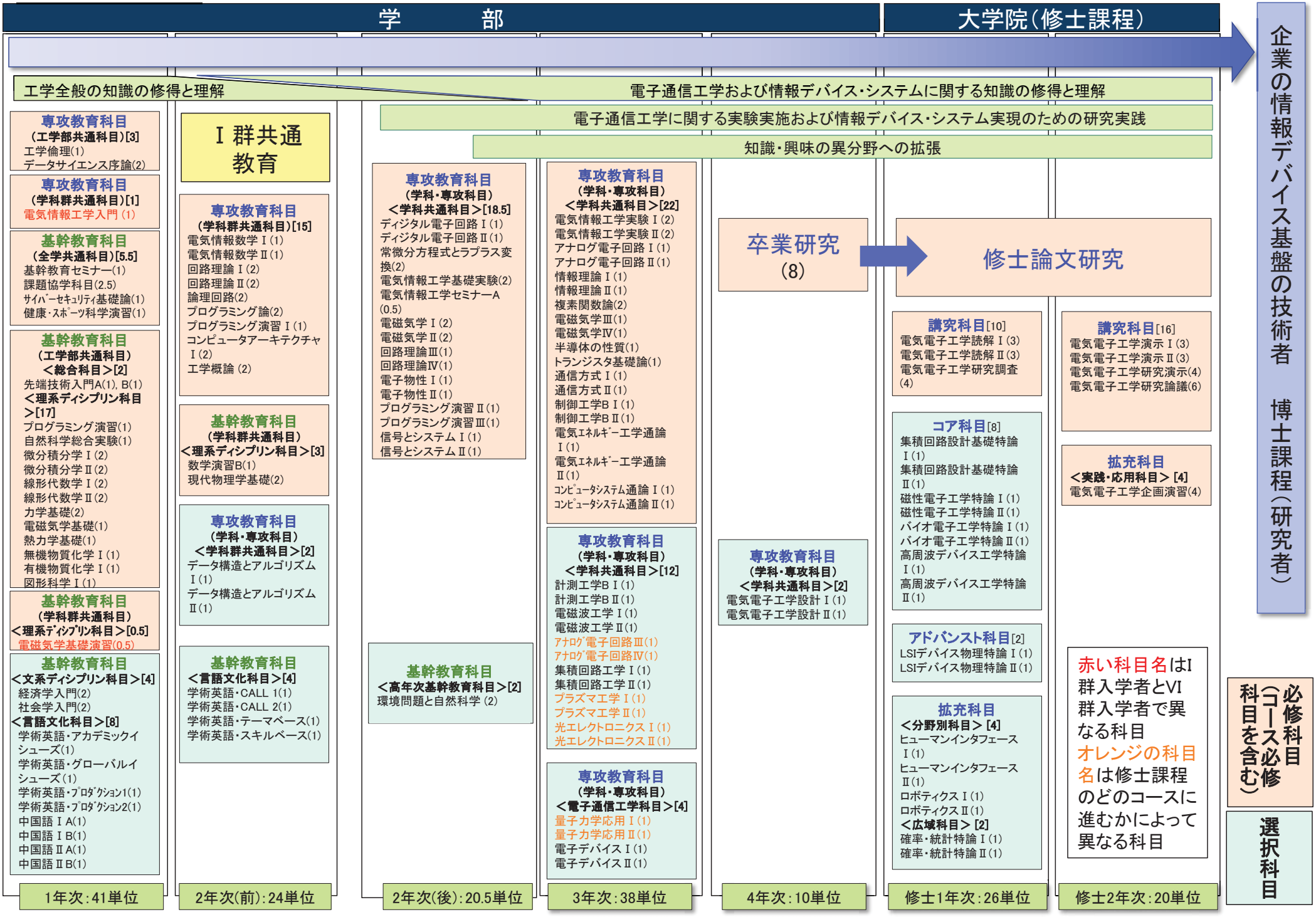
必修科目（コース必修科目を含む）

選択科目

履修モデル　Ⅰ群 → 電気情報工学科（電子通信工学コース）→ 情報理工学専攻（情報アーキテクチャ・セキュリティコース）

履修モデル

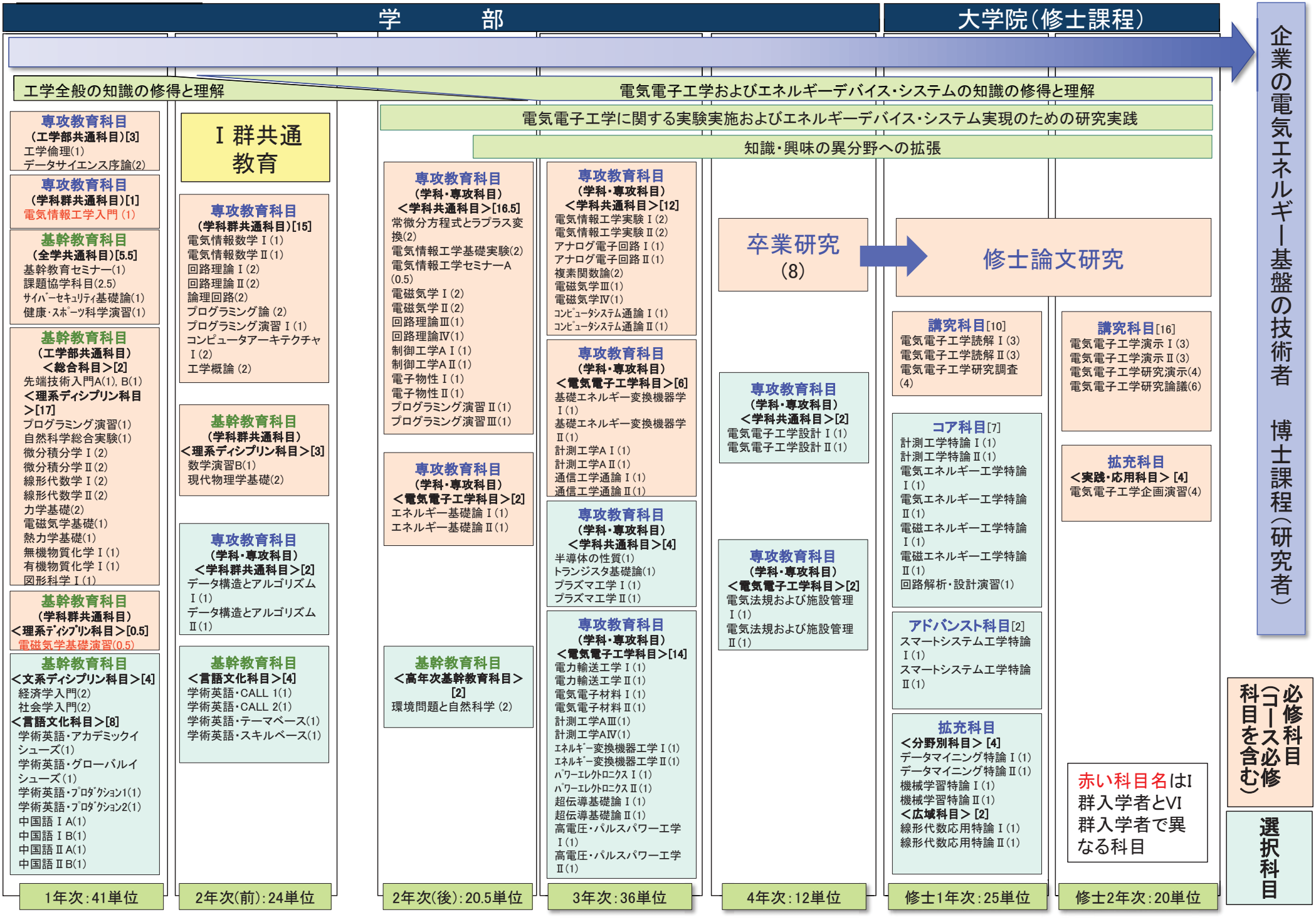
Ⅰ群 → 電気情報工学科（電子通信工学コース） → 電気電子工学専攻（情報デバイス・システムコース）



履修モデル

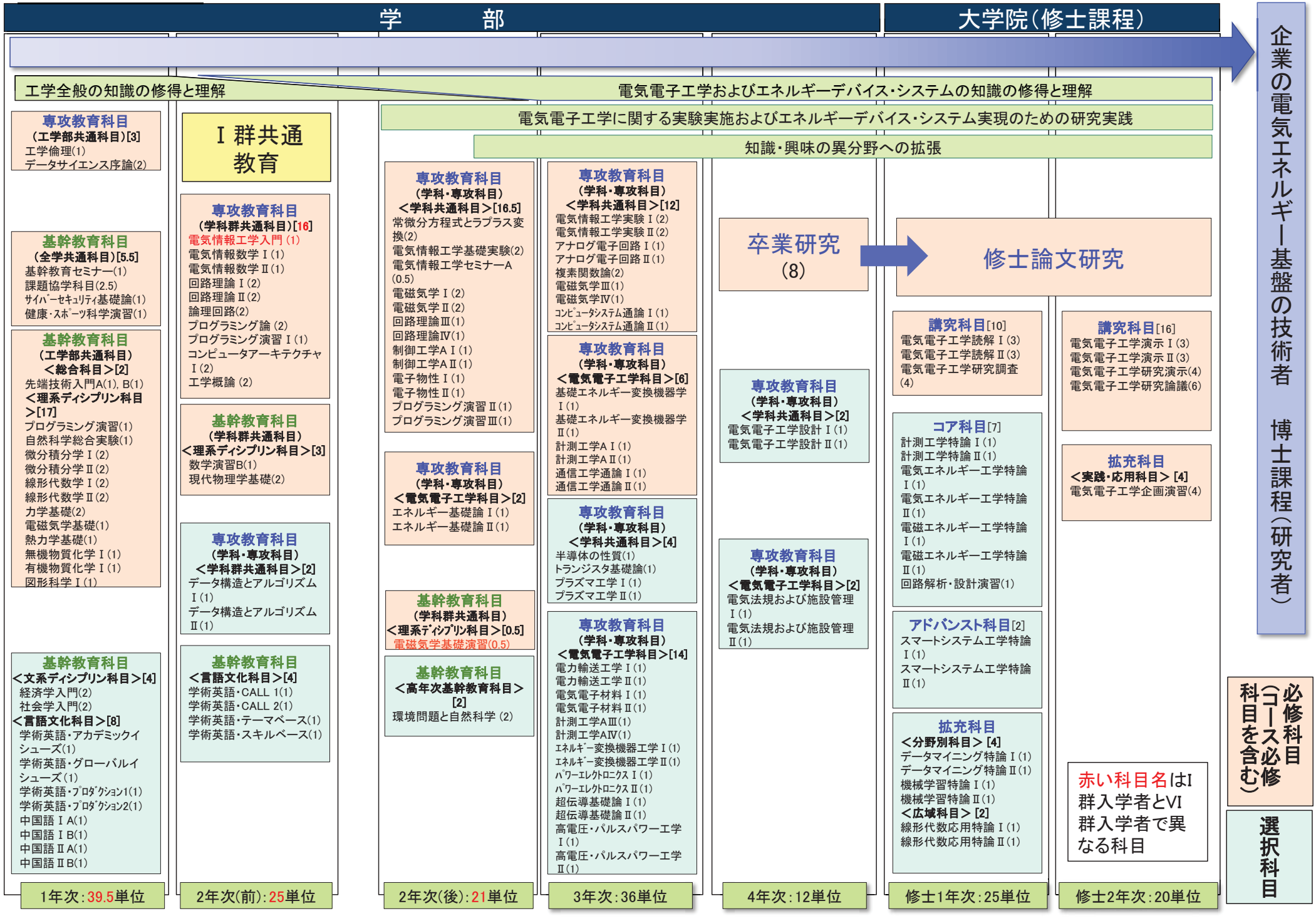
VI群 → Ⅰ群 → 電気情報工学科（電子通信工学コース） → 情報理工学専攻（情報アーキテクチャ・セキュリティコース）

履修モデル　Ⅰ群 → 電気情報工学科（電気電子工学コース） → 電気電子工学専攻（エネルギーデバイス・システムコース）



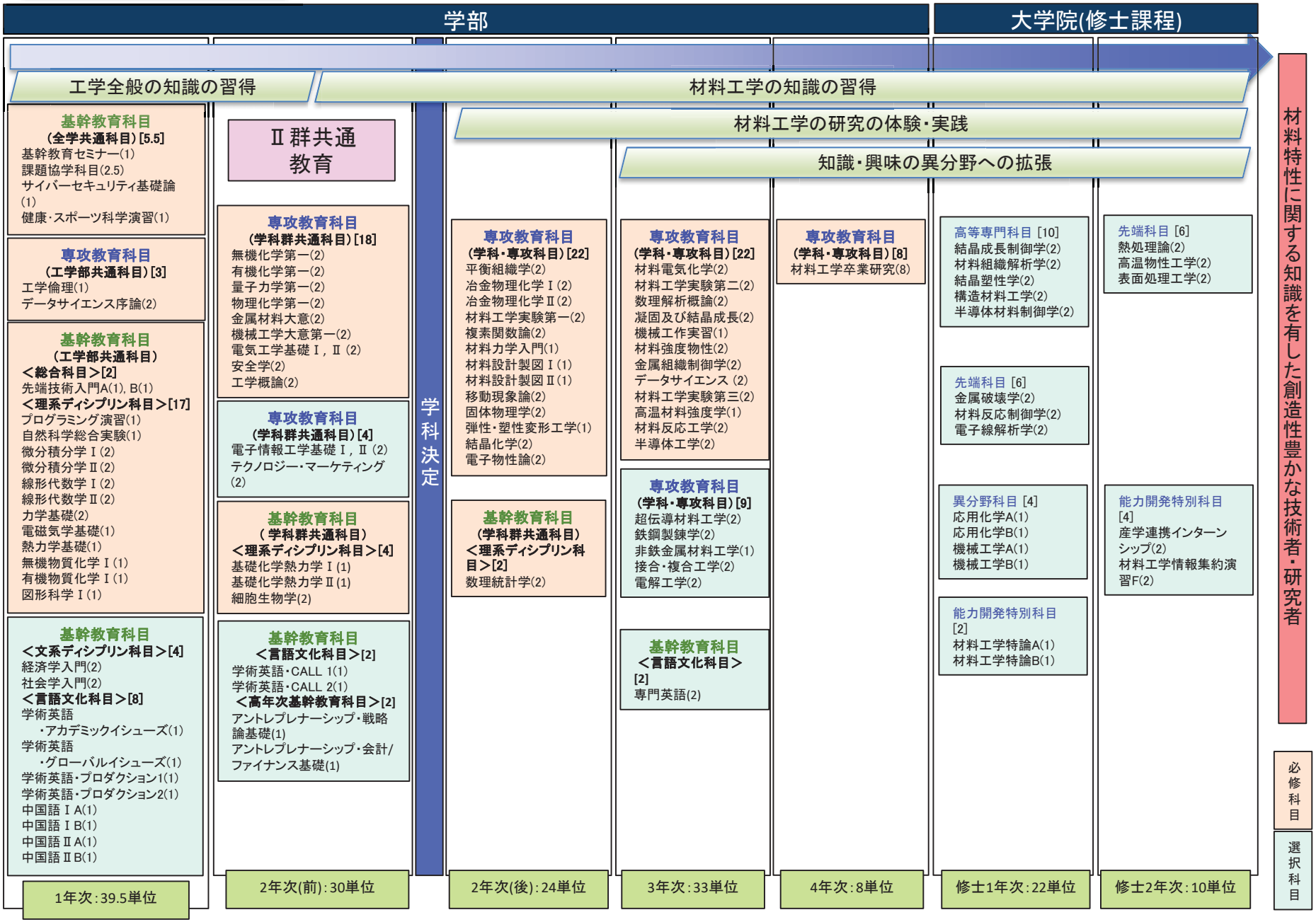
履修モデル

VI群 → Ⅰ群 → 電気情報工学科（電気電子工学コース） → 電気電子工学専攻（エネルギーデバイス・システムコース）



履修モデル

Ⅱ群 → 材料工学科 → 材料工学専攻

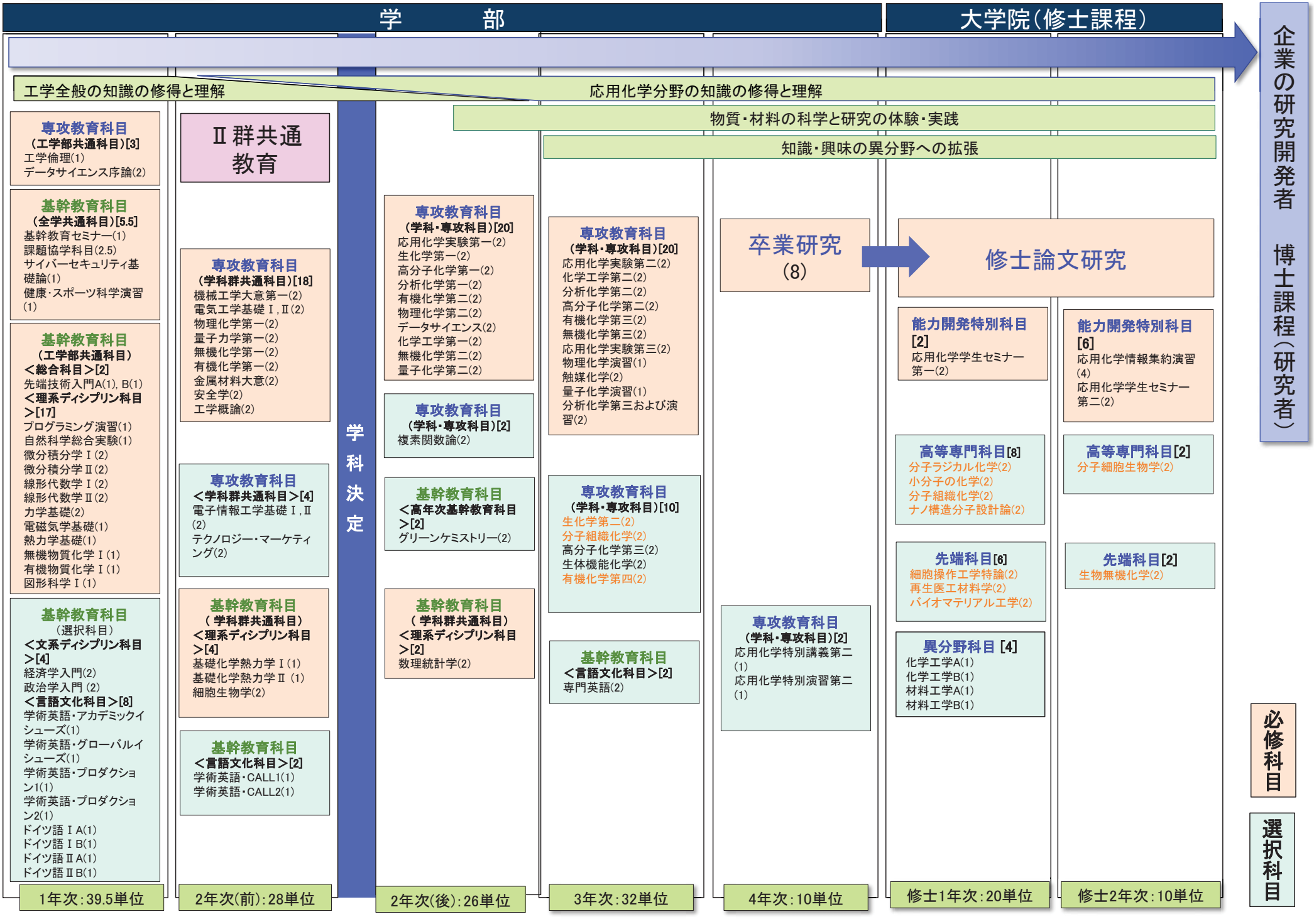


履修モデル

Ⅵ群 → Ⅱ群 → 材料工学科 → 材料工学専攻

履修モデル　Ⅱ群 → 応用化学科（分子生命工学コース） → 応用化学専攻（分子生命工学コース）

履修モデル　VI群 → Ⅱ群 → 応用化学科 分子生命工学コース → 応用化学専攻 分子生命工学コース



履修モデル

Ⅱ群 → 応用化学科（機能物質化学コース） → 応用化学専攻（機能物質化学コース）

履修モデル　VI群 → Ⅱ群 → 応用化学科（機能物質化学コース） → 応用化学専攻（機能物質化学コース）

学　　部

大学院（修士課程）

企業の研究開発者　博士課程（研究者）

工学全般の知識の修得と理解

応用化学分野の知識の修得と理解

物質・材料の科学と研究の体験・実践

知識・興味の異分野への拡張

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）[5.5]
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・スポーツ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
＜総合科目＞[2]
先端技術入門A(1), B(1)
＜理系ディシプリン科目＞[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
（選択科目）
＜文系ディシプリン科目＞[4]
経済学入門(2)
政治学入門(2)
＜言語文化科目＞[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
ドイツ語ⅠA(1)
ドイツ語ⅠB(1)
ドイツ語ⅡA(1)
ドイツ語ⅡB(1)

1年次：39.5単位

Ⅱ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[18]
機械工学大意第一(2)
電気工学基礎Ⅰ,Ⅱ(2)
物理化学第一(2)
量子力学第一(2)
無機化学第一(2)
有機化学第一(2)
金属材料大意(2)
安全学(2)
工学概論(2)

専攻教育科目
＜学科群共通科目＞[4]
電子情報工学基礎Ⅰ,Ⅱ(2)
テクノロジー・マーケティング(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[4]
基礎化学熱力学Ⅰ(1)
基礎化学熱力学Ⅱ(1)
細胞生物学(2)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[2]
学術英語・CALL1(1)
学術英語・CALL2(1)

2年次(前)：28単位

学科決定

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[20]
応用化学実験第一(2)
生化学第一(2)
高分子化学第一(2)
分析化学第一(2)
有機化学第二(2)
物理化学第二(2)
データサイエンス(2)
化学工学第一(2)
無機化学第二(2)
量子化学第二(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[2]
複素関数論(2)

基幹教育科目
＜高年次基幹教育科目＞[2]
グリーンケミストリー(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[2]
数理統計学(2)

2年次(後)：26単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[20]
応用化学実験第二(2)
化学工学第二(2)
分析化学第二(2)
高分子化学第二(2)
有機化学第三(2)
無機化学第三(2)
応用化学実験第三(2)
物理化学演習(1)
触媒化学(2)
量子化学演習(1)
分析化学第三および演習(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[10]
物理化学第三(2)
無機化学第四(2)
高分子化学第三(2)
生体機能化学(2)
表面化学(2)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[2]
専門英語(2)

3年次：32単位

卒業研究
(8)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[2]
応用化学特別講義第二(1)
応用化学特別演習第二(1)

4年次：10単位

修士論文研究

能力開発特別科目
[2]
応用化学学生セミナー第一(2)

高等専門科目[8]
無機固体化学(2)
有機反応化学(2)
有機機能化学(2)
高分子合成反応論(2)

先端科目[6]
セラミック工学(2)
有機構造化学(2)
機能分子材料工学(2)

異分野科目 [4]
化学工学A(1)
化学工学B(1)
材料工学A(1)
材料工学B(1)

修士1年次：20単位

能力開発特別科目
[6]
応用化学情報集約演習(4)
応用化学学生セミナー第二(2)

能力開発特別科目
[2]
産学連携特論第一(2)

先端科目[2]
材料物性化学(2)

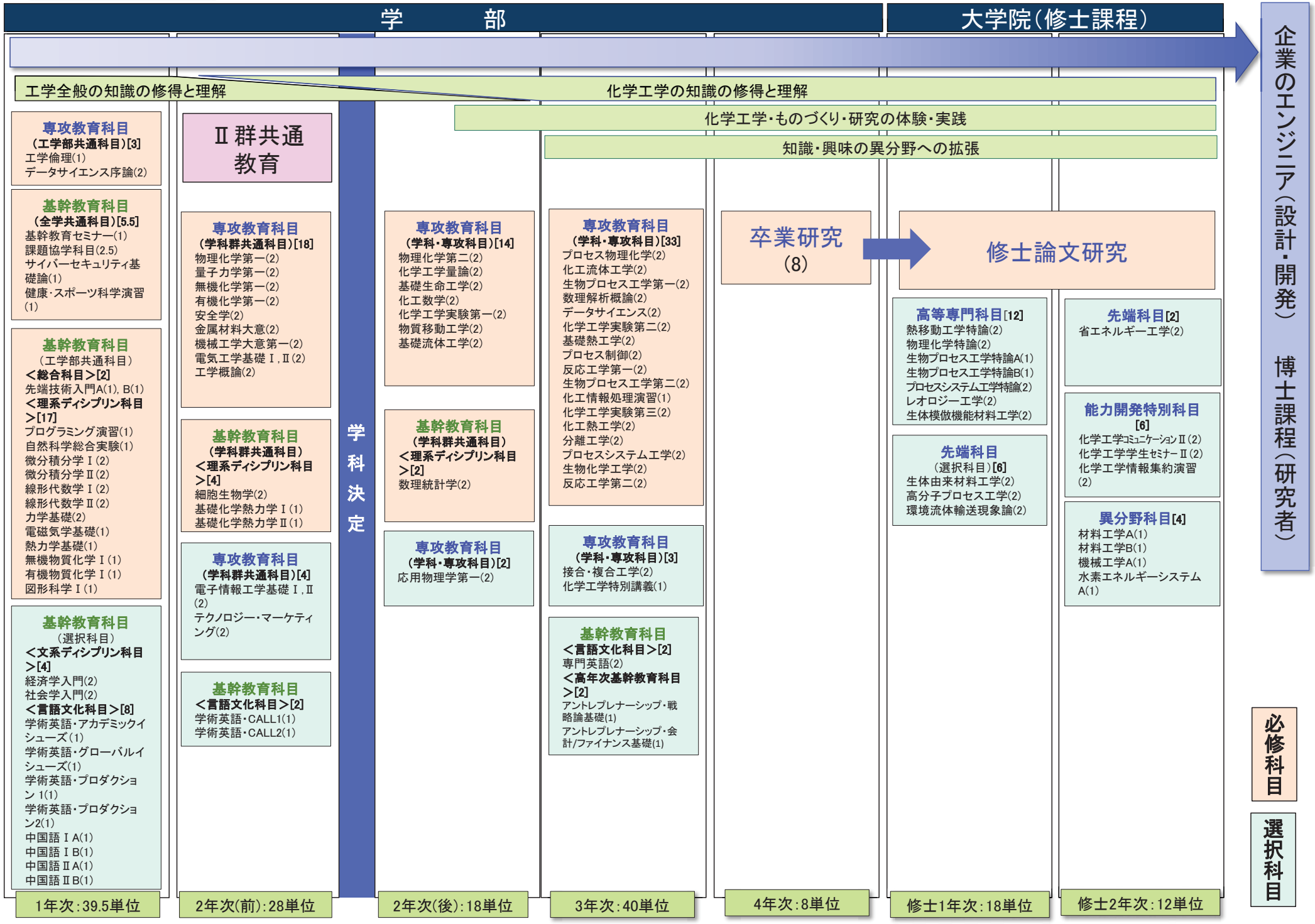
修士2年次：10単位

必修科目

選択科目

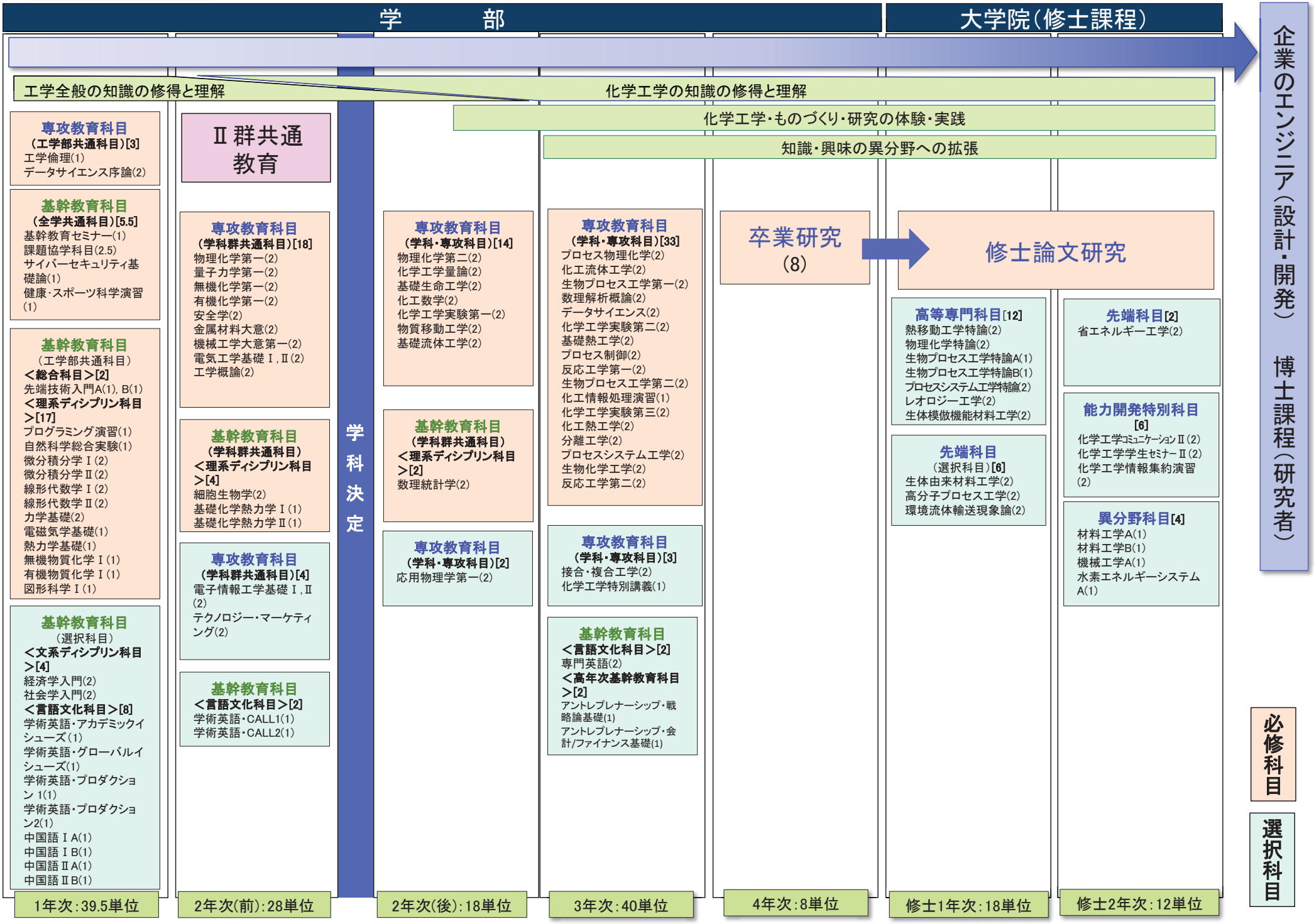
履修モデル

Ⅱ群 → 化学工学科 → 化学工学専攻

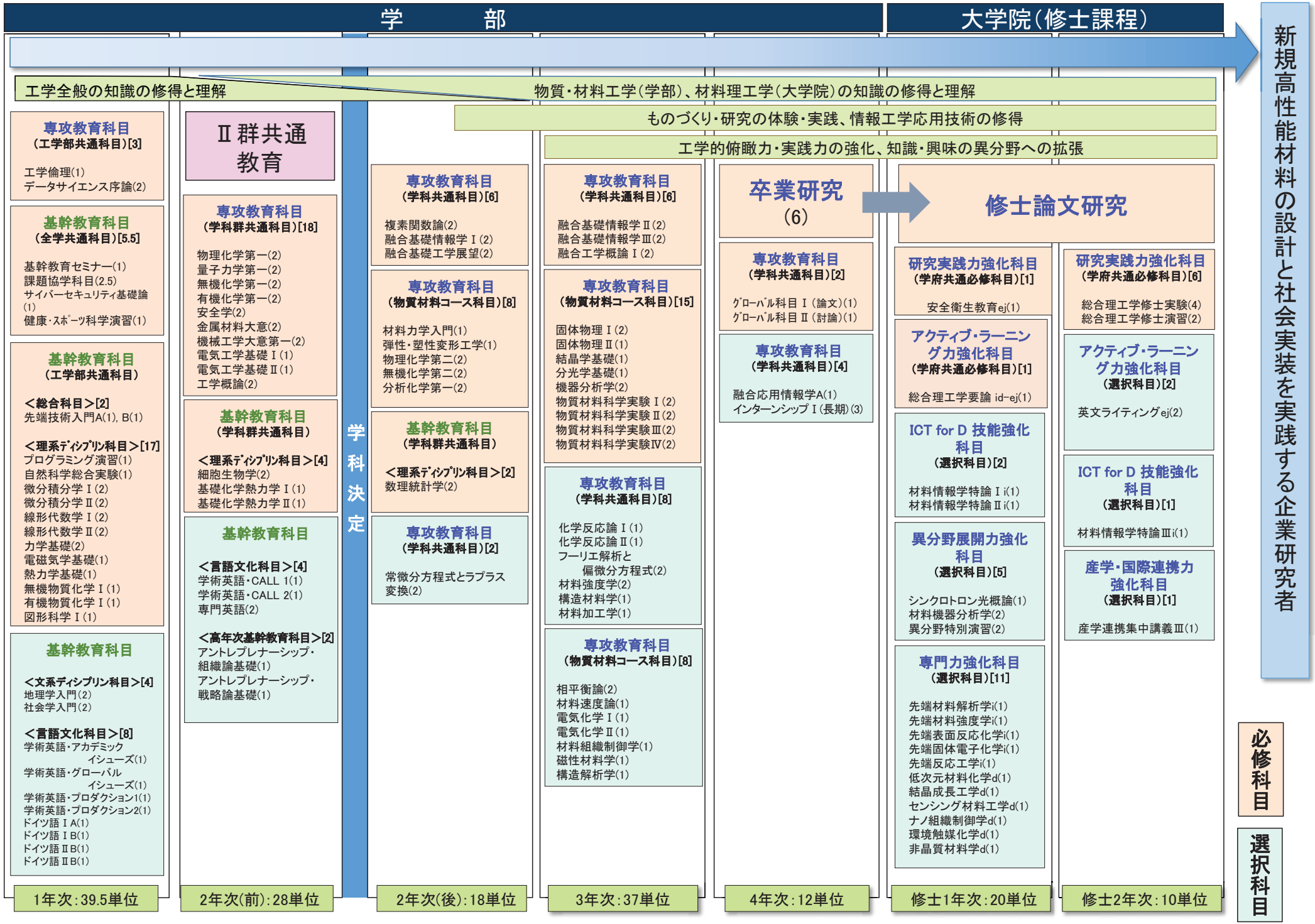


履修モデル

VI群 → Ⅱ群 → 化学工学科 → 化学工学専攻



履修モデル　Ⅱ群 → 融合基礎工学科（物質材料コース） → 総合理工学府 総合理工学専攻（材料理工学）



履修モデル

VI群 → Ⅱ群 → 融合基礎工学科（物質材料コース） → 総合理工学府 総合理工学専攻（材料理工学）

学　　部

大学院（修士課程）

新規高性能材料の設計と社会実装を実践する企業研究者

工学全般の知識の修得と理解

物質・材料工学（学部）、材料理工学（大学院）の知識の修得と理解

ものづくり・研究の体験・実践、情報工学応用技術の修得

工学的俯瞰力・実践力の強化、知識・興味の異分野への拡張

学科決定

専攻教育科目（工学部共通科目）[3]

工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目（全学共通科目）[5.5]

基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学演習(1)

基幹教育科目（工学部共通科目）

＜総合科目＞[2]
先端技術入門A(1), B(1)

＜理系ﾃﾞｨｼﾌﾟﾘﾝ科目＞[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目

＜文系ディシプリン科目＞[4]
地理学入門(2)
社会学入門(2)

＜言語文化科目＞[8]
学術英語・アカデミック
イシューズ(1)
学術英語・グローバル
イシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
ドイツ語ⅠA(1)
ドイツ語ⅠB(1)
ドイツ語ⅡB(1)
ドイツ語ⅡB(1)

1年次：39.5単位

Ⅱ群共通教育

専攻教育科目（学科群共通科目）[18]

物理化学第一(2)
量子力学第一(2)
無機化学第一(2)
有機化学第一(2)
安全学(2)
金属材料大意(2)
機械工学大意第一(2)
電気工学基礎Ⅰ(1)
電気工学基礎Ⅱ(1)
工学概論(2)

基幹教育科目（学科群共通科目）

＜理系ﾃﾞｨｼﾌﾟﾘﾝ科目＞[4]
細胞生物学(2)
基礎化学熱力学Ⅰ(1)
基礎化学熱力学Ⅱ(1)

基幹教育科目

＜言語文化科目＞[4]
学術英語・CALL 1(1)
学術英語・CALL 2(1)
専門英語(2)

＜高年次基幹教育科目＞[2]
アントレプレナーシップ・組織論基礎(1)
アントレプレナーシップ・戦略論基礎(1)

2年次(前)：28単位

専攻教育科目（学科共通科目）[6]

複素関数論(2)
融合基礎情報学Ⅰ(2)
融合基礎工学展望(2)

専攻教育科目（物質材料コース科目）[8]

材料力学入門(1)
弾性・塑性変形工学(1)
物理化学第二(2)
無機化学第二(2)
分析化学第一(2)

基幹教育科目（学科群共通科目）

＜理系ﾃﾞｨｼﾌﾟﾘﾝ科目＞[2]
数理統計学(2)

専攻教育科目（学科共通科目）[2]

常微分方程式とラプラス変換(2)

2年次(後)：18単位

専攻教育科目（学科共通科目）[6]

融合基礎情報学Ⅱ(2)
融合基礎情報学Ⅲ(2)
融合工学概論Ⅰ(2)

専攻教育科目（物質材料コース科目）[15]

固体物理Ⅰ(2)
固体物理Ⅱ(1)
結晶学基礎(1)
分光学基礎(1)
機器分析学(2)
物質材料科学実験Ⅰ(2)
物質材料科学実験Ⅱ(2)
物質材料科学実験Ⅲ(2)
物質材料科学実験Ⅳ(2)

専攻教育科目（学科共通科目）[8]

化学反応論Ⅰ(1)
化学反応論Ⅱ(1)
フーリエ解析と偏微分方程式(2)
材料強度学(2)
構造材料学(1)
材料加工学(1)

専攻教育科目（物質材料コース科目）[8]

相平衡論(2)
材料速度論(1)
電気化学Ⅰ(1)
電気化学Ⅱ(1)
材料組織制御学(1)
磁性材料学(1)
構造解析学(1)

3年次：37単位

卒業研究（6）

専攻教育科目（学科共通科目）[2]

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ科目Ⅰ（論文）(1)
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ科目Ⅱ（討論）(1)

専攻教育科目（学科共通科目）[4]

融合応用情報学A(1)
インターンシップⅠ（長期）(3)

4年次：12単位

修士論文研究

研究実践力強化科目（学府共通必修科目）[1]

安全衛生教育ej(1)

アクティブ・ラーニング力強化科目（学府共通必修科目）[1]

総合理工学要論 id-ej(1)

ICT for D 技能強化科目（選択科目）[2]

材料情報学特論Ⅰi(1)
材料情報学特論Ⅱi(1)

異分野展開力強化科目（選択科目）[5]

シンクロトロン光概論(1)
材料機器分析学(2)
異分野特別演習(2)

専門力強化科目（選択科目）[11]

先端材料解析学i(1)
先端材料強度学i(1)
先端表面反応化学i(1)
先端固体電子化学i(1)
先端反応工学i(1)
低次元材料化学d(1)
結晶成長工学d(1)
センシング材料工学d(1)
ナノ組織制御学d(1)
環境触媒化学d(1)
非晶質材料学d(1)

修士1年次：20単位

研究実践力強化科目（学府共通必修科目）[6]

総合理工学修士実験(4)
総合理工学修士演習(2)

アクティブ・ラーニング力強化科目（選択科目）[2]

英文ライティングej(2)

ICT for D 技能強化科目（選択科目）[1]

材料情報学特論Ⅲi(1)

産学・国際連携力強化科目（選択科目）[1]

産学連携集中講義Ⅲ(1)

修士2年次：10単位

必修科目

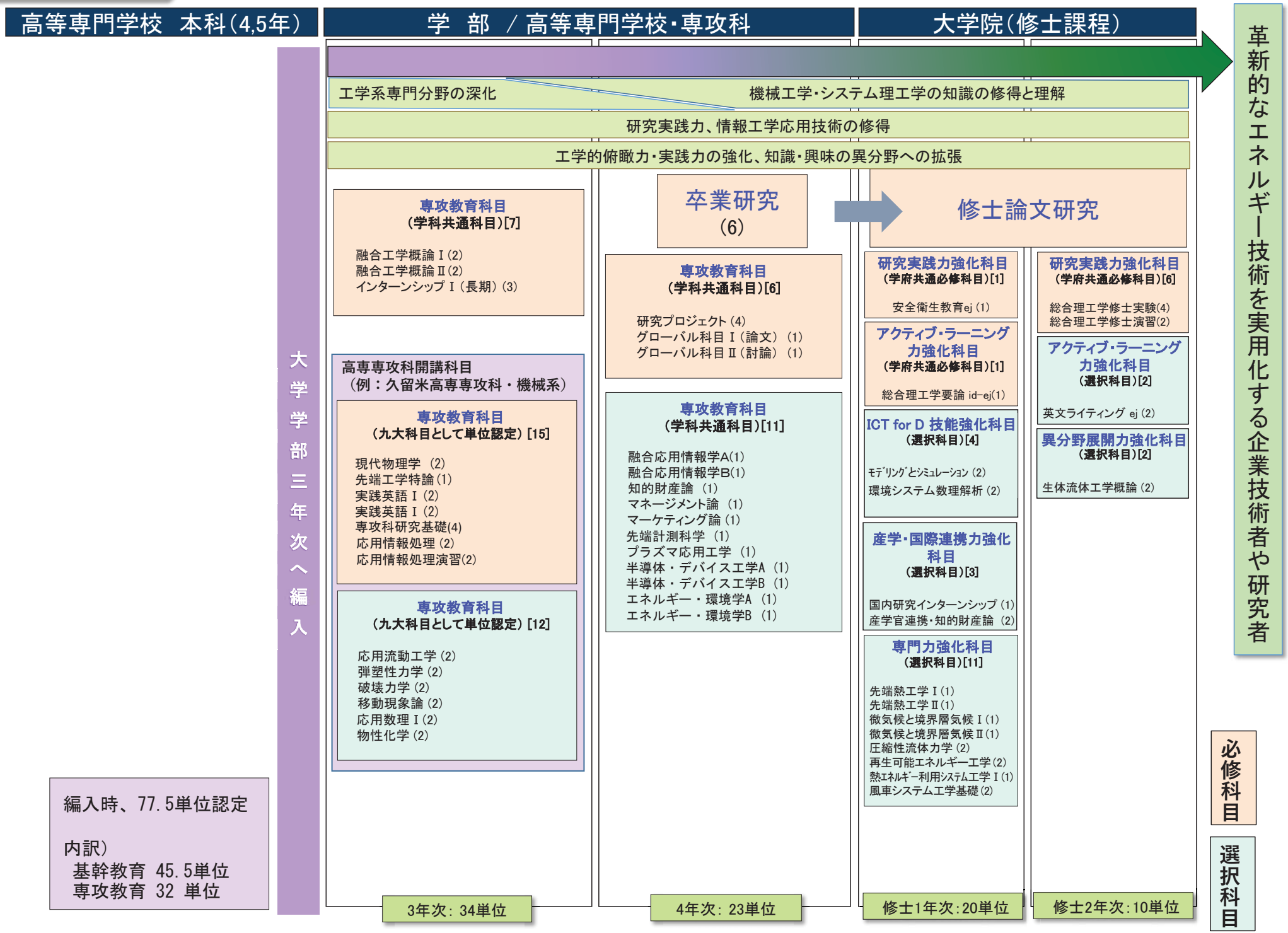
選択科目

履修モデル

Ⅲ群 → 融合基礎工学科（機械電気コース） → 総合理工学府 総合理工学専攻（プラズマ・量子理工学）

履修モデル　VI群 → Ⅲ群 → 融合基礎工学科（機械電気コース） → 総合理工学府 総合理工学専攻（プラズマ・量子理工学）

履修モデル　融合基礎工学科（高専連携）→ 総合理工学府 総合理工学専攻（機械・システム理工学）



履修モデル

Ⅲ群 → 機械工学科 → 機械工学専攻

履修モデル

Ⅲ群 → 機械工学科 → 水素エネルギーシステム専攻

学　　部

大学院（修士課程）

企業のエンジニア（設計・開発）　博士課程（研究者）

工学全般の知識の修得と理解

機械工学の知識の修得と理解

機械工学・ものづくり・研究の体験・実践

知識・興味の異分野への拡張

水素工学の知識の修得と理解

学科決定

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）[5.5]
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・スポーツ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
<総合科目>[2]
先端技術入門A・B(2)
<理系ディシプリン科目>[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験Ⅰ(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
<理系ディシプリン科目>[1]
無機物質化学Ⅱ(1)

基幹教育科目
<文系ディシプリン科目>[4]
<言語文化科目>[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
中国語ⅠA(1)
中国語ⅠB(1)
中国語ⅡA(1)
中国語ⅡB(1)

1年次：40.5単位

Ⅲ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[15]
ベクトル解析と微分方程式(2)
現代物理学入門(2)
工業力学(2)
材料力学Ⅰ(1)
材料力学Ⅱ(2)
熱力学Ⅰ(2)
流れ学Ⅰ(2)
工学概論(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
<理系ディシプリン科目>[2]
数理統計学(2)

基幹教育科目
<言語文化科目>[3]
学術英語・CALL 1(1)
学術英語・CALL 2(1)
学術英語・テーマベース(1)

2年次(前)：20単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[22.5]
複素関数論(2)
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式(2)
電気工学基礎Ⅰ,Ⅱ(2)
電子情報工学基礎Ⅰ,Ⅱ((2)
材料力学Ⅲ(1.5)
材料力学Ⅳ(1)
機械力学A(1.5)
機械力学B(1.5)
熱力学Ⅱ(1.5)
流れ学Ⅱ(1.5)
流体力学Ⅰ(1.5)
機械工作実習Ⅰ(1)
機械工作実習Ⅱ(1)
機械設計Ⅰ(1.5)
機械材料Ⅰ(1)

基幹教育科目
<理系ディシプリン科目>[3]
図形科学Ⅱ(1)
空間表現実習Ⅰ(2)

2年次(後)：25.5単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[27.5]
弾性力学A(1)
弾性力学B(1)
機械力学C(1.5)
伝熱学Ⅰ(1.5)
伝熱学Ⅱ(1.5)
流体力学Ⅱ(1.5)
数値解析基礎(2)
システム制御A(1)
システム制御B(1)
システム制御C(1)
システム制御D(1)
燃焼学Ⅰ(1)
燃焼学Ⅱ(1)
機械製作法Ⅰ(2)
機械製作法Ⅱ(2)
機械設計Ⅱ(1.5)
機械工学実験第一(1)
機械工学実験第二(1)
機械要素設計製図Ⅰ(0.5)
機械要素設計製図Ⅱ(0.5)
機械工学設計製図(1)
データサイエンス応用(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[10]
熱エネルギー変換Ⅰ・Ⅱ(2)
水素工学基礎(2)
内燃機関Ⅰ・Ⅱ(2)
応用流体工学(2)
システム工学(2)

基幹教育科目
<言語文化科目>[1]
専門英語(1)

3年次：38.5単位

卒業研究
(6)

専攻教育科目
（学科・専攻科目(選択必修科目)）[2]
機械工学特別講義Ⅲ(0.5)
機械工学特別講義Ⅳ(0.5)
機械工学特別講義Ⅴ(0.5)
機械工学特別講義Ⅵ(0.5)

基幹教育科目
<高年次基幹教育科目>[2]
技術と産業・企業(2)

4年次：10単位

修士論文研究

高等専門科目
水素工学概論(2)
高圧ガス安全工学(2)

高等専門科目
Hydrogen Energy Engineering(2)
Material Strength(2)
Fuel Cell Engineering(2)
水素利用プロセス(2)
水素エネルギー社会システム(2)

先端科目
水素エネルギー電気システム(2)
燃料電池システム(2)
技術マネジメント(2)

異分野科目
異分野科目D(2)

修士1年次：22単位

先端科目
材料強度学Ⅰ(1)
材料強度学Ⅱ(1)

能力開発特別科目
水素工学セミナーⅠ(2)
水素工学情報集約(2)

異分野科目
異分野科目F(2)

修士2年次：8単位

必修科目

選択科目

履修モデル

Ⅵ群 → Ⅲ群 → 機械工学科 → 機械工学専攻

学　　部 | 大学院（修士課程）

工学全般の知識の修得と理解

機械工学の知識の修得と理解

機械工学・ものづくり・研究の体験・実践

知識・興味の異分野への拡張

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）[5.5]
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・スポーツ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
<総合科目>[2]
先端技術入門A・B(2)
<理系ディシプリン科目>[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験Ⅰ(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
<文系ディシプリン科目>[4]
<言語文化科目>[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
中国語ⅠA(1)
中国語ⅠB(1)
中国語ⅡA(1)
中国語ⅡB(1)

1年次：39.5単位

Ⅲ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[15]
ベクトル解析と微分方程式(2)
現代物理学入門(2)
工業力学(2)
材料力学Ⅰ(1)
材料力学Ⅱ(2)
熱力学Ⅰ(2)
流れ学Ⅰ(2)
工学概論(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
<理系ディシプリン科目>[3]
数理統計学(2)
無機物質化学Ⅱ(1)

基幹教育科目
<言語文化科目>[3]
学術英語・CALL 1(1)
学術英語・CALL 2(1)
学術英語・テーマベース(1)

2年次(前)：21単位

学科決定

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[22.5]
複素関数論(2)
フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式(2)
電気工学基礎Ⅰ,Ⅱ(2)
電子情報工学基礎Ⅰ,Ⅱ((2)
材料力学Ⅲ(1.5)
材料力学Ⅳ(1)
機械力学A(1.5)
機械力学B(1.5)
熱力学Ⅱ(1.5)
流れ学Ⅱ(1.5)
流体力学Ⅰ(1.5)
機械工作実習Ⅰ(1)
機械工作実習Ⅱ(1)
機械設計Ⅰ(1.5)
機械材料Ⅰ(1)

基幹教育科目
<理系ディシプリン科目>[3]
図形科学Ⅱ(1)
空間表現実習Ⅰ(2)

2年次(後)：25.5単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[27.5]
弾性力学A(1)
弾性力学B(1)
機械力学C(1.5)
伝熱学Ⅰ(1.5)
伝熱学Ⅱ(1.5)
流体力学Ⅱ(1.5)
数値解析基礎(2)
システム制御A(1)
システム制御B(1)
システム制御C(1)
システム制御D(1)
燃焼学Ⅰ(1)
燃焼学Ⅱ(1)
機械製作法Ⅰ(2)
機械製作法Ⅱ(2)
機械設計Ⅱ(1.5)
機械工学実験第一(1)
機械工学実験第二(1)
機械要素設計製図Ⅰ(0.5)
機械要素設計製図Ⅱ(0.5)
機械工学設計製図(1)
データサイエンス応用(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[10]
ロボティックスⅠ・Ⅱ(2)
システム工学(2)
機械要素Ⅰ・Ⅱ(2)
機械材料Ⅱ(1)
連続体の振動学(1)
機構学・振動制御(1)
熱エネルギー変換(1)

基幹教育科目
<言語文化科目>[1]
専門英語(1)

3年次：38.5単位

卒業研究
(6)

専攻教育科目
（学科・専攻科目(選択必修科目)）[2]
機械工学特別講義Ⅰ(0.5)
機械工学特別講義Ⅱ(0.5)
機械工学特別講義Ⅶ(0.5)
機械工学特別講義Ⅷ(0.5)

基幹教育科目
<高年次基幹教育科目>[2]
アントレプレナーシップ・戦略論基礎(1)
アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎(1)

4年次：10単位

修士論文研究

高等専門科目
Computational Intelligence(2)
流体物理(2)
二相流動現象学(2)
材料加工学(2)
Mechanical Vibration(1)
Mechanical Acoustics(1)
Robotics(2)
生体機械工学基礎(2)
設計工学特論(2)
数値解析応用特論(2)

先端科目
バイオデザイン(1)
バイオトランスポート(1)

異分野科目
異分野科目B(2)
異分野科目D(2)

修士1年次：24単位

先端科目
ソフトマター工学(2)
生体工学特論(2)

能力開発特別科目
機械工学情報集約(2)

修士2年次：6単位

企業のエンジニア（設計・開発）　博士課程（研究者）

必修科目

選択科目

履修モデル

Ⅲ群 → 航空宇宙工学科 → 航空宇宙工学専攻

履修モデル

VI群 → Ⅲ群 → 航空宇宙工学科 → 航空宇宙工学専攻

履修モデル

Ⅲ群 → 量子物理工学科 → 量子物理工学専攻

履修モデル

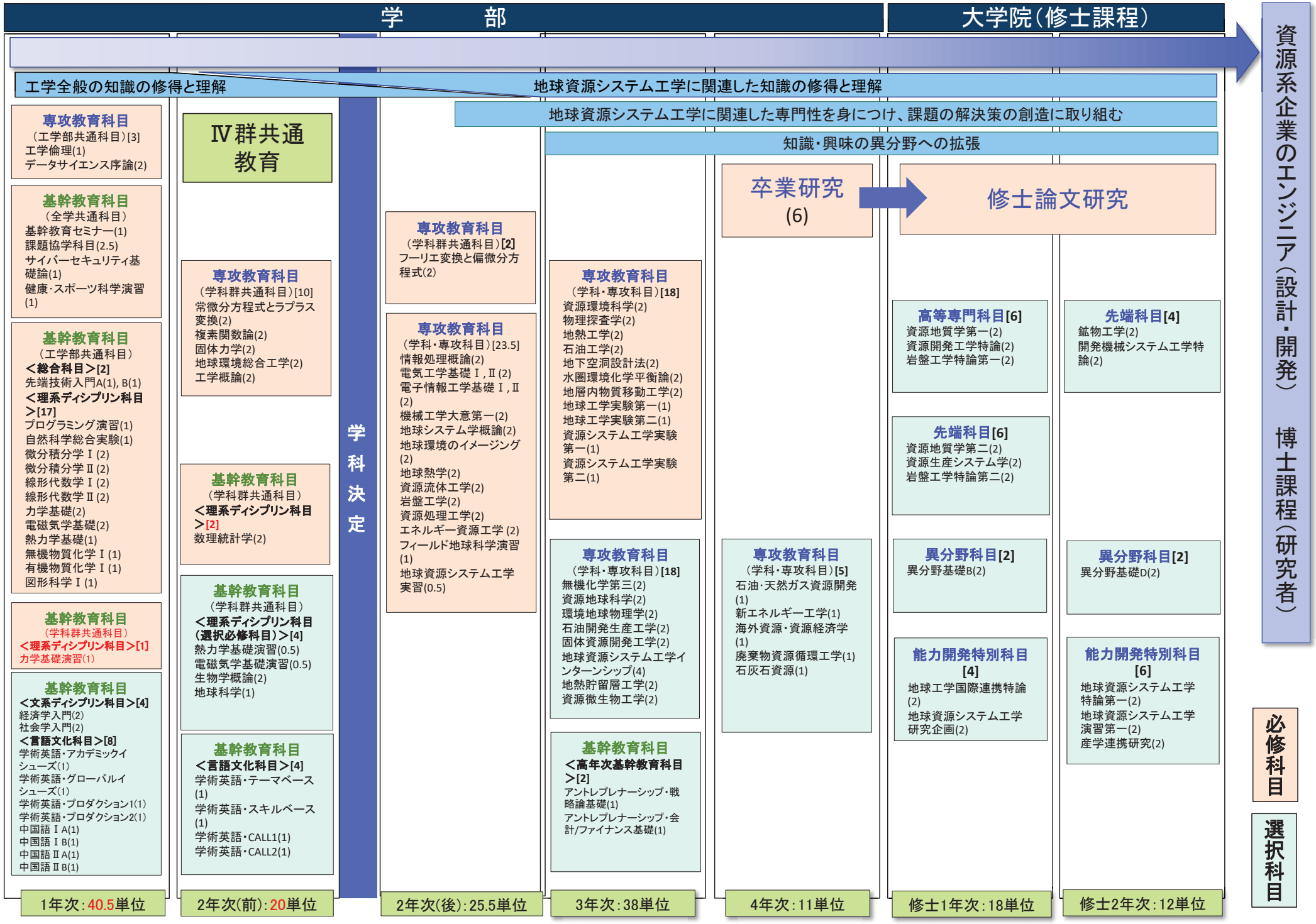
VI群 →Ⅲ群 → 量子物理工学科 → 量子物理工学専攻

履修モデル

Ⅳ群 → 船舶海洋工学科 → 船舶海洋工学専攻

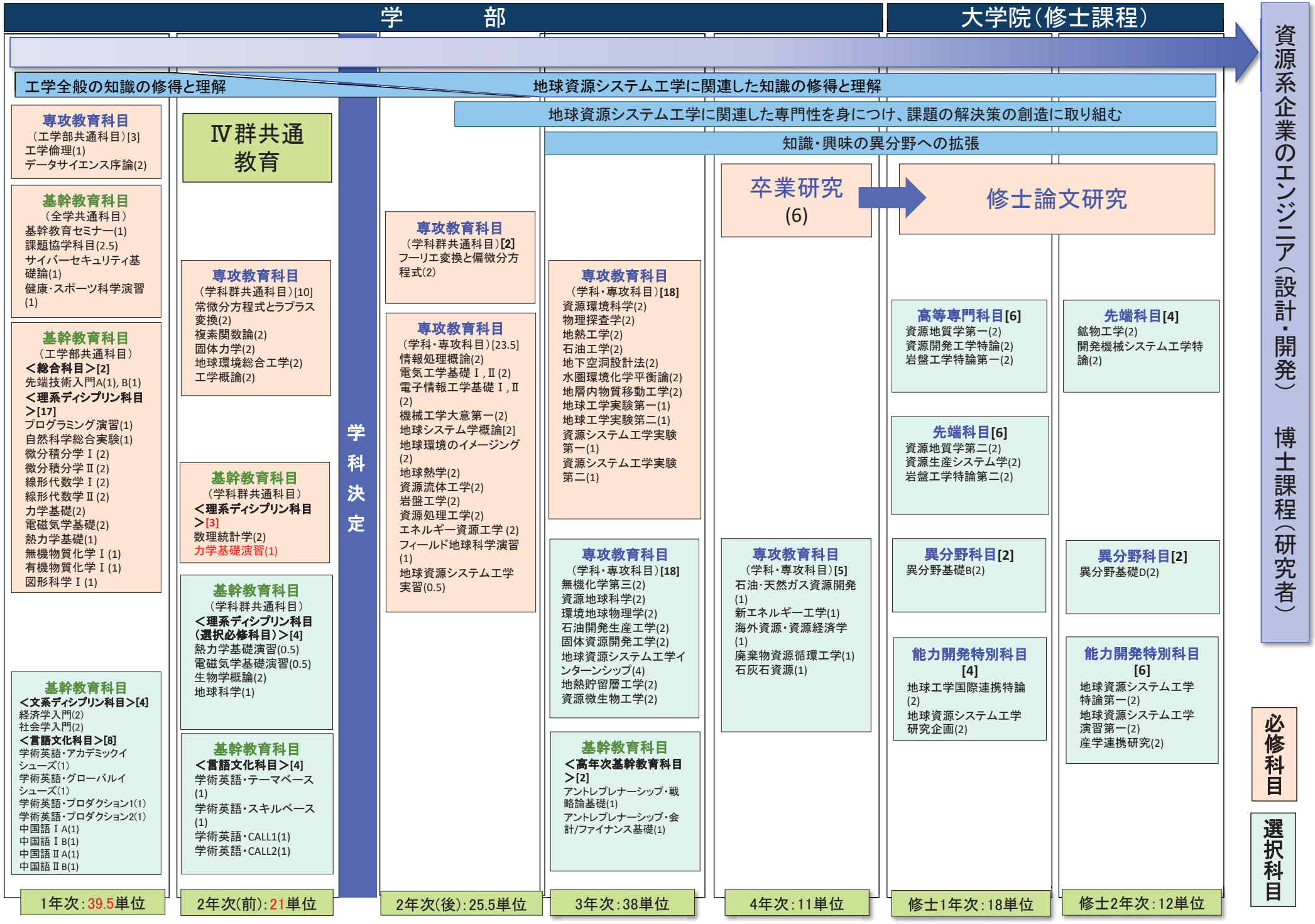
履修モデル　VI群 → Ⅳ群 → 船舶海洋工学科 → 船舶海洋工学専攻

履修モデル　Ⅳ群 → 地球資源システム工学科 → 地球資源システム工学専攻



履修モデル

Ⅵ群 → Ⅳ群 →地球資源システム工学科 → 地球資源システム工学専攻



履修モデル

Ⅳ群 → 地球資源システム工学科 → 共同資源工学専攻

学部 → 大学院（修士課程） → 資源系企業のエンジニア（設計・開発）

工学全般の知識の修得と理解

地球資源に関連した科学・技術と社会・経済の双方にわたる幅広い知識の修得と理解

地球資源に関連した専門性およびグローバル感覚を身につけ、資源開発計画の策定およびそのマネージメント能力を養う

知識・興味の異分野への拡張

1年次：40.5単位

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・スポーツ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
＜総合科目＞[2]
先端技術入門A(1), B(1)
＜理系ディシプリン科目＞[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(2)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[1]
力学基礎演習(1)

基幹教育科目
＜文系ディシプリン科目＞[4]
経済学入門(2)
社会学入門(2)
＜言語文化科目＞[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
中国語ⅠA(1)
中国語ⅠB(1)
中国語ⅡA(1)
中国語ⅡB(1)

2年次(前)：20単位

Ⅳ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[10]
常微分方程式とラプラス変換(2)
複素関数論(2)
固体力学(2)
地球環境総合工学(2)
工学概論(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[2]
数理統計学(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目（選択必修科目）＞[4]
熱力学基礎演習(0.5)
電磁気学基礎演習(0.5)
生物学概論(2)
地球科学(1)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[4]
学術英語・テーマベース(1)
学術英語・スキルベース(1)
学術英語・CALL1(1)
学術英語・CALL2(1)

学科決定

2年次(後)：25.5単位

専攻教育科目
（学科群共通科目）[2]
フーリエ変換と偏微分方程式(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[23.5]
情報処理概論(2)
電気工学基礎Ⅰ, Ⅱ(2)
電子情報工学基礎Ⅰ, Ⅱ(2)
機械工学大意第一(2)
地球システム学概論[2]
地球環境のイメージング(2)
地球熱学(2)
資源流体工学(2)
岩盤工学(2)
資源処理工学(2)
エネルギー資源工学(2)
フィールド地球科学演習(1)
地球資源システム工学実習(0.5)

3年次：38単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[18]
資源環境科学(2)
物理探査学(2)
地熱工学(2)
石油工学(2)
地下空洞設計法(2)
水圏環境化学平衡論(2)
地層内物質移動工学(2)
地球工学実験第一(1)
地球工学実験第二(1)
資源システム工学実験第一(1)
資源システム工学実験第二(1)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[18]
無機化学第三(2)
資源地球科学(2)
環境地球物理学(2)
石油開発生産工学(2)
固体資源開発工学(2)
地球資源システム工学インターンシップ(4)
地熱貯留層工学(2)
資源微生物工学(2)

基幹教育科目
＜高年次基幹教育科目＞[2]
アントレプレナーシップ・戦略論基礎(1)
アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎(1)

4年次：11単位

卒業研究
(6)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[5]
石油・天然ガス資源開発(1)
新エネルギー工学(1)
海外資源・資源経済学(1)
廃棄物資源循環工学(1)
石灰石資源(1)

修士1年次：28単位

修士論文研究

共通科目[6]
資源マネージメントⅠ(2)＊
国際人事交流セミナー(2)＊
国際フィールド調査(2)＊

専門科目A[18]
資源環境化学(2)**
環境地質学(2)**
金属製錬工学(2)**
選鉱・リサイクル工学(2)**
資源サステナビリティ(2)**
地球熱学概論(2)***
資源開発工学(2)***
資源採掘システム工学(2)***
地球環境修復工学(2)***

専門科目B[4]
資源地質学(2)***
物理探査工学(2)***

修士2年次：2単位

能力開発科目
[2]
共同資源工学特別演習(2)

必修科目

選択科目

*九大・北大両大学にて開講

**北大にて開講

***九大にて開講

履修モデル

Ⅳ群 → 土木工学科 → 土木工学専攻（社会基盤工学コース）

履修モデル

VI群 → Ⅳ群 → 土木工学科 → 土木工学専攻（社会基盤工学コース）

学　　部

大学院（修士課程）

工学全般の知識の修得と理解

土木工学の知識の修得と理解

土木工学・ものづくり・研究の体験・実践

知識・興味の異分野への拡張

専攻教育科目
（工学部共通科目）[3]
工学倫理(1)
データサイエンス序論(2)

基幹教育科目
（全学共通科目）[5.5]
基幹教育セミナー(1)
課題協学科目(2.5)
サイバーセキュリティ基礎論(1)
健康・スポーツ科学演習(1)

基幹教育科目
（工学部共通科目）
＜総合科目＞[2]
先端技術入門A(1)
先端技術入門B(1)
＜理系ディシプリン科目＞[17]
プログラミング演習(1)
自然科学総合実験(1)
微分積分学Ⅰ(2)
微分積分学Ⅱ(2)
線形代数学Ⅰ(2)
線形代数学Ⅱ(2)
力学基礎(2)
電磁気学基礎(1)
熱力学基礎(1)
無機物質化学Ⅰ(1)
有機物質化学Ⅰ(1)
図形科学Ⅰ(1)

基幹教育科目
＜文系ディシプリン科目＞[4]
経済学入門(2)
歴史学入門(2)
＜言語文化科目＞[8]
学術英語・アカデミックイシューズ(1)
学術英語・グローバルイシューズ(1)
学術英語・プロダクション1(1)
学術英語・プロダクション2(1)
フランス語ⅠA(1)
フランス語ⅠB(1)
フランス語ⅡA(1)
フランス語ⅡB(1)

1年次：39.5単位

Ⅳ群共通教育

専攻教育科目
（学科群共通科目）[10]
常微分方程式とラプラス変換(2)
複素関数論(2)
固体力学(2)
地球環境総合工学(2)
工学概論(2)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目＞[3]
数理統計学(2)
力学基礎演習(1)

基幹教育科目
（学科群共通科目）
＜理系ディシプリン科目(選択必修科目)＞[4]
無機物質化学Ⅱ(1)
基礎化学結合論Ⅰ(1)
地球科学(1)
図形科学Ⅱ(1)

基幹教育科目
＜言語文化科目＞[4]
学術英語・CALL1(1)
学術英語・CALL2(1)
学術英語・テーマベース(1)
学術英語・スキルベース(1)

2年次(前)：21単位

学科決定

専攻教育科目
（学科群共通科目）[2]
フーリエ変換と偏微分方程式(2)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[23]
構造力学Ⅰ(2)
土木材料学(2)
地盤力学Ⅰ(2)
社会基盤計画学Ⅰ(1)
社会基盤計画学Ⅱ(1)
環境システム学(2)
流体力学基礎(2)
水理学Ⅰ(2)
土木実践教室A(2)
土木地理学(2)
土木エンジニア史(2)
環境と防災A(1)
土木と社会セミナーA(1)
土木と社会セミナーB(1)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[3]
測量学・実習(3)

2年次(後)：28単位

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[21]
構造力学Ⅱ(2)
地盤力学Ⅱ(2)
応用地盤工学(2)
計画数理(2)
環境基礎学(2)
水理学Ⅱ(2)
土木実践教室B(2)
基礎土木工学演習(1)
土木工学総合演習(2)
環境と防災B(1)
データサイエンス(2)
土木と社会セミナーC(1)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[12]
地震工学(2)
構造解析学(2)
コンクリート構造工学Ⅰ(1)
コンクリート構造工学Ⅱ(1)
鋼構造工学(2)
都市計画(2)
プロジェクト・ものづくり(2)

基幹教育科目
＜高年次基幹教育科目＞[2]
アントレプレナーシップ・戦略論基礎(1)
アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎(1)

3年次：35単位

卒業研究
(6)

専攻教育科目
（学科・専攻科目）[6]
維持管理工学(2)
交通施設工学(2)
環境保全と開発(2)

4年次：12単位

修士論文研究

高等専門科目
研究計画法(2)
数値解析学(2)
地震工学特論(2)

先端科目
コンクリート工学特論(2)
地盤解析学(2)
防災地盤学(2)

能力開発特別科目
実践維持管理工学(2)
プレゼンテーション演習(2)

異分野科目
材料工学A(1)
材料工学B(1)
機械工学A(1)
航空宇宙工学B(1)

修士1年次：20単位

先端科目
構造解析学特論(2)
免震制振工学(2)
建設基礎対策学(2)

能力開発特別科目
社会基盤工学特論第一(2)
社会基盤工学演習第一(2)

修士2年次：10単位

企業・官公庁のエンジニア（設計・施工・管理・開発）博士課程（研究者）

必修科目

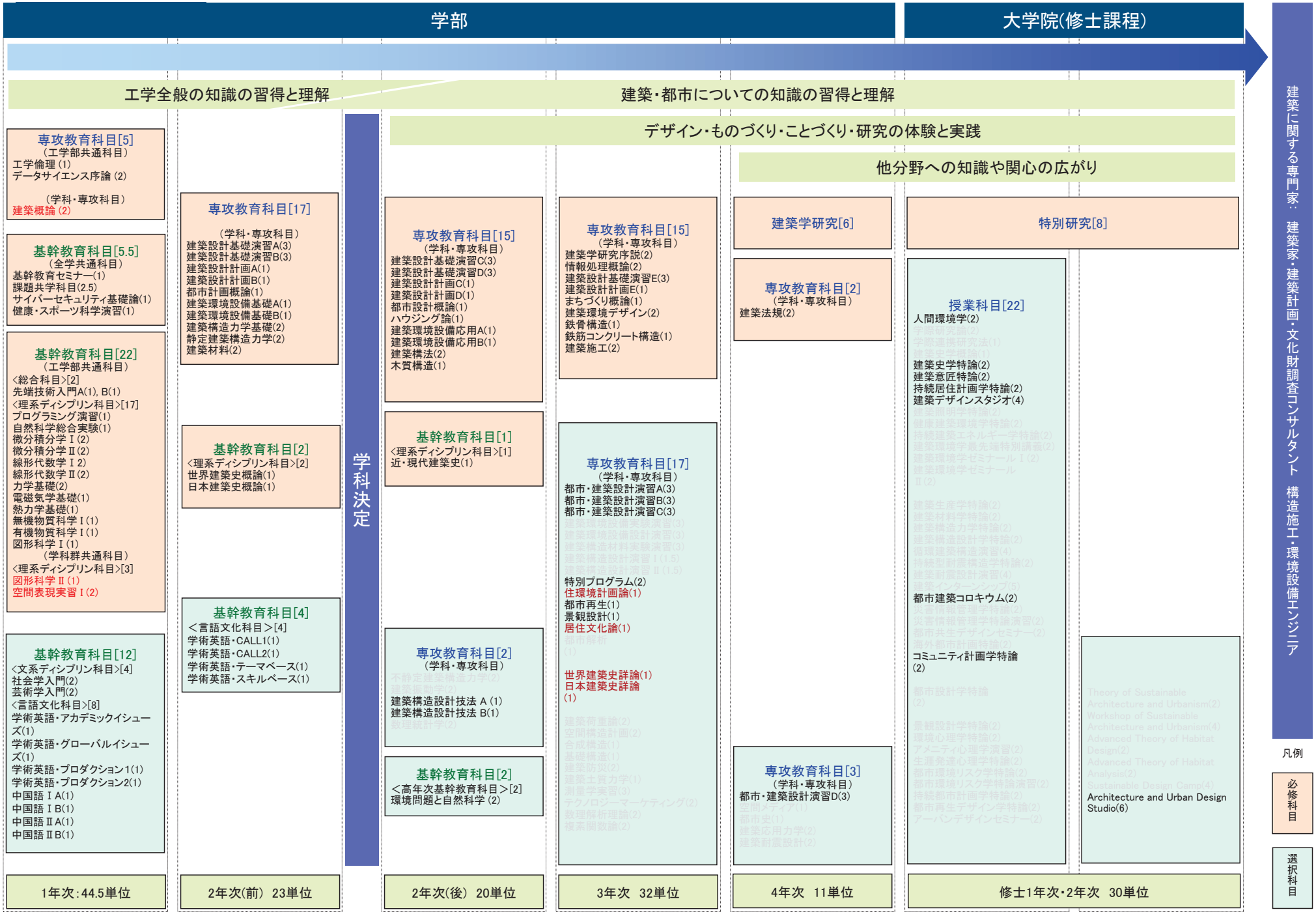
選択科目

履修モデル

Ⅳ群 → 土木工学科 → 土木工学専攻（都市環境工学コース）

履修モデル

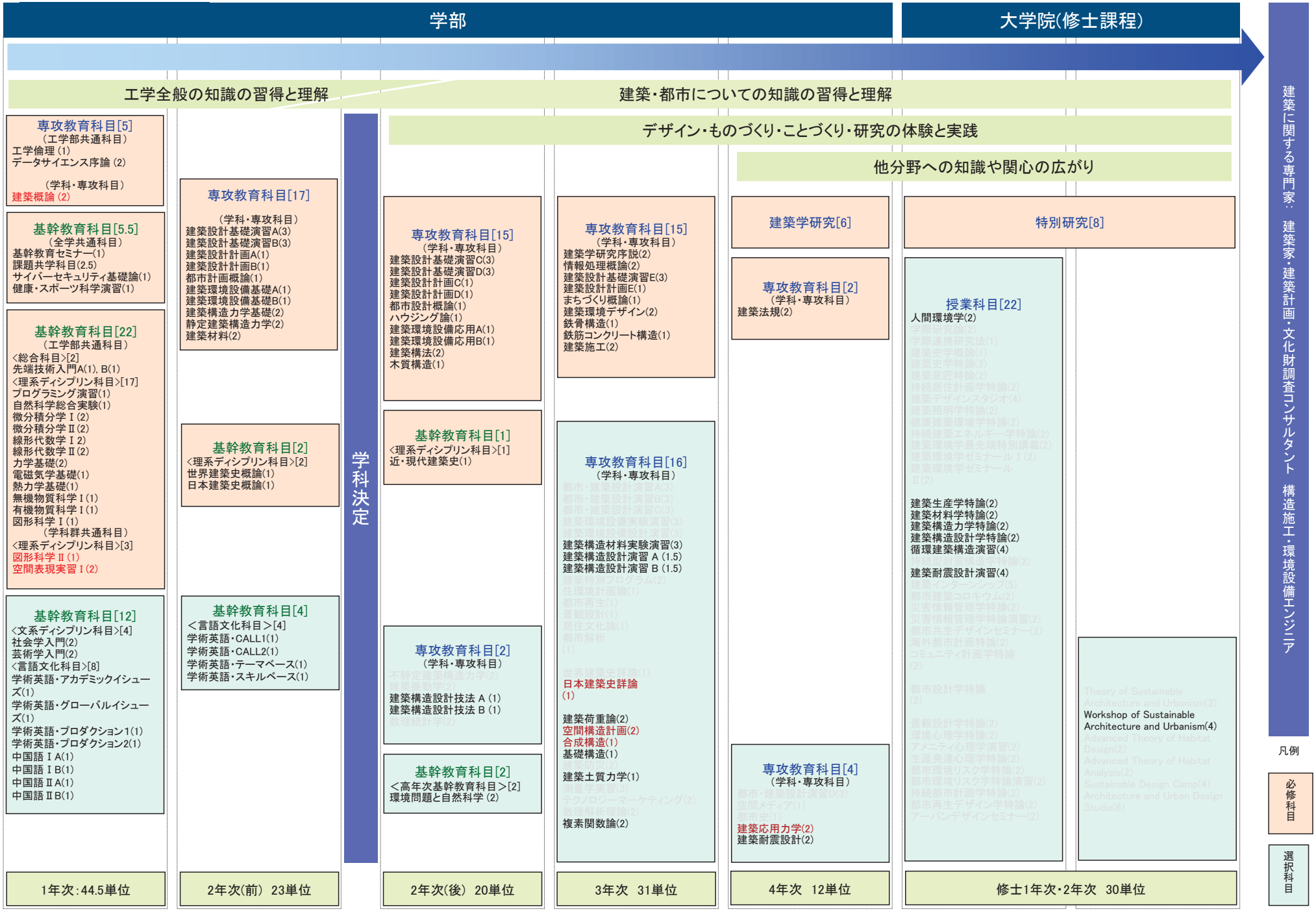
V 群 = 建築学科 → 空間システム専攻



建築学科卒業生の進路は幅広く、学生の目標に合わせた多様な選択科目が準備されている。 科目名凡例 科目名(黒): 履修科目の例 科目名(赤): 履修科目のうち専攻選択関係科目 科目名(灰): 非履修科目

履修モデル

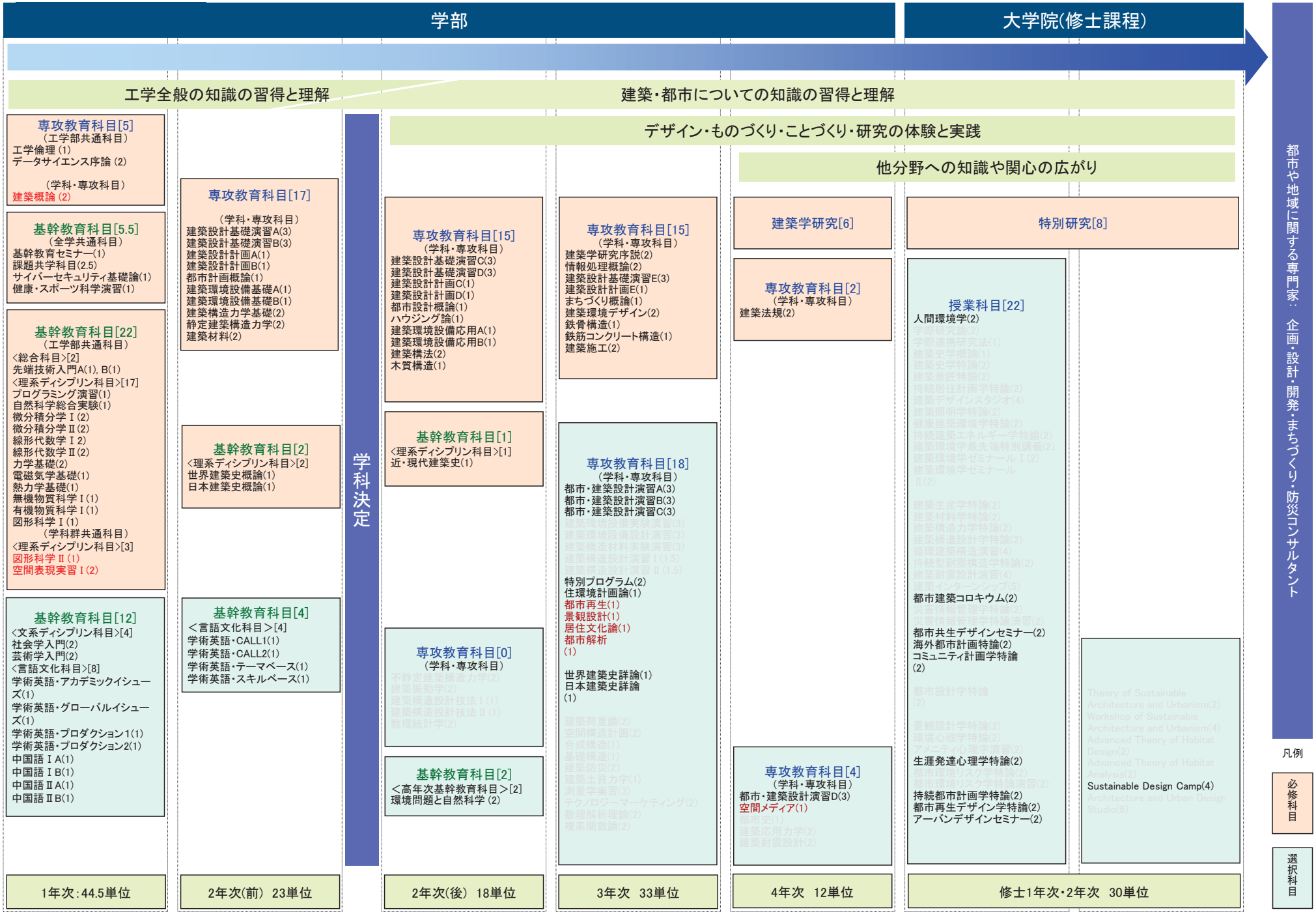
V 群 = 建築学科 → 空間システム専攻



建築学科卒業生の進路は幅広く、学生の目標に合わせた多様な選択科目が準備されている。 科目名凡例 科目名(黒):履修科目の例 科目名(赤):履修科目のうち専攻選択関係科目 科目名(灰):非履修科目

履修モデル

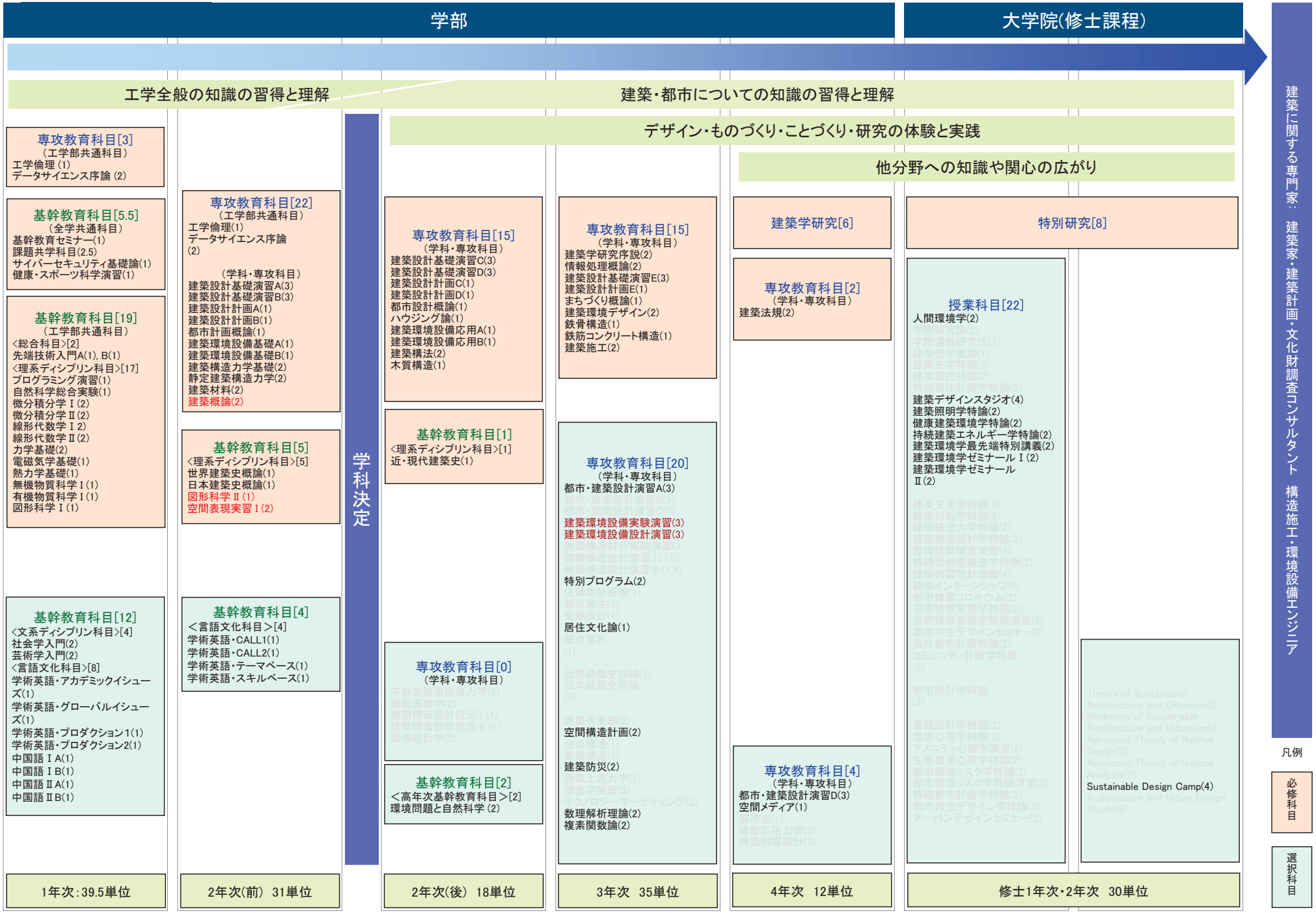
V 群 = 建築学科 → 都市共生デザイン専攻



建築学科卒業生の進路は幅広く、学生の目標に合わせた多様な選択科目が準備されている。 科目名凡例 科目名(黒): 履修科目の例 科目名(赤): 履修科目のうち専攻選択関係科目 科目名(灰): 非履修科目

履修モデル

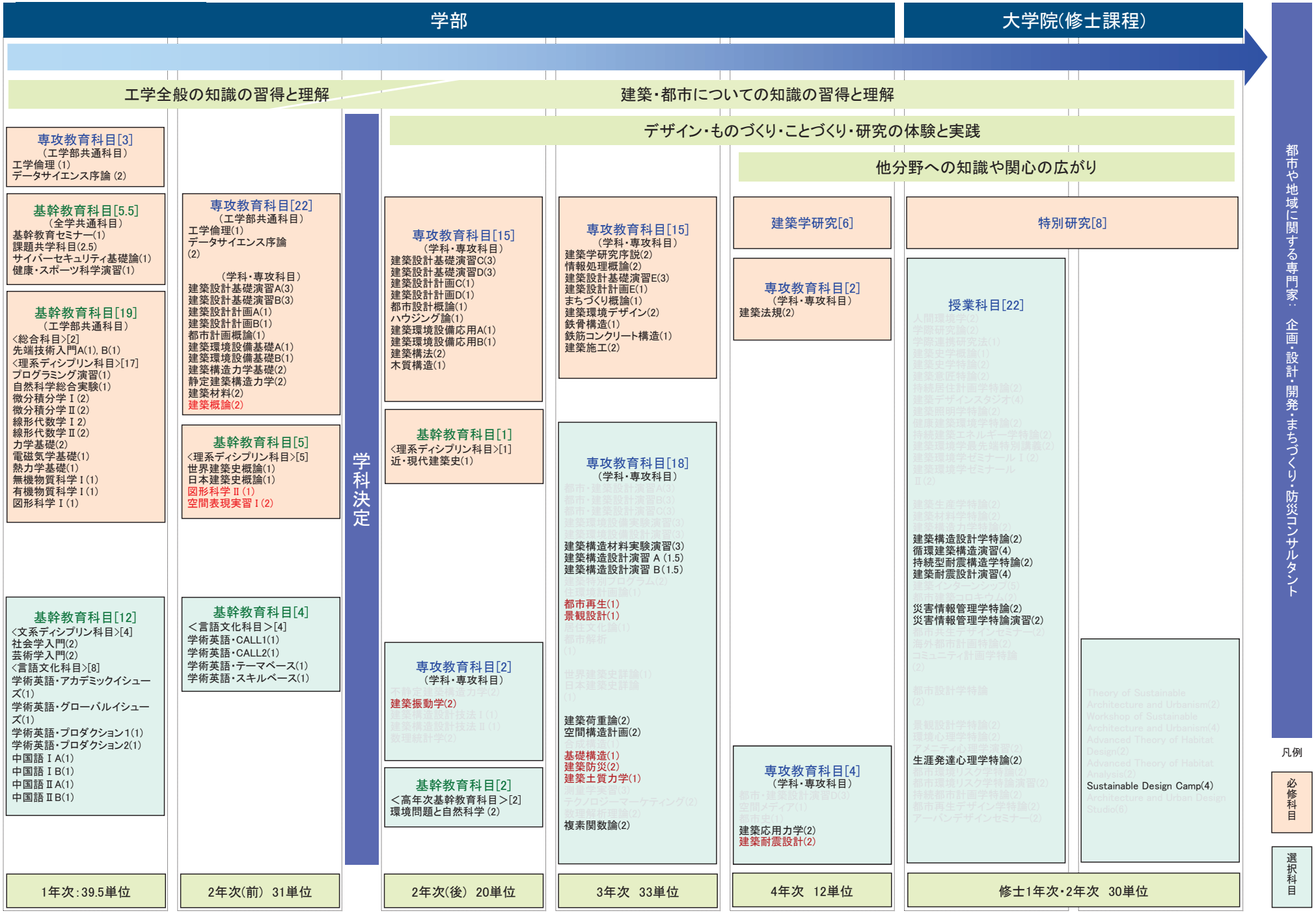
Ⅵ群 → Ⅴ 群 = 建築学科 → 空間システム専攻



建築学科卒業生の進路は幅広く、学生の目標に合わせた多様な選択科目が準備されている。 科目名凡例 科目名(黒):履修科目の例 科目名(赤):履修科目のうち専攻選択関係科目 科目名(灰):非履修科目

履修モデル

VI群 → V 群 = 建築学科 → 都市共生デザイン専攻



建築学科卒業生の進路は幅広く、学生の目標に合わせた多様な選択科目が準備されている。 科目名凡例 科目名(黒): 履修科目の例 科目名(赤): 履修科目のうち専攻選択関係科目 科目名(灰): 非履修科目

学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
（１）学生の確保の見通し　・・・　１
（２）学生確保に向けた具体的な取組状況　・・・　９

２．人材需要の動向等社会の要請
（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的　・・・　９
（２）社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠　・・・　１０

学生の確保の見通し等を記載した書類

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

ア．定員充足の見込み

①　入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

九州大学工学部の入学定員は 778 名とする。今回の改組では、従来の入学定員を維持しながら本学部を構成する学科を再編する。

これまで本学部には６学科を置き、電気情報工学科及び建築学科を除く４学科（物質科学工学科、地球環境工学科、エネルギー科学科、機械航空工学科）は、大括り学科として**コース制**を導入し各専門分野の教育を行ってきた。

学部から大学院修士課程までの連続性に配慮した学士・修士６年一貫型教育を実現するため、現行の**コースを学科として再編**し、12 学科体制とする（図 1-1 参照）。

改組後の入学定員については、電気情報工学科及び建築学科は現在の入学定員を維持し、それ以外の新学科についてはこれまでの教育実績も考慮し、現在の大括り学科の入学定員の範囲内で設定する。

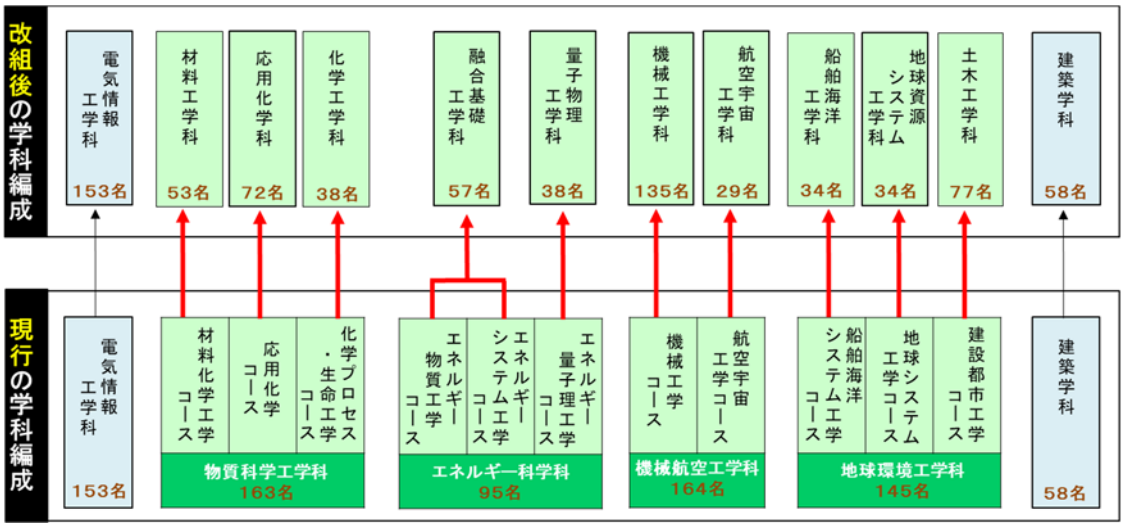


図 1-1　改組前後における学科編成及び学科ごとの入学定員

これまでの過去５ヵ年の本学部全体の志願倍率は、いずれの年度も３倍を超えており、また、学科毎の５年間の平均志願倍率も 2.7 倍を超えている（表 1-1）。今回の改組は、従来の入学定員を維持した上で、現在の専門分野に応じたコースを新たに学科として明示し、従来のコース毎の受け入れ人数（入学者選抜時から提示）に応じて新たな学科の定員として移行させるものであり、さらに、近年の環境問題等の人類社会が直面する諸課題を打開する工学系人材への社会からの期待の大きさを考慮に入れても、当面これまでの志願者数の傾向が続くことが予想されることから、中長期的に見ても学生確保は十分に見込める。

表 1-1　平成 27 年 4 月入学～平成 31 年 4 月入学における志願者数・入学者数の実績

学科名	入学定員	平成27年4月				平成28年4月				平成29年4月			
		志願者		入学者		志願者		入学者		志願者		入学者	
		人数	志願倍率	人数	定員充足率	人数	志願倍率	人数	定員充足率	人数	志願倍率	人数	定員充足率
電気情報工学科	157	538	3.4 倍	163	103.8%	527	3.4 倍	162	103.2%	592	3.8 倍	152	96.8%
物質科学工学科	167	469	2.8 倍	176	105.4%	548	3.3 倍	169	101.2%	500	3.0 倍	165	98.8%
エネルギー科学科	98	304	3.1 倍	101	103.1%	241	2.5 倍	104	106.1%	343	3.5 倍	97	99.0%
機械航空工学科	168	687	4.1 倍	171	101.8%	699	4.2 倍	170	101.2%	641	3.8 倍	165	98.2%
地球環境工学科	149	473	3.2 倍	148	99.3%	445	3.0 倍	154	103.4%	325	2.2 倍	149	100.0%
建築学科	59	181	3.1 倍	63	106.8%	193	3.3 倍	62	105.1%	207	3.5 倍	56	94.9%
合　計	798	2,652	3.3 倍	822	103.0%	2,653	3.3 倍	821	102.9%	2,608	3.3 倍	784	98.2%

学科名	入学定員	平成30年4月				平成31年4月			
		志願者		入学者		志願者		入学者	
		人数	志願倍率	人数	定員充足率	人数	志願倍率	人数	定員充足率
電気情報工学科	153	574	3.8 倍	144	94.1%	585	3.8 倍	150	98.0%
物質科学工学科	163	383	2.3 倍	157	96.3%	362	2.2 倍	158	96.9%
エネルギー科学科	95	192	2.0 倍	93	97.9%	300	3.2 倍	97	102.1%
機械航空工学科	164	606	3.7 倍	161	98.2%	574	3.5 倍	160	97.6%
地球環境工学科	145	406	2.8 倍	141	97.2%	346	2.4 倍	149	102.8%
建築学科	58	198	3.4 倍	58	100.0%	196	3.4 倍	60	103.4%
合　計	778	2,359	3.0 倍	754	96.9%	2,363	3.0 倍	774	99.5%

②　高専との連携教育プログラムのための３年次編入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

新たに設置する融合基礎工学科では、九州沖縄地区の９つの高等専門学校（以下、「９高専」という。）との間で令和５年４月から新たに連携教育プログラムを実施することを計画しており、それに必要な学生定員として 20 名の編入学定員を設定する。

この編入学定員の設定にあたっては、９高専の校長及び教務担当教員との間で断続的な協議を行った。新たな編入学定員設定は、以下の九州沖縄地区の高専における本科卒業生の進学状況を背景としたものである。

・９高専の本科の入学定員総数は 1,680 名であり、毎年約 500 名～600 名が大学編入学又は高専専攻科進学により、さらなる学びを深めている。

・大学編入学に関しては、九州沖縄地区の国公立大学理工系学部では、九州大学と北九州市立大学を除いた大学で編入学定員が設定されており、その総数は 180 名である。

・高専専攻科進学に関して、９高専の専攻科の入学定員の総数は 215 名である。

つまり、毎年 500 名以上の大学編入学・専攻科進学希望者がいるのに対し、九州沖縄地区の大学・高専には 400 名程度しか受入定員がないため、地域において本科卒業生の教育ニーズを十分に満たしているとは言えない。

本学部においては、編入学定員を設定していないが、毎年若干名の高専本科卒業生を、学力試験を課した上で受け入れている。ここ数年では、全国の高専から 90 名を超える編入学希望（うち９高専が約半数）があるが、うち編入学者は 20 名程度という狭き門となっている。本教育プログラムでは、９高専と連携し本学部において教育を行うこととなるため、本学部での教育を安定的かつ十分に実施するためは、本学の学生としての学籍が必要であり、かつ前述の地域における高専本科卒業生の教育ニーズに応えるために、新たに編入定員を設定しプログラムを実施する。

また、本プログラムの学生には、大学と高専双方の教育上の特色を生かして**本学部の教員**

と９高専の教員が相互に緊密に連携した体制による指導を行うこと、また、本プログラムが、高専専攻科と本学部での学びを通じて、物質・材料工学または機械・電気電子工学分野に関する学際領域のより広範な専門知識・技能を身に付けた高度な技術者・研究者の育成を目指すものであり、**高専専攻科の学生のうちでも特に学修意欲が高く優秀な学生を対象としていること**から、**編入学定員を 20 名（９高専の専攻科入学定員 215 名の 10%程度）**とすることが妥当である。

なお、この特に優秀なトップ 10%程度の学生を本プログラムに参加させることにより専門性と学際性に秀でた新たなタイプの人材を育成することは、資料１のとおり９高専側からの強い意向を受けたものであり、高専側でも９高専全てにおいて２名以上のプログラム参加希望者がいることを見込んでいることから、編入学試験の実施に際しては、高専側から定員を満たすに十分な推薦を受け選抜を実施することで定員を充足させることは可能であると考える。

改組後の各学科における入学定員を表 1-2 に示す。

表 1-2　各学科の入学定員

学科	入学定員	編入学定員
電気情報工学科	153	－
材料工学科	53	－
応用化学科	72	－
化学工学科	38	－
融合基礎工学科	57	20
機械工学科	135	－
航空宇宙工学科	29	－
量子物理工学科	38	－
船舶海洋工学科	34	－
地球資源システム工学科	34	－
土木工学科	77	－
建築学科	58	－
合計	778	20

③　総合型選抜の導入及びレイトスペシャライゼーションに対応したVI群の入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

本学部では、今回の組織再編に合わせ、より多様な学生を受け入れることを目的として、従来の一般選抜の枠組みを維持しながら、次の２種類の入試改革を行う。

１）学力に加え、志望動機や学習の目標、学習以外の活動状況なども総合的に判断して選抜を行う総合型選抜（従来の AO 入試）を、航空宇宙工学科を除く全学科で導入する（募集人員は入学定員の約 5%）。

２）一般選抜（募集人員は入学定員の約 95%）において、学科単位ではなく、５つの学科群単位で入学志願を受け付けるとともに、専攻する学科を入学後に決定できるレイトスペシャライゼーションに対応した入試区分（VI群）を設ける（一般選抜の約 20%）。

（表 1-3、図 1-2、図 1-3 参照）

表 1-3　学科群の構成

学科群	学科
Ⅰ群	電気情報工学科
Ⅱ群	材料工学科・応用化学科・化学工学科・ 融合基礎工学科（物質材料コース）
Ⅲ群	融合基礎工学科（機械電気コース）・機械工学科・ 航空宇宙工学科・量子物理工学科
Ⅳ群	船舶海洋工学科・地球資源システム工学科・土木工学科
Ⅴ群	建築学科

※上記に加え、１年次に学科群が未定の群をⅥ群とする。

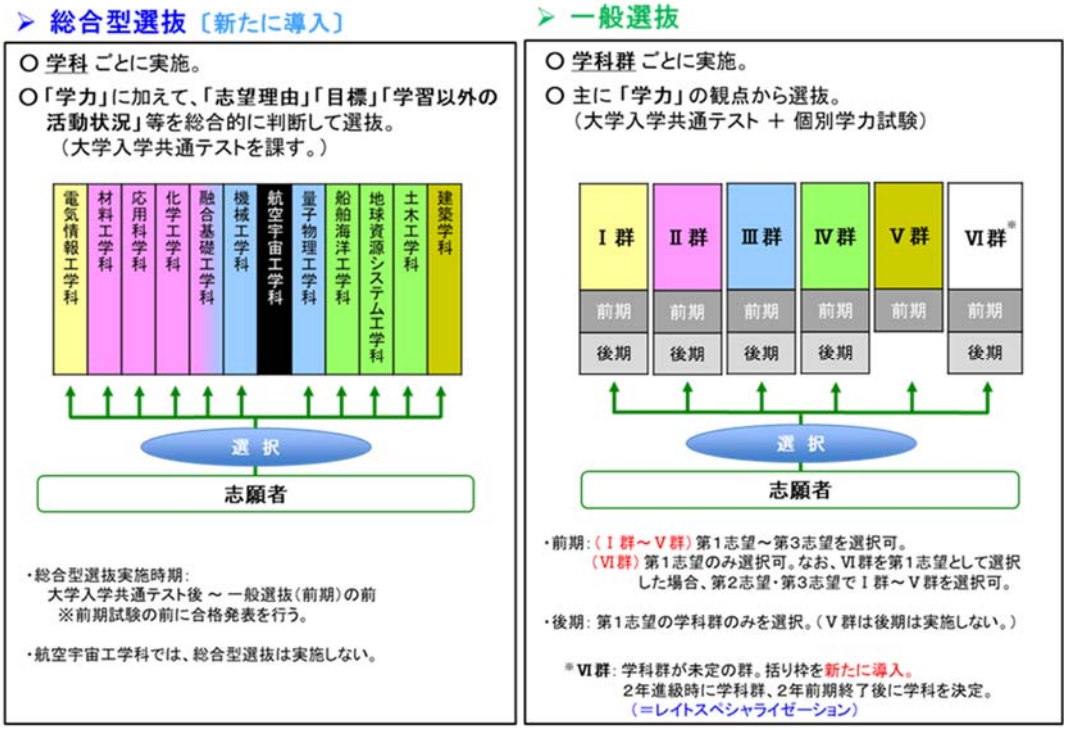


図 1-2　入学者選抜の概要

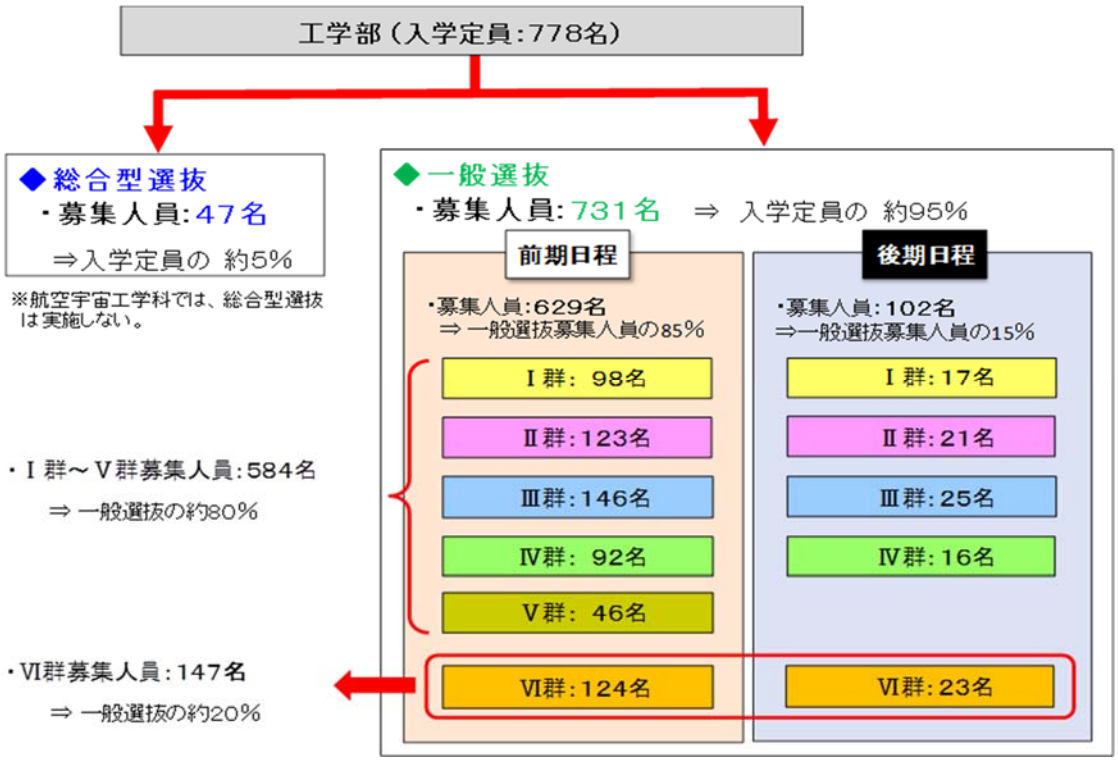


図 1-3　選抜区分ごとの募集人員

新たに導入する総合型選抜に関しては、47 名の小規模（全入学定員の約５％）であることに加え、前述①で述べたこれまでの志願者の実績から考えても、十分な入学希望者が確保できると考える。

専攻する学科を入学後に決定できるレイトスペシャライゼーションに対応するⅥ群については、本学部が定期的に開催している高校教員との意見交換会などを通じて、「工学分野は理学分野などと比べて高校生に馴染みが薄く、工学部進学を希望するものの志望学科を決めきれない生徒が一定数存在する」といった意見が寄せられ、レイトスペシャライゼーションの導入が期待されていたことを受けて、１年次のクラス編成と時間割などのカリキュラム編成、受験生の志願の動向に及ぼす影響など多様な観点から検討し、募集人員を一般選抜の２割に当たる 147 名とした。この学科群の導入と規模については、本学工学部への入学者数の実績が上位の高校 31 校へアンケートを行った結果（回答率 61%）、導入については 84.2%が賛成、募集人員を２割とすることについては 73.6%が賛成意見であった。こうした高校教育の現場の期待と規模に関する意見を総合すると、Ⅵ群の導入のメリットとその入学定員 147 名に対する入学希望者の確保は十分に見込めるものと判断する。（アンケート調査の詳細はイ②を参照。）

以上の学科群及び学科、入試区分毎の募集人員を表 1-4 に示す。

表 1-4　入試区分毎の募集人員

学科群	学科	一般選抜				総合型選抜	帰国子女入試(内数)	私費外国人留学生入試(内数)	国際コース入試(内数)	合計
		前期日程	内訳	後期日程	内訳					
Ⅰ	電気情報工学科	98	-	17	-	8	若干名	若干名	若干名	123
Ⅱ	材料工学科	123	34	21	6	3	若干名	若干名	-	43
	応用化学科		46		8	4	若干名	若干名	若干名	58
	化学工学科		25		4	2	若干名	若干名	-	31
	融合基礎工学科		18		3	2	若干名	若干名	-	46
Ⅲ		146	18	25	3	2	若干名	若干名		
	機械工学科		86		15	7	若干名	若干名	若干名	108
	航空宇宙工学科		18		3	0	若干名	若干名	若干名	21
	量子物理工学科		24		4	2	若干名	若干名	-	30
Ⅳ	船舶海洋工学科	92	21	16	3	5	若干名	若干名	-	29
	地球資源システム工学科		22		4	2	若干名	若干名	-	28
	土木工学科		49		9	4	若干名	若干名	若干名	62
Ⅴ	建築学科	46	-	0	-	6	若干名	若干名	-	52
Ⅵ	-	124	-	23	-	-	-	-	-	147
合計		629	-	102	-	47	若干名	若干名	若干名	778

※上記のほか、融合基礎工学科では定員を 20 名とする編入学試験を新たに実施する。
（令和 5 年 4 月編入入学者から実施）

イ．定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

前述①で述べたとおり、今回の学科編成及び定員設定の考え方を基にした過去５ヵ年の志願倍率の状況から、新たに導入する総合選抜を含め、改組後の学部及び各学科の入学定員の充足は十分に見込める。

以下では、特に高専連携教育プログラムの実施に当たり設定する９高専からの編入学定員 20 名の充足、及び一般選抜における入試区分Ⅵ群の入学定員 147 名の充足の根拠となる客観的なデータの概要等を示す。

①　高専との連携教育プログラム

本プログラムを開始するにあたり、本学部の教員と９高専の教員とが継続的に時間をかけて綿密な協議を重ね、カリキュラム構成や編入学試験の実施方法等を検討してきた。そして、本プログラム編入学選抜の出願資格は「９高専の専攻科が実施する所定の選抜試験に合格し、同専攻科への入学を確約した者のうち、**連携高等専門学校長の推薦**を受けた者」とす

ることに合意した。

また、本プログラムでは、本学が有する産学連携の実績及び最先端研究力と高専が有する優れた技術教育基盤を融合させることで、実践的な技術力と高い専門力を兼ね備えた尖った工学系人材を輩出することを目指している。このため、9高専からは**特に修学意欲が高く成績上位の優秀な学生２名以上**を各高専から本プログラムに推薦したいという強い意向を有していることを確認した。

本プログラムは、**本学部と高専とが密接に連携しながら実施**していくため、編入学定員（20名）を十分に確保することができる。

② 一般選抜における入試区分Ⅵ群

本学部では、高校から工学部への円滑な接続の実現を目指し、高校教員との定例的な意見交換会を10年以上にわたり開催してきた。様々な情報交換を行う中で高校側から「工学部出身の教員がいない高校がほとんどであり、工学という学問分野や、工学部を卒業した後のキャリアについて高校生に適切に指導できる教員がいない」、「高校生にとっても工学分野は他の分野に比べて馴染みが薄く、工学部進学にあたって志望学科を迷う高校生が一定数存在する」などの声が寄せられていた。このような背景のもと、専攻する学科を入学後に決定するレイトスペシャライゼーションの導入が期待される中、志望学科が明確な高校生にも配慮するため、学科群（Ⅰ～Ⅴ群）ごとの入学者選抜と学科群未定群（Ⅵ群）での入学者選抜を併用することとした。先の意見交換会において、工学部への進学志望は明確であるが志望学科までを絞りきれていない高校生が数名に1名程度はいるとのことであったため、１年次のクラス編成と時間割などのカリキュラム編成および受験生の志願の動向に及ぼす影響など多様な観点から総合的に判断してⅥ群の募集人員を一般選抜の2割（147名）とした。この学科群未定群の導入と規模について、本学工学部への入学者数の実績が上位の高校（31校）へ図1-4によるアンケート調査を行った。

回答用紙

＿＿＿＿＿＿＿＿高等学校

１．学科未定群としての入学者選抜の導入に賛成いただけますか。
　　賛成　・　反対

２．学科未定群としての入学者を、募集定員の約20%にすることが妥当と思われますか。
　　妥当　・　妥当でない

３．妥当と回答いただいた場合、その理由をお答えください。

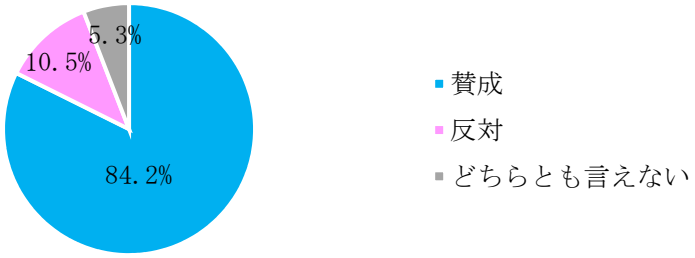
４．妥当でないと回答いただいた場合、どの程度の割合が妥当とお考えでしょうか。その理由とあわせてお教えください。

５．その他、九州大学工学部の入学者選抜について、ご意見があればお知らせください。

ご協力ありがとうございました。

図1-4　新たな募集区分（学科群未定群）の導入に関するアンケート

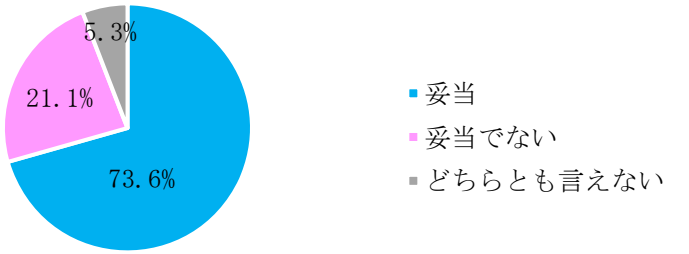
【質問１】学科未定群としての入学者選抜の導入について



➢ 主なコメント

賛成	・学科を受験時点で十分に決めている生徒ばかりではなく、明確な進路先（目標）を持っていない者がいる。 ・HP や大学の資料で学科について研究して入学しても、入ってみると自分の思っていたことと違っていたという生徒もいる。
反対	・九州大学を志望する高い学力を有した学生のレベルで専門を絞り切れていない学生を想定するのであれば、芸術工や経済工も含めての学科未定枠になることが望ましい。

【質問２】学科未定群の募集人員を 20%とすることについて



➢ 主なコメント

妥当	・目標を持って入学する生徒の方が多数だと考えるので、一部の生徒に配慮する形が良い。少なすぎると逆に敬遠されるので、20%は妥当。 ・5 人に 1 人程度の割合で、生徒が学科のイメージをつかめていない。 ・20%程度からはじめて将来的に拡大するのが良い。
妥当でない	・現状維持（0%）が良い。 ・最大限 15%程度で良い。 ・導入するなら大規模（50%以上）が良い。

図 1-5　新たな募集区分（学科群未定群）の導入に関するアンケート結果
＜回答率：61%＞

アンケートの結果では、導入については 84.2%が賛成、募集人員を２割とすることについては 73.6%が賛成の意見となっている。

ウ．学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金は 817,800 円（入学料 282,000 円、授業料年額 535,800 円）であり、「国立大学等の授業料その他費用に関する省令」第二条に定める標準額と同額に設定している。（高専との連携教育プログラムに参加する学生の学生納付金については、高専と調整中であり、令和３年度までに決定予定）

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学部では、入学者の確保に向け、高校生や高校教員を対象とした様々な取組を行っている。

① オープンキャンパス

本学では、毎年 8 月に高校生向けのオープンキャンパスを開催している。本学部でも学科ごとに趣向を凝らしたイベントを行っており、学科で行う教育・研究の紹介のみならず、実験体験や研究室の案内、在学生との懇談などを行い、本学部に入学した後のキャンパスライフを具体的にイメージしてもらえるよう工夫している。

また、オープンキャンパスにあわせて、高校教員と本学部教員による意見交換会を開催しており、高校生を本学部に誘導するために何をなすべきか等について議論してきた。なお、今回の改組に伴い入学時に学科群を決定しない新たな入学者選抜の枠組み（VI群）を設けるが、これは意見交換会において高校側から要請された事項でもある。

② 出前講義／ホームカミング講義

本学部への志願実績がある高等学校を中心に、毎年、全国の高校（104 校）へ出前講義及びホームカミング講義の案内を送付しており、本学部が提供する教育を高校生が直接体験する機会を提供している。

出前講義は本学部の教員を高校に派遣し模擬講義を行うもので、毎年約 40 校に派遣している。ホームカミング講義は本学部に在籍する学生を母校に派遣し本学部での学び等について講義を行うもので、毎年約 15 校に派遣している。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

九州大学工学部・大学院工学系学府は、日本の発展を牽引してきた「ものづくり」の中核を担う、専門性・学際性・国際性・先導性を合わせ持つ人材の育成を目指してきた。学部教育では、専門性の基盤となる基礎教育に注力するとともに、大括り学科の共通授業科目を開設することで、異なる専門分野を学ぶコース間の垣根を低くすることに努めてきた。また、学士課程国際コースを設置して留学生を積極的に受け入れながら、本学海外拠点をベースに日本人学生の海外派遣・研修事業も継続的に展開してきた。大学院教育では、専門分野の最先端技術を開発する人材の育成を目指す学府（工学府、システム情報科学府）を堅持する一方で、地球規模の環境・エネルギー問題の解決に向けた学際的研究教育を行う学府（総合理工学府）も設置することで、専門性と学際性の両方を極めることに挑んできた。さらに、

学部・大学院教育を通して、丁寧かつ厳格な研究指導を重視することで、日本の基幹大学の卒業生に期待される、自ら課題を発見して仮説を構築・検証する構想力、自らの力で新しい領域を切り開くチャレンジ精神、社会に対する責任感、先導力（リーダーシップ）を育むことにも注力してきた。こうした教育努力の成果は、本学に対する企業関係者の高い評価によって挙証されている（日経 HR、2019 年）。

しかし、近年の人類社会が直面する諸課題の深刻さ、それを打開する工学系人材への社会からの期待の大きさに鑑み、本学の工学教育も、専門性・学際性・国際性・先導性をより先鋭かつ体系的に追求する方向で改革に取り組むことが急務と言える。一つの技術にも様々な専門分野の考え方や技術を要するため専門分野の枠の拡大が求められる一方、より高度な専門的知識の獲得も必要である。こうした認識から、2021 年 4 月に学部・学科及び学府・専攻の再編を断行し、学部から大学院修士課程まで、連続性に配慮した学士・修士６年一貫型教育を実現する。専攻・学科の再編によって実現されるシームレスな６年一貫型教育課程を通して、専門性・学際性・国際性・先導性をより先鋭的かつ体系的に追求し、「工学のプロフェッショナルとして人類社会の課題解決に貢献できる」人材を養成する。工学のプロフェッショナルには、社会における工学の価値について理解し、異分野の他者と協働しながら、工学分野共通の知識・能力・ものの考え方、及び専攻する専門分野の知識・能力・ものの考え方を基礎に、自ら考え行動し、新しい価値を創造していくことが求められている。

（２）社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

工学は、体系化された専門分野（機械工学、電気電子工学、土木工学、材料工学、化学工学、応用化学、資源工学、航空宇宙工学、船舶海洋工学、原子力工学、建築学などのディシプリン）を確固とした基盤としながら、総合科学として、工学諸分野はもとより、理学及び人文社会科学の境界を越え、人類社会が直面する諸課題に向き合い、複合的な境界条件の下での最適解を先見性をもって見出し、人類の暮らしをより豊かにすることに不断に挑んできた。

しかし、地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題、エネルギー問題、食糧問題、少子高齢化問題など、我々はこれまでに経験したことのない深刻な危機に直面している。また、科学技術の急速な進展によって、既存の職種の多くがロボットや AI に取って代わられ、産業構造が激変する予測困難な時代が到来しようとしている。これらの危機を直視し、科学技術のさらなる進展を通して課題解決を目指していくためには、従来型の「帰納的プロセスに基づく真理の探究」に重点を置く科学技術・知的生産の基本構造から脱却し、「構成的仮説演繹プロセスに基づく価値の創造に対する研究・開発の推進」が不可欠とされている。そして、こうした人文社会科学・自然科学・技術の世界的なパラダイムシフトを我が国が早急かつ円滑に達成するための重要な鍵の一つが、優れた工学系人材の育成である。

本学での改組の検討開始とほぼ同時期に、文部科学省では「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」を設置し、工学教育の在り方について議論を進め、次の審議結果を公表している。本学工学部・工学系学府の改組構想は、そこで審議された重要項目について示された考え方と概ね一致している（表 2-1）。

・工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系教育の在り方について

（中間まとめ)」（2017 年 6 月）
・工学系教育改革制度設計等に関する懇談会「工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめ」（2018 年 3 月）

また、中央教育審議会における高等教育に関する審議について、次の審議結果として公表されている事項の趣旨を踏まえて検討したものでもある。

・中央教育審議会『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申)』（2018 年 11 月）
・中央教育審議会大学分科会『2040 年を見据えた大学院教育の在るべき姿～社会を扇動する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ)』（2019 年 1 月）
・中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会『教学マネジメント指針（案)』（2019 年 11 月）（大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会、2017 年）

さらに、高専との連携教育プログラムは、未来投資戦略 2018（平成 30 年 6 月 15 日閣議決定）を踏まえて策定された「高等専門学校の専攻科及び大学における連携教育プログラムに関する実施方針」（平成 30 年 12 月 14 日文部科学書高等教育局専門教育課）に基づき、本学部と九州沖縄地区の 9 高専とが連携しながら設計したものである。本プログラムに対しては九州各県の地域産業界からも強い期待が寄せられており、本プログラムで育成された「高度な工学的専門性に加え情報科学を活用できる実践的創造的な技術力を有した工学系人材」が、地域産業の発展に貢献し地域活性化に寄与することが切に望まれている（資料２)。

表 2-1　「大学における工学系教育改革の在り方について（中間まとめ)」
に対する九州大学工学部・工学系学府の対応

大学における工学計教育の在り方について(中間まとめ)～具体的施策～	施策に対する認識	現状分析	課題	対応方針
① 学科ごとの縦割り構造の抜本的見直し	時代とともに変わる教育ニーズに柔軟に対応できるシステムづくりが目的。最終とりまとめ(2018 年 3 月)において、学科・専攻定員設定の柔軟化と学位プログラムの積極的導入と記載。	工学では、各分野の基礎知識のみならず、専門分野の礎となる物事の捉え方、考え方を身に付けることが学部レベルでは最も重要である。長年、企業が工学系の採用を専門分野ごとに行っており、今後も変更される予定がない点からも重要であると言える。		学生が自身の専門分野の基礎を築きアイデンティティを確立するとともに、社会からも可視化できるような学科構成を基本とする一方、専門分野に加えて、学際的な要素を導入した学科も設置する。また、レイトスペシャライゼーションの導入、学科群制の導入、全学科共通必修科目の導入などを行い、学生の視野をできるだけ拡げるシステムを構築する。
② 学士・修士の6年一貫制など教育年限の柔軟化	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。	本学をはじめ我が国の基幹大学工学部卒業生の約 85%が大学院修士課程に進学しており、企業から本学への技術系人材の求人も大学院生が大部分である。	既に 6 年間の工学教育が一般的になっていることを考慮すると、工学教育を最初から 6 年間で設計した方が、今後、さらに必要となってくる多様な知識と能力を身につけた人材の育成が行いやすい。	6 年間の工学教育を実現するため、現在の学科・専攻の構成やカリキュラムの見直しを行う。なお、学部卒業後に企業へ就職する者、あるいは 5 年一貫の大学院へ進学する者など、多様なキャリアパスそれぞれの人材像を考慮したカリキュラムとする。
③ 主たる専門に加えた副専門分野の修得	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。自分と専門を異にする者との協働がますます重要になってくる中で、自分の狭い専門分野の枠を超えて視野を拡げ、他分野の者と意思の疎通ができるようになることを目的としたもの。	工学部では、学科配属後の専攻教育において、専門外の科目を履修するカリキュラムにはなっていない。大学院においては、システム情報科学府及び総合理工学府の修士課程では専門外科目の履修が求められているが、工学府では求められていない。	自身の専門とは異なる分野の物事の捉え方や考え方を知ること、そして、自分の分野との違いを感じることは極めて重要である。ただし、限られた時間の中で専門分野の確立と分野外の学びの両方を行うためには、分野外の学びの割合と時期を慎重に考えてカリキュラムを設計する必要がある。	学部教育では、専門分野を越えて、工学系人材として必要な広い知識をすべての工学部生が学ぶとともに、専門分野に近い科目も幅広く学ぶカリキュラムを導入する。また、学部から大学院修士課程の 6 年間のうちに専門外の学びも必ず行うカリキュラムとする。
④ 工学基礎教育の強化	工学教育の考え方そのものに対して点検を促すもの。	学科ごとに必修科目を設定しているので、工学部全体の共通基礎教育を行っているわけではない。	専門分野だけに特化するのではなく、工学系人材に求められる基礎的な知識や考え方を学ぶ科目を精査し、すべての学科で共通化する必要がある。	工学系エンジニアあるいは研究者として備えておくべき知識や考え方を学ぶ科目を、工学部共通科目として全学科必修とするカリキュラムを構築する。
⑤ 情報科学技術の工学共通基礎教育化と先端情報人材教育強化	ビッグデータ解析、IoT、AI などの急速な進歩によって情報科学と様々な工学分野の融合技術の創出が重要となっているにもかかわらず、我が国ではそれを担う人材が質的にも量的にも全く不足しているという産業界の大きな危惧から発せられたもの。	工学部全体では、現在はプログラミングを中心とした情報教育のみを行っている。	工学系のどの分野でも、将来、データを活用した研究開発ができるようになるため、最低限のデータサイエンスの基礎教育を行うとともに、実際の経験を積める環境を整える必要がある。	情報科学技術の基礎教育科目をすべての学科で工学部必修科目として導入するとともに、専攻教育でも、各学科に特化したデータサイエンス科目を取り入れる。 また、現在の学問分野の枠組みの中で、従来よりデータを活用できる人材を育成するため融合基礎工学科を新設する。 さらに、電気情報工学科および情報理工学専攻で AI、数理データサイエンス分野の専門家(エキスパート人材)の養成を強化する。
⑥ 産学共同教育体制の構築	既に大学院リーディングプログラムや卓越大学院プログラムでも重視されているとおり、大学・産業界の人材交流、産学連携協働プログラムの開発・提供、教育的効果の高いインターンシップ等の促進の重要性を指摘したもの。	工学部および工学系学府では、ものづくりの現場の情報が極めて重要であるため、各学科、専攻で、従来から多数の非常勤講師を企業から招いてきた。また、リーディング大学院では PBL や少人数教育にも企業から多くの教員の協力をいただいている。さらに、工学部でも民間企業の協力のもと、既に「実践データ分析入門」を開講するなど産学共同教育体制を築いてきた。		今後も企業との協力体制を維持するとともに、段階的に協力を強化していく。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｸﾎﾞ　ﾁﾊﾙ 久保　千春 ＜平成26年10月＞		医学博士		九州大学学長 （平26.10～令和2.9）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教員の氏名等

（工学部　電気情報工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱﾗｶﾜ ﾕﾀｶ 荒川 豊 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB オペレーティングシステムⅠ オペレーティングシステムⅡ 分散システムⅠ 分散システムⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成21年3月）	5日
2	専	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上 浩 〈令和3年4月〉		博士（工学）		数学演習B 電気情報工学入門 工学概論※ ディジタル電子回路Ⅰ ディジタル電子回路Ⅱ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	2前①～② 1前① 2前①～② 2後③・3前① 2後④・3前② 2後③ 2後④ 4通	1 1 0.1 1 1 0.5 0.5 8	1 1 2 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	5日
3	専	教授	ｲﾀｶﾞｷ(ﾌｸﾀﾞ) ﾅﾎ 板垣(福田) 奈穂 〈令和3年4月〉		博士（理学）		電気情報工学入門 電気情報数学Ⅰ 電気情報数学Ⅱ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 1 1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成22年3月）	5日
4	専	教授	ｲﾉｳｴ ｺｳｼﾞ 井上 弘士 〈令和3年4月〉		博士（工学）		コンピュータアーキテクチャⅠ 電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 集積回路工学通論Ⅰ 集積回路工学通論Ⅱ コンピュータアーキテクチャⅡ コンピュータアーキテクチャⅢ 電気情報工学卒業研究	2前② 1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 2後③ 2後④ 4通	2 1 0.1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年9月）	5日
5	専	教授	ｲﾜｸﾏ ﾏｻﾀｶ 岩熊 成卓 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 基礎エネルギー変換機器学Ⅰ 基礎エネルギー変換機器学Ⅱ エネルギー変換機器工学Ⅰ エネルギー変換機器工学Ⅱ 超伝導基礎論Ⅰ 超伝導基礎論Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和60年4月）	5日
6	専	教授	ｳﾁﾀﾞ ｾｲｲﾁ 内田 誠一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		データサイエンス序論 電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB パターン認識Ⅰ パターン認識Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1後③～④ 1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	4 1 0.1 0.5 0.5 1 1 8	2 1 2 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	5日
7	専	教授	ｳﾊﾞﾔｼ ﾅｵﾔｽ 鵜林 尚靖 〈令和3年4月〉		博士（学術）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB コンパイラⅠ コンパイラⅡ ソフトウエア工学Ⅰ ソフトウエア工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成22年3月）	5日
8	専	教授	ｴﾋﾞﾊﾗ ﾖｼｵ 蛯原 義雄 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 制御工学AⅠ 制御工学AⅡ 回路理論Ⅲ 回路理論Ⅳ 制御工学AⅢ 制御工学AⅣ システム工学Ⅰ システム工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2・3後③ 2・3後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成1年2月）	5日
9	専	教授	ｵｷ ﾕｳｼﾞ 興 雄司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習 電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB プログラミング演習Ⅱ 光エレクトロニクスⅠ 光エレクトロニクスⅡ 電気情報工学卒業研究	1後③・④ 1後③・④ 1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 2後③ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 1 0.1 0.5 0.5 2 1 1 8	1 1 1 2 1 1 2 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	5日
10	専	教授	ｶﾄｳ ｶｽﾞﾄｼ 加藤 和利 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電子物性Ⅰ 電子物性Ⅱ 電磁波工学Ⅰ 電磁波工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
11	専	教授	ｶﾅﾔ ﾊﾙｲﾁ 金谷 晴一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 回路理論Ⅰ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB アナログ電子回路Ⅰ アナログ電子回路Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 2 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	5日
12	専	教授	ｶﾜｻｷ ﾋﾛｼ 川崎 洋 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 データ構造とアルゴリズムⅠ データ構造とアルゴリズムⅡ 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB アルゴリズム論Ⅰ アルゴリズム論Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2前② 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 1 1 0.2 0.5 1 1 1 8	1 2 1 2 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成29年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	専	教授	ｶﾜﾍﾞ ﾀｹﾄｼ 川邊 武俊 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 制御工学AⅠ 制御工学AⅡ	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 2・3後③ 2・3後④	1 0.1 0.5 0.5 1 1	1 2 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	5日
14	専	教授	ｷｽ ﾀｶﾉﾌﾞ 木須 隆暢 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ 計測工学BⅠ 計測工学BⅡ 計測工学AⅠ 計測工学AⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3前① 3前② 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成3年4月）	5日
15	専	教授	ｷﾑﾗ ｼｭﾝｼﾞ 木村 俊二 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学倫理 電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 集積回路工学Ⅰ 集積回路工学Ⅱ 電子デバイスⅠ 電子デバイスⅡ 電気情報工学卒業研究	1前② 1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3後③ 3後④ 4通	1 1 0.1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （令和1年7月）	5日
16	専	教授	ｸﾗﾌﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪 亮 〈令和3年4月〉		博士（工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B 電気情報工学入門 電気情報数学Ⅰ 電気情報数学Ⅱ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④ 1前① 2前① 2前② 2後③ 2後④ 4通	1 1 1 1 1 1 0.5 0.5 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	5日
17	専	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑 一憲 〈令和3年4月〉		博士（理学）		数学演習B 電気情報工学入門 電気情報数学Ⅰ 電気情報数学Ⅱ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 量子力学応用Ⅰ 電気情報工学卒業研究	2前①～② 1前① 2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前① 4通	1 1 1 1 0.5 0.5 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	4日
18	専	教授	ｻｸﾗｲ ｺｳｲﾁ 櫻井 幸一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 形式言語とオートマトンⅠ 形式言語とオートマトンⅡ データベースⅠ データベースⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成6年3月）	5日
19	専	教授	ｼﾄﾞｳｼﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 志堂寺 和則 〈令和3年4月〉		博士（文学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成8年4月）	5日
20	専	教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田 敬士 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB プログラミング論 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2前① 4通	1 0.5 0.5 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成19年4月）	5日
21	専	教授	ｼｮｳﾔﾏ ﾏｻﾋﾄ 庄山 正仁 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB アナログ電子回路Ⅲ アナログ電子回路Ⅳ	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④	1 0.1 0.5 0.5 1 1	1 2 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和61年4月）	5日
22	専	教授	ｼﾗﾀﾆ ﾏｻﾊﾙ 白谷 正治 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電磁気学Ⅰ プラズマ工学Ⅰ プラズマ工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2後③ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和63年4月）	5日
23	専	教授	ｽｴﾋﾛ ｼﾞｭﾝﾔ 末廣 純也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電磁気学Ⅱ エネルギー基礎論Ⅰ エネルギー基礎論Ⅱ 電力輸送工学Ⅰ 電力輸送工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.2 0.5 0.5 2 1 1 1 1 8	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和63年4月）	5日
24	専	教授	ﾁｮｳ ｹﾝｸﾞﾝ 趙 建軍 〈令和3年4月〉		博士(情報科学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB プログラミング言語論Ⅰ プログラミング言語論Ⅱ 技術表現法Ⅰ 技術表現法Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成28年4月）	5日
25	専	教授	ﾄﾐｳﾗ ﾖｳｲﾁ 冨浦 洋一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 離散数学Ⅰ 離散数学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成1年4月）	5日
26	専	教授	ﾊﾔｼ ｹﾝｼ 林 健司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 ディジタル電子回路Ⅰ ディジタル電子回路Ⅱ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電子物性Ⅰ 電子物性Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③・3前① 2後④・3前② 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 4通	1 1 1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成10年4月）	5日
27	専	教授	ﾋﾛｶﾜ ﾏｻｵ 廣川 真男 〈令和3年4月〉		博士(理学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成30年12月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
28	専	教授	ﾎﾟｶﾚﾙ ﾗﾒｼｭ ｸﾏｰﾙ POKHAREL RAMESH KUMAR 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB アナログ電子回路Ⅰ アナログ電子回路Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	5日
29	専	教授	ﾑﾗﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁ 村田 純一 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 制御工学BⅠ 制御工学BⅡ システム工学Ⅰ システム工学Ⅱ	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3後③ 3後④	1 0.5 0.5 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和61年4月）	5日
30	専	教授	ﾓﾘ ｼｭｳｼﾞ 森 周司 〈令和3年4月〉		Ph.D in Psychology （ｶﾅﾀﾞ）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB データ解析と実験計画法Ⅰ データ解析と実験計画法Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成18年4月）	5日
31	専	教授	ﾕｱｻ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 〈令和3年4月〉		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A 電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学実習 電磁気学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前② 1後③ 1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前①～② 2後④ 4通	2 1 1 0.2 0.5 0.5 2 2 8	2 1 1 2 1 1 2 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	5日
32	専	教授	ﾖｺｵ ﾏｺﾄ 横尾 真 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 データ構造とアルゴリズムⅠ データ構造とアルゴリズムⅡ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB データ構造とアルゴリズムⅢ データ構造とアルゴリズムⅣ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 1 1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
33	専	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾀｶｼ 吉田 敬 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB アナログ電子回路Ⅲ アナログ電子回路Ⅳ 電磁気学Ⅰ パワーエレクトロニクスⅠ パワーエレクトロニクスⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 2後③ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
34	専	教授	ﾖｼﾄﾐ ｸﾆｱｷ 吉富 邦明 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （昭和56年4月）	5日
35	専	准教授	ｱﾊﾒｯﾄﾞ ｱｼﾙ AHMED ASHIR 〈令和3年4月〉		博士（情報科学）		電気情報工学入門 コンピュータアーキテクチャⅠ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2後③ 2後④ 4通	1 2 0.5 0.5 8	1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
36	専	准教授	ヴァスコンセロス ヴァルガス ダニロ VASCONCELLOS VARGAS DANILO 〈令和3年4月〉		博士（学術）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 情報論理学Ⅰ 情報論理学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2前① 2前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成28年10月）	5日
37	専	准教授	ｵﾉ ﾀｶﾂｸﾞ 小野 貴継 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 回路理論Ⅱ 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 通信ネットワークⅠ 通信ネットワークⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 2 0.1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成27年4月）	5日
38	専	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ ﾀｹｼ 小野寺 武 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気電子材料Ⅰ 電気電子材料Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	5日
39	専	准教授	ｶﾒｲ ﾔｽﾀｶ 亀井 靖高 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 プログラミング演習Ⅰ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 基礎PBL Ⅰ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2後③ 2後④ 2後③～④ 4通	1 1 0.5 0.5 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
40	専	准教授	ｷｼﾞﾏ ｼｭｳｼﾞ 来嶋 秀治 〈令和3年4月〉		博士（情報理工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 数理計画法Ⅰ 数理計画法Ⅱ データ構造とアルゴリズム演習 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 2後③～④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日
41	専	准教授	ｻｻﾔﾏ ﾃﾙﾖｼ 笹山 瑛由 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気電子工学設計Ⅰ 電気電子工学設計Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4前① 4前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
42	専	准教授	ｻﾄﾞｳ ﾀｲｿﾞｳ 佐道 泰造 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 半導体の性質 トランジスタ基礎論 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成7年4月）	5日
43	専	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松 豊 〈令和3年4月〉		博士(工学)		基幹教育セミナー 電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 情報理論Ⅰ 情報理論Ⅱ 信号とシステムⅠ 信号とシステムⅡ 電気情報工学卒業研究	1前② 1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 2後③ 2後④ 4通	2 1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	5日
44	専	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川 良 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※ 電気情報工学実験Ⅰ	2前①～② 3前①～②	0.1 2	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
45	専	准教授	ﾀﾃ ﾅｵﾔ 竪 直也 〈令和3年4月〉		博士（情報科学）		電気情報工学入門 論理回路 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 量子力学応用Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2後③ 2後④ 3前② 4通	1 2 0.5 0.5 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年10月）	5日
46	専	准教授	ﾀﾅｶ ﾃﾙﾐﾂ 田中 輝光 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 回路理論Ⅰ 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2前①～② 2後③ 2後④ 4通	1 2 0.1 0.5 0.5 8	1 1 2 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成20年9月）	5日
47	専	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基幹教育セミナー 電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気エネルギー工学通論Ⅰ 電気エネルギー工学通論Ⅱ 高電圧・パルスパワー工学Ⅰ 高電圧・パルスパワー工学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前② 1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3後③ 3後④ 4通	2 1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日
48	専	准教授	ﾅｶﾑﾗ ﾀﾞｲｽｹ 中村 大輔 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 回路理論Ⅲ 回路理論Ⅳ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成18年7月）	5日
49	専	准教授	ﾋｶﾞｼｶﾜ ｺｳﾍｲ 東川 甲平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 計測工学AⅢ 計測工学AⅣ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成24年8月）	5日
50	専	准教授	ﾋｻｽﾞﾐ ｹﾝｼﾞ 久住 憲嗣 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 コンピュータアーキテクチャⅠ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB コンピュータシステムⅠ コンピュータシステムⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 2 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日
51	専	准教授	ﾋﾞｾ ﾘｮｳﾏ 備瀬 竜馬 〈令和3年4月〉		博士（学際情報学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学実験Ⅲ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③～④ 4通	1 0.5 0.5 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年4月）	5日
52	専	准教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾕｳｽｹ 松永 裕介 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 論理回路 プログラミング演習Ⅰ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 基礎PBLⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前①～② 4通	1 2 1 0.5 0.5 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	5日
53	専	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯 恒憲 〈令和3年4月〉		博士（工学）		プログラミング演習 電気情報工学入門 プログラミング論 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学実験Ⅲ 電気情報工学卒業研究	1前②・後④・2前①・② 1前① 2前① 2後③ 2後④ 3後③～④ 4通	1 1 2 0.5 0.5 2 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	5日
54	専	准教授	ﾔﾀﾍﾞ ﾙｲ 矢田部 塁 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
55	専	准教授	ﾔﾏｳﾁ(ｷｼﾞﾏ) ﾕｷｺ 山内(来嶋) 由紀子 〈令和3年4月〉		博士（情報科学）		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 確率統計Ⅰ 確率統計Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	1 0.1 0.5 0.5 1 1 8	1 2 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
56	専	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｵﾙ 山本 薫 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB プログラミング演習Ⅲ 制御工学BⅠ 制御工学BⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 2 1 1 8	1 1 1 2 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成30年8月）	5日
57	専	助教	ｲﾅﾊﾞ ﾏｻﾌﾐ 稲葉 優文 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学実験Ⅱ	3後③～④	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成31年2月）	5日
58	専	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝 晋礼 〈令和3年4月〉		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論 電気情報工学基礎実験	1前① 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	5日
59	専	助教	ｸﾛｶﾜ ﾕｳｲﾁﾛｳ 黒川 雄一郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学実験Ⅱ	3後③～④	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
60	専	助教	ﾊﾔｼ ﾋﾃﾞｱｷ 早志 英朗 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学実験Ⅰ 電気情報工学実験Ⅱ	3前①～② 3後③～④	2 2	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
61	専	助教	ﾋﾛｾ ﾉﾌﾞﾕｷ 廣瀬 信之 〈令和3年4月〉		博士（文学）		電気情報工学実験Ⅰ 電気情報工学実験Ⅱ	3前①～② 3後③～④	2 2	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成21年8月）	5日
62	専	助教	ﾐﾔｳﾁ(ﾅｶｼﾏ) ｼｮｳｺ 宮内(中島) 翔子 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学基礎実験	2後③～④	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年4月）	5日
63	専	助教	ﾖｼｵｶ ﾋﾛｱｷ 吉岡 宏晃 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学実験Ⅰ	3前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年4月）	5日
64	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
65	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
66	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
67	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成28年3月）	
68	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ﾁﾊﾔ 安達　千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
69	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ﾄﾞｲﾂ語ⅠA ﾄﾞｲﾂ語ⅠB ﾄﾞｲﾂ語ⅡA ﾄﾞｲﾂ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
70	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①･②･後③･④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
71	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井　文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
72	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①･②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
73	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③･④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
74	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ　ｼﾞｭﾝ 安東　潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
75	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
76	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
77	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
78	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原　達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
79	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②･後③～④･ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
80	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
81	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ　ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
82	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
83	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
84	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
85	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
86	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
87	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ　ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 〈令和3年4月〉		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習 電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1後③・④ 1後③・④ 1前① 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 1 0.5 0.5 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成3年4月）	
88	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
89	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
90	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
91	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳｾﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
92	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
93	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
94	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
95	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
96	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
97	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
98	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
99	兼担	教授	ｵｶｶﾞ　ﾖｼﾋﾛ 岡田　義広 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学附属図書館 付設教材開発センター 教授 （平成11年1月）	
100	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習 電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB サイバーセキュリティⅠ サイバーセキュリティⅡ 通信工学通論Ⅰ 通信工学通論Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前② 1後④ 1前①～② 1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3後③ 3後④ 4通	2 2 1 1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 （平成10年3月）	
101	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
102	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学I 有機物質化学II	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
103	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
104	兼担	教授	ｵﾁｱｲ　ﾋﾛﾕｷ 落合 啓之 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		常微分方程式とラプラス変換 複素関数論	2後③～④ 3前①～②	2 2	1 1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成21年10月）	
105	兼担	教授	ｵﾉ　ｹﾝｼﾞ 小野 謙二 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 （平成28年4月）	
106	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
107	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ)		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生センター 教授 （平成18年4月）	
108	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
109	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
110	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
111	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
112	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
113	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
114	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
115	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
116	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
117	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
118	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
119	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
120	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
121	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
122	兼担	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
123	兼担	教授	ｸﾎﾞ　ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
124	兼担	教授	ｸﾏﾉ　ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
125	兼担	教授	ｸﾒ　ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
126	兼担	教授	ｸﾜﾉ　ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
127	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①･②･後③･④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
128	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ　ﾋﾛｼ 小出　洋 〈令和3年4月〉		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習 電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB コンピュータシステム通論Ⅰ コンピュータシステム通論Ⅱ 通信工学通論Ⅰ 通信工学通論Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 1前①～② 1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 3後③ 3後④ 4通	1 1 1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 （平成29年4月）	
129	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
130	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②･後③～④ ･2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
131	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
132	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
133	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 キャンパス計画室 教授 （平成5年4月）	
134	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
135	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①･② 3前①･②	2 2	2 2	九州大学 アドミッションセンター 教授 （平成29年1月）	
136	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
137	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
138	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠﨑　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業･企業【隔年】	3前①･②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
139	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
140	兼担	教授	ｼﾗｲ ﾄﾓﾕｷ 白井 朋之 〈令和3年4月〉		博士（数理科学）		常微分方程式とラプラス変換 応用確率論	2後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成16年4月）	
141	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
142	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
143	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ｴｲﾉｼﾝ 鈴木 英之進 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成18年4月）	
144	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
145	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
146	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
147	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
148	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 高須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
149	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
150	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
151	兼担	教授	ﾀｷﾓﾄ ｴｲｼﾞ 瀧本 英二 ＜令和3年4月＞		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成20年4月）	
152	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ ｼﾞｭﾝｲﾁ 竹内 純一 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		電気情報工学入門 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 情報理論Ⅰ 情報理論Ⅱ 信号とシステムⅠ 信号とシステムⅡ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 2後③ 2後④ 4通	1 0.1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成18年4月）	
153	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
154	兼担	教授	ﾀｹﾀﾞ ﾏｻﾕｷ 竹田 正幸 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成1年4月）	
155	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
156	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
157	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学I 基礎化学熱力学II	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
158	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy (ｱﾒﾘｶ)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
159	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
160	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
161	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
162	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
163	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 （昭63年4月）	
164	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
165	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
166	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
167	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
168	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
169	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
170	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究センター 教授 （平成28年4月）	
171	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
172	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
173	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
174	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
175	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
176	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
177	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
178	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学・男性学Ⅰ 女性学・男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
179	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
180	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
181	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濵瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③・④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
182	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
183	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
184	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
185	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生センター 教授 （平成26年8月）	
186	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
187	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
188	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
189	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
190	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		グリーンケミストリー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論II	2後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
191	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
192	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
193	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
194	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
195	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
196	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
197	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
198	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
199	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
200	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
201	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
202	兼担	教授	ﾐｳﾗ ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学I 有機物質化学II	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
203	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
204	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
205	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ﾖｼﾋﾛ 溝口 佳寛 〈令和3年4月〉		博士(理学)		複素関数論	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成12年10月）	
206	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
207	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
208	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮﨑　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
209	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
210	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学I 無機物質化学II	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
211	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
212	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
213	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
214	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
215	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
216	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
217	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
218	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
219	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
220	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
221	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
222	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
223	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
224	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
225	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
226	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 （TESOL学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
227	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
228	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
229	兼担	准教授	ｱﾏﾉ ﾋﾛﾌﾐ 天野 浩文 〈令和3年4月〉		工学博士		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB コンピュータシステムⅢ コンピュータシステムⅣ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 准教授 （平成3年4月）	
230	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
231	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③・④ 3前①・②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
232	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1前② 1前①・後③ 2後③・④ 2前①・②	2 4 2 2	1 2 2 2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
233	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾀﾞｲｽｹ 池田 大輔 〈令和3年4月〉		博士(理学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成9年4月）	
234	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
235	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
236	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ) 祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
237	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
238	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
239	兼担	准教授	ｲﾄｳ ｴｲｽｹ 伊東 栄典 〈令和3年4月〉		博士（情報科学）		電気情報工学入門 プログラミング演習Ⅰ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 人工知能Ⅰ 人工知能Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2後③ 2後④ 3後③ 3後④ 4通	1 1 0.5 0.5 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 准教授 （平成9年4月）	
240	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
241	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端） 柴緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
242	兼担	准教授	ｲﾈﾅｶﾞ ｼｭﾝｽｹ 稲永 俊介 〈令和3年4月〉		博士(理学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
243	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
244	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤) 直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
245	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
246	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
247	兼担	准教授	ｳｼｼﾞﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
248	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
249	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
250	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
251	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生センター 准教授 （平成16年11月）	
252	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis (ｲｷﾞﾘｽ)		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
253	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
254	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
255	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
256	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
257	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｸ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
258	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
259	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
260	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (ｲｷﾞﾘｽ)		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
261	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
262	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
263	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓﾁﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
264	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
265	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
266	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
267	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①･② 2前①･② 2後③･④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
268	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 サイバーセキュリティセンター 准教授 （平成26年4月）	
269	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
270	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
271	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2 前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
272	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｸｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①･② 2前①･②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
273	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
274	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
275	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
276	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
277	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
278	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
279	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
280	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 蔵田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
281	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
282	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
283	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
284	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
285	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
286	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
287	兼担	准教授	ｻｲｺﾞｳ ﾋﾛﾄ 西郷　浩人 ＜令和3年4月＞		博士(情報学)		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 4通	1 0.5 0.5 8	1 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
288	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
289	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
290	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses : Intermediate 2A Kanji Courses : Intermediate 2B Kanji Courses : Pre-Advanced A Kanji Courses : Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生センター 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
291	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生センター 准教授 （平成28年8月）	
292	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
293	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
294	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
295	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
296	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
297	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
298	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
299	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
300	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽・音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
301	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
302	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
303	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
304	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
305	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
306	兼担	准教授	ﾀｲ ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
307	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
308	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
309	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
310	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
311	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
312	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
313	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
314	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
315	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中　太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
316	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
317	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
318	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
319	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
320	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
321	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
322	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
323	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学I 無機物質化学II	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
324	兼担	准教授	ﾄﾐﾔｽ ﾘｮｳｺ 富安 亮子 〈令和3年4月〉		博士（数理科学）		複素関数論	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成31年1月）	
325	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
326	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
327	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
328	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
329	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
330	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
331	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
332	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
333	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井） 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
334	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
335	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｷﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
336	兼担	准教授	ﾊﾞﾝﾅｲ ﾋﾃﾞｵ 坂内 英夫 〈令和3年4月〉		博士(情報理工学)		論理回路	2前①	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
337	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
338	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
339	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
340	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
341	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産･食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
342	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
343	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④･2前①～② 2後③･④	4 2	2 2	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成28年4月）	
344	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
345	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
346	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
347	兼担	准教授	ﾎﾘ ﾏｲﾔ 堀　磨伊也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 回路理論Ⅱ 工学概論※ 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB 電気情報工学卒業研究	1前① 2前② 2前①～② 2後③ 2後④ 4通	1 2 0.1 0.5 0.5 8	1 1 2 1 1 1	九州大学 エネルギー研究教育機構 准教授 （平成29年10月）	
348	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
349	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
350	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
351	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
352	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
353	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学･精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 准教授 （平成23年10月）	
354	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
355	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③･④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
356	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①･②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
357	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
358	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
359	兼担	准教授	ﾑﾀ ｵｻﾑ 牟田 修 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気情報工学入門 電気情報工学セミナーA 電気情報工学セミナーB ディジタル信号処理Ⅰ ディジタル信号処理Ⅱ 通信方式Ⅰ 通信方式Ⅱ 電気情報工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	1 0.5 0.5 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 日本エジプト科学技術連携センター 准教授 （平成22年8月）	
360	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
361	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
362	兼担	准教授	ﾓﾛｵｶ ｹﾝｲﾁ 諸岡 健一 〈令和3年4月〉		博士(工学)		ディジタル信号処理Ⅰ ディジタル信号処理Ⅱ 基礎PBLⅡ	3前① 3前② 3前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成18年2月）	
363	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③･④ 2後③･④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
364	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
365	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
366	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 アドミッションセンター 准教授 （平成28年3月）	
367	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
368	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
369	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
370	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
371	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
372	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ　ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 准教授 （平成25年4月）	
373	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ　ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
374	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ　ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
375	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
376	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ　ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
377	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
378	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
379	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
380	兼担	准教授	ﾘｭｳ　ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
381	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
382	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾌﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
383	兼担	准教授	ﾜｷ　ﾊﾔﾄ 脇　隼人 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		常微分方程式とラプラス変換	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成24年5月）	
384	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
385	兼担	講師	ｲﾏｻｶ　ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
386	兼担	講師	ｷｸｶﾜ　ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
387	兼担	講師	ｸｽﾐ　ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
388	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
389	兼担	講師	ﾊﾞｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella　Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
390	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
391	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
392	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③・④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
393	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
394	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
395	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②	2	2	九州大学 ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター 講師 （平成30年4月）	
396	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生センター 講師 （平成26年9月）	
397	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
398	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・CALL 1 学術英語・CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
399	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
400	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
401	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発センター 助教 （平成8年4月）	
402	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
403	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
404	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
405	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
406	兼担	助教	ｿｳｳ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
407	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
408	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教（平成6年4月）	
409	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
410	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
411	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
412	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
413	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
414	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
415	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
416	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
417	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
418	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
419	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
420	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
421	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
422	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
423	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
424	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
425	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
426	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
427	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
428	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
429	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
430	兼任	講師	ｵｷ ﾄｼﾋｺ 沖 俊彦 〈令和3年4月〉		学士		電気法規および施設管理Ⅰ 電気法規および施設管理Ⅱ	4後③ 4後④	1 1	1 1	九州電力株式会社 福岡送配電統括センター 電気部 電力技術サービスグループ長 （平成30年7月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部材料工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｶﾈｺ ｹﾝｼﾞ 金子 賢治 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy（イギリス）		量子力学第一 材料工学実験第一 固体物理学 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後③ 3後①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成13年4月）	5日
2	専	教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｷ 田中 將己 〈令和3年4月〉		博士（工学）		金属材料大意 材料工学実験第一 材料力学入門 弾性・塑性変形工学 材料工学実験第二 材料強度物性 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後③ 2後④ 3前①～② 3前② 3後③～④ 4通	2 2 1 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年10月）	5日
3	専	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 〈令和3年4月〉		博士（工学）		先端技術入門A 工学倫理 金属材料大意 工学概論※ 材料工学実験第一 材料工学実験第二 産業科学技術特別講義 材料工学特別演習 金属組織制御学 バイオマテリアル 材料工学実験第三 鉄鋼材料工学 材料工学卒業研究	1後③ 1前① 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3通 3前② 3前② 3後③～④ 3後③ 4通	1 1 2 0.4 2 2 2 1 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	5日
4	専	教授	ﾅｶﾉ ﾋﾛｱｷ 中野 博昭 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料工学実験第一 材料電気化学 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料表面科学 材料反応工学 電解工学 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前① 3前①～② 3後③～④ 3後③ 3後③ 3後④ 4通	2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年12月）	5日
5	専	教授	ﾐﾔﾊﾗ ﾋﾛﾌﾐ 宮原 広郁 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料工学実験第一 材料工学実験第二 凝固及び結晶成長 材料工学実験第三 接合・複合工学 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3前① 3後③～④ 3後④ 4通	2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	5日
6	専	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ データサイエンス序論 量子力学第一 材料工学実験第一 電子物性論 材料工学実験第二 データサイエンス 材料工学実験第三 半導体工学 材料工学卒業研究	1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3後③ 3後③～④ 3後④ 4通	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	5日
7	専	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野 光一郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎 材料工学実験第一 移動現象論 鉄鋼製錬学 材料工学実験第二 材料工学実験第三 非鉄金属製錬学 材料工学卒業研究	1前①・② 2後③～④ 2後③ 3前① 3前①～② 3後③～④ 3後③ 4通	1 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	5日
8	専	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾘﾀｶ 齊藤 敬高 〈令和3年4月〉		博士（工学）		物理化学第一 冶金物理化学Ⅰ 冶金物理化学Ⅱ 材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 セラミックス材料学 材料工学卒業研究	2前①～② 2後③ 2後④ 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 3後④ 4通	2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	5日
9	専	准教授	ｻﾄｳ ﾕｷｵ 佐藤 幸生 〈令和3年4月〉		博士（科学）		無機化学第一 材料工学実験第一 結晶化学 材料工学実験第二 材料工学実験第三 無機材料解析学 材料工学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 3後③ 4通	2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
10	専	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 材料工学実験第一 超伝導材料工学 材料工学実験第二 薄膜物理 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	1前①･後③ 1前②･後④ 2後③～④ 3前① 3前①～② 3前② 3後③～④ 4通	1 1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
11	専	准教授	ﾓﾘｼﾀ ｺｳﾍｲ 森下 浩平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		平衡組織学 材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2後③ 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成30年5月）	5日
12	専	助教	ｱﾗﾏｷ ﾏｻﾄｼ 荒牧 正俊 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （昭和60年4月）	5日
13	専	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田 誠 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎 材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	1前①・② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	1 2 2 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	5日
14	専	助教	ｲｺﾏ ﾖｼﾌﾐ 生駒 嘉史 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成11年4月）	5日
15	専	助教	ｵｵｳｴ ｻﾄｼ 大上 悟 〈令和3年4月〉		修士（工学）		材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	5日
16	専	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習 材料工学実験第一 材料工学実験第二 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	1前①～② 1前①～② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	5日
17	兼担	教授	ｱｵｷ ﾁｻ 青木 智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
18	兼担	教授	ｱｷﾖｼ ｼｭｳ 秋吉 收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩA 中国語ＩB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
19	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ｷﾖｼ 安立 清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
20	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
21	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
22	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼｵ 阿部 吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
23	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼﾋｻ 阿部 芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
24	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
25	兼担	教授	ｱﾗﾔ ｸﾆｵ 荒谷 邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
26	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ ﾋﾃﾞﾀｶ 有村 秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
27	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
28	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ ﾏｻﾋｺ 安中 雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
29	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ ﾏﾘｺ 五十君 麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
31	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
32	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
33	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②･後③～④･2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
34	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
35	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
36	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
37	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
38	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
39	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｸﾐ 井上 卓見 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
40	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
41	兼担	教授	ｲﾗｼﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
42	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
43	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
44	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
45	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
46	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
47	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
48	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①･②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
49	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
50	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
51	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
52	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
53	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
54	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
55	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
56	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学I 有機物質化学II	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
57	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
58	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
59	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ)		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
60	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
61	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
62	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ･アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
63	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
64	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
65	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
66	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
67	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
68	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
69	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学I 基礎化学熱力学II	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
70	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
71	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
72	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
73	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
74	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
75	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
76	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
77	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
78	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
79	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第一	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
80	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
81	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
82	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
83	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
84	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤　雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学I 基礎化学熱力学II	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
85	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
86	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
87	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
88	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
89	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
90	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
91	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江 義則 〈令和3年4月〉		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
92	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
93	兼担	教授	ｼﾅｶﾞﾜ ｶｽﾞﾅﾘ 品川　一成 〈令和3年4月〉		工学博士		機械工作実習	3前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
94	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
95	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島/江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
96	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
97	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
98	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ｺｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
99	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
100	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
101	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
102	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
103	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
104	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｿﾄﾑ 髙橋　勲 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
105	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
106	兼担	教授	ﾀｹｶﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
107	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
108	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学I 基礎化学熱力学II	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
109	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy (ｱﾒﾘｶ)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
110	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
111	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
113	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
114	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
115	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
116	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
117	兼担	教授	ﾂｼﾞ ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
118	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
119	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
120	兼担	教授	ﾅｶｼﾏ ﾋﾃﾞﾊﾙ 中島 英治 〈令和3年4月〉		工学博士		高温材料強度学 非鉄金属材料工学	3後③ 3後④	1 1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （昭和60年6月）	
121	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
122	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
123	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
124	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
125	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
126	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
127	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
128	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
129	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
130	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
131	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
132	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③・④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
133	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 工学概論※	1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～②	1 1 0.4	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
134	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
135	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
136	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
137	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
138	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
139	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
140	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ﾔｽﾋﾃﾞ 福本 康秀 〈令和3年4月〉		理学博士		数理解析概論	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成7年10月）	
141	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井 美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
142	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷 剛彦 〈令和3年4月〉		博士（工学）		グリーンケミストリー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ 安全学 工学概論※	2後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～② 2前①～②	2 1 1 2 0.4	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
143	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川 勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
144	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋 謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
145	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋 茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
146	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
147	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀 賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
148	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井 卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
149	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井 康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
150	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永 典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
151	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村 順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
152	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本 常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
153	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木 俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
154	兼担	教授	ﾐｳﾗ ﾖｼｺ 三浦 佳子 〈令和3年4月〉		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ 有機化学第一 工学概論※	1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～② 2前①～②	3 2 2 0.4	3 2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
155	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅 一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
156	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口 孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
157	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤 良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
158	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野 森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
159	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎 隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
160	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
161	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
162	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
163	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田　幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
164	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
165	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
166	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
167	兼担	教授	ﾔﾏｻﾞｷ ﾖｼﾋﾛ 山崎 仁丈 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料工学実験第一 材料工学実験第二 エネルギー材料工学 材料工学実験第三 材料工学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3前② 3後③～④ 4通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授 （平成26年8月）	
168	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
169	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
170	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
171	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
172	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
173	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
174	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
175	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
176	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
177	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
178	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
179	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
180	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
181	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
182	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③・④ 3前①・②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
183	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路) 慎吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①・後③ 2後③・④ 2前①・② 2前①～②	2 4 2 2 2	1 1 1 1 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
184	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ　ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
185	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
186	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
187	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
188	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
189	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
190	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
191	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
192	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
193	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
194	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成15年10月）	
195	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
196	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
197	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
198	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端） 柴緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
199	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
200	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis (ｲｷﾞﾘｽ)		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
201	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
202	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
203	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
204	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
205	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
206	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
207	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (ｲｷﾞﾘｽ)		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
208	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
209	兼担	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ　ﾀｹｼ 小野寺　武 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	
210	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
211	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
212	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
213	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
214	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
215	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
216	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
217	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
218	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
219	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④･ 2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
220	兼担	准教授	ｶﾝ ｲﾂｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①･② 2前①･②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
221	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩA 身体運動科学実習ＩB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
222	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
223	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
224	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
225	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後 ③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
226	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後 ③･④ 1前①･②･後 ③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
227	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩA フランス語ＩB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
228	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
229	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムＩ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
230	兼担	准教授	ｸﾛﾝｳ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
231	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
232	兼担	准教授	ｺﾊﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
233	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
234	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
235	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
236	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④ 1後③・④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
237	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
238	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
239	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
240	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
241	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
242	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士（専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
243	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
244	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②･後③～④･2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
245	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
246	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
247	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ｿｳｼﾞ 清水　宗治 〈令和3年4月〉		博士（理学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年3月）	
248	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語（英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
249	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
250	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
251	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
252	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
253	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
254	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
255	兼担	准教授	ﾀｲ ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
256	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
257	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
258	兼担	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川　良 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	
259	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
260	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
261	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
262	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
263	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
264	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
265	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
266	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
267	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
268	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
269	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
270	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
271	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
272	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
273	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
274	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
275	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
276	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
277	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
278	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
279	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
280	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
281	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
282	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
283	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
284	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
285	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
286	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
287	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
288	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
289	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
290	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
291	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
292	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
293	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
294	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
295	兼担	准教授	ﾎｼﾉ ﾕｳ 星野　友 〈令和3年4月〉		博士（工学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年9月）	
296	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
297	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
298	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
299	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦 秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
300	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
301	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
302	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
303	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
304	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
305	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
306	兼担	准教授	ﾐﾂﾊﾗ ﾏｻﾄｼ 光原 昌寿 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成22年4月）	
307	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
308	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
309	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
310	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
311	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
312	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
313	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
314	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
315	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
316	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
317	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
318	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
319	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
320	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
321	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
322	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
323	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
324	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
325	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
326	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
327	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
328	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
329	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
330	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵｰｽﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
331	兼担	准教授	ﾜｷ ﾊﾔﾄ 脇　隼人 〈令和3年4月〉		博士（理学）		複素関数論	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ 研究所 准教授 （平成24年5月）	
332	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
333	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
334	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
335	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
336	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
337	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
338	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
339	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
340	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
341	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
342	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
343	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
344	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
345	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・CALL 1 学術英語・CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
346	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
347	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
348	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
349	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
350	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
351	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
352	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
353	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
354	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
355	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
356	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
357	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
358	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
359	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
360	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
361	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
362	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ　ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
363	兼担	助教	ﾂﾁﾔ　ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
364	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ　ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
365	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ　ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
366	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
367	兼担	助教	ﾉﾅｶ　ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
368	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ　ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
369	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ　ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
370	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ　ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
371	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
372	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ　ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
373	兼担	助教	ﾐﾔﾀ　ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
374	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ　ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
375	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ　ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
376	兼担	助教	ﾛｳ　ﾘｲ　ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
377	兼任	講師	ｲｼﾏﾙ　ﾘｮｳﾍｲ 石丸　良平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料設計製図Ⅰ 材料設計製図Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	久留米工業高等専門学校 教授 （平成25年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部応用化学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A 応用化学実験第一 物理化学第二 量子化学第二 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学特別講義第五 応用化学卒業研究	1後③ 2後③～④ 2後③ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 4後④ 4通	1 2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	5日
2	専	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 応用化学実験第一 応用化学実験第二 化学工学第二 応用化学実験第三 触媒化学 応用化学特別講義第三 応用化学卒業研究	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後③～④ 3後③ 4前② 4通	1 1 2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	5日
3	専	教授	ｵｺﾞｳ ｾｲｼﾞ 小江 誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ 応用化学実験第一 応用化学実験第二 有機化学第三 応用化学実験第三 有機化学第四 応用化学特別講義第五 応用化学卒業研究	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④ 3前①～② 3前① 3後③～④ 3後③ 4後④ 4通	3 2 2 2 2 2 2 1 8	3 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	5日
4	専	教授	ｶｼﾞ ﾉﾘﾀﾀﾞ 加地 範匡 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		応用化学実験第一 分析化学第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学特別講義第四 応用化学卒業研究	2後③～④ 2後③ 3前①～② 3後③～④ 4後③ 4通	2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成30年1月）	5日
5	専	教授	ｶﾀﾔﾏ ﾖｼｷ 片山 佳樹 ＜令和3年4月＞		工学博士		応用化学実験第一 生化学第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学特別講義第四 応用化学卒業研究	2後③～④ 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4後③ 4通	2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	5日
6	専	教授	ｶﾐﾔ ﾉﾘﾖ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学 応用化学実験第一 化学工学第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学特別演習第二 応用化学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 4後③～④ 4通	1 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	5日
7	専	教授	ｷﾐﾂﾞｶ ﾉﾌﾞｵ 君塚 信夫 ＜令和3年4月＞		工学博士		応用化学実験第一 高分子化学第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 分子組織化学 応用化学特別講義第三 応用化学卒業研究	2後③～④ 2後③ 3前①～② 3後③～④ 3後④ 4前② 4通	2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和60年11月）	5日
8	専	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ 応用化学実験第一 化学工学第一 応用化学実験第二 化学工学第二 応用化学実験第三 物理化学演習 応用化学特別演習第一 応用化学卒業研究	1後③・2前①・② 1後④・2前①・② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3前①～② 3後③～④ 3後③ 4後①～② 4通	1 1 2 2 2 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	5日
9	専	教授	ｼﾏｺｼ ﾋｻｼ 嶌越 恒 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用化学実験第一 無機化学第二 応用化学実験第二 応用化学実験第三 生体機能化学 応用化学特別講義第二 応用化学卒業研究	2後③～④ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 3後③ 4前① 4通	2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	5日
10	専	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ 応用化学実験第一 応用化学実験第二 高分子化学第二 応用化学実験第三 応用化学特別講義第二 応用化学卒業研究	1後③・2前①・② 1後④・2前①・② 2後③～④ 3前①～② 3前① 3後③～④ 4前① 4通	1 1 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	5日
11	専	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 無機化学第一 工学概論※ 応用化学実験第一 データサイエンス 応用化学実験第二 無機化学第三 応用化学実験第三 応用化学特別講義第一 応用化学卒業研究	1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3前② 3後③～④ 3後④ 4通	1 1 2 0.4 2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	5日
12	専	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷 剛彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー 工学倫理 データサイエンス序論 安全学 工学概論※ 応用化学実験第一 データサイエンス 応用化学実験第二 分析化学第二 応用化学実験第三 分析化学第三および演習 応用化学特別講義第一 応用化学卒業研究	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④ 1前① 1後③～④ 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 2後④ 3前①～② 3前① 3後③～④ 3後④ 3後④ 4通	1 1 2 1 2 2 0.4 2 2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	専	准教授	ｱｶﾏﾂ ﾋﾛﾌﾐ 赤松 寛文 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機化学第一 物理化学第三	2前①～② 3前②	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成29年4月）	5日
14	専	准教授	ｷｼﾑﾗ ｱｷﾋﾛ 岸村 顕広 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		生化学第二	3前②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年3月）	5日
15	専	准教授	ｻﾞｲｳ ｼﾝｲﾁ 財津 慎一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用物理学第一 分析化学第三および演習	2後③ 3後④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年10月）	5日
16	専	准教授	ｼﾐｽﾞ ｿｳｼﾞ 清水 宗治 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機化学第一 応用化学実験第一 有機化学第二 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学特別演習第一 応用化学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後③ 3前①～② 3後③～④ 4前①～② 4通	2 2 2 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年3月）	5日
17	専	准教授	ﾀｶｶﾞｷ ｱﾂｼ 高垣 敦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		無機化学第四	3後④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成30年3月）	5日
18	専	准教授	ﾅｶﾉ ｺｳｼﾞ 中野 幸二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用化学実験第一 応用化学実験第二 物理化学第三 応用化学実験第三 量子化学演習 応用化学特別演習第二 応用化学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3前② 3後③～④ 3後④ 4後③～④ 4通	2 2 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	5日
19	専	准教授	ﾅｶﾉﾀﾆ ﾊｼﾞﾒ 中野谷 一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		量子化学第二 量子化学演習	2後④ 3後④	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
20	専	准教授	ﾏﾂﾉ ﾋｻｵ 松野 寿生 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		高分子化学第三	3後③	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年1月）	5日
21	専	准教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾀｶﾋﾛ 松本 崇弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機化学第三 有機化学第四	3前① 3後③	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年10月）	5日
22	専	准教授	ﾓﾘ ﾀｹｼ 森 健 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		生化学第二	3前②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年11月）	5日
23	兼担	教授	ｱｵｷ ﾁｻ 青木 智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
24	兼担	教授	ｱｷﾖｼ ｼｭｳ 秋吉 収 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
25	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ｷﾖｼ 安立 清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
26	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
27	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼｵ 阿部 吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
28	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼﾋｻ 阿部 芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
29	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
30	兼担	教授	ｱﾗﾔ ｸﾆｵ 荒谷 邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
31	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ ﾋﾃﾞﾀｶ 有村 秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東　潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナーI 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
33	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
34	兼担	教授	ｲｷﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
35	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
36	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
37	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②･後③～④･ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
38	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
39	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
40	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本ーその歴史と現在ー【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
41	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
42	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
43	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
44	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
45	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
46	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
47	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
48	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
49	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
50	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
51	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
52	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
53	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
54	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
55	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
56	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
57	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
58	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
59	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
60	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾﨑　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
61	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
62	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ)		日本語Ⅷ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
63	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
64	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
65	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
66	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
67	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
68	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
69	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
70	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
71	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
72	兼担	教授	ｷﾝﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
73	兼担	教授	ｷﾄﾞｱｷ ｻﾄﾙ 木戸秋 悟 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		物理化学第一 応用化学実験第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成13年6月）	
74	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
75	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
76	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
77	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
78	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
79	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
80	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
81	兼担	教授	ｸﾗﾌﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②･後④･2前①･② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
82	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械工学大意第一	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
83	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
84	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①･②･後③･④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
85	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
86	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
87	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②･後③～④ ･2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
88	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
89	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
90	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
91	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
92	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
93	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
94	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
95	兼担	教授	ｼﾉﾉｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
96	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
97	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
98	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
99	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④　・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
100	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
101	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
102	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 高木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
103	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 高須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
104	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
105	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
106	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
107	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
108	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
109	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
110	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
111	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｷ 田中 將己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		金属材料大意	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年10月）	
113	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏｻﾙ 田中　賢 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		応用化学実験第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成27年3月）	
114	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
115	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
116	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ＩＢ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
117	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
118	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｾｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
119	兼担	教授	ﾂｼﾞ ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
120	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A 金属材料大意 工学概論※	1後③ 2前①～② 2前①～②	1 2 0.4	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
121	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
122	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
123	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
124	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
125	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
126	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
127	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
128	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
129	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
130	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
131	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
132	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
133	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
134	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濵瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
135	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
136	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
137	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
138	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
139	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
140	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
141	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
142	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究･産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
143	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①･後③ 1前②･後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
144	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
145	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本　伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
146	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
147	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
148	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
149	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
150	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
151	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
152	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
153	兼担	教授	ﾐｳﾗ ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ 工学概論※	1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～②	3 2 0.4	3 2 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
154	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
155	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
156	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
157	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
158	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
159	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
160	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤　伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
161	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
162	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
163	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田　幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
164	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
165	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
166	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
167	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
168	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
169	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
170	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①･②･後③･④ 1後③･④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
171	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
172	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
173	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
174	兼担	教授	ﾖｼｻﾞﾜ ｶｽﾞﾅﾘ 吉澤　一成 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用化学実験第一 応用化学実験第二 応用化学実験第三 応用化学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成13年4月）	
175	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
176	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
177	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
178	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
179	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
180	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
181	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
182	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
183	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･② 2前①～②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
184	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
185	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
186	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
187	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
188	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
189	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
190	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
191	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
192	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤) 直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
193	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
194	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
195	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
196	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
197	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
198	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
199	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
200	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis (ｲｷﾞﾘｽ)		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
201	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
202	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
203	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
204	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
205	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｸ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
206	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
207	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
208	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology（ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
209	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
210	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
211	兼担	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ ﾀｹｼ 小野寺　武 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	
212	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
213	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
214	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
215	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
216	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
217	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
218	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
219	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
220	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
221	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｸｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
222	兼担	准教授	ｷﾝﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩA 身体運動科学実習ＩB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
223	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
224	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
225	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
226	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
227	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
228	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩA フランス語ＩB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
229	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 蔵田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
230	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムＩ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
231	兼担	准教授	ｸﾛﾝｸﾞ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
232	兼担	准教授	ｺｼﾞｵ ｹﾝ 小椎尾　謙 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用化学実験第一 応用化学実験第二 表面化学 応用化学実験第三 高分子化学第三 応用化学卒業研究	2後③～④ 3前①～② 3前② 3後③～④ 3後③ 4通	2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成26年4月）	
233	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
234	兼担	准教授	ｺﾊﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
235	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
236	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
237	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
238	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
239	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
240	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
241	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
242	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
243	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
244	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
245	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
246	兼担	准教授	ｼｵﾀ ﾖｼﾋﾄ 塩田 淑仁 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		量子力学第一 量子化学演習	2前①～② 3後④	2 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成13年6月）	
247	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾏﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
248	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松 豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
249	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
250	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
251	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
252	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
253	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
254	兼担	准教授	ｾｶﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
255	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
256	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 杣本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
257	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
258	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
259	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
260	兼担	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川　良 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	
261	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
262	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
263	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
264	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
265	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④･2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
266	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
267	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
268	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①･②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
269	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
270	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
271	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
272	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
273	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
274	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
275	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
276	兼担	准教授	ﾃﾛｳ ｱﾔｼ 手老 篤史 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数理解析概論	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成23年2月）	
277	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
278	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
279	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①･後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
280	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
281	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
282	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
283	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
284	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
285	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学･言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
286	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井） 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
287	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
288	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
289	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｼﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
290	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
291	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習ＡⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
292	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ　ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
293	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産･食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
294	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
295	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④･2前①～② 2後③･④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
296	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
297	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
298	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
299	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
300	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
301	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩＡ 身体運動科学実習ＩＢ 身体運動科学実習ⅡＡ 身体運動科学実習ⅡＢ 身体運動科学実習ⅢＡ 身体運動科学実習ⅢＢ 身体運動科学実習ⅣＡ 身体運動科学実習ⅣＢ 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義Ａ	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
302	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
303	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
304	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学･精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
305	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
306	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③･④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
307	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野　敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①･②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
308	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
309	兼担	准教授	ﾐﾂﾊﾗ ﾏｻﾄｼ 光原　昌寿 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
310	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
311	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
312	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
313	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
314	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
315	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
316	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
317	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
318	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
319	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
320	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
321	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
322	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
323	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
324	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
325	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顯正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
326	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
327	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
328	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
329	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②･後④ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
330	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
331	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
332	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
333	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｶﾅﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
334	兼担	准教授	ﾜｷ ﾊﾔﾄ 脇　隼人 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		複素関数論	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成24年5月）	
335	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
336	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
337	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
338	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
339	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
340	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
341	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
342	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
343	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
344	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
345	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
346	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	
347	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
348	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
349	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・CALL 1 学術英語・CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
350	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
351	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
352	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
353	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
354	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
355	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
356	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
357	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
358	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
359	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
360	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
361	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
362	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
363	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
364	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
365	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
366	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
367	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
368	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
369	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
370	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
371	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成.）	
372	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
373	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
374	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
375	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永（高山）　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
376	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
377	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
378	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川　龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
379	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
380	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
381	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部化学工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A 物理化学第二※ 基礎生命工学※ 生物プロセス工学第一※ 生物プロセス工学第二※ 生物化学工学※ 化学工学卒業研究	1前①～②・後③～④・2前①～② 1後③ 2後③～④ 2後③ 3前① 3後③ 3後④ 4通	1 1 1.3 0.5 1.4 1.4 0.7 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	5日
2	専	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 〈令和3年4月〉		工学博士		力学基礎 化工数学 物質移動工学 化工熱工学※ 化学工学卒業研究	1前①～② 2後③ 2後④ 3前② 4通	2 2 2 0.2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	5日
3	専	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 〈令和3年4月〉		工学博士		分子生物学 化学工学量論 基礎生命工学※ 生物プロセス工学第一※ 生物プロセス工学第二※ 生物化学工学※ 化学工学卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後③ 3前① 3後③ 3後④ 4通	1 2 0.7 0.6 0.6 0.7 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	5日
4	専	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ 物理化学第一 応用物理学第一 応用物理学第二 反応工学第一 反応工学第二 化学工学卒業研究	1後③・2前①・② 1後④・2前①・② 2前①～② 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後③ 4通	1 1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	5日
5	専	教授	ﾌｶｲ　ｼﾞｭﾝ 深井　潤 〈令和3年4月〉		工学博士		基礎熱工学※ 化工熱工学※	3前① 3前②	1.7 1.8	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和63年7月）	5日
6	専	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 〈令和3年4月〉		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ 物理化学第一 有機化学第一 工学概論※ 物理化学第二※ 反応工学第一 化学工学卒業研究	1前①・後③ 1前②・後④ 2前①～② 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 3前①～② 4通	3 2 2 2 0.4 0.7 2 8	3 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	5日
7	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ﾀｶﾕｷ 渡邉　隆行 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基礎流体工学 化工流体工学 基礎熱工学※ 化学工学卒業研究	2後④ 3前① 3前① 4通	2 2 0.3 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成25年4月）	5日
8	専	准教授	ｲﾉｳｴ　ｹﾞﾝ 井上　元 〈令和3年4月〉		博士（工学）		データサイエンス プロセス制御 プロセス計装 プロセスシステム工学 化学工学卒業研究	3前① 3前② 3前② 3後④ 4通	2 2 1 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成29年3月）	5日
9	専	准教授	ﾅｶﾔﾏ　ﾔｽﾔ 名嘉山　祥也 〈令和3年4月〉		博士（情報学）		量子力学第一 化学工学実験第三 分離工学 化学工学卒業研究	2前①～② 3後③～④ 3後④ 4通	2 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年11月）	5日
10	専	准教授	ﾎｼﾉ　ﾕｳ 星野　友 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学倫理 無機化学第一※ 有機化学第一 化学工学実験第一 プロセス物理化学 化学工学卒業研究	1前① 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 3前① 4通	1 0.9 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年9月）	5日
11	専	准教授	ﾐｽﾞﾓﾄ　ﾋﾛｼ 水本　博 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基礎生命工学※ 化学工学実験第二 生命工学特別講義 生物化学工学※ 化学工学卒業研究	2後③ 3前①～② 3後③ 3後④ 4通	0.8 2 1 0.6 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成14年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	専	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾂﾖｼ 山本　剛 〈令和3年4月〉		博士（工学）		データサイエンス序論 無機化学第一※ 化学工学特別講義 化工情報処理演習 化学工学卒業研究	1後③～④ 2前①～② 3前① 3後③ 4通	2 1.1 1 1 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成15年8月）	5日
13	兼担	教授	ｱｵｷ ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
14	兼担	教授	ｱｷﾖｼ ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
15	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
16	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
17	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
18	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
19	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
20	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
21	兼担	教授	ｱﾗﾔ ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
22	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
23	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
24	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
25	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
26	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
27	兼担	教授	ｲｼｲ ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
28	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
29	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
31	兼担	教授	ｲﾄｳ ｺｳｼﾞ 伊藤 幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
32	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ ﾕｽﾞﾙ 稲濱 譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
33	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ｼｹﾞｷ 井上 滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
34	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｸﾐ 井上 卓見 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
35	兼担	教授	ｲﾊﾞ ｺｳ 射場 厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
36	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆 啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
37	兼担	教授	ｲﾜｾ ﾉﾘｵ 岩瀬 則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
38	兼担	教授	ｲﾜﾀ ｹﾝｼﾞ 岩田 健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
39	兼担	教授	ｳｪﾝ ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
40	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ ｺｳﾅﾘ 内田 交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
41	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
42	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ ｱﾂﾋﾄ 江口 厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
43	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ ﾀｸﾐ 江口 巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
44	兼担	教授	ｵｵｼﾏ ﾀｶｼ 大嶋 孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
45	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ ﾐﾉﾙ 大坪 稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
46	兼担	教授	ｵｵﾉ ﾏｻｵ 大野 正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
47	兼担	教授	ｵｵﾊｼ ﾋﾛｼ 大橋 浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
48	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ ｺｳｼﾞ 岡村 耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
49	兼担	教授	ｵｷ ﾕｳｼﾞ 興 雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
50	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ ﾔｽﾏｻ 小黒 康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
51	兼担	教授	ｵｺﾞｳ ｾｲｼﾞ 小江 誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
52	兼担	教授	ｵｻﾞｷ ﾕｷｺ 尾崎 由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
53	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ ｱｷｵ 遠城 明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
54	兼担	教授	ｶｸ ｼｭﾝｶｲ 郭 俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
55	兼担	教授	ｶｸﾀ ﾖｼﾐﾂ 角田 佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
56	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ･アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
57	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ ﾏｻﾋｺ 鏑木 政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
58	兼担	教授	ｶﾐﾔ ﾉﾘﾎ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
59	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑 俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
60	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾘｭｳｲﾁ 川村 隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
61	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅 浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
62	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本 信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
63	兼担	教授	ｷﾀｶﾞﾜ ﾄｼｱｷ 北川 敏明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年4月）	
64	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村 崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
65	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村 政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
66	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
67	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
68	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
69	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
70	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
71	兼担	教授	ｸﾗﾌﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②･後④･2前①･② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
72	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第一	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
73	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
74	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①･②･後③･④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
75	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
76	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
77	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
78	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②･後③～④ ･2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
79	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
80	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齋藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
81	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
82	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
83	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①･② 3前①･②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
84	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江 義則 〈令和3年4月〉		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
85	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永 健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
86	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎 彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業･企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
87	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
88	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村 丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
89	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山 佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
90	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木 右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
91	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角 俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
92	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施 光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
93	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木 信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
94	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須 啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
95	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
96	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋 勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
97	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上 隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
98	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川 薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
99	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳 隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
100	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
101	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy（ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
102	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中 孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
103	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
104	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｷ 田中 將己 〈令和3年4月〉		博士（工学）		金属材料大意	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年10月）	
105	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中 真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
106	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口 秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
107	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑 義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
108	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村 茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
109	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳 光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
110	兼担	教授	ﾂｼﾞ ﾀｹｼ 辻 健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
111	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 〈令和3年4月〉		博士（工学）		先端技術入門A 金属材料大意 工学概論※	1後③ 2前①～② 2前①～②	1 2 0.4	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
112	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤 祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
113	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見 敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩA 中国語ＩB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
114	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島 広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
115	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村 知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
116	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡 浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
117	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納 宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
118	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
119	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
120	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
121	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
122	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
123	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
124	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
125	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
126	兼担	教授	ﾊﾔｼ　ｶﾂﾛｳ 林　克郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 工学概論※	1前①･後③ 1前②･後④ 2前①～②	1 1 0.4	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
127	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習ＡⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
128	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
129	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
130	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
131	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
132	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
133	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ　ﾔｽﾋﾃﾞ 福本　康秀 〈令和3年4月〉		理学博士		数理解析概論	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成7年10月）	
134	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
135	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー 安全学 工学概論※	1前①･後③ 1前②･後④ 2後③～④ 2前①～② 2前①～②	1 1 2 2 0.4	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
136	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
137	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
138	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
139	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
140	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
141	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
142	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
143	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
144	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
145	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
146	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
147	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
148	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
149	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
150	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
151	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
152	兼担	教授	ﾐﾔﾊﾗ　ﾋﾛﾌﾐ 宮原　広郁 〈令和3年4月〉		博士（工学）		接合・複合工学	3後④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
153	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
154	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
155	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
156	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
157	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
158	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
159	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
160	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
161	兼担	教授	ﾔﾏｻﾞｷ ﾖｼﾋﾛ 山崎　仁丈 〈令和3年4月〉		博士（工学）		エネルギー材料工学	2前②	2	1	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授 （平成26年8月）	
162	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
163	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
164	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
165	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
166	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
167	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
168	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
169	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
170	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
171	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡邉　聡 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
172	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
173	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士（TESOL学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
174	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
175	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
176	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
177	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③・④ 3前①・②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
178	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①・後③ 2後③・④ 2前①・② 2前①～②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
179	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
180	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
181	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
182	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
183	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
184	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
185	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
186	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
187	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
188	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
189	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
190	兼担	准教授	ｳｼｼﾞﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
191	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
192	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
193	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
194	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
195	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis （ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
196	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
197	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
198	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
199	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
200	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
201	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
202	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
203	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
204	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
205	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
206	兼担	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ ﾀｹｼ 小野寺　武 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	
207	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
208	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
209	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
210	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
211	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
212	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
213	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
214	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
215	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
216	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｯｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
217	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
218	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
219	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
220	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
221	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
222	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
223	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
224	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
225	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
226	兼担	准教授	ｸﾛﾝｳ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
227	兼担	准教授	ｺｼﾞｵ ｹﾝ 小椎尾　謙 〈令和3年4月〉		博士（工学）		高分子化学第三	3後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成26年4月）	
228	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
229	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
230	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
231	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
232	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
233	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
234	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
235	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
236	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
237	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
238	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
239	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
240	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
241	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
242	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
243	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
244	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
245	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
246	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
247	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
248	兼担	准教授	ｾｶﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
249	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
250	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 杣本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
251	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
252	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
253	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
254	兼担	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川　良 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	
255	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
256	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
257	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
258	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
259	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
260	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
261	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
262	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
263	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
264	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
265	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
266	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
267	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
268	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
269	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
270	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
271	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
272	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
273	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
274	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
275	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
276	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
277	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
278	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学･言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
279	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井） 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
280	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾖｼﾉﾘ 濱本　芳徳 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年3月）	
281	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
282	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
283	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
284	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
285	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習ＡⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
286	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ　ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
287	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
288	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
289	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
290	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
291	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
292	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
293	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
294	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
295	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
296	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦 秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
297	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
298	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
299	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
300	兼担	准教授	ﾏﾂﾉ ﾋｻｵ 松野　寿生 〈令和3年4月〉		博士（工学）		高分子化学第三	3後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年1月）	
301	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
302	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
303	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
304	兼担	准教授	ﾐﾂﾊﾗ ﾏｻﾄｼ 光原　昌寿 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成22年4月）	
305	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
306	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
307	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
308	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
309	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
310	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
311	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
312	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
313	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
314	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
315	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
316	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
317	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
318	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
319	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
320	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
321	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
322	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
323	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
324	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②･後④ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
325	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
326	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
327	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
328	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
329	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
330	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
331	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
332	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
333	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
334	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
335	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
336	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
337	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③・④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
338	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
339	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
340	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	
341	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
342	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
343	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士（人間・環境学）		学術英語・CALL 1 学術英語・CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
344	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
345	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
346	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
347	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
348	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
349	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
350	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
351	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
352	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後 ③～④・2前① ～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
353	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成年）	
354	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後 ③～④・2前① ～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
355	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
356	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2 前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
357	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
358	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
359	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
360	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
361	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
362	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②・後 ③～④・2前① ～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
363	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
364	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
365	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
366	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
367	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
368	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後 ③・④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
369	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
370	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
371	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
372	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
373	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
374	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
375	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部融合基礎工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｴｲﾅｶﾞ　ﾋｻﾋﾛ 永長 久寛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		量子力学第一 エネルギー・環境学A※ エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 研究プロジェクト 触媒化学Ⅰ 触媒化学Ⅱ 卒業研究	2前①～② 4前① 4前① 3前①～② 4前① 3後③ 3後④ 4通	2 0.2 0.1 0.8 4 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成18年9月）	5日
2	専	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A エネルギー・環境学B※ 知的財産論 マネージメント論 マーケティング論 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅰ※ グローバル科目Ⅰ（論文） グローバル科目Ⅱ（討論） 融合基礎工学特別講義A 無機化学第三 卒業研究	1後③ 4前① 4前② 4後④ 4後④ 2後③～④ 3前①～② 4前② 4後③ 3後③ 3前①～② 4通	1 0.2 1 1 1 0.6 0.1 1 1 1 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	5日
3	専	教授	ｽｷﾞﾊﾗ ﾕｳｼﾞ 杉原 裕司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 流れ学Ⅰ 力学 流体力学Ⅰ 卒業研究	2前①～② 2前② 2後③ 2後③～④ 4通	0.4 2 1 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成4年4月）	5日
4	専	教授	ﾀﾆﾓﾄ ｼﾞｭﾝ 谷本 潤 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		データ解析の数学 振動力学 熱・流体計測学 卒業研究	3後③～④ 2後③～④ 3前① 4通	2 2 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年1月）	5日
5	専	教授	ﾅｶｼﾏ ﾋﾃﾞﾊﾙ 中島 英治 ＜令和3年4月＞		工学博士		材料強度学 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 3前①～② 4通	2 0.1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （昭和60年6月）	5日
6	専	教授	ﾊﾗﾀ ｱｷﾗ 原田 明 ＜令和3年4月＞		工学博士		物理化学第一 先端計測科学※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	2前①～② 4前① 3前①～② 4通	2 0.4 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年5月）	5日
7	専	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎 隆彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学概論演習 工学倫理 熱力学Ⅰ エネルギー変換工学 エネルギー・環境学A※ 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅱ※ 融合基礎工学特別講義B 熱エネルギー変換基礎 自動制御 伝熱学 熱機関工学 卒業研究	1後③ 1前① 2前① 3前①～② 4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③ 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後④ 4通	0.5 1 2 2 0.4 0.6 0.1 1 2 2 2 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	5日
8	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾅｵｼ 山本 直嗣 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料力学Ⅱ 融合基礎情報学Ⅱ 融合工学概論Ⅱ※ 電磁気学Ⅱ 卒業研究	2前② 3前①～② 3後③～④ 3前①～② 4通	2 2 0.1 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
9	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾕｷﾉﾌﾞ 渡邊 幸信 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端計測科学※ 融合応用情報学C インターンシップⅠ（長期） インターンシップⅡ（短期） 融合工学概論Ⅱ※ 統計力学 量子力学 卒業研究	4前① 4前① 4通 4通 3後③～④ 2後③～④ 3前① 4通	0.2 1 3 1 0.1 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （昭和63年4月）	5日
10	専	准教授	ｱﾝﾖｳｼﾞ ﾏｻﾕｷ 安養寺 正之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		航空力学 流体機械 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 機械電気科学設計演習 卒業研究	3後③ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3後③ 4通	1 1 0.1 0.1 0.3 0.3 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成26年10月）	5日
11	専	准教授	ｲｹｶﾞﾔ ﾅｵｷ 池谷 直樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		データサイエンス序論 融合応用情報学D 卒業研究	1後③～④ 4前① 4通	2 1 6	1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成23年12月）	5日
12	専	准教授	ｲﾀｸﾗ ﾏｻﾙ 板倉 賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		融合工学概論Ⅰ※ 相平衡論 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前①～② 3前①～② 3前① 3前② 4通	0.1 2 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭和63年4月）	5日
13	専	准教授	ｶﾀﾔﾏ ｶｽﾞﾅﾘ 片山 一成 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		プロセス化学工学 エネルギー・環境学A※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 4通	2 0.2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年4月）	5日
14	専	准教授	ｷﾝ ﾀﾀﾞﾋﾛ 金 政浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		光・量子物理計測 先端計測科学※ 融合基礎情報学Ⅰ 融合応用情報学B 融合工学概論Ⅱ※ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 卒業研究	3前①～② 4前① 2後③～④ 4前① 3後③～④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	2 0.2 1 1 0.1 0.1 0.1 0.3 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成24年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
15	専	准教授	ﾁﾖｳ ﾄｳ KYAW THU ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy（シンガポール）		熱工学演習 卒業研究	3前①～② 4通	1 6	1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
16	専	准教授	ﾊｼﾂﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 橋爪 健一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料速度論 固体物理Ⅱ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前② 3後③ 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成4年4月）	5日
17	専	准教授	ﾎｳｼﾞｮｳ ﾊｼﾞﾒ 北條 元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		結晶学基礎 セラミックス材料学Ⅰ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3後③ 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年10月）	5日
18	専	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清 修一 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代物理学基礎 フーリエ解析と偏微分方程式 プラズマ理工学Ⅰ 卒業研究	2前①～② 3前①～② 3後③ 4通	2 2 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	5日
19	専	准教授	ﾐﾂﾊﾗ ﾏｻﾄｼ 光原 昌寿 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 構造材料学 材料加工学 材料組織制御学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 物質材料科学実験Ⅲ 卒業研究	2前①～② 3後③ 3後④ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 4通	0.4 1 1 1 0.2 0.2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日
20	専	准教授	ﾔﾌﾞｼﾀ ｱｷﾋﾛ 藪下 彰啓 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		化学反応論Ⅰ 化学反応論Ⅱ エネルギー・環境学A※ 分光学基礎 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3前② 4前① 3前① 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成26年5月）	5日
21	専	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹﾝ 渡邉 賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気化学Ⅰ 電気化学Ⅱ セラミックス材料学Ⅱ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 物質材料科学実験Ⅳ 卒業研究	3後③ 3後④ 3後④ 3前① 3前② 3後④ 4通	1 1 1 0.1 0.1 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
22	専	助教	ｱｶﾐﾈ ﾋﾛｼ 赤嶺 大志 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
23	専	助教	ｲｼｵｶ ﾄｼｵ 石岡 寿雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成10年8月）	5日
24	専	助教	ｵｵﾔ ﾏｺﾄ 大宅 諒 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
25	専	助教	ｶﾜｾ ｼｮｳｲﾁﾛｳ 川瀬 頌一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合基礎情報学Ⅰ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	2後③～④ 3前① 3前②	1 0.1 0.1	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （令和1年7月）	5日
26	専	助教	ｽｴﾏﾂ ｺｳｲﾁ 末松 昂一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成28年10月）	5日
27	専	助教	ﾂﾙ ﾀﾞｲｽｹ 鶴 大輔 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学設計演習	3前① 3前② 3後③	0.1 0.1 0.5	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成23年4月）	5日
28	専	助教	ﾃﾗｻｶ ｹﾝｲﾁﾛｳ 寺坂 健一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成22年9月）	5日
29	専	助教	ﾔﾏｸﾞﾁ ｿｳｲﾁ 山口 創一 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成22年4月）	5日
30	専	助教	ﾔﾏｻｷ ｼｹﾞﾄ 山崎 重人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
31	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
32	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
33	兼担	教授	ｱｺﾞｳ ﾋﾛｷ 吾郷 浩樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成15年4月）	
34	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
35	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A 物理化学第二	1後③ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
36	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ ベクトル解析と微分方程式	1後③～④ 2前①～②	1 2	1 1	九州大学 ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾃﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
37	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
38	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①･②･後③･④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
39	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井　文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
40	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①･②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
41	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③･④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
42	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ　ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
43	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
44	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
45	兼担	教授	ｲｹﾀﾞ　ﾉﾌﾞｵ 池田　伸夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.5	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成5年4月）	
46	兼担	教授	ｲｹｳｴ　ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
47	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
48	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
49	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②･後③～④･2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
50	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
51	兼担	教授	ｲﾃﾞｲ　ﾋﾛｼ 出射 浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4通	0.1 6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成15年4月）	
52	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ　ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
53	兼担	教授	ｲﾄﾞ　ﾀｹｼ 井戸 毅 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （令和1年10月）	
54	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｶｽﾞﾋﾃﾞ 伊藤 一秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工業力学 流体力学演習 卒業研究	2前① 3前①～② 4通	2 1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成19年4月）	
55	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本ーその歴史と現在ー【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
56	兼担	教授	ｲﾅｶﾞｷ　ｼｹﾞﾙ 稲垣 滋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成19年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
57	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
58	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
59	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
60	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②･ 後③～④･2 前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
61	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ　ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
62	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
63	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
64	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
65	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
66	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
67	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
68	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①･②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
69	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①･②･ 後③･④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
70	兼担	教授	ｵｵﾀｷ　ﾐﾁﾀｶ 大瀧 倫卓 ＜令和3年4月＞		工学博士		無機化学第一 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	2前①～② 3前①～② 4通	2 0.1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成2年4月）	
71	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
72	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
73	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
74	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
75	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③･④ 1後③･④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
76	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
77	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
78	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾﨑　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①･②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
79	兼担	教授	ｵﾁｱｲ　ﾋﾛﾕｷ 落合 啓之 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		常微分方程式とラプラス変換	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成21年10月）	
80	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
81	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
82	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①･② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
83	兼担	教授	ｶｼﾞ　ﾉﾘﾀﾀﾞ 加地 範匡 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		分析化学第一	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成30年1月）	
84	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄﾝﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
85	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ･アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
86	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
87	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
88	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾈ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
89	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①･②･ 後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
90	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
91	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②･ 後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
92	兼担	教授	ｶﾝｶﾞﾜ　ﾖｼﾋﾛ 寒川 義裕 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成17年1月）	
93	兼担	教授	ｷｸﾁ　ﾋﾛﾂｸﾞ 菊池 裕嗣 ＜令和3年4月＞		工学博士		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4通	0.4 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （昭和61年4月）	
94	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
95	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ　ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A 工学概論※	1前①～② 1後③ 2前①～②	2 1 0.7	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成8年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
96	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
97	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
98	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
99	兼担	教授	ｸﾆﾉﾌﾞ ﾖｳｲﾁﾛｳ 國信　洋一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		エネルギー・環境学A※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4通	0.1 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成29年2月）	
100	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
101	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
102	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
103	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
104	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
105	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械工学大意第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
106	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
107	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
108	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
109	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
110	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
111	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
112	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
113	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齋藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
114	兼担	教授	ｻｲﾄｳ(ﾊﾀﾉ) ﾜﾀﾙ 齋藤(羽田野) 渉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成31年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
115	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
116	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
117	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
118	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
119	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
120	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
121	兼担	教授	ｼﾏｺｼ ﾋｻｼ 嶌越　恒 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機化学第二	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
122	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
123	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
124	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
125	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
126	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
127	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
128	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
129	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋　厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習 工学概論※	1前①～② 2前①～②	1 0.4	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
130	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
131	兼担	教授	ﾀｷｳｴ　ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
132	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ　ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
133	兼担	教授	ﾀﾂﾐ　ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
134	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ｹｲｼﾞ 田中　敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
135	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ｻﾄﾙ 田中　悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy（アメリカ）		先端技術入門B 応用量子物理学入門※	1後④ 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成10年4月）	
136	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
137	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
138	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾏｻｷ 田中　將己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		金属材料大意 材料力学入門 弾性・塑性変形工学	2前①～② 2後③ 2後④	2 1 1	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年10月）	
139	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
140	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
141	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ　ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
142	兼担	教授	ﾀﾑﾗ　ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
143	兼担	教授	ﾁﾝ　ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
144	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
145	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ　ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A 金属材料大意 工学概論※	1後③ 2前①～② 2前①～②	1 2 0.4	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
146	兼担	教授	ﾂﾂﾐ　ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
147	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ　ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
148	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②･後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
149	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
150	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①･②･後③･④ 1前①･後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
151	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
152	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
153	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
154	兼担	教授	ﾆｼｻﾞﾜ ｼﾝｲﾁ 西澤 伸一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成29年2月）	
155	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
156	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
157	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
158	兼担	教授	ﾊｷﾞｼﾏ ｱﾔ 萩島 理 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 卒業研究	2前① 3前①～② 4通	1 2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年4月）	
159	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 先端計測科学※ 融合工学概論Ⅰ※ 相転移論 卒業研究	1前② 4前① 3前①～② 3後④ 4通	2 0.2 0.1 1 6	2 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成6年4月）	
160	兼担	教授	ﾊｯﾄﾘ ﾚｲｼﾞ 服部 励治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成16年4月）	
161	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
162	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
163	兼担	教授	ﾊﾏﾓﾄ ｷｲﾁ 濱本 貴一 ＜令和3年4月＞		Doktor Der Technischen Wissenschaften（スイス）		光エレクトロニクス 半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 2後③～④ 3後③～④ 4通	2 0.4 0.8 0.6 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成17年4月）	
164	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林　克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 工学概論※	1前①･後③ 1前②･後④ 2前①～②	1 1 0.4	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
165	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 林 潤一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 卒業研究	4前① 4通	0.4 6	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成21年3月）	
166	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾉﾌﾞﾔ 林 信哉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		プラズマ応用工学 電磁気学Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ プラズマ理工学Ⅱ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後④ 4通	1 2 0.1 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成24年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
167	兼担	教授	ﾊﾗ　ｶｽﾞﾋﾛ 原　一広 ＜令和3年4月＞		理学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
168	兼担	教授	ﾊﾗ　ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習ＡⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
169	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ　ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
170	兼担	教授	ﾋｺﾞ　ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
171	兼担	教授	ﾋｻｴﾀﾞ　ﾖｼｵ 久枝 良雄 ＜令和3年4月＞		工学博士		無機化学第二	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （昭和63年8月）	
172	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ　ﾏｰｸ　ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
173	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ　ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
174	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ　ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
175	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ　ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
176	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ　ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー 安全学 工学概論※	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④ 2前①～② 2前①～②	1 1 2 2 0.4	1 1 1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
177	兼担	教授	ﾌｼﾞﾉ　ｼｹﾞﾙ 藤野 茂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
178	兼担	教授	ﾌｼﾞﾓﾄ　ﾉｿﾞﾑ 藤本　望 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		工学概論※ 原子力工学概論※	2前①～② 2前①～②	0.5 0.7	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
179	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ　ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
180	兼担	教授	ﾌﾙﾔ　ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
181	兼担	教授	ﾌﾙﾔ　ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
182	兼担	教授	ﾎﾝﾓﾄ　ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
183	兼担	教授	ﾎﾘ　ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
184	兼担	教授	ﾏﾂｲ　ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
185	兼担	教授	ﾏﾂｲ　ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
186	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
187	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
188	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･ 後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
189	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
190	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ 有機化学第一 工学概論※	1前①･後③ 1前②･後④ 2前①～② 2前①～②	3 2 2 0.4	3 2 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
191	兼担	教授	ﾐｽﾞﾉ ｾｲｷﾞ 水野 清義 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合工学概論Ⅰ※ 材料表面工学 卒業研究	3前①～② 3後④ 4通	0.1 1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年11月）	
192	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②･ 後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
193	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②･ 後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
194	兼担	教授	ﾐﾅﾐｷﾞﾘ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
195	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②･ 後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
196	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
197	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
198	兼担	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｶｽﾞ 村上　恭和 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.6	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
199	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･ 後③･④ 1前①･②･ 後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
200	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
201	兼担	教授	ﾓﾘﾀ　ｺｳｼﾞ 守田　幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B 原子力工学概論※	1後④ 2前①～②	1 0.7	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
202	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①･②･ 後③･④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
203	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
204	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
205	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②･ 後③～④ 2前①･②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
206	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･ 後③･④ 1前①･②･ 後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
207	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
208	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①･②･後③･④ 1後③･④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
209	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
210	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
211	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
212	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
213	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｼｹﾞｵ 吉田 茂雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.1 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成25年4月）	
214	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
215	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
216	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
217	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
218	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
219	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
220	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
221	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･② 2前①～②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
222	兼担	准教授	ｲｹｿﾞｴ ﾘｭｳﾔ 池添　竜也 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成30年4月）	
223	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
224	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
225	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
226	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
227	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
228	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
229	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
230	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ ﾔｵﾋﾛ 稲垣　八穂広 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子力工学概論※	2前①～②	0.6	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （昭和63年8月）	
231	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
232	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾘ)　ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
233	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
234	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
235	兼担	准教授	ｳｵｽﾞﾐ　ﾕｳｽｹ 魚住　裕介 ＜令和3年4月＞		工学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
236	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
237	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
238	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
239	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
240	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
241	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis（ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
242	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
243	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
244	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
245	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
246	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ　ﾋﾛﾀｶ 岡部　弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	2 0.2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
247	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
248	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
249	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ） ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
250	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
251	兼担	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ ﾀｹｼ 小野寺　武 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学大学院 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	
252	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
253	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓﾃﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
254	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
255	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
256	兼担	准教授	ｶｽﾔ ﾅｵﾋﾛ 糟谷 直宏 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成24年5月）	
257	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
258	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
259	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
260	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
261	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
262	兼担	准教授	ｶﾜｴ　ﾀﾂﾔ 河江　達也 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	
263	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
264	兼担	准教授	ｶﾝ ｲﾏｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
265	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
266	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
267	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
268	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
269	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
270	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
271	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
272	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
273	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
274	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
275	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
276	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
277	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
278	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
279	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
280	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①・②・ 後③・④ 1後③ 1後④ 1後③・④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
281	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
282	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
283	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
284	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
285	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
286	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
287	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
288	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・ 後③・④ 1前①・②・ 後③・④ 1前①～②・ 後③～④・2 前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
289	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
290	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
291	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ｿｳｼﾞ 清水　宗治 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成26年3月）	
292	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語（英語）修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
293	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
294	兼担	准教授	ｽｴﾂﾞﾆ ｺｳｲﾁﾛｳ 末國 晃一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		固体物理Ⅰ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3前① 3前② 4通	2 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	
295	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
296	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
297	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
298	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
299	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
300	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
301	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
302	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
303	兼担	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川　良 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学大学院 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	
304	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
305	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
306	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
307	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
308	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④･2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
309	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
310	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中　太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
311	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
312	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
313	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
314	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
315	兼担	准教授	ﾂﾂｲ ｹﾝｹﾞﾝ 堤井　君元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 電気エネルギー工学 卒業研究	4前① 3後③～④ 3前② 4通	0.2 0.1 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年3月）	
316	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
317	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
318	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
319	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西　亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
320	兼担	准教授	ﾄｳﾄﾞｳ ﾐﾂｸﾞ 東藤 貢 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （アメリカ）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成7年4月）	
321	兼担	准教授	ﾄﾐﾔｽ ﾘｮｳｺ 富安 亮子 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		複素関数論	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成31年1月）	
322	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
323	兼担	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾀｹｼ 中川 剛志 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		磁性材料学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3後④ 3前① 3前② 4通	1 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成24年11月）	
324	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
325	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
326	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
327	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
328	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｷｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
329	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
330	兼担	准教授	ﾆｼﾎﾞﾘ ﾏｲｺ 西堀 麻衣子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機器分析学 構造解析学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前② 3後③ 3前① 3前② 4通	2 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成23年7月）	
331	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
332	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
333	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
334	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
335	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
336	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
337	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
338	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
339	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
340	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
341	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
342	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
343	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
344	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾀ ｶﾂﾋｺ 藤田 克彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4前①	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成10年4月）	
345	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
346	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
347	兼担	准教授	ﾎｼﾉ ﾕｳ 星野　友 〈令和3年4月〉		博士（工学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成22年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
348	兼担	准教授	ﾏｴﾊﾀ ｹｲｽｹ 前畑　京介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		現代物理学入門	2前①～②	2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成2年10月）	
349	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・ 後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
350	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
351	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
352	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
353	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学･精神医学から見た キャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
354	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・ 後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
355	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
356	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
357	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
358	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後 ④・2前①・ ②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
359	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
360	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
361	兼担	准教授	ﾓﾘﾉ ｶｲ 森野 佳生 ＜令和3年4月＞		博士（情報理工学）		融合基礎情報学Ⅲ 融合応用情報学A 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 3後③～④ 4通	2 1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （令和1年10月）	
362	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
363	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
364	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田　和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
365	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・② ・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
366	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー一 社会調査法ＩＡ 社会調査法ＩＢ	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
367	兼担	准教授	ﾔﾏｶﾞﾀ ﾕｷﾋｺ 山形　幸彦 ＜令和3年4月＞		工学博士		電気回路Ⅱ 高電圧・パルスパワー工学 卒業研究	3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年5月）	
368	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
369	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
370	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
371	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー一 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
372	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
373	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
374	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
375	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
376	兼担	准教授	ﾖｼﾀｹ ﾂﾖｼ 吉武　剛 ＜令和3年4月＞		博士（情報工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽA※ 電気回路Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	0.2 2 0.1 0.1 0.1 0.4 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成8年4月）	
377	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
378	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
379	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
380	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
381	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
382	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
383	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
384	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
385	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
386	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
387	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
388	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
389	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
390	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
391	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
392	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
393	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
394	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
395	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
396	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
397	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
398	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
399	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
400	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
401	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
402	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
403	兼担	助教	ｶﾀﾋﾗ(ｺﾏﾂ) ﾖｼｺ 片平(小松) 賀子 ＜令和3年4月＞		薬学士		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.5 0.5	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成2年6月）	
404	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
405	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
406	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
407	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
408	兼担	助教	ｷｮｳ(ﾐｮｳｾﾞﾝ) ｶｲｼｮｳ 姜(明全) 海松 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成26年4月）	
409	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
410	兼担	助教	ｻｲﾄｳ ﾋｶﾙ 斉藤　光 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成28年3月）	
411	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
412	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
413	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
414	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾛﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
415	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
416	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
417	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
418	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
419	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
420	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
421	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
422	兼担	助教	ﾄﾐﾀ ｹﾝﾀﾛｳ 富田 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成18年11月）	
423	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
424	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
425	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
426	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
427	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
428	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②・後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
429	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
430	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
431	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
432	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
433	兼担	助教	ﾓﾘﾀ ﾀｲﾁ 森田 太智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成26年6月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
434	兼担	助教	ユ ソンジュン YOO SUNGJUN ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	
435	兼担	助教	ヨシタケ アキラ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・ 後③～④・2 前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
436	兼担	助教	ヨシムラ リイチ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
437	兼担	助教	ロウ ワイ リオン Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部機械工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲﾄｳ ｺｳﾍｲ 伊藤　衡平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		熱力学Ⅰ 熱力学Ⅱ 熱エネルギー変換Ⅰ 水素工学基礎 機械工学特別講義Ⅷ 機械工学卒業研究	2前① 2後③ 3後③ 3後④ 4前①～② 4前②～後④	2 1.5 1 2 0.5 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年7月）	5日
2	専	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｸﾐ 井上　卓見 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機構学・振動制御 機械工学卒業研究	1前①～② 2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 4前②～後④	2 2 1.5 1.5 1.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	5日
3	専	教授	ｷｸﾞﾁ ｶｽﾞｵ 木口　量夫 〈令和3年4月〉		博士（工学）		数値解析基礎 データサイエンス応用 システム工学 機械工学卒業研究	3前① 3後③～④ 3後④ 4前②～後④	2 2 2 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
4	専	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A 工学倫理 データサイエンス序論 工業力学 工学概論※ 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機構学・振動制御 機械工学卒業研究	1前①～② 1後③ 1前① 1後③～④ 2前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 4前②～後④	2 1 1 2 2 0.7 1.5 1.5 1.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	5日
5	専	教授	ｷﾀｶﾞﾜ ﾄｼｱｷ 北川　敏明 〈令和3年4月〉		博士（工学）		燃焼学Ⅰ 燃焼学Ⅱ 機械工学特別講義Ⅶ 機械工学卒業研究	3後③ 3後④ 4前①～② 4前②～後④	1 1 0.5 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年4月）	5日
6	専	教授	ｸﾄﾞｳ ｽｽﾑ 工藤　奨 〈令和3年4月〉		博士（工学）		生体工学基礎 機械工学卒業研究	3後④ 4前②～後④	2 6	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
7	専	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工作実習Ⅰ 機械工作実習Ⅱ 機械製作法Ⅱ 加工機器・精密測定法 機械工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前② 3前④ 4前②～後④	1 1 2 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	5日
8	専	教授	ｺｳﾉ ﾏｻﾐﾁ 河野　正道 〈令和3年4月〉		博士（理学）		機械工学卒業研究	4前②～後④	6	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
9	専	教授	ｻｻｷ ｶｽﾞﾅﾘ 佐々木　一成 〈令和3年4月〉		Doctor der Technischen wissenschaften（ｽｲｽ）		水素工学基礎 機械工学卒業研究	3後④ 4前②～後④	2 6	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年10月）	5日
10	専	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 〈令和3年4月〉		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学特別講義Ⅱ 機械工学卒業研究	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 4前①～② 4前②～後④	1 1 0.5 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	5日
11	専	教授	ｼﾅｶﾞﾜ ｶｽﾞﾅﾘ 品川　一成 〈令和3年4月〉		工学博士		機械工作実習Ⅰ 機械工作実習Ⅱ 機械製作法Ⅰ 機械工学特別講義Ⅴ 機械工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前① 4前①～② 4前②～後④	1 1 2 0.5 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	5日
12	専	教授	ﾄﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 戸田　裕之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 材料力学Ⅲ 機械材料Ⅰ 機械工学実験第一 機械工学卒業研究	2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前①～② 4前②～後④	1 2 1.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成25年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	専	教授	ﾌﾙｶﾜ ﾏｻﾄ 古川　雅人 〈令和3年4月〉		工学博士		流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体力学Ⅰ	2前② 2後③ 2後④	2 1.5 1.5	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和60年4月）	5日
14	専	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾋｻｵ 松永　久生 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学特別講義Ⅰ 機械工学卒業研究	4前①～② 4前②～後④	0.5 6	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
15	専	教授	ﾓﾘ ｼｮｳｼﾞ 森　昌司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		伝熱学Ⅰ 伝熱学Ⅱ 機械工学特別講義Ⅵ 機械工学卒業研究	3前① 3前② 4前①～② 4前②～後④	1.5 1.5 0.5 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成31年3月）	5日
16	専	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎 熱力学Ⅰ 熱力学Ⅱ 内燃機関Ⅰ 内燃機関Ⅱ 機械工学卒業研究	1前①・② 2前① 2後③ 3前② 3後③ 4前②～後④	1 2 1.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	5日
17	専	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械要素設計製図Ⅱ 生体工学基礎 機械工学特別講義Ⅳ 機械工学卒業研究	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 3前② 3後④ 4前①～② 4前②～後④	1 1 0.5 2 0.5 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	5日
18	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 〈令和3年4月〉		工学博士		力学基礎 力学基礎演習 システム制御A システム制御B ロボティックスⅠ システム制御C システム制御D 機械工学特別講義Ⅲ 機械工学卒業研究	1前①～② 1前①～② 3前① 3前② 3後③ 3後③ 3後④ 4前①～② 4前②～後④	2 1 1 1 1 1 1 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	5日
19	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡邉　聡 〈令和3年4月〉		博士（工学）		流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 応用流体工学 機械工学卒業研究	2前② 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 2 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	5日
20	専	准教授	ｲｼｶﾜ ｻﾄｼ 石川　論 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機構学・振動制御 生体工学基礎 機械工学卒業研究	2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 1 1 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
21	専	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 〈令和3年4月〉		工学博士		電磁気学基礎 機械工学卒業研究	1前①・② 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	5日
22	専	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 蔵田　耕作 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基幹教育セミナー 伝熱学Ⅰ 伝熱学Ⅱ 機械工学実験第二 機械工学設計製図 生体工学基礎 機械工学卒業研究	1前② 3前① 3前② 3後③～④ 3後③～④ 3後④ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1 1 2 6	2 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	5日
23	専	准教授	ｻｺﾀﾞ ﾅｵﾔ 迫田　直也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		熱力学Ⅰ 熱力学Ⅱ 機械工学実験第一 機械工学卒業研究	2前① 2後③ 3前①～② 4前②～後④	2 1.5 1 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年7月）	5日
24	専	准教授	ｼﾗﾄﾘ ﾕｳｽｹ 白鳥　祐介 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第二 水素工学基礎 機械工学卒業研究	3後③～④ 3後④ 4前②～後④	1 2 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	5日
25	専	准教授	ｾﾗ ﾄｼﾋﾛ 世良　俊博 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械設計Ⅰ 機械設計Ⅱ 機械要素設計製図Ⅰ 生体工学基礎 機械工学卒業研究	2後④ 3前① 3前① 3後④ 4前②～後④	1.5 1.5 0.5 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年9月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
26	専	准教授	ﾀｶｸﾜ ｵｻﾑ 髙桑　脩 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅲ 材料力学Ⅳ 弾性力学A 機械工学実験第一 弾性力学B 機械材料Ⅱ 機械工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前① 3前①～② 3前② 3後③ 4前②～後④	1.5 1 1 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成30年3月）	5日
27	専	准教授	ﾀﾊﾗ ｹﾝｼﾞ 田原　健二 〈令和3年4月〉		博士（工学）		システム制御A システム制御B システム制御C ロボティックスⅡ システム制御D 機械工学卒業研究	3前① 3前② 3後③ 3後④ 3後④ 4前②～後④	1 1 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
28	専	准教授	ﾂﾀﾞ ｼﾝｲﾁ 津田　伸一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 機械工学設計製図 機械工学卒業研究	2前② 2後③ 2後④ 3前① 3後③～④ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
29	専	准教授	ﾂﾓﾘ ﾌｼﾞｵ 津守 不二夫 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第一 機械要素設計製図Ⅱ 機械工学卒業研究	3前①～② 3前② 4前②～後④	1 0.5 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	5日
30	専	准教授	ﾅｶｼﾏ ﾔｽﾀｶ 中島　康貴 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学卒業研究	4前②～後④	6	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年10月）	5日
31	専	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ｼｹﾞﾙ 濱田　繁 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 材料力学Ⅲ 材料力学Ⅳ 弾性力学A 機械工学実験第一 弾性力学B 機械工学卒業研究	2前① 2前② 2後③ 2後④ 3前① 3前①～② 3前② 4前②～後④	1 2 1.5 1 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	5日
32	専	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾖｼﾉﾘ 濱本　芳徳 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第一 熱エネルギー変換Ⅱ 機械工学卒業研究	3前①～② 3後④ 4前②～後④	1 1 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年3月）	5日
33	専	准教授	ﾊﾔｼ ﾃﾙﾀｹ 林　照剛 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第一 機械要素設計製図Ⅱ 機械工学卒業研究	3前①～② 3前② 4前②～後④	1 0.5 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年4月）	5日
34	専	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎演習 流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 機械工学卒業研究	1前①～② 2前② 2後③ 2後④ 3前① 4前②～後④	1 2 1.5 1.5 1.5 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	5日
35	専	准教授	ﾓﾘ ﾋﾛｷ 森　博輝 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機構学・振動制御 機械工学卒業研究	2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年10月）	5日
36	専	准教授	ﾔｷﾞ ｶｽﾞﾕｷ 八木　和行 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械設計Ⅰ 機械要素Ⅰ 機械設計Ⅱ 機械要素設計製図Ⅰ 機械要素Ⅱ 機械工学実験第二 機械工学卒業研究	2後④ 3前② 3前① 3前① 3前② 3後③～④ 4前②～後④	1.5 1 1.5 0.5 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年10月）	5日
37	専	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 〈令和3年4月〉		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ 生体工学基礎 機械工学卒業研究	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～② 3後④ 4前②～後④	1 1 2 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
38	専	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 〈令和3年4月〉		博士（工学）		プログラミング演習 機械工学設計製図 燃焼学Ⅰ 燃焼学Ⅱ 機械工学卒業研究	1前②・後④・2前①・② 3後③～④ 3後③ 3後④ 4前②～後④	1 1 1 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	5日
39	専	助教	ｶﾀﾔﾏ ﾕｳｽｹ 片山　雄介 〈令和3年4月〉		博士（工学）		流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 機械工学実験第二 機械工学卒業研究	2前② 2後③ 2後④ 3前① 3後③～④ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年4月）	5日
40	専	助教	ｶﾄﾞﾜｷ ﾚﾝ 門脇　廉 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機械工学実験第二 機構学・振動制御 機械工学卒業研究	2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1.5 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年4月）	5日
41	専	助教	ｷﾀ ﾕｳﾀｸ 喜多　由拓 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第一 機械工学卒業研究	3前①～② 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成31年1月）	5日
42	専	助教	ｸﾄﾞｳ ｹﾝﾀﾛｳ 工藤　健太郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工作実習Ⅰ 機械工作実習Ⅱ 機械工学実験第一 機械工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前①～② 4前②～後④	1 1 1 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成30年10月）	5日
43	専	助教	ｻｻｷ ｻｵﾘ 佐々木　沙織 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第二 機械工学卒業研究	3後③～④ 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成31年2月）	5日
44	専	助教	ｻｼﾞﾏ ﾀｶｵ 佐島　隆生 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工作実習Ⅰ 機械工作実習Ⅱ 機械工学実験第一 機械工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前①～② 4前②～後④	1 1 1 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成1年4月）	5日
45	専	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 〈令和3年4月〉		修士（工学）		空間表現実習Ⅰ 工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機械工学実験第二 機構学・振動制御 機械工学卒業研究	1前①～②・後③～④・2前①～② 2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 4前②～後④	2 2 1.5 1.5 1.5 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	5日
46	専	助教	ﾀｶﾔﾏ ﾖｼﾋｻ 高山　佳久 〈令和3年4月〉		工学博士		工業力学 機械力学A 機械力学B 機械力学C 連続体の振動学 機構学・振動制御	2前① 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③	2 1.5 1.5 1.5 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成5年4月）	5日
47	専	助教	ﾀﾁｶﾜ ﾕｳﾔ 立川　雄也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学卒業研究	4前②～後④	6	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年10月）	5日
48	専	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 〈令和3年4月〉		博士（工学）		空間表現実習Ⅰ 機械設計Ⅰ 機械設計Ⅱ 機械工学実験第二 機械工学卒業研究	1前①～②・後③～④・2前①～② 2後④ 3前① 3後③～④ 4前②～後④	2 1.5 1.5 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	5日
49	専	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎演習 データサイエンス応用 機械工学卒業研究	1前①～② 3後③～④ 4前②～後④	1 2 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
50	専	助教	ﾄﾓ ﾖｳｺ 塘　陽子 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第二 機械工学卒業研究	3後③～④ 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成31年4月）	5日
51	専	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 〈令和3年4月〉		博士（エネルギー科学）		プログラミング演習 熱力学Ⅰ 熱力学Ⅱ 熱エネルギー変換Ⅰ 機械工学卒業研究	1前②・後④・2前①・② 2前① 2後③ 3後③ 4前②～後④	1 2 1.5 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	5日
52	専	助教	ﾅｶﾞﾉ ﾕｷﾋﾃﾞ 永野　幸秀 〈令和3年4月〉		修士（工学）		機械工学実験第二 機械工学卒業研究	3後③～④ 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成21年8月）	5日
53	専	助教	ﾉｶﾞﾐ ﾋﾛﾌﾐ 野上　大史 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学卒業研究	4前②～後④	6	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年4月）	5日
54	専	助教	ﾋﾗﾔﾏ ｷｮｳｽｹ 平山　恭介 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学実験第一 機械工学卒業研究	3前①～② 4前②～後④	1 6	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成27年2月）	5日
55	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
56	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
57	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
58	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
59	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 〈令和3年4月〉		博士（理学）		数学演習AⅡ 複素関数論	1後③～④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ 研究所 教授 （平成28年3月1日）	
60	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
61	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
62	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
63	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
64	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
65	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
66	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
67	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
68	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
69	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
70	兼担	教授	ｲｹﾀﾞ　ﾉﾌﾞｵ 池田　伸夫 〈令和3年4月〉		博士（理学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.5	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	
71	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ　ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
72	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原　達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
73	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
74	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ　ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
75	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
76	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
77	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
78	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
79	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ　ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
80	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
81	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
82	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
83	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
84	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
85	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
86	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
87	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
88	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
89	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
90	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
91	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
92	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
93	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
94	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
95	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
96	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
97	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
98	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
99	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
100	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
101	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
102	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
103	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
104	兼担	教授	ｶﾐﾔﾏ ﾅｵﾕｷ 神山　直之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		ベクトル解析と微分方程式 複素関数論	2前①～② 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ 研究所 教授 （平成23年10月）	
105	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
106	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
107	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
108	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
109	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
110	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
111	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
112	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
113	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
114	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
115	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
116	兼担	教授	ｸﾗｳﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②･後④･2前①･② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
117	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
118	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①･②･後③･④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
119	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
120	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
121	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤　雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する　　る週当たり平均日数
122	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
123	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
124	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
125	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
126	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
127	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
128	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
129	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
130	兼担	教授	ｼﾏｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江　憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
131	兼担	教授	ｽｷﾞﾊﾗ ﾕｳｼﾞ 杉原　裕司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成4年4月）	
132	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
133	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
134	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
135	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
136	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
137	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
138	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
139	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋　厚史 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎演習 工学概論※	1前①～② 2前①～②	1 0.4	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
140	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 髙橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
141	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
142	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
143	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
144	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中　敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
145	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中　悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （学術博士） （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B 応用量子物理学入門※	1後④ 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
146	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
147	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
148	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
149	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
150	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
151	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
152	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
153	兼担	教授	ﾂｼﾞ ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
154	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
155	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
156	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
157	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
158	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
159	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
160	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
161	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
162	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
163	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
164	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
165	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学・男性学Ⅰ 女性学・男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
166	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
167	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
168	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③・④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
169	兼担	教授	ﾊﾔｼ(ｲﾄｳ) ｱｶﾘ 林(伊藤)　灯 〈令和3年4月〉		Ph.D. in Chemistry (ｱﾒﾘｶ)		水素工学基礎 機械工学卒業研究	3後④ 4前②～後④	2 6	1 1	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授 （平成23年4月）	
170	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林　克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
171	兼担	教授	ﾊﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 原　一広 ＜令和3年4月＞		理学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
172	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
173	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
174	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
175	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
176	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
177	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
178	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ﾔｽﾋﾃﾞ 福本 康秀 〈令和3年4月〉		理学博士		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ 研究所 教授 （平成7年10月1日）	
179	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
180	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
181	兼担	教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾉｿﾞﾑ 藤本　望 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※ 原子力工学概論※	2前①～② 2前①～②	0.5 0.8	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
182	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
183	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
184	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
185	兼担	教授	ﾎﾝﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
186	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
187	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
188	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する　　る週当たり平均日数
189	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
190	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
191	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
192	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾋﾛｼｹﾞ 松本　広重 〈令和3年4月〉		博士（工学）		水素工学基礎	3後④	2	1	九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 教授 （平成21年4月）	
193	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
194	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
195	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
196	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
197	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
198	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		Ｄ，Ｅ，Ａ， （修士）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
199	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
200	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
201	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤　伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
202	兼担	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｶｽﾞ 村上　恭和 〈令和3年4月〉		博士（工学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.6	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
203	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
204	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田　幸路 〈令和3年4月〉		博士（工学）		先端技術入門B 原子力工学概論※	1後④ 2前①～②	1 0.6	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
205	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
206	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
207	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
208	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
209	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
210	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
211	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤)　裕美 〈令和3年4月〉		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A 電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	1前② 1後③ 2後③ 2後④	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
212	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
213	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
214	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾀｶｼ 吉田　敬 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	
215	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
216	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
217	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
218	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
219	兼担	准教授	ｱｻｲ ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
220	兼担	准教授	ｱﾗﾀ ｼﾞｭﾝﾍﾟｲ 荒田　純平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		数値解析基礎 システム工学 生体工学基礎 機械工学卒業研究	3前① 3後④ 3後④ 4前②～後④	2 2 2 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年6月）	
221	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
222	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③・④ 3前①・②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
223	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①・後③ 2後③・④ 2前①・② 3前②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
224	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
225	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
226	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ) 祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
227	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
228	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
229	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
230	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端） 紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
231	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ ﾔｵﾋﾛ 稲垣　八穂広 〈令和3年4月〉		博士（工学）		原子力工学概論※	2前①～②	0.6	1	九州大学 工学研究院 准教授 （昭和63年8月）	
232	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
233	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 〈令和3年4月〉		博士(理学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門	1前①～② 2前①～②	1 0.2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
234	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
235	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
236	兼担	准教授	ｳｵｽﾞﾐ ﾕｳｽｹ 魚住　裕介 〈令和3年4月〉		工学博士		応用量子物理学入門	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年41月）	
237	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
238	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
239	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
240	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
241	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
242	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis （ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
243	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
244	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
245	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
246	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部　弘高 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 応用量子物理学入門	1前①～② 2前①～②	2 0.2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
247	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｸ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
248	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
249	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
250	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ） ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
251	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
252	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
253	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
254	兼担	准教授	ｶｼﾞ ｼｽﾞｵ 鍛治　静雄 〈令和3年4月〉		博士（理学）		ベクトル解析と微分方程式	2前①～②	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ 研究所 准教授 （平成30年4月）	
255	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
256	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する　　る週当たり平均日数
257	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
258	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①･② 2前①･② 2後③･④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
259	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
260	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
261	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
262	兼担	准教授	ｶﾜｴ ﾀﾂﾔ 河江　達也 〈令和3年4月〉		博士(理学)		応用量子物理学入門	2前①～②	0.2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	
263	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
264	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｯｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①･② 2前①･②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
265	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
266	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
267	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
268	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
269	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
270	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
271	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
272	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
273	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
274	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
275	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
276	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
277	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
278	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
279	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
280	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
281	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
282	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
283	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
284	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士（専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
285	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
286	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②･後③～④･2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
287	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
288	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
289	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語（英語）修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
290	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
291	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
292	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
293	兼担	准教授	ｾｶﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
294	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
295	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
296	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
297	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
298	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
299	兼担	准教授	ﾀｶﾞﾐ ﾀﾞｲｽｹ 田上　大助 〈令和3年4月〉		博士（数理学）		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2後③～④	2	2	九州大学 ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成10年10月1日）	
300	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
301	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
302	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
303	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
304	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
305	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
306	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
307	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
308	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
309	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
310	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
311	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
312	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
313	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
314	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
315	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
316	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
317	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
318	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する　　る週当たり平均日数
319	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
320	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
321	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
322	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
323	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学･言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
324	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
325	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
326	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
327	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
328	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
329	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
330	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
331	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産･食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
332	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
333	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④･2前①～② 2後③･④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
334	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
335	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
336	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
337	兼担	准教授	ﾏｴﾊﾀ ｹｲｽｹ 前畑　京介 〈令和3年4月〉		博士(工学)		現代物理学入門	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成2年10月）	
338	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
339	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
340	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
341	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦 秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
342	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
343	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
344	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
345	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
346	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
347	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
348	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 (人間環境学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
349	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
350	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
351	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
352	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田　和弘 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門	1前①～② 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
353	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
354	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
355	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
356	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
357	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
358	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
359	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
360	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
361	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
362	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
363	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
364	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
365	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
366	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
367	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
368	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
369	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
370	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
371	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
372	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
373	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
374	兼担	講師	ﾊﾞｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
375	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
376	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
377	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
378	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
379	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
380	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ｲﾉﾍﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
381	兼担	講師	ﾜｷﾔﾏ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
382	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
383	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・CALL 1 学術英語・CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
384	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
385	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
386	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
387	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
388	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
389	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
390	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
391	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
392	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
393	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
394	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
395	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
396	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
397	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
398	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
399	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
400	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
401	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
402	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
403	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
404	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
405	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
406	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
407	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
408	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川　龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
409	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
410	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
411	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部航空宇宙工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱﾍﾞ ｹﾝｲﾁ 安倍 賢一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学倫理 流れ学Ⅰ 航空流体力学 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	1前① 2前② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	5日
2	専	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎演習 工学概論※ 航空宇宙伝熱学 航空宇宙基礎物理学 宇宙利用学※ 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	1前①～② 2前①～② 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	1 0.3 2 2 1 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	5日
3	専	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		先端技術入門B 軌道力学 人工衛星工学 航空宇宙機設計論 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	1後④ 2後③～④ 3前①～② 4前①～② 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	1 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	5日
4	専	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習 データサイエンス序論 誘導・制御基礎論Ⅰ 誘導・制御基礎論Ⅱ 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	1前①～② 1前①～② 1後③～④ 3前①～② 3後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 1 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	5日
5	専	教授	ﾔｼﾛ ｼｹﾞｷ 矢代 茂樹 〈令和3年4月〉		博士（工学）		弾性力学 基礎振動学 基礎構造力学 応用構造力学 航空宇宙機振動学 航空宇宙機材料学 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	3前①～② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 3後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年4月）	5日
6	専	准教授	ｲﾉｳｴ ﾁﾋﾛ 井上 智博 〈令和3年4月〉		博士（工学）		エネルギー変換基礎論 ジェットエンジン工学 ロケット工学 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	3前①～② 3後④ 3後③ 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成30年4月）	5日
7	専	准教授	ｵｶﾞﾜ ﾋﾃﾞｱｷ 小川 秀朗 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy (Engineering) (ｲｷﾞﾘｽ)		気体力学 宇宙利用学※ 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	3前① 3後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 1 2 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	5日
8	専	准教授	ﾊﾞﾝﾄﾞｳ(ｷﾀﾉ) ﾏｲ 坂東(北野) 麻衣 〈令和3年4月〉		博士（工学）		応用飛行制御論 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	4前①～② 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年11月）	5日
9	専	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習 飛行力学Ⅰ 飛行力学Ⅱ 産業活動実習Ⅰ 産業活動実習Ⅱ 航空宇宙工学卒業研究	1前①～② 1前①～② 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後③～④ 4前②～後④	2 1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	5日
10	専	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原 尚 〈令和3年4月〉		修士（工学）		プログラミング演習 航空宇宙工学設計実習 航空宇宙工学実験	1前②・後④・ 2前①・② 3後③～④ 4前①～②	1 0.4 0.4	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	5日
11	専	助教	ｼﾝﾓﾄ ﾔｽﾋｻ 新本 康久 〈令和3年4月〉		博士（工学）		航空宇宙工学設計実習 航空宇宙工学実験	3後③～④ 4前①～②	0.4 0.4	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成2年4月）	5日
12	専	助教	ﾅｶﾞｻｷ ｼｭｳｼﾞ 長崎 秀司 〈令和3年4月〉		修士（工学）		航空宇宙工学設計実習 航空宇宙工学実験	3後③～④ 4前①～②	0.4 0.4	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年4月）	5日
13	専	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾔｽﾋﾛ 吉村 康広 〈令和3年4月〉		博士（工学）		航空宇宙工学設計実習 航空宇宙工学実験	3後③～④ 4前①～②	0.4 0.4	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成30年4月）	5日
14	専	助教	ﾘ ﾁﾝｲ 李 秦宜 〈令和3年4月〉		工学博士 （中国）		工業力学 熱力学Ⅰ 航空宇宙工学設計実習 航空宇宙工学実験	2前① 2前① 3後③～④ 4前①～②	2 2 0.4 0.4	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	5日
15	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
16	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
17	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
18	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
19	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
20	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼｵ 阿部 吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
21	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼﾋｻ 阿部 芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
22	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
23	兼担	教授	ｱﾗﾔ ｸﾆｵ 荒谷 邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
24	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ ﾋﾃﾞﾀｶ 有村 秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
25	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
26	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ ﾏｻﾋｺ 安中 雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
27	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ ﾏﾘｺ 五十君 麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
28	兼担	教授	ｲｹﾀﾞ ﾉﾌﾞｵ 池田 伸夫 〈令和3年4月〉		博士（理学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.7	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	
29	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上 浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
30	兼担	教授	ｲｼｲ ﾕﾀｶ 石井 豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
31	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
32	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ ﾋﾛﾕｷ 井嶋 博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
33	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ ｶｵﾙ 出水 薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
34	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
35	兼担	教授	ｲﾄｳ ｺｳｼﾞ 伊藤 幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本ーその歴史と現在ー【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
36	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ ﾕｽﾞﾙ 稲濱 譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
37	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ｼｹﾞｷ 井上 滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
38	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
39	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
40	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
41	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
42	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
43	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
44	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
45	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
46	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
47	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
48	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
49	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
50	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
51	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
52	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
53	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
54	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
55	兼担	教授	ｵｺﾞｳ ｾｲｼﾞ 小江 誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
56	兼担	教授	ｵｻﾞｷ ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
57	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
58	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
59	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
60	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
61	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
62	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
63	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
64	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
65	兼担	教授	ｶﾐﾔﾏ　ﾅｵﾕｷ 神山　直之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		複素関数論	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成23年10月）	
66	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
67	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
68	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
69	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
70	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ　ｼﾝﾔ 雉本　信哉 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A 工学概論※	1前①～② 1後③ 2前①～②	1 1 0.7	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
71	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
72	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾊｼﾞﾒ 木村　元 〈令和3年4月〉		博士（工学）		情報処理概論	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	
73	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
74	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
75	兼担	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
76	兼担	教授	ｸﾎﾞ　ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
77	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
78	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
79	兼担	教授	ｸﾗｸﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②･後④･2前①･② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
80	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
81	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①･②･後③･④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
82	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
83	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
84	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③･2前①･② 1後④･2前①･②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
85	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②･後③～④ ･2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
86	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
87	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齋藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
88	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
89	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
90	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①･② 3前①･②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
91	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
92	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
93	兼担	教授	ｼﾉﾉｷﾞ ｱｷﾋｺ 篠﨑　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業･企業【隔年】	3前①･②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
94	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
95	兼担	教授	ｼﾗｲ ﾄﾓﾕｷ 白井 朋之 〈令和3年4月〉		博士（数理科学）		応用確率論	3後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成16年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
96	兼担	教授	ｽｷﾞﾊﾗ ﾕｳｼﾞ 杉原 裕司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成4年4月）	
97	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
98	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
99	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
100	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
101	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
102	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
103	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
104	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
105	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
106	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
107	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
108	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
109	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B 応用量子物理学入門※	1後④ 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
110	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
111	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
113	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
114	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
115	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
116	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
117	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
118	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
119	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
120	兼担	教授	ﾄﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 戸田 裕之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 材料力学Ⅲ	2前① 2前② 2後③	1 2 1.5	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成25年4月）	
121	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩA 中国語ＩB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
122	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
123	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
124	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
125	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
126	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
127	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
128	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
129	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
130	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学・男性学Ⅰ 女性学・男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
131	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
132	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濵瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③・④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
133	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林　克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
134	兼担	教授	ﾊﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 原　一広 〈令和3年4月〉		理学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
135	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
136	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
137	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
138	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
139	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
140	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
141	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
142	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
143	兼担	教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾉｿﾞﾑ 藤本 望 〈令和3年4月〉		博士(工学)		現代物理学入門 原子力工学概論※ 工学概論※	2前①～② 2前①～② 2前①～②	2 0.8 0.6	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
144	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
145	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
146	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
147	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近･現代建築史 先端技術入門B	2前①･② 2後③･④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
148	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
149	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
150	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
151	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
152	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
153	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
154	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
155	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
156	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②･後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
157	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
158	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
159	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
160	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
161	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
162	兼担	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｶｽﾞ 村上 恭和 〈令和3年4月〉		博士（工学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.5	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
163	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
164	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
165	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 〈令和3年4月〉		博士(工学)		先端技術入門B 原子力工学概論※	1後④ 2前①～②	1 0.6	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
166	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
167	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
168	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
169	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②･後③～④ 2前①･②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
170	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
171	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
172	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①･②･後③･④ 1後③･④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
173	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
174	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 〈令和3年4月〉		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A 電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	1前② 1後③ 2後③ 2後④	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
175	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
176	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
177	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾀｶｼ 吉田 敬 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	
178	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
179	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
180	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
181	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
182	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
183	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
184	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
185	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･② 3前②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
186	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
187	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
188	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ) 祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
189	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
190	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
191	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶｼﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員･学校心理学）	1前①～②･後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
192	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端） 紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
193	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ ﾔｽﾋﾛ 稲垣　八穂広 〈令和3年4月〉		博士（工学）		原子力工学概論※	2前①～②	0.6	1	九州大学 工学研究院 准教授 （昭和63年8月）	
194	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
195	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 〈令和3年4月〉		博士(理学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
196	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
197	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
198	兼担	准教授	ｳｵｽﾞﾐ ﾕｳｽｹ 魚住　裕介 〈令和3年4月〉		工学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
199	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
200	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
201	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
202	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
203	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
204	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis （ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
205	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
206	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
207	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
208	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	2 0.2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
209	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
210	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
211	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
212	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
213	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
214	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
215	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
216	兼担	准教授	ｶｼﾞ ｼｽﾞｵ 鍛冶 静雄 〈令和3年4月〉		博士（理学）		ベクトル解析と微分方程式	2前①～②	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成30年4月）	
217	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
218	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
219	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
220	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
221	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
222	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
223	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
224	兼担	准教授	ｶﾜｴ ﾀﾂﾔ 河江　達也 〈令和3年4月〉		博士(理学)		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	
225	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 (計算機科学)		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
226	兼担	准教授	ｶﾝ ｲﾏｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
227	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩＡ 身体運動科学実習ＩＢ	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
228	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
229	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
230	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
231	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
232	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
233	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ フランス語ⅡＡ フランス語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
234	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 蔵田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
235	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
236	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
237	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
238	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
239	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
240	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
241	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
242	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④ 1後③・④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
243	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
244	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
245	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
246	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
247	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩA フランス語ＩB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクＩ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
248	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ｉ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
249	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ＩA ロシア語ＩB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
250	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ｉ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ｉ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②･後③～④･2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
251	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
252	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
253	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
254	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
255	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ｉ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
256	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
257	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
258	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
259	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
260	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ｉ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
261	兼担	准教授	ﾀｶｸﾜ ｵｻﾑ 髙桑　脩 〈令和3年4月〉		博士（理学）		材料力学Ⅲ 材料力学Ⅳ	2後③ 2後④	1.5 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成30年3月）	
262	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
263	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
264	兼担	准教授	ﾀｶﾞﾐ ﾀﾞｲｽｹ 田上 大助 〈令和3年4月〉		博士（数理学）		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成10年10月）	
265	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田 利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
266	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田 雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
267	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田 友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
268	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻 義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
269	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘 卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
270	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中 観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
271	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
272	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中 晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
273	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷 元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
274	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田 淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
275	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野 裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
276	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村 浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
277	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
278	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西 高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
279	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
280	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足 美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
281	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島 楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
282	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
283	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野　道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
284	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
285	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
286	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
287	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
288	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
289	兼担	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ｼｹﾞﾙ 濱田 繁 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 材料力学Ⅲ 材料力学Ⅳ	2前① 2前② 2後③ 2後④	1 2 1.5 1	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
290	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井） 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
291	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
292	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
293	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｼﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
294	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
295	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
296	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
297	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
298	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
299	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
300	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
301	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
302	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
303	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
304	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
305	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
306	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
307	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
308	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
309	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
310	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野　敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
311	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
312	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
313	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
314	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
315	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
316	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
317	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田　和弘 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
318	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
319	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー一 社会調査法ＩA 社会調査法ＩB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
320	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
321	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
322	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
323	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー一 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
324	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
325	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ　ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
326	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ　ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
327	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ　ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
328	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
329	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ　ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
330	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
331	兼担	准教授	ﾘ　ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
332	兼担	准教授	ﾘ　ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ＩA 中国語ＩB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
333	兼担	准教授	ﾘｭｳ　ﾋｮｳ 劉　驍 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ＩA 中国語ＩB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
334	兼担	准教授	ﾙｰﾅ　ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
335	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
336	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
337	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
338	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
339	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後 ③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
340	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
341	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella　Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
342	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
343	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後 ③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
344	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
345	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
346	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
347	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ･ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ･ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
348	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
349	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
350	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
351	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
352	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
353	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
354	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
355	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
356	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
357	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
358	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
359	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
360	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
361	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
362	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
363	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
364	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
365	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
366	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
367	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
368	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
369	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
370	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
371	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
372	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
373	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
374	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
375	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
376	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
377	兼担	助教	ﾐﾔﾀ　ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
378	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
379	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
380	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
381	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
382	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾅｵﾋｺ 伊藤 直彦 〈令和3年4月〉		工学士		工業マネジメント	4前①～②	2	1	一般財団法人 日本航空機開発協会 （平成26年6月）	
383	兼任	講師	ｺﾆｼ ﾀﾀﾞﾋﾄ 小西 忠仁 〈令和3年4月〉		修士（工学）		航空機運用・整備	4前①～②	1	1	全日本空輸株式会社 （平成12年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
384	兼任	講師	ｽｷﾞﾓﾘ ｹﾝｲﾁ 杉森 健一 ＜令和3年4月＞		学士（工学）		宇宙工学特別講義	4前①～②	1	1	三菱電機株式会社鎌倉製作所 （平成6年4月）	
385	兼任	講師	ﾊｾ ｺｳﾍｲ 長谷 浩平 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		工業マネジメント	4前①～②	2	1	国土交通省 （平成18年4月）	
386	兼任	講師	ﾊﾏﾍﾞ ﾏｻｱｷ 浜辺 正昭 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		ジェットエンジン構造設計	4前①～②	1	1	株式会社ＩＨＩ （平成13年4月）	
387	兼任	講師	ﾋﾗｲﾜ ﾃﾂｵ 平岩 徹夫 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		宇宙環境制御システム	4前①～②	1	1	宇宙航空研究開発機構 （平成15年10月）	
388	兼任	講師	ﾌﾀﾂﾃﾞﾗ ﾅｵｷ 二ツ寺 直樹 ＜令和3年4月＞		工学修士		航空宇宙機設計生産システム	4前①～②	1	1	三菱航空機株式会社 （平成20年4月）	
389	兼任	講師	ﾜｶﾔﾏ ﾄｼｿﾞｳ 若山 智三 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		航空工学特別講義	4前①～②	1	1	川崎重工業株式会社 （平成5年4月）	
390	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾕｳﾀ 渡邊 悠太 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎設計製図	3前①～②	2	1	久留米工業高等専門学校 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部量子物理工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲｹﾀﾞ ﾉﾌﾞｵ 池田 伸夫 〈令和3年4月〉		博士(理学)		データサイエンス序論 応用量子物理学入門※ 電磁気学 量子物理工学演習Ⅰ※ 量子物理工学演習Ⅲ 電気・電子回路 ビーム工学 量子物理工学概論※ 量子物理工学特別講義Ⅲ 量子物理工学科卒業研究	1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 2後③～④ 3後③～④ 2後③～④ 3前①～② 3後④ 4前①～② 4通	2 0.4 2 0.5 1 2 2 0.1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	5日
2	専	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 物理化学	1前①･後③ 1前②･後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	5日
3	専	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 〈令和3年4月〉		Doctor of philosophy (ｱﾒﾘｶ)		先端技術入門B 応用量子物理学入門※ 量子物理工学演習Ⅲ 固体物理学Ⅰ 固体物理学Ⅱ 量子物理工学概論※ 量子物理工学科卒業研究	1後④ 2前①～② 3後③～④ 3後③～④ 4前①～② 3後④ 4通	1 0.1 1 2 2 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	5日
4	専	教授	ﾊﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 原 一広 〈令和3年4月〉		理学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	5日
5	専	教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾉｿﾞﾑ 藤本 望 〈令和3年4月〉		博士(工学)		工学倫理 現代物理学入門 工学概論※ 原子力工学概論※ 量子物理工学演習Ⅲ 連続体力学 量子物理工学概論※ 原子炉物理学Ⅰ 原子炉物理学Ⅱ 産業活動実習 量子物理工学科卒業研究	1前① 2前①～② 2前①～② 2前①～② 3後③～④ 2後③～④ 3後④ 3後③ 3後④ 3前①～② 4通	1 2 0.5 0.6 1 2 0.3 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	5日
6	専	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｶｽﾞ 村上 恭和 〈令和3年4月〉		博士（工学）		応用量子物理学入門※ 振動・波動論基礎 量子物理工学演習Ⅱ※ 量子物理工学演習Ⅲ 統計力学Ⅰ 量子物理工学概論※ 量子物理工学科卒業研究	2前①～② 2後③～④ 3前①～② 3後③～④ 3前①～② 3後④ 4通	0.5 2 0.5 1 2 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	5日
7	専	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 〈令和3年4月〉		博士(工学)		先端技術入門B 原子力工学概論※ 量子物理工学演習Ⅲ 量子物理工学概論※ 原子炉熱流動工学 量子物理工学科卒業研究	1後④ 2前①～② 3後③～④ 3後④ 3後③～④ 4通	1 0.8 1 0.1 2 8	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	5日
8	専	准教授	ｲﾅｶﾞｷ ﾔｵﾋﾛ 稲垣 八穂広 〈令和3年4月〉		博士（工学）		原子力工学概論※ 物理化学 量子物理工学演習Ⅲ 放射化学 現代科学技術論 量子物理工学概論※ 材料分析学 量子物理工学特別講義Ⅳ 量子物理工学科卒業研究	2前①～② 2後③～④ 3後③～④ 3前①～② 3後③～④ 3後④ 4前①～② 4前①～② 4通	0.6 2 1 2 1 0.1 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （昭和63年8月）	5日
9	専	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤) 直子 〈令和3年4月〉		博士(理学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※ 量子物理工学演習Ⅱ※ 量子物理工学演習Ⅲ 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 量子物理工学概論※ 量子物理工学科卒業研究	1前①～② 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 3前① 3前② 3後④ 4通	1 0.1 0.5 1 1 1 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	5日
10	専	准教授	ｳｵｽﾞﾐ ﾕｳｽｹ 魚住 裕介 〈令和3年4月〉		工学博士		応用量子物理学入門※ 量子物理工学演習Ⅲ 原子核物理学入門 原子核物理学 量子物理工学科卒業研究	2前①～② 3後③～④ 2後③～④ 3後③～④ 4通	0.1 1 2 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	5日
11	専	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 応用量子物理学入門※ 量子物理工学演習Ⅲ 統計力学Ⅱ 応用光学 量子物理工学概論※ 量子物理工学科卒業研究	1前①～② 2前①～② 3後③～④ 3後③～④ 3前①～② 3後④ 4通	2 0.3 1 2 2 0.1 8	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	6日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	専	准教授	ｶﾜｴ ﾀﾂﾔ 河江 達也 〈令和3年4月〉		博士(理学)		応用量子物理学入門※ 力学 量子物理工学演習Ⅰ※ 量子物理工学演習Ⅲ 量子力学Ⅲ 量子物理工学概論※ 量子物理工学特別講義Ⅰ 量子物理工学科卒業研究	2前①～② 2後③～④ 2後③～④ 3後③～④ 3後③ 3後④ 3後③～④ 4通	0.3 2 0.5 1 1 0.1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	5日
13	専	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦 秀明 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎 量子物理工学演習Ⅲ 創造科学工学基礎実験 量子物理工学実験 プラズマ理工学 核融合概論 量子物理工学特別講義Ⅱ 量子物理工学科卒業研究	1前①～② 3後③～④ 2後③～④ 3通 3後③ 3後④ 3後③～④ 4通	2 1 0.4 0.6 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	5日
14	専	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※ 量子物理工学演習Ⅲ 材料科学概論 量子物理工学科卒業研究	1前①～② 2前①～② 3後③～④ 3前①～② 4通	1 0.1 1 2 8	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	5日
15	専	准教授	ﾘｭｳ ｳｪｲ 劉 維 〈令和3年4月〉		博士(工学)		量子物理工学演習Ⅲ 輸送現象論 原子炉熱流動工学 量子物理工学科卒業研究	3後③～④ 3前①～② 3後③～④ 4通	1 2 2 8	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成29年3月）	5日
16	専	助教	ｱﾘﾏ ﾀﾂﾐ 有馬 立身 〈令和3年4月〉		博士（工学）		創造科学工学基礎実験 データ解析概論※ 量子物理工学実験	2後③～④ 3前①～② 3通	0.1 0.3 0.2	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 助教 （平成6年4月）	5日
17	専	助教	ｱﾘﾏ ﾋﾃﾞﾋｺ 有馬 秀彦 〈令和3年4月〉		博士（工学）		データ解析概論※ 量子物理工学実験	3前①～② 3通	0.3 0.2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 助教 （平成5年4月）	5日
18	専	助教	ｲﾅｶﾞｷ ﾕｳｼﾞ 稲垣 祐次 〈令和3年4月〉		博士（理学）		創造科学工学基礎実験 データ解析概論※ 量子物理工学実験	2後③～④ 3前①～② 3通	0.1 0.1 0.2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	5日
19	専	助教	ｼｷﾞｮｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 執行 信寛 〈令和3年4月〉		博士(工学)		創造科学工学基礎実験 量子線物理計測 データ解析概論※ 量子物理工学実験	2後③～④ 2後③～④ 3前①～② 3通	0.1 2 0.1 0.2	1 1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 助教 （平成10年4月）	5日
20	専	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ VISIKOVSKIY ANTON 〈令和3年4月〉		博士(理学)		プログラミング演習 データ解析概論※	1前②・後④・ 2前①・② 3前①～②	1 0.1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	5日
21	専	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高 芳樹 〈令和3年4月〉		博士（工学）		プログラミング演習 創造科学工学基礎実験 データ解析概論※ 量子物理工学実験 ソフトマター物理学	1前②・後④・ 2前①・② 2後③～④ 3前①～② 3通 3後③～④	1 0.1 0.4 0.2 2	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	4.5日
22	専	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾀﾂﾔ 松元 達也 〈令和3年4月〉		博士(工学)		データ解析概論※ 量子物理工学実験	3前①～② 3通	0.3 0.2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成12年4月）	5日
23	専	助教	ﾖｼｵｶ ｻﾄﾙ 吉岡 聡 〈令和3年4月〉		博士（工学）		創造科学工学基礎実験 データ解析概論※ 量子物理工学実験	2後③～④ 3前①～② 3通	0.1 0.3 0.2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成19年4月）	5日
24	専	助教	ﾖﾈﾑﾗ ﾕｳｼﾞﾛｳ 米村　祐次郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		創造科学工学基礎実験 データ解析概論※	2後③～④ 3前①～②	0.1 0.1	1 1	九州大学大学院 工学研究院 助教 （平成19年1月）	5日
25	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
26	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
27	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
28	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
29	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 〈令和3年4月〉		博士(理学)		数学演習AⅡ ベクトル解析と微分方程式	1後③～④ 2前①～②	1 2	1 1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成28年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
31	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
32	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井　文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
33	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
34	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
35	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ　ｼﾞｭﾝ 安東　潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
36	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
37	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
38	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ　ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授	
39	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
40	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原　達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
41	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
42	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
43	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
44	兼担	教授	ｲﾄｳ ｺｳﾍｲ 伊藤 衡平 〈令和3年4月〉		博士(工学)		熱力学Ⅰ	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年7月）	
45	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
46	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
47	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上 卓見 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎 工業力学	1前①～② 2前①	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
48	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
49	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ　ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
50	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
51	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
52	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
53	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
54	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
55	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
56	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
57	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
58	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
59	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
60	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
61	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
62	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
63	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
64	兼担	教授	ｵｺﾞｳ ｾｲｼﾞ 小江 誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
65	兼担	教授	ｵｻﾞｷ ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
66	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
67	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
68	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
69	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
70	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ･アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
71	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
72	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
73	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
74	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
75	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
76	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
77	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
78	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ　ｼﾝﾔ 雉本 信哉 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎 先端技術入門A 工業力学 工学概論※	1前①～② 1後③ 2前① 2前①～②	2 1 2 0.7	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
79	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
80	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾊｼﾞﾒ 木村 元 〈令和3年4月〉		博士(工学)		情報処理概論	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	
81	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
82	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
83	兼担	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
84	兼担	教授	ｸﾎﾞ　ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
85	兼担	教授	ｸﾏﾉ　ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
86	兼担	教授	ｸﾒ　ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
87	兼担	教授	ｸﾗﾌﾞﾒ　ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
88	兼担	教授	ｸﾜﾉ　ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
89	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
90	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
91	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
92	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
93	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
94	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
95	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齋藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
96	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
97	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
98	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
99	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
100	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
101	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠﨑　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
102	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
103	兼担	教授	ｼﾗｲ ﾄﾓﾕｷ 白井 朋之 52<令和3年4月>		博士(数理科学)		応用確率論	3後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成16年4月）	
104	兼担	教授	ｽｷﾞﾊﾗ ﾕｳｼﾞ 杉原 裕司 <令和3年4月>		博士(工学)		工学概論※	2前①～②	0.4	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成4年4月）	
105	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
106	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
107	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
108	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
109	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
110	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
111	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
112	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎演習 工学概論※	1前①～② 2前①～②	1 0.4	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
113	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
114	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
115	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
116	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
117	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
118	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
119	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
120	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
121	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
122	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
123	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
124	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
125	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
126	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
127	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
128	兼担	教授	ﾄﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 戸田 裕之 〈令和3年4月〉		博士（工学）		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ	2前① 2前②	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成25年4月）	
129	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
130	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
131	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
132	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
133	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
134	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
135	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
136	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー一 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
137	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー一 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
138	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
139	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
140	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
141	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
142	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
143	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
144	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー一 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
145	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
146	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
147	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー一 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
148	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
149	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
150	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
151	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
152	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ﾏｻﾄ 古川 雅人 〈令和3年4月〉		工学博士		流れ学Ⅰ	2前②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和60年4月）	
153	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
154	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
155	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
156	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
157	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
158	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
159	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
160	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
161	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
162	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
163	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
164	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
165	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
166	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
167	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		Ｄ，Ｅ，Ａ， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
168	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
169	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
170	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
171	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
172	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上 修 〈令和3年4月〉		博士(工学)		電磁気学基礎 熱力学Ⅰ	1前①・② 2前①	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
173	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
174	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
175	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
176	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
177	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｲｷﾞﾘｽ)		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
178	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
179	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
180	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
181	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
182	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
183	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
184	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
185	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡邉　聡 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		流れ学Ⅰ	2前②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
186	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
187	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 （TESOL学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
188	兼担	准教授	ｱｲｷﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
189	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
190	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
191	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
192	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
193	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･②	2 4 2 2	1 2 2 2	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
194	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
195	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
196	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
197	兼担	准教授	ｲｼｶﾜ ｻﾄｼ 石川 論 〈令和3年4月〉		博士(工学)		工業力学	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年4月）	
198	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
199	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員･学校心理学）	1前①～②･後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
200	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
201	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
202	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
203	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
204	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
205	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
206	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
207	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
208	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
209	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis （ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
210	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
211	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
212	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
213	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
214	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
215	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
216	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ） ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
217	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
218	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
219	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
220	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
221	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
222	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
223	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー一 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
224	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
225	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
226	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
227	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
228	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｯｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
229	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー一 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
230	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
231	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
232	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
233	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
234	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
235	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
236	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
237	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
238	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
239	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
240	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
241	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
242	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
243	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
244	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
245	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
246	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
247	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
248	兼担	准教授	ｻｺﾀﾞ ﾅｵﾔ 迫田 直也 〈令和3年4月〉		博士(工学)		熱力学Ⅰ	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年7月）	
249	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
250	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
251	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
252	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
253	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②･後③～④･2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
254	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
255	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
256	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
257	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
258	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
259	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
260	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
261	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
262	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
263	兼担	准教授	ﾀｲ ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
264	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
265	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
266	兼担	准教授	ﾀｶﾐ ﾀﾞｲｽｹ 田上 大助 〈令和3年4月〉		博士（数理学）		フーリエ・ラプラス変換と偏微分方程式	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成10年10月）	
267	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
268	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
269	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
270	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
271	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④･2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
272	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
273	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
274	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①･②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
275	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
276	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
277	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
278	兼担	准教授	ﾂﾀﾞ ｼﾝｲﾁ 津田 伸一 〈令和3年4月〉		博士(工学)		流れ学Ⅰ	2前②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年4月）	
279	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
280	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
281	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
282	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西　亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
283	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
284	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
285	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①･後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
286	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
287	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
288	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
289	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
290	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
291	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学･言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
292	兼担	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ｼｹﾞﾙ 濱田 繁 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ	2前① 2前②	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
293	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井） 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
294	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼｺｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
295	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
296	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
297	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
298	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
299	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ　ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
300	兼担	准教授	ﾋﾗｲ　ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
301	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ　ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
302	兼担	准教授	ﾋﾛｾ　ｹｲ 廣瀬　慧 〈令和3年4月〉		博士（機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能 複素関数論	1後③～④・2前①～② 2後③・④ 2後③～④	4 2 2	2 2 1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成28年4月）	
303	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
304	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ　ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
305	兼担	准教授	ﾎｰﾙ　ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
306	兼担	准教授	ﾏｷ　ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
307	兼担	准教授	ﾏｽｵ　ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
308	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ　ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
309	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ　ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
310	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ　ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
311	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ　ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
312	兼担	准教授	ﾐｷ　ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
313	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ　ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
314	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ　ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
315	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
316	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
317	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
318	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森 英男 〈令和3年4月〉		博士(工学)		力学基礎演習 流れ学Ⅰ	1前①～② 2前②	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
319	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾛｷ 森 博輝 〈令和3年4月〉		博士(工学)		工業力学	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年10月）	
320	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
321	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
322	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
323	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
324	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
325	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
326	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
327	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
328	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
329	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
330	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
331	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
332	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
333	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
334	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②･後④ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
335	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
336	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
337	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
338	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
339	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
340	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
341	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
342	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
343	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
344	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
345	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
346	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
347	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
348	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
349	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
350	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ｺﾊﾞｰﾄ･ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	
351	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
352	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
353	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士（人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
354	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
355	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
356	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
357	兼担	助教	ｶﾀﾔﾏ ﾕｳｽｹ 片山 雄介 〈令和3年4月〉		博士(工学)		流れ学Ⅰ	2前②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年4月）	
358	兼担	助教	ｶﾄﾞﾜｷ ﾚﾝ 門脇 廉 〈令和3年4月〉		博士(工学)		工業力学	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年4月）	
359	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学 研究院 助教 （平成30年6月）	
360	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
361	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
362	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
363	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
364	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和 伸行 〈令和3年4月〉		修士(工学)		空間表現実習Ⅰ 工業力学	1前①～②・後③～④・2前①～② 2前①	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
365	兼担	助教	ﾀｶﾔﾏ ﾖｼﾋｻ 髙山 佳久 〈令和3年4月〉		博士(工学)		工業力学	2前①	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成5年4月）	
366	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
367	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
368	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 (情報学)		プログラミング演習	1前②・後④・ 2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
369	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学 研究院 助教 （平成29年10月）	
370	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
371	兼担	助教	ﾀﾏｲ ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
372	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
373	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
374	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 (人間･環境学)		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
375	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学 研究院 助教 （平成25年12月）	
376	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島 裕典 〈令和3年4月〉		博士（エネルギー科学）		プログラミング演習 熱力学Ⅰ	1前②・後④・ 2前①・② 2前①	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
377	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
378	兼担	助教	ﾉﾅｶ　ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
379	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ　ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
380	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
381	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ　ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
382	兼担	助教	ﾐﾔﾀ　ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
383	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ　ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
384	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ　ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
385	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ　ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
386	兼担	助教	ﾛｳ　ﾜｲ　ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部船舶海洋工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 工学倫理 流体力学第一および同演習 流体力学第二および同演習 船舶海洋流体力学第一 船舶海洋流体力学第二 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 2後③ 2後④ 3前① 3後③ 4前① 4前②～後④	2 1 1 1 1.5 1.5 2 2 1 6	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	5日
2	専	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B 地球環境総合工学※ 海洋機器工学 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	1後④ 2前①～② 3前② 4前① 4前②～後④	1 0.5 2 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	5日
3	専	教授	ｷﾑﾗ ﾊｼﾞﾒ 木村 元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		自動制御工学 計算工学演習第一 情報処理概論 システム設計工学 船舶海洋工学実験 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	2後④ 3前① 3後③～④ 3後④ 4前①～② 4前① 4前②～後④	2 1 2 2 0.1 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
4	専	教授	ｺﾞﾄｳ(ﾁｮｳ) ｺｳｼﾞ 後藤(長) 浩二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料力学および同演習 材料加工学 弾性力学 材料強度学 船舶海洋工学実験 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	2後③ 2後④ 3前①～② 3後③ 4前①～② 4前① 4前②～後④	1.5 2 2 2 0.1 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成3年4月）	5日
5	専	教授	ｼﾉﾀﾞ ﾀｹｼ 篠田 岳思 ＜令和3年4月＞		工学博士		地球環境総合工学※ 機能設計工学 環境設計工学	2前①～② 3前① 3後④	0.3 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成3年4月）	5日
6	専	教授	ﾌﾙｶﾜ ﾖｼﾀｶ 古川 芳孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		データサイエンス序論 船舶復原性および同演習 船舶運動論 運動制御工学 船舶海洋工学実験 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	1後③～④ 2後④ 3前② 3後④ 4前①～② 4前① 4前②～後④	2 1.5 2 2 0.4 1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	5日
7	専	教授	ﾔﾅｷﾞﾊﾗ ﾀﾞｲｽｹ 柳原 大輔 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 構造力学第一および同演習 構造力学第二および同演習 船舶海洋構造力学 船舶海洋振動学第一 船舶海洋工学実験 船舶海洋振動学第二 計算工学演習第二 構造解析演習 船舶海洋工学特別講義第一 船舶海洋工学特別講義第二 船舶海洋工学特別講義第三 船舶海洋工学卒業研究	2前①～② 3前① 3前② 3後③ 3後③ 4前①～② 3後④ 4前① 4前① 4前② 4後③ 4後④ 4前②～後④	0.7 1.5 1.5 2 2 0.1 2 1 1 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年9月）	5日
8	専	准教授	ｶﾈﾏﾙ ﾀｶｼ 金丸 崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		船舶算法および同演習 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	2後③ 4前① 4前②～後④	1.5 1 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年4月）	5日
9	専	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習 機能設計工学 環境設計工学 船舶海洋工学実験 工学力学 工学力学演習 工業マネージメント 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	1前①～② 1前①～② 3前① 3後④ 4前①～② 2後③～④ 3前① 4前① 4前① 4前②～後④	2 1 2 2 0.1 2 1 2 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	5日
10	専	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ｻﾄﾙ 山口 悟 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		船舶設計 船舶海洋製図第一 船舶海洋製図第二 海洋環境情報学 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	2後③ 3前①～② 3後③～④ 3前② 4前① 4前②～後④	2 1 2 2 1 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	5日
11	専	助教	ｲﾊﾞﾗｷﾞ ﾋﾛｼ 茨木 洋 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		空間表現実習 船舶海洋工学実験 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	2後③～④ 4前①～② 4前① 4前②～後④	1 0.1 1 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	専	助教	ﾖｼﾀｹ　ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		学士（工学）		空間表現実習Ⅰ 空間表現実習 船舶海洋工学実験 計算工学演習第二 船舶海洋工学卒業研究	1前①～②・後③～④・2前①～② 2後③～④ 4前①～② 4前① 4前②～後④	2 1 0.1 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	5日
13	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
14	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
15	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
16	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
17	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
18	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
19	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
20	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
21	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
22	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
23	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
24	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
25	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ　ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
26	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
27	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
28	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
29	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
30	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ　ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
31	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本ーその歴史と現在ー【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
32	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
33	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
34	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
35	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
36	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
37	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
38	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
39	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
40	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
41	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
42	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
43	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
44	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
45	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
46	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
47	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
48	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
49	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
50	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
51	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
52	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
53	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
54	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
55	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
56	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
57	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
58	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
59	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
60	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
61	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
62	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
63	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
64	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ　ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
65	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
66	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
67	兼担	教授	ｷﾑﾗ　ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
68	兼担	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
69	兼担	教授	ｸﾎﾞ　ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
70	兼担	教授	ｸﾏﾉ　ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
71	兼担	教授	ｸﾒ　ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
72	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
73	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ　ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械工学大意第一	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
74	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
75	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
76	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
77	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
78	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
79	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
80	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
81	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
82	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
83	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
84	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
85	兼担	教授	ｻﾜｴ　ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
86	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
87	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
88	兼担	教授	ｼﾏﾀﾞ　ﾋﾃﾞｷ 島田　秀樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		固体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
89	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
90	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
91	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
92	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
93	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
94	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
95	兼担	教授	ｿﾉﾀﾞ　ﾖｼﾐ 園田　佳巨 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		固体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年4月）	
96	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
97	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
98	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
99	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
100	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
101	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
102	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
103	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
104	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
105	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
106	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
107	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
108	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
109	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
110	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
111	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
112	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B 地球環境総合工学※ 工学概論※	1後④ 2前①～② 2前①～②	1 0.3 0.7	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
113	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
114	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
115	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
116	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
117	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
118	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
119	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
120	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
121	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
122	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
123	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
124	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
125	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
126	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
127	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濵瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
128	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
129	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
130	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
131	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
132	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
133	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
134	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
135	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
136	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
137	兼担	教授	ﾌｼﾞﾀﾘ　ｶﾂｷ 藤澤　克樹 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		複素関数論	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成26年4月）	
138	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
139	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
140	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
141	兼担	教授	ﾎﾝﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
142	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
143	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
144	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
145	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
146	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
147	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
148	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
149	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
150	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
151	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
152	兼担	教授	ﾐﾀﾆ　ﾔｽﾋﾛ 三谷　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.7	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成9年10月）	
153	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
154	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
155	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
156	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ　ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
157	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤　伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
158	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
159	兼担	教授	ﾓﾘ　ｼｮｳｼﾞ 森　昌司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		船用機関	4前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成31年3月）	
160	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
161	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
162	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
163	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
164	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
165	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
166	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
167	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
168	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①･②･後③･④ 1後③･④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
169	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
170	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
171	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
172	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
173	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾀｶｼ 吉田　敬 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	
174	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
175	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
176	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
177	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
178	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
179	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
180	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
181	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
182	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･②	2 4 2 2	1 2 2 2	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
183	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
184	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
185	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
186	兼担	准教授	ｲｼｸﾗ　ﾘｮｳﾍｲ 石蔵　良平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年8月）	
187	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
188	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員･学校心理学）	1前①～②･後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
189	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端） 紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
190	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
191	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤) 直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
192	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
193	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
194	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
195	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
196	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
197	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
198	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
199	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis (ｲｷﾞﾘｽ)		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
200	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
201	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
202	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
203	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
204	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
205	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
206	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
207	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (ｲｷﾞﾘｽ)		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
208	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
209	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
210	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓﾘﾌﾞｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
211	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
212	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
213	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
214	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
215	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
216	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
217	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
218	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
219	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｸｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
220	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
221	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
222	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
223	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
224	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
225	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
226	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
227	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
228	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
229	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
230	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
231	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
232	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
233	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
234	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
235	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
236	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
237	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
238	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
239	兼担	准教授	ｻｻｵｶ　ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎 地球環境総合工学※	1前①・② 2前①～②	1 0.3	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
240	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
241	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
242	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
243	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
244	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
245	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
246	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
247	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
248	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
249	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
250	兼担	准教授	ｾｶﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
251	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
252	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柧本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
253	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
254	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
255	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
256	兼担	准教授	ﾀｶﾞﾐ　ﾀﾞｲｽｹ 田上　大助 ＜令和3年4月＞		博士（数理学）		常備分方程式とラプラス変換	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成10年10月）	
257	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
258	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
259	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
260	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
261	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
262	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
263	兼担	准教授	ﾀﾅｶ　ﾃﾙﾐﾂ 田中　輝光 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成20年9月）	
264	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
265	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
266	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
267	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
268	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
269	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
270	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
271	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西　亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
272	兼担	准教授	ﾃﾛｳ　ｱﾂｼ 手老　篤史 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		フーリエ変換と偏微分方程式	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成23年2月）	
273	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
274	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
275	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
276	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
277	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
278	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
279	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
280	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
281	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士（英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
282	兼担	准教授	ﾊﾔｼ　ﾋﾛﾉﾘ 林　博徳 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年1月）	
283	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
284	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
285	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
286	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
287	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
288	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
289	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ　ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
290	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
291	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
292	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士（機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
293	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
294	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士（人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
295	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
296	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
297	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｶｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
298	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩA 身体運動科学実習ＩB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
299	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
300	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
301	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
302	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
303	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
304	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
305	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
306	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
307	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
308	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
309	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
310	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
311	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
312	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
313	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
314	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
315	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
316	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
317	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
318	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
319	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学･内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
320	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
321	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
322	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
323	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
324	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
325	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
326	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
327	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
328	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
329	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） (ｵﾗﾝﾀﾞ)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
330	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
331	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
332	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
333	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
334	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
335	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
336	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
337	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
338	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
339	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
340	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
341	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾟｰﾄ･ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ･ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
342	兼担	講師	ﾜｷｻｶ　ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
343	兼担	助教	ｱﾘﾀ　ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
344	兼担	助教	ｲﾄｳ　ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
345	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ　ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
346	兼担	助教	ｵｵﾂｶ　ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
347	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ　ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
348	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ　ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
349	兼担	助教	ｶﾜﾉ　ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
350	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ　ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
351	兼担	助教	ｷﾊﾗ　ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
352	兼担	助教	ｺﾐﾔ　ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
353	兼担	助教	ｿｳﾜ　ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
354	兼担	助教	ﾀﾅｶ　ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
355	兼担	助教	ﾀﾅｶ　ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
356	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
357	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
358	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
359	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
360	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
361	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ＩA スペイン語ＩB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
362	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
363	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
364	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
365	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
366	兼担	助教	ﾉﾅｶ　ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
367	兼担	助教	ﾊﾏﾅｶ　ｱｷﾋﾛ 濱中　晃弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		固体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年11月）	
368	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
369	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
370	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
371	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
372	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
373	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
374	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
375	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
376	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部地球資源システム工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲﾏｲ　ｱｷﾗ 今井　亮 〈令和3年4月〉		博士（理学）		地球システム学概論 資源地球科学 海外資源・資源経済学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	2後④ 3前① 3後③ 3通 3通 4前②～後④	2 2 1 4 4 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年10月）	5日
2	専	教授	ｻｻｷ　ｹｲｺ 笹木　圭子 〈令和3年4月〉		博士（工学）		水圏環境化学平衡論 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	3前② 3通 3通	2 4 4	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
3	専	教授	ｼﾏﾀﾞ　ﾋﾃﾞｷ 島田　英樹 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学倫理 固体力学 地下空洞設計法 石炭石資源 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1前① 2前①～② 3前① 3前① 3通 3通 4前②～後④	1 2 2 1 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成5年4月）	5日
4	専	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 〈令和3年4月〉		博士（理学）		先端技術入門B データサイエンス序論 地球環境総合工学※ 工学概論※ 地球環境のイメージング 環境地球物理学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1後④ 1後③～④ 2前①～② 2前①～② 2後④ 3後③ 3通 3通 4前②～後④	1 2 0.3 0.7 2 2 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
5	専	教授	ﾌｼﾞﾐﾂ　ﾔｽﾋﾛ 藤光　康宏 〈令和3年4月〉		工学博士		地球資源システム工学実習 地熱貯留層工学 地熱発電工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	2後③～④ 3後③ 3前② 3通 3通 4前②～後④	0.5 2 1 4 4 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年7月）	5日
6	専	准教授	ｵｷﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ）ﾅｵｺ 沖部（ﾋﾞﾋﾗｰ）奈緒子 〈令和3年4月〉		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology（ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論 資源処理工学 水圏環境化学平衡論 資源システム工学実験第一 資源システム工学実験第二 資源微生物工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1前①～②・後③～④ 2後③ 3前② 3前①～② 3後③～④ 3後③ 3通 3通 4前②～後④	2 2 2 1 1 2 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	5日
7	専	准教授	ｻｻｵｶ　ﾀｶｼ 笹岡　孝司 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎 地球環境総合工学※ 岩盤工学 工業爆薬学 固体資源開発工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1前①・② 2前①～② 2後③ 3前①～② 3後④ 3通 3通 4前②～後④	1 0.3 2 2 2 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	5日
8	専	准教授	ｽｶﾞｲ　ﾕｳｲﾁ 菅井　裕一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		資源流体工学 石油工学 資源システム工学実験第一 資源システム工学実験第二 石油開発生産工学 石油・天然ガス資源開発 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	2後④ 3前② 3前①～② 3後③～④ 3後④ 3後③ 3通 3通 4前②～後④	2 2 1 1 2 1 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年11月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島 潤 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎 地球熱学 地熱工学 地球資源システム工学実習 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1前①・② 2後④ 3前② 2後③～④ 3通 3通 4前②～後④	1 2 2 0.5 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	5日
10	専	准教授	ﾐｽﾞﾅｶﾞ ﾋﾃﾞｷ 水永 秀樹 〈令和3年4月〉		工学博士		物理探査学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	3前① 3通 3通 4前②～後④	2 4 4 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成2年6月）	5日
11	専	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津 幸太郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		基幹教育セミナー 資源環境科学 フィールド地球科学演習 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1前② 3後④ 2後③～④ 3通 3通 4前②～後④	2 2 1 4 4 6	2 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	5日
12	専	助教	ｲｹﾀﾞ ﾀﾂﾉﾘ 池田 達紀 〈令和3年4月〉		博士（工学）		地球工学実験第一 地球工学実験第二 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	3前①～② 3後③～④ 3通 3通	1 1 4 4	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年10月）	5日
13	専	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中 俊昭 〈令和3年4月〉		博士（工学）		プログラミング演習 情報処理概論 地球工学実験第一 地球工学実験第二 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	1前②・後④・2前①・② 2後③ 3前①～② 3後③～④ 3通 3通	1 2 1 1 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	5日
14	専	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中 壮泰 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎演習 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	1後③・④ 3通 3通	0.5 4 4	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	5日
15	専	助教	ﾊﾏﾅｶ ｱｷﾋﾛ 濱中 晃弘 〈令和3年4月〉		博士（工学）		固体力学 資源システム工学実験第一 資源システム工学実験第二 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	2前①～② 3前①～② 3後③～④ 3通 3通	2 1 1 4 4	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年11月）	5日
16	専	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾐﾂｵ 松本 光央 〈令和3年4月〉		博士（理学）		地球工学実験第一 地球工学実験第二 地球資源システム工学実習 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	3前①～② 3後③～④ 2後③～④ 3通 3通	1 1 0.5 4 4	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成31年1月）	5日
17	兼担	教授	ｱｵｷ ﾁｻ 青木 智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
18	兼担	教授	ｱｷﾖｼ ｼｭｳ 秋吉 收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
19	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ｷﾖｼ 安立 清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
20	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
21	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
22	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼｵ 阿部 吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
23	兼担	教授	ｱﾍﾞ ﾖｼﾋｻ 阿部 芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
24	兼担	教授	ｱﾗｲ ﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
25	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①･②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
26	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③･④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
27	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ　ｼﾞｭﾝ 安東　潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
28	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
29	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
30	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ　ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
31	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
32	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原　達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
33	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②･後③～④･2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
34	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
35	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ　ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
36	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
37	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
38	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
39	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 〈令和3年4月〉		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年4月）	
40	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
41	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ　ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
42	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
43	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
44	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
45	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
46	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 〈令和3年4月〉		工学博士		先端技術入門B 地球環境総合工学※	1後④ 2前①～②	1 0.5	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
47	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
48	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
49	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
50	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
51	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
52	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
53	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
54	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
55	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
56	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
57	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
58	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
59	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
60	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
61	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
62	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
63	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
64	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
65	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
66	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
67	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
68	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
69	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
70	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
71	兼担	教授	ｷﾀｶﾞﾜ ﾄｼｱｷ 北川　敏明 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年4月）	
72	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
73	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
74	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
75	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
76	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
77	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
78	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
79	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
80	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第一	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
81	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
82	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
83	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
84	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
85	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
86	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
87	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
88	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齋藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
89	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
90	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
91	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
92	兼担	教授	ｻﾜｴ　ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 〈令和3年4月〉		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
93	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
94	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
95	兼担	教授	ｼﾉﾀﾞ ﾀｹｼ 篠田 岳思 ＜令和3年4月＞		工学博士		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成3年4月）	
96	兼担	教授	ｼﾏｵｶ　ﾀｶﾕｷ 島岡　　隆行 〈令和3年4月〉		工学博士		廃棄物資源循環工学	3後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成13年4月）	
97	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
98	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
99	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
100	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④ ・2前①～② ・後③～④ ・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
101	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
102	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
103	兼担	教授	ｿﾉﾀﾞ　ﾖｼﾐ 園田　佳巨 〈令和3年4月〉		博士（工学）		固体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年4月）	
104	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
105	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
106	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
107	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
108	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
109	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
110	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
111	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中　敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中　悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
113	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
114	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
115	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾏｻｷ 田中　將己 〈令和3年4月〉		博士（工学）		金属材料大意	4前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年10月）	
116	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
117	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
118	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
119	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
120	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
121	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ　ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 〈令和3年4月〉		博士（工学）		先端技術入門A 金属材料大意	1後③ 4前①～②	1 2	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
122	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
123	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
124	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
125	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
126	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
127	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
128	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
129	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
130	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー一 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①･②･後③･④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
131	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー一 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
132	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
133	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
134	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
135	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
136	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林　　克郎 〈令和3年4月〉		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ 無機化学第三	1前①･後③ 1前②･後④ 3後③	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年4月）	
137	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
138	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー一 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
139	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
140	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
141	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー一 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
142	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
143	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
144	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
145	兼担	教授	ﾌｼﾞｻﾜ　ｶﾂｷ 藤澤　克樹 〈令和3年4月〉		博士（理学）		複素関数論	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成26年4月）	
146	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
147	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
148	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
149	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
150	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
151	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
152	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
153	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
154	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
155	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
156	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ　ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
157	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
158	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
159	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
160	兼担	教授	ﾐﾀﾆ　ﾔｽﾋﾛ 三谷　泰浩 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.7	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成9年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
161	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
162	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
163	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
164	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
165	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
166	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
167	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
168	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
169	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
170	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
171	兼担	教授	ﾔﾅｷﾞﾊﾗ ﾀﾞｲｽｹ 栁原　大輔 〈令和3年4月〉		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.7	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年9月）	
172	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③･④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
173	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②･後③～④ 2前①･②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
174	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
175	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
176	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①･②･後③･④ 1後③･④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
177	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
178	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
179	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉 聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
180	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田 敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
181	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾀｶｼ 吉田 敬 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	
182	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
183	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡邉 聡 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
184	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石 博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D (ｱﾒﾘｶ)		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
185	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
186	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤 伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
187	兼担	准教授	ｱｻｲ ﾐﾂﾃﾙ 浅井 光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
188	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬 祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
189	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李 相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
190	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋 裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
191	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路) 慎吾 〈令和3年4月〉		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･② 3前②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
192	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田 美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
193	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ) 祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
194	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井 祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
195	兼担	准教授	ｲｼｸﾗ ﾘｮｳﾍｲ 石藏 良平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成28年4月）	
196	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋 純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
197	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
198	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
199	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
200	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
201	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
202	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
203	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尾　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
204	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
205	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
206	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
207	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
208	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis（ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
209	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
210	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
211	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
212	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
213	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士（言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
214	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
215	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
216	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
217	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
218	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
219	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
220	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
221	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
222	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
223	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
224	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
225	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
226	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
227	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｯｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
228	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
229	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
230	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
231	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
232	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
233	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
234	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
235	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
236	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
237	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
238	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
239	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
240	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
241	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
242	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
243	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
244	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
245	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
246	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
247	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ フランス語ⅡＡ フランス語ⅡＢ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
248	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士（専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
249	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ＩＡ ロシア語ＩＢ ロシア語ⅡＡ ロシア語ⅡＢ ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
250	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
251	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
252	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
253	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語（英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
254	兼担	准教授	ｼﾞｬﾘﾘﾅｽﾗﾊﾞﾃﾞｨ ｻｲｰﾄﾞ JALILINASRABADY SAEID 〈令和3年4月〉		博士（工学）		エネルギー資源工学 地球工学実験第一 地球工学実験第二 地層内物質移動工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	2後④ 3前①～② 3後③～④ 3前① 3通 3通 4前②～後④	2 1 1 2 4 4 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成29年7月）	
255	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
256	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
257	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
258	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
259	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
260	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 杣本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
261	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
262	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
263	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
264	兼担	准教授	ﾀｶﾞﾐ　ﾀﾞｲｽｹ 田上　大助 〈令和3年4月〉		博士（数理学）		常微分方程式とラプラス変換	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成10年10月）	
265	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
266	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
267	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
268	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
269	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
270	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
271	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中　太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
272	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾃﾙﾐﾂ 田中　輝光 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成20年9月）	
273	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①･②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
274	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
275	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
276	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
277	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
278	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
279	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
280	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
281	兼担	准教授	ﾃﾛｳ ｱﾂｼ 手老　篤史 〈令和3年4月〉		博士（理学）		フーリエ変換と偏微分方程式	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成23年2月）	
282	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
283	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
284	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①･後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
285	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
286	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 〈令和3年4月〉		博士（工学）		自然災害と防災 廃棄物資源循環工学	2後③～④ 3後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
287	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
288	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
289	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士（英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
290	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
291	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾖｼﾉﾘ 濱本　芳徳 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第二	3前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年3月）	
292	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
293	兼担	准教授	ﾊﾔｼ ﾋﾛﾉﾘ 林　博徳 〈令和3年4月〉		博士（工学）		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年1月）	
294	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
295	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
296	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
297	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
298	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
299	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
300	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
301	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士（機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
302	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
303	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士（人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
304	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
305	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
306	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
307	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
308	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
309	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
310	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
311	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
312	兼担	准教授	ﾐｷ　ﾊｼﾞﾒ 三木　一 〈令和3年4月〉		博士（工学）		電磁気学基礎演習 資源処理工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	1後③・④ 2後③ 3通 3通 4前②～後④	0.5 2 4 4 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
313	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野　敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
314	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 (人間環境学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
315	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
316	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
317	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
318	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
319	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
320	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
321	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
322	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ＩＡ 社会調査法ＩＢ	1前② 2前①・② 2前①・②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
323	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
324	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
325	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
326	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
327	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
328	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
329	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
330	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
331	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
332	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
333	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
334	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
335	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
336	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
337	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾌﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
338	兼担	准教授	ﾜｹﾔﾏ　ﾀﾂﾔ 分山　達也 〈令和3年4月〉		博士（工学）		地球資源システム工学実習 新エネルギー工学 地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ 地球資源システム工学卒業研究	2後③～④ 2後④ 3通 3通 4前②～後④	0.5 1 4 4 6	1 1 1 1 1	九州大学 エネルギー研究教育機構 准教授 （平成30年4月）	
339	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
340	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
341	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
342	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
343	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
344	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella　Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
345	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
346	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
347	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③・④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
348	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
349	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
350	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	
351	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
352	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
353	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
354	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
355	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
356	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
357	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ﾀﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
358	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
359	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
360	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
361	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
362	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
363	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
364	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士（情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
365	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
366	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
367	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
368	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
369	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ　ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
370	兼担	助教	ﾂﾁﾔ　ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士（人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
371	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
372	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士（ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
373	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
374	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士（理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
375	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
376	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
377	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永（高山）　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
378	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ　ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
379	兼担	助教	ﾐﾔﾀ　ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
380	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
381	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
382	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
383	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
384	兼担	助教	ﾝｹﾞﾚ ｵﾄﾞｳ ﾋﾟｴｰﾙ ﾛﾅﾙﾄﾞ NGUELE ODOU PIERRE RONALD 〈令和3年4月〉		博士（工学）		地球資源システム工学インターンシップ 地球資源システム工学国際インターンシップ	3通 3通	4 4	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成30年2月）	
385	兼任	講師	ｶﾜｿﾞｴ ｾｲｷ 川副　聖規 〈令和3年4月〉		工学士		地熱発電工学	3前②	1	1	西日本技術開発(株) 地熱部 （平成30年4月）	
386	兼任	講師	ｸﾘﾊﾗ　ﾏｻﾐ 栗原 政臣 〈令和3年4月〉		修士(工学)		海外資源・資源経済学	3後③	1	1	（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構 課長代理 （平成27年4月）	
387	兼任	講師	ｽｷﾞﾊﾗ　ﾋﾃﾞｱｷ 杉原　秀明 〈令和3年4月〉		修士(工学)		工業爆薬学	3前①～②	2	1	カヤク・ジャパン株式会社 （令和元年4月）	
388	兼任	講師	ﾀﾏｶﾞﾜ　ﾃﾂﾔ 玉川　哲也 〈令和3年4月〉		博士（学術）		石油・天然ガス資源開発	3後③	1	1	石油資源開発株式会社 （平成31年4月）	
389	兼任	講師	ｷﾑﾗ　ｹｲｼﾞ 木村　啓二 〈令和3年4月〉		博士（国際関係学）		新エネルギー工学	2後④	1	1	公益財団法人自然エネルギー財団 上級研究員 （平成25年4月）	
390	兼任	講師	ﾐｶﾐ　ｶｽﾞﾅﾘ 三上　一成 〈令和3年4月〉		修士（工学）		石灰石資源	3前①	1	1	三菱マテリアル 東谷鉱山長 （令和元年8月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部土木工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		環境調和型社会の構築 環境基礎学 環境保全と開発 土木工学卒業研究	2前①～② 3後③ 4前① 4前②～後④	2 2 2 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	５日
2	専	教授	ｼﾏｶﾀ　ﾀｶﾕｷ 島岡　隆行 ＜令和3年4月＞		工学博士		環境システム学	2後③	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成13年4月）	５日
3	専	教授	ｿﾉﾀﾞ　ﾖｼﾐ 園田　佳巨 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		固体力学 構造力学Ⅰ 基礎土木工学演習 土木工学卒業研究	2前①～② 2後④ 3前② 4前②～後④	2 2 1 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年4月）	５日
4	専	教授	ﾂｶﾊﾗ　ｹﾝｲﾁ 塚原　健一 ＜令和3年4月＞		Philosophiae doctoris （ｱﾒﾘｶ）		社会基盤計画学Ⅰ 社会基盤計画学Ⅱ 土木地理学 土木工学卒業研究	2後③ 2後④ 2後③ 4前②～後④	1 1 2 6	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	５日
5	専	教授	ﾊﾏﾀﾞ　ﾋﾃﾞﾉﾘ 濱田　秀則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		土木材料学 維持管理工学 土木工学卒業研究	2後③ 4前① 4前②～後④	2 2 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年4月）	５日
6	専	教授	ﾏﾂﾀﾞ　ﾀｲｼﾞ 松田　泰治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地震工学	3後③	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年5月）	５日
7	専	教授	ﾏﾅｷﾞ　ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B 都市計画 土木工学卒業研究	1後④ 3後④ 4前②～後④	1 2 6	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	５日
8	専	教授	ﾐﾀﾆ　ﾔｽﾋﾛ 三谷　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 応用地盤工学 土木地理学 測量学・実習 土木工学卒業研究	2前①～② 3後③ 2後③ 2後④～3前① 4前②～後④	0.7 2 2 3 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成9年10月）	５日
9	専	教授	ﾔｽﾌｸ　ﾉﾘﾕｷ 安福　規之 ＜令和3年4月＞		工学博士		地盤力学Ⅰ 基礎土木工学演習	2後④ 3前②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年10月）	５日
10	専	教授	ﾔﾉ　ｼﾝｲﾁﾛｳ 矢野　真一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学倫理 流体力学基礎 水理学Ⅰ 基礎土木工学演習 土木工学卒業研究	1前① 2後③ 2後④ 3前② 4前②～後④	1 2 2 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	５日
11	専	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 データサイエンス 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	1前①～② 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	５日
12	専	准教授	ｲｼｸﾗ　ﾘｮｳﾍｲ 石蔵　良平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境総合工学※ 地盤力学Ⅱ 土木エンジニア史 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	2前①～② 3前① 2後③ 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	0.3 2 2 2 2 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年8月）	５日
13	専	准教授	ｵｵｴﾀﾞ　ﾖｼﾅｵ 大枝　良直 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		計画数理 交通計画学 交通施設工学 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	3前① 4前① 4前② 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	５日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
14	専	准教授	ｶｲﾇﾏ　ｼｹﾞﾉﾌﾞ 貝沼　重信 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		構造力学Ⅱ 鋼構造工学 維持管理工学 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	3前① 3後④ 4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成16年11月）	5日
15	専	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 構造解析学 地震工学 環境と防災A※ 環境と防災B※ 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	1前①～② 3後④ 3後③ 2後④ 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 0.5 0.5 2 2 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	5日
16	専	准教授	ｻｶﾞﾘ　ﾔｽﾀｶ 佐川　康貴 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンクリート構造工学Ⅰ コンクリート構造工学Ⅱ 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	3後③ 3後④ 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	1 1 2 2 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年4月）	5日
17	専	准教授	ｾｲﾉ　ｻﾄｺ 清野　聡子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		沿岸域管理工学 土木地理学 生態工学 合意形成論 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	4前① 2後③ 3前① 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年2月）	5日
18	専	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 水理学Ⅱ 水文学 土木実践教室A 土木実践教室B 基礎土木工学演習 プロジェクト・ものづくり 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 3前① 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3前② 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	1 1 2 2 2 2 1 0.4 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	5日
19	専	准教授	ﾅｶﾔﾏ　ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		自然災害と防災 環境システム学 環境と防災A※ 環境と防災B※ 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	2後③～④ 2後③ 2後④ 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 0.5 0.5 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	5日
20	専	准教授	ﾊﾔｼ　ﾋﾛﾉﾘ 林　博徳 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境総合工学※ まちづくり・地域づくり概論Ⅰ まちづくり・地域づくり概論Ⅱ 水文学 河川工学 土木と社会セミナーA※ 土木と社会セミナーB※ 土木と社会セミナーC※ 景観学 合意形成論 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3後③ 2後③ 2後④ 3前① 2後④ 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	0.3 1 1 2 2 0.5 0.5 0.5 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年1月）	5日
21	専	准教授	ﾋｶﾞﾁ　ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ まちづくり・地域づくり概論Ⅰ まちづくり・地域づくり概論Ⅱ 土木と社会セミナーA※ 土木と社会セミナーB※ 土木と社会セミナーC※ 土木エンジニア史 景観学 合意形成論 土木実践教室A 土木実践教室B プロジェクト・まちづくり 土木工学総合演習	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 2後③ 2後④ 3前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 3後③～④	1 1 1 1 0.5 0.5 0.5 2 2 2 2 2 0.7 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
22	専	准教授	ﾋﾛｼﾛ　ﾖｼﾅﾘ 広城　吉成 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		水文学 上下水道及び水資源工学 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	3前① 3後④ 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年4月）	５日
23	専	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 海岸水理学 沿岸域管理工学 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	1前①～② 3後④ 4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	５日
24	専	助教	ｲﾃﾞ　ﾖｼﾋｺ 井手　喜彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		土木実践教室A 土木実践教室B	2後③～④ 3後③～④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （令和1年9月）	５日
25	専	助教	ｺﾐﾔ　ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		プログラミング演習 土木実践教室A 土木実践教室B	1前②・後④・2前①・② 2後③～④ 3後③～④	1 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	５日
26	専	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習 土木実践教室A 土木実践教室B	1前①～② 2後③～④ 3後③～④	1 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	５日
27	専	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習 水文学 土木地理学 土木実践教室A 土木実践教室B	1前①～② 3前① 2後③ 2後③～④ 3後③～④	1 2 2 2 2	1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	５日
28	専	助教	ﾌｼﾞﾊﾞﾔｼ　ﾒｸﾞﾑ 藤林　恵 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		土木実践教室A 土木実践教室B	2後③～④ 3後③～④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （令和1年9月）	５日
29	専	助教	ﾌﾙｶﾜ　ｾﾞﾝﾀﾛｳ 古川　全太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		土木実践教室A 土木実践教室B	2後③～④ 3後③～④	2 2	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年4月）	５日
30	専	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習 土木実践教室A 土木実践教室B	1前①～② 2後③～④ 3後③～④	1 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	５日
31	専	助教	ﾖｼﾀﾞ　ｼﾞｭﾝ 吉田　惇 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		プロジェクト・まちづくり 土木実践教室A 土木実践教室B	3後③～④ 2後③～④ 3後③～④	0.7 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成31年4月）	５日
32	専	助教	ﾜｶﾏﾂ　ﾐﾎｺ 若松　美保子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental & Natural Resource Economics		プロジェクト・まちづくり 土木実践教室A 土木実践教室B	3後③～④ 2後③～④ 3後③～④	0.7 2 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成30年6月）	５日
33	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
34	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
35	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
36	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
37	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
38	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
39	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
40	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
41	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
42	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
43	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
44	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
45	兼担	教授	ｲｷﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
46	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
47	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
48	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
49	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
50	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
51	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
52	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
53	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
54	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
55	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｸﾐ 井上 卓見 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2後③～④	2 2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成7年4月）	
56	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
57	兼担	教授	ｲﾗﾐﾁ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
58	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
59	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
60	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
61	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
62	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B 地球環境総合工学※	1後④ 2前①～②	1 0.5	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
63	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
64	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
65	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
66	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
67	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
68	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
69	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
70	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
71	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
72	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
73	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
74	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
75	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
76	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
77	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
78	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
79	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
80	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
81	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾖ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
82	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
83	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
84	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
85	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
86	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
87	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
88	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
89	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
90	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
91	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
92	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
93	兼担	教授	ｸﾗｳﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
94	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河 周平 〈令和3年4月〉		博士（工学）		機械工学大意第一	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
95	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
96	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
97	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
98	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
99	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
100	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
101	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
102	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
103	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	
104	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
105	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
106	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
107	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
108	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業・企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
109	兼担	教授	ｼﾉﾀﾞ ﾀｹｼ 篠田　岳思 ＜令和3年4月＞		工学博士		地球環境総合工学※	2前①～②	0.3	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成3年4月）	
110	兼担	教授	ｼﾏﾀﾞ ﾋﾃﾞｷ 島田　英樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		個体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
111	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
112	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
113	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
114	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
115	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
116	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
117	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
118	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
119	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
120	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 髙橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
121	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
122	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
123	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
124	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
125	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
126	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
127	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
128	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
129	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
130	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
131	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
132	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー一	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
133	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B 地球環境総合工学※ 工学概論※	1後④ 2前①～② 2前①～②	1 0.3 0.7	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
134	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
135	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
136	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
137	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
138	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
139	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
140	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
141	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
142	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
143	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー一 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
144	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー一 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
145	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
146	兼担	教授	ﾊｻﾞﾘｶ　ﾍﾏﾝﾀ HAZARIKA　HEMANTA ＜令和3年4月＞		博士（工学）		土木工学卒業研究	4前②～後④	6	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年3月）	
147	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
148	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
149	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
150	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林 克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
151	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
152	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
153	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
154	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
155	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②･後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
156	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
157	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
158	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①･後③ 1前②･後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
159	兼担	教授	ﾌｼﾞｻﾜ　ｶﾂｷ 藤澤　克樹 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		複素関数論	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成26年4月）	
160	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究･産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
161	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①･後③ 1前②･後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
162	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
163	兼担	教授	ﾎｶﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
164	兼担	教授	ﾎﾘ　ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
165	兼担	教授	ﾏﾂｲ　ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
166	兼担	教授	ﾏﾂｲ　ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
167	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ　ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
168	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ　ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
169	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ　ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
170	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
171	兼担	教授	ﾐｽﾐ　ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
172	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ　ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
173	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ　ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
174	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ　ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A, （修士）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
175	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ　ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
176	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ　ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
177	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ　ｼﾝｼﾞ 宗藤　伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
178	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ　ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
179	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ　ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
180	兼担	教授	ﾓﾘﾀ　ｺｳｼﾞ 守田　幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
181	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
182	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
183	兼担	教授	ﾔﾅｷﾞﾊﾗ　ﾀﾞｲｽｹ 柳原　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※	2前①～②	0.7	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成29年9月）	
184	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
185	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
186	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
187	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
188	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
189	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
190	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
191	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
192	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
193	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾀｶｼ 吉田　敬 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成16年4月）	
194	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
195	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
196	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 （TESOL学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
197	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
198	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
199	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
200	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
201	兼担	准教授	ｲｶﾞﾗｼ(ﾀｼﾞ) ｼﾝｺﾞ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1前② 1前①･後③ 2後③･④ 2前①･②	2 4 2 2	1 2 2 2	九州大学 学術研究･産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
202	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
203	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ) ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
204	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
205	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
206	兼担	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員･学校心理学）	1前①～②･後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
207	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ) ｼｵ 稲垣（江端）　柴緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
208	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
209	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ) ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
210	兼担	准教授	ｲﾜﾐ ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
211	兼担	准教授	ｳｴﾉ ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
212	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
213	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
214	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ ｸﾞﾚｺﾞﾘ ｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
215	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
216	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
217	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis（ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
218	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
219	兼担	准教授	ｵｵﾉ ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
220	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
221	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部　弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
222	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｸ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
223	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
224	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
225	兼担	准教授	ｵｷﾅﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ） ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
226	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
227	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後 ③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
228	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓﾓﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
229	兼担	准教授	ｶｻﾏ ｷﾖﾉﾌﾞ 笠間　清伸 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地盤力学Ⅰ 応用地盤工学 土木実践教室A 土木実践教室B 土木工学総合演習 土木工学卒業研究	2後④ 3後③ 2後③～④ 3後③～④ 3後③～④ 4前②～後④	2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月） 東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授 （平成30年4月）	
230	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
231	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後 ③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
232	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
233	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
234	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後 ③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
235	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
236	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2 前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
237	兼担	准教授	ｶﾝ ｲﾂｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
238	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ＩＡ 身体運動科学実習ＩＢ	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
239	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
240	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
241	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
242	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
243	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
244	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ フランス語ⅡＡ フランス語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
245	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 蔵田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
246	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ＩＢ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語ⅡＢ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムＩ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
247	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
248	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
249	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
250	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
251	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
252	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
253	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④ 1後③・④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
254	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
255	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
256	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
257	兼担	准教授	ｻｻｵｶ　ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎 地球環境総合工学※ 工業爆薬学	1前①・② 2前①～② 3前①～②	1 0.3 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
258	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
259	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
260	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
261	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
262	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松 豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
263	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
264	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
265	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽・音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
266	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
267	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
268	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
269	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
270	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 杣本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
271	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
272	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
273	兼担	准教授	ﾀｶﾞﾐ ﾀﾞｲｽｹ 田上　大助 ＜令和3年4月＞		博士（数理学）		常微分方程式とラプラス変換	2前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成10年10月）	
274	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
275	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
276	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
277	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
278	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
279	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
280	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中　太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
281	兼担	准教授	ﾀﾅｶ　ﾃﾙﾐﾂ 田中　輝光 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成20年9月）	
282	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①･②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
283	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
284	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
285	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
286	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
287	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
288	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
289	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
290	兼担	准教授	ﾃﾛｳ　ｱﾂｼ 手老　篤史 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		フーリエ変換と偏微分方程式	2後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成23年2月）	
291	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
292	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
293	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①･後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
294	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
295	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
296	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
297	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
298	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士（英語学･言語学）（ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
299	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
300	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①･②･後③･④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
301	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
302	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
303	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
304	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習AⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
305	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産･食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
306	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
307	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士（機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④･2前①～② 2後③･④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
308	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
309	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士（人類学）（ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
310	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
311	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
312	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
313	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 2前①･② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
314	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
315	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
316	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学･精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
317	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
318	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③･④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
319	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野　敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①･②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
320	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
321	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
322	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
323	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
324	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
325	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③･④ 2後③･④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
326	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田　和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
327	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
328	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①･② 2前①･②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	
329	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
330	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
331	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー一 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
332	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
333	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学･内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
334	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
335	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
336	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
337	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
338	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー一	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
339	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
340	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
341	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
342	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
343	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
344	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
345	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
346	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
347	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
348	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
349	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
350	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
351	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
352	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③・④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
353	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
354	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
355	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾟｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
356	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
357	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
358	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
359	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
360	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①・② 2前①・②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
361	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼﾌｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
362	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
363	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
364	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①・②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
365	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	
366	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
367	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
368	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 （平成6年4月）	
369	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士（情報学）		プログラミング演習 データサイエンス序論 土木実践教室A 土木実践教室B	1前②・後④・2前①・② 1後③～④ 2後③～④ 3後③～④	1 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
370	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
371	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
372	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
373	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ＩＡ スペイン語ＩＢ スペイン語ⅡＡ スペイン語ⅡＢ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
374	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
375	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
376	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
377	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
378	兼担	助教	ﾊﾏﾅｶ ｱｷﾋﾛ 濵中　晃弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		個体力学	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成28年11月）	
379	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
380	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
381	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
382	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
383	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
384	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
385	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
386	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
387	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
388	兼任	講師	ｵｵﾄﾅﾘ ｼｮｳｻｸ 大隣　昭作 ＜令和3年4月＞		修士(工学)		測量学・実習	2後④～3前①	3	1	福岡大学 工学部 助手 （平成30年4月）	
389	兼任	講師	ｽｷﾞﾊﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 杉原　秀明 ＜令和3年4月＞		修士(工学)		工業爆薬学	3前①～②	2	1	カヤク・ジャパン 株式会社 （令和元年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部建築学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	オザキ　アキヒト 尾崎　明仁 ＜令和３年４月＞		工学博士		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築環境設備設計演習※ 建築環境設備基礎Ａ※ 建築環境設備基礎Ｂ※ 建築環境設備応用Ａ※ 建築環境デザイン※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3後④ 2前① 2前② 2後③ 3前① 4通	0.1 2 0.1 1 0.5 0.3 0.5 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成26年3月）	5日
2	専	教授	カンノ　タツオ 神野　達夫 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		データサイエンス序論 建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築構法※ 建築振動学 建築荷重論※ 建築防災※ 建築土質力学 建築学研究	1後③～④ 1後③～④ 3前② 3後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 3後③ 4通	2 0.1 2 0.1 0.1 1 0.7 0.9 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成24年4月）	5日
3	専	教授	チョウ　セイシン 趙　世晨 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｃ 都市・建築設計演習Ｃ 都市計画概論 都市解析 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 2後③ 3後④ 2前① 3後④ 4通	0.1 2 0.1 0.8 0.8 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成20年4月）	5日
4	専	教授	ニナカワ　トシヒコ 蜷川　利彦 ＜令和３年４月＞		博士（人間環境学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｅ 建築構造設計演習Ｂ※ 建築構法※ 建築施工 建築防災※ 合成構造 空間構造計画※ 建築耐震設計※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3前① 3後④ 2後③ 3後③ 3前② 3後③ 3後④ 4前② 4通	0.1 2 0.1 0.6 0.4 1.2 2 0.6 1 0.8 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成21年4月）	5日
5	専	教授	ホリ　ヨシキ 堀　賀貴 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		世界建築史概論 近･現代建築史 先端技術入門B 工学倫理 建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ａ 建築設計基礎演習Ｄ 都市・建築設計演習Ａ まちづくり概論※ 世界建築史詳論※ 都市史※ 建築学研究	2前①･② 2後③･④ 1後④ 1前① 1後③～④ 3前② 3後④ 2前① 2後④ 3前② 3前① 3前② 4前① 4通	1 1 1 1 0.5 2 0.1 0.8 0.8 0.8 0.1 0.9 0.7 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	5日
6	専	教授	ヤマグチ　ケンタロウ 山口　謙太郎 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築構造材料実験演習※ 建築構造設計演習Ａ※ 建築構造力学基礎 建築構法※ 空間構造計画※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3前② 3後③ 2前① 2後③ 3後④ 4通	0.1 2 0.1 0.4 0.5 2 0.3 0.1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成7年4月）	5日
7	専	准教授	クロセ　タケフミ 黒瀬　武史 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ａ 都市・建築設計演習Ｂ 都市・建築設計演習Ｃ 都市設計概論 まちづくり概論※ 都市再生※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 2前① 3後③ 3後④ 2後③ 3前① 3後③ 4通	0.1 2 0.1 0.8 0.8 0.8 1 0.3 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
8	専	准教授	コガ　ヤスコ 古賀　靖子 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築環境設備実験演習※ 建築環境設備設計演習※ 建築環境設備基礎Ａ※ 建築環境設備応用Ｂ※ 建築環境デザイン※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3後③ 3後④ 2前① 2後④ 3前① 4通	0.1 2 0.1 1 0.9 0.5 0.7 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成2年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	准教授	コヤマ　トモユキ 小山　智幸 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築構造材料実験演習※ 建築材料 鉄筋コンクリート構造※ 空間構造計画※ 建築応用力学※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3前② 2前② 3前① 3後④ 4前① 4通	0.1 2 0.1 1.6 2 0.2 0.1 0.7 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成1年4月）	5日
10	専	准教授	サトウ　トシアキ 佐藤　利昭 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｅ 建築構造材料実験演習※ 建築構造設計演習Ｂ※ 静定建築構造力学 建築構法※ 木質構造 建築防災※ 空間構造計画※ 建築耐震設計※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3前① 3前② 3後④ 2前② 2後③ 2後④ 3前② 3後④ 4前② 4通	0.1 2 0.1 0.4 0.4 0.7 2 0.1 1 0.2 0.1 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
11	専	准教授	シガ　ツトム 志賀　勉 ＜令和３年４月＞		博士（人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ 建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 都市・建築設計演習Ａ 都市・建築設計演習Ｂ 建築設計計画Ａ 住環境計画論 ハウジング論 まちづくり概論※ 建築学研究	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～② 1後③～④ 3前② 3後④ 3前② 3後③ 2前① 3後③ 2後④ 3前① 4通	1 1 2 0.1 2 0.1 0.8 0.8 1 1 1 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	5日
12	専	准教授	スエヒロ　カオル 末廣　香織 ＜令和３年４月＞		建築学修士		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｂ 建築設計基礎演習Ｄ 建築設計基礎演習Ｅ 建築設計計画Ｂ 現代建築デザイン 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 2前② 2後④ 3前① 2前② 4前② 4通	0.1 2 0.1 0.8 0.8 0.4 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成17年4月）	5日
13	専	准教授	スミヨシ　ダイスケ 住吉　大輔 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｅ 建築環境設備実験演習※ 建築環境設備設計演習※ 建築環境設備基礎Ｂ※ 建築環境設備応用Ａ※ 建築環境設備応用Ｂ※ 建築環境デザイン※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2前② 2後③ 2後④ 3前① 4通	0.1 2 0.1 0.4 2 0.9 0.7 0.5 0.3 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日
14	専	准教授	セイケ　タダシ 清家　規 ＜令和３年４月＞		博士（人間環境学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 不静定建築構造力学 建築構造設計技法Ａ 建築構造設計技法Ｂ 建築荷重論※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 2後③ 2後③ 2後④ 3前① 4通	0.1 2 0.1 2 0.5 0.5 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年4月）	5日
15	専	准教授	ツルサキ　ナオキ 鶴崎　直樹 ＜令和３年４月＞		博士（人間環境学）		建築概論※ 建築設計基礎演習Ｂ 建築設計基礎演習Ｅ 建築設計計画Ｅ まちづくり概論※ 都市再生※	1後③～④ 2前② 3前① 3前① 3前① 3後③	0.1 0.8 0.4 1 0.3 0.6	1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成6年7月）	5日
16	専	准教授	マツオ　シンタロウ 松尾　真太朗 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		建築概論※ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築構造設計演習Ａ※ 建築構法※ 鉄骨構造 建築応用力学※ 建築耐震設計※ 建築学研究	1後③～④ 3前② 3後④ 3後③ 2後③ 3前① 4前① 4前② 4通	0.1 2 0.1 1 0.3 1 1.3 1.1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	専	助教	キジマ　タカシ 木島　孝之 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		日本建築史概論 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ａ 建築設計基礎演習Ｃ 都市・建築設計演習Ｄ 日本建築史詳論 建築学研究	2前①・② 3前② 3後④ 2前① 2後③ 4前② 3前② 4通	1 2 0.1 0.7 0.7 1.5 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	5日
18	専	助教	シゲフジ　ミチコ 重藤　迪子 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		特別プログラム 建築学研究序説※ 建築構造材料実験演習※ 建築振動学 建築構造設計技法Ａ 建築構造設計技法Ｂ 建築荷重論※ 建築防災※ 建築学研究	3前② 3後④ 3前② 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 3前② 4通	2 0.1 0.2 1 0.5 0.5 0.9 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成28年4月）	5日
19	専	助教	シワ　フミヒコ 志波　文彦 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｄ 都市・建築設計演習Ａ 都市・建築設計演習Ｂ 建築設計計画Ｃ 建築設計計画Ｄ 建築学研究	3前② 3後④ 2後④ 3前② 3後③ 2後③ 2後④ 4通	2 0.1 0.7 0.7 0.7 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	5日
20	専	助教	ナンブ　ヤスヒロ 南部　恭広 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｂ 建築構造材料実験演習※ 建築構造設計演習Ｂ※ 建築学研究	3前② 3後④ 2前② 3前② 3後④ 4通	2 0.1 0.7 0.4 0.4 6	1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
21	専	助教	ミノウラ　エイコ 箕浦　永子 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ 特別プログラム 建築学研究序説※ 建築設計基礎演習Ｅ 都市・建築設計演習Ｃ 都市・建築設計演習Ｄ まちづくり概論※ 世界建築史詳論※ 都市史※ 建築学研究	1後③～④・ 2前①～② 3前② 3後④ 3前① 3後④ 4前② 3前① 3前② 4前① 4通	2 2 0.1 0.4 0.8 1.5 0.1 0.1 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	5日
22	兼担	教授	アオキ　チサ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
23	兼担	教授	アキヨシ　シュウ 秋吉　収 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
24	兼担	教授	アダチ　キヨシ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
25	兼担	教授	アダチ　チハヤ 安達　千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
26	兼担	教授	アベ　タクロウ 阿部　拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 （平成28年3月）	
27	兼担	教授	アベ　ヨシオ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ＩＢ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
28	兼担	教授	アベ　ヨシヒサ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・ 後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
29	兼担	教授	アライフミオ 新井　文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・ 後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
30	兼担	教授	アラヤ　クニオ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
31	兼担	教授	アリムラ　ヒデタカ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー一 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
33	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
34	兼担	教授	ｲｷﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
35	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
36	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
37	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
38	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・後③～④・2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	
39	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
40	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光 一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
41	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
42	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
43	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
44	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
45	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
46	兼担	教授	ｲﾗﾐﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
47	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
48	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
49	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
50	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
51	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮 智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
52	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
53	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
54	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
55	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
56	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
57	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育ｾﾐﾅｰ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
58	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
59	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
60	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
61	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
62	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾崎　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
63	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
64	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses: Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
65	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
66	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
67	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
68	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
69	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
70	兼担	教授	ｶﾐﾔ ﾉﾘﾎ 神谷 典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
71	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
72	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
73	兼担	教授	ｶﾝ ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
74	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
75	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A	1前①～② 1後③	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
76	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
77	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
78	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
79	兼担	教授	ｸﾊﾞ　ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
80	兼担	教授	ｸﾎﾞ　ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
81	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
82	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
83	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
84	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
85	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
86	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
87	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
88	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
89	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
90	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
91	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
92	兼担	教授	ｻｶｲ　ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編） 建築設計基礎演習C 景観設計	1前① 1前② 1後③ 2後③ 3前②	1 1 1 0.8 1	1 1 1 1 1	九州大学 キャンパス計画室 教授 （平成5年4月）	
93	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
94	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
95	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
96	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
97	兼担	教授	ｼﾉｻﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠崎　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業･企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
98	兼担	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	
99	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
100	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
101	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
102	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
103	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
104	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 髙木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
105	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
106	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋 厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
107	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
108	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	
109	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
110	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
111	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｻﾄﾙ 田中 悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成18年11月）	
113	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
114	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
115	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
116	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
117	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
118	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①･②･後③･④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
119	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
120	兼担	教授	ﾂｼﾞ ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
121	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ ﾄｼﾋﾛ 土山 聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A	1後③	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
122	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①･② 2後③･④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
123	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
124	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国･朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②･後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	
125	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
126	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
127	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
128	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
129	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
130	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
131	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
132	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
133	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
134	兼担	教授	ﾊﾅﾀﾞ ﾄｼﾔ 花田 俊也 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成6年4月）	
135	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濵瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③・④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
136	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｶﾂﾛｳ 林　克郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年10月）	
137	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習AⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
138	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
139	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
140	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
141	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
142	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
143	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
144	兼担	教授	ﾌｼﾞｶﾞﾔ ﾂﾖﾋｺ 藤ヶ谷　剛彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ グリーンケミストリー	1前①・後③ 1前②・後④ 2後③～④	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成23年4月）	
145	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
146	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
147	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
148	兼担	教授	ﾎﾝﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
149	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
150	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
151	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
152	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
153	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
154	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ　ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｱﾒﾘｶ)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
155	兼担	教授	ﾐｳﾗ　ﾖｼｺ 三浦　佳子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成22年2月）	
156	兼担	教授	ﾐｽﾐ　ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
157	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
158	兼担	教授	ﾐﾀﾆ　ﾔｽﾋﾛ 三谷　泰浩 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		測量学・実習	3前①～②	3	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成9年10月）	
159	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	
160	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		Ｄ，Ｅ，Ａ， (修士)		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
161	兼担	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎　隆彦 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学概論演習	1後③	0.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	
162	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ　ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
163	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
164	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ　ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
165	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
166	兼担	教授	ﾓﾘﾀ ｺｳｼﾞ 守田 幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
167	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
168	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
169	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
170	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
171	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
172	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
173	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
174	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
175	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
176	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
177	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｻﾄｼ 吉田　敏 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ 体験的農業生産学入門	1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 生物環境利用推進ｾﾝﾀｰ 教授 （昭61年4月）	
178	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
179	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	
180	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士 (TESOL学)		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
181	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1後①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
182	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
183	兼担	准教授	ｱﾘﾏ ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
184	兼担	准教授	ｲ ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
185	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③・④ 3前①・②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
186	兼担	准教授	イガラシ(タジ)　シンゴ 五十嵐(田路)　伸吾 ＜令和３年４月＞		修士（経営学）		アイデア・ラボⅠ アントレプレナーシップ入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎 テクノロジー・マーケティング	1前② 1前①・後③ 2後③・④ 2前①・② 3前②	2 4 2 2 2	1 2 2 2 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 准教授 （平成17年3月）	
187	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ　ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
188	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ)　ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3前①・②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
189	兼担	准教授	ｲｼｲ　ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①・②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
190	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ　ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
191	兼担	准教授	ｲﾄｳ　ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員・学校心理学）	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
192	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ)　ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
193	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ　ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
194	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ)　ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
195	兼担	准教授	ｲﾜﾐ　ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
196	兼担	准教授	ｳｴﾉ　ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③・④ 2後③・④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	
197	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ　ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
198	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
199	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ　ｸﾞﾚｺﾞﾘ　ｼﾞｮﾝ Wroblewski　Greggory　John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
200	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ　ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
201	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ　ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
202	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ　ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis (ｲｷﾞﾘｽ)		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
203	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ　ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
204	兼担	准教授	ｵｵﾉ　ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
205	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①・②・後③・④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
206	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾋﾛﾀｶ 岡部 弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
207	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾀｽｸ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
208	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
209	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
210	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ(ﾋﾞﾋﾗｰ) ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー） 奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (ｲｷﾞﾘｽ)		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
211	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ ｼｮｰﾝ ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
212	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
213	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓｻﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
214	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
215	兼担	准教授	ｶｼﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 梶原　健佑 ＜令和3年4月＞		修士（法学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①・②	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
216	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
217	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
218	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
219	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
220	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
221	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
222	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｯｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
223	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
224	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
225	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
226	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
227	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
228	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	
229	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
230	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
231	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムⅠ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
232	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
233	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
234	兼担	准教授	ｺﾉﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
235	兼担	准教授	コミナト タクオ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
236	兼担	准教授	コンノ タクヤ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
237	兼担	准教授	サイトウ カズユキ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
238	兼担	准教授	サイトウ シンゴ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④ 1後③・④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
239	兼担	准教授	サイトウ ノブヒロ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
240	兼担	准教授	サカイ アヤ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①・後③ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	
241	兼担	准教授	サカグチ ヒデツグ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
242	兼担	准教授	ササオカ タカシ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
243	兼担	准教授	サトウ ノリコ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
244	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士（専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
245	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
246	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
247	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
248	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語（英語）修士		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
249	兼担	准教授	ｼﾞｮｳ ｶｽﾞﾋﾛ 城　一裕 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		音楽･音響論	2後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成28年3月）	
250	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
251	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
252	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
253	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
254	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 杣本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
255	兼担	准教授	ﾀｲ　ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
256	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	
257	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
258	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
259	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
260	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
261	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
262	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・ 2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
263	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・ 後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
264	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
265	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
266	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
267	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
268	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾉ ﾕｳｷ 辻野　裕紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		韓国語ＩA 韓国語ＩB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成24年4月）	
269	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・ 後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
270	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
271	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
272	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾘｮｳ 寺西 亮 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
273	兼担	准教授	ﾃﾛｳ ｱﾂｼ 手老　篤史 ＜令和３年４月＞		博士（理学）		数理解析概論	3前①～②	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成23年2月）	
274	兼担	准教授	ﾄﾐﾔｽ ﾘｮｳｺ 富安　亮子 ＜令和３年４月＞		博士（数理科学）		複素関数論	3後③～④	2	1	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 准教授 （平成31年1月）	
275	兼担	准教授	ﾄﾓﾀﾘ ﾐｶｺ 知足　美加子 ＜令和3年4月＞		博士（芸術学）		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
276	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	
277	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
278	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
279	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
280	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝｻｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
281	兼担	准教授	ﾆｼｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝ 西島　潤 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
282	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
283	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
284	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
285	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
286	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
287	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
288	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野　伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
289	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習ＡⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
290	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
291	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産･食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
292	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
293	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
294	兼担	准教授	ﾌｼﾞｵｶ ｹﾝﾀﾛｳ 藤岡　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		大学とは何かⅠ 大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅰ 九州大学の歴史Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 大学文書館 准教授 （平成21年4月）	
295	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
296	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース専門英語	1後③ 1後④ 2前①・② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
297	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
298	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｻｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
299	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
300	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦　秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
301	兼担	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清　修一 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	
302	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学･精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
303	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
304	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③･④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
305	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済【隔年】	3前①･②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
306	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
307	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②･後④･2前①･②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
308	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
309	兼担	准教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾊﾙﾉ 村山　美乃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②･後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年3月）	
310	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
311	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③･④ 2後③･④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
312	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田 和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	
313	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物－環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
314	兼担	准教授	ﾔｽﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安永　和央 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前①･② 2前①･②	2 2 2	2 2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年3月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
315	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
316	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
317	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
318	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
319	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
320	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学･内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ･健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
321	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
322	兼担	准教授	ﾖｼｵｶ　ﾄﾓｶｽﾞ 吉岡　智和 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		鉄筋コンクリート構造※	3前①	0.8	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
323	兼担	准教授	ﾖｼｶﾜ ｱｷﾏｻ 吉川　顕正 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		宇宙科学概論	2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成8年5月）	
324	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
325	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ　ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
326	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
327	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
328	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
329	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
330	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
331	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
332	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
333	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①･後③ 1前②･後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
334	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①･②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
335	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
336	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
337	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
338	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
339	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
340	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③･④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
341	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２ 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
342	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
343	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①･②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	
344	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
345	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
346	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
347	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
348	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
349	兼担	助教	ｶｻﾊﾗ ﾖｼｱｷ 笠原　義晃 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成8年4月）	
350	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
351	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
352	兼担	助教	ｷﾊﾗ ﾋｻｼ 木原　尚 ＜令和3年4月＞		修士（工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成4年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
353	兼担	助教	ｺﾐﾔ ﾃｯﾍﾟｲ 小宮　哲平 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成25年7月）	
354	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
355	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
356	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
357	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	
358	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
359	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
360	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
361	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
362	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
363	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション１ 学術英語・プロダクション２	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
364	兼担	助教	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｲｷ 東藤　大樹 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		情報科学	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成25年12月）	
365	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
366	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
367	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
368	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
369	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ　ﾖｼｷ 日高　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
370	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
371	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ(ﾀｶﾔﾏ)　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
372	兼担	助教	ﾐﾔﾀ　ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
373	兼担	助教	ﾓﾘｶﾜ　ﾀﾂﾔ 森川 龍哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
374	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ　ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
375	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ　ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
376	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	
377	兼任	講師	イシデ　イチロウ 石出　一郎 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		空間構造計画※	3後④	0.4	1	竹中工務店 九州支店 設計部 （平成9年4月）	
378	兼任	講師	イトウ　タカヒロ 伊藤　隆宏 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築環境設備設計演習※	3後④	0.1	1	伊藤建築都市設計室 代表 （平成14年11月）	
379	兼任	講師	イワモト　ユイ 岩本　結 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築設計基礎演習Ｂ	2前②	0.7	1	藤匠住宅 代表取締役 （平成29年12月）	
380	兼任	講師	ウシジマ　アキラ 牛島　朗 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		居住文化論	3後④	1	1	山口大学大学院 創成科学研究科 助教 （平成25年3月）	
381	兼任	講師	ウノ　ススム 宇野　享 ＜令和３年４月＞		工学士		都市・建築設計演習Ａ	3前②	0.7	1	大同大学 工学部 教授 （平成26年4月）	
382	兼任	講師	カコイ　ヒロユキ 柩　弘之 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築環境設備設計演習※	3後④	0.1	1	日本設計 環境・設備設計群 （平成6年4月）	
383	兼任	講師	コガ　モトヤ 古賀　元也 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		空間メディア	4前①	1	1	崇城大学 工学部 准教授 （平成24年4月）	
384	兼任	講師	シノハラ　マサキ 篠原　正樹 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築設計基礎演習Ｃ	2後③	0.7	1	佐藤総合計画　九州オフィス プロジェクトリーダー （平成30年4月）	
385	兼任	講師	タカギ　ショウザブロウ 高木　正三郎 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築設計基礎演習Ｅ	3前①	0.4	1	設計＋制作/建築巧房 代表 （平成11年7月）	
386	兼任	講師	タケバヤシ　トモキ 竹林　知樹 ＜令和３年４月＞		修士（工学） Master of Landscape Architecture （アメリカ）		都市・建築設計演習Ｃ	3後④	0.8	1	Takebayashi Landscape Architects 代表取締役 （令元年10月）	
387	兼任	講師	トヨダ　コウジ 豊田　宏二 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築法規	4前①	2	1	トヨダデザイン 一級建築士事務所 代表 （平成22年4月）	
388	兼任	講師	ナカハラ　タクミ 中原　拓海 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		建築設計基礎演習Ａ	2前①	0.7	1	限研吾建築都市設計事務所 主任技術士 （平成25年4月）	
389	兼任	講師	ニシムラ　アキラ 西村　章 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		空間構造計画※	3後④	0.5	1	竹中工務店 九州支店 設計部 （平成6年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請大学に係る教育等の職務に従事する週当たり平均日数
390	兼任	講師	フルモリ　コウイチ 古森　弘一 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		都市・建築設計演習Ｂ	3後③	0.7	1	古森弘一建築設計事務所 代表取締役 （平成23年12月）	
391	兼任	講師	ホリベ　ヤスシ 堀部　安嗣 ＜令和３年４月＞		学士（芸術学）		建築設計基礎演習Ｄ	2後④	0.7	1	京都造形芸術大学 大学院芸術研究科 教授 （平成19年4月）	
392	兼任	講師	ミハシ　タツル 三橋　建 ＜令和３年４月＞		修士（工学）		情報処理概論	3後③	2	1	三和創研 Peoject Architects 代表 （平成22年4月）	
393	兼任	講師	ヨシザワ　ミキオ 吉澤　幹夫 ＜令和３年４月＞		博士（工学）		基礎構造	3後④	1	1	福岡大学 工学部 教授 （平成29年4月）	

伊都キャンパス

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部融合基礎工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
31	兼担	教授	ｱｵｷ　ﾁｻ 青木　智佐 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成6年1月）	
32	兼担	教授	ｱｷﾖｼ　ｼｭｳ 秋吉　收 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成17年10月）	
34	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ　ｷﾖｼ 安立　清史 ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成8年10月）	
35	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾁﾊﾔ 安達 千波矢 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門A 物理化学第二	1後③ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成22年4月）	
36	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾀｸﾛｳ 阿部 拓郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ ベクトル解析と微分方程式	1後③～④ 2前①～②	1 2	1 1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成28年3月）	
37	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼｵ 阿部　吉雄 ＜令和3年4月＞		哲学博士		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ＩＢ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語ⅡＢ	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
38	兼担	教授	ｱﾍﾞ　ﾖｼﾋｻ 阿部　芳久 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・ 後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
39	兼担	教授	ｱﾗｲﾌﾐｵ 新井 文用 ＜令和3年4月＞		博士（歯学）		生命の科学A	1前①・②・ 後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成26年4月）	
40	兼担	教授	ｱﾗﾔ　ｸﾆｵ 荒谷　邦雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物多様性と人間文化B	2前①・②	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
41	兼担	教授	ｱﾘﾑﾗ　ﾋﾃﾞﾀｶ 有村　秀孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		コンピュータープログラミング入門	2後③・④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年4月）	
42	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安東 潤 ＜令和3年4月＞		工学博士		基幹教育セミナー 図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前② 1前①・②・ 後③・④ 1前①・②・ 後③・④	2 1 1	2 1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
43	兼担	教授	ｱﾝﾅｶ　ﾏｻﾋｺ 安中　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成15年4月）	
44	兼担	教授	ｲｷﾞﾐ　ﾏﾘｺ 五十君　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		ローマ法史	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
45	兼担	教授	ｲｹﾀﾞ　ﾉﾌﾞｵ 池田　伸夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.5	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成5年4月）	
46	兼担	教授	ｲｹﾉｳｴ ﾋﾛｼ 池上　浩 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成23年9月）	
47	兼担	教授	ｲｼｲ　ﾕﾀｶ 石井　豊 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成10年1月）	
48	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ　ﾀﾂﾐ 石原 達己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年5月）	
49	兼担	教授	ｲｼﾞﾏ　ﾋﾛﾕｷ 井嶋　博之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		細胞生物学 先端技術入門A	1前①～②・ 後③～④・ 2前①～② 1後③	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成7年7月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
50	兼担	教授	ｲｽﾞﾐ　ｶｵﾙ 出水　薫 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		現代史Ⅳ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年12月）	
52	兼担	教授	ｲﾃﾞﾐﾂ ｶｽﾞﾔ 出光　一哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成1年10月）	
55	兼担	教授	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		東アジアと日本－その歴史と現在－【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
57	兼担	教授	ｲﾅﾊﾏ　ﾕｽﾞﾙ 稲濱　譲 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成27年10月）	
58	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ｼｹﾞｷ 井上　滋樹 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		共創発想法	2後③・④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 教授 （平成29年4月）	
59	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾀｸﾐ 井上　卓見 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 機械工学大意第一	1前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
60	兼担	教授	ｲﾊﾞ　ｺｳ 射場　厚 ＜令和3年4月＞		理学博士		細胞生物学	1前①～②・ 後③～④・2 前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭63年12月）	
61	兼担	教授	ｲﾗｼﾅ ｹｲｼﾞ 伊良皆　啓治 ＜令和3年4月＞		工学博士		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成17年4月）	
62	兼担	教授	ｲﾜｾ　ﾉﾘｵ 岩瀬　則夫 ＜令和3年4月＞		理学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 1前①～② 1後③～④	2 2 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成4年4月）	
63	兼担	教授	ｲﾜﾀ　ｹﾝｼﾞ 岩田　健治 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		EU論基礎―制度と経済―	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
64	兼担	教授	ｳｪﾝ　ﾘﾝ Weng Lin ＜令和3年4月＞		理学博士		入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1後③ 1後④ 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成14年4月）	
65	兼担	教授	ｳﾁﾀﾞ　ｺｳﾅﾘ 内田　交謹 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成20年4月）	
66	兼担	教授	ｳﾂﾉﾐﾔ ﾄﾓｱｷ 宇都宮　智昭 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成26年4月）	
67	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ｱﾂﾋﾄ 江口　厚仁 ＜令和3年4月＞		法学修士		現代社会Ⅲ【隔年】 現代社会Ⅳ【隔年】 法文化学入門【隔年】	2後③～④ 2後③～④ 2前①～②	2 2 2	1 1 1	九州大学 法学研究院 教授 （平成2年4月）	
68	兼担	教授	ｴｸﾞﾁ　ﾀｸﾐ 江口　巧 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース	1前①～② 1前①～② 2前①・②	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成2年4月）	
69	兼担	教授	ｵｵｼﾏ　ﾀｶｼ 大嶋　孝志 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		身の回りの化学	1前①・②・ 後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成22年4月）	
71	兼担	教授	ｵｵﾂﾎﾞ　ﾐﾉﾙ 大坪　稔 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成25年9月）	
72	兼担	教授	ｵｵﾉ　ﾏｻｵ 大野　正夫 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		自然科学総合実験 基礎科学実習	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年1月）	
73	兼担	教授	ｵｵﾊｼ　ﾋﾛｼ 大橋　浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー一 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前② 1後③ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
74	兼担	教授	ｵｶﾑﾗ　ｺｳｼﾞ 岡村　耕二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		企業から見たサイバーセキュリティA 企業から見たサイバーセキュリティB サイバーセキュリティ演習	1前② 1後④ 1前①～②	2 2 1	2 2 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
75	兼担	教授	ｵｷ　ﾕｳｼﾞ 興　雄司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		熱力学基礎 熱力学基礎演習	1後③・④ 1後③・④	1 0.5	1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成4年4月）	
76	兼担	教授	ｵｸﾞﾛ　ﾔｽﾏｻ 小黒　康正 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年5月）	
77	兼担	教授	ｵｺﾞｳ　ｾｲｼﾞ 小江　誠司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機物質化学Ⅰ 有機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	3 2	3 2	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年10月）	
78	兼担	教授	ｵｻﾞｷ　ﾕｷｺ 尾﨑　由紀子 ＜令和3年4月＞		理学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年6月）	
79	兼担	教授	ｵﾁｱｲ　ﾋﾛﾕｷ 落合　啓之 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		常微分方程式とラプラス変換	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 教授 （平成21年10月）	
80	兼担	教授	ｵﾝｼﾞｮｳ　ｱｷｵ 遠城　明雄 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成8年10月）	
81	兼担	教授	ｶｸ　ｼｭﾝｶｲ 郭　俊海 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）		日本語Ⅶ Writing Courses: Pre-Advanced A Writing Courses:　Pre-Advanced B Writing Courses: Advanced A Writing Courses: Advanced B	2前①～② 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成18年4月）	
82	兼担	教授	ｶｸﾀ　ﾖｼﾐﾂ 角田　佳充 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基礎生化学Ⅰ 基礎生化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年11月）	
83	兼担	教授	ｶｼﾞ　ﾉﾘﾀﾀﾞ 加地　範匡 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		分析化学第一	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成30年1月）	
84	兼担	教授	ｶｼﾞﾜﾗ　ﾄｼﾋｻ 梶原　稔尚 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年4月）	
85	兼担	教授	ｶｽﾔﾝ　ｱﾝﾄﾞﾚｱｽ Kasjan Andreas ｼｭﾃﾌｧﾝ Stefan ＜令和3年4月＞		マギスタ・アルツィウム（文学修士）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成5年4月）	
86	兼担	教授	ｶﾌﾞﾗｷﾞ　ﾏｻﾋｺ 鏑木　政彦 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年10月）	
87	兼担	教授	ｶﾐﾋﾗ　ﾏｻﾐﾁ 上平　正道 ＜令和3年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
88	兼担	教授	ｶﾐﾔ　ﾉﾘﾎ 神谷　典穂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		分子生物学	2前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成14年10月）	
89	兼担	教授	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｼｭﾝｲﾁﾛｳ 川畑　俊一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （昭61年10月）	
90	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 川村　隆一 ＜令和3年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成24年4月）	
91	兼担	教授	ｶﾝ　ﾋﾛﾉﾌﾞ 菅　浩伸 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成26年4月）	
94	兼担	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾏｻﾋﾛ 岸田　昌浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成4年4月）	
95	兼担	教授	ｷｼﾞﾓﾄ　ｼﾝﾔ 雉本　信哉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 先端技術入門A 工学概論※	1前①～② 1後③ 2前①～②	2 1 0.7	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成8年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
96	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾀｶｼ 木村　崇 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成21年4月）	
97	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾉﾌﾞ 木村　政伸 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	2.5 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成28年9月）	
98	兼担	教授	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物理学の進展A 物理学の進展B	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成16年4月）	
100	兼担	教授	ｸﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 久場　隆広 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
101	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾄﾓﾕｷ 久保　智之 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成10年4月）	
102	兼担	教授	ｸﾏﾉ ﾅｵｷ 熊野　直樹 ＜令和3年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成6年4月）	
103	兼担	教授	ｸﾒ ｱﾂｼ 久米　篤 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
104	兼担	教授	ｸﾗﾂﾞﾒ ﾘｮｳ 倉爪　亮 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		数学演習B プログラミング演習 先端技術入門B	2前①～② 1前②・後④・2前①・② 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成14年4月）	
105	兼担	教授	ｸﾛｶﾜ ｼｭｳﾍｲ 黒河　周平 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械工学大意第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
106	兼担	教授	ｺｶﾞ ｶｽﾞﾉﾘ 古閑　一憲 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		数学演習B	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成11年4月）	
107	兼担	教授	ｸﾜﾉ ﾘｮｳｲﾁ 桑野　良一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎科学実習	1前②・後④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 （平成14年10月）	
108	兼担	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾖｼﾋﾛ 桑原　義博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前①～② 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成7年10月）	
109	兼担	教授	ｺｲﾃﾞ ﾋﾛｼ 小出　洋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論 サイバーセキュリティ演習	1前① 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年4月）	
110	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 後藤 雅宏 ＜令和3年4月＞		工学博士		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年6月）	
111	兼担	教授	ｺﾉﾐ ｼﾝｲﾁ 木實　新一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④ ・2前①～②	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成29年4月）	
112	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林　真一 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成28年4月）	
113	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ｱﾂｼ 齊藤　篤司 ＜令和3年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1	1 2 2	九州大学 人間環境学研究院 教授 （昭62年4月）	
115	兼担	教授	ｻｶｲ ﾀｹﾙ 坂井　猛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽ計画室 教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
116	兼担	教授	ｻﾄｳ ｵｻﾑ 佐藤　治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成17年4月）	
117	兼担	教授	ｻﾄｳ ﾖｼｶｽﾞ 佐藤　喜一 ＜令和3年4月＞		博士（教育情報学）		社会統計学A 社会統計学B	3前①・② 3前①・②	2 2	2 2	九州大学 ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成29年1月）	
118	兼担	教授	ｻﾜｴ ﾖｼﾉﾘ 澤江　義則 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 機械工学大意第一	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年4月）	
119	兼担	教授	ｼｽﾞﾅｶﾞ ﾀｹｼ 静永　健 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成12年4月）	
120	兼担	教授	ｼﾉﾀﾞｷ ｱｷﾋｺ 篠﨑　彰彦 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		技術と産業･企業【隔年】	3前①・②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4年）	
121	兼担	教授	ｼﾏｺｼ ﾋｻｼ 嶌越 恒 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機化学第二	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
122	兼担	教授	ｽｷﾞﾑﾗ ｼﾞｮｳｲﾁ 杉村　丈一 ＜令和3年4月＞		工学博士		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （昭和61年4月）	
123	兼担	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｵ 杉山　佳生 ＜令和3年4月＞		博士（体育科学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義B	1前①～② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後④	2 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
124	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳﾌﾞﾝ 鈴木　右文 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・集中演習	1後③～④・2前①～②・後③～④・3～4通	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成4年4月）	
125	兼担	教授	ｽﾐ ﾄｼｵ 角　俊雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ	1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③ 1後④	2.5 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成15年10月）	
126	兼担	教授	ｾ ﾃﾙﾋｻ 施　光恒 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成15年10月）	
127	兼担	教授	ﾀｶｷ ﾉﾌﾞﾋﾛ 高木　信宏 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成16年4月）	
128	兼担	教授	ﾀｶｽ ｹｲｼﾞ 髙須　啓志 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年6月）	
129	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｺｳｼﾞ 髙橋　厚史 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習 工学概論※	1前①～② 2前①～②	1 0.4	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成4年8月）	
130	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾂﾄﾑ 高橋　勤 ＜令和3年4月＞		Ph.D （比較文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年10月）	
131	兼担	教授	ﾀｷｳｴ ﾀｶﾉﾘ 瀧上　隆智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		課題協学科目 基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③～④ 1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	2.5 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成6年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
132	兼担	教授	ﾀｹｶﾞﾜ ｶｵﾙ 竹川　薫 ＜令和3年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 （平成20年4月）	
133	兼担	教授	ﾀﾂﾐ ﾘｭｳｲﾁ 辰巳　隆一 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成13年10月）	
134	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｹｲｼﾞ 田中 敬二 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学熱力学Ⅰ 基礎化学熱力学Ⅱ	1後③・2前①・② 1後④・2前①・②	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成12年4月）	
135	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ｻﾄﾙ 田中　悟 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy（アメリカ）		先端技術入門B 応用量子物理学入門※	1後④ 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成10年4月）	
136	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｵ 田中　孝男 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成17年3月）	
137	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾄｼﾔ 田中　俊也 ＜令和3年4月＞		博士（哲学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成3年4月）	
138	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾏｻｷ 田中　將己 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		金属材料大意 材料力学入門 弾性・塑性変形工学	2前①～② 2後③ 2後④	2 1 1	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成20年10月）	
139	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏﾘ 田中　真理 ＜令和3年4月＞		博士（教育心理学）		バリアフリー支援入門 ユニバーサルデザイン研究 アクセシビリティ入門 アクセシビリティ支援入門 アクセシビリティ基礎 アクセシビリティマネジメント研究	1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
140	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｺ 谷口　秀子 ＜令和3年4月＞		文学修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （昭63年4月）	
141	兼担	教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 田畑　義之 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 教授 （昭63年4月）	
142	兼担	教授	ﾀﾑﾗ ｼｹﾞﾋｺ 田村　茂彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 生命の科学A プレゼンテーション基礎 レトリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①・② 2前①・②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成8年2月）	
143	兼担	教授	ﾁﾝ ｺｳｻｲ 陳　光斉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成12年4月）	
144	兼担	教授	ﾂｼﾞ　ﾀｹｼ 辻　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成24年4月）	
145	兼担	教授	ﾂﾁﾔﾏ　ﾄｼﾋﾛ 土山　聡宏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A 金属材料大意 工学概論※	1後③ 2前①～② 2前①～②	1 2 0.4	1 1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成11年4月）	
146	兼担	教授	ﾂﾂﾐ ﾕｳｼﾞ 堤　祐司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		基礎生物有機化学Ⅰ 基礎生物有機化学Ⅱ	2前①・② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 農学研究院 教授 （平成14年3月）	
147	兼担	教授	ﾅｶｻﾞﾄﾐ ｻﾄｼ 中里見　敬 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習 外国語プレゼンテーション	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成11年10月）	
148	兼担	教授	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋﾛｷ 永島　広紀 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1前①～②・後③～④ 1後③ 1後④ 2前①～②	2 1 1 2	1 1 1 1	九州大学 韓国研究ｾﾝﾀｰ 教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
149	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾓﾔｽ 中村　知靖 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年5月）	
150	兼担	教授	ﾅﾗｵｶ ﾋﾛｼ 奈良岡　浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 （平成20年2月）	
151	兼担	教授	ﾆｲﾛ ﾋﾛｱｷ 新納　宏昭 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床倫理	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成20年3月）	
152	兼担	教授	ﾆｼ ﾋﾃﾞｱｷ 西　英昭 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		法史学入門【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成18年10月）	
153	兼担	教授	ﾆｼｵｶ ﾉﾌﾞｱｷ 西岡　宣明 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		文学･言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成11年4月）	
155	兼担	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｶｱｷ 野口　高明 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	1 2.5 4	1 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	
156	兼担	教授	ﾉｾ ﾀｹﾙ 野瀬　健 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前② 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成9年10月）	
157	兼担	教授	ﾉﾉﾑﾗ ﾄｼｺ 野々村　淑子 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学･男性学Ⅰ 女性学･男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成9年10月）	
161	兼担	教授	ﾊｯﾄﾘ ﾚｲｼﾞ 服部 励治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成16年4月）	
164	兼担	教授	ﾊﾏﾓﾄ ｷｲﾁ 濵本 貴一 ＜令和3年4月＞		Doktor Der Technischen Wissenschaften （スイス）		光エレクトロニクス 半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 2後③～④ 3後③～④ 4通	2 0.4 0.8 0.6 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成17年4月）	
167	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾉﾌﾞﾔ 林 信哉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		プラズマ応用工学 電磁気学Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ プラズマ理工学Ⅱ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後④ 4通	1 2 0.1 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成24年4月）	
168	兼担	教授	ﾊﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 原　一広 ＜令和3年4月＞		理学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
169	兼担	教授	ﾊﾗ ﾀｶｼ 原　隆 ＜令和3年4月＞		理学博士		数学演習ＡⅠ 数理統計学	1前①～② 2前①～②	1 4	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 （平成16年4月）	
170	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｼﾞ 原田　恒司 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A	1前② 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成3年10月）	
171	兼担	教授	ﾋｺﾞ ﾏｻﾃﾙ 肥後　裕輝 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		Japan in Global Society	1後④	1	1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 教授 （平成26年8月）	
172	兼担	教授	ﾋｻｴﾀﾞ ﾖｼｵ 久枝 良雄 ＜令和3年4月＞		工学博士		無機化学第二	2後③～④	2	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （昭和63年8月）	
173	兼担	教授	ﾌｪﾆｯｸ ﾏｰｸ ﾄﾞﾙﾄﾝ Fenwick Mark Dalton ＜令和3年4月＞		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成11年4月）	
174	兼担	教授	ﾌｸﾀﾞ ﾁﾂﾞﾙ 福田　千鶴 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成26年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
175	兼担	教授	ﾌｸﾓﾄ ｹｲﾀ 福元　圭太 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		ドイツ語プラクティクムⅠ ドイツ語プラクティクムⅡ ドイツ語プラクティクムⅢ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成1年4月）	
176	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼｵ 藤井　美男 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成11年4月）	
178	兼担	教授	ﾌｼﾞﾉ ｼｹﾞﾙ 藤野　茂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
179	兼担	教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾉｿﾞﾑ 藤本　望 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		工学概論※ 原子力工学概論※	2前①～② 2前①～②	0.5 0.7	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
180	兼担	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶﾂﾋｺ 古川　勝彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②	2	2	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 （平成6年8月）	
181	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｹﾝｼﾞ 古屋　謙治 ＜令和3年4月＞		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	2 1 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 （平成4年4月）	
182	兼担	教授	ﾌﾙﾔ ｼｹﾞｷ 古屋　茂樹 ＜令和3年4月＞		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成17年4月）	
183	兼担	教授	ﾎﾝﾓﾄ ｼﾝｼﾞ 外本 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成8年4月）	
184	兼担	教授	ﾎﾘ ﾖｼｷ 堀　賀貴 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		世界建築史概論 近・現代建築史 先端技術入門B	2前①・② 2後③・④ 1後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年10月）	
185	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾀｸ 松井　卓 ＜令和3年4月＞		理学博士		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 （平成9年4月）	
186	兼担	教授	ﾏﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 松井　康浩 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成19年4月）	
187	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾉﾘｺ 松永　典子 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
188	兼担	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 松村　順司 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 教授 （平成4年4月）	
189	兼担	教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾈﾋｺ 松本　常彦 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成17年4月）	
190	兼担	教授	ﾏﾅｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 馬奈木　俊介 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｱﾒﾘｶ）		先端技術入門B	1後④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
192	兼担	教授	ﾐｽﾞﾉ ｾｲｷﾞ 水野 清義 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合工学概論Ⅰ※ 材料表面工学 卒業研究	3前①～② 3後④ 4通	0.1 1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年11月）	
193	兼担	教授	ﾐｽﾐ ｶｽﾞｵ 三隅　一百 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （昭63年4月）	
194	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｺｳｼﾞ 溝口　孝司 ＜令和3年4月＞		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成6年4月）	
195	兼担	教授	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ ﾖｼﾋｺ 南澤　良彦 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 （平成13年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
196	兼担	教授	ﾐﾅﾐﾉ ｼｹﾞﾙ 南野　森 ＜令和3年4月＞		D，E，A， （修士）		法学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 （平成14年4月）	
197	兼担	教授	ﾑｶｲﾀﾞ ﾏｻｼ 向田　昌志 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成17年4月）	
198	兼担	教授	ﾑﾈﾄｳ ｼﾝｼﾞ 宗藤 伸治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		無機物質化学Ⅰ 無機物質化学Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成15年12月）	
199	兼担	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｶｽﾞ 村上　恭和 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.6	1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成27年4月）	
200	兼担	教授	ﾓﾄｶﾈ ﾏｻﾋﾛ 元兼　正浩 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・ 後③・④ 1前①・②・ 後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 （平成15年4月）	
201	兼担	教授	ﾓﾘｳｴ ｵｻﾑ 森上　修 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 教授 （平成16年11月）	
202	兼担	教授	ﾓﾘﾀ　ｺｳｼﾞ 守田　幸路 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		先端技術入門B 原子力工学概論※	1後④ 2前①～②	1 0.7	1 1	九州大学大学院 工学研究院 教授 （平成10年11月）	
203	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ｻﾄｼ 森元　聡 ＜令和3年4月＞		薬学博士		身の回りの化学	1前①・②・ 後③・④	1	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成2年9月）	
204	兼担	教授	ﾓﾛｸﾏ ｾｲｲﾁ 諸隈　誠一 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 （平成30年4月）	
205	兼担	教授	ﾔﾌﾞｳﾁ ﾋﾃﾞﾀｹ 藪内　英剛 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		臨床イメージング	2後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 （平成16年3月）	
206	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｼﾞｭﾝ 山下　潤 ＜令和3年4月＞		博士（社会科学）		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・ 後③～④ 2前①・②	4 2	2 2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 （平成12年4月）	
207	兼担	教授	ﾔﾏﾆｼ ﾖｳｺ 山西　陽子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｲｷﾞﾘｽ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・ 後③・④ 1前①・②・ 後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成28年4月）	
208	兼担	教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾋﾛﾐ 山村　ひろみ ＜令和3年4月＞		文学修士		スペイン語ⅠA スペイン語ⅠB スペイン語ⅡA スペイン語ⅡB スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 （平成6年4月）	
209	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　一博 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B 熱力学基礎	1前①・②・ 後③・④ 1後③・④	2 2	2 2	九州大学 理学研究院 教授 （平成31年4月）	
210	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾓﾄｼﾞ 山本　元司 ＜令和3年4月＞		工学博士		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 教授 （平成2年4月）	
211	兼担	教授	ﾕｱｻ(ﾌｸｻﾞﾜ) ﾋﾛﾐ 湯浅(福澤) 裕美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 先端技術入門A	1前② 1後③	2 1	2 1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 （平成27年4月）	
212	兼担	教授	ﾖｳ ｿｳﾒｲ 葉　聰明 ＜令和3年4月＞		博士（経営学）		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 （平成29年4月）	
214	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｼｹﾞｵ 吉田 茂雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.1 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成25年4月）	
215	兼担	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾖﾊﾝ Lauwereyns Johan ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー Brain and Mind	1前② 2後③・④	2 2	2 2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成22年1月）	
216	兼担	教授	ﾜﾘｲｼ ﾋﾛﾕｷ 割石　博之 ＜令和3年4月＞		Ph.D （ｱﾒﾘｶ）		生命の科学A	1前①・②・ 後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
217	兼担	准教授	ｱｰﾑｽﾄﾛﾝｸﾞ　ﾏｼｭｰ ｱｲｻﾞｯｸ Armstrong Matthew Isaac ＜令和3年4月＞		修士（TESOL学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
218	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ　ﾉﾌﾞﾋﾛ 相澤　伸広 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
219	兼担	准教授	ｱｻｲ　ﾐﾂﾃﾙ 浅井　光輝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成19年10月）	
220	兼担	准教授	ｱﾘﾏ　ﾕｳｽｹ 有馬　祐介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		身の回りの化学	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成30年11月）	
221	兼担	准教授	ｲｲｼﾞﾏ　ﾕｳｼﾞ 飯嶋　裕治 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後③･④ 3前①･②	2 2.5 2 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
223	兼担	准教授	ｲｹｿﾞｴ　ﾘｭｳﾔ 池添　竜也 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成30年4月）	
224	兼担	准教授	ｲｹﾀﾞ　ﾐﾅｺ 池田　美奈子 ＜令和3年4月＞		修士（美術）		デザイン史	2後③･④	4	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
225	兼担	准教授	ｲ　ｻﾝﾓｸ 李　相穆 ＜令和3年4月＞		博士（国際文化）		韓国語ⅠA 韓国語ⅠB 韓国語ⅡA 韓国語ⅡB 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ 韓国語表現演習Ⅰ 韓国語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
226	兼担	准教授	ｲｼｲ(ﾃﾞｨｼﾞﾛﾗﾓ)　ﾕｳｺ 石井(ディジロラモ)　祐子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②･後③～④ 3前①･②	2 2.5 4 2	2 1 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
227	兼担	准教授	ｲｼｲ　ﾕｳｼﾞ 石井　祐次 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		社会と健康	3前①･②	4	2	九州大学 薬学研究院 准教授 （平成20年4月）	
228	兼担	准教授	ｲｼﾊﾞｼ　ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 石橋　純一郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①･②･後③･④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成10年11月）	
229	兼担	准教授	ｲﾄｳ　ﾀｶﾐﾁ 伊藤　崇達 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 教育心理学特論（教員･学校心理学）	1前①～②･後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年10月）	
230	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ(ｴﾊﾞﾀ)　ｼｵ 稲垣（江端）　紫緒 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		データマイニングと情報可視化	2後③･④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成27年4月）	
231	兼担	准教授	ｲﾅｶﾞｷ　ﾔｵﾋﾛ 稲垣　八穂広 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子力工学概論※	2前①～②	0.6	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （昭和63年8月）	
232	兼担	准教授	ｲﾉｳｴ　ﾄﾓｵ 井上　朝雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年12月）	
233	兼担	准教授	ｲﾖﾓﾄ(ﾌｶｻﾞﾜ)　ﾅｵｺ 伊豫本(深澤)　直子 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成22年12月）	
234	兼担	准教授	ｲﾜﾐ　ｼﾝｺﾞ 岩見　真吾 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年11月）	
235	兼担	准教授	ｳｴﾉ　ﾀｶﾄｼ 上野　高敏 ＜令和3年4月＞		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③･④ 2後③･④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成8年11月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
236	兼担	准教授	ｳｵｽﾞﾐ　ﾕｳｽｹ 魚住　裕介 ＜令和3年4月＞		工学博士		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.1	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
237	兼担	准教授	ｳｼｱﾏ　ﾀｹﾄｼ 牛尼　剛聡 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバー空間デザイン	2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成15年10月）	
238	兼担	准教授	ｳﾂﾉﾐﾔ　ｻﾄｼ 宇都宮　聡 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代化学	2前①	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成19年4月）	
239	兼担	准教授	ｳﾛﾌﾞﾚｽｷ　ｸﾞﾚｺﾞﾘｼﾞｮﾝ Wroblewski Greggory John ＜令和3年4月＞		博士（医学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①･② 2前①･②	1 1 6 2	1 1 6 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成31年4月）	
240	兼担	准教授	ｴｸﾞﾁ　ｷﾖｼ 江口　潔 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育学特論	2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成30年4月）	
241	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ　ﾁﾊﾙ 大神　智春 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		Interegrated Courses: Beginners A Kanji Courses: Advanced A Kanji Courses: Advanced B 「留学」考	1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1後③～④	1 2 2 1	1 2 2 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成16年11月）	
242	兼担	准教授	ｵｵｶﾞ　ﾄｵﾙ 大賀　哲 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Ideology And Discourse Analysis （ｲｷﾞﾘｽ）		アジア共同体入門	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成20年2月）	
243	兼担	准教授	ｵｵｺｳﾁ　ﾕﾀｶ 大河内　豊 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論 力学概論演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
244	兼担	准教授	ｵｶﾞﾀ　ﾖｼﾄ 尾方　義人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		デザイン思考 デザインと観察	1前①･②･後③･④ 2前①～②	4 2	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
245	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ　ﾀｽｹ 岡本　太助 ＜令和3年4月＞		博士 （言語文化学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	
246	兼担	准教授	ｵｵﾉ　ｺｳｲﾁﾛｳ 大野　光一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
247	兼担	准教授	ｵｶﾍﾞ　ﾋﾛﾀｶ 岡部　弘高 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	2 0.2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成1年10月）	
248	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ　ﾂﾖｼ 岡本　剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①･②	2 2.5 2	2 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成18年2月）	
249	兼担	准教授	ｵｷﾞｼﾏ　ﾀﾀﾞｼ 荻島　正 ＜令和3年4月＞		理学博士		自然科学総合実験	1前①･後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成3年11月）	
250	兼担	准教授	ｵｷﾍﾞ（ﾋﾞﾋﾗｰ）ﾅｵｺ 沖部（ビヒラー）奈緒子 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology （ｲｷﾞﾘｽ）		生物学概論	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成23年1月）	
251	兼担	准教授	ｵﾄﾞﾜｲﾔｰ　ｼｮｰﾝ　ﾘﾁｬｰﾄﾞ Odwyer Shaun Richard ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
252	兼担	准教授	ｵﾉﾃﾞﾗ　ﾀｹｼ 小野寺　武 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電子情報工学基礎Ⅰ 電子情報工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学大学院 システム情報科学研究院 准教授 （平成26年1月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
253	兼担	准教授	ｵﾉ ﾔｽﾃﾙ 小野　容照 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成29年10月）	
254	兼担	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾓﾘﾌﾞﾛｳ 貝沼　茂三郎 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		漢方医薬学	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 准教授 （平成19年4月）	
255	兼担	准教授	ｶｼﾞﾀ　ﾕｷﾋﾃﾞ 梶田　幸秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成17年4月）	
257	兼担	准教授	ｶｽﾔ ﾅｵﾋﾛ 糟谷 直宏 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成24年5月）	
258	兼担	准教授	ｶﾀｵｶ ｹｲ 片岡　啓 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		哲学･思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成17年4月）	
259	兼担	准教授	ｶﾅﾔﾏ ｺｳｼﾞ 金山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 科学の歴史A 科学の歴史B 科学の基礎（哲学的考察）	1前② 2前①・② 2前①・② 2後③・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成30年10月）	
260	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｽｹ 金子　晃介 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		セキュリティエンジニアリング演習A セキュリティエンジニアリング演習B セキュリティエンジニアリング演習C	1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1	1 1 1	九州大学 ｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨｾﾝﾀｰ 准教授 （平成26年4月）	
261	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｼｭｳﾍｲ 金子　周平 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成28年4月）	
262	兼担	准教授	ｶﾐﾓﾄ ｼﾞｮｳ 神本　丈 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		入門線形代数Ⅰ 入門線形代数Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前① 1前② 1前①～② 1後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成12年10月）	
263	兼担	准教授	ｶﾜｴ　ﾀﾂﾔ 河江　達也 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		応用量子物理学入門※	2前①～②	0.2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成5年5月）	
264	兼担	准教授	ｶﾜﾑﾗ ｱｷﾄｼ 河村　彰星 ＜令和3年4月＞		博士 （計算機科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成29年8月）	
265	兼担	准教授	ｶﾝ ｲｸｼﾞｭﾝ 姜　益俊 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA 九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・② 2前①・②	2 2	2 2	九州大学 共創学部 准教授 （平成22年4月）	
266	兼担	准教授	ｷｼﾓﾄ ﾋﾛ 岸本　裕歩 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB	1前② 1前①～② 1後③ 1後④	2 1 0.5 0.5	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成29年4月）	
267	兼担	准教授	ｷﾀｻﾞﾜ ﾐﾂﾙ 北澤　満 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成17年4月）	
268	兼担	准教授	ｷﾀﾊﾗ ﾀﾂﾐ 北原　辰巳 ＜令和3年4月＞		工学博士		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
269	兼担	准教授	ｷﾑﾗ ﾀｸﾔ 木村　拓也 ＜令和3年4月＞		博士（教育学）		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成24年10月）	
270	兼担	准教授	ｸｽﾐ ｼﾞｭﾝｺ 楠見　淳子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年10月）	
271	兼担	准教授	ｸﾒ ﾋﾛｼ 久米　弘 ＜令和3年4月＞		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成9年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
272	兼担	准教授	ｸﾗｶﾀ ｹﾝｻｸ 倉方　健作 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩA フランス語ＩB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
273	兼担	准教授	ｸﾗﾀ ｺｳｻｸ 藏田　耕作 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
274	兼担	准教授	ｸﾘﾔﾏ ﾄｵﾙ 栗山　暢 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語プラクティクムＩ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成6年4月）	
275	兼担	准教授	ｸﾛﾝﾂ ﾃｯﾄﾞ Clonts Ted ＜令和3年4月＞		博士（英文学）		学術英語・テーマベース	2前①･②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成28年4月）	
276	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 小島　健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 電磁気学概論	1前② 1前①･②･後③･④ 1後③	1 2 1	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成20年6月）	
277	兼担	准教授	ｺﾊﾐ ﾅﾀﾘｰ 許斐　ナタリー ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成31年4月）	
278	兼担	准教授	ｺﾐﾅﾄ ﾀｸｵ 小湊　卓夫 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論：ボランティア 社会連携活動論：インターンシップ 人と人をつなぐ技法	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成17年4月）	
279	兼担	准教授	ｺﾝﾉ ﾀｸﾔ 今野　拓也 ＜令和3年4月＞		数理科学博士		微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成7年7月）	
280	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞﾕｷ 齋藤　和幸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成1年6月）	
281	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 斎藤　新悟 ＜令和3年4月＞		博士（数学）		課題協学科目 社会と数理科学 入門微分積分Ⅰ 入門微分積分Ⅱ 体験してわかる自然科学	1後③～④ 1前①･②･後③･④ 1後③ 1後④ 1後③･④	2.5 1 1 1 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
282	兼担	准教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ Integrated Courses: Advanced A Integrated Courses: Advanced B Kanji Courses: Intermediate 2A Kanji Courses: Intermediate 2B Kanji Courses: Pre-Advanced A Kanji Courses: Pre-Advanced B	1前① 1前② 2前①～② 2前①～② 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年4月）	
283	兼担	准教授	ｻｶｲ ｱﾔ 酒井　彩 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ Integrated Courses: Elementary 1A Integrated Courses: Pre-Advanced A Integrated Courses: Pre-Advanced B Kanji Courses: Pre-Intermediate A Kanji Courses: Pre-Intermediate B Kanji Courses: Intermediate 1A Kanji Courses: Intermediate 1B	1後③ 1後④ 1前①･後③ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④ 1前①･後③ 1前②･後④	2 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成28年8月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
284	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 坂口　英継 ＜令和3年4月＞		理学博士		現代物理学基礎	2前①～②	2	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭63年5月）	
285	兼担	准教授	ｻｻｵｶ ﾀｶｼ 笹岡　孝司 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年7月）	
286	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　典子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語プラティクⅠ フランス語プラティクⅡ フランス語プラティクⅢ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
287	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾋﾛｷ 佐藤　弘基 ＜令和3年4月＞		経営修士 （専門職）		事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①･②	2	2	九州大学 法務統括室 准教授 （平成26年2月）	
288	兼担	准教授	ｻﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 佐藤　正則 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロシア語ⅠA ロシア語ⅠB ロシア語ⅡA ロシア語ⅡB ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成14年4月）	
289	兼担	准教授	ｼｶﾞ ﾂﾄﾑ 志賀　勉 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④ 1前①～②･後③～④･2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成4年7月）	
290	兼担	准教授	ｼﾞﾂﾏﾂ ﾕﾀｶ 實松　豊 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成13年4月）	
291	兼担	准教授	ｼﾏﾀﾞ ｱﾂｼ 島田　敬士 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 （平成23年10月）	
292	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ｿｳｼﾞ 清水　宗治 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成26年3月）	
293	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾄｼﾋﾛ 志水　俊広 ＜令和3年4月＞		第二言語 （英語）修士		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成11年4月）	
295	兼担	准教授	ｽｴｸﾆ ｺｳｲﾁﾛｳ 末國 晃一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		固体物理Ⅰ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3前① 3前② 4通	2 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	
296	兼担	准教授	ｽｷﾞﾔﾏ ｱｶｼ 杉山　あかし ＜令和3年4月＞		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②･後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成4年4月）	
297	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶｺ 鈴木　隆子 ＜令和3年4月＞		博士（教育開発学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・テーマベース	1後③ 1後④ 2前①･②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
298	兼担	准教授	ｾｸﾞﾁ ﾉﾘｺ 瀬口　典子 ＜令和3年4月＞		博士（人類学）		先史学入門	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成24年7月）	
299	兼担	准教授	ｿｶﾞﾍﾞ ﾊﾙｶ 曽我部　春香 ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成21年4月）	
300	兼担	准教授	ｿﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 柚本　智軌 ＜令和3年4月＞		博士（水産学）		生命の科学A	1前①･②･後③･④	2	2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年2月）	
301	兼担	准教授	ﾀｲ ｱｷﾗ 田井　明 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①･②･後③･④ 1前①･②･後③･④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年2月）	
302	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀﾂﾛｳ 高橋　達郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		細胞生物学	1前①～②･後③～④･2前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成28年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
303	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾌﾄｼ 高橋　太 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論	1後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成26年3月）	
304	兼担	准教授	ﾀｷｶﾞﾜ ﾘｮｳ 多喜川　良 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気工学基礎Ⅰ 電気工学基礎Ⅱ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学大学院 システム情報科学研究院 准教授 （平成25年4月）	
305	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾄｼｶﾂ 武田　利勝 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1前① 1前② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成26年4月）	
306	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｳｲﾁﾛｳ 竹田　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		数学演習AⅡ	1後③～④	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年4月）	
307	兼担	准教授	ﾀｹﾀﾞ ﾕｶ 武田　友加 ＜令和3年4月＞		博士（経済学）		経済学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成26年4月）	
308	兼担	准教授	ﾀｼﾞﾘ ﾖｼﾉﾘ 田尻　義了 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成25年5月）	
309	兼担	准教授	ﾀﾁ ﾀｸｼﾞ 舘　卓司 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		集団生物学	1後③～④・ 2前①～②	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
310	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｶﾝｼﾞ 田中　観自 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 心理学入門	1前② 1前①～②・ 後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成31年4月）	
311	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾀｶｼ 田中 太氏 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成18年1月）	
312	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　晶国 ＜令和3年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	3前①・②	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成28年4月）	
313	兼担	准教授	ﾀﾆ ﾓﾄﾋﾛ 谷　元洋 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		自然科学総合実験	1前①・後③	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成23年4年）	
314	兼担	准教授	ﾂｼﾞﾀ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 辻田　淳一郎 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		先史学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成15年10月）	
316	兼担	准教授	ﾂﾂｲ ｸﾝｹﾞﾝ 堤井 君元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 電気エネルギー工学 卒業研究	4前① 3後③～④ 3前② 4通	0.2 0.1 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年3月）	
317	兼担	准教授	ﾂﾑﾗ ｺｳｼﾞ 津村　浩二 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの物理学B	1前①・②・ 後③・④	2	2	九州大学 理学研究院 准教授 （平成1年11月）	
318	兼担	准教授	ﾃﾞｶﾏｽ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Decamous GaBrielle ＜令和3年4月＞		Ph.D （視覚文化学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成23年10月）	
319	兼担	准教授	ﾃﾗﾆｼ ﾀｶｼ 寺西　高 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論	1前①～②	2	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成16年4月）	
321	兼担	准教授	ﾄｳﾄﾞｳ ﾐﾂｸﾞ 東藤 貢 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （アメリカ）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成7年4月）	
322	兼担	准教授	ﾄﾐﾔｽ ﾘｮｳｺ 富安 亮子 ＜令和3年4月＞		博士（数理科学）		複素関数論	2後③～④	2	1	九州大学 ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成31年1月）	
324	兼担	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾀｹｼ 中川 剛志 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		磁性材料学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3後④ 3前① 3前② 4通	1 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成24年11月）	
325	兼担	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾖｼｱｷ 中島　楽章 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		歴史学入門	1前①～②・ 後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成12年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
326	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾉﾌﾞﾋｺ 中野　伸彦 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成19年1月）	
327	兼担	准教授	ﾅｶﾉ ﾐﾁﾋｺ 中野 道彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成22年4月）	
328	兼担	准教授	ﾅｶﾔﾏ ﾋﾛﾌﾐ 中山　裕文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成12年3月）	
329	兼担	准教授	ﾆｲ ｼｭﾝﾀｸ 新居　俊作 ＜令和3年4月＞		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成14年10月）	
331	兼担	准教授	ﾆｼﾎﾞﾘ ﾏｲｺ 西堀 麻衣子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機器分析学 構造解析学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前② 3後③ 3前① 3前② 4通	2 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成23年7月）	
332	兼担	准教授	ﾉｳﾄﾐ ｱｷﾋﾛ 納冨　昭弘 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 （平成23年3月）	
333	兼担	准教授	ﾊｽﾞｳｪﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｶﾞﾚｽ Haswell Christopher Gareth ＜令和3年4月＞		博士 （英語学・言語学） （ｲｷﾞﾘｽ）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成27年4月）	
334	兼担	准教授	ﾊﾏﾓﾄ ﾋﾛﾐ 浜本（平成井）裕美 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・テーマベース	2前①・②	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	
335	兼担	准教授	ﾊﾔｶﾜ ﾄｼﾕｷ 早川　敏之 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A アカデミック・フロンティアⅠ アカデミック・フロンティアⅡ	1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年7月）	
336	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾏｻﾖｼ 原田　昌佳 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成17年12月）	
337	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 東口　豊 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		芸術学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成14年5月）	
338	兼担	准教授	ﾋｶﾞｼﾉ ｼﾝｲﾁﾛｳ 東野 伸一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎 力学基礎演習	1前①～② 1前①～②	2 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成4年4月）	
339	兼担	准教授	ﾋｶﾐ ｶｽﾞﾋﾛ 樋上　和弘		博士（理学）		数学演習ＡⅠ	1前①～②	1	1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
340	兼担	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 樋口　明彦 ＜令和3年4月＞		Doctor of Design （ｱﾒﾘｶ）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成11年4月）	
341	兼担	准教授	ﾋﾗｲ ﾔｽﾏﾙ 平井　康丸 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 （平成18年3月）	
342	兼担	准教授	ﾋﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 平山　賢太郎 ＜令和3年4月＞		学士（法学）		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 （平成30年10月）	
343	兼担	准教授	ﾋﾛｾ ｹｲ 廣瀬　慧 ＜令和3年4月＞		博士 （機能数理学）		数理統計学 機械学習と人工知能	1後③～④・2前①～② 2後③・④	4 2	2 2	九州大学 ﾏｽﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所 准教授 （平成28年4月）	
345	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾀ ｶﾂﾋｺ 藤田 克彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4前①	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成10年4月）	
346	兼担	准教授	ﾍﾟｲﾝﾀｰ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ Painter Andrew ＜令和3年4月＞		博士 （人類学） （ｱﾒﾘｶ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成25年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
347	兼担	准教授	ﾎｰﾙ ﾏｲｹﾙ Hall　Michael ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース 専門英語	1後③ 1後④ 2前①～② 2前①～②	1 1 2 1	1 1 2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 （平成18年4月）	
348	兼担	准教授	ﾎｼﾉ　ﾕｳ 星野　友 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		有機化学第一	2前①～②	2	1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成22年9月）	
349	兼担	准教授	ﾏｴﾊﾀ ｹｲｽｹ 前畑　京介 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		現代物理学入門	2前①～②	2	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成2年10月）	
350	兼担	准教授	ﾏｷ ﾔｽﾕｷ 槇　靖幸 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成29年8月）	
351	兼担	准教授	ﾏｽｵ ﾁｶｺ 益尾　知佐子 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 （平成20年10月）	
352	兼担	准教授	ﾏｽﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 増本　賢治 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習ⅠA 身体運動科学実習ⅠB 身体運動科学実習ⅡA 身体運動科学実習ⅡB 身体運動科学実習ⅢA 身体運動科学実習ⅢB 身体運動科学実習ⅣA 身体運動科学実習ⅣB 身体運動科学実習Ⅴ 健康・スポーツ科学講義A	1前①～② 1後③ 1後④ 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 2前①・② 1後③～④ 1後③	1 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成27年4月）	
353	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾃﾞｱｷ 松浦 秀明 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成3年4月）	
354	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓｺ 松下　智子 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		基幹教育セミナー 心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成23年10月）	
355	兼担	准教授	ﾏﾂｼﾏ ｱﾔﾐ 松島　綾美 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 （平成17年2月）	
356	兼担	准教授	ﾐｷ ﾊｼﾞﾒ 三木　一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成25年1月）	
357	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ｱﾂｺ 水野 敦子 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		グローバル化とアジア経済 【隔年】	3前①・②	4	2	九州大学 経済学研究院 准教授 （平成24年10月）	
358	兼担	准教授	ﾐﾂﾄﾞｳ ﾋﾛﾕｷ 光藤　宏行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間環境学）		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 （平成19年4月）	
359	兼担	准教授	ﾐﾈ ﾂﾈﾉﾘ 峯　恒憲 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 （平成4年4月）	
360	兼担	准教授	ﾐﾔﾜｷ ｼﾞﾝ 宮脇　仁 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成20年2月）	
362	兼担	准教授	ﾓﾘﾉ ｶｲ 森野 佳生 ＜令和3年4月＞		博士（情報理工学）		融合基礎情報学Ⅲ 融合応用情報学A 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 3後③～④ 4通	2 1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （令和1年10月）	
363	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾋﾃﾞｵ 森　英男 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成20年4月）	
364	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｱｷﾄ 安田　章人 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		コミュニケーション入門 社会調査法ⅡA 社会調査法ⅡB	1前① 2後③・④ 2後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年4月）	
365	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 安田　和弘 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		力学基礎演習 応用量子物理学入門※	1前①～② 2前①～②	1 0.1	1 1	九州大学大学院 工学研究院 准教授 （平成5年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
366	兼担	准教授	ﾔｽﾀｹ ﾀﾞｲｽｹ 安武　大輔 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		農のための植物ー環境系輸送現象論 農のための最適環境制御 少人数セミナー	1後③ 1前① 1前①・②・後③・④	2 2 2	2 2 2	九州大学 農学研究院 准教授 （平成27年4月）	
368	兼担	准教授	ﾔﾏｶﾞﾀ ﾕｷﾋｺ 山形　幸彦 ＜令和3年4月＞		工学博士		電気回路Ⅱ 高電圧・パルスパワー工学 卒業研究	3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年5月）	
369	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾂｵ 山口　哲生 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		図形科学Ⅰ 図形科学Ⅱ 空間表現実習Ⅰ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成24年10月）	
370	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾛ　ﾏｻﾙ 山城　賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎	1前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成13年4月）	
371	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾀｸﾏ 山田　琢磨 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		熱力学概論演習	1後④	0.5	1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年5月）	
372	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾏｻﾉﾘ 山田　政寛 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年1月）	
373	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾕｳｷ 山田　祐樹 ＜令和3年4月＞		博士（心理学）		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後③・④	2 2	1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 （平成25年10月）	
374	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾘｺ 山本　紀子 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ・健康支援ｾﾝﾀｰ 准教授 （平成25年4月）	
375	兼担	准教授	ﾖｺﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 横森　大輔 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
377	兼担	准教授	ﾖｼﾀｹ ﾂﾖｼ 吉武　剛 ＜令和3年4月＞		博士（情報工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽA※ 電気回路Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	0.2 2 0.1 0.1 0.1 0.4 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成8年4月）	
378	兼担	准教授	ﾖｼﾀﾞ　ﾋﾛｼ 吉田　寛 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	1前①～② 1後③～④	2 2	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 （平成23年4月）	
379	兼担	准教授	ﾖｼﾊﾗ　ﾏｻｺ 吉原　雅子 ＜令和3年4月＞		博士（人文科学）		哲学・思想入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成19年4月）	
380	兼担	准教授	ﾖﾈﾂﾞ　ｺｳﾀﾛｳ 米津　幸太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 准教授 （平成22年10月）	
381	兼担	准教授	ﾘ ｷﾞｮｳｴﾝ 李　暁燕 ＜令和3年4月＞		博士（知識科学）		Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Elementary 1B Integrated Courses: Elementary 2A Integrated Courses: Elementary 2B Integrated Courses: Pre-Intermediate A Integrated Courses: Pre-Intermediate B	1前②・後④ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	九州大学 共創学部 准教授 （平成25年10月）	
382	兼担	准教授	ﾘ ﾚｲｸﾝ 李　麗君 ＜令和3年4月＞		博士 （比較社会文化）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語実践Ⅲ 中国語集中演習	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	2 2 1 1 2 1 3 2 1 2	2 2 1 1 2 1 3 2 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成22年4月）	
383	兼担	准教授	ﾘｭｳ ﾋｮｳ 劉　驃 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB 中国語実践Ⅰ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 1後③～④	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成28年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
384	兼担	准教授	ﾙｰﾅ ｴﾄﾞﾑﾝﾄﾞ Luna Edmundo ＜令和3年4月＞		博士（言語学）		学術英語・スキルベース	2前①・②	2	2	九州大学 人文科学研究院 准教授 （平成30年4月）	
385	兼担	准教授	ﾚｲｶｰ ｽﾃﾌｧﾝ Laker Stephen ＜令和3年4月＞		博士 （言語学） （ｵﾗﾝﾀﾞ）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 准教授 （平成26年4月）	
386	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｱｷ 渡邊　裕章 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 准教授 （平成26年9月）	
387	兼担	講師	ｲﾏｻｶ ﾄﾓｺ 今坂　智子 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎化学結合論Ⅰ 基礎化学結合論Ⅱ	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 （平成15年10月）	
388	兼担	講師	ｷｸｶﾜ ﾏｺﾄ 菊川　誠 ＜令和3年4月＞		Master of Medical Education		インフォームドコンセント	3前①・②	2	2	九州大学 医学研究院 講師 （平成22年12月）	
389	兼担	講師	ｸｽﾐ ｹﾝｽｹ 楠見　健介 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 （平成10年7月）	
390	兼担	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳｽｹ 小林　亮介 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		現代史Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
391	兼担	講師	ﾊﾟｰｳｪﾙｽ ﾙｰﾍﾞﾝ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾗ ｱﾝﾄﾞﾘｰｽ Pauwels Ruben Gabriella Andries ＜令和3年4月＞		修士（日本学科）		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 4	1 1 4	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成27年10月）	
392	兼担	講師	ﾌｫﾙﾏｼｮﾝ ｱﾝﾄﾆｮ ｼﾞｭﾆｱ ﾌﾟﾙﾃﾞﾝﾃ Formacion Antonio Jr Prudente ＜令和3年4月＞		修士（法学）		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 （平成22年1月）	
393	兼担	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤岡　悠一郎 ＜令和3年4月＞		博士（地域研究）		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年4月）	
394	兼担	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄﾓｺ 藤田　智子 ＜令和3年4月＞		博士（社会学）		男女共同参画	2後③・④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 講師 （平成29年10月）	
395	兼担	講師	ﾎﾞｽﾄﾝ ｼﾞｪﾚﾐｰ ｽｺｯﾄ Boston Jeremy Scott ＜令和3年4月＞		Doctor of Education		学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2 学術英語・スキルベース	1後③ 1後④ 2前①・②	1 1 2	1 1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 （平成28年4月）	
396	兼担	講師	ﾏﾙﾔﾏ ﾏｻﾐ 丸山　マサ美 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医療倫理学Ⅰ 医療倫理学Ⅱ バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 （平成9年4月）	
397	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾛﾐ 山田　裕美 ＜令和3年4月＞		修士（経営学）		アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②	2	2	九州大学 ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾌｧﾝ/ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ 講師 （平成30年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
398	兼担	講師	ﾜｷｻｶ ﾏｻｺ 脇坂　真彩子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		Integrated Courses: Beginners A Integrated Courses: Beginners B Integrated Courses: Intermediate 1A Integrated Courses: Intermediate 1B Integrated Courses: Intermediate 2A Integrated Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Elementary 1A Speaking Courses: Elementary 1B Speaking Courses: Elementary 2A Speaking Courses: Elementary 2B Speaking Courses: Pre-Intermediate A Speaking Courses: Pre-Intermediate B Speaking Courses: Intermediate 1A Speaking Courses: Intermediate 1B Speaking Courses: Intermediate 2A Speaking Courses: Intermediate 2B Speaking Courses: Pre-Advanced A Speaking Courses: Pre-Advanced B Speaking Courses: Advanced A Speaking Courses: Advanced B	1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 留学生ｾﾝﾀｰ 講師 （平成26年9月）	
399	兼担	助教	ｱﾘﾀ ﾏｺﾄ 有田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎	1前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成8年4月）	
400	兼担	助教	ｲﾄｳ ｶｵﾙ 伊藤　薫 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語･CALL 1 学術英語･CALL 2	1前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
401	兼担	助教	ｲﾏﾌｸ ﾔｽﾋﾛ 今福　泰浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生物学概論	1前①～②･後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成10年9月）	
402	兼担	助教	ｵｵﾂｶ ﾄﾓﾉﾘ 大塚　知昇 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・テーマベース 学術英語・スキルベース	1前①～② 1前①～② 2前①･② 2前①･②	1 1 2 2	1 1 2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成31年4月）	
404	兼担	助教	ｶﾀﾋﾗ(ｺﾏﾂ) ﾖｼｺ 片平(小松)　賀子 ＜令和3年4月＞		薬学士		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.5 0.5	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成2年6月）	
405	兼担	助教	ｶﾏﾀｷ ｸﾆﾋﾛ 鎌滝　晋礼 ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成30年6月）	
406	兼担	助教	ｶﾜﾉ ﾃﾂﾔ 川野　哲也 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		力学概論演習	1前①～②	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成8年10月）	
407	兼担	助教	ｷｼﾞﾏ ﾀｶｼ 木島　孝之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		日本建築史概論	2前①･②	1	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成10年4月）	
409	兼担	助教	ｷｮｳ(ﾐｮｳｾﾞﾝ) ｶｲｼｮｳ 姜(明全)　海松 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成26年4月）	
411	兼担	助教	ｻｲﾄｳ ﾋｶﾙ 斉藤　光 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成28年3月）	
412	兼担	助教	ｿｳﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 宗和　伸行 ＜令和3年4月＞		修士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成10年9月）	
413	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾄｼｱｷ 田中　俊昭 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年5月）	
414	兼担	助教	ﾀﾅｶ ﾋﾛﾖｼ 田中　宏昌 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
415	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾋｻﾄｼ 谷口　寿俊 ＜令和3年4月＞		博士 （情報学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成29年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
416	兼担	助教	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾕｳﾀ 谷口　雄太 ＜令和3年4月＞		博士（情報科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 （平成29年10月）	
417	兼担	助教	ﾀﾆﾓﾄ ﾃﾙｵ 谷本　輝夫 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大 情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ 助教 （平成30年4月）	
418	兼担	助教	ﾀﾏｲ　ﾋﾛｷ 玉井　宏樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成23年4月）	
419	兼担	助教	ﾂｼﾞ　ﾔｽﾀｶ 辻　康孝 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成9年11月）	
420	兼担	助教	ﾂﾀﾊﾗ ﾘｮｳ 蔦原　亮 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		スペイン語ＩＡ スペイン語ＩＢ スペイン語ⅡＡ スペイン語ⅡＢ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語表現演習Ⅰ スペイン語表現演習Ⅱ	1前① 1前② 1後③ 1後④ 2前①～② 2後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成29年10月）	
421	兼担	助教	ﾂﾁﾔ ﾄﾓﾕｷ 土屋　智行 ＜令和3年4月＞		博士 （人間･環境学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 学術英語・プロダクション1 学術英語・プロダクション2	1前①～② 1前①～② 1後③ 1後④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 （平成27年4月）	
423	兼担	助教	ﾄﾐﾀ ｹﾝﾀﾛｳ 富田 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成18年11月）	
424	兼担	助教	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 中島　裕典 ＜令和3年4月＞		博士 （ｴﾈﾙｷﾞｰ科学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年4月）	
425	兼担	助教	ﾆｼﾔﾏ　ｺｳｼﾞ 西山　浩司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
426	兼担	助教	ﾉﾅｶ ﾓﾘﾔｽ 野中　壮泰 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		電磁気学基礎演習	1後③・④	0.5	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
427	兼担	助教	ﾋﾞｼｺﾌｽｷｰ ｱﾝﾄﾝ Visikosvkiy Anton ＜令和3年4月＞		博士 （理学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成24年4月）	
428	兼担	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日髙　芳樹 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		プログラミング演習	1前②・後④・2前①・②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成7年4月）	
429	兼担	助教	ﾎｿｶﾜ ﾀｶﾋﾛ 細川　貴弘 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		生命の科学B	1前①･②･後③･④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 （平成26年9月）	
430	兼担	助教	ﾏﾂﾅｶﾞ（ﾀｶﾔﾏ）　ﾁｱｷ 松永(高山)　千晶 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		力学基礎演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成18年1月）	
431	兼担	助教	ﾐﾉｳﾗ ｴｲｺ 箕浦　永子 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		空間表現実習Ⅱ	1後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 （平成22年4月）	
432	兼担	助教	ﾐﾔﾀ ｶｽﾞｼ 宮田　一司 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 工学研究院 助教 （平成26年9月）	
435	兼担	助教	ﾕ ｿﾝｼﾞｭﾝ YOO SUNGJUN ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	
436	兼担	助教	ﾖｼﾀｹ ｱｷﾗ 吉武　朗 ＜令和3年4月＞		工学士		空間表現実習Ⅰ	1前①～②・後③～④・2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 助教 （平成6年4月）	
437	兼担	助教	ﾖｼﾑﾗ ﾘｲﾁ 吉村　理一 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		学術英語・アカデミックイシューズ 学術英語・グローバルイシューズ 専門英語	1前①～② 1前①～② 2前①～②	1 1 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成30年6月）	
438	兼担	助教	ﾛｳ ﾜｲ ﾘｵﾝ Loh Wei Leong ＜令和3年4月＞		博士（芸術工学）		専門英語	2前①～②	1	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 （平成28年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教員の氏名等

（工学部融合基礎工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｴｲﾅｶﾞ ﾋﾛﾋﾛ 永長 久寛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		量子力学第一 エネルギー・環境学A※ エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 研究プロジェクト 触媒化学Ⅰ 触媒化学Ⅱ 卒業研究	2前①～② 4前① 4前① 3前①～② 4前① 3後③ 3後④ 4通	2 0.2 0.1 0.8 4 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成18年9月）	5日
2	専	教授	ｼﾏﾉｴ ｹﾝｺﾞｳ 島ノ江 憲剛 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		先端技術入門A エネルギー・環境学B※ 知的財産論 マネージメント論 マーケティング論 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅰ※ グローバル科目Ⅰ（論文） グローバル科目Ⅱ（討論） 融合基礎工学特別講義A 無機化学第三 卒業研究	1後③ 4前① 4前② 4後④ 4後④ 2後③～④ 3前①～② 4前② 4後③ 3後③ 3前①～② 4通	1 0.2 1 1 1 0.6 0.1 1 1 1 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年8月）	5日
3	専	教授	ｽｷﾞﾊﾗ ﾕｳｼﾞ 杉原 裕司 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 流れ学Ⅰ 力学 流体力学Ⅰ 卒業研究	2前①～② 2前② 2後③ 2後③～④ 4通	0.4 2 1 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成4年4月）	5日
4	専	教授	ﾀﾆﾓﾄ ｼﾞｭﾝ 谷本 潤 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		データ解析の数学 振動力学 熱・流体計測学 卒業研究	3後③～④ 2後③～④ 3前① 4通	2 2 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成7年1月）	5日
5	専	教授	ﾅｶｼﾏ ﾋﾃﾞﾊﾙ 中島 英治 ＜令和3年4月＞		工学博士		材料強度学 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 3前①～② 4通	2 0.1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （昭和60年6月）	5日
6	専	教授	ﾊﾗﾀ ｱｷﾗ 原田 明 ＜令和3年4月＞		工学博士		物理化学第一 先端計測科学※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	2前①～② 4前① 3前①～② 4通	2 0.4 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年5月）	5日
7	専	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾋｺ 宮崎 隆彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電磁気学概論演習 工学倫理 熱力学Ⅰ エネルギー変換工学 エネルギー・環境学A※ 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅱ※ 融合基礎工学特別講義B 熱エネルギー変換基礎 自動制御 伝熱学 熱機関工学 卒業研究	1後③ 1前① 2前① 3前①～② 4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後③ 2後③～④ 3前①～② 3前①～② 3後④ 4通	0.5 1 2 2 0.4 0.6 0.1 1 2 2 2 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成23年4月）	5日
8	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾅｵｼﾞ 山本 直嗣 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料力学Ⅱ 融合基礎情報学Ⅱ 融合工学概論Ⅱ※ 電磁気学Ⅱ 卒業研究	2前② 3前①～② 3後③～④ 3前①～② 4通	2 2 0.1 2 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成16年4月）	5日
9	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾕｷﾉﾌﾞ 渡邊 幸信 ＜令和3年4月＞		工学博士		先端計測科学※ 融合応用情報学C インターンシップⅠ（長期） インターンシップⅡ（短期） 融合工学概論Ⅱ※ 統計力学 量子力学 卒業研究	4前① 4前① 4通 4通 3後③～④ 2後③～④ 3前① 4通	0.2 1 3 1 0.1 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （昭和63年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
10	専	准教授	ｱﾝﾖｳｼﾞ ﾏｻﾕｷ 安養寺 正之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		航空力学 流体機械 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 機械電気科学設計演習 卒業研究	3後③ 3後③ 3前① 3後② 3後③ 3後④ 3後③ 4通	1 1 0.1 0.1 0.3 0.3 0.5 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成26年10月）	5日
11	専	准教授	ｲｹｶﾞﾔ ﾅｵｷ 池谷 直樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		データサイエンス序論 融合応用情報学D 卒業研究	1後③～④ 4前① 4通	2 1 6	1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成23年12月）	5日
12	専	准教授	ｲﾀｸﾗ ﾏｻﾙ 板倉 賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		融合工学概論Ⅰ※ 相平衡論 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前①～② 3前①～② 3前① 3前② 4通	0.1 2 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （昭和63年4月）	5日
13	専	准教授	ｶﾀﾔﾏ ｶｽﾞﾅﾘ 片山 一成 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		プロセス化学工学 エネルギー・環境学A※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 4通	2 0.2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年4月）	5日
14	専	准教授	ｷﾝ ﾀｸﾞﾋﾛ 金 政浩 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		光・量子物理計測 先端計測科学※ 融合基礎情報学Ⅰ 融合応用情報学B 融合工学概論Ⅱ※ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 卒業研究	3前①～② 4前① 2後③～④ 4前① 3後③～④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	2 0.2 1 1 0.1 0.1 0.1 0.3 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成24年4月）	5日
15	専	准教授	ﾁﾖｳ ﾄｳ KYAW THU ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （シンガポール）		熱工学演習 卒業研究	3前①～② 4通	1 6	1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
16	専	准教授	ﾊｼｽﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 橋爪 健一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料速度論 固体物理Ⅱ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前② 3後③ 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成4年4月）	5日
17	専	准教授	ﾎｳｼﾞｮｳ ﾊｼﾞﾒ 北條 元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		結晶学基礎 セラミックス材料学Ⅰ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3後③ 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年10月）	5日
18	専	准教授	ﾏﾂｷﾖ ｼｭｳｲﾁ 松清 修一 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		現代物理学基礎 フーリエ解析と偏微分方程式 プラズマ理工学Ⅰ 卒業研究	2前①～② 3前①～② 3後③ 4通	2 2 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成16年7月）	5日
19	専	准教授	ﾐﾂﾊﾗ ﾏｻﾄｼ 光原 昌寿 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工学概論※ 構造材料学 材料加工学 材料組織制御学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 物質材料科学実験Ⅲ 卒業研究	2前①～② 3後③ 3後④ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 4通	0.4 1 1 1 0.2 0.2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成22年4月）	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
20	専	准教授	ﾔﾌﾞｼﾀ ｱｷﾋﾛ 藪下 彰啓 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		化学反応論Ⅰ 化学反応論Ⅱ エネルギー・環境学A※ 分光学基礎 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3前② 4前① 3前① 3前① 3前② 4通	1 1 0.1 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成26年5月）	5日
21	専	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹﾝ 渡邉 賢 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		電気化学Ⅰ 電気化学Ⅱ セラミックス材料学Ⅱ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 物質材料科学実験Ⅳ 卒業研究	3後③ 3後④ 3後④ 3前① 3前② 3後④ 4通	1 1 1 0.1 0.1 2 6	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	5日
22	専	助教	ｱｶﾐﾈ ﾋﾛｼ 赤嶺 大志 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
23	専	助教	ｲｼｵｶ ﾄｼｵ 石岡 寿雄 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成10年8月）	5日
24	専	助教	ｵｵﾔ ﾏｺﾄ 大宅 諒 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
25	専	助教	ｶﾜｾ ｼｮｳｲﾁﾛｳ 川瀬 頌一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合基礎情報学Ⅰ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	2後③～④ 3前① 3前②	1 0.1 0.1	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （令和1年7月）	5日
26	専	助教	ｽｴﾏﾂ ｺｳｲﾁ 末松 昂一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成28年10月）	5日
27	専	助教	ﾂﾙ ﾀﾞｲｽｹ 鶴 大輔 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学設計演習	3前① 3前② 3後③	0.1 0.1 0.5	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成23年4月）	5日
28	専	助教	ﾃﾗｻｶ ｹﾝｲﾁﾛｳ 寺坂 健一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成22年9月）	5日
29	専	助教	ﾔﾏｸﾞﾁ ｿｳｲﾁ 山口 創一 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成22年4月）	5日
30	専	助教	ﾔﾏｻｷ ｼｹﾞﾄ 山崎 重人 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	5日
33	兼担	教授	ｱｺﾞｳ ﾋﾛｷ 吾郷 浩樹 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成15年4月）	
51	兼担	教授	ｲﾃﾞｲ ﾋﾛｼ 出射 浩 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4通	0.1 6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成15年4月）	
53	兼担	教授	ｲﾄﾞ ﾀｹｼ 井戸 毅 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （令和1年10月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
54	兼担	教授	ｲﾄｳ ｶｽﾞﾋﾃﾞ 伊藤　一秀 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		工業力学 流体力学演習 卒業研究	2前① 3前①～② 4通	2 1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成19年4月）	
56	兼担	教授	ｲﾅｶﾞｷ ｼｹﾞﾙ 稲垣　滋 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成19年2月）	
70	兼担	教授	ｵｵﾀｷ ﾐﾁﾀｶ 大瀧　倫卓 ＜令和3年4月＞		工学博士		無機化学第一 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	2前①～② 3前①～② 4通	2 0.1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成2年4月）	
92	兼担	教授	ｶﾝｶﾞﾘ ﾖｼﾋﾛ 寒川　義裕 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成17年1月）	
93	兼担	教授	ｷｸﾁ ﾋﾛﾂｸﾞ 菊池　裕嗣 ＜令和3年4月＞		工学博士		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4通	0.4 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （昭和61年4月）	
99	兼担	教授	ｸﾆﾉﾌﾞ ﾖｳｲﾁﾛｳ 國信　洋一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		エネルギー・環境学A※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4通	0.1 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成29年2月）	
114	兼担	教授	ｻｲﾄｳ(ﾊﾀﾉ) ﾜﾀﾙ 齋藤(羽田野)　渉 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成31年4月）	
154	兼担	教授	ﾆｼｻﾞﾜ ｼﾝｲﾁ 西澤　伸一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成29年2月）	
158	兼担	教授	ﾊｷﾞｼﾏ ｱﾔ 萩島　理 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		材料力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 卒業研究	2前① 3前①～② 4通	1 2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年4月）	
159	兼担	教授	ﾊﾀ ｻﾄｼ 波多　聰 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基幹教育セミナー 先端計測科学※ 融合工学概論Ⅰ※ 相転移論 卒業研究	1前② 4前① 3前①～② 3後④ 4通	2 0.2 0.1 1 6	2 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成6年4月）	
160	兼担	教授	ﾊｯﾄﾘ ﾚｲｼﾞ 服部　励治 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成16年4月）	
162	兼担	教授	ﾊﾏｾ ｹﾝｼﾞ 濱瀬　健司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		機器分析学	2後③･④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 （平成20年4月）	
163	兼担	教授	ﾊﾏﾓﾄ ｷｲﾁ 濵本　貴一 ＜令和3年4月＞		Doktor Der Technischen Wissenschaften（スイス）		光エレクトロニクス 半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合基礎工学展望※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 2後③～④ 3後③～④ 4通	2 0.4 0.8 0.6 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成17年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
165	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 林 潤一郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 卒業研究	4前① 4通	0.4 6	1 1	九州大学 先導物質化学研究所 教授 （平成21年3月）	
166	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾉﾌﾞﾔ 林 信哉 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		プラズマ応用工学 電磁気学Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ プラズマ理工学Ⅱ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3後④ 4通	1 2 0.1 1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成24年4月）	
177	兼担	教授	ﾌｼﾞﾉ ｼｹﾞﾙ 藤野 茂 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 教授 （平成10年3月）	
191	兼担	教授	ﾐｽﾞﾉ ｾｲｷﾞ 水野 清義 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		融合工学概論Ⅰ※ 材料表面工学 卒業研究	3前①～② 3後④ 4通	0.1 1 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 教授 （平成9年11月）	
213	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｼｹﾞｵ 吉田 茂雄 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		エネルギー・環境学B※ 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	4前① 3後③～④ 4通	0.1 0.1 6	1 1 1	九州大学 応用力学研究所 教授 （平成25年4月）	
222	兼担	准教授	ｲｹｿﾞｴ ﾘｭｳﾔ 池添 竜也 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成30年4月）	
256	兼担	准教授	ｶｽﾔ ﾅｵﾋﾛ 糟谷 直宏 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		卒業研究	4通	6	1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成24年5月）	
294	兼担	准教授	ｽｴｸﾆ ｺｳｲﾁﾛｳ 末國 晃一郎 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		固体物理Ⅰ 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前① 3前① 3前② 4通	2 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成28年4月）	
315	兼担	准教授	ﾂﾂｲ ｸﾝｹﾞﾝ 堤井 君元 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学A※ 融合工学概論Ⅱ※ 電気エネルギー工学 卒業研究	4前① 3後③～④ 3前② 4通	0.2 0.1 1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年3月）	
320	兼担	准教授	ﾄｳﾄﾞｳ ﾐﾂｸﾞ 東藤 貢 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy （アメリカ）		融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	3前①～② 4通	0.1 6	1 1	九州大学 応用力学研究所 准教授 （平成7年4月）	
323	兼担	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾀｹｼ 中川 剛志 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		磁性材料学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3後④ 3前① 3前② 4通	1 0.1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成24年11月）	
330	兼担	准教授	ﾆｼﾎﾞﾘ ﾏｲｺ 西堀 麻衣子 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機器分析学 構造解析学 物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※ 卒業研究	3前② 3後③ 3前① 3前② 4通	2 1 0.1 0.1 6	1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成23年7月）	
344	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾀ ｶﾂﾋｺ 藤田 克彦 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学B※ 融合工学概論Ⅰ※ 卒業研究	4前① 3前①～② 4前①	0.2 0.1 6	1 1 1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 （平成10年4月）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
361	兼担	准教授	ﾓﾘﾉ ｶｲ 森野 佳生 ＜令和3年4月＞		博士（情報理工学）		融合基礎情報学Ⅲ 融合応用情報学A 融合工学概論Ⅱ※ 卒業研究	3後③～④ 4前① 3後③～④ 4通	2 1 0.1 6	1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （令和1年10月）	
367	兼担	准教授	ﾔﾏｶﾞﾀ ﾕｷﾋｺ 山形 幸彦 ＜令和3年4月＞		工学博士		電気回路Ⅱ 高電圧・パルスパワー工学 卒業研究	3前①～② 3後③～④ 4通	2 2 6	1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成13年5月）	
376	兼担	准教授	ﾖｼﾀｹ ﾂﾖｼ 吉武 剛 ＜令和3年4月＞		博士（情報工学）		半導体・ﾃﾞﾊﾞｲｽA※ 電気回路Ⅰ 融合工学概論Ⅱ※ 機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ 機械電気科学実験Ⅲ 機械電気科学実験Ⅳ 卒業研究	4前① 2後③～④ 3後③～④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 4通	0.2 2 0.1 0.1 0.1 0.4 0.4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 （平成8年4月）	
403	兼担	助教	ｶﾀﾋﾗ(ｺﾏﾂ) ﾖｼｺ 片平(小松) 賀子 ＜令和3年4月＞		薬学士		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.5 0.5	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成2年6月）	
408	兼担	助教	ｷﾖｳ(ﾐｮｳｾﾞﾝ) ｶｲｼﾖｳ 姜(明全) 海松 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成26年4月）	
410	兼担	助教	ｻｲﾄｳ ﾋｶﾙ 斉藤 光 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		物質材料科学実験Ⅰ※ 物質材料科学実験Ⅱ※	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成28年3月）	
422	兼担	助教	ﾄﾐﾀ ｹﾝﾀﾛｳ 富田 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成18年11月）	
433	兼担	助教	ﾓﾘﾀ ﾀｲﾁ 森田 太智 ＜令和3年4月＞		博士（理学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成26年6月）	
434	兼担	助教	ﾕ ｿﾝｼﾞｭﾝ YOO SUNGJUN ＜令和3年4月＞		博士（工学）		機械電気科学実験Ⅰ 機械電気科学実験Ⅱ	3前① 3前②	0.1 0.1	1 1	九州大学 総合理工学研究院 助教 （平成29年4月）	

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部電気情報工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	3人	12人	14人	1人	人	30人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	2人	13人	5人	2人	人	人	22人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	5人	2人	人	人	人	人	7人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	7人	18人	17人	16人	1人	人	59人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部材料工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	4人	1人	人	人	6人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	4人	1人	人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	2人	2人	人	人	4人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	5人	7人	3人	人	人	15人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部応用化学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	2人	4人	4人	2人	人	12人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	6人	3人	1人	人	人	10人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	8人	7人	5人	2人	人	22人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部化学工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	2人	3人	1人	人	6人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	3人	2人	人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	3人	4人	3人	1人	人	11人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部融合基礎工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	4人	3人	1人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	1人	7人	2人	2人	人	人	12人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	4人	4人	1人	人	人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	5人	12人	7人	5人	1人	人	30人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部機械工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	10人	8人	人	人	18人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	1人	5人	12人	1人	人	人	19人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	7人	3人	2人	1人	人	人	13人	
	修　士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	8人	8人	24人	10人	人	人	50人	
	修　士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部航空宇宙工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	1人	3人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	3人	人	1人	人	人	4人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	2人	人	1人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	2人	4人	2人	4人	人	人	12人	
	修　士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部量子物理工学科

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	1人	4人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	3人	5人	人	人	8人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	3人	6人	人	人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	3人	10人	9人	人	人	22人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部船舶海洋工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	4人	2人	人	人	6人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1人	6人	2人	人	人	9人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部地球資源システム工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	1人	2人	人	人	4人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	2人	3人	1人	人	人	6人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	2人	1人	1人	1人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	2人	4人	5人	4人	人	人	15人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部土木工学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	2人	4人	人	人	7人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	5人	4人	3人	人	人	12人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	3人	5人	1人	人	人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	3人	11人	7人	7人	人	人	28人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

工学部建築学科

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	3人	3人	人	人	6人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	4人	人	5人	人	人	9人	
	修　士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	1人	2人	2人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	5人	5人	10人	人	人	20人	
	修　士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。